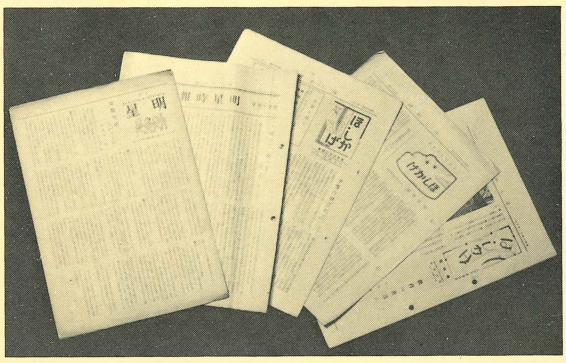

明星の年輪
―明星学園50年のあゆみ―
明星学園
創立50周年

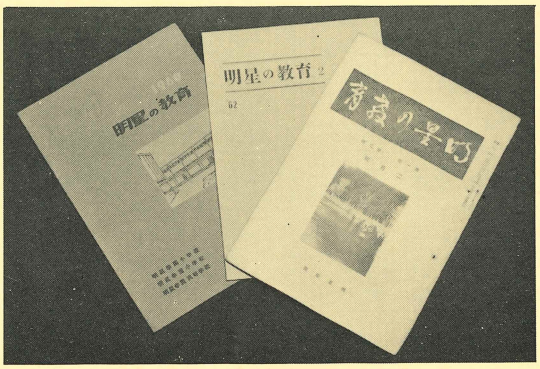
黎明
霜に光る明星
池は近く
ふかき木立
我等学ぶ　この水上
さながら
清らなり　常に行のう
めざめ　若きたましい
ひびけ　空と地の声々
　明星　明星
　明星　学園

－北原白秋作「明星学園行進曲」－

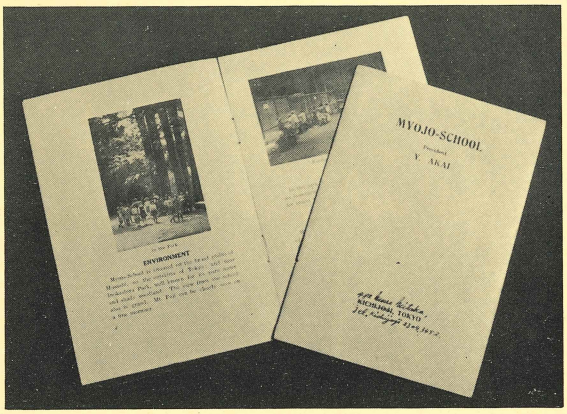




←初等部便り「ほしかげ」,「明星」(年4回刊行)



↑「明星の教育」　右　昭和6年1月刊(月刊)
左　戦後のもの(不定期刊)



←学園紹介国際版(1936年)

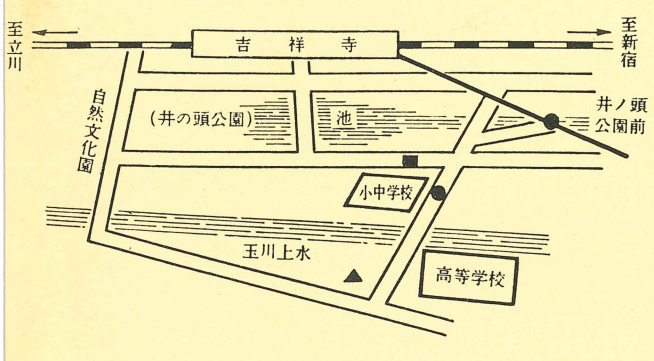


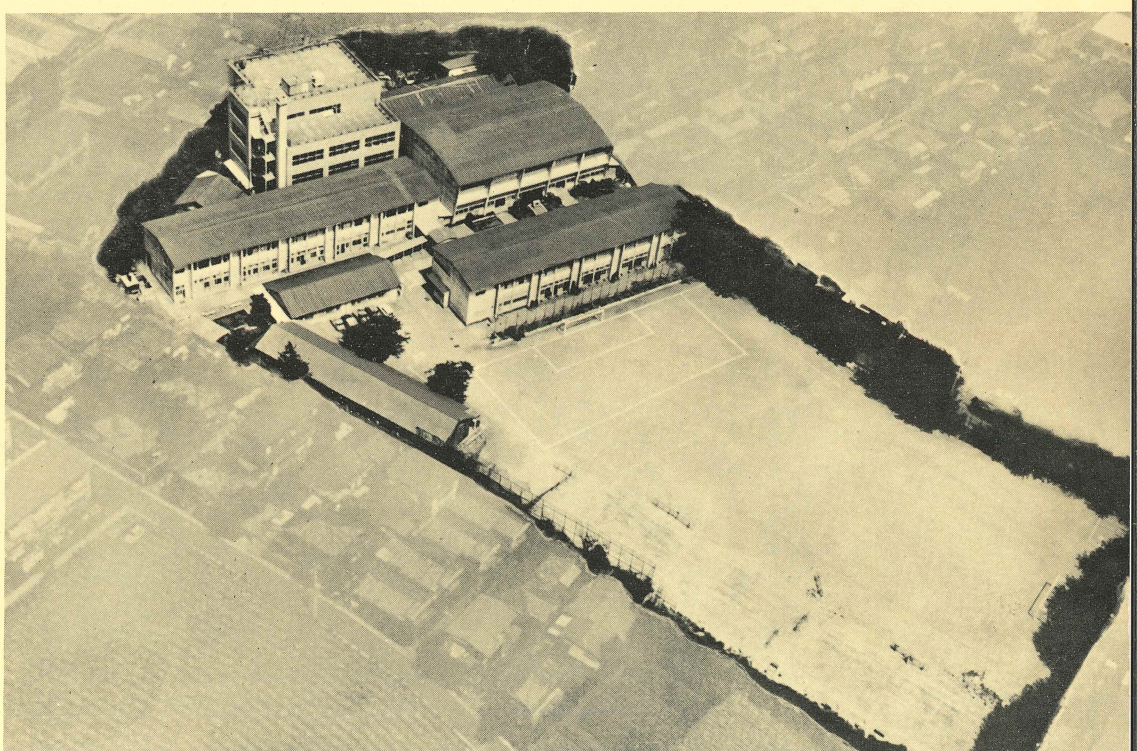
明星小学部校舎（昭和2年）



学園長　赤井米吉




至立川
吉祥寺
至新宿
自然文化園
(井の頭公園)
池
井ノ頭公園前
小中学校
玉川上水
高等学校





現在初等部校舎のところ　大正13(1924)年５月15日開校の日は雨天のため翌16日

年輪50年　創立期の桜



私学の行く道

明治初年学制発布以来，終戦までの日本教育界の大勢は観念主義・画一主義・国粋主義をもって貫かれ，新しい教育理念の追求や進んだ技術の実践は常に異端視される傾向にあったといっても過言でなかろう。

戦時中の国民学校方式は一見教育界に大きな旋回を招き起こすかのようにも見えたが，結局政治的には帝国主義・全体主義の制覇にあり，戦力の補強にあったので，基本的に教育の進歩性とは相容れるものではなかった。

こうした歴史の中で，私学はもろもろの障害をこえて常に新しい教育理論と教育技術の紹介者・提供者としての役割をつとめてきた。

戦後の日本は民主主義に立つ教育に踏み切ったので，はじめて近代性が付与され，一面からいえば多年茨の道を進んだ私学のあゆみと合致したものともいえよう。しかし戦後約三十年の貧しい歴史である。まだまだ初発的段階であってその実績が客観化され，さらにその反省のうえに，より強力な推進が遂げられる日は決して近いとはいえない。既に巷間幾多の難問が伝えられているのでも察しられる。

終戦後私立学校法が定められ，私学の独自性・公共性は明確化された。が，元来そのような措置の有る無しに拘らず，私学人の良心は常に民度の高揚に，人間の理想像の追求に立ち向かうであろうし，そこにまた無官無位の私学の真骨頂もあろうかと考える。

たとえ民主化された今日といえども，教育の自由・研究の自由が善意にもとづく寛容さをもって迎えられているかというに，遺憾ながらノーと答えざるをえない。いぜんたる障壁は無言の威圧をもって行くてに立ちはだかっている。思えば教育の道は遠くけわしく，私学の使命は少しも軽くなっていない。だからこそ前進あるのみであるといいたい。

創立50周年を迎えて

理事長　　衣笠　武夫

明星学園が新緑の樹海に囲まれた井の頭台地に呱々の声をあげたのは大正13年5月15日，時あたかも第一次世界大戦後で世人は平和に酔い，国内に退廃的気分が溢れはじめ，柳の銀座にカフェーが軒を並べていた頃でありました。青年教師赤井・照井・山本先生等は従来の教育があまりにも中央集権的，画一主義的であったのに批判的立場をとり，雄々しくも「個性尊重・自主自立・自由平等」の大旆を武蔵野の大空に翩翻とひるがえして本学園を創立され，既に半世紀を経過しました。今やこの旗じるしは凝結して学園独自の校風をつくるに至りましたが，その間，学園は幾度か試練の嵐に遭遇しました。

特に戦時中は,個性・自主・自由の表現が国家主義を鼓吹する当局の忌諱に触れ,学園に弾圧の触手が伸びたこともありましたが，よく耐え，ことなきをえて学園建学の精神は微動だもすることなく現在に受け継がれております。更に特筆したいことは，敗戦後のわが国文教政策の基本を確立する目的で制定された教育基本法の前文に教育の指針として明星学園建学の旗じるしである三つの精神がそのまま謳われていることであります。これは本学園にとって大いなる誇りであり，創立に携わった先覚者の慧眼と決意にはただ敬服するのほかはありません。

ここに50周年を迎え，学園教職員一同は苦難の多かった過去の歩みを想い，かつ，これを契機に将来に向っての闊達なビジョンを策定して，学園に寄せる社会の期待に応えるよう精進する決意を固めなければなりません。かくすることこそ，死の床にあって学園の将来を案じながら去る２月長逝された赤井園長はじめ，在天の照井・上田両校長等の霊を慰めるゆえんでもあります。何とぞ，ＰＴＡ・後援会・同窓会の皆さま方も今後学園発展のため格段のご鞭撻とご協力とを賜りますよう切にお願い申しあげる次第であります。



←創立記念樹のいちょう

「明星の年輪」刊行にあたって

学校長　　鈴木　満男

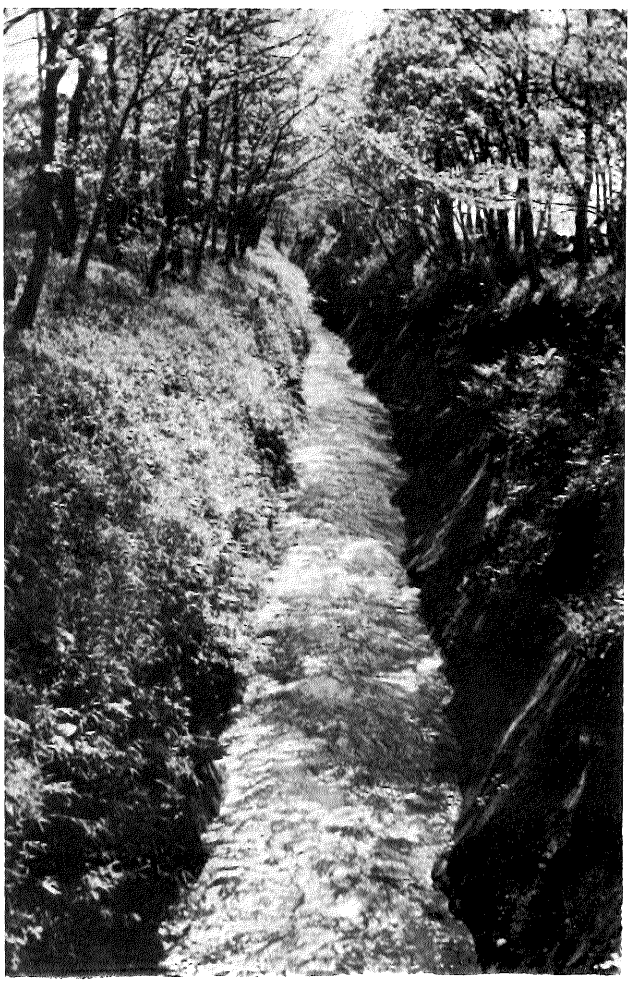
ぼくが明星学園に俸職して以来,すでに30年に近い歳月がたったわけであるが,いまにして俸職当時の日々を回想してみると，その時々に嘗めたはずの辛酸は大方記憶から消え去り，すべてが牧歌的であり，すべてが夢幻の世界のできごとでもあるかのように思われてくるのである。歳月は過去の辛酸を甘美なものに浄化してくれる。これは人間にとってまことに好都合な神の恩恵である。

ましてぼくが全く体験していない創業期の学園の姿を，伝え聞きをたよりにあれこれと想像してみるとき，一層甘美な幻想にとらわれ，それに比して，現在の学園の諸状況に思いをいたすとき，日々これ辛酸といった気持におちいりがちなのは，人情の常というべきものでもあろうか。

しかし，実際には，創業期といい守成期といい，さらに発展期といい，いずれ劣らぬ辛酸に継ぐ辛酸ということが私学に課せられた宿命であり，なまじいな懐旧の情は，時とすると現実逃避につながるものである。

ところで，明星学園も本年をもってめでたく創立50周年をむかえたわけであるが，これを機に，いたずらに懐旧の情にとらわれることなく，また，辛酸にうちひしがれることなく，創業期の諸先生の学園にそそがれた若々しい情熱をわが情熱とし，自他ともに認められる本格的な発展期に足を踏み入れねばなるまい。

教育・経営の両面からいって，私学をとりまく社会情勢はいよいよきびしいものがあるが，どうせ嘗めねばならぬ辛酸なら，むしろ性根をすえてそれを甘受すると同時に，辛酸の彼岸に壮大な理想像を描き出し，それにむかってわれわれの総力を結集していきたいものである。そのためにも，ここに一基の碑をうち建て，学園50年のいつわらざる過去の足跡と，未来への展望の一端を誌し，江湖のご批判を仰ぐとともに，自戒のための今後の資とする次第である。



高校前の玉川上水➡
（昭和初期）

目　　次

私学の行く道
創立50周年を迎えて　　理事長　衣笠武夫
「明星の年輪」刊行にあたって　学校長　鈴木満男

Ⅰ　創生期の明星

1　大正期の教育展望
(1)　自由教育運動と欧米の教育改革……13
(2)　大正デモクラシーと新教育の学校・私学……13

2　明星学園の誕生
(1)　沿　　革……14
(2)　創立前夜……17

3　明星の教育精神
(1)　創立趣意書……25
(2)　生活教育の思想……26
(3)　勤労教育へ……28
(4)　中学教育……30

4　初期の明星教育
(1)　成城の教育実験……31
(2)　明星教育の課題……32
(3)　創立当初の教科の問題……35
(4)　ダルトン案と明星……38
(5)　成績考査の問題……43
(6)　明星初期の研究テーマ……48

5　明星学園の初期のころ
(1)　小学部……54
(2)　女学部……58
(3)　中学部……63

6　財団法人　明星学園……70

7　明星学園母の会
(1)　母の会のあゆみ……71
(2)　創設期のころの母の会……71

8　創立同人
(1)　赤井米吉……72
(2)　照井猪一郎……77
(3)　照井げん……81
(4)　山本徳行……86
(5)　上田八一郎……89

9　明星学園の後援者

(1) 明星学園の初期のころの後援者…… 94
(2) 明星学園後援会で働いた人々……104
(3) 明星学園が世話になった人々……105
10 明星学園後援会……105
11 明星学園校歌・明星学園行進歌の由来……109
12 「明星」という学園の名前……115
13 明星の校章
(1) 小学部の帽章……116
(2) 中学部の帽章……117

写真で見る50年のあゆみ
創立のころ…… 119
昭和のはじめ…… 122
創立10年代…… 126
創立20年代…… 132
創立30年代…… 134
創立40年代……142

Ⅱ 時局と初等部

1 時局と児童の教育
(1) 昭和16年6月23日 父兄へのお知らせ…… 146
2 国民学校令と初等部……147
3 行事面からみた初等部
(1) 昭和16年3月4日 父兄へのお知らせ……147
(2) 昭和17年10月14日 父兄へのお知らせ……149
(3) 工 作 展……150
(4) 算 数 教 育……152

Ⅲ 学童縁故疎開・学徒動員・学校工場

1 戦時下の初等部
(1) 本 土 空 襲……153
(2) 消費の統制と配給……159
(3) 戦時非常措置法案に対する初等部の教育……161
2 戦時下の中学部・女学部
(1) 「学校当直日誌」(抄)(中学部) ……171
(2) 豊和重工業勤労動員日誌(抄) (中学部) ……173
(3) 昭和飛行機工場へ学徒隊として出動(女学部) ……175
3 敗 戦
(1) 教育への道……178
(2) 敗戦と始業時刻・児童の欠席……179
(3) 避寒休業・昼食帰宅・昼弁当……179
(4) 配 給 品……180
4 戦死・戦病死の卒業生……181

Ⅳ　明星学園の教育研究

1　教育研究のあゆみ(戦後)

(1)　教育研究集会……183
(2)　明星学園教育研究10年のあゆみ……186

2　明星学園　研究印刷物

(1)　紀要・研究資料・出版物……206
(2)　都の研究助成による教育研究一覧表……211

3　明星学園の教育

(1)　4・4・4制の実施……213
(2)　中教審の「基本構想試案」と4・4・4制の実施をめぐって……219

Ⅴ　学校行事

1　授業と行事は学校教育の二つの柱

(1)　行事について……224
(2)　明星学園初等部行事暦……225

2　入学式・卒業式

(1)　入　学　式……230
(2)　卒　業　式……232

3　登山・遠足・修学旅行(戦前)

(1)　学園の教科外学習と登山・遠足・修学旅行……242
(2)　小学部遠足・旅行・見学系統案……244
(3)　小学部の見学旅行……246
(4)　京阪神方面の旅行……248
(5)　集団継歩……252
(6)　初等部の登山……255
(7)　女学部の課外活動と旅行……258

4　登山・遠足・修学旅行(戦後)

(1)　初　等　部……259
(2)　中　等　部(登山)……263
(3)　中　等　部(見学旅行)……266
(4)　ウォーキングレース……267
(5)　高校の修学旅行……272

5　学　芸　会

(1)　小学部の音楽と舞踊の会・演劇の会……274
(2)　10周年記念の学芸会……275
(3)　学校舞踊……278
(4)　演劇の会一覧表……278
(5)　小・中・高の音楽プログラム……285

6　展　覧　会

(1)　銀座伊東屋で作品展覧会……287
(2)　明星学園美術展(文春)……287

7　運動会・体育会・競技大会

(1)　小　学　部——春の体育会・秋の運動会(戦前)……290
(2)　中・高合同体育会(戦後)……298

8　明　星　祭
(1)　昭和35年度・明星祭……299
9　クラブ活動
(1)　初等部の飼育(戦前)……301
(2)　初等部の飼育(戦後)……303
10　夏季学校
(1)　夏季生活と山・海の寮の歴史……304
(2)　山・海の寮の誕生……305
(3)　夏季生活記録……314
(4)　夏季生活計画および行事一覧表……321
(5)　千倉生活の沿革……323

写　真　集
初等部の教育……333
中等部の教育……344
高等部の教育……351

Ⅵ　学　園　の　経　営
1　経営面からみた明星学園
(1)　大正13年——昭和43年……359
2　学園財政健全化5カ年計画
(1)　昭和44年——昭和48年……364
3　学園経営の展望
(1)　はじめに……365
(2)　計画立案の基本理念……366
4　「学校法人会計」基準施行に基づく財政整備……366
5　学園の施設
(1)　戦　　前……367
(2)　戦　　後……367
(3)　施設拡充の推移表(大正13年——昭和28年)……372
(4)　施設拡充の推移表(昭和29年 ——昭和48年)……372
6　納付金(月謝・授業料)に関する推移
(1)　保護者・父兄へのお知らせ……373
(2)　学費(月謝・授業料)に関する推移……376
7　学園経営・事務局略年表……379

編集を終えて

別冊挟込み　年　　表

I　創生期の明星

1　大正期の教育展望

(1)　自由教育運動と欧米の教育改革

大正期といえば教育史では自由教育運動の展開された時期である。しかし，自由教育運動の萌芽は明治30年代に発見され，また昭和初期の生活教育運動を孕んでいたのが，大正期という時代である。19世紀末から20世紀初頭にかけて，欧米では新しい試みをする新教育の先駆的学校があらわれてくる。それらの新学校の淵源は，ルソー(1712～1778)に求めるのは常識で，ペスタロッチ，フレーベル，エレン・ケイ，デューイなど，こういった系譜の中で新学校の思想が培われてきている。

わが国の教育は，欧米の教育思想・教育制度・教育方法などの面で明治以来多くのことを学んできた。したがって，大正期の教育も欧米の教育改革の大きな流れの中で動いたといっても過言ではない。明治末から大正・昭和の初期にかけて誕生したわが国の新学校は，当然のことながら，欧米の新教育思想から大きな影響を受けたのである。しかし，日本の資本主義の成熟が近代的な教育方法を受けいれる条件もあった。

(2)　大正デモクラシーと新教育の学校・私学

吉野作造が「中央公論」の誌上に「民本主義」の論文をよせたのは，大正5(1916)年で，いわゆる大正デモクラシーが胎動し，自由主義・民主主義的なものが時代思潮となって広がった。この思想は，教育の面でも急速に開花した。アメリカの教育学者の来日（デューイ〈1919(大正8)年－1924(大正13)年，パーカスト〈1924(大正13)年〉）など新教育思想の紹介はこれに拍車をかけ，新教育界に新風を呼込んだ。「新教育」と呼ばれるものの実体は，子どもの自主・自律・自学をだいじにし，個性を尊重することに中心がおかれた子ども中心主義である。大正期には，私学ばかりでなく，既設の付属小学校・公立校でも新教育の実験を試みられたものもあるが，大正期に創られた私立の学校は，ほとんどが新教育運動と関連しているのである。大正4年，東京高師付属小学校で，芦田恵之助が



学園創立時の校舎　右端は職員室，順次１年～４年教室,中央の喬木は，４人の先生，21人の児童によって植えられたいちょうの木。(表紙のいちょう・大正13年)

「随意選題」という自由な綴方を始めた。大正８年，千葉師範付属小学校主事，手塚岸衛が「自由教育」を始めた。同じ年，奈良女子高師付属主事，木下竹次が「学習指導」という，教師中心の教授でなく，児童中心の「学習」の教育を始めた。大正10年，東京女子高師付属小学校主事，北沢種一は「プロゼクト・メソッド」を作業教育と訳して実施した。新学校・新教育の紹介など実践家の発表した新教育の著書のほかに，教育学者の新教育の学説紹介や理論に関する著作も多かった。このような中で，新教育をめざす私立学校が数多く創設された。「大正６年ですが，貴族院議員をしていた沢柳政太郎博士が成城学園をこしらえました。大正10年には河崎なつさんが文化学院，羽仁もと子さんが自由学園をつくりました。大正12年の震災後には，もと姫路師範の学校長をしていた野口援太郎さんが,児童の村小学校,次に赤井米吉さんが明星学園を始めました」　(岩波新書「日本の教育」)

大正自由教育の担い手となった私学のその主なものを列挙してみると,成城小学校(1917年)・甲南学園(1919年)・自由学園女子部・文化学院(1921年)・池袋児童の村小学校・明星学園・武蔵野学園(1924年)・御影児童の村小学校・盈進学園(1925年),ついで昭和初期に，この系列にはいるものに玉川学園・清明学園・和光学園などがある。

大正デモクラシーの高揚期に人間解放をめざしての私立学校が，このように次々につくられて自由教育運動が展開したのである。

2　明星学園の誕生

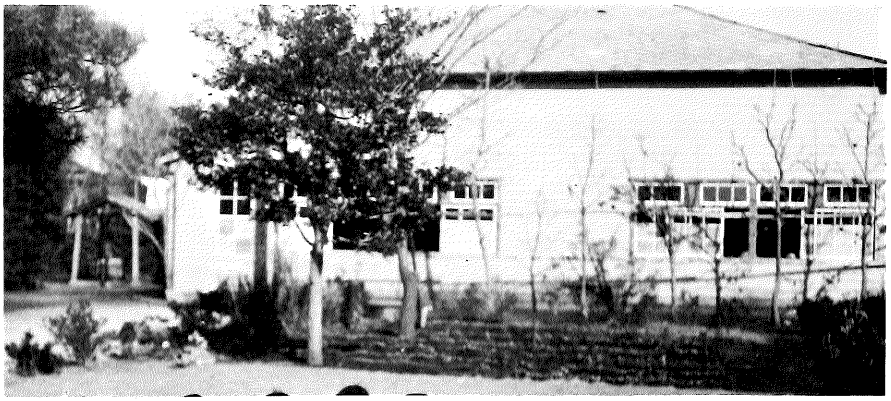
(1)　沿　革

☆大正13年５月15日／明星学園小学校設立　　生徒数１，２，３年　　計21名

創立同人――赤井米吉・照井猪一郎・照井げん・山本徳行

後援者――茶郷基

大正13 (1924) 年５月15日，４人の教師と21名の児童で小学校の仕事を開始した。新しい時代の新しい教育を導き出したいものとの意図をもって，一つの実験学校としてうぶ声をあげた。自然に親しむこと，勤労を喜ぶことの二つが眼目であった。



開設時の女学部　昭和３年４月，女学部（旧制高等女学校）特別教室。

☆昭和３年４月５日／明星学園中学校・高等女学校併設　　同人に上田八一郎参加

昭和３（1928）年３月には，小学部の第１回卒業生を出すことになったので，引続き青年としての教育を施そうと考えて，中学部・高等女学部を昭和３年４月５日に，明星学園中学校・同高等女学校として設置した。

第二次大戦の激化に伴い，中等部生徒は工場に動員され，校舎は軍需工場化する。その間，企業統制と並行して精神統制の強力化によって，私学，特に小学校の存続は危殆に頻する。全東京の小学校は集団疎開，中等学校は縁故疎開の勧奨をうけ，非疎開者への援護と教育は全く保障の外となる。本学園は縁故疎開を主とし，空襲下に残留組を守って，基本学習の持続に努めた。校舎は荒廃したが他に大きな事故もなく終戦を迎える。

☆昭和22年４月／新制中学校に改まる

☆昭和23年４月／新制高等学校に改まる

昭和22（1947）年に新制中学校に改まり，昭和23年に新制高等学校に改まる。教育基本法は多年それを待ち望んでいた私学人にとって，夢の中の声かと疑われるような明るく解放的なひびきを与える。本学園としては創立当初からの宿望であった一貫教育体制実現・男女共学完全実施の可能性をつかむ。

☆昭和23年～24年／新しい構想設定

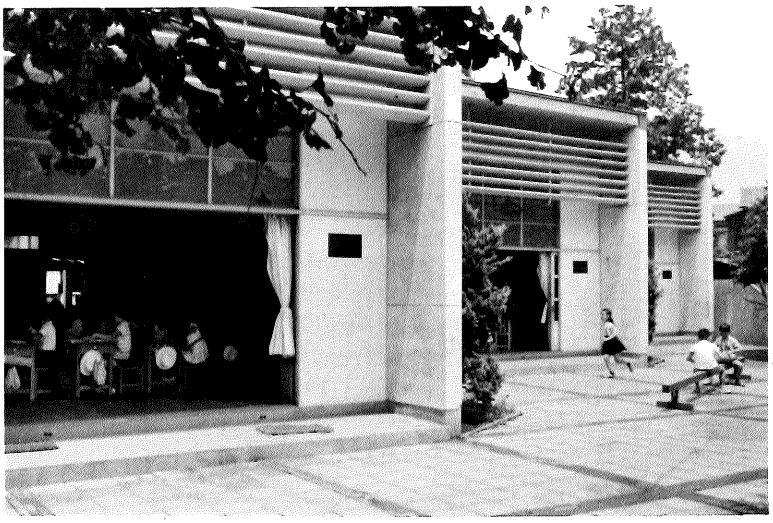
教育基本法と本学園建学以来の校是との対照吟味のうえに，基本的には同じ歩調であることを確認し，新しい情勢への展開を構想してその設定をする。

☆昭和25年～28年／学園の組織・機構の全園的統一化

小・中・高の３部連絡委員会，３部合同職員会の定期開催と実質的な会議形体をとる。



開設時の中学部　昭和３年４月，開設時の中学部（旧制中学校）の玄関。玄関前の２本の松は授業第１日めの４月11日に桜・楓とともに植樹されたもの。



初等部　昭和31年８月，創立時の校舎をとりこわして，もとのところに新築（４・４・４制の低学年部校舎）。各教室それぞれの遊び場所をもち，教室の南側のガラス戸は両端に完全に総引戸となり遊び場に直結して開放される。

☆昭和29年～33年／全園校舎設備の更改と一貫教育体制の強化策実施開始

創立30周年にあたり，全園校舎設備の全面的増改築が緒につき，33年度までに，一応小・中・高普通校舎４棟を竣工する。同じ年，一貫教育体制の強化策実施開始，世上「明星の４・４・４制」と称している。

☆昭和34年～35年／４・４・４制の実施に伴う教育，経営上の推移，対策の強化

法人事務局の確立，教務局・教育推進委員会・教育運営委員会・校教務会・校内理事会・校内評議員会を発足させ，その活動によって４・４・４制の推進を図る。

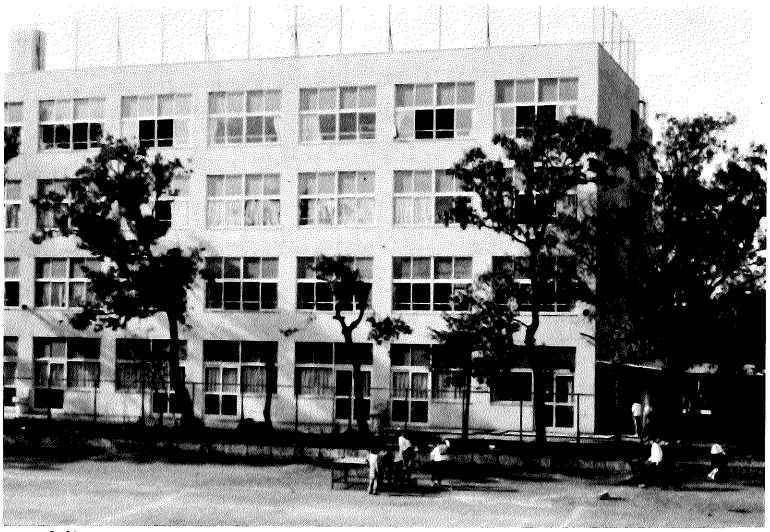
☆昭和36年～40年／小中特別教室，管理部門の２階建，小・中・高の敷地拡張，第１体育館，中学校校舎，高校特別教室竣工

学園創立30周年を機会に，旧校舎を全面的に増改築する目的をもって，学園振興事業が発足したのは昭和29年５月であった。それから10カ年間，敷地の拡張と建築が進められてきたが，昭和35年，低・中・高学年の３部制（４・４・４制）の設定に伴い，振興事業計画も全面的に改められた。この間中学年部は，高学年部敷地の校舎に移り，あるいは旧校舎および特別教室の転用等，まことに長期間にわたって不自由な年月を耐えてきたのである。振興事業の発足以来の資金の造成については，旧・現父兄，卒業生，その他関係各方面の援助支援を受けた。この間学園の教育ならびに経営の首脳部の活動は，後日学園財政上問題を残すことになったが，高く評価されるものである。



高等部　左の２階建普通教室（31年10月建設），右側の２階建普通教室（32年６月建設）ともに４・４・４制高学年部校舎，手前のものは体育館（36年10月建設）

☆昭和41年～46年／試練にたつ学園



中等部　中学年部校舎として昭和39年12月完成（4・4・4制の中学年部校舎）

の教育と経営

4・4・4制の導入，小・中・高12年一貫教育への追求，教材の自主編成など教育制度の改革を押し進める一方，教育施設設備の更新を図った。しかし，この過程で学園の教育と経営は茨の道を歩まなければならなかった。38年6月以来，教務局長――橘正薫，小・中校長――照井猪一郎，理事長――市村寅之輔，小・中・高校長――上田八一郎とつぎつぎに亡くなり，事務局長――横川武病気退職等，40年7月まで，2カ年の間に経営・教育の面で首脳を失う。首脳なき後，学園の教育・運営の在り方，処理の仕方などに対して，後継者達の全力投球，必ずしも効を挙げえず，また人件費の上昇・諸物価の高騰・借入金返済，金利などに圧迫され，学園の経営は危殆に頻した。一方教育研究の追求の方向・方途に学内の教師たちの対立などもあって，父母の教育への信頼は失われ，児童生徒数はかつての1,500名から1,100名に落ち込む。

☆昭和47年～48年／第2体育館建設

教育・経営の責任者の交替を行い，学園父母懇談会選出の世話人による教育および財政等にわたって，具体的な施策の積重ねを精力的に実施する一方，教育面について改めて明星学園の理想・教師集団の教育理念・学園伝統と時代の変化，4・4・4制に対する総括評価などについて確認，吟味検討の必要に迫られ，校長提案ならびにＰＴＡからの問題提起もあって，各部部会および全園教職員会での討議を重ねた。また新理事による常任理事会の経営対策・事務局の近代化等によって，山積した問題の整理・処理を実施，学園の地盤を一歩一歩補強してきた。今日においてはかつての経営の危機に伴う不安定を脱し教育もほぼ安定し，児童生徒数1,470となった。

(2)　創立前夜

1本の標木　自然に恵まれた井の頭公園の南の丘，点在する赤松，雑木林に囲まれた麦畑に明星学園は誕生した。学園が誕生したときの様子を創設に参加した照井猪一郎が美しい筆で次のように書いている。

「大正13年2月29日，むさし野はまだふかぶかと冬のとばりの中に眠っていた。霜柱にふくれ上った麦畑を，一足一足かみしめるようにきざんで行く4人の一団があった。一行はぽくぽくの黒土の上をとりつかれたもののようにむさぼり歩いた。畑中の小高い一地点に最後の歩みをとめた一行



学園の周囲　学園のまわりは，創立期はもちろん，昭和20年近くまでこのような自然林に囲まれていた。

は，やおらかついで来た1本の標木を打ち立てた。『明星学園建設地』……したたるような墨あとが鮮かに白木のおもてに読まれた……。

大海の底のようにしずまりかえったひと時だった。真昼の太陽は真珠色のスポットをこの謙虚な開拓者たちの上におとした。輝く日光，すみきった大気，ゆたかな土壌，それは彼等の久しく憧れていた求道の聖地であった。」　（昭和24年11月，「明星25周年記念誌」から）

☆　　☆　　☆

4人の一団とは，創設者の赤井米吉と照井猪一郎・照井げん・山本徳行で，標木を打ち立てた日は，正確には大正13年3月16日（日曜日）のことである。創設者の赤井米吉は，この時の様子を次のように語っている。

「この日，空はあくまで澄み渡っていた。井の頭台地は霜解けで，道がぬかるんでいた。畑の麦は2，3寸に伸び，標木は麦畑の真中に建てた。この日こそ学園創設の第一歩を踏み出した記念の日であった。それから校舎建築，児童募集の仕事が進められて，5月9日に明星尋常小学校設立認可を与えられ，その15日に開校式を挙げた。その当時ここには人家漸く両三軒，あたりは悉く麦畑であった。開校当初の敷地僅かに千坪，集った児童は尋1，2，3の3年，3クラス21名であった。

荒野に水は湧きて
砂漠に河も流れん。
やけた地は池となりて
うるおいなき地は水の源とかわらん。

とある文の言葉をそのままわれ等の学園に見出すのである。武蔵野の赤土の中に掘った1本の井戸，その水に渇を癒する幾百幾千の児童生徒。たれかこうしたことを夢みえられようか。」

麦　畑　学園建設の仕事にかかった時，2，3寸に伸びた麦を刈り取って校舎を建てグランドにしたのだが，若々しい麦を取り除くことの厳粛さを赤井米吉は次のように語っている。

「このころあちこちの麦畑に見えるような3，4寸の麦がここにも作られていた。校舎をここに建てるには先ず，その麦を刈り取って地均しをしなければならない。私は人夫の人々が麦を取り除いているのを見た時，空恐ろしい感に打たれた。一つは，麦をこれまでに丹精した百姓の人々に対してまたと済まないことだと思った。もちろん私どもは，ここの作物に対する弁償はした。それでも

そんな金銭で償われない百姓の人々の誠心をむざむざと捨てるようでまことに済まないことに思った。今一つは，この麦が実れば，それで幾人かの生命をつなぐことができる。その麦を取って棄てるのはその人々の生命の糧を棄てるようなものである。昔，ある名僧が便所に飯粒の落ちているのを見つけて，もったいないことだと塵を払って押しいただいて食ったという話がある。一粒の飯粒にも天と地と人間の恵を感じたのである。かかる貴い食物を私どもは取り棄てねばならなかったのである。私はこれを見つつ，これは何か大きな罰がこなければすまないと感じた。そしてこれには大きな収穫をして償いをしなければならぬと思った。人々の食う糧は作れぬが糧よりももっと，大切なものを作り出さねばならぬ。」

創立への歩み　大正13年2月22日夜，沢柳先生宅に呼ばれ，成城小,第二中職員8人が赤井罷免を要求してきたことを告げられた。そしてこのことについて解明を求められた。赤井はこのことに対して当時の日記に次のように述べている。

「成城の経理，教育問題研究会の経理の乱脈を直すために暫く独裁的でも厳密にしなければならなかったこと，教職員の研究の思いつき，デッチアゲの発表主義に対しては批判をせねばならなかったこと，児童の自由が学習の自習をこえて生活全面の放肆になっているので，ある程度の規則の必要性を痛感したこと，月謝の高いこと，後援会を盛んにする必要から父母のきげんとりが度をこしていること，などをあげ，この人々の非難は全面的にみとめるが，少くともこれまではこういう態度でいなければならなかった。」と弁明している。

23日　秩父へ講演に行く約束があったので行く。

24日（日）　午後千駄谷の赤井宅へ，結城捨次郎・照井猪一郎・山本徳行集り，赤井排斥のことについて話合う。

25日　放課後職員会赤井排斥の件につき話合う。沢柳先生・小原主事出席,小原最後までひとこともいわず，夜8時ごろ解散，新宿の西洋料理店へ，沢柳先生に連れられ，夕食をいただく。

26日　午前，小原・赤井だけで話合う。夜，結城・照井・山本，赤井宅に集り話合う。別の学校創立のことも出た。

27日　午後，赤井，国分寺の茶郷邸を訪い，新しい学校設立について，援助を乞う。快諾せらる。

29日　大崎治部（千駄谷小学校教師，赤井光恵の担任，賀川豊彦の弟子，奥田東京市長の知合）と赤井が土地探しに出て，上水新橋のところで百姓の人々がたき火をしているところで弁当をたべ，午後現小学校の敷地になっている麦畑の土地をみる。

3月2日（日）　大盛寺の近くの茶店の板橋に集り，敷地をみ，板橋に大盛寺との交渉を依頼した。

3月4，5日頃，茶郷氏千駄谷の赤井宅にこられ，大盛寺の土地を借りることをすすめ，金を下さる。

3月16日（日） 赤井・山本・照井宅（井の頭池尻に上ったところ，現利根川の少し先）に集り，おげんさんに「明星学園建設敷地」と書いてもらう。現小学校の地にたてた。これの終ったころ結城氏来り，お祝いをいう。結城は茶郷氏にすかれないので，いさぎよく脱退し，しかし常に暖く援助をしてくれた。

（結城捨次郎は，成城をわれわれと共に脱退，東京市麹町小学校にはいり，はじめて特種学級の教育を試みた。後，本村町小学校から光明養護学校初代校長に出た人。）

その夜，沢柳先生に呼ばれ一切を棄てて成城へ帰れといわる。次の日小原を同席，真剣に話合うことを願って帰る。

3月17日 沢柳先生宅に小原も来て，3人鼎座話合う。小原午前独りしゃべり，赤井攻撃，午後成城第二小学校のような意味で，明星学園設立を認め，沢柳先生，小原に顧問として名を出すことをたのむ。沢柳先生許可せらる。小原は，この計画は認めるが，顧問として名を出すことはことわった。

（「沢柳研究」5号から）

開校の式典 大正13年5月15日，明星学園開校の式典は入学式をふくめて行われた。あいにくの雨を半ぶきの屋根はしのぎかねて，式壇はぬれるにまかされた。参列の子どもたちの，親たちの，来賓の頭から頬をつたって雫は床をぬらした。でもみんなの顔は輝きにあふれていた。

（照井猪一郎記・「誕生物語り」の一部）

当時，日本の教育界で最高の話題の人，パーカスト女史が成城小学校の招きで来朝していたので，開校式に来てもらう計画だったが，荒天のため中止した。そのことを赤井は次のように述べている。

「5月15日，いよいよ開校の日が来た。が何ということだろう。朝から涙のような雨がしとしとと降っていた。校舎はできあがらなくても，この美しい風光を見せて，森の学校の主張で，大気焔をあげようとの計画は台なしになった。めでたい開校の日でありながら，私たちの心は躍らなかった。殊にこの日は地方の講演を終って再度上京されたパーカスト女史に来校して祝辞を述べてもらうことになっていたのであったが，この雨ではそれもできない。私は朝起きるや直ちに東京へ出て女史にことわりをいい，沢柳博士だけを迎えて来た。雨はいよいよ強くなり，風さえも加わってきた。泥濘の中を博士を案内して来る途中の心苦しさ穴あらばはいりたいような心地がした。それでも児童・父兄は皆集ってくれた。1年7人，2年5人，3年9人総勢21人。職員4人の学校はかくして始った。だが雨はもり，風は吹きこみ，野天とかわらぬこの前途，父兄は何と感ぜられたろうか。」

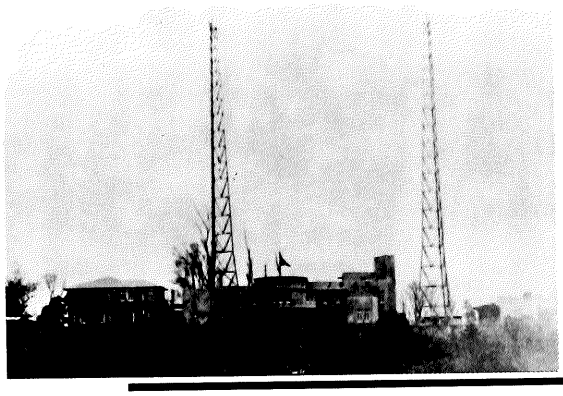
（昭和4年記，「明星5年」から）

開校披露式の辞 —公と私— 大正13年6月21日,最初の校舎ができあがったので,関係者を招じて開校披露の式を挙げた。その時,式辞として学園創立の由来・趣旨を語った後，赤井は次のように話した。

「学園は私が創立者ということになっています。しかし,これは法律上の手続でありまして，決して私1人の設立したものではありません。照井君夫妻と山本君の4人が一心同体で経営していくのであります。が，この4人でも実は経営はできません。この4人はここで仕事をするもので，ここの経営は私どもの陰にかくれて偉大な援助をしてくだされる人によってなされているのであります。その人は名を出すことを好まれませんので，暫く隠れた人としておかねばなりません。が，その人も決して自分の学園を作るつもりで助けてくださっているのではありません。全く，この国，この社会の一教育機関を作るつもりでいられるのであります。これは全くこの社会のものであります。この社会においてこの教育機関を利用してわれわれを教育者と思われる方は何人でもこれを利用することができます。私どもには一個の教育者の理想があります。この理想を実現するために新しい学園を建てることが必要であると思ってここにこれを建てたのであります。しかし私どもの理想は決して私どもの私的な考えではありません。いわんや我侭勝手ではありません。

私どもはこの理想がわが国社会の理想であると信じています。この理想によってわが国社会の必要とする人物を養成しようと思うのであります。かく経営においても,教育においても,ここは決してわれわれの我侭勝手をするところではなく，わが国社会の一教育機関で，私どもは暫くここに働くものであります。だから名は私立学校でありますが，公立ではないでしょうが，いわば社会立学校であります。したがってここの経営，教育の成否は単にここに働く私どもの事業の成否ではなく，この国社会の一教育機関の成否であります。この意味において，ご来会の各位に将来この学園の成長発達に対して深いご関心を持たれんことを希うのは，あえて私どもの援助を希う私的な希いではなく，実にわが国社会の発展を助けるための公の義務であることを訴えたいと思うのであります。……われわれの学園において全職員が同人であり,全父兄が後援者であり,職員・父兄共同してこの経営にあたってきた過去10年の歴史はこの精神の実現であります。」(「ほしかげ」10周年記念号から)

学園建設の資金とその後の経営 新しい学園建設で何よりも案じられたのは資金であった。それで赤井は当時国分寺に居住しておられた茶郷基氏を訪ねて後援を懇請した。茶郷基氏は成城小学校の一父兄であった。最初赤井の依頼したのは,ただ1万円の寄付であった。赤井はその頃，書物の印税約7千円ほどを貯金していた。これは成城小の月給120円の身分としては非常な大金に思われた。茶郷氏から1万円寄付を得られれば，何とか新しい校舎は建てられそうであった。学校ができてし



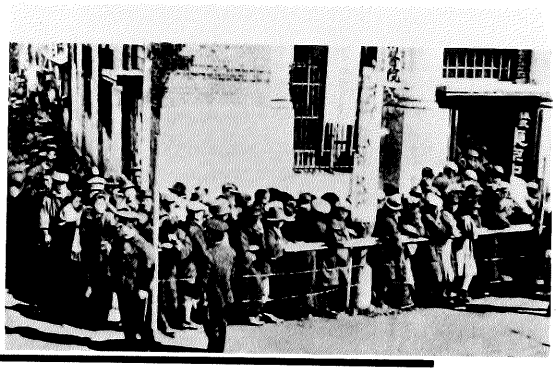
←
ラジオ放送の開始
愛宕山放送局から（大正14年7月12日）
（国文社「図説国民の歴史」から）

まえば父兄に援助を願い，また書物を書いて印税でやって行かれようと思った。しかるに茶郷氏は，快くこれを承諾されただけでなく，校舎も建てよう，月々の不足も助けようといわれた。われわれは予期以上の後援を得られたことをよろこんだ。校舎の建築は茶郷氏の知人古我貞周氏に依頼することになった。その契約書の名義人に赤井がされた。

これは赤井の意外とするところであったが，これより先，設立認可願を東京府に提出する時に，茶郷氏に設立者になってもらって，赤井は校長として雇われる形式にするよう茶郷氏に申入れたが，茶郷氏は「赤井が設立者になれ」といわれて，見せ金として九鬼紋七氏のラサ島燐砿株式会社の株式4万円を赤井名義に変更してくださったこともあるので，赤井が責任者にならざるをえないことになって，この契約証にも署名したのである。建坪110坪，1万2千円であった。建築の途中で古我氏から度々契約金の内入れを要求されたが，茶郷氏が支払われることと思っていたから，さようにいって応じなかった。そういうわけで，建築は意外にとどこおって，4月の中旬にはできるはずであったのが，5月の末になってできあがったものは，壁も天井もボール紙にふすま紙を張ったもので，当時震災後物価高の時であったが，坪110円もかかったものとは思えなかった。その後，3年ほどしてこの壁と天井のやりなおしを山之内兵十郎氏に依頼した時には，3千500円を要した。だから当初のものは，まず8千円くらいのものであっただろうと思う。こういうわけで4月中旬に開校するはずであったが，校舎ができなかったので，5月15日になった。その時も，ようよう柱だけたった程度で下見板も張られず，屋根のトタンも張られていなかった。この日は朝来ひどい雨風で，式の最中に雨は上から落ち，横から吹きこみ，惨憺たるものであった。

それまでに土地の借入れのための金，その他の費用，およそ2千円ほど茶郷氏からいただいた。その後は月々380円，すなわち職員給与に相当するものを贈られた。学園の諸雑費は授業料でまかなうことになっていた。だから貧しい中にも，楽なものであった。校舎の建築費はどういうふうになったか，一度古我氏から催促があったが，それきりになってしまった。

茶郷氏の月々の援助は，第1年はほぼ確実に届けられた。第2年目は職員数は増加したが，児童数も増加していたので，第1年と同額を補助してもらうことになっていたが，6月までで打切られた。朝鮮の永中鉱山が山くずれで，事業が蹉跌したという理由であった。やむをえず9月から授業料を8円（それまでは6円）にして，自立することになった。この値上げの理由として茶郷氏の事情をいうに忍びなかったので，ただ児童数が100人にもなったので自立経済をとらねばならないという口実であった。それが父兄の人々の反感をかって，新聞紙上で攻撃されたりした。東京府からは経理の調査に来た。が，われわれはそれでおしきった。これは父兄の人々に対しては不忠実なことで



金融恐慌
中野銀行におしよせた預金者（昭和２年４月）
（東京都刊「目で見る東京百年」から）

あったが，当時としては茶郷氏に対する義理合上，やむをえぬことであった。

児童数は100人ほどだったから月200円の増収になるわけだが，400 円の赤字の時だったので，これから経営は楽でなかった。茶郷氏からは創設費２千円と月々の補助６千円，ほかに校舎建築の援助を与えられたのであった。中・女学校の設立までも援助されるような話であったが，こうして打切られたので非常に困ったが，もともと１万円のお願いに出たわけだったし，１年ほどでも月々職員給与に相当するものを与えられたので，安心して教育に専念できたのは，氏の義挙のたまものであった。第３年を迎えるには教室を少くとも一つ増築しなければならなかった。われわれはついでに，２教室を増築して，小学部の最少限の設備を早く確保したかった。その資金の問題は茶郷氏の援助の打切られた時から心配であった。結局，その年の暮に父兄の１人の山之内兵十郎氏にこの事情を訴えて，援助を乞うた。氏は快く承諾され，やはり父兄の井野正次郎氏の工務所で設計してもらって，翌年３月には２教室約36坪が３千円で建てられた。

山之内氏はその後，中等部設置の際，後援会費３千円を出してくださっているし，時折少額の援助もあって，結局１万円以上のものを与えられている。井野氏にはその翌年小学部の美術室・音楽室の増築をしてもらったが，代金は永い間支払われなかったし，中・女学部がはじまると，その校舎の大部分は同氏の工務所に依頼したが，支払いはおくれおくれしてついに１万６千円は未払のまま，寄付のような形になった。年号が変って昭和になった２年，学園の第４年には小学部６年生ができた。あと１年たてば第１回卒業生を入れる中学校・女学校を建てねばならないのであるが，その資金の見込みはほとんどなかった。その年のはじめから赤井は，城北中学校（江古田）の経営を委嘱されていたので，これを立派なものにして，明星の中学部にしようとかかっていたが，校主佐藤氏に疑獄事件が起って，これもだめになった。４月の新学年が始まってまもなく，銀行モラトリアムという，われわれの聞いたこともない事件が続出して，われわれの唯一の頼みとしていた山之内氏も第十五銀行に預金してあった十数万円が引出し不能になって，氏の外国貿易の事業も大頓挫をきたした。自然，同氏に頼ることもできなくなった。世の中がすべて不況になって，学校建設の寄付金もらいなど，いうも野暮というものであった。中等部をやるかやらぬか，毎日毎日繰返されて，何らの結論も出なかった。６年生の受持の山本徳行は焦燥の日を繰返すのみであった。６年の父兄の集まりも度々あったが，むろん何らの打開策もみつからなかった。しかし中等部をもちたいとの希望は，こうした間にいよいよ大きくなっていった。いつとはなしに，岡崎栄松・新締五郎・服部春一・川井源八・中浜慶次郎・佐々木実勝・木村基之といった父兄の人々が相談し合う常連になって，ほとんど毎週のように赤井の宅，または山之内氏の宅で会合をもつようになった。そして夏の



➡ **金解禁**
日本銀行におしよせた兌換者の群れ(昭和5年11月)
(国文社「図説国民の歴史」から)

土地分譲

軽井沢 明星ヶ丘

状況

○信州軽井澤町晉掛嶺の北八町。
○淺間東南の快きスロープ、海抜三千三百尺。
○四、圓兒の秀峯淺間を仰ぎ、南、遙に雪のアルプス連山を望む。東、鐵山を隔てゝ穂高妙義の奇峯連る。
○樹齢三十年以上の落葉松林々として茂り、自然景松これを點綴し、鈴鳴、優美地を截る。
○新緑、紅葉の美觀、霧、牡鹿、山鳩、山鳥の來棲等。
○一日の行樂に最適地にして、小諸城跡あり、淺間の登山あり。
○道路、水道、電燈完備。
○各戸に共同井を設けて飲料の供給よく、生活最も易し。

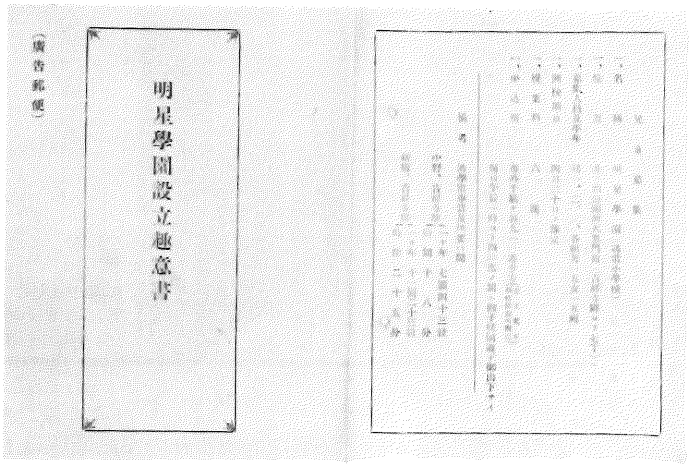
分譲方法

○一、土地譲渡代金は壹坪金五圓からです
○二、譲受御申込と同時に、代金の拾分の一相當す金額の御揃込を願ひます。
○三、土地の代金支拂方法は左の通りであります。
(一)全額、現金で一時に全額の御揃込を願ふこと。
(二)分割拂、代金を契約後一ヶ月間に分納すること。
(イ)月賦拂、代金より申込金を差引きた殘額を百分の一宛月割とし、毎月末日限り御揃込を願ふ事。
(ロ)四回拂、代金より申込金を差引きた殘額を拾分の揃込期日を定めて右完納期までに分割支拂を受けること。
○四、土地の御使用は御揃込金額が代金の半額に達した上に願ふことに致します。
御詳細は下記に御照會下されば、案内書、其他説明に參上致します。

明星學園後援會土地部
東京府下三鷹村牟礼(電話吉祥寺)

雑誌「明星の教育」昭和6年11月号に掲載された広告

休みになる頃には，是が非でも設立しようとの決心ができた。上田八一郎が大邱中学校を辞して，中等部の経営の主任になるために出てこられたのは，この背水の陣をはるためであった。ついに10月2日全校父兄による後援会がつくられた。1口30円の出資，父兄総数110人で，およそ千口ができた。山之内・川井・加藤隆義氏らの100口が筆頭で，平均10口であった。岡崎栄松氏が会長，新締五郎氏が幹事長，山之内兵十郎氏が筆頭顧問，この3氏が中心で，ここまで全父兄をまとめあげられたのであった。これより先，3月5日に，各学級の母の会が，全校の母の会を結成した。これはこの中等部設置への準備工作のためにできたものであった。その中心は山之内夫人・加藤夫人・服部夫人・石山夫人・浜村夫人・川井夫人等であった。これがバザーや音楽会を催して，学園の諸設備の充実の補助とされたが，それよりもこれらの人々が，裏面からこの後援会の設立の工作をされた功はより大きなものがあった。かくて翌3年のはじめから校舎の建築にかかり，設立認可をとり，4月には第1回の入学式をあげることができた。しかし入学者は中学校16名，女学校14名，合計30名，予定の半分であった。職員は専任10人。したがって，経常費の不足は大きなものであった。当初は後援会の資金で一時補っていたが，それは後に建てるべき校舎の資金を食うことで，年とともに経営は困難になった。それに世間の不況も次第に深刻の度を加えていたので，昭和4年，5年頃の校舎の増築，経常費の不足の補いは容易でなかった。赤井の個人名義の負債が数万円できたのはこの間のことであった。この苦境を打開する一方法として，軽井沢の土地分譲が始まったのである。当時まだ学園の父兄ではなかった市村今朝蔵氏の軽井沢の土地3万坪を，学園後援会から明星学園へ寄付する形式であった。この中心となって活躍したのは江川金吾氏であった。これは分譲が順調にいかなかったために，所期の収益をあげることはできなかったが，学園の林間寮70坪を建築し，敷地2千坪あまりを得られたほかに，相当な金高を後援会は収めた。この間に市村氏も学園の父兄となられ，学園の理事にも加わられたため，市村氏へ払うべき金を，そのまま学園のために使わせてもらったこともあり，土地寄付の形式で市村氏が学園のために尽された功は大きなものがある。当時世間一般が不況で，経営の困難なのは独り私立学校だけでなく，公立学校においても俸給不払いが続出していた。だからわれわれの困難はやむをえぬことであったともいわれようが，この間における職員の忍耐と父兄の同情は実に大きなものであった。大正13年学園が創立された年，同時に創立した私立学校は随分あったが，多くのものはこの間に没落してしまった。そういう中で，学園が遅々たるものではあった



創立趣意書

が，次第に発展することができたのは，職員・父兄一丸となって努力したたまものであった。昭和７年中・女学校の５年生ができたころまでには，学園の諸施設もある程度に整い，その翌年春第１回卒業生を出すことで，創立の仕事は一応終った。このころ満州国の経営がはじまって，経済界は活気をおびてきていたので，自然学園の経営も幾分楽になってきた。昭和９年学園創立10周年記念式をあげ，記念事業として中学校の雨天体操場を建築した。瀬戸の海の寮は，昭和11年秋，赤井の外遊中から設営が始まったので，主として照井の苦心によるものである。昭和19年には創立20年記念式をあげて，中学校の校舎１棟を建てた。（赤井米吉記）

3　明星の教育精神

(1)　創立趣意書

学園創立にあたって児童募集のちらしに記した創立趣意書は次のようである。

「幼き日の印象は人の生涯を支配します。幼き者の教養について社会がほんとうに覚醒せぬうちは民心の作興も思想の善導も庶幾されませぬ。もちろんこれは家庭・社会の風潮と至大な関係のあることで，ひとり小学校教育のみの仕事ではありませぬ。然し現代の世相をなした一半の責は過去の小学校教育も背負わねばなりません。さればわが子の行末を案ずる者，社会の前途を憂うる人はまず小学校教育の改善を計らねばなりません。輝く日光，新鮮なる空気，滋養に富む食物，是等三つのものはすべての成長の大要件です。地に樹つ草木，空に飛ぶ鳥，生とし生けるものは皆これ等によってその生命を伸ばすのです。幼い人の子の成長もまたそうです。然るに塵埃の巷に建てられた学舎，数十人を寿司詰にした教室は果してこの要件を満しえましょうか。よしや食物の研究が進み，医薬の新発見が如何に遂げられても，これでは幼い者をはぐくまれません。郊外へ！　陽の光を全身に浴び，清らかな空気を胸一ぱいに呼吸する郊外へ幼い者を救い出さねばなりません。

輝く理想，新鮮なる校風，生命に充てる教訓，是等三つのものは幼い魂の成長の大要件です。神と自然と人間の与うる聖い教を糧とし，温い友情の風を呼吸し，至高の理想に向って幼い魂は伸び上るのです。浮草の如くに転々として定まらぬ教師と点数と競争で駆られる児童が雑然たる知識の断片の蒐集を事としている現代の小学校では幼い魂の伸びようもありません。新しい教育へ，幼い者を救い出さねばなりません。



←
関東大震災
東京の焼野原（大正12年9月1日）
（国文社「図説国民の歴史」から）

かかる考をもって，森幽に水清き井の頭公園脇に1千坪の土地とささやかな学舎を得て，友情に燃える私達が隠れた後援を誓われる一教育愛好者に励まされて新しい教育の樹立を企てました。思えば教育に身を捧げてここに十数年，互に紆曲の道を辿って遂にカナンの地を得た心地がします。どうかこのささやかな芽生えがよき成長を遂げますようにご援助を願います。」

今日これを読みかえして，当時の学問の周囲の状況，そのころのわが国社会，特に東京社会の思想の模様，学園創立にあたってわれわれの心持が，ありありと再現する。

井の頭公園の杉木立と清冽な水。農家両三軒があるばかりであった武蔵野の麦畑。日は輝き，雲雀は囀ずる空があった。関東地方の大震災で家をなくした人々はそこに日光と空気と土地とを求めて郊外へ，郊外へと，かつて天明の大火に追われて吉祥寺・下連雀に移住した人々と同じような気持をもって，出て来ていた。われわれの学園もその波に押され，乗りしてここに出現したのである。自然へ近づくことが当時の人々の大きな関心であった。

時は大正13年春，その前年の秋に大震災があった。旧い東京は大半灰燼に帰していた。第一次世界戦争の終ったのは大正9年，民主的な世界再建の風潮はわが国にも波及して，デモクラシーの声は高らかに叫ばれていた。この二つのことが集って，新ユートピヤの建設のようなものが夢みられていた。新教育または自由教育と呼ばれるものも，この風潮の一つであったのである。われわれの学園と同時に，この春新に始められた私立学園「児童の村小学校」(野口援太郎・志垣寛等)，「武蔵野学園」(佐藤藤太郎・吹本喜一等)，「敬愛小学校」等がそうである。成城学園・成蹊学園などが郊外に移転したのもその年であった。

われわれはここを教育のカナンの地と考えたものである。モーゼが砂漠の彷徨40年の後に到着した憧れの地，メーフラワーのピルグリム・フォーザーたちがニューイングランドに到着したような気持。すべてにおいて，「新しさ」・「理想」が「雲の柱」・「火の柱」のようにさきだっていた。

執筆者であった私の思想にはフレーベルの「人の教育」，バーバンクの「人間植物の教育」，クーツの「田園家塾学校」等の思想が強く影響していた。このことは次の当時この趣意書をやや敷衍して書いたものによれば一層明瞭である。

(2) 生活教育の思想

(イ)敬虔なる生活。自然の中にも人間の中にも神が常住し自ら働き支配しています。教育はこれを認識し，体験することを第1の務めとしなければなりません。されば本園がまず求めるものは敬虔な心です。理科を学ぶにも自然をひしぎ征服するというような気持を懐いてはなりません。一草一

木もわれ等の造り出せるもののないことを知らねばなりません。歴史・地理を習う時にも常に厳かな，聖い人間の努力に対して慕しい心根を持つようにしなければなりません。ここに真の宗教があらわれるのです。

(ロ)美しい生活。自然および人間の美しい姿を認め，これを愛惜し，やがて自らを美しくし，より美しい世界の招来を希うことが芸術教育の本領です。美術の製作も，文学・音楽の教授も，あるいは理科の研究も児童の心を美に向って開き，美への努力と鼓舞することを要義とします。美しい絵画，美しい文章は美しい人，美しい生活から生れ出ずべきものです。

(ハ)真実の生活。真理は真実の生活を求める人にのみ認められるのです。地理や歴史の研究も，理科・数学の学習も単にこれを書物や机の上の研究とせず，日々の生活を常に真実の則に従ってなさんとする人でなければ深い真理を知りえません。真の科学はここに生れ出ずるのです。

(ニ)勤労の生活。すべての善いもの，美しいものは勤労の賜です。すべての罪悪は遊惰から生れます。文化は創造です。創造は勤労です。遊惰と消費の現代生活は文化生活とは呼ばれません。教育とは理想を追求する努力の生活です。心的力行と身的勤労のほか何もありません。都会地の教育には身的勤労を特に必要とします。されば児童をして畑を耕し，野菜を栽培し，動物を飼育せしめなどして，勤労の意義を知らしめ，生産の楽しみを体験せしめたいのです。

(ホ)協同と自覚の生活。人は他との関係において自らを知りうるのです。神と人との関係，自然と人との関係，他人とわれとの関係を知り，かくて自己を知り，自己の使命，天職社会における地位を自覚する人のみ真に社会のために働きをするのです。だから協同の生活と自覚の生活は相並行すべきものです。」いわゆる教授・学習について述べず，生活の指導を眼目としていた従来の教育の教授・養護・訓練の3分立を打って一丸となし，教授即訓練，学習即生活としたところに，新教育的立場があったのである。

当時新らしい教育の第1の目標としていた「自由」について全然触れないで，特に「自覚」なる言葉を使ったのは，その後の学園教育の動きの根底となったことを明かにしておかねばならない。趣意書にもあるように自然を重視していながら，その自然はわれわれにおいては理想的なもの，神的なものとして受けとられていたのである。したがって「自由」を自然主義的自由，感覚的自由にとられることを恐れて，このように「自覚」を強調したのである。このことはその当時においても「観念的」と批評せられたし，事実われわれの教育における一つの暗礁ともなったのであるが，そのことが一方にはいわゆるはきちがえられた自由，無責任は自由にならなかったゆえんも知られねばならない。その後何時とはなしにわれわれの学園の生活標語として，「強く，正しく，朗らかに」

という言葉ができたのは，その基はここにあったのである。

(3) 勤労教育へ

大正が昭和に変った頃に，われわれの教育にも一つの転機が来た。第一次世界大戦によるわが国の好景気も関東の大震災を契機として下り坂になり，昭和の始めには空前といわれる不況時代がきた。これとほぼ雁行して自由教育の流行も次第に下火となり，いわゆる新学校はその教育理念・実際においても，学校経営においても困難な問題に直面し，あるいは閉鎖し，あるいは方向を転ずるものが続々として出てきた。かねて新教育に対してあまり好感をもっていなかった文教当局は，次第にこれ等に対して圧迫の手を出し始めたし，新教育の主張者もこの社会の変化と自らの数年の経験から，いわゆる「自由」の標語を除き，生活・生産のような実際生活・経済生活の教育に向ってきた。

学園ではその頃まだ経営困難を感じはしなかったが，創立の当初の理想主義的なものは，実践の日を重ねるとともに現実的なものに傾いてきたのと,最初小学校3年生までの児童だけであったのが昭和2年には6年生ができたので，その教育問題は童話や童謡的なものから，生活現実に近づかねばならないことと，学園の周囲が勤労，特に耕作栽培の土地を豊富に持っていることから,「勤労」が大きく浮び上ってきた。これ等の理由から昭和3年中学校・女学校を開設した時には，新しい教育指標が加えられたのである。それは次のようである。

「我国ノ国是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ」

昭和日本の指標はここに燦として輝いています。私どもの明星もまた,そこになければなりません。ただし，聖旨宏大，微さき者の量りを超えていますが，これを日々の生活に実現せんとして私にこれを解して，

進むとは働くことなり

新にするとは生産することなり。

と考えたいと思います。従来の教育に対して「知育偏重」「非実際的」「画一的」等種々の非難がありますが，それ等一切の根本的病弊はこの働くことと，生産することをあまりに無視したことであります。

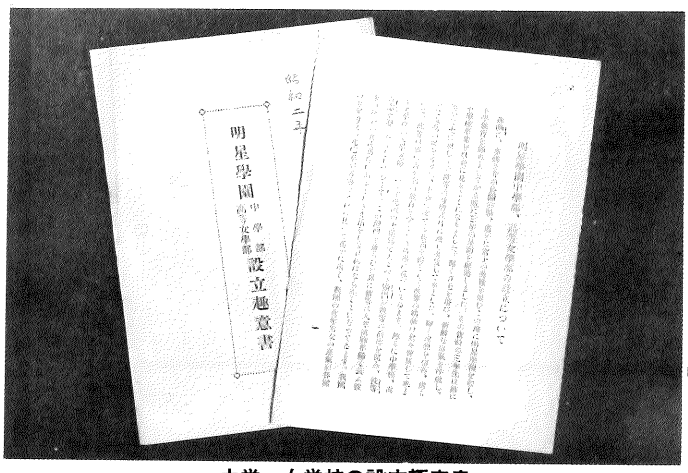
詰込みと記憶の試験の知育は「知育偏重」と非難すべきものでなく，真の知育でなかったのです。それは守銭奴の蓄財を経済活動の要と考えるのと同様に最も不生産的でかえって児童・生徒の知的活動を萎縮せしめるものです。わが国民は知識を持ち過ぎているために苦しんでいるのではありま

せん。むしろ無知のために，真に真理を愛好せぬために，あまりに偏見と謬想に囚われているために苦しめられているのです。真の知育が樹立されねばなりません。いわんや読書算だけの仕事ではありません。身体的活動・勤労・製作・生産は大きな知育であります。知育がこうなるならばそれは直ちに道徳教育であり，宗教教育であります。知育のみ発達して徳育がこれに伴わないということはありえないのです。かかる知育は誤られた知育であるのです。知育も働くことと生産することによって行われ，また働くことと生産することを目的とすべきものです。

従来の教育において徳育が十分に行われていなかったとの非難もよく人々のいわれることです。しかし徳育のことは決して忘れられていませんでした。修身科において，あるいは種々のしつけにおいて，あるいは操行査定ということにおいて，随分やかましく行われてきたのでした。それもなお不徹底との非難があったのです。何故でしょうか。徳育の方法がご談義と謹聴が静粛の外を出なかったこと，その内容が退いて自らを守るだけであったことのためです。悪を戒めることが切で，進んで善を励ます力を欠いていました。道徳とはやはり働くことであり，生産することです。これを涵養するには働くことと生産せしめることによらねばなりません。働かざることと消費を誇るような考え方を打破って，勤労と汗の生活を尊び，奉仕の生涯を喜ぶ習慣をつけることが最も大切であります。

その他宗教教育でも，日々の生活そのものの中に聖なるものを造り出すように指導されねばなりません。宗教は殿堂の裏の儀礼ではなく，白日の街頭における活動であり，信念であります。1里の公役を強いられた時これとともに2里行く精神と実行が宗教です。修道者の禅場と瞑想を宗教的修行と考えて，その勤労と生産の生活を見ないのは大きな間違であります。わが国の宗教教育の病弊はここにあります。農場・工場・街頭が宗教教育の教場であり，礼拝堂であることに気がつかねばなりません。

芸術教育とは遊戯の教育ではありません。日々の生活の精進，苦闘の中に三昧の境のあることを知り，これを造り出し，かくて人生と社会を美わしくすることです。したがってそれは直ちに徳育となり，宗教教育ともなり，また大なる知育ともなるべきものです。さらに従来の教育において知的にも，体験的にも，社会経済に関する教育が等閑にされたことはわが国の教育を最も架空なものにした大きな原因です。人々の生活に必須な物質にのみかかわるものとしたわが国の教育は今やその物質が当然の価値の認めらるべきを要求し，これが生産にたずさわる人々がこれを無視する人々に大きな反省を促しています。真の教育には物質の当然の価値を認識させることと然してこれが生産の意義，そしてその生産活動に従事することの人格的価値を知らしめることが必要であります。



中学・女学校の設立趣意書

思うに生命は絶えず働き，常に生産しています。生命の伸展と生活の向上を指導する教育は働くことと生産することの指導でなければなりません。「日ニ進ミ」「日ニ新ニス」との聖旨はわが国の現下の国是であるとともに，またそれは天地の生命の事実であります。教育がその本来の任務に帰り，生命の教育に向うときに真に聖旨に副い奉ることができるのです。

この「日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ」という言葉は，朝見式の勅語の中に出ていたものです。新年号とともに庶政一新が唱えられていたのにつれて，われわれも創業期ともいわるべき小学部だけの4年を了えて，第1回卒業生を出して，中学部・女学部を開設するとともに新たな覚悟をもって再出発しようとしたのであります。それまでも種々の労作的な教育は行っていたのであるが，児童の年齢が幼なかったので，なお遊戯や作業の域を脱することができなかったのを，真の生産的勤労に発展させようと考えたのは，既にもいったように当時の社会思潮の反映でもあるが，学園児童の成長にともなった当然の発達でもあったのです。

(4) 中学教育

これとともに中学部・女学部の教育について次のように発表した。

「小学部の卒業生に，引続き青年としての教育をなすにあたって,さらに新しい友達若干を集めて組織したものが中学部・女学部であります。その教育の精神は既に指標に明らかにしたものと変るところはありません。これを青年の生活において，日々実現せしめつつ，新しい国家の建設に尽す国民を養おうとするものです。もちろん青年の生活には児童の生活と異った姿がありますから，その指導の方法にも異った注意が必要であります。

従来の中学教育が高等諸学校への入学準備に堕していたことについては既に多くの非難のあったことですが，しかし他人の子弟については忌憚なく放った非難をわが子弟に対しては，かえって強いるような事実が少からずあり，学校もまたその非を知りつつ大勢に抗しえないで，いたずらに時流を追っていたかのように思われます。もちろんそうしたことが行われるのは，それを必要とするものが社会の何処かにあったからであります。しかし時代は刻々に進みつつあります。今やわが国の中学校教育が普通教育として人・社会人・国民を養成する本来の任務に帰るべき時になっています。私どもはこの事実を最もよく認識し，把握しなければなりません。いわんや今更，女学校の教育を従来の男子中学校の教育の如く準備教育たらしめんとすることは断じて避けねばならんと思います。もちろん従来の女学校教育の理想のような一部有閑階級の婦人の趣味的教養としておくこと

はできません。進んで止まぬこの国のすべての階級の女性として，国民の一員としての教養に努めねばなりません。この意味において女学校の教育においても働くことと生産することの習慣と興味と技術を十分に養うように指導しなければなりません。中学校教育もまた女学校教育もやはり，大改革を必要としています。

思うに青年期は人生の一大危機であります。身体においても，精神においても，この時代に大きな変動がとげられて児童のお伽の世界から人生の実生活へ出て行くのです。この過渡の時代の生活を誤ったために身体をそこねたり，精神を歪めたりした実例は人々のよく知るところであります。青年の結核病，青年の風俗の弛緩はわが国将来のためほんとに憂うべきことです。さらに今日の如く社会生活の状態が急激に変化しつつある時には，一層青年の教育に注意し，旧いものと新しいもの，永遠なるものと流行的なるものとの間に明かな認識を得させ，外的生活においても，内的生活においても，しっかりした確信をもって生活せしめもって正しい将来への準備をなさしめることが何よりも大切であろうと思います。」（赤井米吉記）

この時は経済界の不況とともに，共産主義運動の漸く起ってきた時であったので，思想の混乱のようなものに対する要心がほのめかされている。経済問題や勤労教育のことを記しつつも，理想主義的な考え方が内にひそめられ，「永遠」なるものを求めようとするけはいの強いのが認められる。

4　初期の明星教育

(1)　成城の教育実験

明星の初期の教育を述べるには，どうしても成城小学校の教育を述べなければならない。創立の時の4人と，その後まもなくはいった霜田静志・松岡正雄はみな成城小学校で沢柳政太郎先生の指導のもとに勤めていたのである。したがって当初の人々は自己批判のように，成城の教育を厳しく批判したが，これを「否定」したことはなかった。明星の創設は教育上の意見の相異からではなかった。だから成城小学校長の沢柳先生を明星学園の顧問として，実際によき指導をうけたし，世間もその理由で，創立当時の人たちをよく受入れてくれたのである。成城は明星の「本家」であった。

成城小学校は大正6年に沢柳先生が「実験学校」として建てたのである。その頃から綴方の「自由選題」，図画の「自由画」などの主張が始まり，「自由教育運動」が起りかけていたのであるが，沢

柳先生はそうした動きとして成城を建てられたのではなかった。沢柳先生の「実際的教育学」の趣旨によって，真に児童に直接した教育を実験的に作り出したいとの考えであった。そのことがおのずから「児童中心主義」の，そのころの新教育になるわけであったが，沢柳先生はそれをいわれなかった。沢柳先生は「自由教育」「新教育」という言葉をほとんど使われなかった。「真実の教育」「正しい教育」といわれた。「理想の教育を行っているのでない。追求しているのである。」とよくいわれた。

明星においても初めの頃は，あまり「自由」という言葉は使わなかった。「自覚」といった言葉をしいて使ったこともあった。それは当時「自由教育」の名のもとに，ひどい気分的教育が行われていたのに対する警戒でもあったが，根本的には沢柳先生の「真実」「正しい」といわれた線をいこうと考えたからであった。だから明星の教育はよく「堅い」と評された。実際照井猪一郎・山本徳行・大高義一などはベテラン教師で，新しい試みでも緻密な計画のもとに実行したのである。

成城教育の狙いは，

個性尊重の教育（個人差に応じた学習指導）—— 学級の定員を30名にしたのも，入学期を春秋2期にして，半年制にして，優秀なものは前期の組へ「超級」させたのも，この現われである。これがもとになって，後にダルトン案の「個人進度法」が採用されたのである。

能率の高き教育——これが沢柳先生の眼目であった。教材によって始期をかえ，たとえば修身は4年から，数学は2年から，理科（自然科）は1年からはじめ，学習能力，興味の発達に着眼して，Readinessの問題を考えたのは，わが国はもちろん，世界でも早い方であっただろう。国定教科書一本を柱とした教科課程にメスをいれ，学齢期の児童のもつ語彙の調査をして，それに準拠した国語教授案をたてたり，「聴き方」をはじめたり，課外読み物の研究をして児童読書室を作ったりした。玩具による理科（特に物理的教材）の教授も考えられた。

自然と親しむ教育——その頃まだ自然のままだった戸山ガ原を教室とも遊び場とも自然観察の場とも利用した。

心情の教育——学校劇をとり入れ，音楽教育を重んじ，鑑賞教育に特に力をいれた。

こうした試みが，当時「自由教育」「新教育」の名においてなされていたものと軌を一つにしたこと，それへ有力な資料を提供する役目をしたので，成城小学校はいつとはなしに新教育運動の先頭にたつような形になったのである。成城のこれらのカリキュラム研究40年の結果は先頃まとめて発表された。すばらしいものである。日本カリキュラム研究の最高峰といってよい。（赤井米吉記）

(2) 明星教育の課題

郊外の学園　明星教育建設の第1の課題は何といっても，郊外の学園ということであった。雑木林にとり囲まれた麦畑の中の一軒家のような学園の「教育」というよりも「生活」は，この環境にふさわしいものにならねばならなかった。これは成城の自然に親しむ教育の延長のようでも



左から沢柳政太郎，ミス・ヘレン・パーカスト，赤井米吉，ミセス・カフマン（秘書）
（大正13年4月6日，成城学校〈牛込〉の中庭）

あったが，それよりも前年9月の関東大震災に焼かれ，こわされ，追われた人の流れとともに移ってきたわれわれののっぴきならぬ現実だった。アボッホルムの田園学校の教育が高く評価された時だった。オープンエア・スクールの試みは既にあった。われわれもそれをせざるをえぬ立場におかれていた。(校舎があるだけで，内部施設は何もなかった。)終日林の中で読書・算数・自然科・図画の教授がせられ，サツマイモを蒸して間食に給された。ジャガイモの栽培もこうして始まったのである。いわば「そこに畑があった。だから作付けをした」のであった。ある人々は明星の労作教育にはイデオロギーがなかった，遊戯にすぎなかったと評されたが，まさにそのとおりだった。だがその間に「よく働く子ら」ができたことはたしかであった。

ダルトン案　学園建設の最中にダルトン案の創始者ミス・ヘレン・パーカストがきて，全国を講演してまわっていた。赤井米吉は東日本の講演を通訳したり，解説講演をしたりした。ダルトン案ブームの時であった。人々は明星はダルトン案の実験学校であろうとまで考えていた。われわれも成城以来，一斉教授打破を重大な目標にしていた。だがダルトン案の全面的実施はしなかった。その理由は，

①カリキュラム研究をより重大に考えた。ダルトン案はカリキュラム・教材は問題にしない。どんな材料でも，個人的自学自習にすることだけを目標にしている。われわれは国定以外のよりよい教材を探究しなければならなかった。そのためにダルトン案だけでいかれなかった。

②児童数が9名・7名といった少人数で，あえてダルトン案にしなくても，学級毎に自由に個別指導ができた。

③学級主任制をあまりに重んじた。教師と児童との触れ合い，1人の教師が1年から6年まで，全科を計画的に，系統的に指導することを何よりも重んじた。このことの弊が後にわかったが，はじめは教師のあまりにひんぱんに変った当時の一般学校の教育に対抗して，何回か6カ年もち上りをくりかえした。したがって4年生以上を解体して教科別研究室にして児童の個人的自習の制をとらなかった。この点，成城・玉川の方が忠実にダルトン案を実行した。



学園の校庭　雑木にとり囲まれた麦畑の中の学園の校庭。このような情景は，昭和10年代まで続いた。

カリキュラム改造　成城のそれを基として，より自由な立場から，国定教科書中心のカリキュラムの改造を試みた。

①読方の「新読本」は照井猪一郎が原案をつくって照井げん・霜田静志・須田寧3代の諸先生が謄写版とくみうちするようにしてできたのである。それが後の国定国語読本書き直しに大きな影響をあたえた。

②算数は成城では2年から始めていた。それは国定教科書の形式算は2年から始めた方が児童の能力に合うと考えられたからであった。アメリカでは3年又は4年から始めていた。ソーンダイクはもっと高学年から始めても高等学校ではいっしょになってしまうといっていた。われわれはこれを肯定したが，1年生ではその形式算にはいる前に，生活の間に自然数の発達を計る方法がありはしないかと考えた。運動場を歩いて歩数を数えさせたり，ボールを投げさせてその幅を計ったり，花を集めて数えたり，花弁の数から3の3倍，4の3倍と函数観念の基礎みたいなものを養おうとしたりした。これが後の生活算術書きかえに影響を与えたのである。

③理科（自然科）は1年からはじめた。4年以上の理科を科学的系統的に学習させようと工夫したのは，大分後の橘正薫の努力であったが，その基礎は初期から照井猪一郎によってなされていた。なお天文教材の取扱いも早くからはじめられていた。

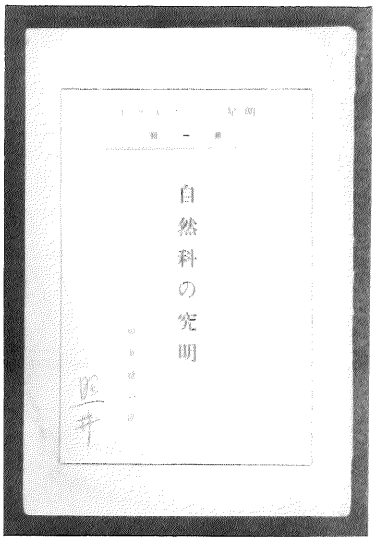
④地理・歴史の合科のようなものが4年から環境調査の形でなされた。雑木林の中で遊んでいる間に，矢の根石を拾ったりしたことから武蔵野のむかし・いまの研究になったのである。やがて尾高豊作の郷土教育と結びつき，社会科の先駆的な役目をなし，やがて原田満寿郎らによってはっきりと社会科にされた。

⑤中・女学校のカリキュラム研究の中で最も特筆せられるのは岡邦雄の総合数学——算数・代数・幾何を分科的にしないで，一つの数学としてやるもの，多湖実輝の生物科——動・植物を1本にしてやるもの，であった。これらは今では何でもないことだが，その頃は非常に大胆な試みであった。

（昭和2年）



スケールの研究　明星では家庭通信簿の形式が終戦までの20年の間に5回も変っている。全然成績を知らさない時代，極めて精密な報告を出した時，大まかな評価をした時代等転々とした。新しい試みとい



（昭和６年）

うものも，その結果を考査しなければ，よいとも悪いともいえない。大正教育の多くはこれをやらなかった。成城においてもそれがなかった。優秀なものを「超級」させるのも，教師の独断にすぎなかった。だから大正教育はいろいろなことをにぎにぎしくやったが，それが果してよかったか，どうかわからないというのがほんとうである。われわれはこれを警戒した。しかしその方法が見出されなかった。この中で山本徳行は評価のスケールの研究をやった。明星の児童・宇都宮市・川崎市の児童の成績物とそこの教師の評価をいろいろと研究した。その最後的な結論は示すことはできなかったが，スケール研究の大きな実績として今も学者の参考になっている。（赤井米吉記）

(3) 創立当初の教科の問題

	1年	2年	3年
国語……	12	11	11
美術および自然科……	5	5	5
音楽および体操……	5	4	4
数学……	5	5	

当時既に教育界には合科教授・統合学習の研究は相当に問題になっていた。が，それ等の多くのものは1時限中に読方・図画・綴方のようなものを10分・15分ずつあれやこれやを賑かにやる式なものであった。分科を手に小きざみにして集めてガンモドキのように包んでやる合科であった。（今日でもさようなのが相当にある）1週間に2，3時間ずつやれば分科で，1時間に10分ずつやれば合科だというのは変なものである。明星はかかる合科主義に賛同することはできなかった。分科をできるだけ少くし，各分科間の連絡を十分にしようと考えてできたのがこの4大分科であった。

国語とは読方・綴方・書方・作方・聴方・劇を包含した，主として文字・言語の学習に関係をもつ1類である。美術と自然科を1類にしたのは，その間に各相通ずるものがあるように考えたからである。自然科の中には理科の初歩として，将来の科学的研究への前提となるもののあることはもちろんであるが，児童の自然に対する態度にはこれを美的対象として全的に眺める風のあることを考えて二つを一つにしたのである。ただし，自然科とはいうものの，玩具の製作，器具の観察の如き人為的なものをも含めていた。だから自然科というのも十分ではなかった。美術には図画・手工の両者を包含していた。これにも美術といってしまうことのできぬ要素があった。工業の初歩とも

年	学園内のおもなできごと	社　会　一　般	教　育　・　文　化	
13	開校（5.15）	米国　排日移民法案成立（5.－）	ヘレン・パーカスト来日（4.－） 文教審議会設置	児童の村小学校開設 成蹊小学校吉祥寺に移転(3.－)
14	校地拡張（800坪） 夏季生活・三浦半島三戸で母の会結成	治安維持法公布（4.22） 普通選挙法公布（5.5）	ＪＯＡＫ放送開始（7.12） 陸軍現役将校学校配属令公布(4.13) 警視庁　軍教反対の学生示威運動弾圧	
15	２教室－39坪増築	大正天皇崩御（12.25） 今上天皇即位（12.25） 昭和と改元する（12.25）		

いうべきものがあった。がそれ等をもなお，美術としようとしたのは当時の芸術教育の亜流で，厳密に考えていない点があった。

なお，ここに農芸的な仕事，すなわち野菜を栽培したり，草花を植えたりする仕事もあった。だから今から考えれば生活科とでもいうべきであっただろうが，仮にかようにしておいた。表現・製作・栽培等の１類である。

音楽と体操を一つに集めたのは，ダルクローズのレトミックの主張のように，リズム・ハーモニーの身体的表現が音楽教育の基礎として非常に必要なものであること，体操にはリズムを担わすことが児童の心理的・生理的発達に必要であること，を考えたためである。しかし音楽には作曲・器楽の手ほどきも加えようと考えたし，体操には音楽の担われない遊戯も多かったので，この両者が完全に一致したとはいうことはできぬ。両者に相通ずる部面も相当あるというぐらいの考えで１類にしたにすぎぬ。これは最も早く二つに分離していった。それは音楽の教師と体操の教師が１人でないということに第１理由があった。もし音楽の教師が同時に体操をなし，または体操教師が音楽ができるということであったら両者はもっと渾一してきたであろう。音楽学校と体操学校はもっと近づかねばならんのではなかろうか。

数学とは大体算術のことであるが，総合数学の主張をくんで，代数や幾何の初歩の如きものも低い学年から織込んで，空間観念の涵養をしようと考えたので数学と命名したのである。数学の始期については当時相当問題が起っていた。当時は文部省の国定教科書を標準にして考えたから，あのような仕事を課すことには１年では早過ぎる，２年から始める方がかえって能率的と考えたのである。実際尋常１年にはいって来る児童の数観念は極めて低級である。国語においては既に４千以上の言語を理解し，使用し，人のいうことはすべてききわけ，自らの考えもまず表現できるようになっているものに文字という符号を与えるのであるから，これはさほど問題にならぬ訳である。しかるに算術では，中には10までの数え方もできぬくらいのものがある。これに直ちに加減を授けるのは困難なことであり，それがやがて最後まで算術恐怖の心を作るのである。もっと自然的な発達にまつべきではないかというのが，１年でこれを課せない理由である。しかし国定教科書を考えないで児童の数学教育は，と考えればもちろん尋１にこれを課せぬという理由はたたぬ。数生活は母親の膝の上から始まる。かかる考えで尋１からこれを課し，いわゆる生活の数を一時扱いつつ後に数え方・数詞・数字の教育をするようになった。現在の改正算術書はこの趣旨を酌んで児童の数生活の指導を狙っているようであるが，多くの教師はあの絵本をもってさかんに抽象数の教授をしている。無意味なことである。

修身の時間を特設しなかったのは生活指導の教育を標榜するわれわれにおいては当然のことである。すべての教科，すべての生活が児童の生活指導である時に修身なる特別の時間においてのみ道徳的生活の指導をしようとするのは自己矛盾である。国語も音楽も体操もすべて道徳的教育の使命をもつのである。もちろん突発的な児童相互間の道徳問題もある。しかしこれはその場合において，何時，如何なる教科の時でも，注意し，教訓すべきである。と考えてこの科は特設しなかったわけである。

かように4大分科に分けて始めたのであるが，いよいよ実際に試みているうちにいつか従来の分科に堕してしまった。さきにも述べたようにまず音楽と体操は教師が異るので，（音楽は学科教師，体操は学級主任——学級主任は大抵ピアノを弾くことができない。）自然仕事も分離し，その各〻に時間も分配しなければならんことになった。次に美術も主任の教師が十分に指導できないので専科教師を置くことになり，自然科と分離してしまった。かくて国語・美術・自然科・音楽・体操・数学の6科になった。さらに同一教師が指導する国語の読方と綴方も書き方もそれぞれ特定の時間を要求するようになり，やがて6科目が8科目にもなり，高学年では地理・歴史が加わり，裁縫がはいり，全然元の木阿彌になってしまった。

それ等の跡を省みて気のつくことは，かかる分科の根本に横たわるものは，児童の能力開発の思想である。われわれが生活指導を目ざして立ったことは既に趣意書の吟味において述べたことである。しかしその実現の方法としての教科課程はまだ十分に検討せられていなかった。そしておよそ4大分科にしたものの，その中に各〻の分科が依然として残っていたこともさきに記したとおりである。これ等の分科主義の根底に横たわっている思想は普通教育または基礎教育なるものは将来如何なる生活をなすにあたっても必然とせられるような能力を発達せしめることだということである。読む力・綴る力・書く力・描く力・作る力・観る力・歌う力・走る力・数える力・そうした力を養わねばならぬとすることである。だから児童の生活を指導すると称して，如何なる生活事象をもってきて，これについて理解を与え，その実践を指導していっても，その裏にそれによって読む力は如何に発達し，綴る力は如何に伸長するかとの問題が浮かび，それがいつも不安に感じさせられる。教師の方にはそれについて一応の考えをもっていても，父兄がそれを如何ですかと疑問してくると容易にこれを納得せしめられぬ。それを納得せしめられないと悟って自らも不安を感じてくる。かくて生活そのもの，指導よりも能力を養おうと考えるようになる。われわれの教師が結局従来どおりの分科主義に堕したのはこの能力養成の旧い思想に負けたのである。今もわれわれからこの思想は抜けきらない。一般教育界においても生活指導の主張は相当有力になっており，郷土教育や労作教



学園創立時の玄関
部屋は職員室兼事務室
明星初期の教育研究と経営の方針が
この部屋で凝議されたのであった。

育の流れを見ながら依然として新教科課程が構成せられないのは，この能力発達の思想に問われているためである。この思想を整理しない限り新教育は新しい展開をしないであろう。が，さらに進んで能力発達の思想は全然まちがいであろうか。新しい生活指導の教育はこの能力を如何に考え，如何に処理すべきものか，これが今われわれに課せられている根本的問題である。上級学校の入学試験の方法，それにつれて騒いでいるのは学校の入学準備教育も根本をただすとこの思想にある。

（赤井米吉記）

(4) ダルトン案と明星

学園創立の当時，わが国に種々の教育学説・方法が唱導・紹介せられていたが，それ等の中にあって最も具体的で，既に相当の実験を経ており，したがって実際問題として最も人々の関心を集めたものはダルトン案であった。私がこれを知ったのは大正11年7月であった。その9月には雑誌「教育問題研究」にその概要を紹介し，10月にはEvelen Dewey: The Dalton Laboratory Planを「児童大学の実際」という標題で訳し，12年2月にはHelen Parkhurst : The Education on the Dalton Planを「児童大学の教育」との標題で訳し，その後関東大震災で両書とも紙型を焼いたので，両者を合せて，「ダルトン案の理論及実際」として出版した。かようにダルトン案を卒先して紹介し，また成城小学校で数度，案そのままの形で実施もし，あるいは一部だけを試みてもみ，さらに大正13年4月この案の創始者ミス・ヘレン・パーカストの来朝した時にはその講演の通訳にも当った。こうした事から世間には私をダルトン案の絶対的支持者のようにレッテルをはっているものもあり，したがってまた明星学園はその実験学校であるかのように想像するものもあった。だからここでわれわれはこれに対して如何なる態度をとったかを述べることは，創立当時の学園教育を考えるうえにおいて必要な一項であろうと思う。

ダルトン案の3大要件は自由・協同・仕事であると，パーカスト自身が要約していっている。わが教育界では最初これを自由教育の方案として受取っていた。しかし少しく研究すると，その中に他の要件が含まれており，自由が頗る制限されているので，いわゆる自由教育の主張者たちはこれを中途半端な案だと非難し始めた。しかし国定教科書の制限を受けているわが国の初等教育界では理論ほどの自由を児童に与えられないので，その中途半端であることが採用を容易ならしめ，理論家の非難があっても実際家の間にはそれが歓迎せられていた。いずれにしてもこれを自由教育の方案とのみ考えたのは間違いであった。自由は1要件に過ぎない。他に協同と仕事の2要件がある。しからばこれ等三つの要件は相鼎立しているのであろうか。それならば一つの案ということはできぬ。

ここにおいてこれ等三つの要件を統一する原理を求めねばならぬ。それは社会的生活である。パーカストは，

「学校は社会的生活のままな社会的事情の漲る所としたものである。児童が将来実社会の職業生活においてなすのと同じに種々の関係を学校生活の間に送るのである。」といっている。したがってこれは教授の方法ではないことはもちろん，さらに女史の屢〻用うる「学習の方法」という言葉も尽さない。「学校生活の一案」と女史のいったのが最も適当した言葉である。これは実に全校的案である。1学級だけ，または1教科だけ，あるいはある児童だけに試みるということは不可能である。わが国の教育界ではその自由学習の方面のみを採用したから，1学級だけのダルトン化というものも出現したが，それはダルトン案の真精神を捉えたものではない。したがってそれは暫くにしてほろびざるをえなかったのである。

創立趣意書にもあらわれたように社会的教育の傾向を相手に持っていたわれわれはこれを単に1自由教育の方案としてではなく，社会的生活指導の案として十分にこの価値を認めたのである。当時私は次のように考えていた。

「デューイは諸教科の倫理的価値を社会的理解・社会的能力・社会的興味の三つに分って考案して学校の生活化・社会化を唱えているが，それは主として教材に関係した問題であって，教育法はプロゼクト・メソッドである。ダルトン案のいう学校の社会化はむしろ学校内における児童生活の社会化である。プロゼクト・メソッドは内容における社会化であり，ダルトン案は形式における社会化である。さらにいえばダルトン案は児童の学校生活の状態を実社会における生活状態と同一ならしめんとするものである。」（赤井米吉著「ダルトン案と我が国の教育」59ページ）

「ダルトン案はかかる社会的生活を学校内に生み出さんとするのである。教育の実質から考えれば如何なる教科・教材が最もよく社会文化を児童に修得せしめえられるか，あるいは社会的能力を増しうるか，あるいは社会的興味をつけられるかと論ずべきであろう。すなわち教材論はかなり重大なことである。しかし如何なる社会的教材も今日の学校の如き孤立的生活，教育本位の生活では真に児童に消化しうるものではない。学校の生活そのものを社会化するにあらざれば真に児童を社会人たらしめることはできない。かくてダルトン案は学校組織の変更が教材の研究以上に大切であるとするのである。教材はもちろん十分に研究してよいものが選択せられねばならぬ。しかし教材の死活は一つに学校生活の如何によって定まる」（同64ページ）

こうしてこの案はわれわれの趣旨に極めて近いものであると考えた。ただしパーカストの社会的はアメリカ流の経験派の社会を意味し，われわれの考えたのはもっと観念的なものであった。

年	学園内のおもなできごと	社　会　一　般	教育・文化
2	音楽美術室－50坪建築 母の会結成　　新読本1巻刊行 後援会結成（初代会長・岡崎栄松）	金融恐慌始まる（3.14） 第1次山東出兵（9.8）	大日本女子青年団創立 岩波文庫創刊
3	小学部第1回卒業 財団法人明星学園－理事長赤井米吉 中学部・女学部併設 ラジオ放送（麦畑－学校劇）	最初の普通選挙実施（2.20） 日本共産党検挙（3.15）	9回オリンピック 〈織田，鶴田活躍〉
4	講堂－70坪　建築 中学部教室－90坪（4教室）建築	世界恐慌おこる	教員の俸給不払い・減俸 流行語－失業地獄

したがって学校教育における社会的とは現実社会の生活そのままを意味するものではなく，「あるべき社会」の要求を具現しなければならぬと考えた。

「社会的とは倫理的の意である。社会的生活の教育は道徳的訓練の教育である。さればダルトン案は学習の方法ではない。児童生活の方法である。現実の社会は理想の社会ではない。ある個人には過重な仕事が要請されていることもあろう。ある個人は誤った自由を要求しているかも知れぬ。またある個人はむやみな協同が強いられているかもしれない。しかし学校はそうであってはならぬ。学校はすべからく理想社会の性質を具えねばならぬ。そこには当然にして可能な仕事が要求せられ，児童の自由と協同がよき調和を得ていなければならぬ。学校は「まさにあるべき」社会の面影をもたねばならぬ。かくするには最も大切なのは教師である。ダルトン式学校においては教師もかかる社会の一員に過ぎないのであるが，この一員はすべての点において児童と同等でない一員である。指導的一員である。されば学校を社会的生活たらしめる3要件は教師の十分に備うべき3要件である。自己の任務に対して十分に責を尽す人，自由の権利を十分に使用しうる人，しかもよく協同しうる人でなければならぬ。教師たちは互に自由を尊重し，しかもよく協同し，教師たちが一つの完全なる社会をなしておらねば社会的雰囲気を学校に起すことはできぬ。

（同92ページ）

しからばわれわれはこの案をそのまま採用しようと考えたか。決してそうではなかった。われわれはこの案をかつて実施してみた経験から，またこの案のもつ精神から，そこに多くの善きものがあることを認めてはいたが，それでもわれわれの学園を全然ダルトン案化することには躊躇せざるをえなかった。

ダルトン案の1要件なる仕事というのは児童の学習すべき数教科の教材を1カ月4週間分ずつ請負仕事の形式で児童が引きうけ，その数教科に対して児童は個々に自らの能力に適した時間を配当して，その難易を調節し，興味の湧いた時に最も能率の上る状態において学習するのである。こうして1カ月分が完了するとその次の1カ月分を引受け，能力のあるものはこれをぐんぐん処理して1学年の仕事をも7，8カ月で仕上げて次の学年に移られるようにし，劣等なものは教師にひきずられて十分に学習しないことでもよいが打棄てて行かねばならんようなことなく，ひたすら己が能力に適したように学習を進めることができる。

しかし教科課程の1カ月分なるものを請負うには，1教材について学習する内容の量と質とがあらかじめ決定しておらねばならぬ。しかし優劣両端の児童の如きは1教材について学習するにもその量だけでなく，質も違っている。学習は2間幅の道路1里を次第に修理して行く請負仕事とは違

5	軽井沢上野原寮－70坪建築 銀座伊東屋で美術展開催 上野原寮で8泊の夏季生活始まる	金輸出解禁（1.11） ロンドン軍縮会議（1.21）	豊作飢饉 国産品愛用運動 軍部ファシズムの足音
6	「明星の教育」創刊（1.）	満州事変勃発（9.18）	文部省内に一学生思想問題調査委員会
7	女学部・特別教室－80坪建築 中学部へ陸軍省の査閲官来校 「星雲時代」校友会誌　創刊（11.19）	上海事変（1.28） 満州国建国（3.1） 5.15事件	欠食児童全国で20万 文部省－国民精神文化研究所設置
8	中学部教室－45坪建築 ほしかげ（小学部教育月報）創刊（6.15）	ヒットラー内閣成立 国際連盟脱退（3.27）	京大・滝川事件 小学校教科書大幅改定－内容的には国家主義的
9	創立10周年記念式典（5.15） 明星行進歌－北原白秋作詩 女学部教室－22坪建築	ワシントン軍縮条約破棄（12.29）	文部省に思想局設置　古賀・三条の新しいメロディー，子供－紙芝居・野球・メンコ・ベーゴマ・漫画のらくろ

う。ある時には5間幅にも，10間幅にも広がり，ある時には2，3尺にも狭まる。細い帯のような教科課程を並べておいて，これを小口から片づけ，進度のみの進むことを考えるのは余りに学習を機械的に考え，教育を結果的にするものである。われわれはわが国の国定教科書なるものが児童の学習を極めて平面的に，幅狭くなすものであることにかねて不満をいだいていたものである。教材は一定していても学習の内容は児童によって深浅・広狭・厚薄，種々であらねばならぬと考えた。したがって国定教科書さえももっと分量を多いものにして，児童はその能力・性質に応じて，そのうちから適当に学習するようにした方がよいと考えもした。そうした教材研究を起すべきだと主張し，その試みもこの学園の一使命であると考えていたのである。だからダルトン案はその精神において最もよく，その方法において学ぶべき多くのものがあるにもかかわらず，その全い姿において実施することは躊躇せざるをえなかった。

さらにダルトン案の児童の自由研究なるものは主として指導案によって，参考書を繙いて営むのである。それは必然に読書による研究を多くし，眼の研究と手で書く仕事を多くする。それが独自的学習の長所であろう。しかしそれはまた同時に短所ともなる。参考書を繙くのと教師の話をきくのと学習上何れが好都合であるか，また教育的からいっても視覚の練習だけ必要なのではなく，聴覚の練習も必要なことである。さらに筆頭で報告するだけではなく，口頭で報告することの練習をも必要とする。ダルトン案の盲信的讃美者は耳の教育，口の教育を軽んじている。

さらにダルトン案の研究法では自然室内作業が多くなる。実験室で参考書を繙く学習が多くなる。しかしわれわれが考えたようにオープンエア・スクールの如く，1冊の書を手にして戸外に出て，森の影，田の畝に腰かけて自由な学習をなすようなことはできぬ。詮じつめればこれは大都市の大ビルディングの中の教室教育の1案である。われわれの今スタートせんとする田園学校においてはさらに研究を必要とする。

これらの理由をもってわれわれはダルトン案をそのまま採用することはできなかった。ただし，といってその全部を棄て去ることもできなかった。アッサインメントを指導案とし，あえて請負仕事の形式にはせず，学習の手引として，児童にこれによって自ら学習を進行せしめることとし，教師は常にこれを視守って必要な指導を口頭で行うたこと。あるいは，児童の能力に応じて進度を自由にしたこと。机は従来の1人，または2人用であったのを協同学習に便にするために6人用の大机にしたこと。これらはすべてダルトン案に学んだものであった。いわゆるダルトン案そのものからいったら，われわれは決してその忠実な実施者ではなかったであろう。しかしわれわれはダルトン案以上に忠実でなければならんものがあった。それは教育における結果主義を否定し，過程主義を重視することであった。ダルトン案においてもパーカストはそのことを主張しているのであ



校庭の一部で畑作り（昭和初期）

るが，あのアッサインメントではどうしても結果主義に堕する惧れを十分に持ち，わが国にて実施したところでもそのために失敗している。（赤井米吉記）

(5) 成績考査の問題

成績考査に対するわれわれの態度は4度変った。この問題を回顧すると全く暗い気持になる。いうまでもなく新しい教育は従来の教育とは異った人生観・児童観から出発して，新しい教育目的と方法をもち，結果を予想しているのである。価値感が違うのである。したがってこの結果を測定する尺度も違わねばならない。新教育の結果を旧教育の尺度で測って，その良否を云々するのは間違った話である。しかしそのことが実際に屢〻行われた。例えば新教育を標榜する学校が，生徒の上級学校入学率でその成果を評価されて，悪評を蒙った例は決して少くはない。

が，その当時まだわが国の新教育は新考査法を生み出すところまで発達していなかった。世界的にいっても新試験法が問題にせられるようになったのはもっと後のことである。新教育測定法の研究はアメリカではかなり前から実験的になされてはいたが，まだ一般に流通するほどには到っていなかったし，むろんわが国では全く顧られなかった。およそ尺度というものは広く世間に通用するところにその効用があるのである。1人1人が別々の尺度をもつのは尺度がないと同じである。自分はこれでよいといい，人はそれはいけないという，ということでは何にもならない。およそ改革の困難というものは，価値評価の尺度からくる。時代の先覚者がその時代に容れられないで，不遇の生活をさせられるのはこのためである。新しい教育を行うものもこれと同様な立場にある。彼等はこの新しい尺度をはっきり示して，世人を首肯せしめるか，でなかったら世評の尺度を全然無視して，その外に立つか，の二つよりほかに道はない。が，われわれはその何れをも十分にできなかった。

父兄に対してわれわれの狙う教育効果については機会のあるごとに説明はした。その時は父兄の人々もなるほどと合点はしてくれたようであった。が，もともと素人である。その理解が根底にまでも及ぶことはむしろ要求する方が無理である。極めて茫漠たる理解のうえにたって，教師への信頼の被いに被われた合点であった。しかし父兄はその教師1人をあいてにして生活しているのではない。わが子の能力の評価は世間を対象として，その中にはいって何程の仕事ができるかとの関心である。だから担任教師の評価よりも，世間の評価がより重大である。自然そちらの方へ傾くのはやむをえぬことである。そしてそこには入学試験という最も旧式採点法による人間評価が行われている。現代小学校の成績を最も世間的に評価するものはこれよりほかにない，との眼で自分の子を見，それによって評価し，その成績を上げようとあせる気分はわれわれに反映してくる。われわれはそ



かしの木(左)
何かにつけて，子供たちのよじ登った木。この木の下には，子供たちの飼育した小動物たちが埋葬されている。

桑の木(右)
学園の元地主の木。学園誕生前の畑の桑の木は残った。

れを全然無視して仕事ができなかったことを告白しなければならない。

要するにわれわれに最も適した成績考査法を持ち合せていなかった。それは自ら狙うところのものを正確に把握していなかったことにもなろう。そのため紆曲の道をたどったのである。まだ決定的なものに到達したとは決していわれない。それはわれわれの明星だけで決定すべきものではない。広く世間の流通を必要とする問題である。ただわれわれの経てきたあとを暫く物語ろう。

第1期はいわば無考査時代とも称すべきときであった。ただしこういっても児童の学習の結果に対して，全く無関心であったというのではない。一事一物の学習においても，その結果は必ず現れるものであり，現れたものには良否があり，そしてそれの良好ならんことを希う意味において何らかの反省の行われていたことは否定できない。その意味ではこれも無考査時代とはいいえないであろう。ここにいう無考査時代とは，これを一定の標準によって比較品評し，等位をつけて公にすることはなかったという意味である。その理由は，

①児童の個性が重んじられた。考査はすべての児童を同質のものとして，その大小を比較することである。質が違っていては比較のしようがない。しかるに児童の相違はその量の相違よりもより多く質の相違である。それを同一線上にならべて品評するのは間違っている。各〻の個人において昨日よりも，昨年よりもと比較してもよいが，他の者と比較することはできない，と考えたのである。

②従来の成績考査法に対して懐疑的であった。従来の考査法が教師の主観によって行われたもので，客観的に妥当性の極めて乏しいものであったことは，その頃既に実験によって指摘されていたことである。1枚の答案について与えられた点数が教師ごとに異なり，その間に80点もの相違がある事実が示されている。かかる非科学的な成績考査の結果を公許公認のものかのように考えている教育界も社会もともに間違っている。われわれはかかる非科学的なことをしたくない。

③父兄の成績考査に対する迷信を恐れた。かくの如き非科学的，でたらめ的なものを絶対的なもののように信じて，これによって児童を品評し，ひたすらにその点数のよからんことをのみ希う学習態度のあることを恐れ，これを打破したいと思った。

④学習の結果よりも過程を重んじなければならないと考えた。従来の教育はあまりにも結果主義であった。記憶本位でもあった。カンニングという世界無類の悪学風がわが国の学園を荒らしているのもこのためである。新教育は学習の過程を重んずる。学習の態度，学習の興味を重んずる。目前の結果よりも，将来への発展性に力点をおく。現在は悪くても，その学習に興味を持ち，将来独りででも更に研究し，もっと発展しそうであるのは，現在善くても，もう発展性のとどまっているものよりもよい。(注入的教育は現在の結果からいえば，新教育の奨励する自学自習よりも確かによいであろう。



鉤形にならんだ教室の前庭
に作られた池（大正14年）

しかしそれには発展性がない。自律的教育は現在においては非能率的であっても,その将来への発展性は無限である。新教育はこう考えるのである。）この意味で従来の考査法を採用することはわれわれの教育目的と一致しない尺度をもって教育価値を測ることになる。例えば目方を測るのに物さしをもってくるようなものである。それは新教育の自家撞着である。いわゆる新学校でそれを敢てしたものも少くはないが，われわれはそれはできない。

このような理由でいわゆる成績考査は行わなかった。父兄に対しては口頭をもって学習全体について報告をすることにしていた。それも一種の考査であるが，従来の採点や報告のように「算術８」というように示すよりも，より具体的に児童の生活全体を知らしめ，その如何なる方面に長所欠陥があるかを示し，補導の手がかりを与えうるであろうと信じた。これが他方にはわれわれの教育方針を父兄に徹底せしめる機会になったようである。

しかしこうして口頭にせよ，父兄に対して児童の種々相について語るときには，単独にその児童１人が考えられるものではない。同学年のものの中において考えられ，あるいは広くその年齢の児童一般と暗々裡に比較せられているのである。もちろんその比較も教師の主観的なものであることを免かれえない。かかるテストの公認されたスケールを造ろうとする努力は学界にあり，われわれの間でも山本徳行氏はそれを造ろうと明星の児童や川崎の児童を使って試みられたが，それはなお試みの程度で一般化するところまで行っていなかった。したがってこれは当分主観的なものであることは致し方のないことであった。その主観的であることを十分承知しておいて，その上に立ってわれわれの視たり，考えたりすることのできる限りにおいて評価をしてもよいではないかとのやや積極的な態度を採るようになった。ここに第２期が画されることになった。次に示す表はこの時代の通知表である。

通知表第学年																						
教科	方読				方級	方書	術算			科理	史国		理地		楽音			画図	工手		芸手	
要項	進理解鑑賞黙音読書取	度速深浅遅巧持続程度	（個人的進度を記入）	確不正確	着想描写	優良拙	硬筆	速遅中下	計思考	進速度	記憶	判断	記憶	考案習	声音	歌唱	ノアピ	リトミック	着想描写	立案作	工夫	計画	実技
昭和年月調	興味	遅速巧拙	普少	正確不正確	興味	普少	興味	普少	興味	普少	興味	普少	興味	普少	興味	普少	努力	整不整	興味	普少	興味	普少	努力	普少
通知表第学年	多普少	遅速巧拙	上中下	正確不正確	多普少	上中下	多普少	上中下	多普少	遅速正確不正確	多普少	多適不適	多普少	上中下	多普少	正確不正確	多普少	整不整	多普少	良可不可	多普少	上中下	多普少	上中下
	多普少	遅速確不正確	上中下	正確不正確	多普少	上中下	多普少	上中下	多普少	遅速正確不正確	多普少	多適不適	多普少	上中下	多普少	正確不正確	多普少	整不整	多普少	良可不可	多普少	上中下	多普少	上中下

この表に見られるように各教科目の学習要項，または指導要項を分解して，各々の教科目が如何なる学習を要求しているのであるかを示すことに留意した。これが発表せられた当初には，父兄はこれによって各々の教科目の指導要項と知りえたことを喜ばれたものである。これは3学年以上の児童について発表して，それ以下ではなお口頭で話すことにしていた。それは児童の成績に対する父兄の神経過敏になることを恐れたのと，教師の評価のまだ十分でないことがあやぶまれたのと，もう一つには教科目の分化がまだ十分でないためである。いわゆる合科的なものが多く，その考査法が考えられなかったからである。

なおこの表には修身と体操とを除いていた。修身は生活の教育においては，すべての教科目においてなさるべきもので，その成績は生活全体の問題であって修身科のみの問題ではない。だからこれの「成績考査」なるものは，この表においてなされたような形式ではできないと考えたためである。体操は単なる体操的技術の甲乙が問題ではなく，現在の身体の全体的健否が問題である。だからこれは身体検査表について父兄と相談すべきものであると考えたのでここに除いたのである。各教科目間の連絡，合科的なるものはかかる表では現すことはできない。またこの表は社会一般に流通する成績考査と相通う必要をもつから，従来の分科標準に立たねばならないから，ここに現さないことにしたのである。要するに一歩社会の成績考査に近づいて，しかもわれわれの狙うところを明らかにしようとしたのがこの表のそもそもの狙いである。一般社会的なものに妥協しつつ，その中へ新しい意義を加えようと努めたのである。

評語は表に示されているように，正確・不正確，上・中・下，巧・普・拙等極めて大まかな品等でなすことにした。この程度ならばおよそ共通の品等になろうと思ったからである。それも決して十分な客観性をもつものとはいわれないが，さきにもいったように，まだスケールができていない時であり，主観的なものであることを一応許容して出発したのである。かつ指導要項の中には点数をもって表現することのできぬ種類のもの，例えば鑑賞の度合，興味の多少というようなものもあるから，このようにしたわけである。

しかるに，こうしたふうに分解して，それを上・中・下くらいの階段にして品評すると大多数の児童は学期ごとにそう変化するものではない。一度記すとその後はいつも同じことを記入するようになり，記すものも見るものも興味を失なうようになった。かつ，このように分解して見るとその中には明らかに数量的に品等をつけられるものもある。例えば計算能力とか，書取の力とかいうようなものは明瞭に点をつけられる性質のものである。こうした理由から第3の時期にはいることになった。それは次の表のように考査内容を極めて簡単なものに要約し，一部は明かに点数をもって

示すことができるものにした。そしてその事項についてはスケールを作製して，主観性をできるだけ除くように努めた。

更に全校児童のメンタル・テストを行い，学級テストをなし，全国各地に行われる教育測定の結果と比較などして，われわれの評点の正確を期しようとした。いわゆる教育測定に近づいたのである。それだけ新教育が強調する過程的なものがこの表から隠されて，いわば結果的なものの方向へ堕していったとも考えられる。しかし一方にはいわゆる新教育の主観的・独善的なものを清算して，客観的・普遍的方向に進んだのでもある。真実に考え，精進するものは一面には一般世間を離れて自己の信念に生きようとする傾向をもち，その反面には謙虚に世間の批判を聴こうとする心がけがなければならない。教育の道においては特にこの両方の注意が大切である。一方に走れば孤高となり，他方につけば妥協になる。新しい道を拓くものの困難とするところである。

次の表には修身・体操も加えることになった。既に1教科として特設している以上は，その独自の任務も考えられなければならない。これ等以外の教科にも全生活的部面は多分にある。それを他の教科については，それぞれの独自の任務を強調し，これ等の教科については全生活的方面のみを考えることが均衡を失するように考えられたからである。すなわち修身科における知的方面，体操

手工		裁縫		体操		音楽		図画		理科		地理		国史		算術		書方		綴方		読方		修身		科目 / 評点	学期
表現	取材	手芸	裁縫	遊技	体操	リトミック	唱歌	表現	取材	記憶	観察実験	記憶	理解	記憶	理解	応用	計算	毛筆	硬筆	表現	取材	書取	読解	実践	知識	評点	一学期
																										備考	

科における技術的方面も正当に品評せられねばならないと考えたのである。

このように各種のテストを行い，合理的にしようとする傾向は，職員間に共同・協力の傾向が生れてきたことと平行するものである。各教師が自己の主観に立てこもって，学級王国を造っている時にはこういうことを行うこともできず，行う必要も感じなかった。教科分担・共同経営の必要が考査方法の共同研究を促進したことをここに跡づけることができる。

しかしこのように簡単なものにするとわれわれの狙う指導内容が不明瞭になる。世間多くの通信

学期／教科	評点 1	2	3	要項		第一学期					第二学期	第三学期
修身				智識		多	普	少				
				判断		適	稍不適	不適				
				実践		優	良	可				
読方				理解		速	普	遅	確	不確		
				鑑賞		深	普	浅				
				朗読		巧	普	拙				
				書取		多	普	少	確	不確		
				話方		巧	普	拙				
				興味		多	普	少				
書方				硬筆		優	良	可				
				毛筆		優	良	可				
				興味		多	普	少				
綴方				着想		優	良	可				
				表現		優	良	可				
				興味		多	普	少				
算術				計算		速	普	遅	確	不確		
				応用		速	普	遅	確	不確		
				記憶		多	普	少	確	不確		
				興味		多	普	少				
国史				記憶		多	普	少	確	不確		
				判断		適	稍不適	不適				
				興味		多	普	少				
地理				記憶		多	普	少	確	不確		
				考察		優	良	可				
				演習		優	良	可				
				興味		多	普	少				
理科				実験		密	普	粗				
				観察		密	普	粗				
				記憶		多	普	少	確	不確		
				興味		多	普	少				
図画				着想		優	良	可				
				表現		優	良	可				
				興味		多	普	少				
音楽				歌唱	声音	優	良	可				
					歌方	優	良	可				
					智識	多	普	少				
					鑑賞	深	普	浅				
					興味	多	普	少				
				リトミック		整	普	不整				
体操				体操		優	良	可				
				遊技		優	良	可				
				教練		優	良	可				
				興味		多	普	少				
裁縫手芸				計画		優	良	可				
				実技		優	良	可				
				努力		多	普	少				
				興味		多	普	少				
手工				計画		優	良	可				
				工作		優	良	可				
				興味		多	普	少				
作業				計画		適	普	不適				
				努力		多	普	少				
				能率		大	中	少				
				協同性		多	普	少				
				興味		多	普	少				

簿とほとんど異なるところがない。そこで一般に流通している評点制とわれわれの指導内容を示すものと両者を一つにしたものを欲することになって，第4期にはいった。次の表はそれである。これには作業科なる1項目が加えられた。これは畑の耕作の如きものの成績を示すのである。作業的なものは開校の初め，低学年から課していたのであるが，これまではいわゆるエキストラ・カリキュラ・アクティビティーなる教科外の仕事として考査の対象とはしなかったのであるが，この頃から正当な教科として認めて，同列することになったわけである。

教科目は14となり，在来の教科目がそのままあるうえに，音楽にリトミックが加わり，裁縫に手芸がはいり，更に作業の1科が増加している。従来のものは一つも整理せられないで，新しい重要性をもつものが次第に加えられ，カリキュラムの重荷はいよいよその重さを増してきた。これはいわゆる新教育の初期においてはどこでも経過した道すじで，第一次世界戦争前のドイツでも，アメリカでもやはりそうであった。これに対してドイツの合科学習・郷土教育・アメリカのプロゼクト法・社会研究のような綜合的学習が生まれたのであるが，それがまた一つの教科のようなものを生み，その数を加えることになった。われわれの学園においてもこの弊を清算すべく「生活学習」のプランがこれとともに進行し，その初期においては更に1教科を造るように思われたが，漸次他教科の生活的なものを吸収して，他教科を簡素にして，生活学習を充実するようになったのは，ローズ・シァイデマンが「民主教育の実際」Rose Sdeideman: Democratic Education in Practiceにおいてカリキュラムを「学習の道具」Tools of Learningとユニット Unitの2本建にしていると同じ道をたどったものであると思う。その詳しいことは「生活学習」において述べるであろう。

が，合科やプロゼクトまたは現今のユニットの成績考査はどのようにしてなすべきものか，まだはっきりしていない。アメリカの新試験法New Type Examinationも分科した各教科の知的事項をばらばらにほぐしてテストするだけで，その点では正確にできるようになっていることは認められるが，1教科を全体として総合的に反省することはできない。彼の国においてもあの方法はあまりに器械的で，児童の深い思考や鑑賞をテストすることはできないとして反対するものもある。われわれの「生活学習」もまだその考査方法の適確なものを考えついていない。これまでのところはこの第4期の各教科を更に細分した考査法に到達しただけである。すべてが将来に残された問題である。最後にもう一度繰返す。新教育は新考査法をもたなければならない。それができなければその主張をほんとうに徹底することはできない。

（赤井米吉記）

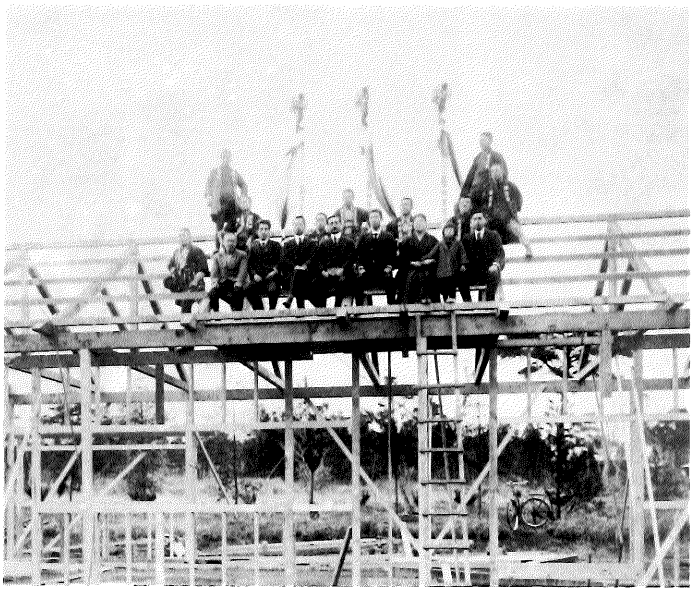
(6) 明星初期の研究テーマ

1　山本　徳行　○指導案による個別学習
　　この学習成績を計る物さしとしてのスケールの研究
2　照井猪一郎　○「新読本」の編纂　（照井げん・霜田静志・須田寧・中島昇平も寄与）
　　○自然科の研究
　　○武蔵野地理・歴史の研究　（郷土教育・社会科教育に連なる）
　　○学校劇の研究
　　○体操科の研究
　　○校外施設（千倉・軽井沢）の研究　（橘・原田参画）
　　○遠足旅行指導の研究　（橘・原田参画）
3　霜田　静志　○芸術教育中心の低学年教育
　　○鑑賞教育
　　○精神衛生の教育　（ニール自由教育）
4　照井　げん　○リトミックの研究
　　○和音感教育の研究
5　松枝　良作　○労作教育
6　中島　昇平　○算数教育
7　原田満寿郎　○武蔵野の地理・歴史
　　○社会科教育の研究
　　○東京府の緑地帯の研究と自然科
　　○校外教育指導
8　橘　　正薫　○算数教育の研究
　　○理科教育の研究
9　佐藤加寿輔　○聴き方の研究
　　○朗読の研究
　　○学校劇の研究

10　伏見　頼二　○体操科の研究
　　○生活科の研究

中・女学校

1　岡　　邦雄　○総合数学の研究
2　多湖　実輝　○生物学の研究
3　青木　ふみ　○家事科の研究
　　渋谷　　直　○家事科の研究
　　横山　光子　○家事科の研究
4　金子金治郎　○国語科（古典）の研究
5　松岡　アヤ　○数学個別指導法の研究
6　尾形　裕康　○人文地理――社会科
7　杉山　　清　○人文地理の研究
8　内野　健児　○国語科（詩歌・現代）の研究
9　和田　富子　○社会科の研究



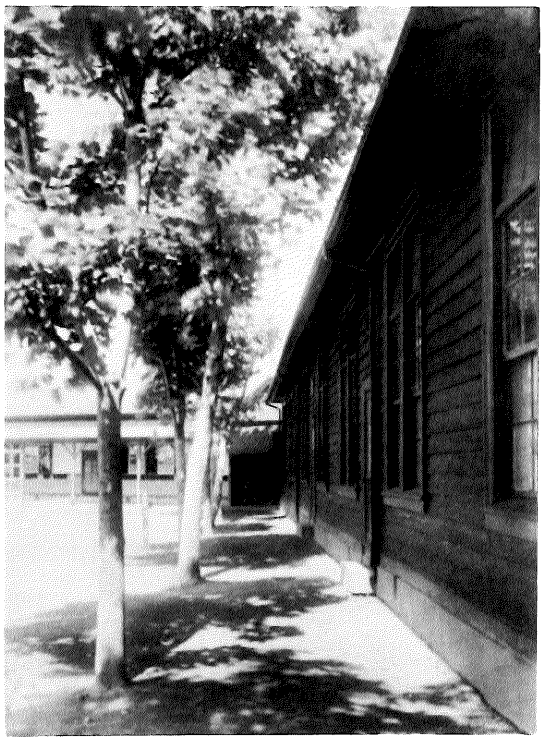
創立時は３年生までの教室しかなかった。（大正14年）
大正15年に４，５，６年の教室38坪増築（現在小学校の第２職員室・工作室のところ，井野工務店で施工）



←教室前の廊下舞台　初等部の学校劇は半野外で実施されていた。（昭和３年）

小学部２年生夏季生活
（昭井組８回生，昭和５年）
女学部の裁縫室で。うしろに立っているのは女学部生徒で２回生，炊事のお手伝い

創立当時の中学校校舎
（昭和３年）







←
4人の教師と21人の子ども

創立同人4人の教師と21人の子どもたちが陽光をあびながら昼のべんとうをいただいている。(大正13年)



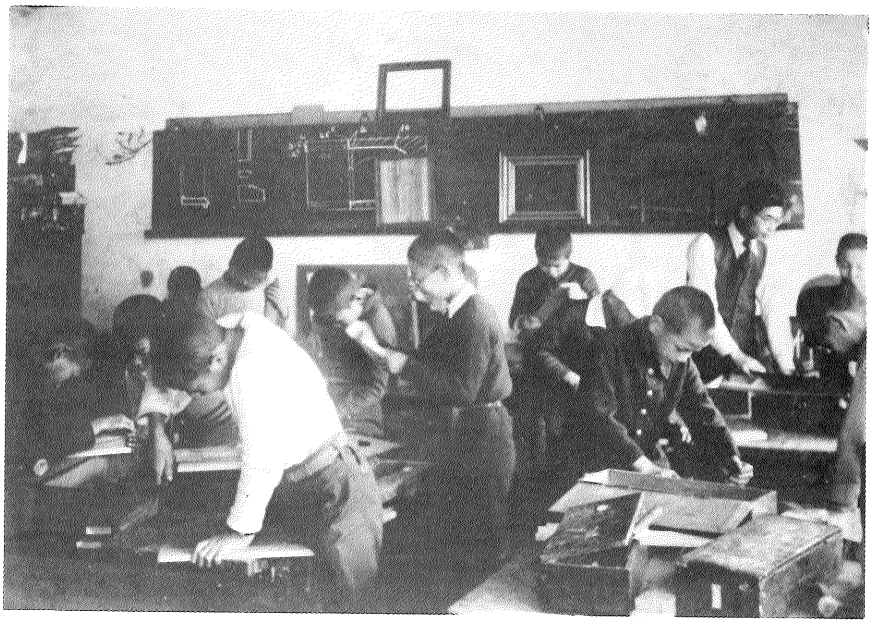
→
畑で作業

小学部校舎の北側の校庭で畑作。(昭和2年)



←
通学路

吉祥寺駅北口から井の頭公園の杉林を通って学園へ。昭和9年3月までこの道が通学路であった。



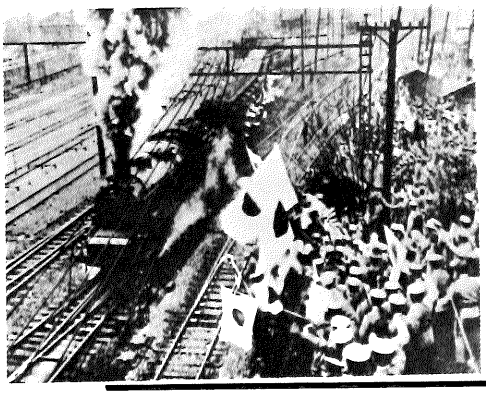
➡
工作室で木工の学習
6年生　指導・曽我（昭和9年）



⬅
小学部の教室
1年から6年まで4人～6人用の机で学習（牧先生の教室）(昭和8年)



➡
星の学習
美しい金星と土星が三日月を回る。寒さを冒して集った子どもたちは，望遠鏡を覗き，先生の話に瞳を輝かしている。(昭和8年12月20日，小学部校庭で)



←
満州独立守備隊補充兵の出発(昭和6年)
(国文社「図説国民の歴史」から)

5　明星学園の初期のころ

(1)　小学部

教育主張の変遷　毎年1巻ずつできあがっていく卒業生の明星生活絵巻――今年もまた新しい1巻が完成されようとしている。創立以来巻を重ねることここに13巻。(略)さて古いものから順々にひもといて見ると1巻ごとにそれぞれ非常に特長のある色彩を放っているが，全巻を通じて生活が次第に変化してきたこと，その生活の背後にはいろいろな社会の動きにつれて学園の教育主張の変遷がうかがい知られる。

①体育絵巻の部――創立の当時には武蔵野の大自然に恵まれ，輝く日光と新鮮な空気に浸っただけでも立派な健康教育であるから，特別に体操などやる必要はない。思う在分遊ばした方がよいなどという説もあったくらいで，もちろん屋内体操場などあったわけでもないし，晴耕雨読ではないが，雨の日には読書でもするより仕方がないといった風景であったものである。その時代と今日のこの強力に主張し実行している体位向上の問題とは全く隔世の感がある。女の子がランニングにパンツ姿で勇敢にでんぐりがえしをやったり，お猿のようにするする竹の棒登りができたりする様子を創立時代のお母様方に見ていただいたら，さだめしアッと胆をつぶしてしまうことと思う。

②手工絵巻の部――昔は玉手箱やお盆の彫刻などなんとなくお上品な芸術的作品を愛好したものだが，時代は一躍して飛行機とか電車・自動車・船などいずれも動力で動くような機械工作に一変してしまった。しかし複雑な図面やむずかしい科学書と首っ引きに真剣に工夫工作して小技術者・小科学者の群が，狭い工作室からはみ出している現状を見る時，ほんとに明日の日本の力強さを思わせる。

③音楽絵巻の部――永年のドレミ唱法にはおさらばをして，ここ2年ばかり和音感教育に熱をあげているところである。これは日本人の音感が遺憾ながら他の文明国の人たちのそれに劣っている事実から，1日も早くよい音感の持主に仕立てようという特殊な方法である。まだ土台の下の土固めくらいのところしかいってはいないが，大いに将来に期待をかけて精々努力している。その他いずれの学科の部にしても随分変ったもんだと思わせるが，全科を通じて共通な特徴ある学風は，どの時代の子供も学園の生活が実に愉快であること，常に明るく朗らかであることなのである。世の中が平和でのんびりとした時代に育った子も，ともすれば物資の不足がちで毎日の学習に使う紙さえ

不自由している今日の非常時に生活している皆さんも，かくも明朗であるゆえんは，どこにあるのであろうか。明星に育つ子のもつ大きな幸福の一つである。(略)

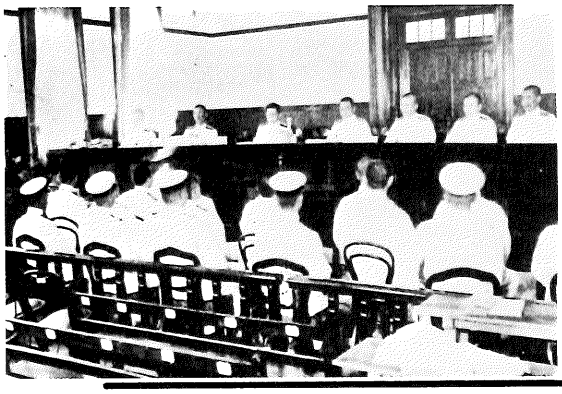
(昭和16年3月,「ほしかげ」37号から，照井げん記)

父兄の勇敢さ，大胆さ　子供の募集はまだ建物の形さえないうちから始めたが,それにしても麦畑の棒杭1本見ただけで,ただ学園の創立趣旨を信じ，武蔵野の大自然を愛好して，大事なお子さんを入学させようと決心せられたあの当時の父兄の方々の勇敢さ・大胆さは今から考えると全く驚異というほかはない。学園に永遠の礎を据えてくださったその父兄の方々に対する私たちのなすべきことは，教育理想の実現欲と相俟ってその期待を裏切らぬよう努力せざるをえない。お母さん方も非常に熱心で毎日2人3人ずつかわった顔の見えない日とてはなく，よく皆と一緒に日光を浴びながら楽しい昼食を共にしたものだ。幸にして2年目には新1年の入学者が30名に近く，全校の児童数は創立の4倍くらいにまで漕ぎつけることができた。(昭和9年5月,「ほしかげ」7号から，照井げん記)

明星の校風　10年の間にできあがった明星の校風というものがあるとすれば，その一つは先生もお友だちもよそ行きの殻を脱ぎ捨てて，あるが侭の姿でみんなと接触してることではないでしょうか。お世辞も上手もないぶっきら棒のようでも，純真さと明るさは満ち溢れてると思う。したがって後から後からはいって来た皆も，まずゆったりと心安い気持になり，外から塗りつけられたものは自然に洗い流されて，自分の本来の姿に立ちかえるようになりえたと思う。

(昭和9年3月,「ほしかげ」6号から，照井げん記)

明星風景二つ　「先生体操!」「体操だよ」「キック,キック」「キックにしてね先生!」けたたましいひびきに，甘ったれた調子も交って職員室の周りは俄かに騒々しくなった。見れば男の子たちは，大きなボールを小脇にかかえて玄関寄りの窓から，女の子たちは湯わかし場の方の窓から，顔に顔が重なって職員室総攻撃という情勢である。当の五十嵐先生はと見れば，お得意の読方教授に次のベルなどおかまいなしに大馬力をかけられてか，ほっと一息つこうと今や椅子に腰を下して，たばこに火をつけられたばっかり。お弁当の次に体操の好きなみんなは，さらぬだに食われた体操の時間が1秒1秒少くなるので，じっとしてはいられない。早く早くとせき立てる。「今行くよ」とおっしゃっても，たばこがなかなか煙になってしまいそうもないのでみんなも動かない。とうとう先生は「しようがないなァ」とにこにこしながら,残り惜しげに,たばこの半分を灰皿に消して「さァ」と立上がられた。みんなは歓声をあげて，われ先きにと運動場に駈出して行った。こんなことが度度あった。先生は「またやって来たなァ」「来ると行かないよ」などと笑ってらっしゃったが，皆のこの猛烈なデモは結局先生のたばこの節約になったわけですよ。私がお昼に音楽室から出て来ると，



5・15事件
海軍側被告の公判
（昭和7年7月24日）

（いずれも国文社「図説国民の歴史」から）

女学校の芝生にきまって円陣になって，お弁当を食べてる一団があった。それはこの組の人たちである。如何にも楽しげに睦ましげに一つになって，食事しているさまを見せつけられた私は，何となしにある大きな力を感ぜしめられると同時に，ほんとによい明星風景だなと思った。よい社会はほんとの協力によって成立する。明星で哺くまれたこの精神こそ，よい国家，よい社会を築きあげる礎になることを疑わない。

（「ほしかげ」19号から，照井げん記）

本年の指標　－昭和14年－　昨年は体操会・成績品展覧会・学校劇会の3大特殊行事をもって学習の報告にかえた。私たちが体育と科学の2命題を教育の宿題としてもう数年になるが，時局は今や国家が課題として全国民の解決を促している。

長期抗争といい国策邁往というも，畢竟この二つの推進力なくしては空念仏に終る。

日支事変はわが国民の異常な精神力を内外に認識させた。しかしこれをして永く独自のものたらしむるの糧は，やはり，勝れた健康と犀利な叡知の無限な供与に俟たねばならぬ。

この主張のもとに本年は，

体位の向上・理科教育の刷新・工作作業の徹底，を指標として努力を集中していく。

（昭和14年4月5日，「父兄へのお知らせ」から，照井猪一郎記）

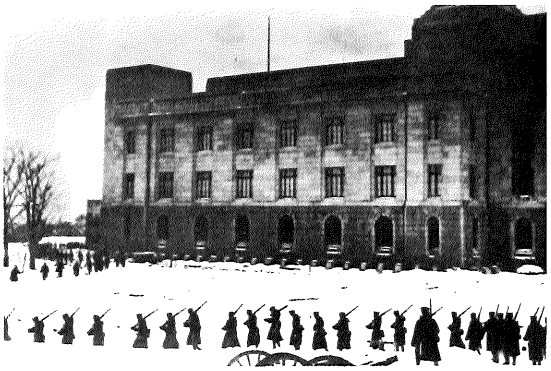
☆　創立時の校舎とそのころの通学路　　小野正人　（2回生）

ある日私は母に伴われて，新しき学校にゆくとて，荻窪の駅より電車にのりぬ。2駅先きの吉祥寺といえる駅にて降り，山桜の巨木ある広場をぬけてゆけば，やがて道端の小店は，何とのう土産もの売る風情にて薄の穂つかねたる梟とか，松ぼっくり集めたる狸とか，面白きもの下げつらぬ。老杉つらなる坂を下れば漣波樹間に陰顕して，清冽なる池塘ひろがる。径はそのほとりをめぐりて，曲折してまた朱塗りの弁財天がやしろをみる。

巨魚藻にたわむれて，春水ながるるが如く停るがごとし。坂をのぼれば，一寺ありて，蛇にまとわれし石像あり，参道には大久保彦左のゆかりの桜なんど，江戸覇府に縁ある史蹟多く，やがて朽ちたる黒門を出ずれば，野道斜めに交叉して，一路南を指す。それをたどりてゆくに，板橋商店なる小店あり。その裏なる麦畑の中に，ささやかなる校舎建立中にて，私は母とともにそが建物に入りぬ。そは学校というには，あまりに小さかりき。二つの教室はほぼできあがりたれど，床のすき間よりは，麦の穂さし出で，半分張りしトタンの隙間よりは，光り射しこみぬ。その二つの教室を衝立もて三つに仕切りて，1，2，3年の生徒，おのおの劃拠す。〈以下省略〉

☆　明星ってすごい学校　　原　洋子　（18回生）

……(前略)照井先生の受持ちで楽しい明星生活を送っていた4年生の12月8日，日本は太平洋戦争に



2・26事件
議事堂をとりまく軍隊
（昭和10年2月26日）
（講談社「日本百年の記録」から）

はいりました。空襲が激しくなりたくさんの友達が次々と疎開し明星を離れていきました。私も6年生になってすぐ群馬県の鬼石という所（叔父の家）へ行きました。ところが田舎へ行っても体力的にもちっとも劣らぬばかりか，むしろすぐれていました。

田舎の学校の先生は「東京から来た子にはこれは無理だろうからやらんでもいいよ」といっては竹登りや木のぼり等をさせましたがむしろ東京っ子の私の方がスルスルとみごとに登れて先生をアッと驚かせました。「明星ってすごい学校だね」と田舎の先生は全く敬服していたようです。

1年で疎開先から明星に戻って来ました。女学校の校舎が軍需工場になっていたため特別教室を使っての授業でした。〈以下省略〉

☆　照井先生の算数教育　　河角　誠　（23回生）

私の受持は照井猪一郎先生であった。その算数の授業は今考えても素晴らしいものである。疎開先きの田舎の学校では1年間くらい授業が遅れていたが，明星では1年くらい先に進んでいたので，その2年間のギャップのため劣等生になってしまった。照井先生は心配されて私と同様疎開のため遅れていた従兄弟の大島誠之助君を先生の一番近い机に座らせてくださった。時折まだ追いつけないのかと心配気な顔でじっと見つめてくださった。

先生の授業は生徒に教え込み暗記を強いるというのではなく，生徒自身に発見させるという方法をとられた。そして実に生き生きしていた。例えば分数の加法は教授され，減法は自分で工夫するよう仕向けられた。円周率の勉強をする時（これは本来ならずっと上級生の課程であるが）茶筒の円周はどうやって計るか，という問題を出された。糸をまきつけるという答がでたが，先生は糸はのびるから，平らな板の上にころがして計ればいいと楽しそうに笑いながら話してくださった。このように実に具体的で鮮明であった。それから円の面積を三角に分割して計算することもやったように思う。これは積分そのものの考え方である。また照井先生の指導による上級生は測量して校庭の地図を作ったり，講堂の脇の高い樫の木の高さを測ったりしていたようだった。

先生の授業態度は実に明るくカラリとしていた。おしゃべりや脇見をしている子がいると，チビた白墨がとんで来た。しかし叱られた理由がはっきりしているので，子供たちに影を残さなかった。

父が先生の授業を参観に来て（他に参観者はいなかったと思う）そのすばらしさに感嘆して帰ってきた。後々まで深い敬意を抱いていた。（父はかなり高度な数学を自分の専門の道具として用い地震学で東大の教授となった。）先生が3年で受持をやめられるまで，おそらく6年の過程まで済ましてしまったのではないかと思う。

このように教育における先生の役割の大きさには驚くばかりである。おそらく優れた先生に教授され

れば，高校の段階で大学の教育課程の数学まで楽に終了することができるのではないだろうか。〈以下省略〉

(2) 女　学　部

園長の部屋　職員室につづく先生のお部屋は,8畳くらいの広さでなかったろうか。陽光の当らない粗末な室だった。職員室との境の壁に向けて先生のお席があり,お客様があれば主にここでお会いになった。割烹室との境の壁に書棚が設けてあって,女学部の図書の一部が納められていた。生徒は自由に出入りさせていただいて借出していた。第3回生はたった8人だったので，教室の新築の時だかに一時ここを教室に使ったこともあった。その後，入口に近くベッドが1台はいった。これはほかに休養室を設ける余地がなかったからである。ベッドは父兄からの寄付の品であった。ふとんは布団地と綿を買入れて，5年生が渋谷先生に教わって作った。人絹だったが女学部にふさわしい明るい柄だった。このベッドが用意されるまでは，病人が出ると小学部の小使室に寝させてもらった。すべてがギリギリ一杯ながら間に合っていて,誰も不平を抱かなかったこの頃のことを,現在の生徒たちには想像できるだろうか。（旧女学部教諭・青木ふみ記）

赤井先生の修身　私が明星の一員にしていただいた頃の,鮮やかな思い出が一つある。当時の3年生がある日,「風と共に去りぬ」の作中人物について,頻りに意見をたたかわせていた。聞いているうちに，それは赤井先生の修身の時間の準備であることがわかった。先生は内外の名作やその週の新聞記事などを，活きた教材になさって，教えるよりは自分で考えるように仕向けてくださったのだった。その時の3年生で，若くして世を去った武田冬子さんがいった。「修身の時間が楽しみだというと,よその人は妙な顔をするけれど,本当なんですもの。赤井先生の修身は日本一よ。」（青木ふみ記）

朝礼　週1回,月曜日だったろうか,それに雨でラジオ体操のできない日は，理科室に集ってレコードを聴くのをその日の朝礼とした。吉田先生が吟味して集めてくださったレコード，器楽あり，声楽あり，あるいは管絃楽，朝聴く音楽は深く心に沁みた。赤井先生がほんの数分間お話をつけ加えられる日もあった。他の日は，教室の前の校庭に並んでラジオ体操をした。ピアノは講堂から，当番のリーダーは芝生の向う側に立って。戦争が始まってからのように記憶するが，玉川学園から招いた若い小原トミ先生の指導で，デンマーク体操に切換えられた。初めて披露された朝は，気合のかかった肢体の動きの見事さに，見る者は息を呑む思いであった。その頃から，講堂の前に集まって，国民歌謡を2，3曲うたって1日の仕事を始める事もあった。「朝」や「海征かば」などが思い出される。（青木ふみ記）

職員会議　よその学校の職員会議といえば,よく夜までかかるなどと聞く。明星の会議は,生徒

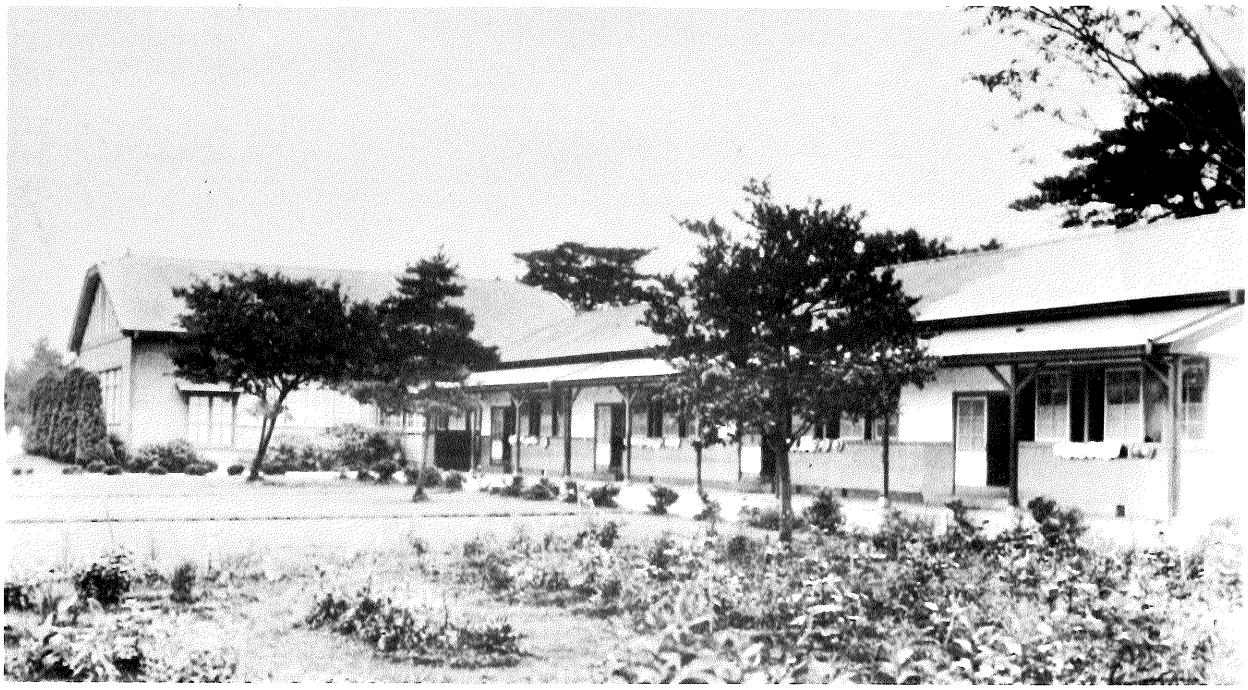
数が少ないことにもよろうが，何といっても要領のよさと和合によって特別な時間など必要としなかった。女学部生徒に関する会議は，昼食後の30分くらいの間に，1回1クラスに絞って，赤井先生がまことに明快に主宰なさってくださった。会議を重荷に感じたことは一度もない。3部合同の会議は，年にほんの1，2回，裁縫室で行われた。赤井先生から問題が提示されると種々腹蔵ない意見が出されたが，いつも照井猪一郎先生は果断派，上田八一郎先生は慎重派であった。昭和20年，疎開のための転入・転出が日に日にふえるについての打合せの時は，この先，何が起るかと，不気味さにおののきを感じないではいられなかった。（青木ふみ記）

時間割　新学年を迎える前に,必ず果さねばならない骨の折れる仕事,それは時間割の作製であった。主に吉田賢次先生が取組んでくださった。中学に雨天体操場のできるまでは,講堂を中・女・小で,また音楽室を女・小で，仲よく使わねばならなかったので，時間割の作り方は複雑であった。できあがると専任同志話し合って，週1日の自分の日直の日を定める。専任は毎日自分の授業は早く終っても6時限までは校内に止まり，その後を日直が引受けて4時半まで居残り，不時の事故などに備えるきまりであった。残っていた生徒も4時半の「下校の鐘」で必ず帰り，課外がそれ以後まで長びく場合は課外の先生に監督をお願いすることにした。因みに学校で起った生徒の病気や怪我に関しては,保護者に引きつぐまでの医療費等他の経費を学校の負担とした。

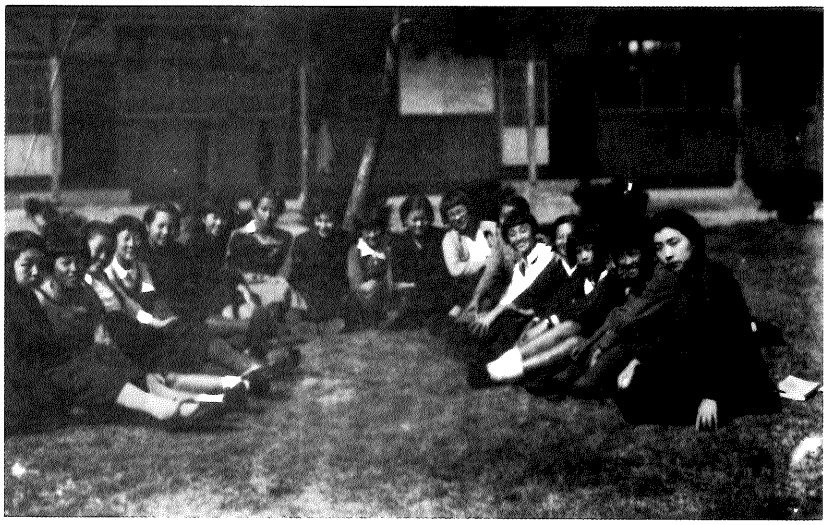
職員室　狭くてあまり明るくない女学部の職員室,入口をはいるととっつきに冬はダルマストーブがおかれ，その右少し奥に円卓があった。このどちらかを囲んでよく雑談がはずんだ。1時限すんでこの室へ帰って来ると，お茶が出ていた。

雑談の中心は赤井先生と杉山清先生で，聴くに値するニュースを実に豊富に運んできてくださるので，私どもは大いに啓発された。太平洋戦争については一同始めから悲観的だった。

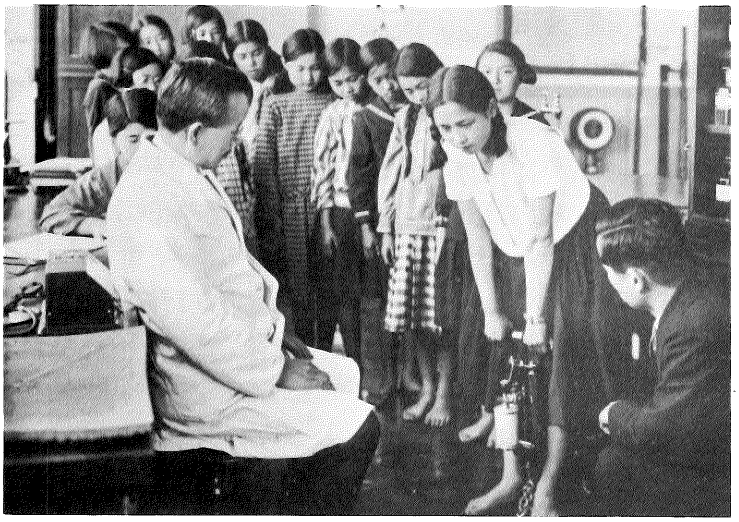
後に早稲田大学の教授になられて，惜しくも早逝された杉山先生のいつも明るい大きいお声がひびいていた。後に広島大学教授になられて学士院賞をお受けになった金子金次郎先生の若き日のお姿もあり，2度3度応召なさって終戦後は明星にお帰りいただけなかった越智忠良先生の静かなお顔もあった。何時も重厚な安部先生,絶えず生徒のためプリント作りにお忙しそうだった吉田先生,若き日の船山博彦先生や「ドンチャン」こと末綱卓一先生の「センセイ　センセイ」の掛声と駆け込み。ご自分のお仕事に没入していらした多湖実輝先生のいつも迷いのないお顔。岩瀬富士雄先生ご出講の日には，生徒の持込む画で室内が明るくなった。卒業式の前後には，その年の卒業生が押しかけて，ストーブを完全にわれわれから取りあげて華々しくおしゃべりしたものだ。平素も遠慮なく職員室に出入りしたが，この時期の賑わいはまた格別であった。（青木ふみ記）



女学部　講堂と普通教室，前庭は芝生と花壇(昭和９年)



➡
女学部前庭の芝生にて
佐々木先生と５回生(昭和11年)



⬅
女学部体力テスト
東京府立体力研究所にて，２回生(昭和６年)



女学部の割烹室

全員の昼食の用意をする1回生(昭和6年)



ラグビー

女学部4回生，板橋さんの原っぱにて（昭和10年）



昼食風景

女学部の裁縫室で週3回，学年交替で料理の授業があり，全学の昼食を作る。先生が献立の指示をされ，前日に生徒たちの手で買出しその他の準備をする。そして席上本日の1人分13銭を報告する。(昭和8年)

連日職員会議　職員室の両壁に向い机を並べた先生たち。赤井先生が園長で校長を兼ねられ，赤井先生の部屋は隣の本棚の並んでいる小さい部屋。就任して間もない頃そこへ呼ばれて遅刻を注意されたこともあった。お昼の弁当は職員室の円テーブルをかこんで——それで自然連日職員会，これが若い僕にはどうにも息がつまった。何しろ女学校だから女の先生が多い。青木先生(英語),佐佐木先生(理数)，渋谷先生(裁縫)，横山先生(家事)，男は吉田先生(教頭),と安部先生(地理)それ以外は兼任で岩瀬先生(美術),杉山先生，多湖先生が時々見えたくらい，毎日顔を合わせる先生の半数は女性であった。

(「星雲時代」VOL Ⅶ No. 8 から・船山博彦記)

☆　赤井先生の修身教育　　飯野祐子　(7回生)

園長先生担当の修身は,特殊性があった。自分を語ると題して書いて出すようにいわれたことがある。「論文を書くんだ。大したもんだよ」と先生は笑っていわれた。その頃論文は大学生の領分と考えていた。

暫くしてから園長室——といってもレコードの置いてある何時も馴みの小さな部屋に1人呼ばれた。机の上に例の私たちの論文がある。皆一生懸命書いたとみえて嵩があった。お話をしているうちに先生のおっしゃる意味がほのぼのと分ってきた。自分はこんなにも小さく取るにたらない人間，こんな悪い所もあると心を見詰めて，一体それが誰のために何になる。冗談をいって人を笑わせる。反対に人から笑われたって構やしない。「私だってこの年になって，まだ人から笑われたり怒られたりしている」と先生はいわれる。「どうも赤井はしようがない。なんていわれているんだよ」と声高らかに笑われた。17ばかりの子が何や，勇気を持て……。

その頃は通称「ルイスケ」という人と並んでいた。論文の内容は知らないが批評を聞かせてもらった。「それがあなたの成長の過程なのだ。あなたは今それを乗り切って行くところだ」と。やっぱり「ルイスケ」は悩みも健全な人だな。この子はまずこれで良しと先生を安心させ，それだけで立派なものだと私は感心した。最後の1人を忘れないという明星の先生方の方針は弱虫の私だけに感知していた。どんなに立ち遅れてしまった子でも最後まで見届けてくださる。そのために明星の先生方は全員協力してお働きになる。学園の雰囲気たるあの張りのある活気と，またあの懐かしい詩のようなのどけさの源はそこにあったかとも思われる。〈以下省略〉

☆　“明星っ子„ の1人に育って　　末光三和子　(3回生)

当時の有名校が，できの悪い子供にとって牢屋にも等しい環境であった事に両親が気づいてくれたのは，私がもう小学校を卒業する間ぎわであった。私は硬苦しい制服を脱ぎ捨てて，都会の冷めたい学校から，武蔵野にある明星に転校して来た。そんな私を迎えてくれたのは，はちきれそうに自由の中に遊

んでいる子供たちの笑顔だった。その日から私を遊びに誘い，自分の大切な教材を貸してくれた見知らぬ友だち。新入生の私を姓名ではなく，名前で呼んでくださった受持ちの先生，教員室と聞くだけで，ぞっとしていた先生の集り場所に，ドカドカと平気ではいり，先生のひざに坐る子供たちの様子に私がどんなにおどろき，胸の痛くなるような，解放感と自由のよろこびを感じたか，今なおはっきりと記憶している。

花を植え，草をむしり，蝶を追いかけて，思い切り走りまわれる幸が私の凍った魂を次第に溶けさせていった。私も笑うようになった。私もしゃべるようになった。人を信じる事，人を愛する事も知った。そんな私も，何時のまにか，「明星っ子」の1人に育ってそのまま女学校に進学することをゆるされた。その時の私たちのクラスは全員で8人。広い教室に並んだたった四つの机，まるで個人教授である。この席でおしゃべりをし，新任の先生のネクタイの批評をする。〈以下省略〉

☆ Young peaple Under Stood the Young Peaple　　仲村松枝　（7回生）

……(前略)これはどこかの国の偉い人の演説の一片でも何でもない。

あれは私がまだ明星学園高等女学校の4年か5年の時であったろうか。その頃NHK放送局に，海外放送というのがあった。海外在留の邦人向けの放送があって，一般の国内放送の電波では流してない放送があった。どういうわけかその放送に明星学園が出ることになって，これもどういうわけかその放送の中で私が英語の一文を読むことになった。原文は赤井先生とNHKの両者で原稿を起されたように思うがその記憶は定かでない。内容も今は全く忘れてしまった。ただ覚えているのはNHKから車が迎えに来て，愛宕山にあったその頃の同局のスタジオへ連れて行かれた事と，先にあげた一文の外，断片的な言葉だけである。その時上ってしまったのか私のできは決して上手ではなかった。〈以下省略〉

（これは小学部の児童達による放送劇で照井先生の脚本「山と海の生活」。）

(3) 中　学　部

創設のころの中学部　回顧すると，中・女創立当時の先生方は，内野先生・杉山先生ともに他界され，終戦まで一生懸命働いてくれた井上万二郎夫妻も今ではこの世にいない。ただ多湖先生だけは5年前明星を去られたが，現在日本歯科大学に勤めておられる。故内野先生・杉山先生・井上夫妻は，学園にも僕にも思い出の多い人々であるが，その思い出はここで中々書けない部分が多い。当り触りが多いからである。書けば中・女の裏面史として興味深いものがあると思うが，結局一生筆にできないであろう。昭和3年，最初の中・女第1学年の学科担任は次のようであったと思う。

中・校長・修身	赤井　米吉	女・校長・修身	赤井　米吉
主任・英語・国語・作文・体操	上田八一郎	英語	寺田すすむ
理科（動物・植物）	多湖　実輝	理科	多湖　実輝
数学	岡　　邦雄	数学	岡　　邦雄
地理	山下　重輔	歴史	山下　重輔
音楽	吉原　　規	音楽	吉原　　規
歴史	照井猪一郎	美術	松岡　正雄
美術	松岡　正雄	体操	垂水　繁光
体操	垂水　繁光	裁縫	菱田　　秀
校医	井草　完二		

僕自身のことについては多少覚えているが，1週間3日間は「上田デー」と呼んで，僕だけが朝から晩まで学校にいて，主任の仕事，中・女の会計事務，英語・国語・作文・体操の一部も受持った。国語はメーテルリンクの「青い鳥」を愉快に教えたことを記憶している。作文も書かせたし，面白かった。現在の父兄である梅田豊彦君など同志を集め文集を数種類作ったが，それはどこかに残っているはずだ。30周年記念の際，その一部を展覧したが，原田先生がどこかに保存してくれていると思う。体操の一部も受持ったが，これははなはだ自信のない仕事で，生徒から「先生の号令はかけ方が変だ」と小言が出て岡崎健児に代行させたことを思い出す。花も植えたし，二十日大根も作らせた。野球もやった。庭球もやった。現在中学校舎のある処など，雨の日には運動靴など土の中にはまり込んで動きがとれなかったこともある。思い出はどこまでも続く。学校前を流れる上水（一名，人喰川）には時々水死人が浮び，そのたびごとにお巡りさんが来て引上げていた。現在玄関前にある大小さまざまの樹木は大抵照井先生が植えられ，井上万二郎が世話してきたものである。最後に昭和3年の日誌抄を載せてこの稿を終ることにする。

1月14日（土）　市衛生試験所に井戸水を運び水質検査。
1月26日（木）　中学校地ならし。
2月6日（月）　基本金目鼻つく。（茶郷氏5万円，川井氏・服部氏・尾高氏1万円）
2月22日（水）　小学校宛入学募集チラシ作成。
2月25日（土）　地鎮祭
2月27日（月）　中・女建築土台ガタメ。（セメント）
3月2日（金）　東京府より，中・女同時に出発は無理なりといい来る。
3月14日（水）　中学校前新橋架橋工事開始。
3月22日（木）　中女設立認可書類作成。（夜12時まで赤井氏宅にて）
3月27日（火）　外部よりの入試者，生方・梅田・平出・志垣呼び出し。

4月3日(火)　時事と報知に入学式・始業式。
4月9日(月)　女学校入学式・始業式。
4月10日(火)　中学校入学式・始業式。
4月20日(金)　中・女設立認可下る。　(昭和34年12月,「明星」35周年記念号から, 上田八一郎記)

軽井沢で軍事教練　中学4, 5年の時には軍事教練で寮に泊った。南軽井沢に馬越が原という所がある。そこで遭遇戦をやった。1学年20人たらず。その小隊が広っぱの両端から進軍して来て衝突戦闘開始となるわけだが, 互に相手を発見するのに苦労した。まごまごすれば遭遇しないで行違ってしまう。それでは演習にならない。その頃の配属将校は瀬川孫兵衛工兵大尉であった。われわれは彼を孫ちゃんもしくは万年大尉殿と愛称したが小生自ら後年召集を受け軍隊生活を経験し, 終戦時にはポツダム大尉にまでなってみると, 軍隊における大尉殿の存在はいかに威令が伴うものであるかを知り空恐ろしくなった。　(「星雲時代」VOL Ⅶ No. 5から, 横川尚記)

朝礼　朝吉祥寺の駅南口から出て来るのは明星の生徒ばかり。まだ階段は木造, 床の隙間から下をみるとゾーッとするくらい高い。改札口を通る時, 頭上の時計を見る。20分あれば間に合う。17分では少し急がないと駄目, 15分なら走らねばならぬ。毎日のその習慣がまだ抜けず, あの改札口を出ると上を少しふり返る。げに恐ろしきことである。公園を出て, のんき旅館の裏から原っぱを斜めにと松林の中を歩く。家がたくさん建った今日, そのような近道はできない。今の明星台の所は松林で下に熊笹が一杯生えていた。この辺で学校の鐘が聞えてくると, 抱いていた鞄を笹の中に投げ出して空身で走る。当時は毎日朝礼があった。8時始まりでも8時に鐘がなるとは限らない。敬愛する井上二次郎爺さんが手で振る鐘のひもを握って待っている。校長先生が, 他の先生方と話のつづきをしながら出てこられると勢よく鐘は鳴る。生徒が並ぶ。5年生の1番前の生徒が「気をつけっ」「礼っ」と号令をかけて朝礼が始まるのであるが, この時道路の方でバタバタ走って来る者がいると, 校長先生以下全員整列したまま待ってくれる。彼等がドタドタ走って列の後に着き, 静かになると始めて号令がかかり朝礼が始まる。校長先生が爪先立って前より2, 3人くらいの所にはいって話をされる。朝礼の体系がそのまま体操できるくらい, 距離・間隔を開けてあるし, 今のように号令台もないので生徒の中にはいって話をするようになる。爪先立つ必要はないのであるが, 生徒全体を見渡すためにそうなるらしい。終ると生徒の当番が前に出て号令をかけ体操が始まる。「足の運動っ。用意っ」というと皆手を腰にあてる。「始めっ」で各自, 自分のペースで膝を曲げる運動を4回やる。早い者も遅い者もいる。全体がやり終った頃「首の運動っ始め」で首を前後に4回曲げる。当番の中には前に出るとあがってしまって体操の順序を忘れる者もある。すると横で校



←
千人針（昭和6年）
（国文社「図説国民の歴史」から）

長先生が「次は腕じゃ」と教えてくれる。見ていると皆自分の早さで身体を動かすので他からみるとバラバラに見えるが，今の昼の体操の時に見られる糸の切れた奴凧みたいな者は少なく，皆，十分曲げたり伸ばしたりしたようだ。それが終ると校長先生が1年生から廻る。そうすると皆前を見て，居ない級友の名を告げる。整列は前後だけでなく横の関係も定まっているので休んだ者がいると，その場所が空くのですぐわかる。全校の欠席者を校長が聞いて憶えているので，現在のようなあやふやな理由で遅刻もできなくなる。朝礼が終って授業，鐘は朝と昼しかならない。それだけに生徒は職員室の方を注意している。先生が出て来ると「来た。来た。」といって教室に飛び込んで待っているといった具合。

（「星雲時代」VOL Ⅶ No. 4 から，土屋浩記）

万能選手の校長　帝都線も工事中だった。そんな時代だったので，学校のまわりには殆んど百姓家のほかには家はなく，田圃の向うに三木露風さんの一家だけだった。ですからノートとか，鉛筆類・教科書にいたるまで，小学校のそばにある板橋という酒屋さんが扱っていて，大ていは皆そこまで買いに行った。上田先生も元気で，野球でも，テニスでもされ，また，授業は第2回生が来るまでの間，数学・生物・体操・歴史以外の科目は全部先生が教えられた。専門の英語のほか，国語・習字・地理のようなものなど……。われわれが4，5年生の頃になるともっぱら審判をして，ボールファーとかボールニャーとか盛んに英語教育をされたが，初めはセカンドをされ，球が行くとあの鶏のような細い体で一生懸命球を追われた姿が思い浮ぶ。

（「星雲時代」VOL Ⅷ No. 1 から，横川武記）

学び舎　私が本学園にお世話になったのは，太平洋戦争の勃発した年の9月で，就職したわけは，学園の建学の精神と赤井先生の人柄にひかれたからである。木造平屋建の校舎が印象的で，陽光のさんさんとふりそそぐ温い雰囲気にみちみちた校舎は，学び舎という言葉にぴったりの姿でした。休み時間など1歩外へ出ると緑の芝生が一面にひろがっていて，いこいの場として絶好のところでした。

（小関尚志記）

先生おはよう　朝，家を出るとたちまち中学生に会う。さっと脱帽して「先生おはよう」という。「ございます」はいわない。公園の入口で，井の頭の橋の袂で，通学路上の坂道で，また「先生おはよう。」それは当初は「ございます」の付かないのに妙な気持がしたらしいが，暫くたつうちに生徒のへだてをおかない心にすっかりとり残されて，「先生おはよう！　いいね，この方がいいね，かわいいね」と心底からいうようになって私を嬉しがらせた。その間に戦況は次第に末期症状を見せ始め，中学生も何人か出征した。ある日，涙を溜めて帰って来た。「○○はいつも大したできでないのに，初めて満点を取ったから，よう，できたね，とほめてやったら，友だちが，こいつ，戦争に行



➡
もんぺ姿
戦時下・全日本女性の制服のようになった
（国文社「図説国民の歴史」から）

く前に一度満点を取りたいって，猛勉強したんです，っていったんだよ。」「□□がはなむけに何か書いてくれというから，『虎』と書いてやった。なぜ虎ですかときくから，虎は千里行って千里帰って来るんだよと教えてやった。ほんとに辛いなあ。」とつくづく戦争をのろっていた。「先生おはよう」のかわいい幾人かが，遂に戦野に散ってしまった。5年前にあの世に旅立った青木は，今はその人たちとあの世で再び交わりながら，すっかり成人されたこちらの「先生おはよう」の皆さんのご多祥を祈っていることを信じます。　（青木茂則にかわって青木ふみ記）

☆　上田先生と赤井先生　　伊東ユキ　（8回生）

……(前略)そのころは女学部の講堂には体操の設備がなかったので屋内体操の場合は中学部の体育館に出かけたのであるが，寒い時などブルマー姿で行くと寒いので中学の職員室にはいり込み，先生が遅れたりすると，そのまま居座ったりしたものであった。そんなある日，上田先生が洋傘を一生懸命直しておられたことがあった。私は先生の傘かと思ったが，くの字に曲っているので伺って見たところ，これは男の子同志が喧嘩して曲げてしまい曲げられた方が泣いているので何とかならんかと直しているとのこと，なるほど外に1年生くらいのがショボくれて立っていた。中学生に慕われた上田先生の一面でもあった。〈以下省略〉

＊　　＊

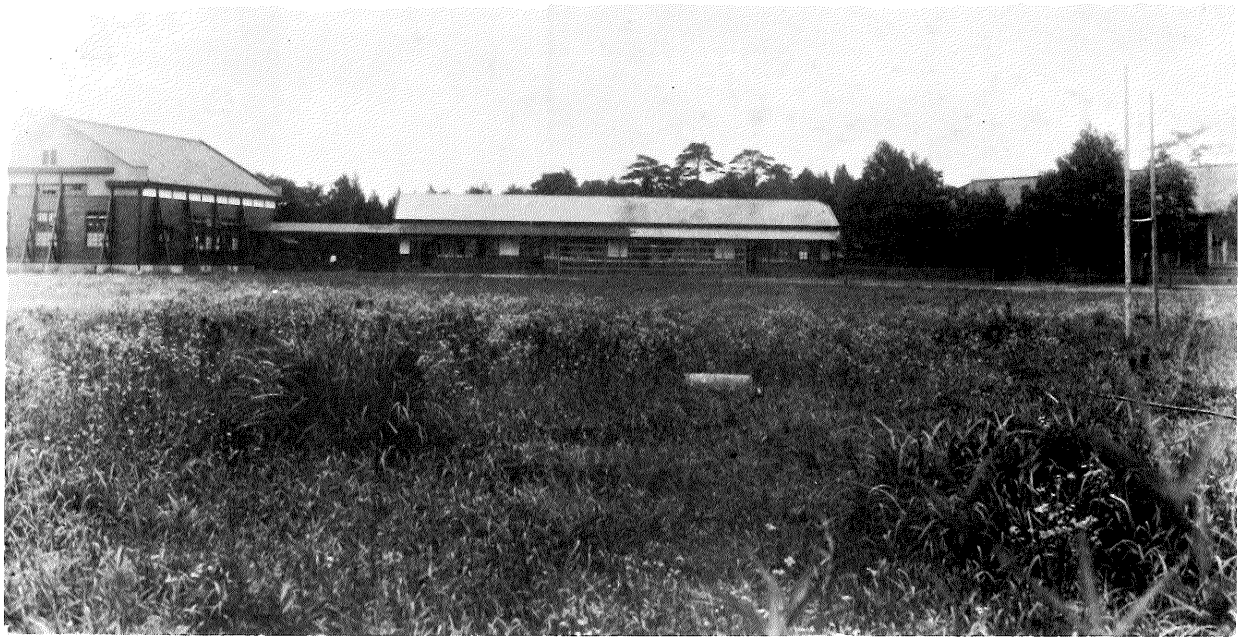
……(前略)私は駒込から通学した。駒込駅は踏切を渡らなければならないのであるが隣りの田端から62，3両もの貨車がいともノンビリとゴットンゴットン通過する間に電車が3台通過してしまうので毎日家から走って行くのだが踏切の手前の坂道に差しかかるとポッポッポッと煙が見えてくる。2カ月もすると踏切の小父さんが遮断機を押えて早く早くと待ってくれるようになった。現在そんなことをしたら大変である。しかしそれでもなお最高1カ月26日通学日数の中18日も遅刻をした時があった。

ある日赤井先生に園長室に呼ばれ「遠いのは判るがの，努力せにゃならん」とお説教されてしまった。〈以下省略〉

☆　大地に打ち込まれた一本の杭　　塚田勝俊　（24回生）

……(前略)僕にとって一番大事な心象風景はあの武蔵野だ。どんどん山や御殿山や，井の頭のお茶の水だ。そして自分の12年間を独占してしまった明星での先生方や友人たちだ。それは僕のふるさとそのものだ。

昭和20年に小学校1年生だったわれわれ。日本の近代の中でも，最大の混乱期にあって，僕らをやわらかくつつんでくれた，あの小さな学舎，先生方。何を知識として学んだか，そんなことではなく，もっと大きなものがヒタヒタと心に伝わってくる。

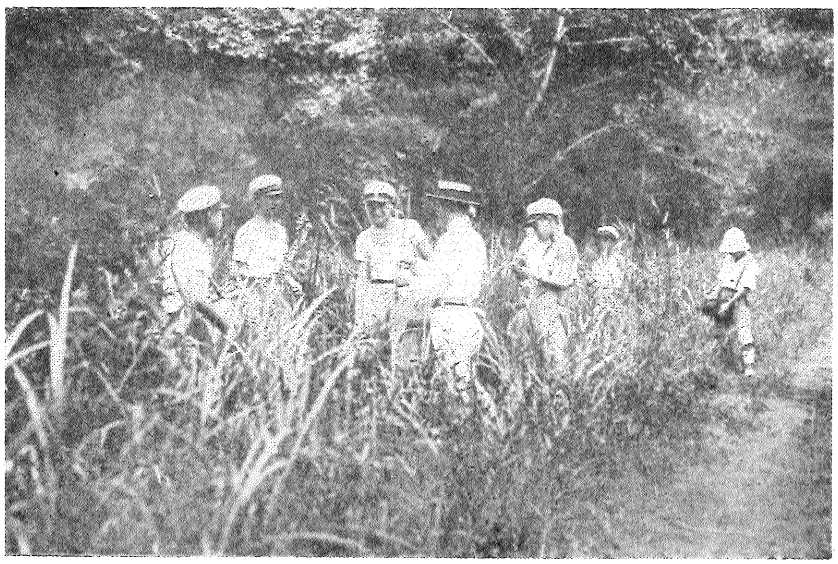


⬆ **中学部の全景**（昭和10年）



➡ **中学部**

剣道・今福義治指導
（昭和10年）



⬅ **中学部**

学園のまわりは，野鳥・昆虫・植物の生態観察場であった。指導多湖実輝　（昭和9年）



➡
中学部
富士山麓での軍事訓練
（4，5年生）
（昭和13年）



⬅
中学部
ラグビーチーム（3，4回生）
（昭和9年）



➡
中学部
水泳・勝山海岸
（5，6，7回生）
（昭和10年）

……(中略)思えば上田八一郎先生も赤井米吉先生も広島の高等師範の出身であられた。白く光る土の上で青春を過ごされた先生方が，あの照井先生らとともに，黒い土が柔らかく匂う武蔵野の一角に立った時の感動，不安を伴う緊張を一種の羨望の思いで想像する。雑木林に囲まれた大地に打ち込まれた一本の杭。それには“明星学園建設用地„とでも記されていただろうか。

「水も空気も日光も，東京あたりで一番良い条件だった」と聞かされていたことも思い出す。およそ半世紀前の青年教師たちの感動と努力。そしてその後,営々とつづけられている苦闘。私学の苦しみは，今でも深まる一方だ。しかしおそらく官公立の学校の創立にはこのような感動は味わえないだろうと，そして，このような感動から出発しない教育には到底，信頼がおけないように思う。<以下省略>

6　財団法人明星学園

小学校は個人立が認められていたので赤井米吉が設立者となっていた。中学校・高等女学校は財団法人でなければ許可されず，各種学校としていかねばならなかった。すると卒業しても上級学校を受験するには認定検査を受けなければならない。だから自由学園や文化学院の生徒で上級学校へはいる希望をもったものは3年ころに明星へよく転校してきた。戸坂嵐子（文化），近藤暾（自由）などはそうである。

財団法人は基本金最低（中）は5万円,（女）は3万円もたなければならなかった。その利子で校費の1割を法人が負担することが建前で，明星は両校で11万円積んで見せなければならなかった。それを内藤正太郎7万円（茶郷さんの知人，北海道炭鉱の株），尾高豊作2万円，川井源八1万円，服部春一1万円をそれぞれ出してもらい認可を得た。それで最初理事長赤井米吉，理事内藤正太郎・岡崎栄松であった。後，内藤の代わりに市村今朝蔵が就任した。基本金は設立認可の時必要なものなので，認可がおりると返したが，中・女学校は東京府の補助金があって年1度会計検査にきた。その時はまたこれらの人々や他の人から借りてきて見せ，検査がすむとすぐに返した。

金沢の木谷吉次郎がこの基金として特別指定で1万6,000円住友銀行の預金をそのまま明星学園の名義にして，検査の折だけ借りなくてもよいことにしてくれた。これが終戦の時までに3万5,000円ほどになっていたのが，封鎖されたのを解いてもらって，戦後の再建の資にした。評議員には出入があったが照井猪一郎・上田八一郎・新諦五郎・柳井貴一・神田五雄・山根篤・松平慶猷・小川碇一・江川金吾・佐々木宗勝・二村鐘などが名をつらねた。年1回予算・決算のときに集るだけだった。小学校は赤井の個人立であったがこの会に予算・決算を一緒にかけられた。　（赤井米吉記）



山之内鈴衛（昭和16年9月2日亡）

7　明星学園母の会（昭和２年２月――昭和26年６月）

(1)　母の会のあゆみ

明星学園の誕生とともに「明星学園母の会」が生まれた。それは建学の理想と同根から芽生えたものだけに学園教育の歩みとともに，苦しみ，また愛してきたのであった。だから明星は子どもも親も教師もともに学びともに行ずる教育の道場であった。

昭和２年１月，母の会結成――父兄会でもなく，後援会でもなく，お母さんたちの自主的な会で，今日のＰＴＡのようなものであった。学園に援助もするが，自分たちの文化活動をするのが主目的であった。

山之内兵十郎夫人の鈴衛と，石山喜世・加藤留子・川井竹子・木村雪子・浜村あさ・服部たけが中心になって次第にグループが拡大された。そのころアメリカのＰＴＡのはしりをみてきた人が，明星の「母の会」を，それよりもよいといったのは単なるお世辞ではなかったようだ。

この「母の会」が，父親を動かして後援会をつくらせたのは昭和２年の２月であった。

「母の会」の一つの仕事にバザーがあった。昭和６年５月17日に７周年記念事業として「母の会」主催バザーで，純利益600円を得た。この時の催しに応援として次の学校劇が公開されている。

「お地蔵様は知っているか」（１，２，３年）

「退屈な王様」（５年）

「つぼは誰のもの」（６年）

それから20年，戦争が始まり，そして終って戦後，漠然と時代のバスに乗りおくれまいとする便乗根性，あるいは甲斐なき面子（メンツ）を守る欲望の中で，貰い物のＰＴＡが全国一斉に出発した。「両親・教師の会」すなわち，ＰＴＡは当時の占領軍の指示で，アメリカから輸入されたのであるが，明星はどうであったかというと，戦前の「母の会」は戦争でその機能が中断し，26年６月に「明星学園後援会」ならびに「明星学園母姉の会」というものが結成されて「明星学園母の会」は解消した。

(2)　創設期のころの母の会

児童の教養に母の力の大きなものであることは今さらいうまでもない。したがって学園の仕事にも私たちはできるだけ母の共働を求め，これを学園の教師の１人とみなそうと考えた。それは単に

児童1個人の問題に対して教師と母とが十分に連絡しようとしただけではない。母親たち相互の間の理解と同情と共働をも望んだのである。1村1校のところ，祖先代々その村で暮しているところでは学校によらなくとも父母は互いに知り，また互いの児童を知っている。しかし私たちの学園のように寄り集ったところでは，特別に学園を中心としてお母さんたちが集って来なければ互いに知りようもない。30人のお母さんたちが皆30人の子どもを持ったつもりでと希ったのはそのためであった。創立の初期，まだ学園の教室にあまりのあった頃，その一つを「母の部屋」としておいたのもそのためであった。

教室と母との連絡だけならばお母さん１人１人学園へ来てもよければ，教師が家庭訪問をしてもすむ。しかし横の連絡のためには「母の会」を開いて，時々一緒に集まる必要がある。こうして学期学期の母の集り，時折の母のための講演会等，随分頻繁に母の会合を催してきた。お母さん方もその意味を諒解してよく学園に来てくださった。大正14年の夏，15年の夏，有志の児童をつれて神奈川県三戸の海岸で10日の生活をした時の如きは，つきそいのお母さん方によって炊事の方は悉く引受けてくださった。ことに15年の夏行った時には１児童は猛烈な疫痢にかかって，一時は危篤の状態にまでも陥ったが，つきそいのお母さん方がわが子のように看護してくださったのは，ほんとうにうれしいことであった。

こうして１年，２年と年を重ねるうちに学級学級でお母さん方の交りが密になり，やがて他の学級との間にも交りが加わり，ついに昭和２年の１月には，母の会として形の備ったものがお母さん方の間に生れてきた。それは互いの親睦と修養と学園の手助けを目的とし，年１円の会費で講演会の開催，盆暮におじさん・おばさんへの心づけなどを事業とする。さらに有志の人々は自分の小遣を節約して学園と教師の危急の場合のためにと醵金してくださった。それはただ今までにおよそ２千円になっている。苦しい学園の生い立ちを助けはぐくんだのは，やはりこうした母なる人々の心からの同情であった。児童の教育そのものにおいて，学園の対社会の問題において私たちがしばしば失望の淵に沈淪したとき私たちを慰め，励まして学園をここまで押して来たものは私たちのお母さん方であったことを忘れてはならない。

（赤井米吉記）

8　創立同人

(1)　赤井米吉

赤井米吉は，明星学園創設に対して，どのような期待と願いをもっていたのか――



赤井米吉　赤井園長と女学部4，5年生，朝日新聞社見学，引率吉田賢二(昭和7年)

大正期の教育改革の中心的実験校成城学園で，大正11年に幹事となり，主事の小原国芳とともに活躍したが，間もなく小原とならびたたずということになって別れた。このころ赤井米吉が日本の教育界で注目され著名になったのは，アメリカのH・パーカストの創案になるダルトン・プランという自由進度学習の紹介者としてであった。その赤井米吉が創設した明星学園においては，ダルトン・プランの限界を批判的にのりこえようとしていた。それは教育の方法と教育の内容とを結びつけて研究することによってきりひらこうとするものであった。明星学園が創設された翌年，大正14年の秋，新教育研究会で国定教科書とダルトン・プランについて次のように述べている。

「国定教科書の範囲で果してどれだけ行われるものでしょうか。もともと，国定教科書は今日いわれているような意味の児童そのものの生活を指導していくという考えで作られているものではありません。一日も早く大人の生活を修得せしめよう，記憶せしめよう，授けようとしてできているのですから，それを用いながら自学自習も生活指導もあったものではないと思います。ダルトン案の如きは，教科課程はどうでもよい。それを習得する方法を考究したのだといっています。それはダルトン案そのもののためには強味であるかもしれませんが，児童教育の方案としては大きな欠点であろうと思います。われわれが教育の諸問題を現実に考えることになると，どうしても教材を研究せざるをえないと思います。そこまで具体的にならなければ，新教育も結局頭の内だけのことで終ると思います。」

万人労働の教育　中野光教授は大正自由教育の退潮期に自由教育の成果に立脚しながらもそれをのりこえようとして，新たな思想的基盤をどこに求めたか，ということが私たちの関心の的になります。そうしたとき，赤井先生が次のように述べていることが注目されます。

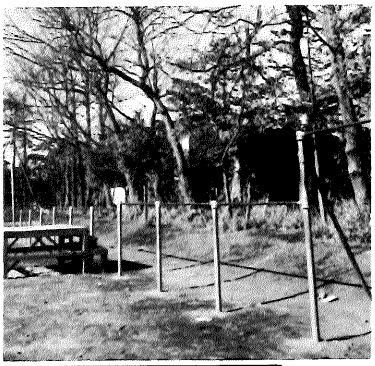
「社会の前途を考えても私はこのままで進むものだとは考えられません。すなわち，遊惰階級と勤労階級，消費階級と生産階級が，分離対立していくような社会相は遠からず非常な混乱をひき起すにちがいないと思います。しかしその時に苦しめられるのはこれまで特権を誇っていた階級でしいたげられていた人たちではないと思います。こんなようなことから，私は自分が教育している比較的富裕な家庭の児童を見ると先きが心配になってならないのです。これが直接私をして労働教育の問題を考えさせた原因の一つです。将来の道徳教育の課題は公正ということであろうと思います。あるものは働き，しかも十分に酬いられず，あるものは遊び，しかも限りなく与えられる，ということは公正の理にもとることです。すべての人が自営自活しなければなりません。人々がその天分に従

って各々自らの能とするところに向うのはよろしい。しかし，その間に上下・貴賤の別はつけられないものです。いわんや人を己が生活の具とすることは許されないのです。この公正の理念が十分に発見されなければならないと思います。そしてこれを実際生活に行ったものは万人労働ということであろうと思います。したがって，将来の教育においては，労働がもっともっと重んぜられ，そこで生産に関する教育を行うとともに，体験による道徳教育，公正の教育が行われなければならないと思います。」

ここには社会の歴史的発展動向に対する赤井の鋭い洞察がありますし，社会主義につながる教育のあり方が，「万人労働の教育」ということばで示唆されています。社会変革の展望と労働の教育の必要性を結びつける論理は，ルソーの「エミール」にももりこまれていますが，赤井もルソーの思想的影響をうけていたと思われます。しかし，こうした洞察や展望のもとで教育の実践をすすめていくことは，明星の教師たちにとって容易なことではありませんでした。歴史の発展をささえ，かつになう階級的主体，つまり，ひたいに汗して働く人たちから，へだたったところでの構想を具体化していくための条件が著しく欠けていたのですから。（「小四・教育技術」，昭和46年4月号）

「風と共に去りぬ」の紹介　日本の新教育が一時に花開いたのは大正の中期で，「教育学術界」の尼子止水君が，「八大教育思潮」講演会を主催した大正10年ごろがその頂点であった。赤井君は大正11年に秋田から出てきて，成城学園の幹事となり，小原国芳君の相談相手となってその教育に参画したが，間もなく小原君と別れ，自ら明星学園を創設した。大正13年5月のことである。

それはちょうど私たちが「池袋児童の村小学校」を創設したのと1月違いであった。そのころから，小原・赤井・志垣は鼎立する同志であり，またライバルでもあった。しかし始めに志垣去り，赤井また戦後明星を離れること5カ年，小原ひとり今日の大をなしている。そのころの日本教育界は群雄乱立，百花斉放，志垣の児童の村小学校を最左翼（赤の意味ではない）として，理論に実際に，まことに目ざましく，溌剌たるものがあった。木下竹次の奈良女高師付属小における学習法，及川平治の明石師範付小における分団式教授，手塚岸衛の千葉師範付小における自由教育などのように官公立の学校においてさえ，思いきった革新が断行されたものである。だからそのころ群起した私立学校では，私たちの児童の村小学校を始めとして，途方もない主張や実践を行ったものも少なくなかった。それらの中にあって，赤井君はいつも中正な立場をとった。もっとも急進的であった私は，いささか生ぬるいという感じをもつものであったが，その根深い宗教的信念の強さと，高く広い世界的視野にたつ識見には，教えられることが多かった。あれから半世紀，数ある教育論の外にも，赤井君には文明批評や芸術作品などについても，すばらしい述作があり，私にとってはもっとも好



このくぬぎ，ならの木立の向う側に現在の中学校校舎が建てられた。（昭和18年）

い道案内者であった。その中でも永く忘れられないのは，いち早く「風と共に去りぬ」を紹介してくれたことや，ラッセルの「原子時代に住みて」を訳出したことなどである。およそそのようなことを念頭において，赤井君の論文を読むと，改めて君の豊かな思想と真摯な教育観に心打たれることが多い。

（赤井米吉著・愛と理性の教育の解説「志垣寛」から）

公職追放　1936年英国ロンドンの郊外チルテナムで開催された第7回世界新教育会議に出席し，つづいて欧米諸国の教育を視察する。欧米視察を転機として急速にナショナリズムの立場をとり，1940年にはついに自由主義との訣別を主張する。時代の流れに傍観的態度はとらなかった。大政翼賛会傘下の大日本教育会（帝国教育会の改称）教学動員の副部長となる。明星学園の卒業生も続々と戦線に立った。教え子が出陣した時，「これの身は父母の身ぞ父もともない母もともない気負いゆくべし」とよんで見送っている。実母を空襲のため防空壕の中で失う。「80年1日安らうこともなく母逝きましぬ敵機のにえと」戦争に積極的に協力しただけに戦後においての打撃は大きく公職追放となる。

1945年の秋，前田文相から連合軍総司令部顧問として教育再建を要請された。それはかつて大正期から昭和初期の間，新教育運動・郷土教育運動において輝かしい足跡が，戦後教育の発展に寄与する歴史的意義と遺産継承の点に注目されたことであった。しかし，1946（昭和21）年11月4日次の判定理由書の内容による教育追放令によっていっさいの教職から退くことになった。「戦時中，時局に迎合して著書『新世界観と教育』等に於て所謂，日本的世界観に基く教育を強調し，全体主義的教育理論を鼓吹した。共同省令別表第1，第1項第6号後段の規定に該当。教育職員適格審査委員長　山崎匡輔」あえて異議をとなえず教職を去った。

後年，この時の事情を次のように述べている。「私は戦前にしばしば警視庁の特高刑事のお見舞をうけた。岡・三木・戸坂といった左翼学者が訪ねてきたからであろう。満州旅行をした時には，大連の水上署は私の乗船をとめようとしたし，欧米旅行から帰った時には横浜の水上署が私の下船をとめた。私は何かあやしいものだったらしい。ところが，戦争がすむと『超国家主義者』ということになって『追放』を命ぜられた。追放後のアーロウッド少佐は私の助命運動をするといったが，私は辞退した。私はたしかに追放令にひっかかるような行動をしているのだから，多少の知りあいの故をもって助命されるべきものでないと思った。あまたの教え子が“先生いってきます„“よし，やってこい。万歳„と送り出し，その中の28人もが帰ってこないのに，“わたしは平和主義でありました„ということはできない」追放満5カ年間は，もっぱら著述に専念，7冊の単行本を著わした。

「男女共学の諸問題」（文耀社）
「現代教育問題辞典」（新生教育研究所）

「子どもへの理解」(学芸図書出版)
「知能検査の意義と方法」(理科教育振興会)
「ガイダンス」(河出書房)
「精神衛生」(学芸図書出版)
「ウォッシュバーン著・『生きた教育哲学』(訳)(春秋社)

(「教委研究」1961年3月号から)

年譜を追って

赤井米吉は明治20年6月1日金沢市に生まれた。生家山本，後年赤井家をつぐ。少年期にキリスト教，日曜学校に通い，15歳の折，洗礼を受け今日まで教会に通う。36年石川師範入学。師範在学中，内村鑑三・島崎藤村に書を送る。藤村からは懇切な返事をもらい文学に志す。卒業後，1カ年小学校に奉職，41年広島高師に入学，42年小原国芳（当時鯵坂）広島予科に入学，相識り生涯の友となる。43年夏休みに山口県秋吉に本間俊平を訪れ1カ月滞在して労働と信仰の鍛練と教えをうく。45年卒業。

愛媛師範・福井県小浜水産・同武生中学・秋田師範付属小学校（主事）に奉職。この間10年，教育・哲学・宗教の研究と思索を重ねスポルジョン説教集・パッカム「神秘主義と現代生活」(訳) を出版す。

大正11年5月，私立成城小学校の幹事となり，主事小原国芳とともに，沢柳政太郎をささえて新教育運動の陣頭に立つ。ダルトン案の児童大学の実際，児童大学の教育の出版と，来日したその創始者のミス・ヘレン・パーカストの通訳をとおしてダルトン案の紹介につとめた。

大正13年2月，成城小学校職員一部の赤井排斥運動と小原主事との対立もあって明星学園創設の計画をなし，5月明星学園を創設，校長となる。同人照井猪一郎・照井げん・山本徳行，資金は茶郷基が負う。昭和3年明星学園中学校・高等女学校開校，校長となる。「ダルトン案と我国の教育」「個人学習とダルトン案」「性愛の進化方向」「新しき教育計画のために」など訳・著述出版す。また，しばしば満州・朝鮮に渡って新教育の振興につくす。昭和11年，英国で開かれた第7回世界新教育会議に日本の代表として出席，つづいて欧米諸国の教育を視察する。太平洋戦争が始ってからは大日本教育会教学動員の仕事に積極的に加わった。

20年終戦，間もなく連合軍司令部教育顧問となり，新しい教育方策の樹立に参画する。また，教育制度刷新委員会委員となる。21年5月，郷里金沢に女子専門学校創設，同年11月教職適格審査委員会にて不適格と判定され，明星学園長・金沢女子専門学校いっさいの教職を辞任する。その後数年間は著述に専念，「男女共学の諸問題」「現代教育問題辞典」「子どもへの理解」「知能検査の意義と方法」「ガイダンス」「精神衛生」ウォッシュバーン「生きた教育哲学」「道徳教育の反省と再建」ウォッシュバーン「新教育の生かし方」など訳・著述出版す。26年8月教職員適格再審査会において「適格」と判定，10月3日追放解除となり，明星学園理事長に復帰し，明星学園30周年記念式典を行い学園振興10年計画を樹立推進する。また，かねて計画していた幼児教育のための「ふじ幼稚園」をおこし園長となる。31年武蔵野市教育委員長となり，

ついで東京都・全国の教育委員連合会長に就任，地方行政の振興につくす。33年明星学園の理事長をやめ理事となり，40年に学園長となる。49年2月26日午前8時10分永眠。病名腸出血。享年87歳2カ月。

(2) 照井猪一郎

明星学園を創ろうとした折，どういう希望と期待をもっていたか——大正13(1924)年　学園創立のころは，まだ大正自由教育のはなやかな時代ではあったが，日本の教育の大勢は，画一注入主義の教育に依然として支配されていた。こうした日本の教育会の実情に対して彼は次のように批判している。「すぐれた教師というのは授業と入試準備のうまい先生のことで，うまい授業というのは，決められた教材の分量を45分の1時限にはめこみ，巧みな演技で器用にまとめあげられることをいい，参観人をアッといわせ，子供たちを五里霧中にさまよわせることを指したものであった。それはすべて子供のためのようにみえて，その実先生自身の満足のためのものであった。教育は常に教師の一方的な思わくで行われ，授業は相手の個性を無視した十把ひとからげの一斉取扱いであった。

こうした技術をいやがうえにも磨きあげようとする授業の研究会は，ひんぱんに各所に行われたが，教育の本質を極めるための研究会はどこにも見られなかった。私たちはまずこうした教育の世界に見切りをつけ，ことごとくこれを非難した。私たちの狙いは私たち自身の中にふくらみつつある。それは教育の一般性のうえに誠実に根をおろし，どこにも誰にも納得のいくような科学性のある真の教育をこの職場に打立てることである。」(照井猪一郎が「明星誕生物語り」として書いた文章の一節)

そして明星学園の発祥は，その動機は少しの神話も奇蹟も，独りよがりの野心も，野に立つ使徒の祈りからできたものでもなく，避くべからざるある一つの偶然からであった。

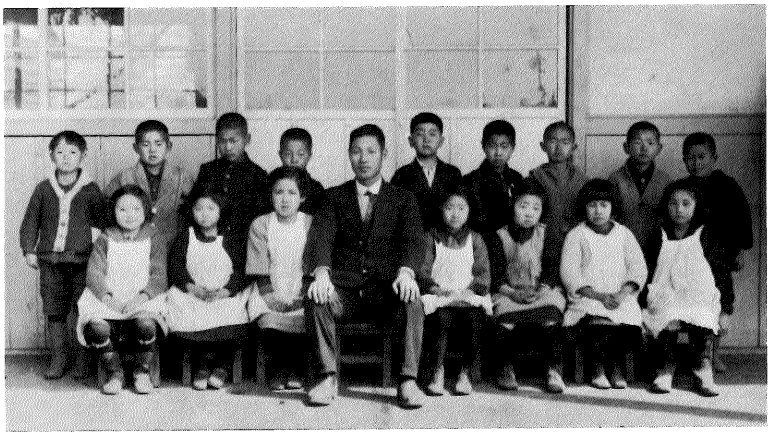
(「式典に因んで」，「ＰＴＡ会報」30周年記念号)

このように記していることはそれだけ，教育のきびしさ，学園創設の厳粛さというものを自ら戒めていることが理解される。

めまぐるしい教育の花園から，この草深いむさし野にわけ入って来た私たちのあの日の姿を人々は何んと見たであろう。しかし子供と学び，子供と生きる私たちには，そこにいささかの不安もなかった。不思議なことに，いざ子供たちの前に立ったとなると，からだのどこからか湧然として勇気と確信が吹き上ってくる。そして1人1人の子供の肺腑に食い入るような気魄が発散する。いつの間にか，身につけたこの道の魂であろうか。

(「教育という仕事」，「ＰＴＡ会報」38号)

個性尊重——自主自立——自由平等，ただそれだけが，私たちのうえに輝く教育のともし火であ



照井猪一郎　開校第1年の終りの2学年――照井組（大正14年3月）

った。それが基本理念であった。いっさいの教育活動はこの根源から生まれた。そして両親と教師と街の人たち，それは子供たちの指導体制であった。（「明星誕生物語り」から）

教育の原則は子供の個性を十分に伸ばしてやるところに終始する。1人1人の個性に即して教育の方法が工夫され，施されなければならない。人権としても人格としても子供の個性は絶対に尊重されなければならない。自分の個性を生かすことは人間の基本的な権利である。これを生かすには子供たちの自主性が生かされ，他律的自学自習の方針を採らなければならない。そこから創意・発見の学習態度が生まれてくる。

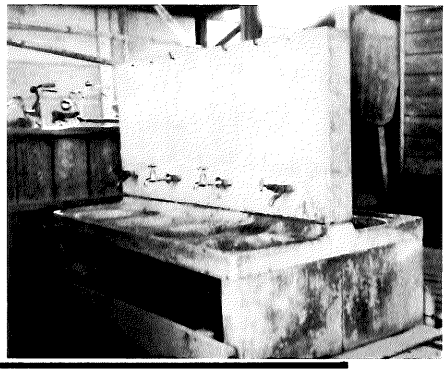
ここに照井の記るされた文章から，学園創設において求めていたもの，望んでいたものが何であったか，汲みとることができる。そして戦後4・4制に踏み切った折，照井は小・中の校長であった。校長としての照井は――「教師という仕事は，子どもが家庭や社会から無条件にとり入れた経験を整理して，一つの知識として編集しなおしてやるのが役目なのです。社会が目ざましい進歩をしているのに，いつまでも従来の方法で教育するのは教育者の怠慢というものです。私立学校は常に公立に対して啓蒙しなければならないのです。」といっていた。

教育の実践に終生若い情熱を燃やし，権威に抵抗する反骨精神と学問と教育研究にひたむきな探求心の持主であった。したがって実践の人，信念の人，教育の行者であった。子どもと学び，子どもと生きる真実な地味な道に貢献した人であった。（「新教育研究」No. 1，「照井猪一郎とその教育」）

☆　私学教育の実践に徹した私学の旗手――あくの濃い人間……照井猪一郎先生を語る

明星学園の創立当時，低迷していた日本の教育界や教育学者を，「因循と姑息を慎重とはきちがえ，常に時代におき去られがち」ときめつけ，独創的で熾烈な探求心は，官公立校の俗事的な，皮相な研究や実践を排斥した。まず成城学園において，ついで明星学園という終生の場で，徹底的な研究と実践の積みかさねられた20年，30年，40年の年輪は，教育の一般性のうえに誠実な根をおろした。「どこでも，誰にも納得のいく真実の教育の樹立にあらん限りの精魂を傾けつくして，生きる世界を私学教育の実践に徹し，私学の旗手として，明星学園を守りとおした先生は，1人の真の私学人の典型でもあった。」（「日本私立小学校連合会会報」41号，原田満寿郎記，昭和39年）

先生の書かれたもの，話されたものを読み，また聞けば「人権としても，人格としても，子供の個性は絶対に尊重されなければならない」という教育の大原則のうえに立ち，実践をふまえて割出された先生の教育理論・児童観・教育課程および学習運営論・教師論の独特の強味と，子供と生き，



昭和の初期から戦後まで使っていた小学部の洗面所

子供と学んだ愛情と信念の毅然とした教師の姿が浮び上ってこよう。そして，しんの強い，あくの濃い1人の人間の味——好きは好き，嫌いは嫌い，決して中間のない気骨のある風格。古武士的な節操。俗事にとらわれない瓢々とした人格。そして，在野的な批判精神で論陣を張る私学人の面目が……。

（照井猪一郎先生遺稿集「残照」の解説から，原田満寿郎記）

年譜を追って　照井猪一郎先生は明治20年4月7日　秋田県平鹿郡川西村（現大森町）大字板井田，照井直吉（秋田師範第1回卒業生）の長男として生まれた。14歳の時，県立横手準教員養成所に入学，15歳で同校を卒業。平鹿郡八沢木村小学校へ準教員として奉職。37年3月，17歳の折，八沢木村小学校を辞して上京，1年間独学。18歳，38年4月東京私立順天中学校4年生に編入，2年間，昼は順天中学で夜は正則英語学校に通う。20才明治40年3月順天中学校を卒業。郷里では医学専門学校にはいり医者になるよう要望。しかし本人はその意志がなく独学を続け，かたわら太平洋画会で絵画を学ぶ。

大正5年秋田県仙北郡内小友小学校代用教員となる。大正7年小学校尋常科正教員の免許をとり，内小友小学校訓導となる。大正9年小学校本科正教員の免許（全教科）を無試験でもらう。大正10年秋田師範学校訓導となる。学校劇・地理教育・理科教育・文学教育・歴史教育に重要な役割を演ずる。大正11年赤井米吉と前後して東京牛込区私立成城小学校訓導となる。12年同僚の加藤げんと結婚する。

13年2月7日（37歳）明星学園創立の機成り，創立者同人赤井米吉・照井猪一郎・照井げん・山本徳行。5月15日，現在地に明星学園を開校する。昭和3年1月，ＮＨＫ（愛宕山）から学校劇を放送する。日本における学校放送の草わけとなる。その時の出演は5，6年生で，だしものは「夜明けまで」（照井猪一郎作・演出）。昭和5年7月軽井沢沓掛に明星学園上野原寮70坪の建設に，父兄の江川金吾とともに現地にテントを張って頑張る。12年7月，学園創立以来つづけてきた夏季学校が軌道にのる。6年生は上野原寮で10日間。4，5年生は千葉県建田村の農家青木さん宅と朝日屋に分宿して10日間。これが千倉生活の第1回である（7月7日に支那事変おこる）。14年4月，この年から逆立ちのできない子どもが1人もいないくらいに明星の小学校は体操がさかんになる。当時世間から“逆立ち学校„ともいわれた。

16年4月1日，小学校が国民学校と改称。明星学園では小学校を初等部と改称し，国民学校として許可され，この年の12月8日に太平洋戦争始まる。18年7月，汽車に乗らず，歩いてでも千倉まで行き，夏季生活をさせると頑張ったが許可されなかった（17年7月20日に学童の旅行禁止令が出されていた）。19年4月，学童疎開はじまる。学童疎開の前途は見とおしは暗く，むしろ縁故疎開を強力にすすめ，“残留の子供たちを学園で死守する„と宣言して寝具・食糧の確保と100人あまり収容の防空壕の建設を5，6年の子供たちと，小学校の職員で突貫工事をする。また用務員が東京の空襲におびえて帰郷してしまったため照井は用務員室で常宿直し，「大正デモクラシーによる民主主義に支えられてできた私立の小学校を守りぬく。教壇で死

ぬほか,死に場所がないではないか」といっていた。

昭和20年8月15日，先生 58歳,終戦。21年4月，東京私立初等学校協会理事・日本私立小学校連合会副会長となる。22年3月，明星学園初等部を小学校に改める。4月1日，学制改革（6・3・3制)。新制中学校の初代校長に就任。5月，進駐軍命令で「地理」と「歴史」の授業が禁止される。そのとき「日本人がつくった日本の学校を外国人につぶされてたまるか」といい，歴史年表・地図も，そのまま使わせる。23年4月，日本新教育研究会理事。7月交通事情と食糧難の中で，夏季学校を実施する。6年ぶりの復活である。24年4月，戦前は私立学校だけのものであった民主主義教育が，一般公教育の大方針（教育基本法）になったことを全職員に深く認識するよう呼びかける。同年7月，文部省国語審議会委員となる。32年7月まで継続4期にわたり同委員をつとめる。創立30周年記念行事として，校舎の全面的改築と増築を決定し，学園振興事業部を設ける。30年5月，東京都知事から教育功労者として表彰される。31年3月，千倉の寮開きをかねて，第1回千倉研究会をもつ。32年10月，第1回校内教育研究集会をもつ。照井は,「このような研究会が職員側から自主的に発案され実行されたことは非常にうれしい。学校がこの会を主催する」といって，今後毎年つづけるように要請する。

35年2月,(73歳）はじめてご飯がのどを通らぬといいだす。2，3，4，5月と病床に伏す。36年11月，第1回公開授業と教育研究集会。「私立の教師には，教育の本質をとことんまで追求する使命がある。それをやろうとしている明星の教師に拍手してやってください」とおわりの挨拶をする。37年7月，千倉の夏季生活には元気な姿を見せたが，しゃっくりが止まらなくて苦しんだ。同年11月第3回公開教育研究集会。先生は最後まで出席するつもりで頑張っておられたが，研究会の前夜40度を越す発熱で倒れられた。

39年2月25日午前8時55分永眠。病名急性腎炎，食欲不振による心臓衰弱。享年76歳10カ月。

☆　戦前の明星における赤井・照井の評価

「大正自由教育の研究」の著者，和光大学の中野光教授は，赤井・照井の戦前の明星学園での主張と実践を次のような内容で高く評価している。

「明星学園の教師たちは，教材の自主選択・編成という至難の課題に，たちむかっていった。すぐれた教材と思われるものを謄写版でプリントし，子どもの受けとめ方を調べてこれに修正を加え，次の学年の教育でさらによりよいものにしていく。という実践をつみ重ねた。

さらに，注目に値するのは明星の教育は教科外活動がとりわけ大事にされていたという。赤井も照井も，日本における“学校劇„の開拓者である。脚本づくり・配役・人選・練習・発表という一連の活動を展開する過程で，子どもたちが集団的に成長をとげていくことに大きな価値を認めていた。

とくに照井の場合には自ら脚本を創作し，上演にあたっては，すぐれた指導を試みていた。個性尊重・自主自立・自由と平等,この三つが明星学園の原則であったから,教材外の諸活動はこれを実現していくための重要な場になったのだ。

学校劇については当時にあっては岡田文相はじめ教育行政当局は，その教育的意義を認めず，かえってそれに白眼視と圧迫を加えるような状況であった。戦前，国家の教育内容に対する統制が今日よりもきびしかった時代にこうした実践や主張は『抵抗と創造』の教育であり，この意味は戦後の民主教育にとっても貴重な遺産であった」と述べている。

研究実践の成果の一つに大正15年の4月，集成社出版の国語の「新読本」がある。これは照井が成城時代からはじめていた試みを，照井げん・霜田静志・大高義一らが深化させてまとめあげたものだ。当時，国語の国定教科書では「ハナ　ハト　マメ」という単語の羅列から始まっていたのを子どもの経験や心情に基づいて，韻律的な反覆を重要視する立場から「ハナ　ハナ　ハナヤハナ」というような詩教材を創り出したのであった。こうした実践はやがて昭和8年に改訂される「小学国語読本」の編集において採用されていくのである。

(3) 照井げん

☆　音楽科を担当して

全心身を透してのリズム教育　リズムとメロディーとハーモニーは音楽の3要素であるが，中にもリズムは最も重要な要素といわれている。リズムは運動と密接不離の関係を有するもので，運動のあるところ必ずリズムを伴い，リズムのあるところ必ず運動を意味する。メロディーやハーモニーすなわち音は耳に愬えるものであるが，リズムは全身の器官に愬えるものであるから，リズムの教育は肉体運動を通して行うべきである。リトミックはこの主張のもとに創案せられたもので，従来の耳にだけ頼った音楽教育の欠陥を補った革命的教育法である。私たちが新しく1年生を迎えた時，私たちの行う音楽の仕事は歌を教えることよりも，先ずピアノの音に合わせて歩かせることである。最初は四分音符ばかりの単一なリズムの音楽であるにもかかわらず，ピアノのリズムとは無交渉な歩き方をする子も案外多く，中には如何に訂正してもその非リズミカルなのに匙を投げることさえある。しかし私たち教育者の仕事はたゆまざる根気と努力とをもって子供等をより高く引上げることである。そのためにはいろいろな方法も工夫され練習も繰り返されて，遂にはどうやらピアノに合わせて歩けるようになる。ピアノに合わせて歩けるようになったら，これを基調として速度に関する練習に進展していくのであるが，その前にスキップの練習をさせて見る。歯切れのよいリズムに伴う全身の躍進は，どの子にも非常な興味をもって歓迎され，うまく跳べない子供でもいつの間にかできるようになって，日常の遊びにも運動場や廊下をピョッコピョッコ小兎のようにス

キップで跳びまわるくらい好きになる。こうして子供たちの体の動きも非常に軽快に，しかも注意深くピアノを聞くようになるので，これからいよいよ全心身を透してのリズム教育が一歩一歩と深められていくのである。これによって子供等は音楽に対する感性を醒まし，神経作用を整え，心身の調和と発達を助け，想像力・創造力等を養いうるようになるのである。(「ほしかげ」17号，照井げん記，昭和11年1月)

よりよい音楽環境　小学校教育内容改善の文部省案に，現在の唱歌を音楽に改めるという1項目がある。明星は幸い私立学校なるが故に何のおとがめもなく最初から音楽という名目のもとにその所信を貫いてきた。しかして文部省が示している美的鑑賞の発達や趣味の涵養等については，われわれも誤りない方向として歩みつづけてきたが，実際は1週間1時間ありやなしやの（明星では2時間だが）時間内では到底その効果を挙げることはむずかしい。西洋の文化が輸入されて70年，その間科学の超進歩にひきかえて音楽の発展の遅々たること，専門家は別として一般民衆には，会して唱和されうるものは僅かに国歌君が代の程度ではあるまいか。われわれは西洋西洋といって一も二もなく西洋音楽の真似ごとのみにはあきたらない。さればといって古典にも属する在来の日本音楽でもしようがない。日本独自の生命を持った新たなる音楽の誕生を期してやまないものである。そのためには——日本新興音楽創生のためには，学校も家庭も社会も一体となって子供たちによりよい音楽の環境を与えなければならないと思う。学校でピアノを習っているある子のお母さん，「私は楽譜がよく読めないので子供のピアノを聴いてやることができない。それではいけないと思ってラジオのテキストを買って国民歌謡の時に一緒に稽古した。子供等の方は私よりずっと早く覚えてしまうが，でもお陰でやっと譜が解ってきた。」と。ほんとにさすがは明星のお母さんだ。

(「ほしかげ」25号，照井げん記，昭和11年12月)

時局と音楽教育　「天に代りて不義を討つ……勝たずば生きて還らじと……。」一度東京駅か上野駅のホームに出征軍人を見送って，行く人，送る人々の五臓の底から燃えて出るこの軍歌の叫びを聞いた時，誰かその意気の盛んなのに感激しない者があろうか。こうした光景を目のあたり見，かつ聴いている子供等は，時代の子であるが故に一層関心が深い。根強い何ものかが魂の中まで浸透しているに違いない。事局の影響からくる子供等の現れを音楽の方面のみから眺めると，まず朝の登校にも「天に代りて」を歌いつつ足並揃えてやって来る子があり，小さな軍歌集を常住ポケットから離さない張り切り屋もいる。また陸海軍の歌のプリントを，どこからたくさん持って来たのか，得意になって皆にわけてやってる子供もある。箒持つ手も軍歌のリズムに動き，仕事の合い間にも「煙も見えず……」が自ら迸り出る。私は今ここで軍歌の芸術的価値や教育的価値を究明しようとするのではないが，ただこの動かすべからざる事実をどうするかということである。たとえ非芸術的な

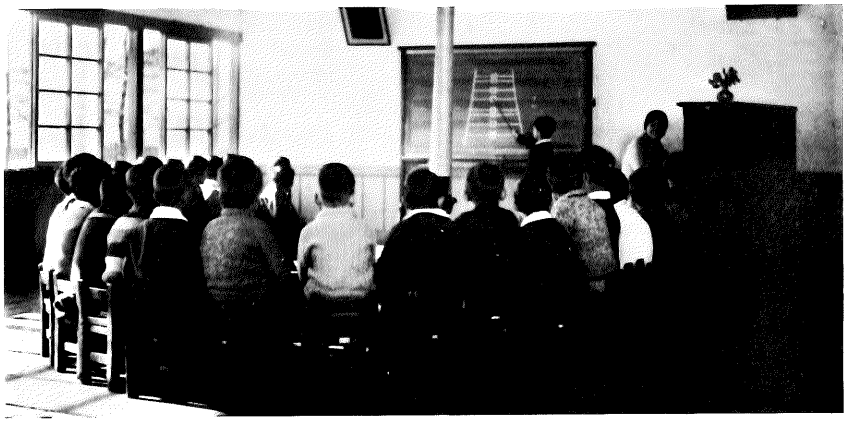


照井げん　開校第１年の終りの１学年――照井げん組（大正14年３月）

ものであるにしても，子供の生活の中に生きて作用していることは否定できない。明治の中期に外国輸入風の学校唱歌に倦き厭きした折柄，あたかも明治の27，８年の日清戦役に遭遇し，いわゆる際物的ではあったが軍歌集が続々出版されたので軍歌はたちどころに全国を風靡し，以来３，４年の間は学校唱歌は軍歌で終始されたといっても過言ではなかったばかりか，むしろこの軍歌時期をもって児童唱歌上の一大革新だといっている向きもあるくらいだ。しかしその当時と今日とでは国民の音楽的教養に格段の差があるので，音楽そのものについてもちろん同列の比較をしようとはしないが，その感情のうえにおいては愛国心とか敵愾心とか正義感とか，ある一貫したものが流れていると思う。この感情のためには子供等が興味の中心である，ある軍歌を取上げることもまた一方法ではなかろうか。聞きかじりの間違いは歌曲ともに訂正してやる必要もあるし，それを題材にいろいろな音楽的取扱いもやりうる。また。同じ目的のもとに歌なり，オーケストラなり，内外のよいレコードを静かに聴かせることも誠に当をえた扱いだと思う。ただ私たちの忘れてならぬことは，子供等の興味にのみ引きずられて目的を転倒することなく，常に高次な芸術的教科であることを思念し，それに対して着実な精進努力を怠らぬよう指導することである。

（「ほしかげ」29号，照井げん記，昭和12年９月）

和音感教育　最近わが国の音楽教育界を驚かした一大警鐘は笈田先生のいわゆる「絶対音感教育」で，小学校においては和音感をつけるのを目的とするという提唱である。私たちはその教育法が従来の音楽教育の大きな欠陥を補い効果の偉大なるものがあるを学び，過去２カ年間その精神と方法によって学園の児等を教育して見た。そしてこれこそ日本人の耳をよくするほんとうの音楽教育であるという結論のもとに，今後もあくまでこの教育に精進努力しようとする決意を固めたのである。ここにご家庭のご理解とご協力を願う意味において，和音感教育の重要性について述べて見ようと思う。音楽は音を素材とした芸術であるので，音楽教育においては音に対する感受性の陶冶，すなわち音感教育を基調としなければならないことは当然のことである。一体音感というのは音を聴いてその音から何等かの感じを受ける現象，ならびにそれを判別する能力を指すのであって，これは関係音感と絶対音感の２種類に区別する。関係音感というのは音を他の音と比較対照して判別し認識するもの，すなわち一つの物差しとする音をきいておいてそれから音程を辿って次の新しい音を判別していく音感で，絶対音感というのは他に比較対照することなしに如何なる音でも単独に聴いて反射的に判別認識する音感をいう。音感として最も価値のあるものは和音感を伴った絶対音感であり，最も無価値なものは和音感を伴わない関係音感である。さて問題は日本人の音感である



音楽室で　2年生 照井げん指導　(昭和10年)

が，それは特殊の人を除くのほか，一般には最も無価値な関係音感を所有しているのみで欧米人の優秀な音感とは比較にもならないのである。それはなぜかといいますと，日本人は永い間旋律とリズムを主とした邦楽に慣れ親しんできたお陰で旋律感とリズム感が伝統的に大いに発達してきた。ところが偶〻明治時代になってそれと性質を異にする西洋音楽がはいってき，学校音楽といえば西洋音楽を意味するようになった。そもそも西洋音楽というのは和音と旋律とリズムの3要素から構成されているのであって，家にたとえると和音は土台に匹敵し，リズムは間取りであり，旋律は和音の配列の中を縫って流れるもので，家の外観ともいうべきものである。音の物理的現象は自然に和音をなしているもので，例えばCの絃が振動する時には同時にCドウアの和音がひびいてくるので和音を切り離して単音は存在しないのである。また楽曲の本質から和音を見ると，楽曲は音で綴られた文章であって，その文章の内容は調子が根本であり，その調子は和音の配列によって決定されるものでありますから，和音がわからないと結局，音の文章，すなわち音楽がわからないことになるのである。しかるに日本の古い伝統と，和音に対する認識不足とはその後も相変らず旋律とリズムの教育にのみ重点をおき，和音に対しては特別の訓練を施さなかったため，今日にいたるもなお劣等の音感より所有していないということになったのである。しかし現在のように割合に恵まれた音楽環境に育つ子等は，今後200年，300年と経つ間には知らず識らず欧米人のように優れた音感を持つようになるかも知れないが，そんな伝統をまつようでは，いつまでも欧米人の支配下に屈従せねばならなくなる。思いをここに致した笈田先生は和音教育の必要を叫び，組織だった方法を考案せられたのである。子供の聴覚の最も発達する時期は13，4歳ころまでだという。よく音感のつくとつかないとはひとえにわれわれ小学校教育者の双肩にかかっていると思うので，学校側は非常な馬力をかけているのである。実際の方法としては，従来非常に力を入れてきた音階練習，音程練習等は関係音感を養成する武器に過ぎないので絶対に廃止し，また移動「ド法」による階名唱法も繁雑で音の判別認識に混乱をきたすので捨てた。つまり戦争の様式が変ったので持たせる武器も新鋭なものに変ったわけである。和音感教育の系統はまず準備作業たる楽譜指導に始まり，リズム訓練・和音聴音・和音分離唱・和音分割唱・合唱訓練——カデレツ三声唱——二声唱——音名現唱法・調子感養成というように進み，その課程中には絶対音感もつくように組立ててある。楽譜は1年生の初めから取扱う。もちろん幼稚園でもわかるような簡易な方法によりますので決して子供の重荷になるようなことはない。取扱いの実際については紙面の都合上，到底尽すことはできないので，他日学習の実際をお目にかけたいと思う。(「ほしかげ」37号，照井げん記，昭和16年3月)

☆　40年の間にみのった果実

——創立40周年の式典で，小学校の子どもに話したこと——

小さい人たちのために，明星の種というお話をちょっぴりいたします。ここにいらっしゃる赤井先生は昔の園長先生でした。3年生までしかありませんでしたが，3年の先生は山本先生とおっしゃる方で生徒が9人でした。2年の先生は亡くなった照井先生で，生徒がたった5人，1年の先生はこの私で生徒が7人，全部で21人でした。この21人が明星の大もと，つまり種であったのです。ところでこの21の種がよく伸び，育つためには三つの大事な条件が必要でした。それは土と，空気と日光でした。しあわせなことに明星はその三つがよく揃っていたのでした。第1に明星の土は非常にこやしのきいたゆたかな土地でした。第2は空気が大変にきれいでいつもすがすがしかったのです。第3にはこの武蔵野の大空から輝かしいお日さまが隅なく照してくれたことです。この三つのおかげで，21の種は芽が出て，根が出て，葉が出て，めきめきと伸びていきました。そして美しい花が咲いて立派な実がなったのです。その実がまた種になって植えられました。また芽が出て，根が出て，葉が出て，花が咲いてたくさんの実がなりました。また芽が出て，根が出て，葉が出て，花が咲いてたくさんの実がなりました。これを40年も繰り返している間に，とうとう今日のように，この体育館にあふれるくらい，1年から12年まで立派な実がなってしまいました。みんな強く正しく朗らかな実です。そればかりではない。40年の間にみのった実は，日本中はおろか，世界中のそちらこちらにちらばって花を咲かせ，実をむすんでいるのです。たった21の種がよくもこんなにみのったものだとしみじみ考えると同時に，この先き，10年，20年後を想像するだけでも，何と嬉しい楽しい夢ではありませんか。私の種のお話はこれでおしまいです。　（「星雲時代」4号，照井げん記，昭和39年3月）

年譜を追って

明治23年12月　秋田市に生まる。

明治43年4月　秋田県女子師範学校卒業，西馬音内（にしもない）・川尻・船川小学校を大正11年3月まで歴任する。

大正11年4月　私立成城小学校に就職。研究のための実験校として創設された成城小学校は開校5年目。研究成果をつぎつぎに発表。教育問題研究会・教育講習会発足。雑誌「教育問題研究」・児童雑誌「児童の世紀」発行。成城学園のもっとも教育活動の躍動した時期に教鞭をとったのである（11年5月に赤井米吉，9月に照井猪一郎，成城に就職）。音楽科・習字科を担当，かたわら雑誌「教育問題研究」の仕事にもたずさわる。

大正12年　芙蓉組（秋組）の担任となり，13年3月まで勤務。

大正12年11月　（照井猪一郎と結婚）

大正13年4月　私立明星学園小学校創立に際し，同人として参加する。創立当初1年の担任，その後は音楽科を担当，かたわら会計，学園創設当初の多忙な学校事務一般の整理にあたる。

昭和30年9月　学制頒布80周年にあたり東京都から教育功労者として表彰される。

昭和38年11月　照井猪一郎（小・中学校長）の病気，快復進まず専心看護のため依願退職。

昭和39年2月　（照井猪一郎逝去）

昭和40年5月　創立同人として，また永年学園に対する功労により名誉教諭となる。

(4) 山本徳行

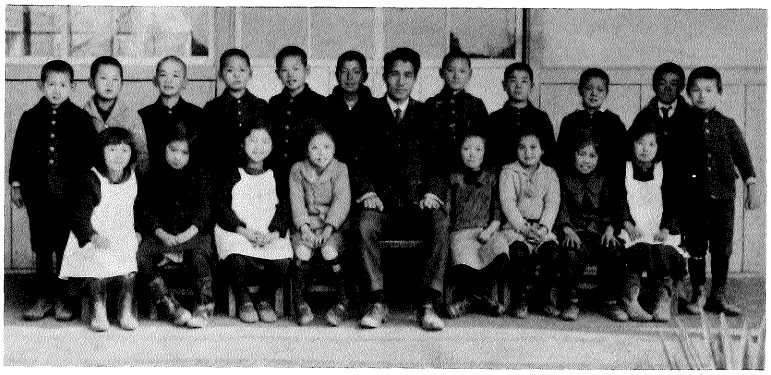
――明星学園創設に参加し，どのようなことを望み期待していたか――

☆　思い切った新教育を考えていた

新教育とダルトン・プラン　明星学園創設の年，赤井先生はダルトン・プランの紹介で話題の人となっていた。それに，その頃創設者であるパーカスト女史の来朝があり，先生は女史の講演を通訳せられるため，全国をまわって多忙であった。私たち3人は思い切った新教育を考えていた。まず，時間割のない教室である。始業・終業の合図もいっさいないのである。学籍簿もなければ出席簿も作らない。もちろん通知簿もない。そしてあるものは，克明に記した教育記録簿だけである。教授の方式はプロゼクト・メソッドであり，ダルトン・プランである。校舎ができ，花壇の花が美しく咲き揃った頃には，生徒数も次第に増加して，1学級30人の定員にほぼ近いまでになっていた。運動場にはスベリ台もでき，小鳥の舎もたった。小さな夢の学園である。子供たちはいっぱいの太陽を浴びて，広い武蔵野をかけめぐっていた。教師も子供もまっ黒であった。野外が常に教室であって，教室はむしろ休憩の場であった。しかし，妙案であると思っていたプロゼクト・メソッドも凡々の私たちでは長くつづけられえないものであるとわかった。2カ月もすればもう教材の発展が限界にきて，堂々めぐりをしている感である。こんなことで「学力」がつくであろうか。ダルトン・プランそのものも，生徒たちは伸びるようには見えるであろうが，ヒョロ長い身長で練り鍛えることに欠けている。叩き鍛え，教材の背後にあるものをつかみ取らせることが，これで果しうるであろうか。始業・終業の合図も，あってみれば邪魔くさいものではあろうが，段落のケジメをつけることもまたあってよいのではなかろうか。反省せしめられることが多い。私の悩みは更に大きくなるばかりであった。

（山本徳行自叙伝「坂」から）

明星学園同人の教育感と私　開校時に受け持った3年生が6年を卒業するので，私はここの教壇を降りた。その理由の一つには明星同人の教育観と，私のそれとの相違もあった。私には「学力」



山本徳行　開校第1年の終りの3学年――山本組（大正14年3月）

というものがあるとの信念がある。教育とは児童を成長せしめることであり，習得する力を得さしめることであるということは肯定する。しかし3年生には3年生としての「学力」があり，5年生には5年生としての学習知識を得ていなければならないと私は信じている。そしてそれはある場合においては，詰め込むこともまたやむをえぬ教育であると信じている。真理は日々に新しい。真の教育こそ新教育であるというのである。私は間違っているのかも知れない。しかしかかる私はすでに学園の異端者であった。もっともっと早く去るべきであったろうが，恩師赤井先生の恩情にあまえて，4カ年をお世話になったわけである。申訳のないことであった。　（山本徳行自叙伝「坂」から）

新聞の折込広告　大正13年千駄谷の赤井先生のお宅を事務所として明星学園創立の事務をとる。設立趣意書を印刷して，新聞の折込広告とし，千枚を配布する。創立趣意書――「……輝く理想，新鮮なる校風，生命に充てる教訓，是等三つのものは幼い魂の成長の大要件です。神と自然と人間の与うる聖い教を糧とし，温い友情の風を呼吸し，至高の理想に向って幼い魂は伸び上るのです。浮草の如くに転々として定まらぬ教師と点数と競争で駆られる児童が雑然たる知識の断片の蒐集を事としている現代の小学校では，幼い魂の伸びようもありません。新しい教育へ，幼い者を救い出さねばなりません。かかる考えをもって，森幽に水清き井の頭公園脇に，千坪の土地とささやかな学舎を得て，友情に燃える私たちが隠れた後援を誓われる一教育愛好者に励まされて新しい教育の樹立を企てました。思えば教育に身を献げてここに十数年，互に紆曲の道を辿って遂にカナンの地を得た心地がします。……」そのころの吉祥寺駅はまだ郊外の寒駅であった。弁天振袖で有名な吉祥寺が移転して，この門前町としての閑かな村落にすぎなかった。茫漠たる武蔵野がここにもあった。駅から南，原始林に囲まれた井の頭公園がある。その昔は「森幽に水清き」将軍さんのお狩場であったという。この公園を抜けて森・畑・草っ原とつづく。――この麦畑の中に「明星学園建設敷地」の棒杭を建てたのであった。夕暮れる頃ともなれば，広い池畔の杉林の上空高く，明星がキラキラと輝く。――明星――明星。――私たちもまた教育界の明星たれと，心ひそかに誓いあった。同人は赤井先生を中心に，先生が秋田師範の主事をしていた頃の訓導だった照井猪一郎君とその妻のげん先生，それに私の4人きりだった。顧問として沢柳政太郎先生。後援者は赤井先生と同郷である茶郷基氏であった。その頃，震災で焼野となった大東京は，復興に明け暮れる毎日であった。大工も左官も引っぱりだこの世の中とて，ささやかな校舎もなかなか建築ははかどらなかった。4月20日には1年生7名（照井げん先生担任），2年生5名（照井猪一郎先生担任），3年生9名（山本徳行担任）の全校生徒21名が，畠の中の「明星学園建設敷地」の棒杭の前に集った。井の頭の森が私たちの教室であった。すだく小鳥が友だちであり，芽ぐむ草，名も知らぬ花そのものが教材であった。



← 創立期の用務員室兼職員室の裏口
（現在はとりこわしてなし）

5月15日は，開校式をあげる。あいにくの雨で屋根からは雨雫が遠慮なく降る。風は囲いの幕をはたはたと鳴らす。生徒とその父兄たちもさぞ驚いたことであろう。もの静かな沢柳先生が，天井を見あげて「これはひどいね」とおっしゃったことは今も覚えている。しかし，私たちは希望に燃えたっていた。「友情に燃ゆる私たち」が，いっさいの規範から逃れて，思う存分な教育実践にはいることができるのである。「カナンの地」がここにある。一応校舎らしくできあがったのは6月の初め頃であったであろうか。私は照井君と2人で，あれこれ買い物に出かけたものである。新世帯となれば火箸1本，茶碗一つから買い揃えなければならない。たとえ全校21人といえども，学校は学校である。門札も出さなければならず，運動場も整地しなければならない。（山本徳行自叙伝「坂」から）

カナンの地　――三十数年後に明星の地をふんで――昭和41年6月3日，私は藍綬褒章の伝達式に参列した……翌4日は小雨の日であったが，私は文部省・大蔵省に出かけたので，妻は在京の子供3人に案内されて，箱根路を周遊する。そして次の日は，一同うち連れて赤井先生をお訪ねした。私はこの先生によって今日がある。まず何をおいても先生にこの光栄をご報告しなければならないと思ったからである。家族一同して井の頭の杜を歩く。そして明星学園を訪う。明星を創めたあの頃は，この杜も，もっともっと幽邃であった。原始林の面影が残っていた。27歳だった私はこの泉の傍で物思いにふけったものである。今ここに同行する3人の子はその頃まだ生まれてもいなかった。明星学園も随分変った。照井猪一郎君も逝ったし，上田八一郎君も他界した。「カナンの地」とて逃れて来た花園ではあったが，私は同行を離れて1人歩きをして来た。しかし明星の発展を希わない日は1日とてもなかった。何分にも思い出深い草分けの一人である。あの頃植えた木が，今では一抱えもの大木に生長しているのに驚かされる。その頃色をまっ黒にして武蔵野をかけめぐっていた教え子も，今ではもう52歳だという。嘘のような話である。思えば，お互に年輪を重ねたものである。（山本徳行自叙伝「坂」から）

☆　教育体験の記録

明星時代に著作したものに「尋三，四教育の実際」，成城小学校時代のものに「尋一教育の実際」がある。このほか児童読物として「児童太閤記」上・下2冊，「児童八犬伝」上・下2冊，読本指導書4冊，「学芸会のために」「鑑賞文章」の3冊，計12冊著作している。

略　歴　明治30年3月　愛媛県に生まる。

大正4年　今治中学校を卒えて，小学校代用教員となる。

大正5年　愛媛師範第2部入学。この時寄宿舎の舎監が赤井米吉であった。

大正6年　小学校訓導。

大正11年　私立成城小学校に勤務。

大正12年　日本大学高等師範部入学。

大正13年　私立明星学園創立に際し同人として参加。創立当初3年担任，引きつづいて6年卒業まで担当する。この間，日本大学法文学部入学。

昭和4年3月　明星学園を退職。

明星学園退職後，昭和4年天王寺師範学校教諭，9年大阪府視学就任，11年豊中市の小学校長，12年豊中市高等実践女子校長に就任，16年愛媛県主事など歴任して現在，今治明徳学園理事長，今治明徳高等学校長，短期大学学長兼務。

(5)　上田八一郎

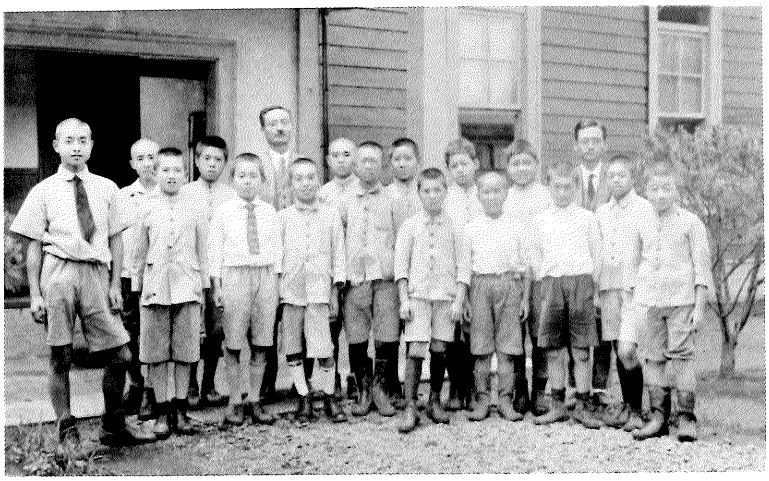
——明星学園旧制中学校の創設に参加し，その折り何を期待し何を願っていたか——

☆　中学校教育雑感

①　官立の病院と私立の病院，ないし大きい病院と小さい病院，この利害得失を考えて見ると，それが官立の学校と私立の学校，ないし大きい学校と小さい学校の，それによく似ていることに気がつく。10年前弟が脳脊髄膜炎に罹り，ある官立病院の1室で愈〻最後の息を引き取ろうとした晩，その晩の当直が皮膚科のお医者であったのにガッカリしたことを今思う。思い出しただけでもゾッとする。おもしろいことには英国では公立の病院は大抵hospitalというが，私立の病院は大概nursing-homeと呼んでいる。私の学校——学校といえないほどに小さな学校ではあるが，教育するとか教授するとかいう気持よりもお守する心持の方がより多く動いている。やはり一種のnursing-homeであろう。

②　「学校ではウント鍛錬せねば駄目だ」とか「日本教育の真髄は鍛錬にある」とか「不可能を要求されぬものは全力を発揮するものでない」とか，世間ではよく耳にする言葉である。しかし言葉や文字に眩惑されてはならぬ。瓦を極度に鍛錬しては悲しき瓦礫となるの恐れがあり，硝子玉を無慈悲に鍛錬しては無意味の玉砕に終る危険がある。真に安心して鍛錬しうるものは鋼鉄だけであるかもしれぬ。少しいい過ぎたようにも思うが，とにもかくにも，角を矯めて牛を殺すが如きことがあっては一大事と申さなくてはならぬ。

③　ある人は自分が若い時に苦労した経験から子供も苦労させねば駄目だという。またある人は自分が若い時に苦労したから子供だけには苦労させたくないという。もちろんこの2人のいう苦労はその意味内容において各〻分明でない。ただし私は後者が人情味のより多い人であり，その子供



上田八一郎　中学校第1回生と赤井園長，上田中学部主任（昭和4年）

は必ずや心の豊かな伸長を持つであろうことを信ずる。親はすべてにおいて主観的な物の見方はできるだけ避けねばならぬ。いわんや主観の強要があってはなおさら悪い。

④　現代のような漫談時代においてはすべての人の考え方に統一も余裕もない。殊に女の方には瞬間的な思考が多いように思う。漢文の話を聴くと漢文でなくては人間が造りあげられぬかのようにその日から子供の漢文の予習復習にやかましく干渉する。次の日に柔道の話を聴しと，これなくては人物の向上は絶対無いかのようにその晩から道場に通わせる。1週間も経たぬうちに「文字が上手に書けぬと将来出世ができぬ」と聞かされると，夕飯の箸も下さぬうちから硯と筆とを持ち出して書かせようとする。子供こそいい迷惑である。かくして親の気分の犠牲になっている子供がどのくらいたくさんあるだろう。誠に「愛は惜みなく奪う」世の中である。

⑤　エレンケイ女史はその名著「児童の世紀」において「子供の自然的教育の妙技はその過失を10度の内9度までは不問にするところにある」と述べている。思うに大人は往々子供において自己の欠点を見出す時，それらを見るに忍びざる心持から無意識に責め，または叱る場合が可なり多いと思う。最近子供の生活を題材にした西洋映画がかなりたくさん上映される。その中にも「スキピー」が私には最も感興深いものであった。乱暴で空想的な子供が如何にデリケートな涙ぐましい純情を持っているかを教えられた。しかも大人と子供の世界がどんなに相違しているかも見せつけられた。既に見た方もありましょう。もしまだ見ない方がありましたら，またどこかの映画館に上るでしょうから，ぜひ子供の持つ純一無雑の世界を見ていただきたいと思う。

⑥　現代の教育は知識偏重であって人格教育などは薬にしたくもないと世間では申します。後者は認めるとして，前者には多少異議がないでもない。実際のところ，偏重はおろか，誠に不完全極まる知識である。せめて知識だけでももう少し偏重したいような気がする。といって私は点数や席次をつけて個人間の空漠たる競争心と名誉心とを刺激するの愚を知識偏重というのではない。極言すれば，完全に知育が施されるならば人格教育の全部とはいわぬが，少くともその一部分は自然にその効果を収めることができるのではないでしょうか。いわんや学塾の中心人物を敬慕して集まった昔の時代を再建することの困難な現代においては。しかし，私は信ずる。すべての教育の問題は最後には教師論に帰る。知育といい徳育というも，要は教うる人，その人に依存する。しかして現代には誠にその人少し。

（上田八一郎先生遺稿集「漫思凡考」から）

☆　漫思凡考



平山昆虫博物館
現在は井の頭文化会館となっている

僅か100名に過ぎない少数の生徒であるからには，きっと手の届いた仕事ができるであろうと親たちは期待されるが，実際やって見るとなかなかそうはいかぬ。十人十色というがここでは正しく百人百色である。少数であるだけその色あいがかなりの程度までわかるが，少なくとも太陽の7色だけでは分類できぬことは事実である。白味がかったとか灰色がかったとかいう形容詞を用いぬと表現できぬのもあれば，また桃色に藤紫を加えたといったような複雑なのもある。所詮百人百色である。誠に各人の持つ個性——特異性——は造花の妙だと思う。如何に巧みな植木屋でも松を梅に変性せしむることができないように，如何に巧みな教師でも生徒の個性を変えることはできない，否，それは却って自然に対する冒瀆であろう。そこでわれわれのなしうる仕事はただその個性によき方向を与えしむるにあるのみということになる。といえば至極簡単なようだが，この仕事がなかなか並大抵でない，おそろしく事業難である。白を黄と見違えたらとんでもない方向に彼等を導くことになる。世間には白を赤と誤診されて前途のある一生を棒に振った者もある。胃アトニーを胃下垂と診たって大同小異だろうが，時に腸チフスを肺炎と誤診することがないでもない。したがっていくら薬を投じてみても一向に利きめがない。かくして教育者は診断の正確な名医であらねばならぬことになる。ルビッチという映画の監督が患者を看るように共に働く女優を観察するという。そして彼は唯一の美点すらも持ち合せない婦人は殆どない，どんな婦人でもよき方向を与えれば自己分析の結果，自分に恵まれた点を発見するものだという。これは彼が名監督と呼ばれているゆえんであろう。私はあくまで個性の尊重者である。世間では（個性——自由——我儘——放縦)(団体——規則——服従——統制）というふうに飛躍的に考える人が多い。しかし私は特異性を持った大個性の集団でなければ団体も社会も強固なものにならないと信ずる。個性を滅却した団体は，よし強制によって一時的の統制は得られるであろうが，決して永続きはしないと固く信ずる。20余年前，私がまだ学生であった頃，三宅雪嶺氏が「教育上の疑問と仮解答」と題し「学生時代，数学が不得意で落第の憂目に遭った者で現在これこれの要職にある者があるかと思えば，また英語が不得手で悩み切った者で現在華々しく国政を料理している者もある。人には各〻その特異性があるので数学や英語だけでその人の全体を量ることはどうかと思う。」といったようなことを直截簡明に，しかもあの訥弁で投げつけるように吐き出されたことを思い出すのである。そして20年後の今日，雪嶺氏の疑問が私の疑問となり，雪嶺氏の仮解答が私の仮解答になっていることに気がつく。しかし現実は誠に憂鬱である。上級学校への入学試験なるものが私の夢のいっさいを叩きこわしてしまう。

（「ほしかげ」12号，上田八一郎記，昭和9年12月）

☆　25年の回顧

旧中学部・女学部は昭和3年4月の創設であるが創設までにはかなり難コースを辿った。昭和2年5月頃には女学部だけの創設ということになっていたが，私は8月に退官して上京した。その後女学部だけの創設も困難ということになり，ついに翌3年元旦赤井園長から創設中止の声明があった。私は内心重荷が下りたような気持もした。ところがまた1月10日頃から父兄の役員会が連日開かれて，万難を排し何としても中・女を創設するという空気が濃厚になってきた。もちろんその後も雑多な難問題が引続いたが紆余曲折を経てともかく形だけは創立ということになった。その当時小学部の父兄であった故茶郷氏・故山之内氏および岡崎氏・新氏などその他母姉の方々が園長を助けて異常な努力を払われたことに対し，哀心感謝の意を表してやまない。これより先，大正13年の夏赤井園長は講演のため私の前任地朝鮮に来られた。その時明星学園も3年後には中・女を併設するから上京されたいとの話があった。私の方から色々な希望を出してみた。1学級30名，生徒総数150名を超えざること，男女共学，無認可の学校，上級学校入試準備の要らぬ学校，武道と教練のない学校等。それらのことに対し園長は笑って聴いていた。しかし「総数150名」も戦争中には固持できなくなりその他のことがらは最初から実現のできないものであった。「気にくわぬ風もあろうに柳かな」で今日にいたるまで柳のような生活に終始してきた私である。考えてみると，中・女が創立された頃はいわゆる自由教育に対する非難が既にポツポツ現われていた時であった。神近市子氏が東京日日に載せた一文の如きはその代表的なものであったろう。いわゆる自由教育の指導者たちは最初は理想家であり，旧教育の組織の中から飛び出し，自己の理想を実現するために新しく自己の学校を営み，そこで自分の思うままの教育を施さなくてはならなかった。かかる事情は純情素朴な自由教育家たちを1人の企業家ないしは職業人の地位に陥れてしまった。そして最初の野性的な魅力が失せて教育が事業に呑まれる危機に立ったというのである。かくの如く中・女創立当初既に自由教育は漸次社会の要望から遠ざかり，一応の使命を果したものだと断ずる人々がかなり出てきていたようである。しかし，顧みて明星教育に関する限り教育が事業にのまれたという事は絶対になかったと思う。それだけ貧乏暮しに終始してきたことは争うことのできない事実である。

（「明星25周年記念誌」，上田八一郎記，昭和24年10月）

年譜を追って

上田八一郎は明治23年5月15日，富山県福野町に生れた。

明治37年　中学時代になってやっと体に自信をもち，柔道と水泳に熱を上げる。

明治41年　父の友人が金を出すから神戸高商に行けとすすめられたが本人は東京に出て苦学して政治家になりたかった。祖父は医者にさせたかったようだ。結局高等師範はすべて官費ということで広島に行くことにした。

明治45年　禅に興味をもち，よく坐禅に出かけた。臨済宗妙心寺派仏通寺管長岡山雲庭老師につく。昭和の初期老師が自殺され，仰天，人生観がわかる。

大正２年　高等師範卒業，高師付属中学校に奉職。

大正10年　朝鮮大邱に転住，大邱中学創設に参加し同校教頭に就任。

大正11年３月１日　午前１時頃ボヤを出す。

翻訳を生涯の仕事にとかけたキィーンの翻訳がやっと完成。机の上に積み重ねて隣の部屋で寝たところ一杯になっていた灰皿から煙草がこぼれ落ち，絨毯・たたみ・床と火が移ったが発見が早く大事にはいたらなかったが原稿が全部灰になってしまった。このことは教師に徹せよという天の戒めと感じ，それからは翻訳活動は一切しなくなった。

大正11年７月28日　臨海行事（於馬山）で当時結婚問題で悩んでいた豊田一郎先生（地理歴史担当）に，海にでもいって気分を変えたらどうだとすすめた。ところが一生徒が溺れかけたのを飛びこんで救おうとしたところ，心臓の発作がおこり殉職された。ちょうど松本訓導（井の頭公園わき玉川上水）の事件の直後だったので，朝鮮全道をあげての騒ぎとなった。当時のマスコミにもみくしゃにされ，自分がさそわなかったらという後悔や自責の念にかられ，どうすることもできない大事件であった。それ以後，明星でも宿泊をともなう行事の実施計画・行動については，若い先生が辟易するぐらいうるさかった。

昭和２年　明星学園，中・女学校創設のため大邱を去り，全家東京に転住。これより先，大正13年夏，明星学園赤井園長は講演のため朝鮮にわたり，３年後には明星学園に中学校・女学校を併設するのでぜひ上京されたいと懇望した。この時希望として「１学級30名，生徒総数150名を越えないこと，男女共学，無認可の学校，上級学校入試準備のいらない学校，武道と教練のない学校」等，長い官・公立学校の生活体験から得た理想を述べた。

昭和３年　明星学園中学校（旧制）の部長に就任。以来「生徒の人格を尊重しよう。彼等の個性を尊重しよう。彼等を英漢数で割り切ってはならぬ」という信念を，父母・社会に対して常に主張し，以後今日にいたるまで，明星学園の教育に全力を尽くした。

昭和22年３月　明星学園中学校（旧制）および女学校（旧制）校長就任。

昭和22年４月　明星学園理事就任。

昭和23年４月　明星学園高等学校（新制）校長就任。これより男女共学実施。

昭和30年５月　藍綬褒章を受く。

昭和30年８月　学園の振興事業始まるや酷暑の中を土地拡張のため奔走し，夕刻学校において眼底出血の

ため病床に就いた。小康を得るや再度振興事業達成のために活躍したが，そのため益ゝ健康を害した。

昭和39年2月　照井猪一郎の逝去に伴い，明星学園中学校長・小学校長兼務。

昭和39年5月　学園創立40周念記年式典を行う。

昭和40年3月　卒業式を行い，卒業生全員と握手したのが最後となった。

9　明星学園の後援者

(1)　明星学園の初期のころの後援者

茶郷　基　永中金山経営者・透視者・漢方薬通人

◇　創立準備金3千円◇小学部5教室・事務室・小使室・便所等109坪建築費1万2千円（古賀建設へ直接支払）◇大正13年4月～14年6月まで，15カ月，月々380円宛，経常費として寄付　◇14年年末ボーナスとして500円寄付　◇見せ金小学校開始の時，ラサ島燐鉱株式額面4万円（九鬼紋七名義）を貸してもらう◇中・女学校開設の時，北海道炭鉱株式額面7万円（内藤幸太郎名義）を貸してもらった。

山之内兵十郎　山之内合資会社社長

◇　大正14年秋，500円寄付　◇大正15年3月，小学校5，6年の教室36坪建築費3千円寄付（最初の校舎は，天井・壁はすべて紙張りだったのを，普通のものに改めた代，3千円）◇昭和2年4月，小学校音楽教室・図画教室48坪建築費のうち3千円寄付　◇昭和2年中・女学部開設の後援会費として3千円寄付され，後援会の最高顧問◇栃内曽次郎・水野錬太郎・島芳蔵（正金銀行理事）のような有力な人々と連絡をとりついでくださった。

井野正次郎　井野工務店主

◇　古賀建設の第1期建物と，川井氏寄付の女学校割烹・裁縫・理科室を除く，全建物（約586坪）の建築を請負われ，資金準備のないときは立替えてくださった。それがご逝去の昭和15年には，1万6千円になっていた。それを令夫人はすべて帳消しにしてくださった。

川井源八　三菱電機会社社長

◇　中・女学校開始の時の，後援会費3千円寄付◇三菱銀行深川支店の建物を移築して，女学校割烹室・裁縫室・理科室・校長室・職員室にしてくださった。この移築費4千円負担された。◇四男清君死亡の時，記念として1千500円（天体望遠鏡1台），日時計建造費等寄付された。◇中・女学校開始の時，見せ金として小田原急行株式額面1万円を貸してくださった。

服部春一　国際図書社長

◇　中・女学校開始のために非常な尽力，奥さまは母の会結成の中心。見せ金，現金1万円を貸してくださった。

加藤隆義　海軍中将

◇　中・女学校開始後援会費3千円寄付された。

尾高豊作　刀江書院社長，郷土教育連盟会長

◇　服部春一氏の友人として近づき，地域社会教育の思想を導入，赤井・霜田の著書を多く出版，中・女学校開始の時，見せ金現金2万円を貸してくださった。◇霜田の外遊の時1千円，赤井の外遊の時1千500円寄付された。もっといろいろ期待し，計画しておられたのだが夭折された。

木谷吉次郎　金沢の富豪，赤堀郁太郎氏を通じて知り合う。

◇昭和5年から10年まで，毎年500円ほどを寄付された。◇11年，基本財産として1万6千円を住友銀行に信託してくだされ，終戦で封鎖されるまでに3万2千円ほどになった。封鎖を解いてもらって戦後の再建の資にした。

市村今朝蔵　日本女子大学理事，軽井沢の大地主

◇上野原の土地分譲の権利を与えられ，約3万坪を1坪5円（昭和4年）で分譲し，1坪につき2円市村氏へ支払うことを承諾されたが，それもしばしば寄付された。別に学園の寮の敷地として，3千坪寄付された。後，財団の理事，法人の理事長として学園経営に非常な尽力をされた。

井尻千代子　小樽市の富豪

◇子女を明星に入れられ，夫人名義で2千円寄付された。紹介されたのは久保田明光氏・杉山清氏。

正田十吉　正田飛行機製作所長

◇中学校理科室建築の時，2千500円寄付された。◇赤井園長の外遊の時，1千円寄付された。

茶郷　基　（昭和8年4月24日亡）

——明星学園創立のときの唯一人の後援者——明星学園創立趣意書のおわりに，「森幽に，水清き井の頭公園脇に千坪の土地と，ささやかな学舎を得て，友情に燃える私達が，隠れた後援を誓われる一教育愛好者に励まされて，新しい教育の樹立を企てました」とあるが，その「一教育愛好者」というのが茶郷基さんだったのである。学園創立の議が起ったのは大正13年2月24日のことで，学園を建てるためには，資金を得ることが何よりも必要なことであった。その後援者として第1に白羽の矢をたてたのが茶郷さんだった。



茶郷　基（昭和８年４月24日亡）

２月17日の午後，赤井が代表格で国分寺のお宅へ伺った。茶郷さんとはその前年からおつき合いがあり，お嬢さんの喜久子さんが，成城小学の１年生で，照井の受持であったことから，当時問題になっていた成城学園の郊外移転の土地物色のために，小原主事（玉川学園総長）とともに，しばしば国分寺のお宅へ相談にいっていた。そして茶郷さんは，赤井と同郷の石川県出身であること，朝鮮の永中金山を経営しておられる富豪であること，学生数人に学資金をみついでおられることなどを知って，深い尊敬を払っていた。お宅は，今国分寺駅の南口になっているあたり一帯で１万坪の屋敷は，瀟洒な作りの家であった。赤井は新しい学園を建てねばならないことになった事情を概略お話して，「１万円」助けていただけないだろうかとお願いした。貨幣価値のずっと高い時代ではあったが，１万円で学園が建つものでないことはわかっていたが，突然のお願いだから遠慮したのと，これだけあればまずスタートすることはできようし，スタートができれば，後はまた後，といったような大まかな考えであった。茶郷さんは即座に，「１万円ではたりなかろう。当分必要なだけの校舎を建ててあげよう。設備費も，経常費の不足も出してあげよう。」と，ほんとうに棚からぼた餅のようなお返事であった。そして至急に「敷地」を選定するようにと注意された。

２月29日，いまの小学部の敷地をきめると，すぐに１年間の地代500円を千駄谷の赤井の家まで持ってきてくださった。校舎109坪（教室５・職員室・小使室・便所）をお知りあいの古賀貞周氏の会社へ委託してくださった。契約は赤井と古賀氏の間に作ったが，支払はすべて茶郷さんが，という了解のもので，契約高は1万2千円であった。設立認可願を東京府へ提出するとき，赤井は茶郷さんに設立者になっていただき，われわれは雇用人にしてくれと頼んだ。設立者は相当の資財をもっていることを示す必要があったのだ。それに対して茶郷さんは「あなたがたのために建ててあげるのだから，赤井が名義人になるように，資金をみせる必要があるならばこしらえてあげよう。」といわれて，ラサ島燐鉱の株式4万5千円を赤井の名義に書換えてくださったので，赤井はにわか大尽のような顔をして認可願いを出した。

２月の末にはじまった話が３月末には校舎建築にかかり，児童募集のちらしを配るというスピーデーな進行に，成城の人々はじめ知友の者は目をみはったものである。われわれも鼻高だかであった。ちょうどダルトン案の創始者ミス・パーカストが来て，各地で講演をした時であった。赤井は女史の通訳をしてまわって歩いて，いたるところでお祝いをいわれたりした。みんな茶郷さんのお陰であった。茶郷さんは多くの知人をもっておられた。栃内曽次郎（海軍大将）・加藤隆義（子爵・後海軍中将）・水野錬太郎（文部大臣）・床次竹次郎（内務大臣）・島芳蔵（正金銀行重役），これらの方々

のお宅へ赤井をつれていって，教育についての意見を聞かせたり，後援をお願いさせたりされた。

校具備品費として2千円いただき，敷地の地ならし，周囲の垣根つくりに出入の植木屋をいく日もよこし，ヒバ苗をたくさん持ってきてくださった。こうして5月15日開校式をあげた。ただし，児童は1，2，3学年の3組21人しか集まらなかった。大震災後の郊外移住は始まっていたが，井の頭公園南の学園付近は昔からの農家が2，3あるだけの，文字どおりの武蔵野だから，1千枚くらいのチラシをまいてもそうこないのが当然であった。しかし，これでは教師4人，小使夫婦の6人が食うことはできない。そこで茶郷さんは4人の教師の月給380円を毎月補給された。月謝6円，21人分の126円は小使給と諸雑費にあてればよいことになった。まことに呑気な経営であった。そのうちに児童数はだんだんふえてきた。夏の休みに開いた夏季学校の宣伝も手伝って，9月には40名近くになった。それでも茶郷さんは，はじめどおり380円ずつ出してくださった。明星学園のものが，その後財界の不況にさらされた時でも，屈託のない顔をしてやっていたのは，初期の茶郷さんに助けられた時分にできた，悠々とした校風のためであった。

茶郷基さんはもと神職の家から出られたので，古神道によく通じておられ，しばしばそのお話をされた。われわれが「先生」と呼んだのはこのためだった。さらに漢方医薬の造詣が深く病気療養の人びとによい注意をなされた。ずっと後のことであるが，わたしの長女もお世話になった。「医は慰なり」というお言葉をわたしは今も至言と思っている。われわれが「先生」と呼んだわけもここにもあった。むろん教育についてもいろいろなご意見をもち，よく教えられたが，いわゆる「新教育」の意気に燃えていたわれわれは，かえって反抗を試みることもあった。その中でも「習字」と「制服」の問題はずい分議論した。「画一」と「模倣」を何よりも嫌ったわれわれは，どうしても聞きいれなかったのであるが，それから40年，時代の変遷もあるがもっと冷静に教えをうけるべきだったというような悔が感じられる。

修身の教育も熱心で，「幼学綱要」を現代風に書きかえて，各学校へわけることを考えつかれ，照井に書き直してもらい，わたしは近衛文麿さんの題字をもらってきたりして，立派なものをつくり数万部売ったのであるが，出版社がずるくて茶郷さんも照井も骨折り損になったのは気の毒であった。茶郷さんのこうした力を利用して教育雑誌を出した先生もあったが，これはうまくいかなかった。第2年目には，新1年生が予定どおり30名入学し，2年以上の組は皆20名以上になったが，第1年同様に経常費を補助していただくことになっていた。

ところがその6月に，朝鮮の大雨洪水で永中金山にはひどい山崩れがあり，取引銀行は戦後の第1の不況という，二つの不幸が重って起った。口に出してはいわれなかったが，その被害は大変な



茶郷シヨ（昭和47年2月24日亡）

ものであったようだ。われわれは進んで経常費の補助を辞退して，自立の方策をとることにした。その後山之内兵十郎さん・井野正次郎さん・川井源八さんなどに後援してもらったり，母の会・後援会をつくってもらったりして，多くの方々のご援助を願ったが，それは当初の茶郷さんの援助によって，「愛される校風」ができていたからである。茶郷さんは国分寺の屋敷を処分して，小金井駅近くに静かな家をたてられて隠棲の生活にはいられた。

昭和3年小学校の第1回卒業生が出て，中学校・高等女学校を開始したときには，建築資金4万円は，当時の父母の方がたがつくってくださった。しかし財団法人の基本金11万円を積んでみせねば，各種学校として発足しなければならないので苦労した。茶郷さんは北海道炭鉱の株7万円を提供してくださったので，関係者一同愁眉を開いたことであった。1校の設立認可でもなかなか困難なことなのに，中・女2校一度に認可されたのは全く異例といってもよいことであった。これも全く茶郷さんのお陰である。

書がすきで，きれいな字をかかれた。毎年1月2日に私は必ずお宅へ伺って書き初めをしたものである。茶道にも通じておられ，好まれ，名月の夜私たち夫妻が招かれて，お座敷で月を眺めながらお茶を教えられたのも忘れられぬことである。（「道」59号，赤井米吉記）

☆　茶郷夫人　　シヨ夫人は，表だつことを好まず主人の意志にそい，あくまで陰の後援者としての立場を堅持して，父母会・母の会その他の公的なところの活動は控えていた。ただ創立当初は準備も整っていない時であったため，多少，表面的なこともされた。創立開校の日は150人分のいなり寿司を折詰めにして徹夜で作り，当日は祝賀の会食に間にあわせた。校庭に樹木も少なかったので出入りの植木職人に植樹させたり，自宅の庭木を移植させたりした。後年，女学校の課外にお茶とお花の授業などをされた。

39年の30周年記念式典に，学園にとって第1級功労者の1人として茶郷基の功績が表彰された折，次のようなことを語られている。

「主人は在世中は明星学園の創立にお手伝いしたことなど外部の方へはいっさい洩らしませんでした。ことに，こどもに対しては絶対に秘密にしておりました。‥‥略‥‥はじめ，学園は先生がたった4人でしたが，主人はその方々，特に照井先生のご人格に接して，あんな立派な人のためなら，自分はどんなお力添えをしても惜しくないと常に申しておりました‥‥略す‥‥。」

（「PTA会報」30周年記念号から）

山之内兵十郎　　（昭和18年2月9日亡）

「自らも教育畑の出身であり，けわしい荊の道を切り拓きながら8人の子どもを育てあげ，ここま



山之内兵十郎（昭和18年２月９日亡）

で生きぬいてきた両親が，新しい教育をめざして立ち上った４人の教育者（赤井・照井夫妻・山本）の熱意に心ひかれぬはずはなく，で，父は茶郷さんに続いて発展途上の明星学園への協力者の１人となった。」と，長男の一郎氏は「巴と共に40年」の小冊子の中で述べている。ついで次のようなことも記されている。

「むさし野での生活がはじまった時（大正11年），まず両親の心を痛めたのは，末の妹安子の学校のことではなかったろうか。父母のやや年老いてからの子どもだった故か，もともとあまり健康には恵まれていなかった。‥（中略）‥ ひ弱な小学生を，空気のきれいな田園からほこりっぽい東京に電車通学させるには忍びなかったのだろう。 折も折，大正13年５月，緑にかこまれた１千坪の畑の中にぽつんと建てられた100坪そこそこのお粗末な校舎――明星学園は誕生し発足した。妹の安子はこの年，明星学園の３年に編入した。」

こうして山之内兵十郎さんと奥さんの鈴衛さんとは，創設期後の小学校の校舎の完成に，また，中・女学校の開設にあたり，母の会・後援会の最大の推進者として，明星とともに歩まれたのである。

明星学園の最初の校舎は４年生まで収容できることになっていて，創立第３年目，５年生ができるまでには教室を増築しなければならなかった。創立の翌年，大正14年の秋，学園の経営のつごうから，それまでの月謝６円を８円に値上げすることになった。私立中・女学校で３円～４円というのが相場のとき，小学校で８円もとるのであるから，父兄の中には不満の空気がおこった。新聞に投書してこの処置を非難された方があって，東京府からお役人さんが実情調査に来たりした。このことがきっかけになって，５，６年の２教室38坪（４千円）が15年３月に落成し，新しい１年生を迎えられたのは全く山之内さんのお陰でした。

このころリトミックの研究家で，フランスで修得した小林宗作氏は，この技能を小児に実験するため，幼稚園の構想を山之内さんに説明された。そこで山之内さんは，明星学園付属幼稚園を考慮されたが，明星学園としては小学校の図画室・音楽室を増築すること，さらに中・女学校開設の準備が急務であったので，その方の援助をお願いした。昭和２年，まず，音楽室と図画室が建てられ３千円の寄付をいただいた。その後，中・女学校開設にあたり，その資金作りのため後援会の最高顧問となって，毎週１度山之内邸で会合し，１口30円，100口を山之内さんは持たれ，110人で４万円を建設資金として学園に寄付された。

――開校後まもなく，山之内さんの末娘が３年に編入され，その年の秋，舶来の蓄音機を寄贈された。それを持ってきた人が「山之内家」と染め出したハッピを着てきたのを大変悪いことのようにいわれて，丁重なわび状がきた。山之内さんは，山之内の寄贈ということを人に知らさないように希望しておられた

のである。山之内さんはこんな方であった。——

☆　山之内夫人　（昭和16年9月2日亡）

中・女学校開設のための資金つくりの目的で，明星学園後援会が母の会の推進で昭和2年の秋結成された。後援会の数人の役員が毎週1度山之内邸で会合した。そういう時の接待は鈴衛夫人が只一人でなさった。人事の問題・金銭の問題がしばしば露骨に論議されるので，女中さんなどの出入りをさせないようになさったのである。それほど用意周到な方であった。

——鈴衛夫人が逝かれたとき，赤井米吉は，次のことを弔辞で述べている。

はえばたて，たてば歩めの親心
わが身につもる老もわすれて

の古歌は，鈴衛夫人のことを歌ったものであるといわれた。8人のお子さまを育てられた親心，明星学園・巴幼稚園を世話された親心，明星学園母の会の若いお母さんたちの世語をなさった親心。本当に「親心」の化身であった方である。——大正14年の夏，30名あまりの児童をつれて三浦半島の三戸，福泉寺に泊って10日間の臨海生活をした。鈴衛夫人は安田董子さんと二人で炊事係として同行なされた。これからのち，随分永く，臨海生活・林間生活の炊事はお母さま方に頼むことになったが，そのもとをつくってくださったのはこのお二人であった。　（原田満寿郎記）

井野正次郎　（昭和13年3月4日亡）

武蔵野市吉祥寺の素封家の出で，現在吉祥寺の繁華街コスモデパートの前で，戦前は工務店を経営していた。

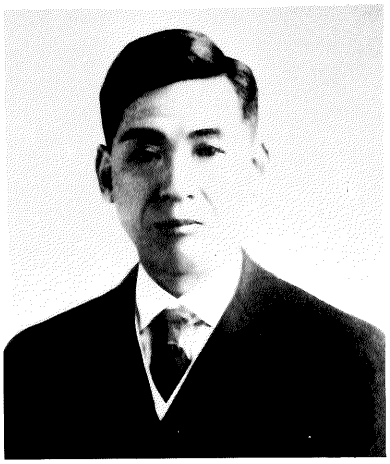
1人娘の富枝さんが，大正14年に1年生に入学され，学園の父兄となった。この年，小学校の5，6年の教室，ついで音楽室と美術室，引き続いて女学部と中学部の全建築を請負われた。当時，学園建築はすべて後援会でしていたので，後援会役員の山之内兵十郎・新締五郎が井野正次郎と交渉し，契約・支払などにあたっていたが，学園責任者の赤井米吉とは，話しやすかったのか，よく懇談を重ねていた。

☆　井野夫人　井野夫人は次のことを話されている。

亡き主人は，明星学園の先生と親たちとが常に温く結び合って新しい教育に尽す熱意に動かされ，また諸先生の徳を慕って学園建設に対しできるだけのことをしたようです。

娘が大正14年から12カ年学園で育ち，今日では学園の教師としてお世話になっております。また孫たち4人もそれぞれ12カ年学園で教育され，卒業させていただきました。

創立当時から大へん永いつきあいでございます。



井野正次郎（昭和13年3月4日亡）



市村今朝蔵（昭和25年6月9日亡）

市村今朝蔵　（昭和25年6月9日亡）

軽井沢の土地と学園初期の経営　昭和6年のこと，市村今朝蔵氏が軽井沢の土地125万坪を箱根土地へ委託分譲されることをきいた。江川信吾（学園父兄）とともに昭和6年5月頃下落合のお宅へいって今朝蔵氏に会い，内3万坪を明星で分譲させてくれと頼んだのである。成城学園が成城を分譲してもうけた噂に刺激されていたので，むろん明星教育の趣旨などをまず詳しくお話しした。いたくこれに共鳴されたようで，「何のために分譲をするのか」ときかれたので，「明星の土地3千坪ほどを頭にうかべて，林間学校をつくるため」と答えた。明星学園自体が経営に苦しんでいることをいっては，相談がまとまらないと思ってそのことはいわなかった。　すると市村氏は「3千坪をまず寄付しましょう，そして3万坪は坪2円であげましょう。」と即座に答えられた。全くのたなぼたであった。

あとからきくと，われわれが帰ってから今朝蔵氏はご夫人に，明星学園のよい学校であることを推奨され，　3千坪寄付することにしたこと，来年長女米子さんを明星へ入れることを宣言されたそうである。江川氏とわたしは，このことを後援会の岡崎氏に話し，越えて6月に岡崎・新・江川・赤井4人が現地視察に行き，今の明星寮のところで市村氏にも会って約束をきめたのである。その夏江川氏と霜馬昇平（後の中島）の2人は夏休み中軽井沢へ出張して，土地整理をなし，秋のはじめに後援会をひらいて，土地分譲のことを発表した。浅間山の見える谷川のふちは5円，内部は3円（箱根土地は8円だった）。こうしてわたしの知っているものは，森川300坪（後に700坪），加藤300坪，粟田500坪，寿美井500坪，末光200坪，半田150坪等がぞくぞくと売れた。代金は即金もあり，分割もあった。

学園寮建設　昭和5年分譲地の宣伝の意味もあって，そこに寮をつくることになり，下間建築会社という田舎出の小資本のものに請負わせた。総坪数70坪，工費4千200円，随分時間がかかって，初めて生徒が行った時はまだできあがらず，星野温泉に3泊ほどしてようやく移った。この建築費2千200円は支払えたが，売上金が集っていなかったか，学園の建築の方に使ったかして，2千円は支払われなかった。それを執達吏をかけると威嚇されて後援会の問題になり，江川氏と大橋氏がひどくやり合ったことがあった。

結局市村氏から寄付された3千坪の内，1千坪を下間氏にわたして決済しようということになって，市村氏に了解を得た。3千坪の土地と70坪の建物を赤井名義で登記したのは，財団の名義にすると転売が困難である。学園経営のために，時には全部を手離す必要も起ってくるかもしれない

から，赤井個人の名義にしておけ，というのが後援会の採決であり，市村氏はそのころまだ理事にはなっていなかったが，そのことを了承していたのである。

分譲収益　軽井沢の分譲は後援会の事業としてなされ，その収益は学園へ出すという建前であった。学園建築はすべて後援会がなし，建築費は後援会が直接支払うという建前であった。だから，建築会社の井野正次郎氏のところへは，新氏・山之内兵十郎氏がしばしば出向いておられた。　しかし，軽井沢分譲の金を市村氏に支払うべき時（土地名義変更），支払うことができないと，　わたしは江川氏とつれだって行って，その金を学園の方に使ったことを申しあげ，土地代を献げないで名義変更の書類に判を押してもらったことがよくあった（大抵年末だった）。井野氏は，新氏に請求してもしようがないとわたしの家へ請求にこられた。来やすかったのであろう。わたしは後援会の内情を知っているので，延期を願ったこともよくある。学園長として最終の責任をとるべきであることはいうまでもないが，後援会の度々の支払が赤井にかぶされていることもわかってもらわなければならない。

なお一つ，軽井沢分譲にもっとも働いたのは江川信吾氏であった。大橋氏・志垣氏も少し参加したが，分譲したものの手数料を多少もらう程度であった。この江川氏の奔走に対する報酬は全然定っていなかった。父兄有志の奉仕ということであった。しかし，軽井沢に滞在の期間も随分永いことであったし，その間何の職業もなかったので，その間の氏の経費は大変なものであったであろう。したがって，軽井沢分譲の費用のある程度のものが，同氏の活動費として使われ，それが市村氏への不納金ともなっていることは否定できない。これは江川氏を責める意味ではなく，素人商売の落度として許されなければならないこと，このために市村氏に相当迷惑をかけたことを明らかにしておく必要がある。江川氏はそのうちに北海道へ転住され，岡崎氏は仙台へ，新氏は鳥取へ疎開されてしまったので，結局は赤井1人が責任者のような形になったのである。そのころまで，土地代金はもらったが名義変更のできないものが相当にあった。

市村今朝蔵氏の理事就任　財団法人設立の当時は，赤井理事長・岡崎理事・内藤理事の3人であった。内藤氏は茶郷氏に依頼されて 7万円 のみせ金をつくってくれた故をもって理事に加えておいたので，そのみせ金（北海道炭鉱株）を返したので理事をやめてもらい，代ったのは第2代後援会長赤堀郁太郎氏であった。その赤堀氏は昭和10年神戸市へ転住になったので，代って市村氏に理事になってもらい，これから終戦まで，赤井・岡崎・市村の3人で学園経営にあたったのである。市村氏はきよじ夫人に対し，「分譲の金は，はいったことはないが，明星の建物がだんだんできているからいいよ」といわれたとのことだ。

昭和15年夏，赤井が寮で肺炎になった時には，お二人が自動車でかけつけて，お宅へつれて行き

赤井の妻を電報でよび，5日間市村の2階で療養さしてくださった。赤井はそれから下山，直ちに荻窪の衛生病院にはいって3週間いた。明星30周年記念式の時，市村夫人も功労者今朝蔵氏の代りに金5千円受けとられたもののうち，1千500円で今朝蔵の写真を入れる額縁を買い，残り3千500円はのし袋のまま，ふじ幼稚園に寄付してくださった。「記念代のもっともよい使い場」といって笑っていかれた。

学園負債整理の一助として軽井沢の土地処分の件を話した時にも，記念として500坪ほど残しておいて，あとは適当にしてよいと，市村寅之輔にもいわれ，衣笠武夫にもいっておられた。なお，赤井の名義になっている軽井沢の土地は，終戦時きれいな土地謄本が手元にあったので，他の書類とともに照井猪一郎に渡し，財団のものに登記してもらった。（昭和39年9月，赤井米吉記）

明星学園への期待

実生活の中からの一番切実な希望の一つは，信頼して事を托しうるという条件が充たされることだろう。何処を見渡しても不安・疑惑が旺溢している現時において，特にその感が深い。生命・財産の安全・保障のためには皆相当努力尽瘁する。しかし，ある意味ではそれ等以上に貴いものに対して，慎重な注意を欠く場合がある。それは子女の教育，特に如何なる学校に委せるかという問題についてである。便宜的に付近の公立学校へ無反省に通わせる父兄が一番多数を占めているであろう。世俗的な名声にかられて，無批判に特定の学校へ入学させる保護者も相当にある。そんなことで大切な子女の教育に忠実でありうるといえるであろうか。ここに，父兄として責任ある考慮の必要が生れる。

当然にまず，全く信頼しきって子女を托しうる学校を何処に求めたらよかろうかという問題にぶつかる。その問題の解決には，第1に現在の教育の弊である画一主義・形式主義の泥田に沈淪していない学校を選ばなければならない。次に，進んでは教育原理の真諦に役立つ学校を見出さねばならない。なお，学校の環境，教育当事者の個々等についても考査がめぐらされることも必要であろう。それ等の条件が満足に充たされて初めて，安心して，信頼して，子女を托しうるということになるのだ。そうした条件を備えた学校は，暁の星の如く極く少ないではあろう。

だが，皆無だといわない。私はこうした得がたい学校の一つにわが明星学園を挙げることができる。私は，子女をもつ友人・知人に会うごとに無条件に明星学園を推称してきた。それは6カ年の経験を経た推称である。教育は一種の科学であり，芸術である。粗雑な科学や，低級な芸術に満足しているものは論じない。いやしくも，子女の天性を保全うし，それに属する本性を教養して，人生全体の生活を完成させる基礎を生み出す安全の場所を見出す真実の責任を感じているならば，明星学園を選ぶに憚らない。また，その発展を熱望してやまないであろう。私は，この短い言葉を明

星の現在の父兄とともに，子女の教育に腐心する世の父兄に送りたい。　（「ほしかげ」17号，昭和10年12月）

市村今朝蔵の言葉　――学問は正しく生きる道――われわれが学問をするのは，われわれが正しいことを考え，正しいことを語り，正しいことを行うためである。人間社会についてのいろいろな学問では，まず「人間の価値」と「人間の尊厳」に確信を持つことが大切である。次に「国家」や「民族」についての明白な意識を持つことが必要である。さらに「人類」について覚醒することが不可欠の条件である。学問は自己完成の一つの道であるが，それによって，国家に，民族に，人類に貢献するものでなければならない。

市村今朝蔵の略歴
大正12年　早稲田大学政治経済学部政治学科卒
大正13年９月まで　ウィスコンシン大学・シカゴ大学・コロンビア大学留学
昭和９年　日本女子大学教授・早稲田大学専門部講師
昭和20年　早稲田大学法学部講師
昭和25年３月　早稲田大学経済学部教授
昭和25年６月　逝去
（主要著書）「近世政治思想史」「英国の憲法」「英国憲法の理論と実践」（王朝篇）「政治概論」（原田満寿郎記）

木谷吉次郎　（昭和24年１月16日亡）

木谷吉次郎は石川県の人で，大正期の新教育運動の先達としての役割を果した人である。明星学園ならびに新教育運動に情熱をもやす赤井米吉の熱意にほだされ経済的援助を惜しまなかった。明星学園と翁との出合いは，昭和４年秋に明星学園後援会長で元石川県立図書館長の赤堀郁太郎の紹介によったものだった。赤井が翁に明星学園の後援をねがったところ，即座に１千円を，そのあと年末に５千円を寄付され，ついで赤井が昭和11年に外遊の折，挨拶に伺ったところ，このさい考えていたことを実行したいとして，１万６千円を住友信託へ信託され，学園の基本財産にと寄付された。昭和23年，預金封鎖に会ったので，事情を話して解除され，元利金３万２千円余を学園の戦後復興のために使わせてもらった。（原田満寿郎記）

(2)　明星学園後援会で働いた人々

初代会長　岡崎栄松
会計主任　新諦五郎
最高顧問　山之内兵十郎

二代会長　赤堀郁太郎

会計主任　柳井貴一

中浜慶三郎・江川金吾・大津盛吉・藤田信夫・大橋茂三郎・小川碇一・海老沢譲・加藤虎三郎・神田五雄・佐々木宗勝・田中留吉・今西兵衛・安田純吉・田中茂松・二村鐘・森繁太郎・森重操・木村基三

後援会

昭和2年の父兄110名，その後，入学の父兄30名余，後援会費1口30円――ただし，この中に，は前記山之内・川井両氏のものも含む。ほかに大口としては加藤隆義50口，加藤虎之助・服部春一氏など30口がある。計3万3千円となる。

(3) 明星学園が世話になった人々（明星学園を推進された人々）――初期のころ――

沢柳政太郎

明星学園の設立を認め，その顧問となることを承諾し，開校式・開校披露式のとき列席して，成城の分校のように設置するのであることを言明し，われわれを紹介してくださったので，成城の人々も邪魔することができなかった。その後，2回学園を見にきてくださった。これがわれわれを元気づけ，正常な研究を進める大きな力になった。

江川金吾

軽井沢分譲地事務長として尽力された。

富永謙治

学園の植樹について尽力された。

小西重直

長田新・沢柳政太郎逝去後，顧問として尽力された。

10 明星学園後援会 ――会の性格・方針・活動の経過――

後援会――A 昭和2年10月結成

昭和2年2月，明星学園「母の会」が誕生した。この会は今のＰＴＡのようなものでお母さんたちの自主的なものであった。学園の経済的な面の援助もするが，むしろ自分たちの文化活動をする

のが主目的であった。これが生れたのは，山之内夫人と安田夫人が中核になって，次第にグループが拡大されてできたのである。この母の会が父親を動かして「後援会」をつくらせたのは，この年の秋であった。

小学校設立の当初から茶郷基氏は中・女学校設置のことも了解してくださっていたのであったのが，1年余で小学校からも手を引かれることになって，中・女学校設置の望みは絶えた。

次の後援者山之内兵十郎氏は，女学校だけくらいなら引受けようといっておられたが，昭和2年，取引銀行の閉鎖でこれも絶望になったのである。

庄次竹次郎氏の女婿，遠藤重遠氏が経営していた城北中学の設立認可がとれず，援助を乞われたので赤井先生が参加して，これを明星の中・女学校にすることに奔走してみたがこれも絶望。

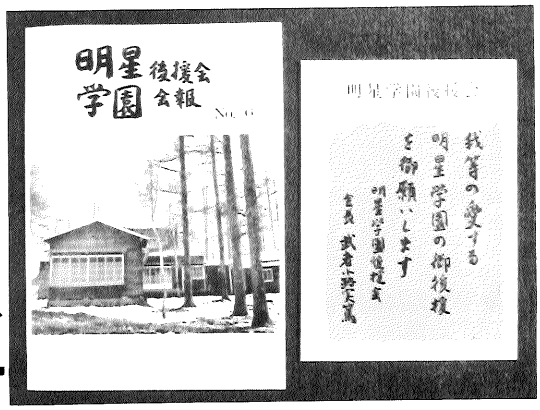
8月には上田八一郎氏が朝鮮大邱中学校を辞任して，明星の中学部主任として赴任ということになって，どうしても自力でやらなければならないことになって，中・女学校開設のための資金づくりが目的の「後援会」が発足した。10月に父兄総会を開いて1口30円ずつ拠出することがきまり，山之内兵十郎氏とほかに2人，100口の方があって全校110名が1人平均10口，全体で3万3千円が集ることになった。当時としては大変な金額だった。山之内さんが最高顧問，会長は岡崎栄松（晩年は仙台市長)。会計が新締五郎（航空大佐）すばらしいトリオでした。このほかに数人を加えた役員が毎週1度山之内邸で会合した。……　（赤井米吉記）

後援会——B　昭和22年6月発足

明星学園母姉の会と後援会が22年6月に結成された。この年は日本の教育制度が全面的に改編された年で，明星も新制中学校が発足し，職員編成は照井猪一郎校長・原田満寿郎（小学部から転)・旧高等女学校のスタッフ（恩地邦郎・高須いち・山岡幸子・吉川喜美代他）・佐藤加寿輔・鈴木満男（小学部から出講)，生徒は中1男女と旧高女全部が高女校舎。中2以上の男は中学校舎（現在の高校）といったものだった。

さしあたり新制中学の校舎4教室増築の後援に重点がおかれ，その実動の便宜と円滑の能率化のために，元来は一体であるべきものを，事業の面から2本建の形をとって第1期事業計画の後援にかり出した。

24年の7月には第1期事業計画も一段落を画し，さらに第2期計画に発展する気運に到着したので，後援会と母姉の会を「父母と教師の会」の1本建に改組して新結成への意見も一致し，24年9月25日「父母と教師の会」が新たに発足した。そして後援会は解消することになった。



後援会会報➡
（年1回発行）

○後援会（会長　二村鐘，副会長　牧野寛索・高野高之，事務長　滝本慶次郎，会計監査　沢山駒次郎・浜田善郎・岩岡与作）

○母姉の会（会長　神田亀代枝，副会長　小川初枝・山之内滋子，事務長　新山恵美子，会計　二村静江）

後援会——C　昭和35年9月発足

学園創立30周年の記念を期して，老朽化した旧校舎の改築と生徒増加に伴う新校舎の増築を目標に，学園振興事業の発足をみたのである。

その後，35年4月学園は創業の理想を生かし，新しい社会情勢への積極的な対処を含めて，12年一貫教育の徹底と目標に新しい教育体制（4・4・4）を確立した。これに相応じて振興事業計画もまた大幅な更改躍進を図り，全体としては約2億円に近い大事業となったのである。こうした事業の達成はまことに至難なわざであるので，学園の現父兄・旧父兄・卒業生および明星教育に深い関心を寄せられる方々を相糾合して，振興事業に協力のために，その経済的な後援を図ろうと考えて明星学園後援会を結成したのである。

内容としては，①　振興事業後援のための寄付金募集，②　明星の学園債募集その他資金造成への協力，③　建設資材の斡旋その他振興事業の推進協力。2億円近い大事業の内容は，中高校運動場拡張・小学校校舎の新築その他を含む。（会長　武者小路実篤，副会長　檜垣文市）

後援会——D　昭和40年6月改組，再発足

前のものを改組して昭和40年に再発足した。この年の5月17日に法人の理事会・評議員会・PTA・同窓会の各代表者の会議を開き，学園から改組の経過と今後の活動推進の協力などをお願いし，打合せ懇談した。改組の理由としては，組織的な活動が困難になったことで，「方針と規約」を改め，内容としては，学園に関心を寄せる方々に会員となって学園を後援していただくことになった。

具体的な仕事としては，前回の後援会と大筋においては同じであるが，次のようにした。学園経営の後援公費助成の増額運動，奨学金制度の設立，会報の発行である。規約改正の基本となったことは，前に述べたように会員制度とし，会員は会費に1万円（毎月2千円宛5カ年継続）を納め後援会の基金としたいということである。改組に伴う再組織の準備委員会と，その後組織された後援会理事会など5回程開催したが，「副会長」の空席のまま7，8月の休みにはいった。学校側としては，当時の後援会担当理事の原田が，今まで決められた線に沿って，会員勧誘の活動を開始し，その反響など打診してみた。

（会長　武者小路実篤，常任理事７名）

後援会――E　昭和41年９月，再々発足

改組後の後援会が副会長不在のためと，後援会の活動の普及推進に具体性が欠け，また会員となっても積極的な魅力とか，会員となった折，特典のようなものがないことなど，会員獲得に迫力が欠けているという批判もあった。それで41年の６月中旬の後援会常任理事会で話題となったことを素材として，関係者集って懇談をし，「自主的な運営」について検討し，次のようなことを決めた。

1　寄付金集めを，単に学校から委託されたようなものでなく，学園振興事業に幅広く寄与することを自主的にやる。

2　会員には明星の教育を理解してもらわなければならないので，そのために後援会の会員と学園の教師達と常時懇談すること。

3　会員になった場合は，何等かの形の特典をもてるようにしたい。
例えば学校の軽井沢・清里の山や南房の海の寮の利用，学校行事への招待など。

4　会員の呼びかけは，広く明星教育に理解と関心をもたれる方々ではあるが，学園債を対象とされている現父兄にもお願いする。

5　41年度の12年卒業生の父母には，早速お願いして集団で会員となってもらう。

右のような線に沿って，その後１，２回の会合を重ね規約も改正し，３名の副会長もきまり，常任理事の再組織も終って，今日の後援会のスタイルと活動となったのである。

（会長　武者小路実篤，副会長　酒井正三・板橋宗市・稲垣文子）

後援会――F

41年再々発足した当時は，大部分が卒業生の父母で構成されていた。その後，年々卒業のたびに卒業生の父母のかたがたに会員になっていただき，多数のかたがたが後援会を通じて学園とのつながりをつづけ，学園経営の陰の支えとなり，また後援会活動を通じて旧交をあたため，楽しい語らいや，学園の校外施設の 八ケ岳山麓清里寮，浅間高原の上野原寮，南房の千倉寮 での１泊旅行など実施している。最近では在校生，新入生の父母の入会を得て，１千名近い会員数となっている。

（会長　武者小路実篤，副会長　板橋宗市・川連拡子・深川道子）　（原田満寿郎記）

11　明星学園校歌・明星学園行進歌の由来

大正13年5月15日学園開校のあと1カ月ほどして，開校披露式をした。栃内海軍大将・羽仁自由学園長・小瀬成蹊学園小学部長・福祉北多摩部長など大人の祝辞ばかりで，小さい生徒は退屈そうにしていた。最後に21人の子供たちが立って,「ぴかぴか光るみ空の星よ」を歌った時には，来賓も子供たちも大きく背のびをしたようだった。むろん校歌があるわけでないから，唱歌の「星の歌」を歌わせたのであった。その頃はまだ武蔵野の面影は十分に残っていた。森の上に，野の末にあけの明星・宵の明星を眺めるのは心地よかった。われわれはまだ若かった。「将来」というものがあらゆることを約束してくれるものかのように思われた。

しののめの　空にさきがけ　ま輝く望みの星よ　とわにかがやけ。

たそがれの　空にきらめく　「とこしえの国」のしるべよ　とわに輝け

という祈がなされた。中学部女学部がはじまって明星にも校歌がほしいということになった時，これを次のようにした。

1　黎明の空にさきがけ
　ま輝く望みの星よ
　明星，明星，われらの明星
　とわに輝け

2　黄昏の空にきらめく
　「永却の国」のしるべよ
　明星，明星，われらの明星
　とわに輝け

そしてその頃中学部の音楽の先生であった吉原規さんに作曲してもらった。歌詞がこのように単純なものであったから，曲も静かで，荘重な，室内の儀式用には立派なものであったが，行進曲にはむかなかった。しかし小学部では今の行進曲ができた後も，かなり久しく両方を歌っていた。中学部のものには行進しながらいせいよく歌われるものが欲しいと思った。

昭和9年学園の10周年記念学芸会が外苑の青年会館で催された時，わたくしは偶然に父兄の北原白秋さんとならんで見ていた。お嬢さんの篁子さんが劇に出られるのだった。その時わたくしは「明星行進曲」を作ってもらいたいとたのんだ。白秋さんは心よく承諾された。そこで資料としてわた

くしの歌と学園の要覧をさしあげておいた。それには今も書かれている「強く，正しく，朗かに」が書かれていた。しばらくすると白秋さんから原稿用紙に「明星行進歌」が記されてきた。それが今歌われているものである。

「深き木立」は今の若い人々にはぴんとこないかも知れないが，戦争前までは井の頭の池の両側から新東京あたりまで樹齢40～50年の杉が深く茂っていた。「富士」は校庭から晴れた日の朝夕は望まれたものである。それらの風物がことごとく詠みこまれ，「校歌」といわないで，1篇の井の頭の詩としても立派なもの。それにわれわれのモットー「清く」「朗か」がよまれ，「若き魂」が歌われているので，われわれは有頂天になってよろこんだ。

曲は白秋さんのお知合いの細谷一郎さんにたのんで作ってもらった。それができてきたのは秋の運動会の少し前であった。さっそく練習して，運動会のあとの式の時にはじめて合唱した。白秋さんは夫人とともに来ておられたが，特に父兄席から出て生徒の前に立って聞いておられた。時々頭をかしげるようにしておられた。何か気にいらないところでもあったのであろうか。20年むかしのそのお姿がほうふつとする。

戦時中は何でも統制ばやりで，「校歌」も東京都の許可をうけなければならないというので提出した。すると許可にはなったが，「めざめ若き魂」を，「さめよ若き魂」と訂正せよとの条件がつけられていた。大詩人白秋さんの詩を訂正する官吏の無謀さにおどろいたが，暫くそのように直して歌っていた。戦争がすんでからまた元どおりになった。

明星学園の歌

赤井米吉　詞
吉原　規（いさお）　曲



しののめの
空にさきがけ
真輝（まかがや）く
望みの星よ、明星、明星
われらの明星
永久（とわ）に輝け

たそがれの
空にきらめく
とこしえの
国のしるべよ、明星、明星
われらの明星
永久（とわ）に輝け

明星学園行進歌

—北原白秋 詞—

力強く〔M.M. ♩=100 或は 120〕

細谷一郎 曲




のみなかみさながらきよらなりつ
のしのもとさちあれほがらなりつ
ねにおこのうめざめわかきたましい
ねにみがけりおもえとおきかがやき
ひびけそらとつちのこえごえみょうじょう
はなてめをばふじのあなたえみょうじょう
みょうじょうみょうじょうがくえん

明星学園行進歌

北原白秋 詞
細谷一郎 曲

1 黎明(れいめい),
霜(しも)に光(ひか)る明星,
池(いけ)は近(ちか)く,
ふかき木立(こだち),
我等学(われらまな)ぶこの水上(みなかみ),
さながら
清(きよ)らなり，常(つね)に行(ぎょう)う。
めざめ若(わか)きたましい,
ひびけ　空(そら)と地(つち)の声々(こえごえ)。
明星，明星,
明星　学園

2 残照(ざんしょう),
すでに光(ひか)る明星,
雲(くも)はなびき,
ひろき武蔵(むさし),
我等集(われらつど)うこの師(し)のもと,
幸(さち)あれ
朗(ほが)らなり，常(つね)に磨(みが)けり。
思(おも)え，遠(とお)きかがやき,
はてな目(め)をば富士(ふじ)のあなたへ。
明星，明星,
明星　学園

☆　昭和の始めのころの校歌

私が小学生だった頃,“しののめの空に先がけ，まかがやく望の星よ，明星・明星・我等の明星・永遠(とわ)に輝け„ という校歌があった。

武蔵野にひっそりと建っていた学舎(まなびや)のまわりは広々として，気が遠くなるようだった。「明星学園」といっても当時の世間の人達は首をかしげ，何処にあるのと反問されたものであった。

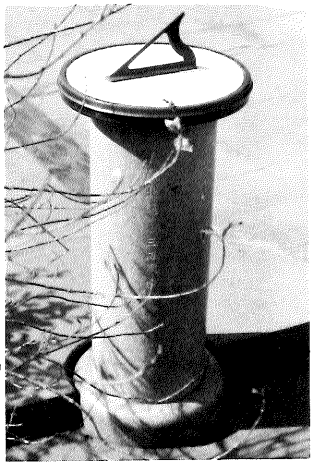
（7回生・堀瑠璃枝〈旧姓井尻〉記）

☆　日時計に刻まれた北緯何度

今年の正月休みに，何の理由もなかったが，ふと明星に足を向けてみた。およそ15年ぶりである。

心の中ではいつも生き生きとしたふるさと明星なのだが，いざ近づいてみると，道路は舗装されているし，人家がびっしりだし，曲り角さえわからなくなって，すっかり自信をなくしてしまった。ようやく板橋商店をみつけ（構えは違うが，かんばんで判断した），米屋を見つけ，それで曲り角がわかった始末。まるで浦島太郎だ。

無人の校庭にはいってみると，初等部の校舎が変り，昔運動場にあった坂がなくなり，桑の木がなく，



日時計　故川井清君の在校記念として川井源八氏から明星科学館の備品として寄贈された（昭和8年）

講堂がなく，裏の井戸がない（いまどき井戸がないのが当り前だが）。なんだかがっかりして帰りかけたら，花壇に日時計が立っていた。これぱかりは，昔だれかが折った針もそのまま，ひとり変らずに立っている。私は青銅の日時計をなでながら，しばし，甘酸っぱい回想の波に身をまかせて立ちつくした。回想の明星と，現実の明星。日時計に刻まれた北緯何度という数字が保証するように，場所はたしかに同じ場所だ。

しかし，建物や運動場や木は，30年昔の痕跡をほとんど，とどめなくなる寸前といってよい。学校のまわりの真新しい商店街は，最近ここに転居された人たちで，夕方の買物でにぎわっていた。私は，自分が過去の人間であるような不思議な錯覚にとらわれた。

回想の明星は，現実には存在しないにもかかわらず，現在の私の身体と精神を隠然と，しかし確実に支配している。それに比べて，現実の明星は，私との関係が少ないだけに，私にとっては影のうすい実在にしかすぎない。いったい，地球上の座標が変らないということ以上に，過去の明星と，いまの明星をつなぐアイデンティティはあるのだろうか。

無責任なセンチメンタリズムを楽しんだついでに，そんな無責任なことをちょっと考えた。

（19回生・新山英輔記）

12　「明星」という学園の名前

学園の名称は初めから同人の間にいろいろと議せられていた。「啓明」「井の頭」「黎明」「三鷹」「桜ガ丘」なども考えられたが満足されなかった。赤井米吉先生は次のように語っている。

「ある日，敷地を見に行った帰りに，夕暮の井の頭公園の森を逍遥した私は,その美しい星の光に驚かされた。何だか初めて星を見るような心地がした。それはいわゆる“明星„そのものではなかっただろう。しかしその時ふとこの言葉が胸に浮んだ。ついに皆の意見も“明星„と決定したのである。幼い子等の心の明星，人類の憧れる理想の明星，それを慕ってそれをみつめて伸びよう，登ろう，精進しようとの意味であった。」——明星の旗のマークもその意味で松岡政雄氏に意匠を頼んだ。氏はただちに銀の円い枠に赤の五出の星をはめたものであった。円は宇宙を表徴し，完全を示す。星は理想を現わし，赤は人間の至情を意味する。極めてはっきりとしたものであった。

☆　　☆　　☆

照井猪一郎先生は次のように話された。「名をきめてから体をつくりあげるものと，できあがったものに名づける場合があるにしても，命名にはそれぞれよりどころがある点では変りはない。

しかし私たちの学園の名をとったについては，それほど深い吟味のうえというほどの因縁はなかった。大正13年もやっと2月，数人の同志でいよいよ新らしい学園を創立しようという相談がまとまり，建設地もきまって,さて何という名にしようかと皆で案を持ちよったことに始まる。“桜ガ丘„だの“梅ガ丘„だの“むさしの„だの,まことに月並ばかりで誰も満足しなかった。その一つに“明星„というのがあった。

前の晩，私も二つ三つ考えていたその一つに“明星„というのがあった。しかしこの名に対する解釈の内容は，それぞれちがっていたようだった。明けの明星，宵の明星に象どって，『希望の光輝くしるべ，永遠の理想，魂のやすらいといこい』そうした宗教的感傷，観念的甘美も多分に含まれていたかも知れないが，私の場合はより現実につながっていた。その頃，私は星のぞきに熱をあげていた。大正12年の9月から，井の頭の池畔に下宿して，そこから成城学園に通勤したのも，一つには，武蔵野の大気が透明で地平線の低いことは，天象の観測にあつらえむきなことと，ほど近くに三鷹の天文台のあるということも大きな理由であった。ともかくあらゆる不便を忍んで空のためにここに居をすえたことにちがいはない。そういえば学園の建設地を井の頭にえらんだのも，私が先住していたことに動機したことも確かだと思う。

だから私は明星を“金星„の意味には限定していなかった。すべての天体をさしていた。天体の運行はすべてを超越し，すべてに調和しすべてに完全な唯一絶対の存在である。大武蔵野をおおう宏大な天球の一角に明星学園の姿を描き，そこから厳粛な黙示と示唆と暗示をうけることを生活の糧として来たまでのことである」と，このように語られた。

13　明星の校章

(1)　小学部の帽章



松岡政雄の意匠で，銀の丸い枠に赤の五出の星をはめたものである。

このマークの銀の円は宇宙を表徴し，完全を示すものである。星は理想を表わし，赤は人間の至情を意味するものであった。　（赤井米吉談）

明星という名ほど武蔵野にふさわしいとり合わせはない。

溢れる詩情とおごそかな神秘の中に，声なき牧歌をきき，象なき啓示を見る。この名を通して建

学の理想を偲ぶ時，われわれは常に悠遠なのぞみと不断のやすらいに恵まれる。

ところでこれを象徴して校章をつくるとなると，誰の頭にも平凡きわまる構想しか浮ばない。

白か青か赤か，それも五出の星というところ。何の変哲もないだけに，かっこうつけることは至難である。

下手をしないまでもサッポロビールの商標か，陸軍の徽章を連想させて教育の持つ風尚とはおよそ縁遠い。といって星の形から全く離れ切るには多分の勇気を要する。ああでもないこうでもないと，とどのつまり図工担任の松岡政雄に一任するより手はなかった。

ところで松岡政雄は至極あっさりわり切った。丸い輪の中に赤い五出の星をはめこんで，それですべてだ。

なあんだ。これならと一同呆気にとられたが，それは松岡だからできたのだ。コロンブスの卵なのだ。

さていよいよつくる段になると，それはなかなか手数のかかる工程を要した。枠になる輪は銀である。中の星も銀台に赤七宝を流しこんだもので地は切抜きである。

小さいマークの一つ一つを金鋸で引き切るのだから手数が夥しい。

できあがって見ると，なんとそれは素晴らしい効果的なものだった。

地は切り抜いてあるから服や帽子の色がすけて星の地色になるから一人一人佩用の感じがちがう。

紺の帽子につけると銀の枠と赤い七宝の星が紺色の空に浮くし，緑色の服につけると緑地に浮きあがる。

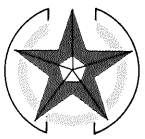
松岡君のねらった山もここにあったのだし，巧にビールや軍への連想を解脱した手腕も並々ならぬものとはじめてわかった。

円い輪は宇宙を意味し，地色は大空を表現し,赤い星は永遠に燃える若き生命を表徴したという。

戦争になって銀台がニッケルとなり，アルミになり，とうとう真鍮のプレスにまで成下って折角の名意匠も幻滅そのもの。

横川武の考案になるバッジの方が遥かに傑作だ。（照井猪一郎談）

(2) 中学部の帽章



昭和3年4日，中学部が創設した時，美術科担当の松岡正雄が右図のような帽章を考案されたので，それを採用した。

左右の半円形は東半球と西半球の意味で二つで世界を示し，下部にある線は東西半球を結合して

東西文化の融合を表わしたもの。そしてその融和の実現を計るのが明星学園の使命だというので，大きく星を掲げたわけである。（上田八一郎談）



戦後横川武によって円形の宇宙一杯に明星の明を図案化して右上部に拡げ，左下に金色の星，金星を刻んだ。

地を黒にしたものは高校，緑は中等部，赤は初等部とした。

松岡政雄は学園創設の年に美術教育担当で，就任した。（上野美校出身）

横川武は学園の第1回卒業生で昭和19年に学園の旧制中学に美術教師として就任した。（上野美校出身）

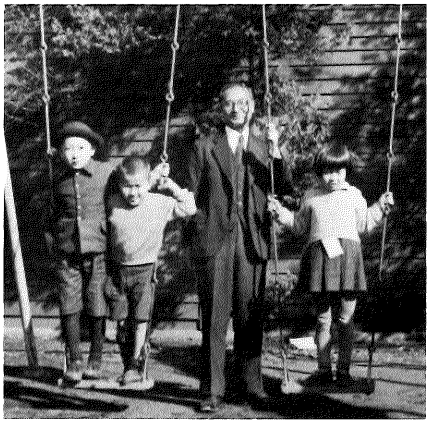


通学路　井の頭公園の中橋を渡って（大正13年６月）

写真で見る 50年の歩み

創立のころ

私が明星の教員になって赴任したのは昭和７年の４月の始めであった。担任は小学部１年生で，子供の数が21人，女の子がたった２人という極めて貧弱な世帯である。赤井園長・照井部長のもとに６年生担任から中島・五十嵐・安藤・音楽と習字の照井げんの各先生，画と工作は美校出の曽我・明田川，舞踊は石井小浪という優秀な陣容である。１年入学は21名であったが，卒業までに在籍した数は42名，父兄は一人一人それぞれに異っていて，軍人・実業家・貿易商・著作家(詩人と小説家)，音楽家(楽団のリーダー)・雑誌編集(改造編集長)・医師(小説「さかだち学校」に登場)・僧侶・牧師（兼幼児教育雑誌編集)・外交官・柔道師範・技師(写真家)，それに時局柄外国から引上げざるをえなくなった人もあり，中には日本語が思うように使えず，横文字の雑誌を見ている子供もいた。学区がないから通学範囲が広く１時間以上もの距離を乗換えまでして通って来る者もいて，よくも無事故で通せたものだと不思議なくらいである。



音楽室の裏がわで　赤井園長と子供(昭和16年)

１年生は教科書は「明星読本」１冊だけで，ランドセルにはいっている物は弁当・ノート・クレパス・筆箱・ブロック・ナイフ・物指・虫めがねなどのたぐい。朝学校で頭数が揃うとランドセルを背負って森へ出かける。門を出れば林があり麦畑があり原っぱがあり，柳の土手があった。森の中で話を聞いて歌を歌って，本を読んで，絵をかいて，蛇やとかげを追い回して，木登りをして，蜂の子を食べたり焼藷をしたり，苗代の泥に靴を取られたり，時には公園付近の薄の中で若い男女の心中死体を見た噂話までとび出すこともあった。武蔵野の片鱗はまだ残っていたのである。しかし６年の年月は急激に井の頭の自然を蚕蝕していった。帝都電鉄（井の頭線）が吉祥寺，渋谷間に敷かれてからである。紙を張らない障子を立てていた麦畑の中の農家が次第に変っていった。くぬぎ林が工場の敷地に変った。



⬆創立の折に掘られた井戸
三十数年間この水で先生も児童ものどをうるおしていた

私の赴任は昭和７年で，満州事変の翌年であり，赴任の翌月には５・15事件が起り，翌８年には京大の「滝川事件」，文部省は国定教科書を「スヽメ，スヽメ，ヘイタイスヽメ」式に改訂し，11年には，２・26事件。12年に日支事変と，第二次大戦に向かって国家統制の急スロープを国民はいや応なしに直滑せしめられた６年間であった。かつて明治20年代に欧化主義への反動として復古思想が舶来文化を圧迫し，ミッション系の私立学校の存立が危くなり，やがて日清戦争となった，あの当時の状況とよく似ている。大正から昭和初期にかけて起った新しい教育理念「人間」



➡初等部の教室の前
照井小学部長
校舎はなくなったが木々（もくせい・あおぎり・うめ）は残っている
（昭和15年）

は「日本人」に切り換えられ，生まれて間もない童謡は軍歌に変るし，体育は軍事教練に変質する，芸術教育も，個性も自由もかげが薄れてしまった。これに加えて昭和４年頃をピークにした不景気という暗雲が低く垂れ込めて，私立学校の運営の困難はわが明星学園のみではなかったようであった。

（中村勇記）



創立当時の照井げん・赤井米吉↑
山本徳行・照井猪一郎の諸先生

↓筆者の中村先生と中村組の子供たち（昭和８年）



開校記念　児童１，２，３年（21名）
職員（４名）それに父兄（大正13年５月16日
――15日が雨のため翌日写す）↓





開校時の小学部全景（大正13年）



全校ボール遊び　4人の先生と1，2，3年21名の子供たち（大正13年）

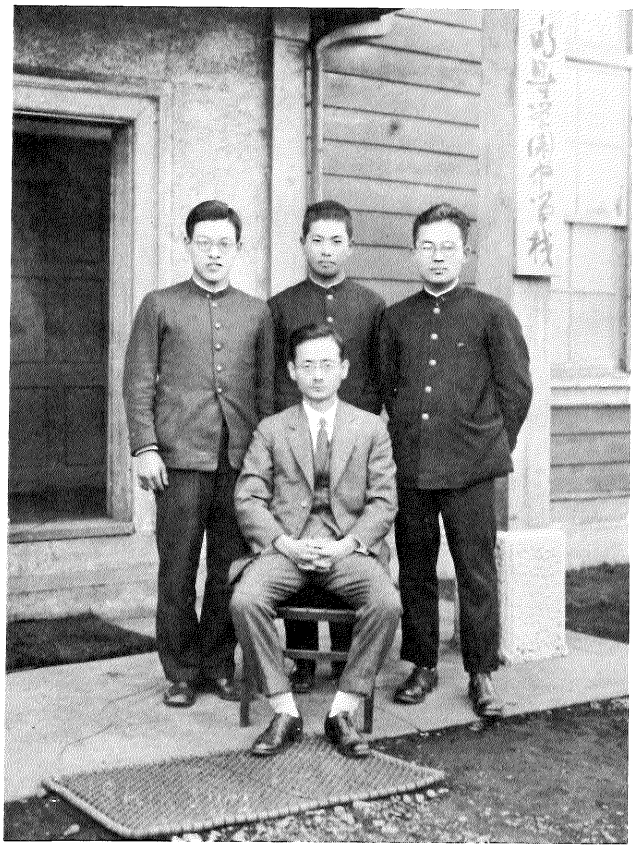


開校第1回の運動会グランドは草原で1本の野道のような道が見える（大正14年）

創立のころ　　社会のうごき　〔大正13(1924)年――昭和2(1927)年〕

大正12年	関東大震災――死者・行方不明13万　（9．1）
〃 13年	米国・排日移民法案成立　（4）
〃 14年	東京放送局ラジオ放送開始　（3．1）
〃 15年	大正天皇崩御・今上天皇即位，昭和と改元　（12．25）
昭和2年	金融恐慌　（2．2）

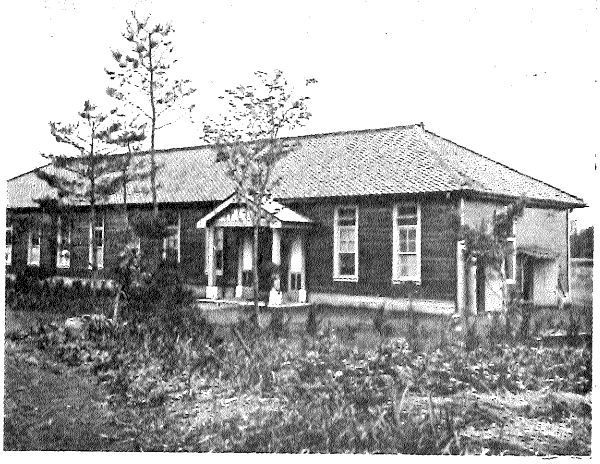
昭和のはじめ



⬆中学部の玄関　門札は茶郷基の筆

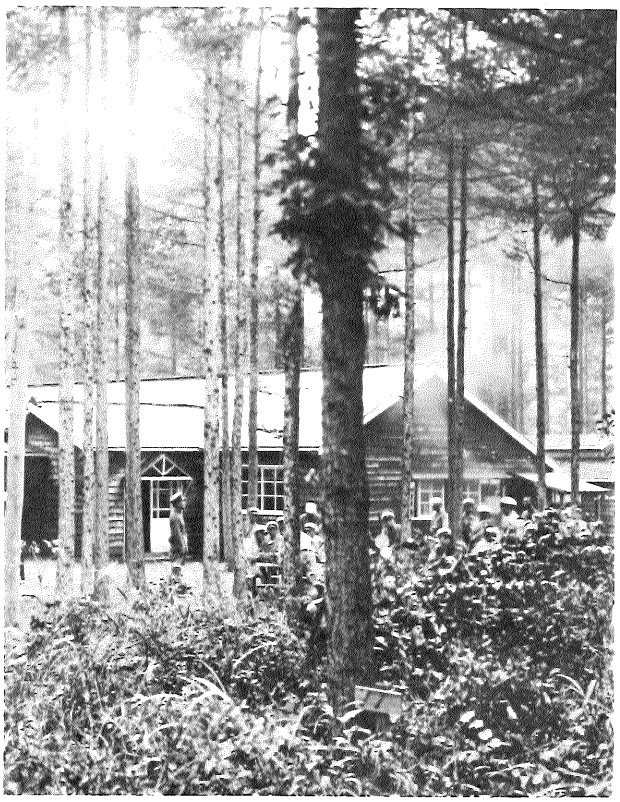


⬆中学部の校庭に立つ上田先生



創立当時の中学校校舎 ⬈
（昭和３年創立）

浅間山麓・上野原寮付近での軍事教練（昭和初期）
➡



⬇中学校玄関（昭和初期）





⬆運動会を見ている上田先生
（昭和８年10月）



⬆中学部・日立鉱山見学　３回生　日立の旅館前で（昭和９年11月13日）

中学部・文集作り
⬇内野先生指導（昭和11年６月）

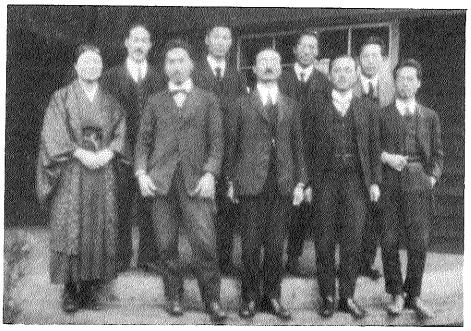


昭和初期　　社会のうごき　〔昭和３(1928)年――昭和９(1934)年〕

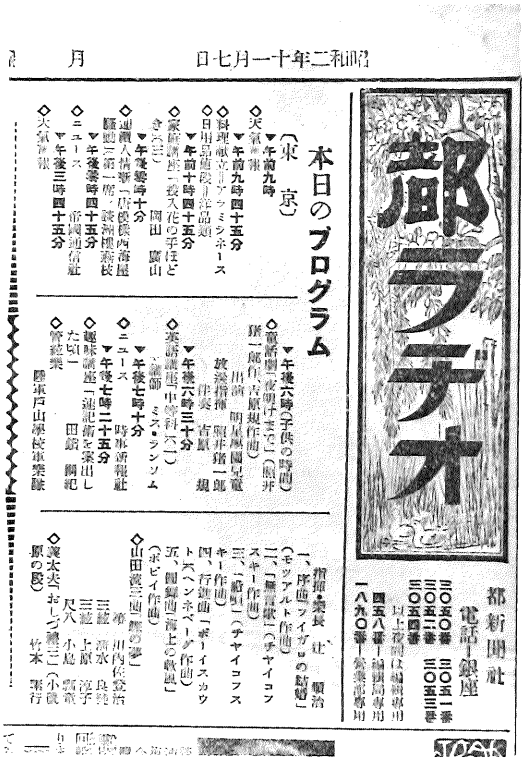
昭和３年　普選最初の選挙実施　（２．20）
〃　４年　世界恐慌おこる　(10)―失業者あふれる
〃　５年　金解禁（１．11）　浜口首相狙撃され重傷（11．14）　――言論弾圧強化
〃　６年　満州事変　（９．８）　不況深刻化――失業者42万
〃　７年　５・１５事件　（５．15）　――欠食児童20万
〃　８年　国際連盟脱退　（３．27）　――孤立化の道を歩む
〃　９年　ワシントン軍縮条約破棄　(12)



⬆女学部の校舎
生徒は1回生
（昭和3年）



⬆小学部職員（昭和2年）
（左から）照井げん・松枝良作・霜田利平・照井猪一郎・赤井米吉・山本徳行・長田新教育顧問・須田寧・大高義一



月　　日七月一十年二和昭

本日のプログラム

（東京）

◇天氣豫報
▼午前九時
▼午前九時四十五分
◇料理（家庭向ラジオミシネース
◇日用品價格（注意週間）
▼午前十時四十五分
◇家庭講座（我入花の手ほどき（三回）　岡田　露山
▼午後零時十分
◇週間人情噺「店優傑内海屋」（第二席）　鏡湖樓痴枝
▼午後零時四十五分
◇ニュース
▼午後三時四十五分
◇天氣豫報
▼午後六時（子供の時間）
◇童話劇（夜明けまで）（照井猪一郎作・吉原規作曲）
川崎　明星幼稚園兒童
放送指揮　照井猪一郎
伴奏　吉原　規
▼午後六時三十分
◇樂譜讀本（中等科二）
講師　ミス・シンソム
▼午後七時十分
◇ニュース
▼午後七時二十五分
◇趣味講座「速記術を實出したい」　田鍋　剛紀
◇管絃樂　陸軍戸山學校軍樂隊
指揮・樂長　辻　順治
一、序曲「ファウスト」の結婚（ギヤアト作曲）
二、「無言歌」（チヤイコフスキー作曲）
三、（一組）（チヤイコフスキー作曲）
四、行進曲「ボーイスカウト」（ハンネベーグ作曲）
五、「御歸國（海上の軍歌）」（ボビイ作曲）
◇山田耕筰三題「黒の夢」　田内佐登治
三絃　清水　良枝
三絃　上原　淳子
尺八　小島　翠竜
四絃
◇淺太美「おしづ禮三」（小倉原の段）　竹本　栗行

都新聞社
電話＝銀座
三〇五〇番
三〇五一番
三〇五二番
三〇五三番
以上夜間は編輯專用
四五八番＝編輯局專用
一八九〇番＝營業部專用

⬆NHKラジオ放送劇
子供の時間・童話劇・照井猪一郎指揮（昭和2年11月7日）



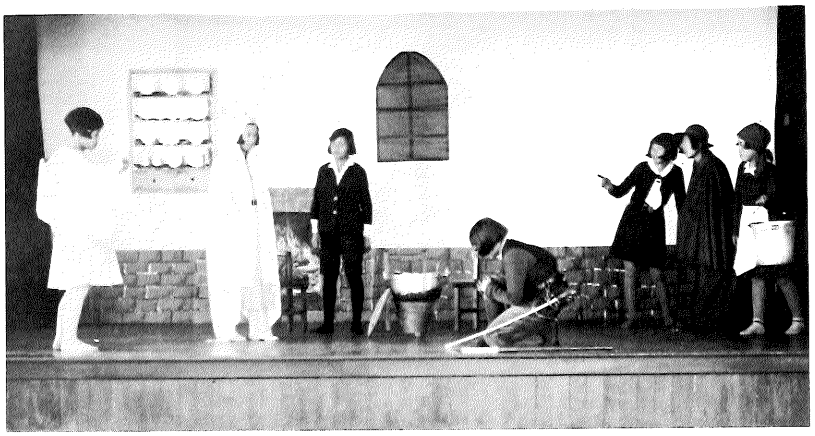
⬆青い目のお人形　アメリカからの人形使節（昭和3年）

⬇女学部　体力調査・文部省体育研究所衛生部で――3回生（昭和4年）



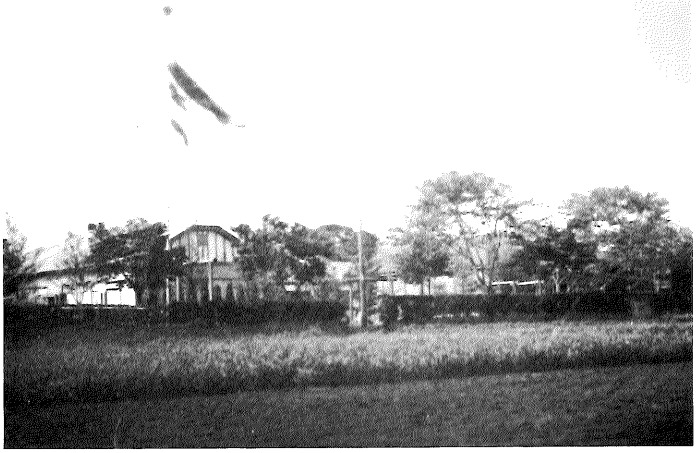


⬆女学部遠足登山　日光戦場ガ原
3回生（昭和8年）越智忠良・金子金次郎



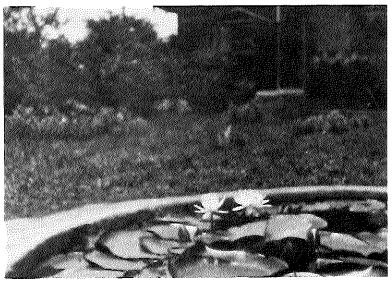
⬆女学部学校劇「そら豆」(昭和6年3月)

⬅
鯉のぼりと講堂と小学校全景（昭和9年5月）





⬆女学部ラグビー（昭和10年）

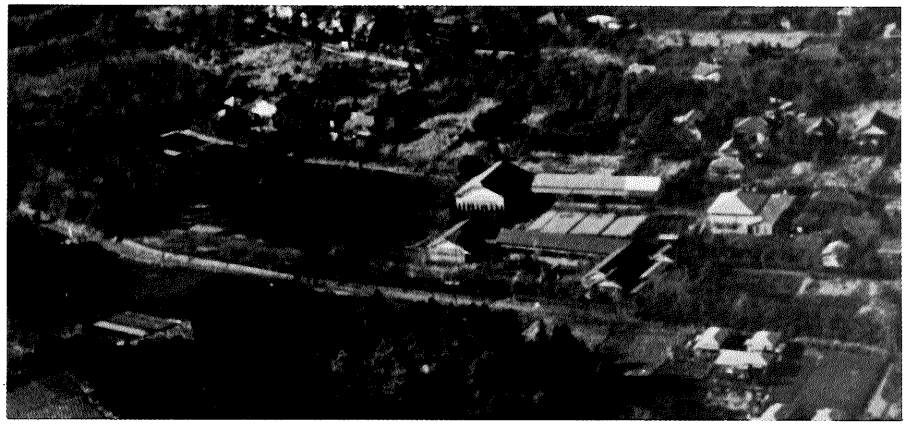


初等部の丸池➡
（昭和9年）



➡
1年生歓迎茶話会
女学部の芝生で・中央に坐っているのは赤井園長（昭和8年）

創立10年代



←
小学部と女学部全景
（昭和12年）



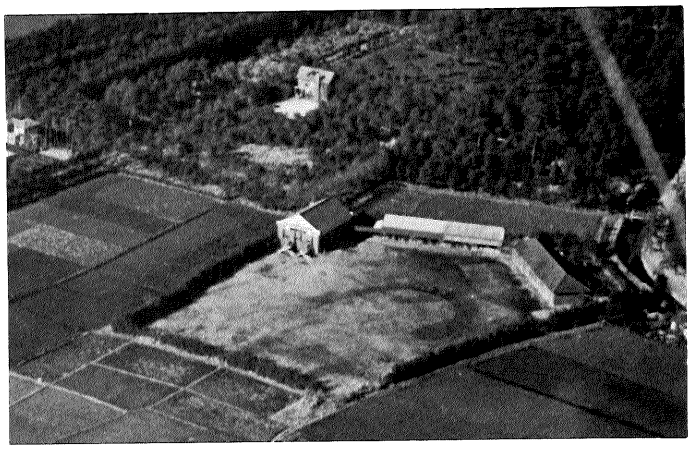
→
小学部
小動物飼育と栽培管理担
当3年生・小鳥小屋の前で
（昭和11年）



←
女学部
朝礼（昭和13年）



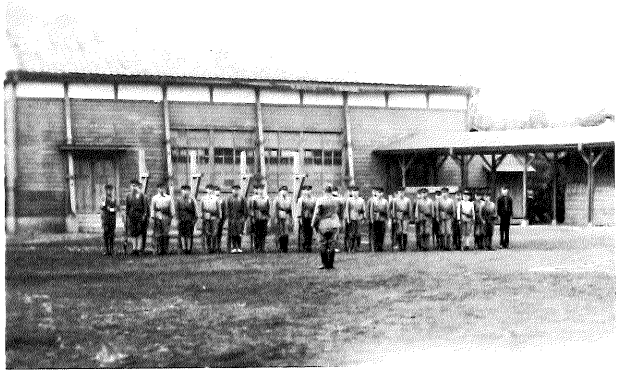
→
中学部
越智忠良（英語担当）応召
東京駅で見送り（昭和12年）



➡ **中学部全景**
（昭和12年）



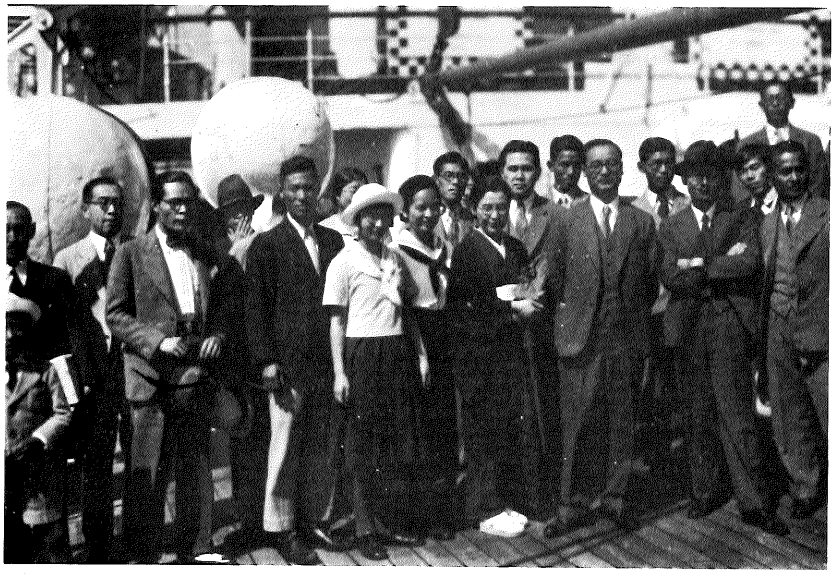
⬅ **中学部**
理科室から望む（昭和16年）



➡ **中学部**
4年生の軍事教練（昭和19年）

昭和10年代　　社会のうごき　〔昭和10（1935）年――昭和19（1944）年〕

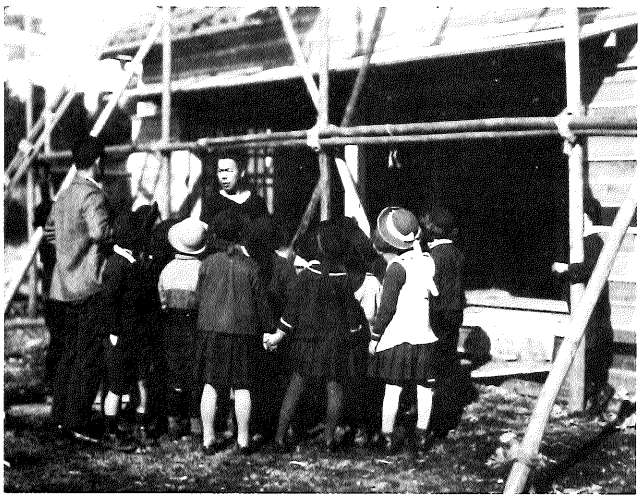
昭和10年　天皇機関説・議会で問題化　（2．18）
〃 11年　2・26事件――青年将校が高橋蔵相ら殺害　（2．26）
〃 12年　日中戦争始まる　（7．7）　南京占領　（12．13）
〃 13年　国家総動員法公布　（4．1）
〃 14年　第二次世界大戦　（9．1）
〃 15年　日独伊三国同盟条約調印　（9．27）
〃 16年　太平洋戦争――真珠湾奇襲　（12．8）
〃 17年　ミッドウェー海戦――日本海軍惨敗　（6．5）
〃 18年　アッツ島守備隊全滅　（5．12）
〃 19年　大都市に疎開命令　（1．26）　米機本土空襲開始　（6．16）　学徒勤労動員実施　学童疎開　（8）
学校工場化実施



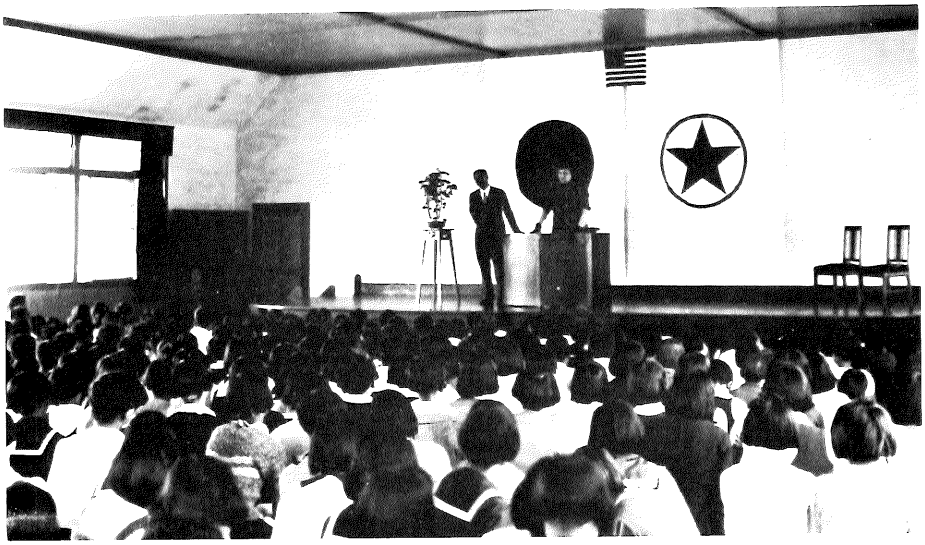
⬆第７回世界新教育会議出席の赤井園長
横浜港・鹿島丸上で（昭和11年６月）



➡通学路の除雪作業
井の頭公園入口
（昭和11．２．24）



⬅建築現場での学習
生活科・伏見頼二指導（昭和11年）



H・パーカスト女史の講演⬆
小・中学部講堂で（昭和14年）



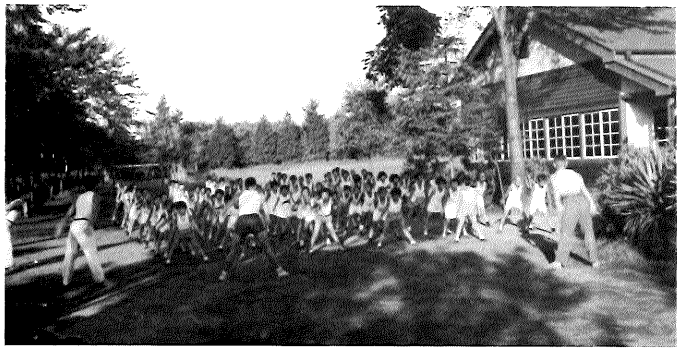
⬆H・パーカスト女史を案内する赤井・照井・上田の３先生（昭和14年）



⬆学園の地主桑（創立前の畑の桑の木を１本残したもの）

⬇１年生の通学（昭和15年４月）

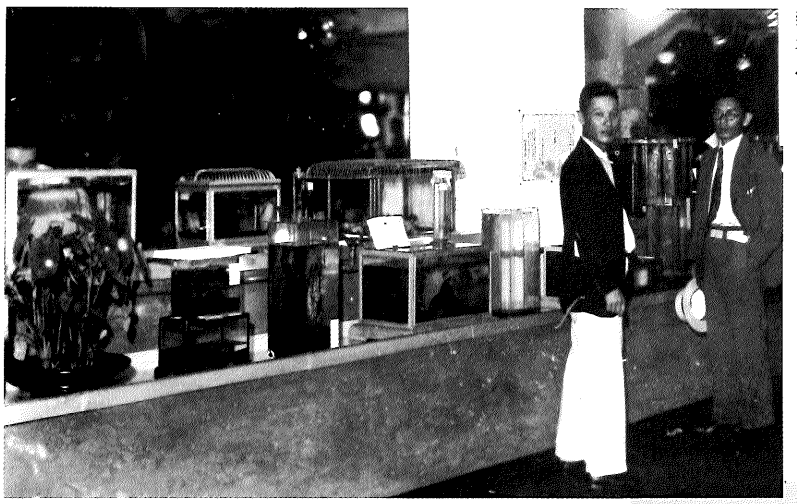




昭和10年代の校庭①
現在管理棟のあるところ（昭和11年）

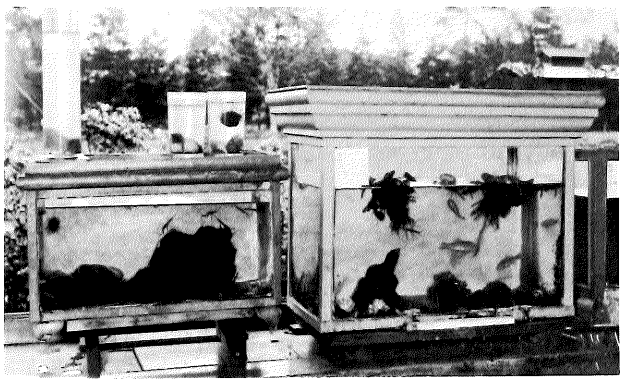


昭和10年代の校庭②
左の立木のところに現在第２体育館が建っている（昭和18年）

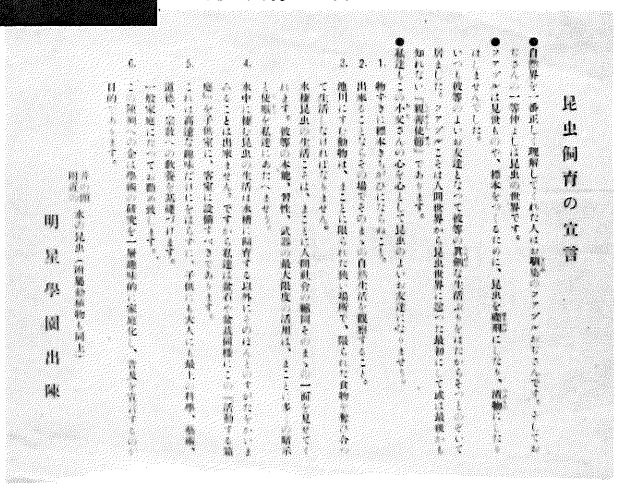


新宿伊勢丹デパートで陳列
水の昆虫（明星学園出陳・昭和10年）

学園のまわりの水棲昆虫（タイコウチ・ゲンゴロウ・ガムシ・コオイムシ・ミズスマシ）（昭和10年）



昆虫飼育の宣言（昭和11年）



昆虫飼育の宣言

●自然界を一番正しく理解してくれた人は幼児のファブルさんです。さしてお年寄りの一等仲よしは昆虫の世界です。

●ファブルは見世ものや、標本をつくるために、見世ものや趣味にしたり、酒飲にしたりはしません。

いつも彼等のよい友達となって彼等の群棲な生活のあらゆるものをいつまでも居ましたにファブルさんのように自然界から見出世界に近づいた最初にて或は最後かも知れない「観察使節」であります。

●私達もこの小さな心の人いお友達に心をもって。

1. 物干きに標本をつくるために。
2. 出来るだけその場所のままの自然生活を観察すること。
3. 飼育にする動物は、まことに限られた狭い場所で、限られた食物・酸素の合って生活しなければなりません。

水棲昆虫の生活には、まことに人間社会の縮図をのぞまう一面を見せてくれます。彼等の本能、習性、武器の最大限度、活用は、まことに第一の順序と後輩を私達にあたえてくれます。

4. 水中に棲む昆虫の生活は水槽に飼育する以外にその様子をうかがいまみることは出来ません。ですから見達は彼等の驚嘆同様に一つの活動する箱庭に予供室に、客室に設備してあります。
5. これは高達な趣味にまでにまで子供にも大人にも最も興味、科学、物語、道徳、宗教への教養に発達つけます。

一般家庭にたてる動の飼育します。

6. この飼育は学術研究を一層趣味的、家庭化、常見を育てるのが目的であります。

昭和十一年　水の昆虫（両棲動物植物を同上）
明星学園出陳

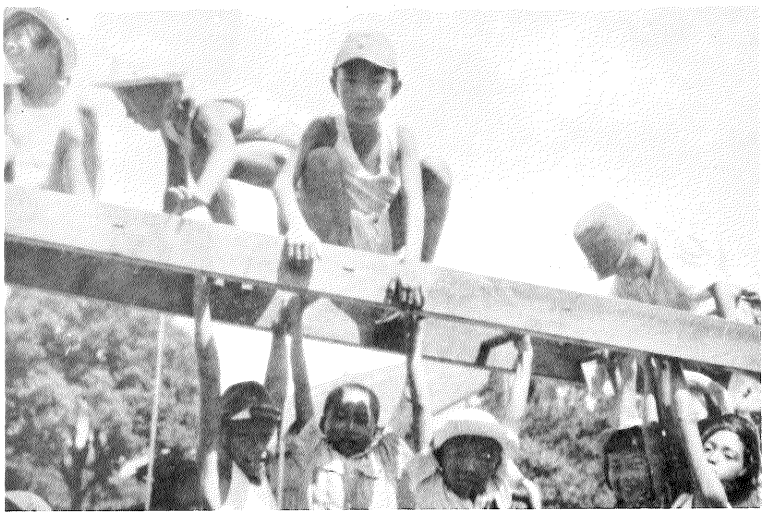
明星學園出陳



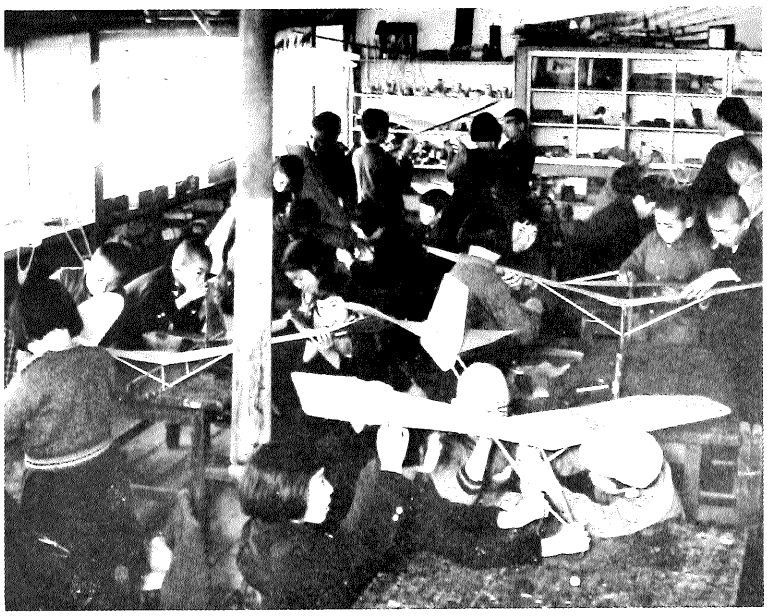
➡ **初等部校舎の前**
シンガポール陥落万歳（昭和17年２月）



リュックサックで通学　⬆
（昭和17年）

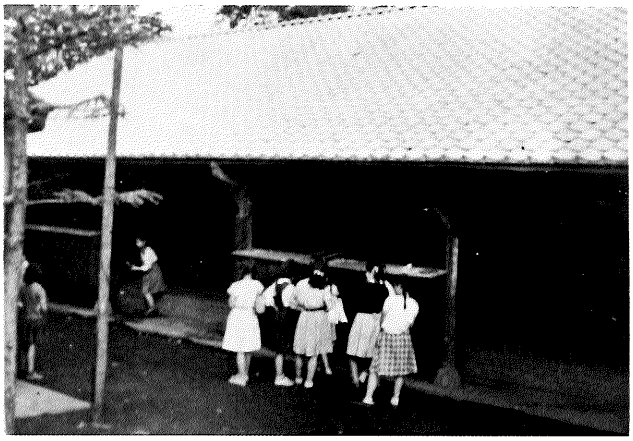


⬆**戦闘帽で通学**　５年生（昭和19年）



➡ **模型機づくりに懸命**
（昭和17年）

創立20年代



⬆新制中学校の校舎と中学生
昭和23年に新築した校舎・今はなし



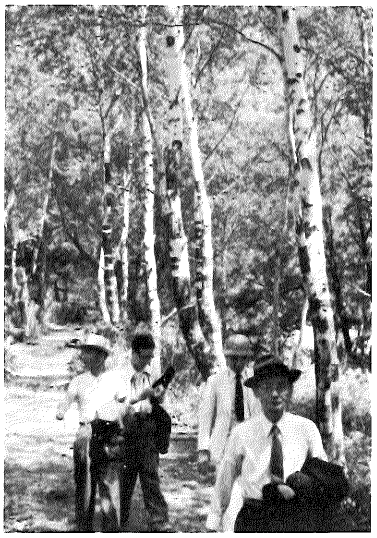
⬆増築６教室　正面のもの（中学部の４教室19年・小学部の２教室23年）



⬅20年代の高校の校舎全景

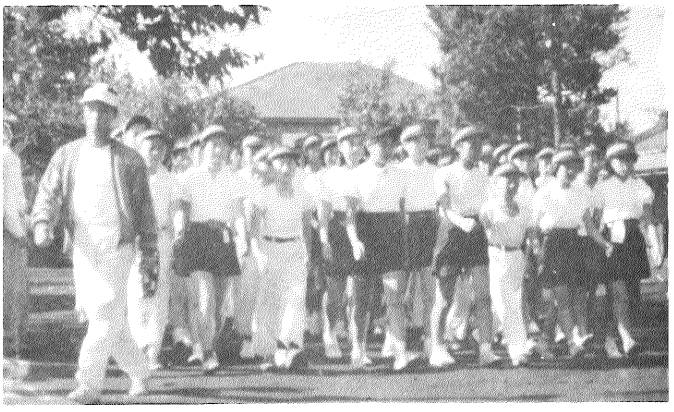


⬅掃除
（昭和29年のころ）

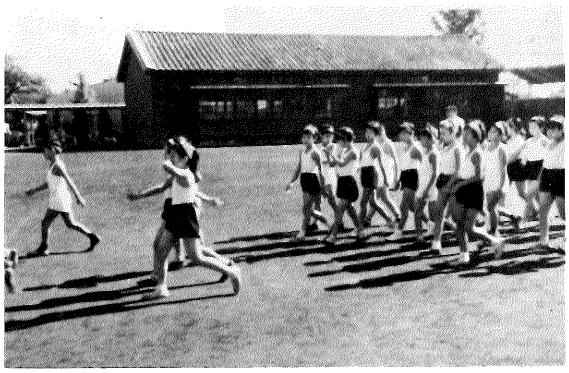


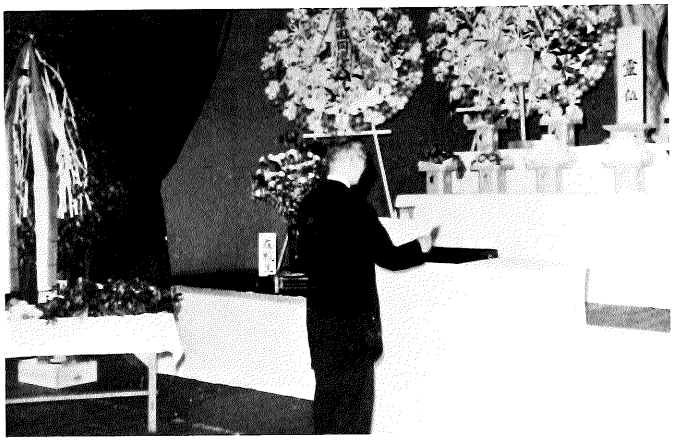
⬆上高地で４人の教師（高校）
上田・押川・角舘・横川尚（昭和25年）

運動会（小・中学部合同）
⬇出場（うしろは旧女学部時代の裁縫教室）

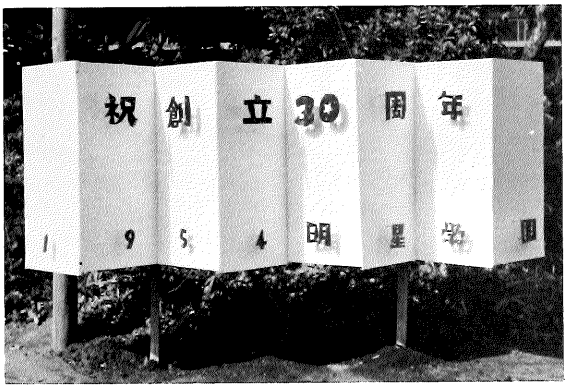


⬇運動会予行演習（昭和38年）





➡ **慰霊祭**
創立30周年に際し学園関係物故者に対して



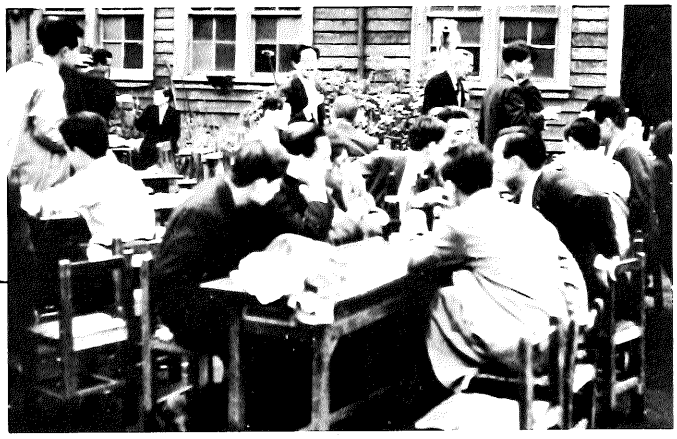
⬆30周年記念式ディスプレイ



30周年記念式典① ➡
功労者を代表して茶郷シヨに記念品を



⬆**30周年記念式典②** 永年勤続者表彰



➡ **30周年記念式典③**
同窓生・旧制中学校庭で

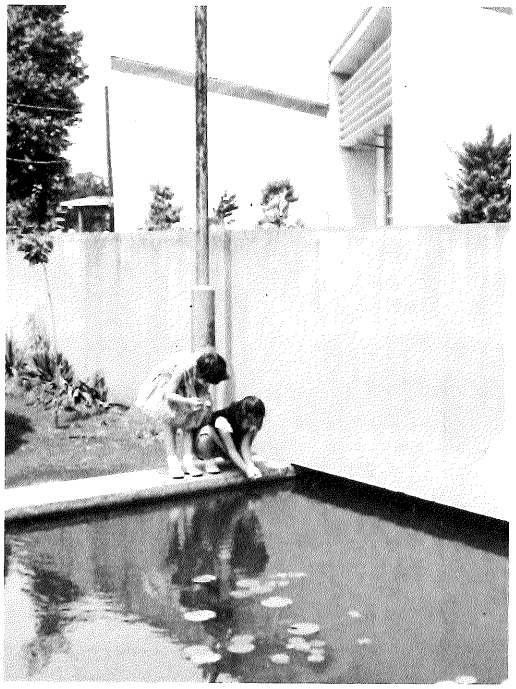
昭和20年代　社会のうごき　〔昭和20(1945)年――昭和29(1954)年〕

昭和20年	日本降伏――8・15終戦――連合軍進駐	（8．28）
〃 21年	天皇の人間宣言 （1．1）	ＧＨＱの指令――軍国主義者の公職追放・農地改革・財閥解体
〃 22年	2・1スト中止 （2．1）	日本国憲法施行 （5．3） 6・3制実施 （4．1）
〃 23年	極東軍事裁判の判決 （11. 12）	
〃 24年	平・下山・三鷹・松川事件 （7．5―8．17）	
〃 25年	朝鮮戦争おこる （6．25）	警察予備隊設置 （8．10）
〃 26年	サンフランシスコ講和会議 （9．4）	
〃 27年	血のメーデー事件 （5．1）	破壊活動防止法公布 （6．21）
〃 28年	ＮＨＫテレビ放送開始 （2．1）	
〃 29年	防衛庁・自衛隊発足 （7．1）	

創立30年代



⬆明星ＰＴＡ運動会　高田会長の挨拶（於神代緑地公園・昭和26年６月13日）



⬆ 初等部正門前の池畔で　（昭和34年）



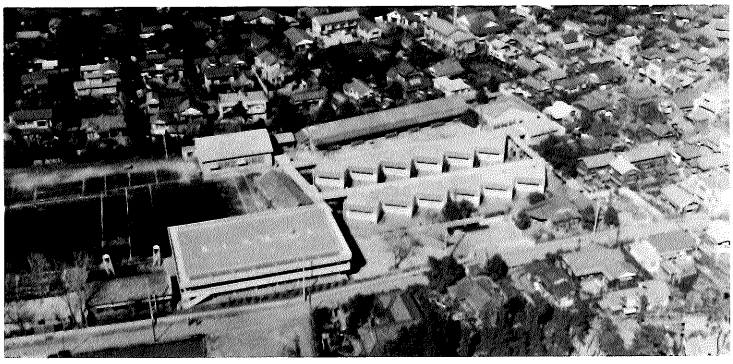
⬆茶郷基30年忌記念祭
（多磨墓地・昭和34年4月）

⬇文集　（戦後の小・中・高のもの）

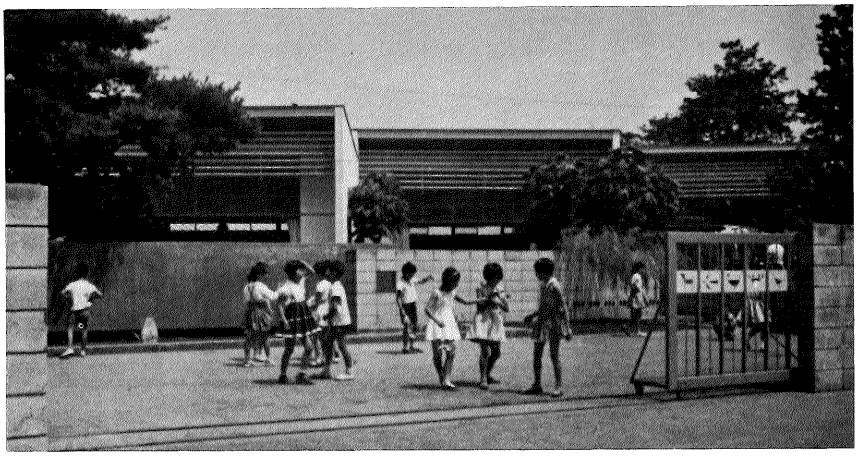




➡ 高校俯瞰図
（昭和35年）



⬅ 小・中校俯瞰図
（昭和37年）



小・中校の正門前 ➡

昭和30年代　　社会のうごき　〔昭和30(1955)年――昭和39(1964)年〕

昭和30年	保守合同――自由民主党結成　(11. 15)　○学校教育法成立――家庭電化時代始まる
〃 31年	日ソ国交回復　(10. 19)　日本国連加盟　(12. 18)――テレビ文化一億総白痴化
〃 32年	南極観測隊，オングル島に上陸する　(1. 29)――宇宙時代にはいる
〃 33年	日教組・総評の勤評全国闘争　○小・中学習指導要領告示
〃 34年	伊勢湾台風で死者など5千200人　(9. 26)――マイカー時代にはいる
〃 35年	安保闘争デモ隊国会構内乱入　(11. 27)　○高校学習指導要領告示
〃 36年	ソ連人間衛星船ボストーク1号成功　(4. 12)――レジャーブーム始まる
〃 37年	米国キューバの海上封鎖宣言　(10)
〃 38年	ケネディ大統領暗殺　(11. 22)　○高校教育課程の全面改定実施
〃 39年	東京オリンピック開催　(10. 10)――倒産4千214件で戦後最高



←
中学校の教師たち（昭和34年）

中学校校舎の前で（27回生）
31年から35年まで中学校(中学年部)
校舎は高校(高学年部)の敷地にあっ
⬇た(昭和33年)



休み時間のスナップ➡
中学生（昭和35年）



⬇**中学年部の教師たち**（昭和38年）





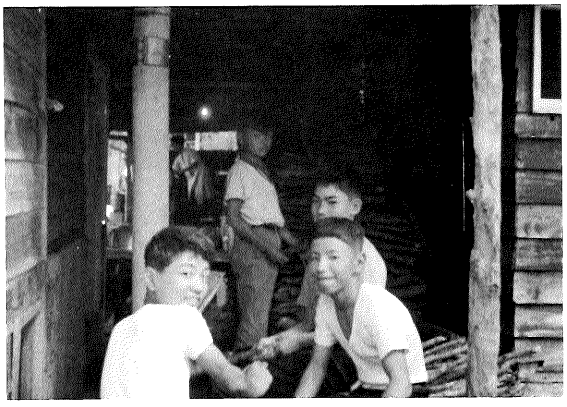
⬆上野原野外食堂で



⬅川苔山集中登山
（昭和34年９月15日）



➡
上野原寮の庭で
照井校長を囲んで（昭和36年）



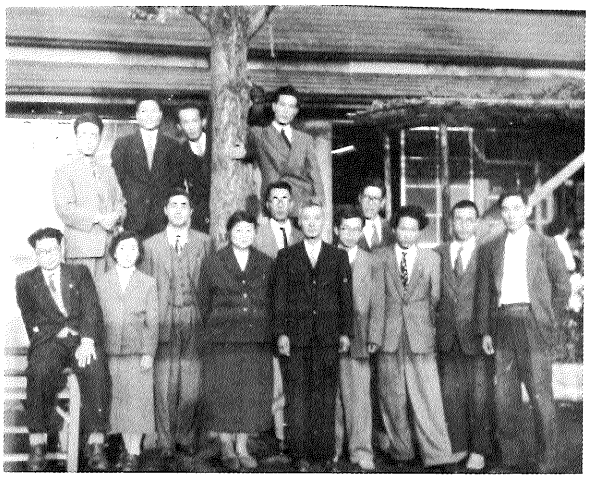
⬅
上野原寮の風呂当番（昭和36年）



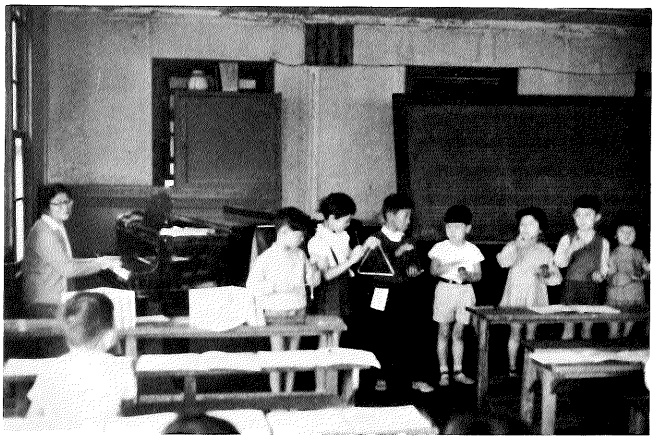
⬆新しい校舎

⬇古い校舎

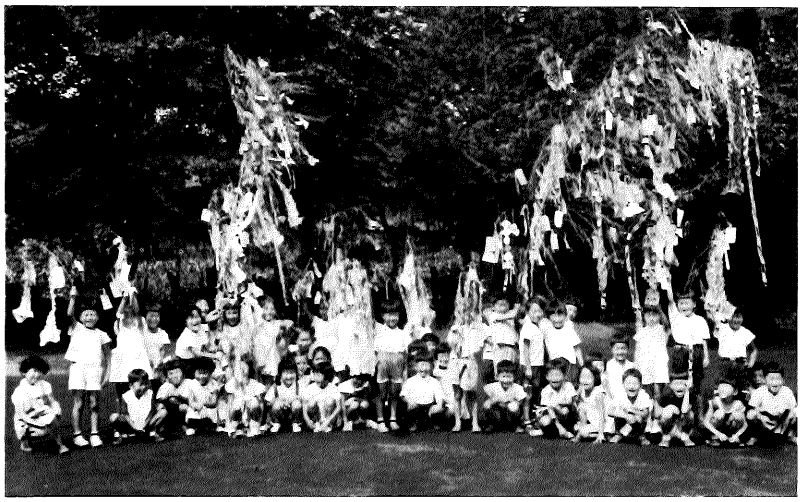




⬆小学校全職員　（昭和29年10月31日）



⬆合奏　2年生・指導照井げん（昭和30年）



⬅ 七夕まつり
1年生（昭和30年）

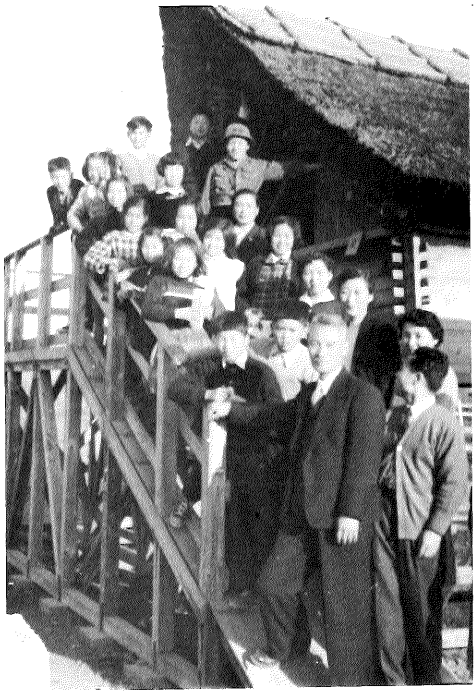




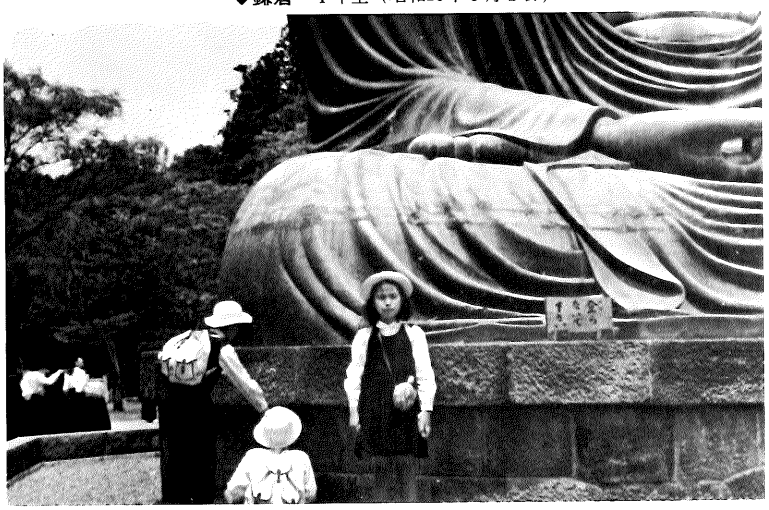
⬅⬆ 千倉寮と千倉海岸　（昭和32年）
⬇



⬇登呂遺蹟　6年生（昭和29年11月13日）

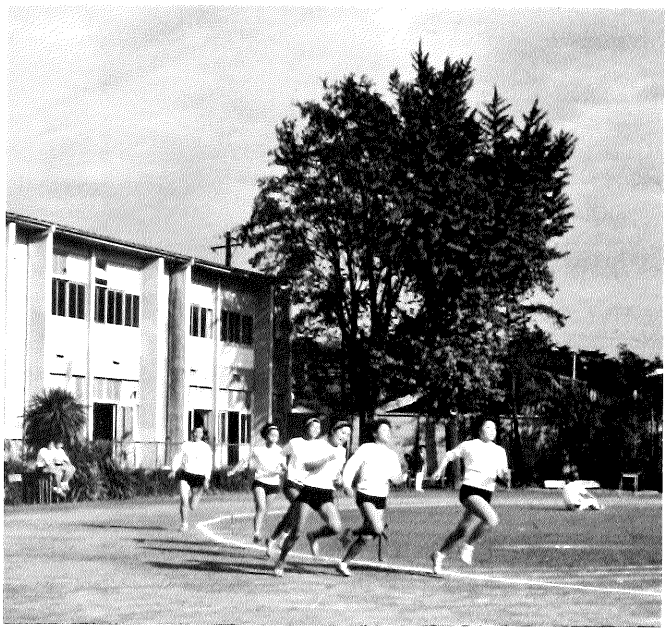


⬇鎌倉　4年生（昭和29年6月1日）





⬆東北旅行　萱の原高原で（昭和34年）



➡体育会
クラス対抗リレー（昭和38年）



➡上野原寮の野外食事
（昭和32年）



⬅自治会総会（昭和34年）



➡
上野原寮の生活の１コマ
（昭和34年）



⬅
軽井沢でサイクリング

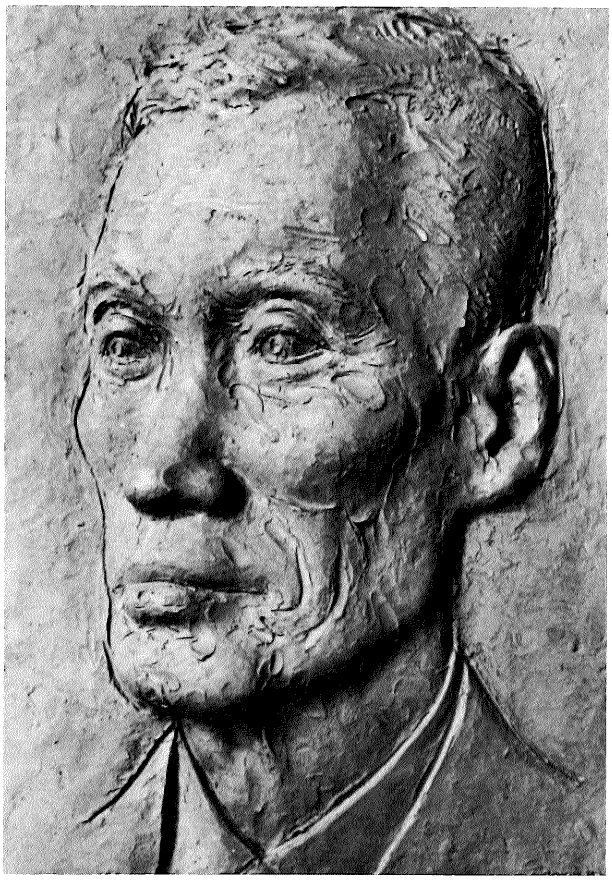
⬇卒業式　高校第14回生（昭和37年３月21日）



創立40年代



⬆初等部運動会　集合のベルがなる



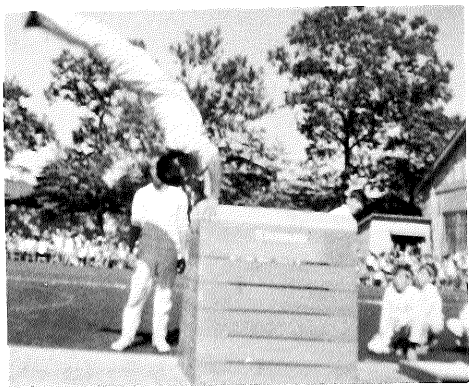
⬆照井猪一郎のレリーフ　小・中図書室に（昭和43年5月）

⬇中等部校舎



⬇合　唱（初等部）

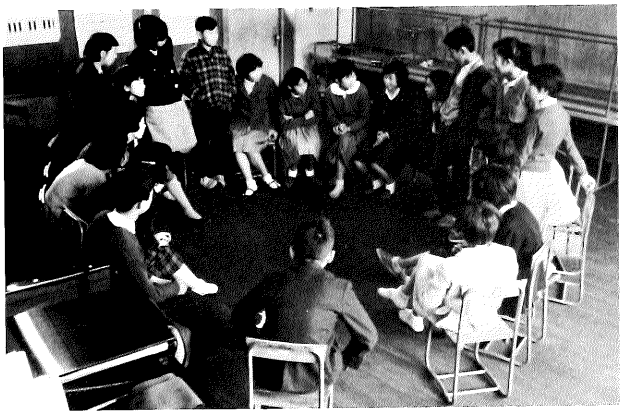




⬆中等部　跳箱をつかって（昭和46年）



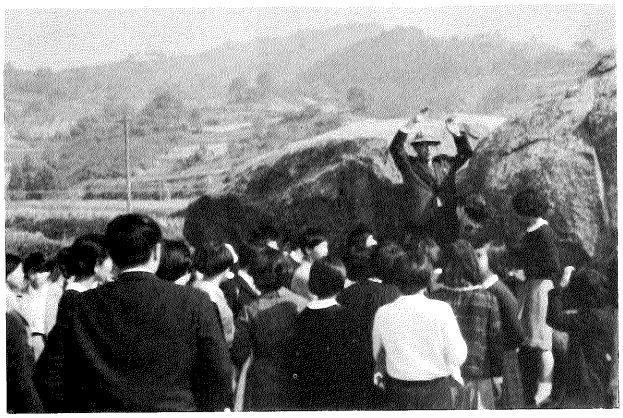
⬆上田八一郎のレリーフ（昭和41年）



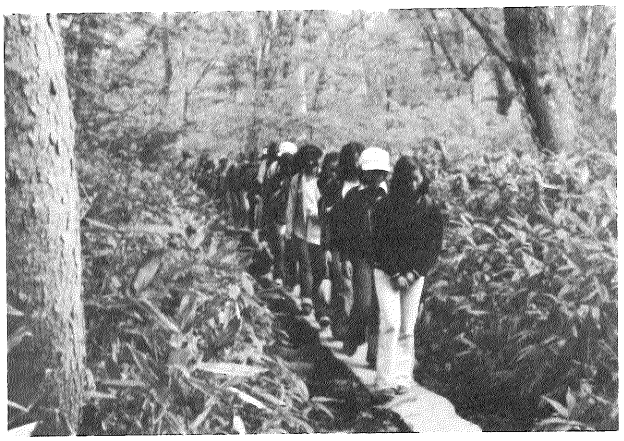
⬆中等部　ホームルーム（昭和38年）



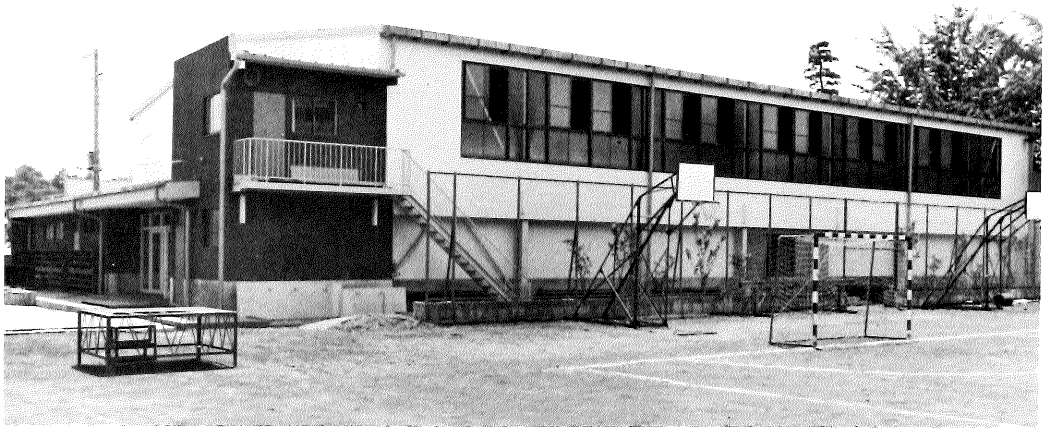
⬆高等部　教室で



⬆巨石文化見学　高等部（昭和41年）



➡中等部
尾瀬へ（昭和47年）



⬆第２体育館　グランド側から（昭和49年２月）



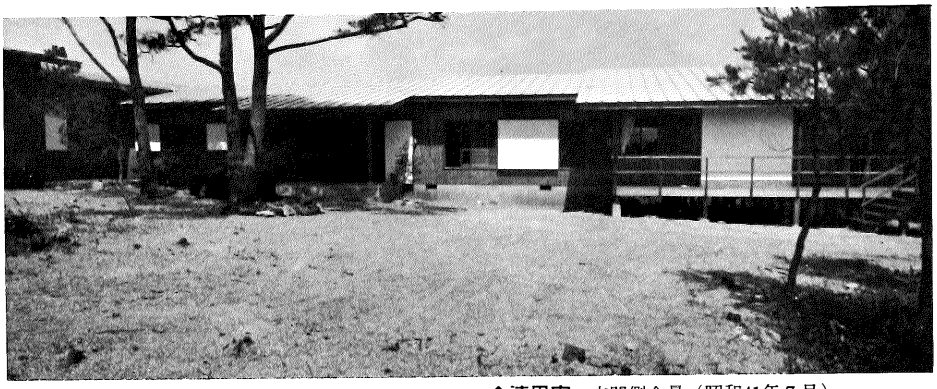
➡第２体育館
（昭和49年３月）

⬇初等部の父母会

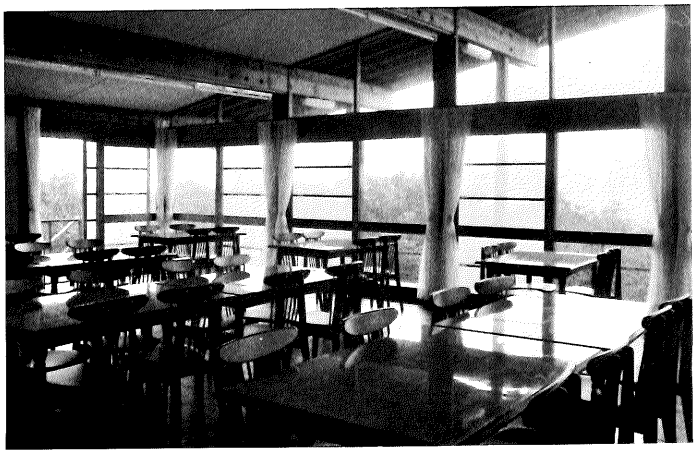


昭和40年代　　社会のうごき　〔昭和40(1965)年――昭和49(1974)年〕

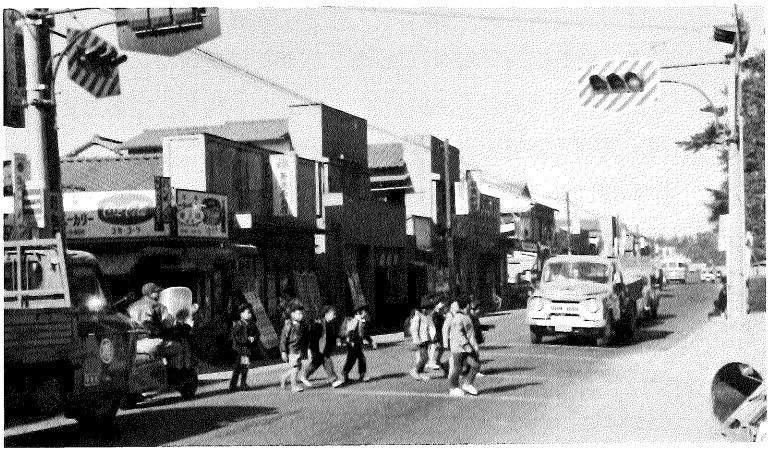
昭和40年　米国・北ベトナムに爆撃開始　(2.7)――物価騰貴時代にはいる
〃 41年　全日空・カナダ航空・ＢＯＡＣ機相つぎ墜落　(2.4, 3.4, 3.5)
〃 42年　中東戦争勃発　(6.5)　○都の学校群制度発足
〃 43年　小笠原諸島返還協定調印　(４)――昭和元禄時代
〃 44年　米国・アポロ11号月面着陸　(７)――大人と子供の断絶論議
〃 45年　日本万国博開催　(３)――光化学スモッグ・ヘドロ問題
〃 46年　成田空港反対闘争
〃 47年　沖縄復帰　(５．15)　日中国交正常化　(９)
〃 48年　米軍ベトナム介入終わる　(３)――石油危機でインフレ激化



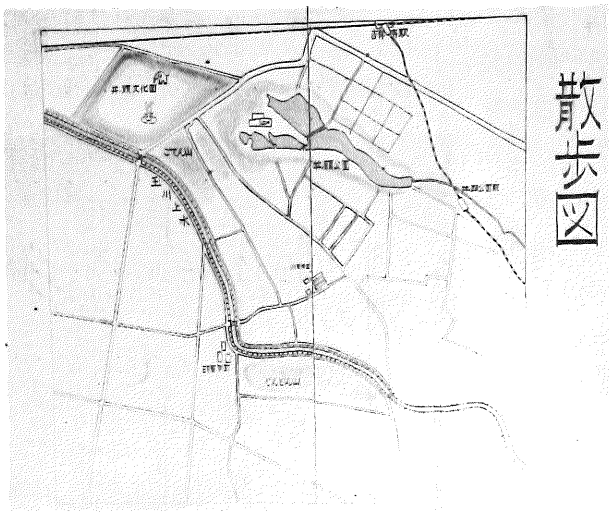
⬆**清里寮**　玄関側全景（昭和41年７月）



⬅
清里寮　食堂（昭和41年７月）

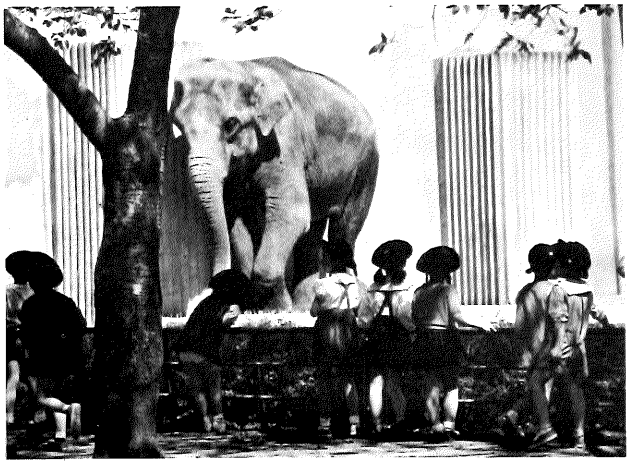


➡
明星学園入口バス停付近
学園西側の通学路



散歩図

⬇井の頭文化園

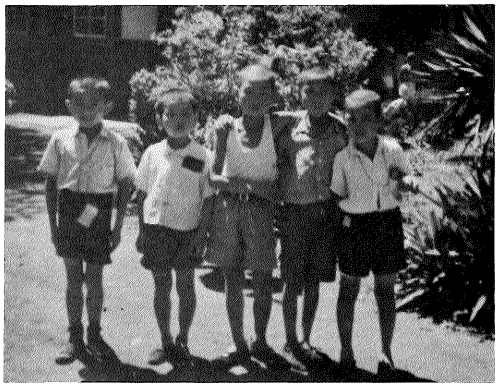


Ⅱ　時局と初等部

1　時局と児童の教育

(1)　昭和16年6月23日　父兄へのお知らせ

昨日の友は今日の敵というように複雑変転きわまりない国際動向は幼い児童をして真実と正義に対する虚無性を示唆するものなきやをご憂慮のことと存じます。今回の独ソ開戦の如き帝国外交にとって重大な機局をもたらしたことはもちろんでありましょうが，われわれにとってもまた児童教育上深刻な影響を与えるもののあることを思い，これへの善処を用意しなければなりません。この際家庭においても児童に対して軽卒な批判，皮相な憶測をもってこの問題をお取扱いにならないようにいたしたいものです。すべては避くべからざる世界の変革に対応する深刻な過程の表面化であって，ヨーロッパにあっては独ソが新な段階への役割を代表し，アジアにあっては日支がその重荷を負うておるのであります。それぞれの国にはそれぞれの国家民族にとって必死な立場があるように，日本にもまた1億民族永遠の繁栄のために絶対な条件が要求されます。これを可能ならしむるためには，端倪すべからざる世界の動向に対処して国家民族を保全するための不抜の信念と対策への変通自在性が肯定されなければなりません。そしてそのこと自体が真実であり，正義であり，政治とはそうした性格のものであることをよく幼いものに理解させたいと思います。人類史上未曽有の動乱のもとに古い形態のすべてが崩壊して新しい建設へと急ぐ過程であります。日本の戦国時代の世相におきかえて理解させることも児童には手近な方法と存じます。ご同様児童教育の責任ある者は如何なる事態を迎えようと常に冷静に適確に日本の使命のうえにたち，一つ一つの段階を教育的に処理する心構えを怠ってはなりません。同時にいたずらに偏狭を常時の道義観に膠着せずに，新しい世界建設に対する大なる抱負と永遠の真実に向って



小学校玄関前で　配給のズック靴，男子は坊主刈
3年生（昭和16年）



小学部の集団下校　下駄履き，戦闘帽，リュックサックで通学する（昭和19年）

伸達するよう絶えず指導を加えていきたいと存じます。

昭和16年６月23日

明星学園初等部

保　護　者　様

2　国民学校令と初等部

国民学校令が昭和15年12月24日に閣議で決定され，その夜，文相橋田邦彦は私立小学校を廃止するという声明をラジオで放送した。私立小学校廃止案は，私立の学校関係者の阻止運動――陳情，抗議によって橋田声明の実現を阻止させた。国民学校令の目標，すなわち「皇国の道」にのっとる「皇国民」の錬成という目標に対しては，赤井米吉・照井猪一郎ともに自らすすんで積極的に追求する姿勢をとった。昭和16年４月１日，国民学校令公布に基づいて小学校を国民学校と改称。私立小学校は国民学校という名称を用いることを禁ぜられ，明星学園においては小学校を初等部と改め，国民学校令による認定学校として存続は認可された。昭和16年12月８日未明戦争に突入して以来，学園の教育は戦時色が濃くなっていった。

3　行事面からみた初等部

(1)　昭和16年３月４日　父兄へのお知らせ

1　行事

３月５日(水)　中等部卒業式につき休業。ただし６年は式参列のため午前９時20分までに出校のこと。弁当不用。

３月14日(金)　児童工作品陳列のため１，２，３，４年は弁当不用。

３月15日(土)　児童工作展覧会

３月16日(日)　児童工作展覧会，新１年父兄会。

３月17日(月)　陳列取片づけ，全部登校弁当不用。

３月18日(火)　６年生中等部呼出し。

３月19日(水)　卒業生送別茶話会，６年生の慰労餅搗。



子供たちも防空頭巾で

3月20日(木)　大掃除，卒業式場・会食場準備。

3月21日(金)　午前9時30分より卒業式挙行。

3月22日(土)　全部登校，教室移転

2　地久節祝賀徒行

来る3月6日の地久節に際し，皇后陛下の聖寿万歳をことほぐ意味で，全校の徒歩行を挙行いたします。例によって各体力に応じて全体を3班に分ち，いずれも学校を起点として帰路を省線によることにいたします。下記要項および別項地図ご参酌のうえよろしくお取計らい願います。

イ　目的　①　鍛練奉国

ロ　付帯　①　時局工事の発展に伴う郊外の工場地帯化

②　農家を解消しつつ急激に発展して行く聚落雑相

③　大武蔵野の地貌とその産業景観

④　史蹟＝＝近藤勇の墓・多磨墓地諸偉人の墓・武蔵国府趾・武蔵一の宮大国魂神社・国分寺趾

3　集合

午前8時40分学校集合，9時出発

4　準備

イ　防寒に考慮し，なるべく軽装。特に靴の紐・尾錠等を十分修理しておくこと。

ロ　弁当・水筒・糖分のもの20銭（飴・氷砂糖・キャラメル・ドロップの類)・ちり紙・ハンカチ

5　費用

1人15銭，当日持参のこと。

6　班別

第1班（徒歩8.5キロ）　学校――牟礼――新川――天文台（昼食）――武蔵境駅――（午後2時）帰宅

第2班（徒歩10キロ）　学校――牟礼――新川――人見――多摩公園(昼食)――武蔵小金井駅――（午後2時半）帰宅

第3班（徒歩15キロ）　学校――牟礼――新川――人見――多摩公園――浅間山(昼食)――府中――国分寺――（午後3時半）帰宅

7　付添

足にご自信のある向は進んで参加せられたし。　以上



初等部の教師たち　明治節の日，小・女学校門前で（昭和17年）

昭和16年３月４日

明星学園小学校

保　護　者　様

(2)　昭和17年10月14日　父兄へのお知らせ

1　10月後半行事について

聖戦時下，物すべて充実の秋となりました。豊かに実のる山野に応えて，今学期こそは学園の子供たちの心身も最高度に強化練成せらるべき適正の季節であります。中にも10月は自然・人事の環境最もこの目的に快適せる月とて，本年は６年の関西見学を振出しに，鍛練行事の主重点を爾後の３週日に圧縮配当して，十分の効果を収めたいと存じます。以下ご了承のうえご家庭においても円滑に学校のプラン完了のようご協力のほど希望いたします。

13日以後10月中の行事表

10月15日	(木)	３年大山登山
10月16日	(金)	靖国神社臨時大祭（休）
10月17日	(土)	神祭（休）
10月18日	(日)	
10月19日	(月)	多摩川沿線強歩（全部）
10月22日	(木)	４年筑波登山　５年北伊豆見学
10月24日	(土)	非常徒歩帰宅（家庭群参加通送）
10月27日	(火)	５年以上中学校査閲へ参加
10月28日	(水)	御岳山登攀，集結強歩（全部）

なお一般準備の大綱としては

① 靴＝革靴でもズック靴でもいいから途中で故障のないもの。革靴は特に底から内へ釘の突出ぬよう。尾錠のとれぬよう。底と上と分裂せぬよう注意。ズック靴でも靴下は必ずはかせること。

② ルックサック＝背負い紐の抜けぬよう，切れぬよう。

③ 水筒＝「魔法瓶」式のものは外見は美しいが内部のガラス部が破損し易いことと，液容積が少ないなどの欠点多く，将来は全廃したい。借物でいいからできたらアルミ製のもので容積１リッ

トルくらいがいい。吊皮はむしろ邪魔ですから水筒だけ抜いてルックサックに入れた方がよい。栓はコルクでないとどんなものをまいても漏るから駄目，まして木栓なしでカップだけはめたのなどは1滴なしにこぼれてしまう。

④　おやつ＝おやつはやはり砂糖40グラムだけで，他の果物菓子は持たない。

2　配給品および強歩見学に対する収金

①　今回，運動靴・児童服・グライダーおよび飛行機組立器材（文部省規格）の配給がありますから適当に割当てます。ただし，グライダー・飛行機用器材は1人宛1組宛集りましたから，これは男女とも平等に配給し，当分学校で保管しておきます。全然使用しない向には最後に代金を払戻します。

②　遠足見学費としては

イ　9月25日挙行の八王子城趾方面強歩の不足追徴金（電車賃の予定に誤算がありましたので）

ロ　新に徴集すべき分を手数を省く便宜上合計前納にしていただきます。

備考

①　別表伝票は必ず金額とともにお納めください。

②　弁当金額に赤丸印をつけてください。

③　合計欄へは計算のうえご記入ください。

④　児童服に要する衣料切符は男児用および女児用上衣スカート揃いの分は17点。女児上衣だけのは6点を必ず代金に添えて納めること。ただし不用の者は即刻学校に返却すべく譲渡を許さず，男児用特配とあるは品物がよくて値段が格安になっているとのことです。　以上

昭和17年10月14日

明星学園初等部

保　護　者　様

(3)　工作展

拝啓　来る14日（土曜），15日（日曜）の両日午前10時より午後3時まで，本年度卒業児童を中心とする工作展覧会を開催いたしますから，ご家族ご知人お誘い合せご来観くださいますようお願いいたします。工作は機械科学の表現法として今後日本の科学教育の中軸をなすべき重要な部門でありますが，物資材料の制約は児童の計画実行を甚だしく不如意ならしめ，客観的効果としては隔靴掻痒の感なきをえないと存じます。しかしそれが却って教育としての効果を齎らし，彼等ならでは



工作室　模型機づくりに懸命だった6年生，杉本指導（昭和17年）

という警抜大胆なる独創と手法は大人をして思わずほほ笑ましむるものあることを信じます。しかも彼等のたえざる努力と苦心とによって寄せ集められた材料……空箱を解体した板と釘，鑵詰殻を展開したブリキ，いやくしも彼等の手に触れ眼に映ずるもの一として資材ならざるなく，所謂「捨てりゃ廃品，活かせば資源」の標語を一層積極的に「捨てりゃ廃品，活かせば力」とした児童の卒直な構想には，未来日本の大きな姿を髣髴させ，大人に大きな示唆を与えることと存じます。ただ私たち指導力の微弱と不徹底は上述の意義を十分に発揮させることのできなかったことを遺憾としてお詫び申しあげます。なお今回の陳列は6年の作品を中心とし，4年，5年はこれを補成する意味で参加させ，1，2，3年はこれを除外し，絵画は6年の絵巻物以外は出陳いたしませんからご了承願います。

昭和17年3月9日

明星学園初等部

父　兄　各　位

(4)　算数教育

拝啓　5月23日の日曜には前週に引きつづき4，5，6年の算数学習実際をご覧に入れます。

時間と空間の織りなす人生の綾は子供たちの生活といえども大人と変るところはありません。万象を支配する時のうつろいは，人間にとっても絶対であり宿命的なものであります。この絶対なものに相対な関連を結びつけ，客観の中に個々の主観を打立てるところにわれわれの生活があるのではありますまいか。こうした交錯は学習としてどのような形で子供たちの生活吟味のうえに顕われ，取扱われるかが明日の授業の大きな含蓄であります。一口に算数の学習といっても如何に従来の計算本位の算術と根本的に思潮を異にするかは実際を見ていただかなくては到底わかってはいただけません。

1年に出発し，6年に終る一連の系統案は移してそのまま人類の発達史であり，1個人の人生行でありましょう。こうした題材をとりあげたことは，皆様のご理解をいただくうえにも適切であるとともに深遠な哲学的示唆を含む学習案としても興味ある着想と信じます。ただ未熟なわれわれが十分にこの狙いどころを児童のうえに活かしえぬ憾みがあるのであろうことは申しわけない次第であります。

当該学年の父兄各位はもちろん，下学年の方々にとっても，お子さまたちの明日の成長を予測す

るうえに必ずご参観の必要があることを要望いたします。当日はぜひご出席をいただかねばならぬ全学園父兄会という重大な行事もあることですし，10時よりお一人のご欠席もなくご来校のよう一同期待をかけてお願いいたします。

なお実地授業は13時よりとは申しあげておきましたが，どの道10時にはお見えのことですから，30分繰りあげ12時30分より開始いたしたいと存じます。お昼食ご携行くださいますようお願いいたします。

備考　児童登行時，下記のようにご配慮願います。

4年＝12時　　5年＝13時　　6年＝14時

昭和18年5月22日

明星学園初等部

父　兄　各　位

Ⅲ　学童縁故疎開・学徒動員・学校工場

1　戦時下の初等部――お知らせは語る――

(1)　本土空襲（昭和17年4月20日）

皆さまとともに謹んで聖上陛下のご健勝と皇室のご安泰をご慶祝申しあげます。さて敵機の本土初空襲は私たちかねての覚悟のこととて常住の訓練をそのまま直ちに全児童を着装のうえ教室内に収容し，静かに読書をさせて時機を待ち，午後1時50分，事態の鎮静を見計らい，方面別編成として教師引率のうえ帰宅いたさせました。交通機関破壊に際する食料携帯，徒歩帰宅を最高目標として訓練している私たちの訓練想定上からは，今回の如きはまことに初歩課程で，すべては日々の生活と何等変りはありませんでした。ついては今後とても空襲その他途上混乱を予想するような事態の起った場合には，決して児童を単独には帰宅させるようなことをせず，必ずその落ちつきを待って集団引率もしくは家庭との引継帰宅により，事故の絶対防止を計っておりますから，決してご心配ないよう願います。こうした場合郊外の森にかこまれた目立たぬ平屋建の校舎は，市中の高層建築よりむしろ安全な避難所ですらあるのですから，常に児童を安全地帯に収容しているお心持でご安心を願います。一，二やや遠方の子もございますが，それ等は必要に応じてこちらに宿泊させる手筈になっておりますから，その点も別にご心配はいりません。今回の空襲における損害の軽微であったことは官民平素の覚悟と備えのうえから当然でありますが，しかし児童にとっては貴重な，生々しい最初の経験であります。仮想ならぬ目のあたりの事実を活教材として将来への防空知識と訓練のため十分に活用せられるようご協力を願います。なお下記ご配慮願います。

1　帰宅時間，夏季中は全児童午後2時55分一斉に集団帰宅。(ただし平素は掃除当番は居残る)

(イ)　擁護カードの携帯を忘れぬこと。

(ロ)　1年生は当分正午頃出発。

(ハ)　2，3年は授業終了後1時間内外，運動の時間を設ける。

(ニ)　高学年は特別に学習あるいは作業ある組に限り1時間内外遅くなることもある。

(ホ) 冬季は別に時間割を定める。

2　保有米について

学校には230名の児童2食分のお米や,梅干などの副食物が保有してあり,時々飯盒炊さんや炊出しなどの練習にあてておりますが,今回古米切りかえおよび非常用のため,明日児童1名2合宛食米持参のようご配慮願います。

昭和17年4月20日

明星学園初等部

保　護　者　様

空襲警報の発令時の処置　(17年5月7日)　下記三つの立場を綜合ご考慮のうえ,万遺漏なきようご配慮願います。

児童では

1　登校途上の場合

イ　乗車前だったら家に引返す。

ロ　乗車後だったら急いで学校に来る。

2　帰宅途上の場合

イ　乗車前だったらすぐ学校に引返す。

ロ　乗車後だったら家に急ぐ。

3　徒歩通学の者は

イ　井の頭公園まで来た者は学校へ来る。

ロ　公園までの途中だったら家に引返す。

4　なるだけ垣根添いや木の下をえらんで急いで歩く。

5　警防団員のさしずによく従うこと。

家庭では

空襲警報発令に際し

1　児童が未だ出発前だったらそのまま解除まで待たせる。

2　出発後だったら,児童が乗車前か後かを早帰り時刻表により測定のうえ次の処置に移る。

イ　見込時間内に児童が引返さぬ時は学校に向かったものと判定する。

ロ　学校に収容された児童の帰宅については絶対に学校の処理に協力する。

3　空襲警報期間長時に亙り,解除前に帰宅させる必要のある時は,

イ　乗車帰宅の場合は予め定められた家庭当番は所定家庭群を代表して駅前指定の場所に迎えに出る。

ロ　徒歩帰宅の場合は当番家庭は既定の地点まで迎えに来て順次部隊の迎送に当る。

ハ　徒歩通学の児童は方面別編成にして学校に待機さしておくから，各方面の家庭代表は直接学校に迎えに来る。

4　各方面に属する家庭群および児童名は別表による。

5　1家族群に毎月1名ずつ当番をきめておいて学校に報告しておく。

6　学校よりの手配通知は1家庭群中の電話所有者にこれを通知するから，その旨直ちに当番に伝達して手配に移る。ただし当番に故障ある時は必ず代りを立てる。

7　常に擁護カードの携帯を忘れぬよう。

学校では

1　登校前の発令が午前中解除されない時は，その日は休業とする。

2　午後授業中もしくは帰宅途上発令された時は，その後の情況に即応して乗車帰宅か徒歩帰宅のいずれかを選ぶ。

3　学校出発の時刻は電話で当番家庭に伝達する。必要あれば家庭群通伝法もしくは電話網によって全部に知らせる。

4　遠隔の子にして特定されている者は必要あれば学校側で泊めておく。

集団行動訓練計画と演習部隊編成　(19年5月6日)19年度の新しい部隊編成表を差しあげます(別表)。部隊は平素の帰宅，非常の際における電車帰宅および徒歩帰宅の三様に分れ，それによってそれぞれ多少の所属が違っておりますからご熟覧のうえ，お子さまの編属について平素お心得おきを願います。新転入児の父兄の方はこの運用について未だ十分ご了知ないことでしょうが，いずれ機会を見て篤くご説明申しあげますし，今後屢〻実演される被訓練児童を通じて次第にご明瞭のことと存じます。差しあたり8日の大詔奉戴記念日は初・中・女の3部が合同のうえ非常徒歩帰宅の演習をいたしますから，十分この表をご活用願いあげます。集団訓練としての部隊移動は最早演習のための演習ではなくて，今日の都民にとってはまさに実即そのものであります。日に緊迫の度を加える折柄，これに要する各種の常の構えはいやがうえにも強化し訓練の徹底を完了するつもりであります。何卒各家庭におかれてもこの際学校と同一面に立ち，絶えず緊密な機構を保ち，必死の協力のもとに学童生徒の擁護に万全を期せられたく念じます。

昭和19年5月6日

明星学園初等部

父　兄　各　位

逓送区間および受継地時刻

部　隊	逓　送　区　間	受　継　地　時　刻
井の頭線部隊	学校——富士見丘十字路 富士見丘十字路——理性寺前 理性寺前——明大予科前 明大予科前——下北沢駅	学校ヲ　13：00 富士見丘十字路ヲ　13：45 理性寺ヲ　14：15 明大前ヲ　14：48
中央線南部隊	学校——富士見丘十字路 富士見丘十字路——宝昌寺前 宝昌寺前——杉並第6脇 杉並第6——都立杉並工業 都立杉並工業——氷川神社 氷川神社——下落合	学校ヲ　13：00 十字路ヲ　13：45 宝昌寺ヲ　14：20 杉並第6ヲ　14：48 都立杉並工業ヲ　15：14 氷川神社ヲ　15：38
中央線中部隊	学校——高井戸第4 高井戸第4——城右高女 城右高女——高円寺	学校ヲ　13：00 高井戸第4ヲ　13：50 城右ヲ　14：25
中央線北西部隊	学校——家畜病院 家畜病院——関根橋 関根橋——白山神社	学校ヲ　13：00 家畜病院ヲ　13：25 関根橋ヲ　14：05
中央線西部隊	学校——三鷹駅前 三鷹駅前——国分寺駅	学校ヲ　13：00 三鷹駅ヲ　13：20
成城部隊	学校——烏山 烏山（東京急行）——成城学園前（東急）	学校ヲ　13：00 烏山ヲ　15：50 成城前（着）
牟礼新橋部隊		学校ヲ　13：00

（徒歩）　非常帰宅班別表　昭和19年度

時間	学校→下北沢（14時10分）	学校→中野駅（14時15分）	学校→関根橋（13時）	学校→気象部（14時）	学校→三鷹駅（12時35分）	
部隊	井の頭部隊	中央線南部隊	中央線北部隊	中央線中部隊	中央線西部隊	牟礼・新橋部隊
1年	林・富川・加藤・渡瀬・松沢・倉科・河村・高見沢・清水・山崎・奥村・奥村・文貫・佐藤・石塚	伊藤・水原・甲野	小田・小野寺・飯塚・伊藤・原田・西川・新山	三森・河角・大島・畝本・内山・吉岡・中村・鳥山・玉城	渡瀬・北原・末永・小島・名嘉元・田中・根津・井上・飯河	加藤・川上・藤井・湊

時間	学校→下北沢（2時10分）	学校→中野駅（14時15分）	学校→関根橋（13時）	学校→気象部（14時）	学校→三鷹駅（12時35分）	
部隊	井頭部隊	中央線南部隊	中央線北部隊	中央線中部隊	中央線西部隊	牟礼・新橋部隊
2年	豊福・大塚・田島・藤井・杉本・志村・戸田・町田	箕作・川西・林・橘・桑田	土田・若林・矢島・大原・亀山・柏倉	小野・小西・黒田・豊・小見・木全・中村・栗飯原・玉野・内山・松崎	泉・菱田・布瀬・平山	岩堀・高田・西野
3年	江国・浅野・高見沢・林・奥村・松本・山本・大貫・佐藤・針谷・清水・鈴木	市田・関口・永島・中島	加藤・友枝・芦田・久富・西川・山之内・山本・牧野	松田・長浜・宮崎・飛鳥川・岩本・畝本・成田・佐竹	富永・加藤・平山・神谷・山根・大槻・伊端	二村・瀧本・長井・桑原
4年	平林・山口・藤原・石丸・石塚・松本・中島	遠藤・矢納・福田・水原	芦田・山川・李子・竹村・矢島・竹村・小野・有坂・尾崎・岩崎・牧	毛利・岩崎・岩本・杉山・内藤・中村・木全	吉川・名嘉元・平野・岩田・小島・青柳	西野・両角・藤井・岩堀
5年	柳沢・浅岡・○堤・針ケ谷・石丸・佐藤・藤原・中井・鈴木・林	福山・宇田川・市田・○田村・真保・中野・永田	伊知地・小田・交川・白神・清水・山之内・○新山・浦上・志村	林・有賀・田中・河角・田中・小平・畝本・吉田・松井・木全・○飛鳥川	○斎藤・本間	瀧本・◎湊・○佐藤
6年	大泉・◎坂・山崎・宇賀神・加藤・武田・浅野・戸田・二神・鈴木・酒井・古屋	福田・成田・中島・田中・野村・奥堂・◎関口・内海	竹村・◎杢子・松本・鹿江・駒崎・神田	清水・内藤・山田・中山・中村・◎中井・本谷・小西・成田・中島・小沢・河角	小島・菱田・山根・渡辺・◎加藤	藤井・吉村・衣笠・二村・小林

◉注意　◎印ハ班長，○印ハ副班長，　前回ノ非常帰宅班別表ハ不要ニツキ捨テルコト。

重量担負訓練　（17年11月18日）拝啓　既報のとおり来る20日（金）学園・多摩川原間の重量担負訓練を実行いたします。今回は目的を二つに分ち，行きは学園としての少年団的生活訓練に宛て，帰路を担負の錬成に充当するものであります。

1　参加学年と資格

イ　児童全部必ず参加

ロ　1年，2年は徒歩区間往復とも8キロ，その他は電車使用，3年以上は全部徒歩。

ハ　徒歩部隊は非常帰宅部隊をそのまま各部隊として訓練する。

ニ　3年以上と雖も鍛練程度においてその負担に堪えずと認める者は1年，2年の組に編成す。



校庭で飯盒炊さん　終って下校前，戦闘帽の子もいる（昭和19年）

す。

ホ　帰路の重量担負は3年以上に限る。

2　時間の予定

イ　11月20日午前7時40分学校集合，同8時出発。10時目的地調布多摩川原着。1，2年は学校より京王電車烏山まで徒歩。烏山より多摩川原まで電車，9時30分所定地着。

ロ　帰路は12時30分同所発，14時30分ないし15時学校帰着の予定。

3　携帯品

イ　1，2，3，4年は昼食後，水筒・ちり紙・手拭その他すべて平素の遠足見学通り。ただし，現地にて味噌汁を給する計画につき，必ず水呑コップ携帯のこと。

ロ　5年，6年は河原で飯盒炊さんをするから下記に従うこと。

①　飯盒所有の者は幾箇にても明19日学校に持参のこと。ただし中子を除く。

②　当日は洗米1合強，味噌1人宛30グラム（約8匁）持参のこと。その他の携帯品は以下の学年と同じ。

③　味噌汁炊さん用の野菜は6年の収穫野菜を使用する。

④　弁当は不用であるが箸と食匙携帯すること。

ハ　全部補食，おやつ・砂糖等は一切不用。

4　重量担負について

イ　帰路は河原より5キログラムの砂を背負って10キロ以内の徒歩をする。

ロ　3年以上は砂容れ用としてできあがり横30センチ縦40センチの布袋を持参，布地は古巾の有合せでも何でもよし。

ハ　砂は今後の実習にも使用のことあるべければ，保存しておくこと。

5　中止の場合

イ　雨天もしくは8時の気温10度以下か，寒風烈しき場合は中止。

追記

イ　去年は重量のため，ルックサックの破損せる者も可成ありましたから，十分背負紐と袋との繋目に注意。

ロ　徒歩のいずれの場合も同様であるが，靴底および尾錠に注意。

昭和17年11月18日

明星学園初等部

保　護　者　様

ルックサック使用　(18年4月13日) 明日よりランドセルを廃し,ルックサックを使用します。常時携帯の品は水筒(木栓は是非コルクにして欲しい),細い糸紐2,3メートル,繃帯1巻,メンソレータムの如き塗布薬,宝丹・仁丹の如き清涼薬,毛抜1本,これ等をボール小箱に入れ,三角巾,もしくは代用風呂敷に包み,常にルックサックのポケットに入れておいてください。なお規格外ながら当分使用を認められた向も標準による品を至急ご配慮願いたく,兄弟関係で品はいいが小さすぎるだけのものは下の級に下げる等の塩梅も適宜のご処置と存じます。

始業時間

始業時を繰り下げたのは出盛りの時の混雑を避けるためですから,漫然と早く来る要はありません。吉祥寺8時着の上り以前の電車を利用せぬよう成るべくこの電車か,一電車後ぐらいを見込んで登校するようご配慮願います。

昭和18年4月13日

明星学園初等部

保　護　者　様

(2)　消費の統制と配給

児童服と上靴配給　(17年12月22日)児童用冬服およびズック運動靴がまいりましたが,員数少数故ぜひ必要の児童より抽選で配給します。服は男児服は国防色長ズボン(但し黒少数あり),女児服は紺サージ織り,いずれも上下組。衣料切符は上下にて17点,価格は5円以上8円90銭まで。靴は従来のとおり。因に長ズボンは都市向ではないでしょうが,丈夫ですから改造しても,そのまま家庭の着用にしても徳用と存じます。

※　該当部に赤い印をつけ合計を記入ください。

〈運動靴〉 76銭(7文半)　95銭(8文より9.7文まで)　124銭(10文以上)
〈洋服〉　衣料切符17点 男児用　685銭(2号)　720銭(3号)　760銭(4号)　800銭(5号)

	845銭（6号）	890銭（7号）		
女児用	590銭（2号）	610銭（3号）	665銭（4号）	680銭（6号）
	640銭（7号）	（5号ナシ）		
〈学級費〉		銭		
〈合　計〉				

昭和17年12月22日

明星学園初等部

保　護　者　様

非常保有米について　（18年2月23日）緊迫せる時局に対処する常の訓練と準備は児童を災害から擁護する唯一絶対の構えです。最近父兄関係の専門薬店2，3の方に依頼して救急薬品の充実を急いでおりますが，お気づきの面においてはご遠慮ないご進言とご協力を願います。次に従来非常時炊出用食券として1人2合宛を常備保有しておりましたが，屢〻訓練に利用したり，古くなって切りかえの必要などにせまられ，今手持は残り少なになりました。よって新に1人2合宛ご供出をいただき，非常用に充てたいと思います。ご使用米の手薄の折柄ですが，いざとなればやはりお子さまたち自身の口にはいるためのものですからお願いします。なお食塩・梅干・味噌・胡麻等の応急副食品についても入手方ご案内の向はご教示くださいますよう併せてお願い申しあげます。

昭和18年2月23日

明星学園初等部

保　護　者　様

鉄道小荷物の配達について　（18年12月18日）戦い抜くために重点輸送に全力を注ぐ当局が，あらゆる方策を講じて不急貨物の抑制を励行しているにかかわらず，時局の種々な影響からと，年末出貨季，それに逆比する人手不足等がからみ合って輸送陣営をおびやかし，沿線各駅とも，滞貨の山はいつくずれそうにもありません。明星学園初等部の子供さんたちは，せめてこれ等小荷物配達の一部だけでも引受けてお国に協力しようというところから，今後先生の指揮のもとに，地元町内および公園町内約600世帯分の配達を引受けることに当事者との話合いが成立し，12月18日より着手致

しました。どうぞ子供たちのこの企をご理解のうえ，ご協力の意味で配達荷物の受取を円滑にせられるよう希望いたします。

昭和18年12月18日

井の頭町内会長　川路俊徳

隣組長各位

(3) 戦時非常措置法案に対する初等部の教育

19年7月20日のお知らせ　一億一丸の鉄火が愈〻最後の勝利を奪うべき決戦の段階に突入しました。人といわず物といわず，すべてが有るべき姿，有るべき配置に整然たる態勢を完了して林の如く静まり返って熟機を待っております。私たちもまたこの危局の中にあって，初等部教育の帰趨を最も端的に，最も確実に完遂すべく精進しております。ついては本年度教育企画中の緊急問題として，来る22日（土曜）午後1時より

1　戦時非常措置法案に対する初等部の教育協力について。

2　疎開もしくは受入れに関する諸方案について。

学校の実際と具案を説明申しあげたいと存じます。代人でなしに必ずご両親のいずれかご出席のよう待ちあげます。

児童給食について

児童の栄養についてはご同様常に配慮と心痛を続けております。ちょうど青果菜の出盛り期ですので，時々果物の代用として汁の実の外にトマト・胡瓜・ジャガ芋・キャベツ・人参のようなものを与えたいと思って着々実施しております。汁の実は春以来学校の畑でとれたもので，今日まで維持してまいりましたし，将来とても学校園所産のもので支弁して行く目標と計画でおりますが，特殊のものはどうしても高価に買入れなければ清新なものは給与できません。よってその分の実費として7月分児童1人，金30銭を徴集いたします。今のところトマト1回給食すると，1人12銭ばかりにつくようでございますが，果物一つない折柄ではこれでも十分に補給になることと存じます。

非常用保有米持参のこと

非常用保有米切替のため，明日お米1合ずつ持参さしてください。なお，明金曜には炊出しをいたしますからお弁当はいりません。

昭和19年7月20日　　明星学園初等部

暖房抜きの室内学習　（19年10月10日）国の興亡をかけての決戦の年であります。暖房装置抜きの室内学習も，当然の即応態勢として既に昨年4月の父兄会の際からご了解を得ていたことであります。日中7度内外の室内温度は幼児にとっても決して苦痛のものではなく，東京の児童としてはむしろこれくらいは鍛練に適正な気温というべきであります。しかし1月から2月上旬までは厳寒期ですので，非常に低気温の際は，それぞれ臨機の対策を講じますからご安心願います。ついては極寒中はなるべく気温の上昇を待ち，兼ねては電車の混雑をも避ける意味から，始業時間を8時50分に繰下げ，終業時を15時に限定して夕刻気温の急低下前に帰宅させるよう配慮いたしました。なお学校の井戸水は13度でむしろ微温湯程度ですので，燃料節約と鍛練の意味から年中を通じて生水のまま飲用させることといたします。

夏休み的気分を払拭して　（19年8月7日）別表のとおり夏季指導を行ないます。夏休み的な気分を払拭して，出席するようご協力をお願いします。なお，下記ご覧のうえしかるべくご配慮ください。

昭和19年8月7日

明星学園初等部

保護者各位

記

1　食事給与の前日にはその都度，米7勺お持たせください。

2　早暁登校の日には弁当不要（その日は低学年も弁当不要）

3　夜行軍，夜間訓練，見学・強歩・登山，合宿訓練等特殊行事の場合には前もって諸注意その他お知らせいたします。

以上

付記……警戒警報その他のためのこの計画に関する通知が遅れましたが，常時と少しも変らないのですから十分ご諒承ください。

学年		高学年（6，5，4）		低学年（3，2，1）	
月日	曜	行事	内容	行事	内容
8．4	金	室内学習および作業	室内における重点的学習，学校園，校舎内の作業	室内学習	自然観察・工作・その他重点学習
8．5	土	室内学習および作業	室内における重点的学習，学校園，校舎内の作業	室内学習	自然観察・工作・その他重点学習
8．6	日	室内学習および作業	室内における重点的学習，学校園，校舎内の作業	室内学習	自然観察・工作・その他重点学習

学年		高学年（6，5，4）		低学年（3，2，1）	
月日	曜	行事	内容	行事	内容
8.7	月	室内学習および作業	室内における重点的学習，学校園，校舎内の作業	早暁登校（3年），室内学習・作業	1，2年は平素どおり
8.8	火	早暁登校，朝の鍛練，8時半より室内学習と作業	5時50分学校着，朝食給与，帰宅常のとおり	合宿訓練（3，2年）	学校宿営・朝食給与（翌朝）
8.9	水	室内学習と作業		室内学習と作業	
8.10	木	室内学習，夜行軍	22時より翌日5時まで羽田より稲田登戸間，多摩川沿いに徒歩遡行，登戸より電車帰宅	室内学習と作業	
8.11	金	解散帰宅休養		休養	全職員夜行軍付添
8.12	土	室内学習作業		室内学習，軍用犬訓練所見学	武蔵境軍用犬訓練所見学
8.13	日	室内学習作業		室内学習作業	
8.14	月	大岳中心の登山	五日市より大嶽を経て氷川に到るものと，その逆コース	休養	全職員大岳登山指導のため留守
8.15	火	室内学習		室内学習	
8.16	水	室内学習		室内学習，自然文化園見学	井の頭自然文化園入場
8.17	木	日原鐘乳洞行	日帰り	室内学習	
8.18	金	室内学習		多摩川原行	水に親しむ日，京王多摩川原
8.19	土	室内学習と作業，夜間訓練	夜間における軍事的訓練，夜営，19時登校	室内学習	
8.20	日	朝食給与，早暁行事，小体育会終了式	昨夜来宿営の継続	早暁登校（3年），高学年に同じ	1，2年平素どおり
8.31	木	5，6年登校	校内整備		

防空壕・非常用食料　(19年11月24日)去る21日父兄会においてご懇談申しあげました防空設備その他の非常時対策については即刻着手いたします。待避壕整備については別項のとおり資材集荷および逓送の方法により即行,今月中に完成の予定でありますからご協力願います。新説壕も相当増設されるうえに，主動労力は6年中心の子供相手のこととて相当困難を覚悟しております。ついては全職員陣頭指揮のため手が廻りかねますので，今月中は4，3，2，1年は授業を午前中にて帰宅させ，午後は防空施設に専念いたしますから，低学年の家庭学習の方は学校指示に基づき然るべく

ご誘導願います。なお，待避壕一とおり完成のうえは，3日間の授業休止期間をおき，この機会を勤労児童の休養，校舎内部の整備，職員各自の家庭および身辺の整理に充当し，心静かに来たるべきものに備えることにいたします。非常用食料品については先般も申しあげましたし，父兄会席上でもご了解をいただきましたとおり，児童1名につき米を2合・豆1合・ウドン粉飯茶椀1杯宛供出を願います。ただし豆・ウドン粉は都より未配給の向きにてお手持なき方はご入手の後でもよろしゅうございますし，先日2合のご供出未納の向きはご充填願います。

第1次待避壕掩蓋用材供出計画

1　供出期間　　11月28日まで学校到着

2　供出用材規格

(イ)　材質は何にてもよし

(ロ)　長さと形

①　丸太・角材・たるき・ぬき・板片・その他何にてもよし

②　なるべく6尺以上のもの，ただし板片は2尺5寸以上

③　長さ12尺以上のものは半分に切断する。それ以下はそのまま

④　石油箱・林檎箱等は分解して板片にする。

⑤　竹材直径2寸以上なら可

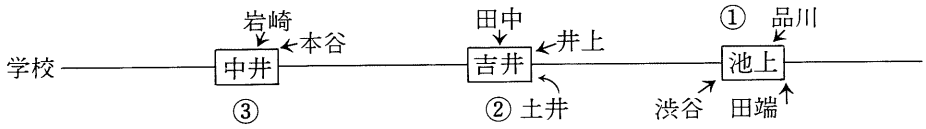
3　持寄搬入方法（バケツリレー式による）

(イ)　別表児童非常徒歩帰宅の逆コースを基本とする

(ロ)　□印のお宅へ矢印に従って持寄る

(ハ)　最終班は学校へ搬入

(ニ)　例



①　池上氏へ集積されたものを次班②吉田宅へ運ぶ，②班では①班のものと自班のものをまとめて③班へ運ぶ，③班は①，②と自班のともものを一緒，もしくは到着順に学校へ搬入する。3班以上ある系統のものはこれに準ずる。

(ホ)　量が手車一ぱい以上になった場合は逓送回送を増す。人手不足にて困難の場合は学校へご相談を乞う。

4　班別と運搬担当者

(イ)　班別は大体学校隣組を基準にしました。

(ロ)　運搬担当者はその班内にて協議のうえ，決定してください。

(ハ)　次の班へ運搬する場合は学校と打合せのうえ児童を動員してよろしい。

(ニ)　特に遠隔地または集荷所にかけ離れた宅は供出から除外しました。

5　運搬具　運搬担当者等の都合で期間内完了が不可能と推定される場合は，やはり一応学校とご協議を願います。

昭和19年11月24日

明星学園初等部

保　護　者　様

疎開っ子　(20年3月14日) 授業の終始について　　来る3月18日の修了式をもって第3学期を打切り，併せて19年度の終了といたします。しかし，別表のとおり修了式後においても現6年は登校しますし，それ以外の学年も指定期日間は従前どおり出校することにいたします。申すまでもなくこうした情勢下においては，ある程度の安定に見通しのつくまでは，不動の計画を立てても実際の場合は刻々の現実に即応して学校の運営にあたるのほかなきは余儀ない次第でございます。いずれにしてもこの際長期の休日をおくことは学校と家庭との連絡を不円滑にし，臨機の処置を必要とする場合に支障を来たす不便があるばかりでなく，学業の上からもいわゆる稼げるだけは時を稼いでおく建前からしても必要のことと存じます。最早，日曜・祝祭日・夏冬休業の如き平和施設は，他の緊要な面に振向けられなければならないのは当然で，今後とも学校運営上に現われる事態へのこうした即決即行は決して不定見からのその場限りのものではなく，熟慮のうえの臨機処理とご了承のよう願上げます。

なお明15日は天候険悪の予感がありますので休業致します。

個人疎開計画調査

昨年9月以降3月末までをもって学校の第1段階計画は皆さまのご理解とご協力により無事にその目的を果すことができました。最近の都心実情と敵の動向よりして第2段階の計画はその必遂の見通しにおいて格段の困難を伴うように思われます。いずれ4月3日の全父兄会においてこれら根本方針と20年度の教育経営について委曲申しあげるつもりでございますが，何よりもまず来年度の児童父兄の組織実数を今のうちにできるだけ正確に決定する必要がございます。ついては別表ご記入のうえ，17日までに相違なくお届けくださいますようお願いいたします。なおこの問題について

は如何ようともご相談にあずかりますから前もってご来校の日時をご通達のよう願い上げます。

報　告　書　第　学年・氏名	
摘　要 疎開事項	
疎開地	
疎開地の縁故	
全家疎開	
児童のみ（児童名）	
永久疎開	
一時疎開	
短期疎開	
現在は未決定なるも適当な箇所発見次第決行の予定	
将来学校へ復帰の希望	

※　現在の6年生を含まず。

……切 取 線……

4月までの学校の動静

3月15日（木）　新1年児童決定

16日（金）　午後2時ころより6年生歓送会（他学年を除く）

17日（土）　式場・父兄控室準備，校内大清掃

18日（日）　10時より修了式

19日（月）　各学年教室移転

20日―25日 この間休業，校内整備

26日（月）　この日から登校開始（新1年を除く）

4月2日（月）　新6年のみ登校

3日（火）　全父兄会

5日（木）　9時より新学期開始

昭和20年3月14日　　明星学園初等部

残留組の夜行軍　（19年8月10日）　本年度夏季錬成行事表記載のとおり本10日別項に基づき，丸子玉川・学校間の夜行軍を挙行いたします。ただし雨天荒天は中止。順延せず。敵を至近に引きつけて覆滅反撃に出る快挙の瞬間です。心身の猛訓練は，大人にも子供にも必須な敵前作業です。４，５，６年の残留組50名を５班に組織し，全職員指導のもとに７時間25キロの夜行軍は大人としても十分な鍛練度と思います。しかし日頃の錬成に物をいわせ，明日の５時までには彼等100本の鉄脚は校庭に低迷する暁靄を蹴散らして爽諷と「ゴールイン」するでありましょう。晴れてさえいれば月齢22の下弦の月は巨大な光源弾となって，一行の進路を照明してくれましょう。河原をこめる夜霧の中に，ほのかに浮ぶ月見草の群落もここならではの夏の景観です。遠く近く呼び交わす川千鳥の声に送り迎えられつつ，吹き上げる河風に肌の汗を吸わせながら，粛々とコースを刻む一団の姿は逞ましくも頼もしい限りと思います。では行って参ります。

1　擁護上について

イ　家を出発するまではできるだけ就寝させること。

ロ　十分休養と栄養を与えること。

ハ　食事は約２食分携帯のこと，１食は24時，１食は朝食に充てる。

ニ　朝食は学校到着後給与，学校にては副食として温い味噌汁・トマトを準備しおく。

ホ　朝食後２時間睡眠―― ９時解散帰宅。

2　集合・行進・解散

イ　20時省線大久保駅ホーム集合，そこより引率，渋谷下車東横線乗換，多摩川園前下車，ただし井の頭線利用のものは渋谷駅東横線改札口で待受けること。

ロ　10時丸子玉川左岸橋畔より行進開始，二子玉川・稲田登戸・稲田堤と多摩川右岸堤上を遡行，矢ノ口橋を渡り，調布町上石原に出で，深大寺より学校に帰着。参加人員４年13名，５年14名，６年23名，計50名ほかに女学生若干名。

3　服装並に携行品

イ　軽装――肌着・上着・半ズボン程度。セーター腹巻は必ず持参すること。

ロ　レインコートあるいはこれに代る雨具。

ハ　履物を十分修理しておくこと。

ニ　２食分の食事。

ホ　砂糖10グラム，もしくはこれに代る物。

ヘ　水筒・薬品・衛生材料その他常のとおりルックサックに入れて持つ。

ト　懐中電燈所有の者は持って来ていい。

チ　警報発令の場合は中止，途上発令でも安全地帯内の行動であるし，徒歩のことですから決してご心配はいりません。

昭和19年８月10日

明星学園初等部

４，５，６年父兄各位

古綿・古布片もちよって　（19年11月）お寒くなってまいりましたがお変りございませんか,さて戦局もいよいよ切迫いたし本格的空襲をうけるのも予測を許さぬほどさし迫った問題となってまいりました。それにつきまして本学園でも警報発令下には先生方が宿直をして学童保護その他の応急処置をおとりになるのでありますが，その際の夜具の備えが１枚もございません。この冬空に先生方に夜具の事でご不自由をかけてはあまりに相すまない次第でございますのでこの際,お母さま方の誠心を少しずつでも持ちよりお蒲団の準備をしてさしあげようということになりました。つきましては時局柄布片，あるいは古綿の供出など次々にございますのでまことにご迷惑さまと存じますが何卒下記要項によりご援助のほどよろしくお願い申しあげます。

1　布片並幅２尺くらい（生地は何でもよろし）

2　古綿半枚もしくは100匁

3　今週中に学校あてお届けくださいませ。

昭和19年11月

明星学園初等部母の会

お　母　様　方　へ

〈初等部〉　学園隣組名簿　　――昭和19年11月現在――

■　井の頭線班（◉印が組長　――各通――）

（１組）◉佐藤・古河・渡瀬・大塚・豊福　（２組）◉三浦・松沢・土井・富川・浅野・鈴木　（３組）◉藤原・東坊城・山口（美）・山口（由）・坂・中井・堤・藤井・田島　（４組）林・武田・浅岡・大島　（５組）◉山口・加藤・河村・柳沢　（６組）宇賀神・杉本・島　（７組）◉志村・酒井・古屋・大泉：清水・紋谷

■　中央線北部班

（１組）◉牧・山本（昌）・飯塚・神田・西川・八木　（２組）◉尾崎・亀山・志村・原田　（３組）◉新山・牧野・浦上・小野・山之内・有坂・小田・岩崎・清水・伊東・浦　（４組）◉伊地知・交川・小野寺・白神（５組）◉杢子・鹿江・加藤・駒崎・松本・有賀・山川　（６組）◉矢島・竹村・久富・友枝

■　中央線中部班

（1組）◉成田・中村・山田・杉山　（2組）◉木全・若林・水原・大原　（3組）◉田中昭・中井・岩崎・木村・本谷　（4組）◉田中（仁）・林・甲野・川西・鳥山・清水　（5組）◉松井・吉田・三森・内山・中島(恭)・森本・五城　（6組）◉松田・毛利・豊・粟飯原・竹内　（7組）◉玉野・小沢・小見・松崎・宮崎（8組）◉小西・河角・中西・長浜・岩本・佐竹

■　中央線南部班

（1組）◉成田・福田・真保・矢納・小林・田村・中島　（2組）◉桑田・橘　（3組）◉野村・高見沢・伊藤　（4組）宇田川・遠藤・福山・永田・野田　（特殊）奥堂・内海・直井・永島・佐藤・関口

■　中央線西部班

（1組）◉加藤・山根・菱田・小島・末永・平山・神谷・平野・小林・布施　（2組）◉渡辺・斎藤・青柳・北原・岩田・名嘉元・泉　（3組）◉山川・本間・唐木田　（特殊）富永

■　牟礼班

（1組）◉二村・両角・加藤（友）・湊・安芸・大槻・藤本・藤井・山崎・佐藤　（2組）◉岩堀・飯河・滝本・川上・伊端・桑原・高田・西野　（3組）◉吉川・根津・井上　（4組）◉中島・戸田・浜田・溝部・山本（有）・二神・石塚・前川・針ケ谷・町田・佐藤（教）・江国

備考

(1)　前掲は新しい家庭隣組，◉印は組長さん。

(2)　待避壕資材を寄集めたお宅と組長さんとは別の意味。

(3)　新組長さん打合せ会＝＝12月1日9時開始，10時終了，児童とともに帰宅。ご迷惑でもぜひ，ご出席お願いいたします。

昭和19年11月29日

明星学園初等部

保　護　者　様

空襲下の登校と退出について　（19年11月29日）敵機は執拗に帝都の周辺に覗い寄りわが生産陣営に有形無形の損失を企画しているもののようです。しかもここ数週間の経験よりして晴曇に拘らず，大体連日正午前後来襲，約2時間半に亙る爆撃のうえ，遁走という定形をとっているようでありますから，学校においてもひとまずこれに向って子供たちの処理対策をたてておき，その他は先日父兄会においてお話申しあげましたとおり，情勢に即応して，臨機の方法に出る考えであります。よって本日1，2，3，4年は，当分11時にて打切り，昼食なしに即時帰宅，5，6年は同刻食事の

後，待避壕の整備に着手,1日も早く完成を取急ぐことにいたします。かように2段構えとした理由は，5，6年だけならば万一警報の解除が4時過ぎになりましても児童数も少ないうえに，集団，自律行動ともに十分訓練づけられておりますから処置に困るようなこともないと考えるからであります。なお，学校としては十分な考慮のうえに最適と考えられる方法を歩んでいるつもりですから，この際児童に関する限り集団組織を薄弱に導くような自恣的ご行動はお控えいただきたく，すべて学校と打合せのうえ，協同的立場においてご行動のよう願いあげます。

帰宅時刻と時間調査

学校・家庭間の通学に要する時間は従来も屢〻調査してありますが，最近転入の児童も相当になりましたので全面的に再調査と致しますから下記事項お含みのうえ，正確な時刻記入12月 1日，間違いなくお届けを願います。

① 児童は空襲の影響を避けるため，30日10時，一斉に学校を退出のこと。

② 家庭にては大体到着の時刻を見計らい責任者待受け，別項記入欄に学年・児童名・時刻を正確にご記入お届けのこと。

③ 時計は必ずラジオにお合せくだされますよう，まちまちとなっては無効であります。

方面別家庭隣組

従来ありました方面別家庭隣組を整備し，新たに組長さんを依頼し，万事学校とのご協力のよう，お願いいたします。こうした事態においては，教育といわず擁護といわず，全面的に学校との緊密なご協力による以外に時艱克服の道なく，この意味において組長さんのご活動は最も大きな推進力となるのであります。組長さんは皆さまでご推選するのが本則でありますが，急を要する場合故，今回は学校よりお願いいたしました。どうしてもその方がご都合悪い場合は組内にて然るべき方をご推戴お願い申しあげます。なお,空襲下においては電話網も行使不能ですし，通信も紙・原紙・謄写インキ等，払底のため，従来どおり各家庭に配布は不可能と存じますので万事隣組回覧法をとらざるを得ないようになるでしょうから，組の連絡等も一層，ご緊密に願いとう存じます。

昭和19年11月29日

明星学園初等部

保 護 者 各 位

到着時刻　　時　　分

所要時間　　時　　分間

初等部　　第　　学年　　氏名

2　戦時下の中学部・女学部

(1)「学校当直日誌」（抄）（中学部）

この「学校当直日誌」は，終戦間際米軍の空襲が激しくなるにつれ，連日2，3名の当直教師が午後5時から翌朝8時まで学校に宿泊して警備に当った時の記録である。保存されている日誌は，昭和19年5月から終戦の年の8月28日夜直を中止した日までのもので，ここにはその中から特に上田先生が当直記録を書かれた部分の一部を抜粋した。

本来ならばこういう記録は終戦時米軍の手によって全て焼却されていたはずだが，たまたま明星を担当した米軍人の通訳に当った明星学園女学校の館谷ノリコ先生が米国籍をもっていたためか，米人を学校まで連れて来ず，上田先生宅に案内しただけで検閲を終えたことにしたので，こういう記録も残されたものと思われる。今となっては資料として貴重なものとなった。その意味で，原爆投下に触れた記録は，上田先生の当直の日ではないが，参考として掲載した。

昭和19年6月15日（木）当直　横川武，上田，船山

1　午後5時半，警戒警報発令(第1種)第3小隊登校警備ニ当ル。下野氏，堀氏，赤井氏，当校，8時半，三氏共退出，生徒ヲ8時半過解散。

欠席者4年渡辺亮，岩田

6月17日（土）当直　横川武，上田

欠席者4年渡辺亮，3年多賀

1　隣組ヨリ19日（月）防空資材検査アル旨上田通知アリタリ。

2　飯盒炊事ヲナスモノアルモ燃料其他ノ関係モアリ中止セシム。

3　夜8時半，解散（雨天）

4　晴天ノ場合ハ夜間演習ヲ1回行ワシメタシ。

5　7時頃1回非常呼集ヲナシ人員点呼ノ要アリト思ワル。

昼間勤務ノ第1，第2小隊ニ対シテモ同様。

6月18日（月）曇　当直　横川尚，上田

1　第1小隊8時ニ集合セザルモノ5，6人アリ。本日ヨリ遅刻モ記入スルコトトス。

欠席者　4年鵜飼，渡辺亮，渥美，杉，3年尾ノ上，杉本　5年鹿児島，池原



空襲避難訓練をうける子供（昭和18年）
（講談社「写真図説日本百年の記録」から）

遅刻者　4年金沢，天野，宇田川，3年森，野附，抱，福沢　5年阿部，北川

2　物置ノ掃除，剣道防具ノ整理ヲナサシム。

3　豊和重工業ヨリ電話アリ。警戒警報発令中ナレド資材入荷ノタメ作業御願シタシトノ交渉。明日ヨリ5年出動ニ決定。

4　5年加藤，阿部，鹿児島，4年渡辺亮，緒方ニ20日（火）荻窪健康相談所行ノコト通達。

5　第2小隊，12時ニ集合セザルホノ数名アリ。遅刻者，欠席者，左ノ如シ。

欠席者　5年松田，4年吉川，渡辺亮，東坊城，3年児玉，有賀，渡瀬

遅刻者　5年宮原，4年松岡，星野，3年山田，吉原，湯浅，成田，松田

当直ノ方ハ生徒出席簿ニ欠席，遅刻御記入下サイ。

午後1時解除トナル。

7月4日（火） 曇　（当直）鈴木，上田

1　午前9時，警戒警報発令，1，2年生帰宅，3，4，5年第1小隊ニ属スルモノ警備ニ当ル。第1小隊欠席者5年鹿児島，池原，中村，岩永。

1　正午，第2小隊勤務ス。第2小隊欠席者5年石井，宮原，安積，石井，4年ナシ，3年渡辺。

1　トランプ遊ビヲシテ時間ヲ空費スルモノ多シ。防空ニ関スル仕事，其他ノ仕事ヲサセル様工夫ヲ要ス。勉強ヲサセルニハ，教室ニ分散サセヌト実行困難，但シ夜ハ分散サセヌヲヨシトス。途中1回非常呼集ヲナシ，人員点呼ノ要アリ。

1　午後5時，第3小隊勤務ス。夜直，船山氏，横川尚氏ニ引継グ。

8月4日（金） 快晴　夜直　横川武，上田八一郎

1　夕7時，警戒警報発令（本土全部）

8月5日（土） 快晴　日直　門川沢吉，上田八一郎　夜直　門川沢吉

1　午前8時，2年1組生6名登校。待避壕掘リ。2時間。后リヤカーを引いて駅に行き教科書を運ぶ。

2　正午交代，2年2組5人（佐藤俊晴欠席）女学校ニ教科書運搬。12時半解除。

11月1日（水） 快晴　居残り　下野，田口，戸塚，堀，船山，上田

1　午後1時半，空襲警報発令，3時解除，5時準備管制。

生徒ヲ教室ニ置キ，解除後帰宅セシム。（敵機B29，1機来襲）

2　夜9時過警戒警報発令。夜直　上田，横川氏登校，11時帰宅。

昭和20年2月1日（木） 曇　宿直　上田

新校舎1教室，三鷹航空（註・当時校舎の一部は三鷹航空会社に貸していた）工員2名，夜業ス。午



前零時半警戒警報発令，１機，１時解除，３時ヨリ降雪。

２月13日（火） 曇　宿直者　上田

14日（水）朝３時過ギ警戒警報，敵機一ツ。伊豆ヨリ京浜地方ニ入リ帝都上空ヲ経テ后房総へ，３時42分解除，仕事場ノ遮光状態ヨロシ。

４月10日（火） 宿直　上田

１　宿直者船山氏ニ連絡ナカリシカ，来校ナキニヨリ上田代直，雨ノ夜，天井雨漏ノ疑アリ（高射砲破片落下ノタメ？）

４月13日（金） 晴　宿直　上田

夜10時ヨリ３時マデ約４時間Ｂ29，160機帝都夜間空襲，学校上空ニ２機来リタルモ異状ナシ。

(2) 豊和重工業勤労動員日誌 （抄）（中学部）

昭和19年５月４日（木）

５年生（第13回生）25名北多摩郡田無下向台1010豊和重工業株式会社東京工場ニ出動内定書来ル（学園30周年の年）

５月25日（木） 晴　付添　上田

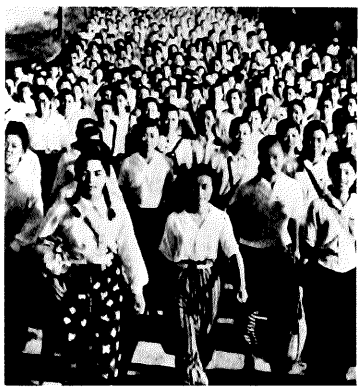
入所式　10時　工場朝礼場ニテ式次第

１　工場長ニ敬礼
２　国旗掲揚
３　君ガ代奉唱１回
４　神宮遥拝
５　宮城遥拝
６　祈念
７　詔書奉読
８　工場長挨拶
９　来賓訓辞
10　学徒代表宣誓
11　聖寿万歳
12　解散

宣誓



学徒出陣　（昭和18年）
（講談社「写真図説日本百年の記録」から）



工場へ向う女子挺身隊　（昭和18年）
（講談社「写真図説日本百年の記録」から）

決戦ノ現段階ニ即応シ吾等25名ノ学徒ハ尽忠ノ至誠ヲ結集シ勤労ニ挺身以テ戦力ノ増強ニ邁進セムコトヲ期ス

昭和19年５月25日

明星学園中学校勤労報告隊

代表　石橋敏男

昼食後，靴貸与，工場案内，タイムレコード説明，食券ノ取扱，其ノ他諸注意（労務課安達氏）２時半ヨリ監督官陸軍少尉上柳昇平氏ヨリ約１時間半ニ亙リ，工場内ニ於ケル勤労学徒ノ態度ニツキ諸注意。

５月26日（金） 晴　付添　上田

本日ヨリ６時50分境駅前集合トス，６時55分出発，７時20分入門，７時25分朝礼場ニ集合，７時半朝礼（以下６月11日まで勤務内容についてのオリエンテーションがあり，実習をはじめたのは６月２日）主な仕事は　１　ヤスリ仕上げ，２　フライス盤，３　ノコ盤，４　研磨盤，５　材料運搬等，勤務時間，７時半より午後５時まで（日曜も出勤）

６月29日（月） 快晴　付添　上田

○警戒警報発令ノ場合従来ハ学校ニ登校シタルモ今后ハ工場ニ出勤スルコト，従ッテ学校特設防護団ヨリ除ク。

○ヒジキ，島田海苔，青海苔等，学徒希望者ニ配給スルトノコトニテ，希望者数労務課ニ申出ズ。

○５月25日ヨリ６月15日迄，６月分トシテ給与787円43銭也受取ル。

７月３日（月） 晴　付添　上田

○２日ヨリ５日マデ米，ウドン不足ノタメ弁当携帯ノコト。

○代用粉末石鹸希望者ニ配給，１袋50銭，希望者数ヲ調ベ労務課ニ提出。

７月13日（木） 晴　付添　上田

○８月10日マデ月，木，土以外ハ付添者弁当持参ノコト（米，ウドン不足ノタメ）一般工場職員モ同様ナリ。

○昼食後医務室ニテ体重ヲ計ル，２キロ位減ジタモノ多シ，但シ原因ヲ勤労作業ニノミ帰スルハ正当ナラズ。

７月21日（金） 雨　付添　上田

○３，４年生（註・14回，15回生）入所式

雨ノタメ青年学校教室ニテ挙行，来賓，動員署長代理，警察署長代理，式次第５年入所式ニ同ジ。

７月22日（土）



焼跡に呆然とする老婦人
(昭和19年)(東京都刊「目
←で見る東京100年」から)

その日の二重橋➡
ポツダム宣言受諾
(昭和20年8月15日)



3，4年基礎教育第1日，付添横川尚氏ニ公用ノ報アリ（召集令状カ？）2時帰宅サレタルニツキ，上田代ッテ記録，停電ノタメ5年作業出来ズ，防空施設ノ手伝ヲナシタル由，3，4年ハ予定通リ基礎教育進行セリト。

8月3日（木） 晴　付添　上田

○昼食後5年生ヲ集メ入所当時ノ気持ヲ保持シ現場全般ニ清新ノ気ヲ横溢セシムルコト，尚オ，ヤガテ現場ニ出動スル3，4年生ニ対シ先輩トシテ好模範ヲ示ス様注意ス。

○工場側ニ対シ，医務室整備ト待避壕完備トヲ要求ス。

8月21日（月） 曇　付添　上田

○手待時間（註・この頃学徒受入態勢整備せず，時間を空費）ニ就テハ工場側モ色々考慮シ，試作工場モ2交代トシテ（近ク）学徒ニ1台デモ器械ヲ与エルベク工夫中，又第3職場ニ手待時間アル時ハ器械ノ掃除ナド課長，主任ノ許可ヲ得テ実行スルコト，尚其際試作工場デ手待時間ヲ有スルモノモ手伝同様同機現場主任ノ許可ヲ得テ実行スル様，週番ニ伝エタリ，従ッテ自分ノ職場ヲ離レザルコト，自習，読書モ禁ズルコトトセリ，尚，様子ヲ暫ク見タ上デ尚手待時間多キ時ハ青年学校ノ1教室ヲ借リテ自習セシムルコトニシタシ。

9月4日（月） 付添　上田

○午前9時半ヨリ会議室ニテ工業側ト学校側トノ懇談会ヲ開ク，1時マデ続ク，主トシテ学校側カラノ要求，希望ヲ工場側ガ聴取セル形トナレリ，以後毎月1回開催ノ予定。

○上記懇談会後，吉田，伊藤両課長ト2直制ノ件ニツキ談合，決定セズ。

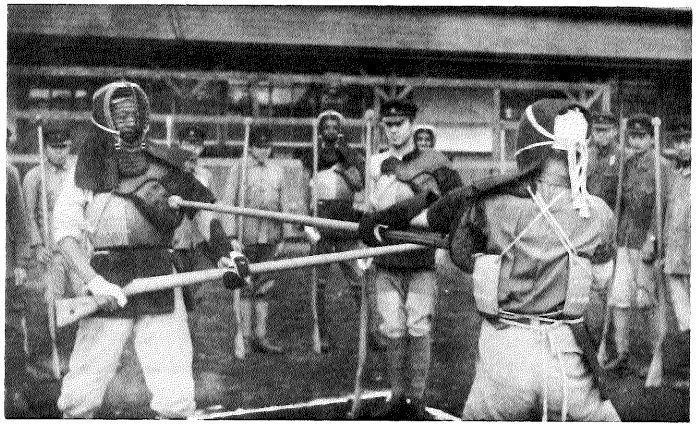
○工場長ト面談，2直制ノ件ニツキ懇談，学徒夜勤ニツキ再考スルトノ言質ヲ得タルモ結局2直制ハ時間ノ問題ニテ早晩実施サレルニ至ルコトハ明瞭ナリ。

9月18日（月） 晴　付添　上田

○昼食後朝礼場ニテ関東軍需部長田中大佐ノ「就労学徒ニ告グ」ヲ上柳監督官代読ノ上学徒ガ事ニ当リテ実行ヨリ批判ヲ先ニスルハ大イニ慎ムベキ所ナリト述ブ……（略）3時少食（うどん）4時半ヨリ3時間ノ予定ニテ吉本興業ノ演芸大会，食堂ニテ開催（8時終了，全生徒5時マデ，以后随意トシ，最后マデ残リタルモノ3分ノ1，干バナナ生徒全部ニ配給）

(3) 昭和飛行機工場へ学徒隊として出動　（女学部）

(イ) 昭和19年1月～3月まで，三鷹航空機株式会社へ勤労奉仕。仕事の内容は工員さんの宿泊所掃除と昼食作り，後片づけ等であった。

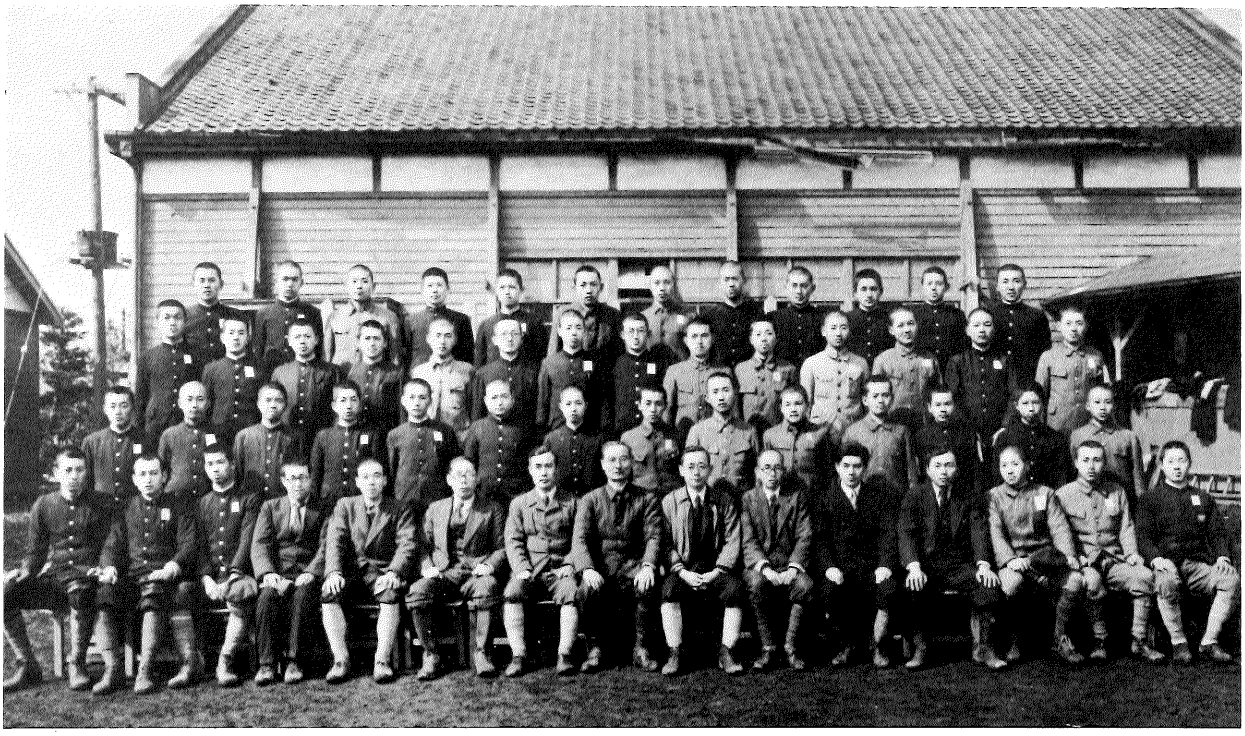


中学部
4 年生銃剣道（昭和17年）

中学部
⬇富士山麓で軍事訓練（５，２年）(昭和19年5月)



⬇**中学部**　４，５年生，ゲートル・左胸に縫いつけた小布・国民服・作業服の教師・修理のできぬ屋内体操場の樋（昭和20年）

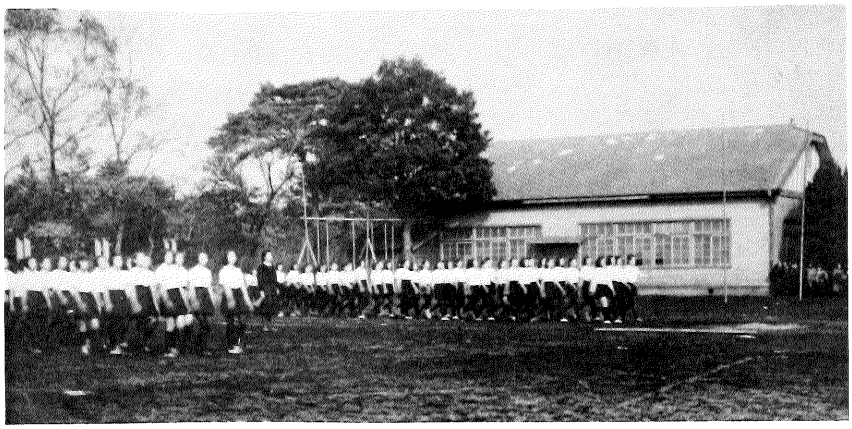




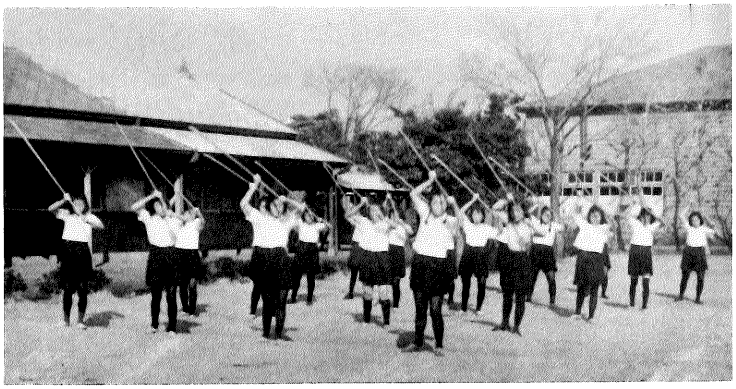
女学部
食糧増産（昭和17年）
➡



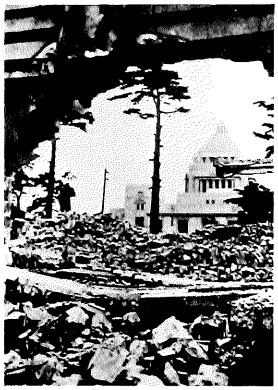
⬅
シンガポール陥落万歳
中学部・女学部・小学部全員集って
（女学部校庭で）



⬅
女学部
集団での体操（昭和17年）



➡
女学部
薙刀　5年生（昭和19年）



廃墟の中にそそり立つ国会議事堂
（昭和20年）（国際文化情報社「大東京の500年」から）

(ロ) 4月は授業はしたが，5月から昭和飛行機株式会社（青梅線・昭和前駅下車）へ学徒隊として出動。始めは週1日くらい登校して授業をうけていたが，それもなくなり，工員さんと同じに電休日に休むだけになった。ドリルで穴明け，写図，工場事務などそれぞれに配置された。

(ハ) 10月になって福生寮へ希望者入寮。福生寮というのは，福生の農家（蚕室）を借用したもの。寮母は平林先生の親戚の方と3年生の神代さんのお母さまであった。

(ニ) 昭和20年3月21日卒業式。同月31日，この日まで，昭和飛行機へ学徒としての出動は終了となった。

(ホ) 昭和20年4月，明星学園に専攻科が付設され，上級進学・疎開者以外の者はこの付設専攻科に進み，挺身隊のように遠くに出動することなく，一応学生の身となって銃後の働きをすることになった。

(ヘ) 同月，学園女学部の普通教室は三鷹航空の学校工場となる。上級進学の方々は専攻科の開校（6月）までこの学校工場で学徒隊として出動した。

20年8月15日　終戦

20年9月15日　明星学園付設専攻科開設，在籍生はこの日付けで修了証書を交付された。

（13回生・市丸幸子記）

3　敗　戦

(1)　教育への道　　（昭和20年9月7日）

今回政府が議会において敗戦への歩みを率直大胆に発表されたのを聞いて，国民の誰もが今更のように愕然とし，呆然とし，さらに啞然としたに違いありません。下世話にいう「知らぬが仏」で，本土決戦で最後の必勝を信じていた昨日のわれわれを思えば冷汗背に霑うを禁じえません。同時に無条件降伏の実に余儀なき措置であったことを何人も納得したことと存じます。しかし覆水は最早盆にはかえりません。いたずらに過去を呪ったり現在の屈辱感に憤慨したりしている時ではありません。大詔のご喚発とともに干戈は既に収まりました。丸腰となったわれわれは，大国民の名誉にかけて，国際正義の旗じるしのもとに，武器なき熾烈な文化戦に勝ち抜かねばなりません。よし行く手は畳々たる荊の道であろうと，3千年の伝統に気負うわれ等の彼岸には，新生の大光明が灼としてその到達を待っております。堪え難き屈従と痛手の中から立上ったわれわれの努力が大きけれ



米よこせデモ（昭和21年）
（東京都刊「目でみる東京100年」から）

ば大きいほど，それへの苦難の道程を短縮されるのであります。敵来らば1億特攻の体当りというあの闘魂を転用して，必死の精魂を日本再建の1本に折込みましょう。かくして万一私たち1代で未完のものとしても，後に続くこの子供たち，その孫たちが相継業して，かつての皇国に幾十倍した躍進を完成することを確く信じます。これがためには私たちはより速かに私たちのかつての過誤と失敗を精算し，是正し，磐石の礎を固めて，以後を子孫に俟たなければなりません。この負荷の大任は，一に教育の力によって育成せられなければなりません。教育こそは更生日本の聖業であり，救国救民の大使命であります。師たる者，父たる者，母たる者，兄たる者，姉たる者，よろしく思いをここにいたし，相寄り相助けてこの大任を果すことこそ，皇国の将来をして世界に輝く金字塔を建てしむる所以であります。いささか学校当局の所感を述べて各位の奮起と協力を求める次第であります。

(2) 敗戦と始業時刻・児童の欠席　（昭和20年12月4日）

来る12月5日より始業時刻を8時40分とし，最終15時をもって終了にいたします。向寒の砌，履物・着物・被り物全般に亙り，益々不如意の度が加わってまいりましたことと存じます。特に雨天の際の通学児童の労苦は同情に堪えないものがあります。傘入手不能等のため，やむを得ず欠席させる等の場合は一応学校にご相談くださいますよう。

空襲時においては通学途上危険防止のため，兎角登校が不定になったのはやむをえない臨機の措置でありました。しかしそれがいつの間にか習癖となって終戦後の今日も相変らず簡単に欠席させる常習を作ってしまいました。敗戦日本の再建の成否は，一に教育の効果にかかっていることは一般の輿論であります。かつては子弟教育に対する情熱を世界に誇った日本の家庭が，敗戦の打撃に虚脱し，わが子の教育にさえ関心の薄れたということは，多難の国家の前途を思うにつけまことに寒心に堪えません。一刻も早く憂国の勇猛心を奮起し，救国の教育に協力せられんことを祈ります。些細な障碍を理由に児童の欠席を当然視するような堕性を改めていただきとう存じます。

(3) 避寒休業・昼食帰宅・昼弁当　（昭和21年1月31日）

1　新1年の詮衡

2月1日，2日の両日に亙り，13時より来年度入学児童の詮衡を行いますので，授業は11時をもって打切ります。係を有する児童以外弁当はいりません。

2　酷寒休業について



松川事件現場　（昭和24年８月17日）
（講談社「写真図説日本百年の記録」）

12月の父兄会において，本年の臨時措置として酷寒時に際し，１，２週間くらいの休暇を特設するよう申しあげておきましたが，案外の暖気と晴天に恵まれ，心配したほどの困難もなく寒明け間近の今日まで無事に凌いでまいりました。この分ですと，今さら連続的に休む必要もなかろうと存じますので，避寒休暇はひとまず見合せ，その代り降雨・降雪等による甚しい寒気や，通学に支障を思わせるような荒天・悪路の場合のみ適当に早帰宅や臨休を設けるよう適当に塩梅したいと思います。

3　昼食帰宅と昼弁当

児童の昼弁当に対するご苦心はお察しいたしますが，教育の重要性からみて，何とかしてこの難関を協力突破致したいものでございます。ついては，冬季中学習のために校外に出るようなことも少い折柄ですから，午後の学習に差支えのない近距離の者は，昼食は家でしても差支えございません。この場合もどこまでも学校昼食が本旨で，単に温かくして食べさせたいというくらいの理由でしたら趣旨に反するのであります。どこまでも弁当にして持たせられない代用食の場合のみに限っていただきます。なお，市場開設以来生鮮食品の出廻りに促進され，弁当の副食物も相当向上してまいりましたが，やはりできるだけ簡素にして他児童の羨望を招くような高級品は家庭で補給せられとう切望いたします。

4　父兄懇談会

混沌たる社会的状勢の影響をどう児童教育上に整理していいかを，あらゆる角度から存分に検討して見たいと存じます。来週あたり皆さまにお集まりを願って忌憚のないご懇談を遂げたいと存じますから，その節は万障繰合せご来集願います。

5　ケシゴム代を徴集します

ケシゴムを１人１個ずつ各教室に備えました。６年はじき卒業ですので，個人持としますが，５年以下は保管理の必要上，級備付として自宅には持帰らせません。代価は１個１円60銭で，２月１日受持の先生に納めてください。　以上

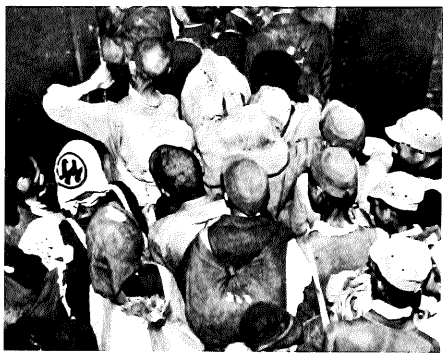
昭和21年１月31日

明星学園初等部

父　兄　各　位

（４）　配給品　（昭和21年２月21日）――刻昆布と粉リンゴ――

５年岩本さまのご配慮で乾燥粉末林檎をお頒ちいたします。



殺人的な芋の買出し列車（昭和22年）
（光文社「図説国民の歴史」から）

1　素材═══純粋な林檎の粉末で混ぜ物絶対なし。

2　味覚═══乾燥した故，水分的味覚なきも，林檎本来の甘酸味に変りなし。

3　使用法═══粉のままなめても冷水でこねてなめても飲物に入れてもよし。

例：粉リンゴ ┐
　　小麦粉　 ┘同量あるいは1対2　ドウナツ
　　焼パン
　　ビスケット

冷えてからいただくと甘味が一層出る。

上に対し重曹あるいはフクラシ粉は規定量の½でよい。

4　価格═══1ポンド(450グラム)　10円也

5　申込═══22日，1日で締切りますから，1ポンド10円の割にお金とともに申込んでください。

昭和21年2月21日

明星学園初等部

父　兄　各　位

4　戦死・戦病死の卒業生

第1回卒業生　（昭和8年3月卒）
江川　信
鈴木五郎　19
末岡東一
内藤邦衛　20－11－26
林原基雄　19－2－27
森川武夫　19－12－20
第2回卒業生　（昭和9年3月卒）
五十嵐重熙　20－7－25
第4回卒業生　（昭和11年3月卒）
秋岡静雄　20－3－23
田中　実　20－6
第5回卒業生　（昭和12年3月卒）
江川晴光
下中達郎　20－5－8
小学校第5回卒業生　（昭和7年3月卒）
山崎和一　20－4－29
第6回卒業生　（昭和13年3月卒）
大井帰一　19－10－14
清水育夫　19－12
第7回卒業生　（昭和14年3月卒）
恩地昌郎　20－8－6



戸山ハイツ　都営住宅団地の祖形
（昭和24年春）
（東京都刊「目でみる東京100年」から）

第７回小学校卒業生　（昭和９年３月卒）

秋岡革児　20－７－１

岩井　勇

荻野秀夫

第８回卒業生　（昭和15年３月卒）

久埜春雄　19－６－25

佐藤　隆　19－11－６

植村昴生　20－３－７

横川　亮

第８回小学校卒業生　（昭和10年３月卒）

小室元行

第９回卒業生　（昭和16年３月卒）

山崎　猛　19－12－26

第10回卒業生　（昭和17年３月卒）

菅原　基　20－９

村上直彦

岸本寿雄　22－８

第11回卒業生　（昭和18年３月卒）

増田隆雄

第13回卒業生　（昭和20年３月卒）

伊藤真幸　20－６－28

Ⅳ　明星学園の教育研究

1　教育研究のあゆみ　（戦後）

(1)　教育研究集会

第1回教育研究集会　——昭和33年——　教師が教育にたずさわっている以上，その内容なり技術なりについて研究をすることは当然であるし，またそれぞれの教師がめいめいで研究をつづけてはいる。しかし，どこの学校でもそうらしいが，みんなが一しょになる時間というものがなかなかとれないので，当面した問題をそのときどきで話しあうことはあっても，同じ教科のものが一つの課題で研究をするということは容易ではない。まして，他の教科と，あるいは他の段階との共同研究ということは，とかくお題目におわりがちである。それじゃいけないんだということは切実にわかっていても，だれかがしじゅう運営にあたるのでもなければ，とても実行できない。明星でも，むしろこういう学校だからこそ，ほかより一そう必要性があるので，この問題は従来もなんどかとりあげられ，教科編成のたびごとに会議がひらかれ，その成果は活用されてはきた。が，どうもいつでもそのとき1回かぎりでとぎれてしまう傾向は否定できない。そこで，昨年組合の新執行部が選出されたときから，懸案の全体集会を，今度こそぜひ継続してやろうじゃないか，という方向がうちだされ，2学期になって準備委員もえらばれた。何回かの準備会で，課題は最近各方面で話題になっているいわゆる「基礎学力」を中心とすることになった。この「基礎学力」というコトバはあいまいだが，どの学科でも共通する話題となりうるし，あらゆる方向に発展する可能性があるので，もっともよかろうということになったのである。それから各学科の協力をえて実施方法が討議されたが，資料としての実態調査にしても，全体集会の開催にしても，全学園の教務計画のなかでおこなわなければならないので，照井校長の指示のもとに，今年からの学園の年次計画による行事ということになり，準備委員はそのまま職務を継続することになった。その結果，開催されたのが，すでに通知でご承知のこととおもうが，昨年11月25日の第1回教育研究集会である。（よく教研集会と略称するが，キョーケンというのは，なにかかみつきそうなので，ながいけれど教育研究集会と書く。）

当日は，9時，照井校長のあいさつで開会され，資料の配布整理ののち，9時40分から11時まで，各学科ごとの分科会にうつった。分科会では，各学科ごとの予備討論で提出された問題点と資料のプリントを材料として，小・中・高通じての討議と問題整理がおこなわれた。つづいて，11時10分から13時10分まで，昼食を間にはさんで，国語・数学・体育科からの報告があり，以後15時30分まで，報告についての質疑討論と，のこりの学科の問題点説明があった。詳細は，報告書として整理，編集される予定なので，いまここでは要点だけにしておく。

○国語――中・高でおこった識字・読解能力の調査をもとにして，当面している教授上の困難の指摘。
小学校の国語教育との関連。

○数学――現在の教科編成上の矛盾，重複の指摘。中・高を通じての教科編成試案。

○体育科――集団訓練の問題。

以上はごく一部にすぎないが，講師をまじえての全員の出席のもとに，きわめて活発な意見がだされて，討論の収穫はすこぶるおおかったとかんがえられる。

終了後は，グランドで大正組対昭和組のソフト試合，および茶話会を開いて，懇親をふかめ，のこった問題を談笑のうちにはなしあった。

では，今回の教育研究集会の結論は何か？　ということになると，実は結論はない。というのは，この集会の準備にあたって一つの目標としたのは，りっぱな結論をださない，ということにあったからである。はじめにもいうように，教育研究の要点は継続にある。従来何回かおこなわれた集会の欠点は，ある課題についての結論をまとめ，一つの整然とした教科案ができあがることでおわってしまうことにあった。そこで，今回は，とにかくみんながよりあって，各科でぶつかっている困難をたがいにみとめあうこと，そして今後の協力体制をみんなの意識のなかにもちこむこと，そして各科では次年度の課題をそこから発見すること，つまり次の前進の用意をすることを目標としたのである。集会はその年度のまとめでなく，次年度の出発である。これが準備委員のくりかえし強調したところである。したがって，第1回の集会の成果は，各学科が次の行動でこたえるわけである。ただし，これも性急にもとめられてはならない。ようやく小・中・高での共同研究の体制が糸口についたとかんがえていただきたい。生徒に教育の成果を性急にもとめてはいけないのと同様，われわれのしごとも忍耐が必要である。第2回・第3回へとひきつづいていきさえすれば，それがまず一番の成果なのである。そのためには，ここで資料の蒐集とか，今後の継続へのよりよい方向の示唆とか，いろいろな形でのご助力をおねがいしておきたい。

（武者小路穣記，「道」41号から）



明星学園公開研究会　全体会風景（昭和39年秋）

教育研究発表会をおえて　——昭和36年——

☆第1日は午前中冷めたい雨の中で，おかあさんたちは，受付・接待・連絡など，後顧の心配がないように世話してくださったから，私たちは全力を授業に注ぎこんでいくことができました。

☆来会者は第1日は延べ600名，第2日は延べ700名に及び，都下近県はもちろん北海道や四国などから遠来の客もあるというわけで，このことからだけでも，集会が決して徒労のわざでなかったことと意を強くしました。

☆いまの教育界の情勢を，多くの人は「まさに教育の危機」と呼んでおります。その理由はいくつかあるにしても，教育の中央集権が進行中であることはまちがいのない事実であります。

教育というしごとは，現場の教師・教育研究家・学者・文化人・その他専門家という広範囲の人人の手による総合的な力が昇華して，進められていくものであることは歴史の物語るところであり，中央権力に吸い取られたとき萎縮沈滞していくこともまた歴史が物語っております。

いまこそ，私学は冷厳な姿勢をもって，教育の自由を守り抜いていく努力を，はっきりと実践の上に示すべきではないでしょうか。ややもすれば，それは上すべりな運動めいたことに堕する心配があるといわれますが，そんなことはあるはずがないでしょう。何となれば，それはまさしく本質を追究し，日々の授業に沈潜し，何より生き生きとした児童生徒の活動を促し，学力をつけさせていくこと自体ですから。

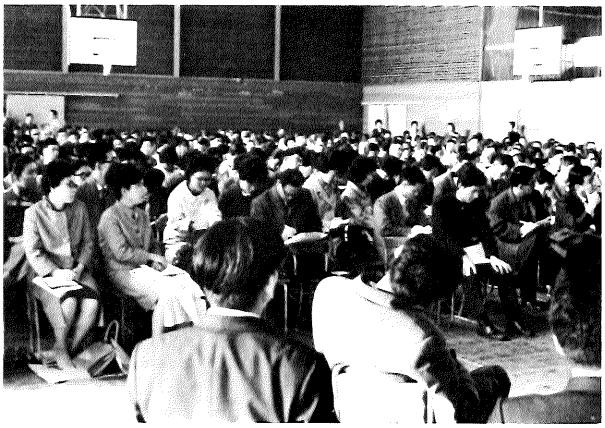
☆さて，どんな外的事情があるにせよ，私たちは毎日の授業に心根を打ち込み，教育内容と組み立てをより効果的に改革し，一歩でも前進をしようと不退の努力を続けるべきであることにはいささかの変りもないはずです。

☆それはまた独りよがりや安価な妥協で進められてはなりません。合理性の支えと創造的なエネルギーとの相まった上に立たなければなりません。同時にまた，第三者の批判と善意に基く支持とによる客観性が付与されていなければなりません。

☆今回の企画に対しては，時期尚早の声もありましたが，多くの強い批判はそれだけ栄養価が高いのだという見解のもとにあえて実施を決意しました。

☆一面には，明星学園の父母層こそ私たちの真意をわかってもらえるという自負と，この学園の教師でこそ団結とケッ起が果されるのだという確信めいたものを持ってぶつかりました。

今年は一応成功だったといえましょう。明年については，また深い内省と慎重な計画により，本年と必ずしも同形態でないにしても，全園的規模で実質的成果を一歩一歩築きあげる方向で企画を持



教育研究会　全体会議風景（昭和39年秋）

ちたいと思っています。

（橘正薫記，「PTA ニュース」No.3 から）

(2)　明星学園教育研究10年のあゆみ

まえがき

明星学園は，わが国に真実の教育がうちたてられることをねがって，1924（大正13）年5月15日，武蔵野の自然林，井の頭池畔に創立されました。それから約50年，明星学園に勤務する教師の顔ぶれはだいぶかわりましたが，つねに教育界の開拓者であろうとする初志をつらぬきとおそうとこころがけて研究し，実践してまいりました。はたして，そうであったかどうかは，みずから判断することではありませんが，とにかく「ねがい」や「こころがけ」を実現するため，わたしたちはつぎのようなことを考え，実践・研究してきたことは事実です。

1）わたしたち明星学園の教師集団は，既成の教育内容を絶対的なものとは考えず，それよりも，もっとよい体系や，内容や，方法をつくりだし，それを実践にうつしていくようにしなければならない。そうすることが私学の任務であるし，私学がそうしてこそ，日本の公教育が理想に近づくのだと考えるから。

2）　明星学園の教育は，学問を重視しなければならない。真実の教育をうちたてるためには，教育が学問的に正しくないといけないから。学問重視というと知識偏重のようにうけとられがちだが，知識こそがあらたな世界にたち向うときの判断や，決意や行動の基礎になることを考えれば，知識と人格をきりはなして考えることはまちがいである。日本の教育は知識偏重の教育だといわれてきたし，またいわれているが，日本の近代教育100年の歴史のなかで，日本人は，ほんとの意味での知識を一度もさずけられていなかったし，現在いないと確信する。端的にいえば，国家のためにという名目でさずけられた日本人の知識と技術は，具体的には国家経営の原理である資本主義社会に対して，奉仕をする知識と技術でしかなかった。そのために，日本人の知識はカタワなものとなり，結果的に日本人の人格もまたカタワなものとなったと考える。

学問とは，人類が経験したすべてを収集し分類し，分析し，体系づけたものである以上，きわめて人間的なものであるはずだ。いいかえれば，学問ほど人間的なものはないといっていいだろう。その学問のなかから，政治にとって都合のよい部分だけ切りとって授けたばあい，かならずカタワになる。そうしておいて，知識偏重はわるい，道徳教育が必要だというのでは，政治は人間に対して二重の犯罪をおかしていることになる。人間を人間的に育てるためには，学問的真



学園の教師たちが自らの手によってつくり出し，使用している教科書

理，学問的真実によらなければならない理由がここにある。

3）だから，明星学園の教師集団は，ふつうの能力をもった子どもたちが，学校の勉強についていけなくなるのは，けっして，子どもたちの頭がわるいからだとは考えない。いまの教育の内容が，基本的なことをわかりやすく身につけられるようになっていないからだと考える。その理論の当然の帰結として，「何を教えるべきか」というテーマが，自分自身のものとなってくる。そこでは，断片的な知識のツメコミと，機械的な暗記の強制は姿を消す。かわりに，教師たちが自主的に編成した教育の課程と自分でつくった教科書をつかって，自然や社会，数量や言語などについての体系的な知識を，すべての生徒にわかるように教授するという任務をもつこととなる。

4）子どもたちが，自然や社会，数量や言語などのしくみと法則性を，すじみちたてて理解し，知的探究への意欲をかきたてるようになったとき，あるいは，文学や美術や音楽など芸術的達成のよいものをまなんで，質の高い美意識を身につけ創造するよろこびを体験できるようになったとき，そのときこそわたしたちの理想が現実のものとなったのだと考える。なぜなら，そのことが，人間的なことであり人間としての主体性を育てたことを意味すると考えるからである。

以上のような，わたしたち明星学園教師集団の「ねがい」あるいは「初志」が，はたしてマトを射たものであるかどうか，まちがっていないかどうか，そういうことは，本人にはなかなかわからないものです。自分の顔を自分が直接に見ることは絶対にできないと同じようにわからないとでもいうべきでしょうか。とにかく，わたしたちの実践と研究を公開し，客観的な批判，助言を仰ぐことが必要だという主張が，1956年におこりました。それで翌57年から公開研究会をもつための準備として，校内の研究会をもつようになったのです。もちろんそれまでも教育研究会はもたれておったのですが，公開を意識しての研究会は1957（昭和32）年からだといっていいとおもいます。その成果のひとつとして，「古い教育，新しい教育，その同じところ，ちがうところ」という印刷物をだすことができました。1959（昭和34）年3月のことです。この印刷物は評判がよくて，11月に門書房という出版社から「一年生誕生」という本になって上梓されました。これに自信を得て，ようやく翌年の秋に公開しようとふみ切ったのです。

それ以来，10年をこえる歳月が流れました。その間さまざまな内紛，矛盾撞着にあいましたが，それはそれとして，いまは，その間に印刷された出版物と，各年の研究テーマを紹介し，いままでのあゆみに対して歯に衣をきせぬご批判を仰ぐと同時に，いまからのあゆみについても指針となる

ような助言をいただきたいと思うのです。(無着成恭記)

研究印刷物　(ゴジックは重要提案)

年　月	印　刷　物　名	出　版　元	価　格
1959・3	古い教育，新しい教育，その同じところちがうところ	明　星　学　園	
・11	一年生誕生	門　書　房	280
1960・5	教育実践記録　1	明星低学年部	
1961・5	〃　2	〃	
・11	明星の授業（第1回公開研究資料）	明　星　学　園	
1962・3	研究紀要　No.2	〃	
・3	研究紀要　No.2　別冊	〃	
・8	明星学園研究会資料（詩ー国語）	〃	
・8	科学教育について（理科）	〃	
・8	我々は何故教育するのか（生活指導）	〃	
・9	新しい絵の教室　1・2・3巻	小　峰　書　店	各巻 650
・11	明星の授業（第2回公開研究資料）	明　星　学　園	
・11	**新しい理科の体系と教授法** ——小学校篇——	〃	
1963・3	第8回千倉研究会資料	〃	
・5	**中学校理科の内容と展開**	〃	
・8	教材と授業（湯ガ原集会研究資料）	〃	
・8	にっぽんごのほん（案）　低学年のよみ方教材	〃	
・11	明星の授業（単行本）	国　土　社	800
・11	第3回明星学園教育研究会要項	明　星　学　園	
・11	理科教育内容の新しい構造の現代化	〃	
1964・1	**小学校1年における文字及び言語指導について**	〃	
・3	第9回千倉研究会資料	明　星　学　園	
	にっぽんご　1（案）	〃	
・4	さんすう　1ねんせい(1)	〃	
	ぼくらは科学者　4年生	小　峰　書　店	1,000
	にっぽんご　1	麦　書　房	250
・6	子どもの本220選	福　音　館	580
・7	ぼくらは科学者　5年生	小　峰　書　店	1,000
・8	夏期研究会研究資料	明　星　学　園	
	よみ方のほん　小学1年用	〃	
	英語導入期における内容と方法	〃	
・9	さんすう　1ねんせい(2)	〃	
	にっぽんご　2	麦　書　房	200
	ぼくらは科学者　6年生	小　峰　書　店	1,000
・11	第4回明星学園教育研究会要項	明　星　学　園	
	歴史教材の系統表	〃	
・12	読み方指導はなんのためやるか	〃	

1965・2	よみかたの本　1年	明星学園	
・4	さんすう　2ねんせい(1)	〃	
	ENGLISH　1	〃	
・6	**にっぽんご　3**	麦書房	200
・9	さんすう　2ねんせい(2)	明星学園	
・10	授業参観をなさる方々へ	〃	
・11	第5回明星学園教育研究会要項	明星学園	
1966・3	第11回千倉研究会資料	〃	
・4	文学の本　2	〃	
	文学の本　3	〃	
	文学の本　4	〃	
	文学の本　5	〃	
	さんすう　3ねんせい(1)	〃	
	ENGLISH　2	〃	
・5	**にっぽんご　5**	麦書房	200
・11	第6回明星学園教育研究会要項	明星学園	
1967・3	にっぽんご　4の上（実践検討用）	〃	
	美術の授業　第1巻	百合出版社	700
	美術の授業　第2巻	〃	〃
	美術の授業　第3巻	〃	〃
・4	文学の本　6	明星学園	
	文学の本　7	〃	
	文学の本　8	〃	
	ENGLISH　3	〃	
	自然科学教育の内容	〃	
・5	**かな文字の教え方**	麦書房	600
・7	教科課程一覧表	明星学園	
	12年一貫教育の教科内容	PTA	
・10	8小節のソルフェージュ	全音楽譜出版社	400
・11	第7回明星学園教育研究会要項	明星学園	
	文学作品の読み方について	〃	
1968・1	**にっぽんご　4の上**	麦書房	250
・3	春季学園教育研究総会資料	明星学園	
	自然科学の教育	麦書房	2,000
・4	ENGLISH　1（改訂）	明星学園	
	ENGLISH　2（改訂）	〃	
・9	明星の教育について	〃	
1969・2	第8回教育研究会資料（非公開）	〃	
・4	ENGLISH　3（改訂）	〃	
	文学の本　5（改訂）	〃	

	文学の本　6（改訂）	明　星　学　園	
	文学の本　7（改訂）	〃	
	文学の本　8（改訂）	〃	
・5	**にっぽんご**　7（漢字）	麦　書　房	200
・11	第9回明星学園教育研究会要項	明　星　学　園	
1970・4	**自然科学**　Ⅰ　物質とはなにか	麦　書　房	200
・7	**続・山びこ学校**	〃	1,000
1971・1	集合（数学）	明　星　学　園	
・4	中学数学（文字式計算，関数）	〃	
・11	第10回明星学園教育研究会要項	〃	
1972・1	**自然科学**　Ⅱ　化学のはじまり	麦　書　房	350
・4	中学数学（文字計算関数，平方根と無理数）	明　星　学　園	
	文学の本　5（改訂）	〃	
	文学の本　6（改訂）	〃	
	文学の本　7（改訂）	〃	
・9	文学の本　8（改訂）	〃	
・11	原子分子と化学変化	四　方　社	720

公開研究会のあゆみ

第1回……1961年11月22日～23日

目　　標

○教科の現代化と生き生きした授業の創造をめざして

○授業との対決――私たち教師の毎日はそれにかかっています。どのようにしたら子どもたちを授業に集中させることができるか。授業の裏側にひそむものは何か。

○教科構造の究明――教育実践の上でこそとらえられる問題であります。しかし，それは常に科学的な分析と現代社会の要求と，子どもたちの実態把握とによって支えられていなければなりません。

明星学園は12年一貫教育の上に，この問題の解明と構造化を目ざして毎日の歩みを続け，いまもなおその途上にあります。この度，そのままの姿を公開し，皆さんの御批判の中に自らのよりよい糧を求め，また正しい教育の位置づけのためにもいささかの役割を果したいと思います。お忙しい折からでしょうが，お繰合わせの上御来会くださるようお待ちしております。

参　加　費

・200円（資料代を含めて）父母側は別にする。

特別講演

横浜市立大学教授　三　枝　博　音

――現代の科学と教育――

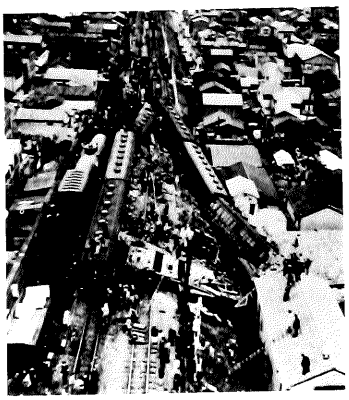
全　体　会

主旨について……〈校長〉照井猪一郎

明星学園の教育プラン……橘　　正薫

教科構造の確立をめざして……原田満寿郎

授業について……広川　　孝



三河島事件（昭和37年5月3日）
三重衝突　死者160人負傷者325人
（毎日新聞社「その瞬間ショック100年史」から）

分　科　会

Ⅰ（22日）〈教科構造の確立をめざして〉

芸術教育部門

1．芸術教育における技術について　　発表・小笠原良一，木村鉄雄。司会・世古一弥，本間雅夫
2．子どもの感動と表現　　発表・鈴木五郎，太田幸雄。司会・乙部武光，桑田　孝
3．鑑賞と創造について　　発表・荒川有史，無着成恭

科学教育部門

1．自然科学教育の現代化　　発表・松井幹夫，佐藤文夫。司会・庄司和晃，中原正木，竹内丑雄
2．言語教育をどう進めるか　　発表・寒川道夫，三橋和正。司会・馬場正男，遠藤豊吉
3．歴史地理教育の系統性について　　発表・上川淳。司会・吉村徳蔵，永田時雄

分　科　会

Ⅱ（23日）〈授業の創造をめざして〉

1．学級づくりと授業　　発表・佐伯昭定。司会・加藤和信，福田　和
2．教材研究と授業　　発表・依田好照。司会・岩浅農也，清水晴男
3．子どもの創造性を養う授業　　発表・岸いわお。司会・森瑤子，佐藤和男
4．教師の生活と授業　　発表・田中一水。司会・山根啓作，大沢勝也

第2回……1962年11月22日～23日

基本テーマ　　教科で何をどう教えるか，その基本的な構造と本質の究明

昨年は一貫教育の体系の上に，授業の研究と教科構造の究明を進めることを基調として研究発表会をもちましたところ，多数の御参加を得て，私たちの予想を超えた成果をみることができました。

本年もまた別記のような規模で研究発表会を開くこととなりました。秋の諸行事を了え，これから授業の充実に専念されようとする時期に，貴重な時間を割愛願うことは恐縮ですが，まげて御来会の上御討議，御批判，御指導を頂くことができたらまことに幸いであります。

▶参加費　350円（資料代を含む）本校父母は別

◁基　本　提　案

昨年の「教育構造の究明と授業の研究」においては，「科学教育とは何か，芸術教育とは何か」「教材の再整理に当って基準はどこにおくか」について現場授業と討議の中で探り出そうとしました。いつ終着点につくとも知れぬ大きな問題でありながら，是非果さねばならない問題でありますので，昨年についで本年も標記のテーマをふまえて，以下のような提案をもって研究討議を進めていきたいと思います。

▶教科と教育	〈発表者〉	無着成恭
▶社会科学と教科	〃	上川淳
▶自然科学と教科	〃	遠藤豊
▶国語教科と教材の自主編成	〃	寒川道夫
▶芸術と教科	〃	鈴木五郎

◁分　科　会

▶国　　語　　教材の自主編成

1．言語の機能と，子どもの認識思考の発達とはどうかかわりあうか。
2．子どもの発達に対し，国語教育の負うべき分野はどういうものか。
3．読み方教材の持たねばならぬ言語要素の性格はどういうものか。
4．われわれの求める単語，文字，文，文章の性質および作品内容はどういうものか。

▶数　　学　量の指導の体系化，量を体系的に指導することは，水道方式による算数教育の支えになっていると考える。また，理科教育の基礎にもなると考える。タイルを活用した基礎計算，量をもとにした新しいかけ算わり算の指導法，小数の加減をかけ算九九の前に導入すること，面積・体積で cm×cm＝cm²，cm²÷cm＝cm，cm²×cm＝cm³ をどのように指導するか，重さの加法性は，子どもにとって自明ではない，これをどう指導するかなどの実践を検討して頂きたい。

▶理　　科　正しい理科の体系と教授法　わたしたちは「理科は自然科学の基礎を体系的に教える教科である」という立場から，科学の論理にあった教材の組織化をすること，および内容では，その細案と具体的方法を提案し，討論の中で深めていきたい。

▶体　　育　体育の授業で何を与えるか　われわれは日常の学校生活の中で子どもたちの身体を如何に見つめており，かつ体育の授業で何を考えるのかを反省し，運動文化の追求と獲得に努力すべきだと考える。特に内包する技術の認識と，自己の身体を認識させることを子どもの動きの内で与えることによって，未来の社会生活への基盤を意識付けることが大切であり，現状の教材配列と運動分析により未発達の子どもたちを如何に指導すべきか等，広い範囲の問題をとり上げて検討したいと考える。

▶美　　術　芸術的表現と認識の発達　子どもの創造的表現は，視覚的・空間的認識の発達とどのようなかかわりをもつのか，そうした認識の発達が子どもの創造的表現を阻害するともいわれているが果してそうだろうか。
それらを中心に究明していきたい。

▶歴史・地理　現代史と地理　歴史と地理の学問的体系が，子どもの認識とどうかかわりあいを持つかその点を追究しながら，教授内容の系統性を考えていきたい。討論の焦点を「現代史と地理」と設定したのは，歴史と地理を併行して検討するあしがかりをここにおこうとしたからである。

▶生活指導　都市の子どもと集団づくり　都市の子どもたちのゆがんだ主体性に正しい姿勢をとらせ，自主的協力的な生活態度の形成を助成していきたい。
それには，教師と子どもの1対1または1対多数の感化教育依存では大きな死角を生ずるだけで信頼がもてない。共々に，より民主的な集団づくりの営みの中での，教師集団と生徒集団とのかかわりあいが追求する，もろもろな過程の上にこそ正しい民主的性格がみのっていくのではなかろうか。

◁あいさつ・報告

〈校　　長〉照　井　猪一郎
〈学園教務〉橘　　正　薫

◁日　　程

22日（木）		23日（金）	
8. 30	受付開始	8. 30	受付開始
9. 00	朝の行事	9. 20～10. 10	授業
9. 20～10. 10	授業	10. 30～12. 00	分科会
10. 20～11. 10	授業		
11. 20～12. 10	全体集会（基本テーマ）		
1. 30～ 3. 00	全体集会（基本提案） 質疑・討議	1. 00～ 4. 00	分科会
4. 00	終了	4. 30	閉会

第３回……1963年11月22日～23日

授業で子どもをかしこくする

基本テーマ　　教科の理論と授業の論理

教育という仕事は意図的，計画的なものであるかぎり，その内容と方法を明らかにできるものでなければならないと考えています。

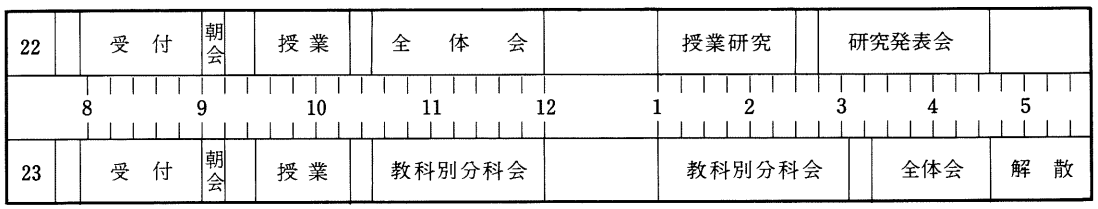
しかもそれを明らかにしていくうえで最も重要な要素は「何を」「どう教えるか」ということです。

また教える内容や順序や方法が正しいかどうかということもそれらは単に教える内容や順序についての実践的検討が不十分であったというような問題ばかりでなく，そのような内容，方法，それ自体が，その教科を成立させている科学観や芸術観，あるいは，科学や芸術がもつ論理と深くかかわり合っているのだと考えています。

もちろん教育という仕事の中には，時にはことばにもいいあらわせないくらい複雑な内容がはいっていることはたしかです。だがわたしたちは，その中で最も主要な要素である教科の骨ぐみと，それを子どもの身につけさせるすじみちとを明らかにすることによって，次第に他の要素をも分析し，統合していこうと考えているのです。

今年もまた多くの方の御支援と御参加をお願い致します。

● 会　費　400円（資料代を含む）



22日

◇全　体　会

■ あいさつ

理事長　市村寅之輔
校　長　照井猪一郎
ＰＴＡ会長　徳武敏夫

■ 明星学園の教育研究に期待する

■ 発表　明星学園の教育研究……原田満寿郎
　　教科の論理と授業の論理……遠藤豊　無着成恭

◇授業と授業研究

各教科にわたって公開授業があります。

授業終了後，教科毎に，その日の授業について，教材の把握のしかた，授業のくみ立てかた，子どもの組織のしかた等，授業を中心に研究会をもちます。

◇研　究　発　表

わたしたちが教科をどのように考え，内容をどう組織し，どんな方法で子どもの身につけさせようとしているかについて，教科別に発表会を持ち，皆さんの御批判を頂きたいと考えています。

研　究　発　表

１．国語科の内容と方法

発表　無着　成恭
司会　遠藤　豊吉　　野村　篤司
講師　奥田　靖雄

国語教育は一般にきわめて混沌としている。そのため，まず何を教えるかを明確にしなければならない。われわれはことばが現実と認識との媒体であるという観点から，事物とことばの対応を明確にし，ことばで事物，現実をとらえ，思考し，また表現できる力を育てることを国語教育の仕事だと考える。ここから，

低学年では，①日本語指導　②読み方指導　③表現指導で，その基本能力を育てる。高学年では，①体系的な言語指導と，②文学教育になると考える。なお，文章表現活動は，各教材をすすめるとき，事実の認識，思考，論理など構造的に把握するための重要な手順の中に組みこまれると考える。

2．導入期における英語教育の内容と方法

発表　渡辺　慎晤　　迫水　祥子
司会　兼子　淳吾
講師　井上　正平

英語を生きたことばとして把握する。

そして，楽しく，のびのびと学べる雰囲気をつくる。

従来のように頭だけで学ぶ英語ではなく，すべての機能を使って習得できるように努めなくてはならない。そのためには？

そのために，私たちは，英語を，ある文が使われる situtionと結びつけて学習できるように努めている。

具体的には，Audio-Visual な教材を工夫，製作し，それをフルに活用している。そして，それらのプログラムを発表する。

3．数学における量の指導と計算体系

発表　松井　幹夫
司会　野沢　茂
講師　長妻　克亘　　遠山　啓

「数の計算はよくできるが，応用問題が解けない」ということをよく聞きます。それは量の指導がほとんど行なわれていないからです。液量，長さ，重さ，面積，時間，……などの量が数値化されるまでのプロセスはみな同じではなくそれぞれの量のもっている性質や法則に応じた指導法を確立しなければならないと考え，実践しています。一方数計算の体系的学習方法としての水道方式が，どうして学習能率を高めるものを持っているかという点についても，わかっていたことを発表し，検討していただきたいと思います。

4．自然科学教育の体系と授業の方法

発表　遠藤　　豊
司会　三井　澄雄　　玉田泰太郎
講師　真船　和夫　　林　　淳一　　小野　　周

わたしたちは，子どもがほんとうに理科がよくわかるためには，その内容と方法が，自然科学の事実，法則とその論理を，正しく反映した形で組織されていなければならないと考えている。

そしてこのような仕事が，自然科学の教育に深く関心をよせている学者や研究者，及び熱心な現場の教師たちの共同研究などによってかなりの程度に具体化されてきていることも事実である。

こんどの研究会では，わたしたちが自然科学教育の内容や方法を，どのような考え方のもとに組織し，どんな方法で授業を行なってきたか，実験の方法などもいれながら具体的な形で報告し，みなさんの御批判を頂きたいと考えている。

5．社会認識を育てる基盤とその系統

発表　辻木猪一郎
司会　木本　　力　　本多　公栄
講師　入江　敏夫　　高橋　碵一

小中学校において社会科学的認識を育てるには，人類の発展を法則的に明らかにしていく歴史の授業と，空間的領域における生産活動を分析していく地理の授業が，主たる役わりをになっている。だが，それが教科として成立する条件は小学校高学年の段階であろう。それでは低学年はほうっておいてよいのだろうか？

わたしたちは，従来の歴史，地理教育の反省の上にたって，社会認識を育てるために，何がどう積み上げられなければならないか，その系統性を追究しながら教材研究をすすめている。

6．教材としての美術教育

発表　太田　幸雄
司会　岡島健太郎
講師　井手　則雄　　橋川　高明

子どもの自由な創造的表現活動は授業という組織づけられた枠の中だけで行なわれるとしたら芸術的創造の論理とムジュンする。例えば子どもはいつもきまった時間に感動したり描きたい衝動がおきたりはしないからだ。

しかし，そうした描きたい衝動やイメージはなんらかの積重ねによってなされるのではないだろうが，とすれば一時間，一時間の授業においては子どもの芸術的諸能力の開発のための基礎を教えるための体系づけられた教科としての美術教育でなければならないのではないか。

7．徒手体操，リズム教材の体系と授業

発表　吉田　　登
司会　亀村　五郎
講師　正木　健雄　　野口三千三

体操は科学的思考の産物であって，合理性を基礎とするものである。しかし一方には体操は子どもたちや青年の欲求にこたえるものを持っていないというような批判もある。

体操は，果して体育の教材として不適当なのであろうか，子どもたちがおもしろくない，教師は進歩の度合がわからないなどの単なる直観的評価だけでほうむってよいものだろうか。

人間のからだを生理学を基盤に分析し，合理的な動きを意識的に行なうことによってからだをつくってゆくように組立てられた体操が，子どもの要求や，体育の要求にこたえないとすれば，それは教師の体操教材の把握や，組織のしかたに問題があるのではないだろうか。

分科会では，この点を中心に研究し，徒手体操教材の意味と位置と指導法を明らかにしていきたいと思う。

23日

分　科　会

1．(1)低学年の国語教育　(2)文学の授業

発表　佐伯　昭定　　無着　成恭
司会　遠藤　豊吉　　野村　篤司
講師　奥田　靖雄

国語科の内容を次のように考えている。

A　低学年の国語（1年から3年まで）

①言語指導　②よみ，かき指導・読み方教育・つづり方教育

わたしたちは，1年生から3年生までは文学教育といえるほどの文学教育はできないと考えている。

B　高学年（小学校4年生以上）

①体系的な言語指導　発音←→文字・文法・語い・文体

②文学教育　鑑賞・創造

2．英語教育の方法　　発表　渡辺　慎晤　　迫水　祥子

司会　兼子　淳吾
講師　井上　正平

中学生の段階になると，日本語なくしては物を観察したり，考えたりすることができない。そのような情況のもとで英語を学ぶのであるが，英語を習得するためには，どのような方法が最も効果的であるか？　この問題は，英語教育が何をめざしているかという問題と密接にかかわりあっている。分科会では，この方法を中心に討論を進めて行きたいと思う。

3．(1)数概念づくりと基礎計算　(2)数学教育で量をどう扱うか

発表　小森　澄憲　　松井　幹夫　　伊藤　　迪
司会　野沢　　茂
講師　長妻　克亘　　遠山　　啓

(1)数を導入する場合，順序数から集合数へという従来の道すじより，集合数から出発する方が，たしかな数概念をつくる。そして，筆算の土台である数の十進構造をつかませることができる。この具体的な指導プログラムと，そこで発揮されるタイルという教具の役割と使い方について，提案する。

(2)数学教育であつかわなければならない量の指導には，2つの大きなねらいがある。①量（液量，長さ，重さ，体積……）そのもののもっている性質や法則を理解させること。②量をもとにして，数や計算を導きながら，度や，率のような，高次の量をつかませること。この観点から量指導のプログラムを検討する。

4．(1)低学年における自然知識の内容と方法　(2)物質概念の形成　(3)力学教材の検討

発表　佐藤　文夫　　町田　熊吉　　遠藤　　豊
司会　三井　澄雄　　玉田泰太郎
講師　真船　和夫　　林　淳一　　小野　　周

自然科学教育の内容や方法を，真に具体的なものとしていく上での問題点は，まだたくさん残されている。物質概念形成の問題，それと数学における量との関連，　電気や力学等の教材を原子論的立場からどのように組織するかという問題，化学や生物教材の組織のしかたや授業の方法など。……そして4年，5年からはじめる体系的な学習への準備として，低学年では，どのようなことを自然から学びとらせておいたらよいかという問題など……。こんどの分科会では，これらのうちのいくつかについて提案し，討論をふかめたいと考えている。

5．歴史教育における教材の系統化（小学校と中学校の授業を対象として）

発表　上川　　淳　　依田　好照
司会　本多　公栄
講師　高橋　碵一

歴史の学習を科学的にすすめることは困難が多いといわれている。子どもに理解されにくい内容が多くて複雑すぎるなどということである。だが，そうした困難さの根本に，教材が論理的に整理されていないということがないだろうか。教材の配列がただ時代の順序を追うというだけだったら，授業の積上げの意味をなさないし，科学的な思考を育てることも困難となろう。

教材の組みたてにはどういう系統を考えたらよいか，この点を中心に討議をすすめたい。

6．地理教育の系統

発表　広川　　孝
司会　木本　　力
講師　入江　敏夫　　関根　鎮彦

地理学習を通して社会認識を育てるためには，次の立場と方法が必要であると考えている。

(1)地理学習は歴史学習，政経社の学習とともに，社会を科学的に考察していくための一分野である。したがって，

生産所有という基礎概念を軸に学習の系統をくみたてる必要がある。(2)地理学習においては，とくに各地域の多様性と共通性を把握することが重要である。そのためには，現代社会の認識をたすけるための地域区分を設定し，学習の順序を系統だてることが必要である。

7．造形表現の論理と法則性

発表　鈴木　五郎
司会　世古　一弥
講師　箕田源二郎　　橋川　高明

子どもが自分の感じたこと，見たこと，思いうかべたことを造形的表現として形象化するには，いままでいわれてきた感動即表現といった図式だけでは達成することはできない。又，対象の把握ができればすぐさま表現になるようにもいわれてきたがそれだけでは不十分である。つまり，造形表現の技術や論理をくぐりぬけなければ造形的表現として形象化することはできない。又，どのように造形表現の技術や論理を獲得するのか。又，どのように獲得させなければならないのか。その内容と方法について討論する。

8．ソルフェージュの体系

発表　小笠原良一
司会　田中　一水

従来のソルフェージュという解釈の仕方は単に譜を歌うということであった。しかしこれはもっと広義に解釈されるべきのものである。

ソルフェージュは音楽の基礎全般にわたるものであり，音符と実音がよく結びつきその音楽的進行を音楽的リズムによって感じとることができるようにしなければならない。そしてその書かれたものを再現(演奏)し又はその相違を感じることができるようにしなくてはならない。このような見地から学校におけるソルフェージュをもっと系統だてていくことを検討したい。

9．体育教材をどのように組織したらよいか

発表　人見　進夫
司会　亀村　五郎
講師　正木　健雄　　野口三千三

子どもの身体的諸能力を全面発達させるためにはどうしたらよいか。体育では「どんなからだを育てるか」を原則として，教材の系統性を研究してきたが，いろいろの種目の「要素」を分析し「発展系列」を明らかにしていくなかでぶつかった問題点を捉え教材の体系化について討論する。

ダンスの体系と授業

ダンスはリズムを通して身体の動きを美しく自由に感情表現しなければならない。そのためには動きとリズムが調和するようにリズムを使いこなすことが大切である。

①そこでリズムをダンスに必要な側面から分析し動きの中で理解させる。
②また表現運動として模倣表現，感情表現などを型の上でよりよく表現できるようにする。
③他の作品や小さな動きなどにわたって鑑賞する力をやしなう。

この点から問題を検討していきたいと思う。

10．家庭科における食生活教材の検討

発表　高須　いち
司会　坂本　初江
講師　村田　忠三

食生活は家庭生活の機能を発揮する上に大きな役割を持っている。現在の生活は科学の進歩につれて，生産技術・

食品加工法・生活様式・国民栄養・青少年の体位の問題等食生活に関連の深いことが急激に変化している。家庭科はこれ等の外部的な要因をどのように受けとめるか——将来のめざましい進歩に対しても土台になる技術や食生活の問題を解決する知識と意欲を持たせるためにはどのように教材を組立てるかを検討する。

明星学園 PTA 教育研究協力者集団

宮川寅雄	三宅義夫	霜田光一
田中岑	遠山茂樹	福田和
松居直	吉田悟道	高島喜久男
古島和雄	宇佐美誠次郎	村上清文
兼子迚	松江智寿	亀井文夫
丸山真男	村田忠三	串田孫一
箕田源二郎	小島健司	徳武敏夫
入江敏夫	岡倉古志郎	武者小路侃三郎
小野周	石谷茂	清原健司
武藤信夫	井手則雄	三浦三郎
巌谷平三	子安勝	与田準一
塚原啓郎	坂野正高	小古間隆蔵
宮森繁	塩入円祐	結城孫三郎
角田常春	小森武	小川啓郎
中島健一		（順不同）

第4回……1964年11月21日～22日

わたしたちは，日本の子どもたちに，自然や社会についての正しい科学的認識を獲得させ，豊かな芸術的資質や能力を育てていくには，これまで慣習的に扱われてきた教科の内容を改革し，それにふさわしい教授法をつくり出していかなければならないと考えてきました。

そしておそい歩みではありましたが，そのための研究と実践を今日まで続けて参りました。もちろんこのような仕事が，わたしたちだけの力で実現できるはずはありません。多くの実践家や，学者，研究者と手を結び，また民間教育団体のそれぞれ専門的研究の成果に学びながら，各教科の内容と方法を明らかにすることに努めてきたのです。

こんどの研究会には，それぞれの教科の内容と，それがどのように授業に集約されるかということを中心に，これまでの研究の結果を公開し，皆さんに検討して頂きたいと考えています。

テーマ　教材と授業

◎日　程

時間	8・00	45	9・00	15	10・00	15	11・00	12・00	30	13・00	15	14・00	30	15・00	16・00
21日(土)		受付	朝会		公開授業		全体会	昼食		分科会					
22日(日)		受付	朝会		公開授業		分科会	昼食		講演				全体会父母と教師の懇親会	

参加費　400円（資料代を含む）

記念講演　題　教育における科学と生活　　東京工業大学　遠山　啓

全体会　提案　・教材と授業について

・低学年における読み方指導について

授業　小・中学校，全学年にわたって授業を公開します

◎分　科　会　　当日の授業と提案にもとづいて討論をすすめます

分科会	テ　ー　マ	助　言　者	司　会　者
国　語	低学年の読み方指導 日本語の指導 文学の指導	奥田靖雄(教　科　研) 柴田義松(教　科　研)	遠藤豊吉(和　田　中) 野村篤司(目黒九中)
算　数	1年の基礎計算 低学年の図形教育 小学校の代数 中学校におけるベクトルの指導	遠山　啓(東　工　大) 長妻克亘(法政一高)	田崎　中(明星学園)
理　科	物質概念の形成について 力学教材の検討 生物教育の内容と方法 低学年における取扱いについて	小野　周(東　　大) 真船和夫(東京学芸大) 林　淳一(東京歯科大)	三井澄雄(浦和工高) 玉田泰太郎(宮　前　小)
歴　史	歴史教材の系統について	宮川寅雄(近代史研) 高橋磌一(歴　教　協)	鈴木　亮(広尾高校) 本多公栄(開進一中)
地　理	地誌学習における自然の意味と機能 社会認識のための視点	入江敏夫(東　経　大)	木本　力(池　尻　中)
英　語	導入期における英語教育の内容と方法	井上正平(新　英　研) 高家鴻三(新　英　研)	兼子淳吾(板橋三中) 金子　熙(文京高校)
美　術	造形表現における主題性	箕田源二郎(新しい絵の会) 橋川高明(群　馬　大)	世古一弥(戸板女短大)
音　楽	低学年の音楽教育 わらべうたの教材化	小泉文夫(芸　　大)	本間雅夫(和光学園)
体　育	「走」から「跳」への指導	正木健雄(日　体　大) 中森孜郎(船橋市教委)	亀村五郎(成　蹊　小)

父母と教師の懇親会　　会費 200円（全国各地から来られた先生たちと明星の父母・教師との懇親会です。お気軽にご参加下さい）

宿泊（民泊）　　600円　希望の方は明星学園の父母宅をお世話します。父母も期待していますので，希望者は600円をそえて11月10日までに申し込み下さい

道　　順　　中央線　吉祥寺南口下車　徒歩15分
　　井ノ頭線　いのかしら公園下車　徒歩8分

申　　込　　申込書に御記入の上お申し込み下さい

第5回……1965年11月20日～21日

テーマ　　教材と授業

授業の中で

子どもたちは発見し，創造し感動するような授業。

子どもたちの意欲的な行動を約束するような授業。

そのような授業をしなければならぬと，わたしたちは考え研究し，実践を重ねてきました。その研究成果や，授業は，まだまだ不十分なものですが，本年もまたつぎのような規模で研究発表会を開くことになりました。ぜひ，ご来会の上，わたしたちの実践と研究について，きびしいご批判をくださいますようお願い申しあげます。

会　費　500円

記念講演　教科論　　東大教授　勝　田　守　一

授　　業　1．全教科にわたって小学校1年から中学2年まで公開授業をいたします。

2．授業の内容と授業案については当日お知らせいたします。

分　科　会

	テ　ー　マ	講　師	司会者
国語	日本語の指導法 文学の指導過程	奥田靖雄(言語学) 国分一太郎(教育評論家) 篠崎五六(作家)	遠藤豊吉(井の頭小) 野村篤司(目黒九中)
算数	量×量の授業プラン 互除法による最大公約数小公倍数の指導 正比例と関数の指導計画	遠山　啓(東工大) 長妻克亘(玉川大)	野沢　茂(大森八中)
理科	小学校における力教材と授業 〃　生物教材と授業 中学校の塩，酸，塩基の授業	小野　周(東大) 霜田光一(東大) 真船和夫(東学大) 林　淳一(東歯科大)	玉田泰太郎(宮前小) 中原正木(武蔵野四中)
英語	入門期における英語教育の内容と方法	井上正平(新英研) 古家鴻三(新英研	金子ひろむ(文京高) 兼子淳吾(板橋三中)
社会	現代世界をどう認識させるか ー地理，歴史，政，経，社の内容の有機的関連ー 低学年における自然のとりあつかいについて	入江敏夫(東経大) 久坂三郎(本所高校) 柴田義松(教科研) 白井春男(教科研)	鈴木　亮(広尾高) 木本　力(池尻中) 中島源房(文京九中) 石川隆三郎(千葉工大)
美術	美術作品の鑑賞の授業 生活を主題にした表現の授業	宮川寅雄(美術評論) 箕田源二郎(画家) 橋川高明(群馬大)	久保島信保(山梨巨摩中) 田島一彦 (埼玉尾田蒔中)
体育	球技運動の指導	正木健雄(日体大)	高柴光男(成蹊)
音楽	「遊び歌」の教材化とその系統化 低学年におけるソルフェージュ指導	小泉文夫(芸術大) 間宮芳生(作曲家)	本間雅夫(和光学園) 岡田　隆(荒川三中)

高等学校分科会（21日のみ）

国語科・理数科・英語科・家庭科についてそれぞれ提案いたします。

ＰＴＡと参加者との懇親会　会費　300円

宿　泊　1泊　700円

民泊(父母宅)を原則とします。ご希望の方は研究会事務局宛に宿泊費をそえて11月10日までに申込んでください。

先着順100名で締切らせていただきます。

それ以後に申込まれた方には旅館（1,200円程度）をお世話します。

研究会当日の申込みはおことわりします。

日　程

	8・00	9・30	10・20	45	11・00	12・00	1・00	2・30	45	3・45	4・30	5・30	8・00
20日（土）		受付	公開授業		分科会	昼食	分科会						
21日（日）		受付	公開授業		分科会	昼食	分科会		講演	全体会			ＰＴＡと参加者との懇親会

第6回……1966年11月22日～23日

第7回……1967年11月24日～25日

わたしたちの学校の公開研究会も，本年で第7回を迎えました。

わたしたちは，これまで教科の内容とその構成及び，教授法の問題を一貫して追求してきました。いうまでもなく



飛行機事故続発➡
（昭和41年３月５日）富士山頂付近でボーイング707型機空中分解（毎日新聞社「その瞬間ショック100年史」から）

「どのように教えるか」は，教える内容「なに」によって規定されるものである以上，授業の質は選ばれた教材によって決定されます。したがって教科の内容とその構成のよしあしは，学校の質を決定し，その教材を教える教師の質を決定し，その教材で学習する子どもの質を決定するでしょう。

わたしたちの研究や実践の成果は，まだまだ不十分なものですが，本年もつぎのようなしかたで研究発表会を開くことになりました。

ぜひ御来会の上，ご批判をくださいますようお願い申上げます。

テーマ　教育課程の実践的検討

——教科教育の内容と教授法の吟味——

と　こ　ろ　11月24日・武蔵野公会堂

11月25日・明星学園小・中学校

会　　費　700円（資料代含む）

日　　程

	8・00	9・00	45 55	10・40	11・00	12・00	1・00	4・00	4・30
24日（金）		受付	全体会 教科の研究発表			昼食	全体会 シンポジウム		
25日（土）		受付	授業		授業	分科会	昼食	分科会	懇談会

11月24日・全　体　会

◇教科の研究発表

国　語　科　国語科の内容と方法

国語科教育の構造……無着成恭

日本語教育の内容と方法……須田清

数　学　科　数学教育の内容と構成……野沢茂

理　　科　自然科学教育の内容と構成……遠藤豊

他に歴史教育の科学性についての誌上発表があります。

◇シンポジューム

美の教育の本質

古在由重　久野収　勝田守一　国分一太郎

遠山啓　奥田靖雄　中野重治　園部三郎

箕田源二郎　（交渉中の方を含む）

11月25日　授業・分科会

◇授　　業

1．家庭科をのぞく教材の授業を，小学校１年から中学２年まで２時限公開いたします。

1．授業の内容と授業案は当日おわたしします。

◇分　科　会

	テーマ	講師	司会者
国語	文学作品の読みの過程 文のくみたて（日本語）	奥田靖雄（言語学） 国分一太郎（作家）	遠藤豊吉（井の頭小）
算数	小・中学校の教科課程をどう一貫させるか 行列の指導（中学校における）	遠山啓（東工大） 銀林浩（明治大）	白石勲司（法政一高）



よど号ハイジャック（昭和45年3月31日）
赤軍派学生9人の乗取り（毎日新聞社「その瞬間ショック100年史」から）

理科	小・中学校の理科課程 周期律をどう教えるか 電磁気教材の検討	林　淳一(東　歯　大) 高橋金三郎(宮城教大) 小野　周(東　　大) 霜田光一(東　　大)	三井澄雄(浦和工高)
社会	神語と戦争教材について 社会科と読み方教材	吉村徳蔵(法政二高) 柴田義松(栄養短大) 入江敏夫(東　経　大)	武者小路穣(明　星　高)
体育	球技教材の指導内容と順序 （バスケットボールを中心にして）	中森孜郎(千葉県教育委員会) 村瀬政雄(和　光　高)	中川考秀(大　成　高)
音楽	ソルフェージュの指導について	本間雅夫(和　光　中) 羽仁協子(音　楽　家)	藪木紀良(富ケ谷小)
美術 工作	1年から9年までの教材配列 立体表現の基礎指導 （紙で立体をつくらせた経験）	井手則雄(白梅短大) 箕田源二郎(美術評論家)	久保島信保(山梨巨摩中)
英語	導入期における文法指導の内容と方法	小野協一(東外語大) 上村幸雄(国　　研)	兼子淳吾(落合二中)
家庭	家庭科の教材検討	村田忠三(国学院大) 和田典子(戸　山　高)	佐々木享(専　修　大)

◇懇親会　会費　300円
宿泊
できるだけ明星学園の生徒の家庭でお世話をしていただくことになっています。
宿泊費800円。11月10日までに宿泊費をそえて，研究発表会事務局宛申込んでください。
うけいれ予定数にたっしたときは，しめきり日以前でもうちきらせていただきます。
それ以後に申込まれた方は旅館（1,500円程度）をお世話いたします。
研究会当日の申込みはおことわりいたします。

第8回(非公開)……1969年2月
第9回……1969年11月29日～30日

わたしたちの学校の研究発表会も，第9回を迎えることになりました。

わたしたちはこれまで，教科の内容とその構成および，教授法の問題を一貫して追求してきました。そして，正しい知識の習得と人格の発達という問題をひとつのものとしてとらえて，未来を担うにふさわしい子どもを育てあげることに力をつくしてきました。

これらの成果はまだまだ不十分なものですが，本年もつぎのようなやり方で公開研究会をもつことにしましたので，ぜひ多数ご来会くださいますようご案内申し上げます。

テーマ　教科教育の内容と教授法

会　　費　1,000円（資料代を含む）（学生・父母500円）

日　　程

29日（土）	受　付	授　業	休けい	授　業	休けい（昼食）	分　科　会		
時　刻	9・30	10・10	11・00	11・15	12・00	1・00	4・00	5・00
30日（日）		授　業	分　科　会		休けい（昼食）	シンポジウム		

◇授　　業（29日）

時	教科	クラス	授業内容（教材）	授業者
第1校時	国語	3－2	にっぽんご　3	辻　木　猪一郎
		5－1	文学（あか）	無着　成　恭
		8－2	文学　山椒太夫	荒　川　有　史
	数学	8－1	確　率	松　井　幹　夫
	理科	8－3	物質と電気	菅　野　昭　二
		6－3	生物とたべ物	和　田　武　久
	社会	5－2	武士の世の中	古　川　博　資
	音楽	6－1	きれいな鳥（歌曲）	北　川　富　枝
	美術	7－2	画面のくみたて（テーマのえ）	太　田　幸　雄
	体育	6－2	バレーボール	星　　正　雄
第2校時	国語	2－1	よみ方	町　田　熊　吉
		6－3	にっぽんご　5	内　藤　哲　彦
		8－2	文学　山椒太夫	荒　川　有　史
	英語	8－1	あわせ文（複文）	渡　辺　慎　晤
	数学	6－2	集　合	野　沢　　茂
	理科	6－1	酸のはたらき	佐　藤　文　夫
		8－3	物質と電気	菅　野　昭　二
	社会	7－2	武士のおこり	上　川　　淳
	音楽	7－3	一日の終り（歌曲）	小笠原　良　一
	美術	3－2	画面のくみたて（テーマのえ）	鈴　木　五　郎
	体育	5年女子	バレーボール	人　見　進　夫

◇授　　業（30日）　　授業をする教科としない教科があります。

20日（2日目の授業）

国語	1の2	須田	国語	5の1	無着	数学	7の1　松井
理科	7の2	遠藤	英語	8の1	渡辺		

◇分　科　会

教科	テーマ	講師	司会者
国語	にっぽんごの指導過程 文学作品の読み方と指導過程	奥田靖雄（教科研） 国分一太郎（評論家）	鈴木康之
英語	文法教育の内容構成と指導過程	上村幸雄（国立国語研究所） 小野協一（東京外語大）	菅野富士雄
数学	確率をどう教えるか 集合をどう位置づけるか	銀林　浩（明治大） 遠山　啓（東京工大）	白石勲司
理科	初等生物学教育の内容と構成 電磁気教材の検討	林　淳一（東歯大） 真船和夫（学芸大） 小原秀雄（女子栄養大）	玉田泰太郎 中原正木
社会	歴史における時代認識	入江敏夫（東経大） 小松良郎（立川短大）	小沢圭介
音楽	読譜指導の実践的研究	林　静一（国立音大）	木原光男

美　術	造形表現における再現的課題（提案） ——形象について——	箕田源二郎(水　画　家) 井手則雄(白梅短大) 川野　洋(東京航空大)	久保島　保　信
体　育	体育の授業方法論（技術認識の過程） 球技教材の構造と指導過程	小林一敏(順天堂大)	竹　内　祐　三
家　庭（女）	改訂指導要領の検討と家庭科の方向	和田典子(戸山高校)	鯨　井　あや子

◇シンポジウム

教育における人間の問題

遠　山　　啓（東工大）
太　田　　堯（東　大）
小　田　　実（作　家）
奥　田　靖　雄（教科研）
芝　田　進　吾（法　大）

「教育とは何か」そして「人間とは何か」という問題が，いまほどきびしく問いかえされているときはありません。

このシンポジウムは，科学技術の発達や現代の情況など，そのほかいくつかの側面から人間の問題を考え，教育における人間形成とは何かということを少しでも明らかにしようとするものです。

東京都三鷹市井の頭5丁目7番7号　明　星　学　園

宿　泊　明星学園の生徒の家庭でお世話していただきます。11月15日までに宿泊費をそえて研究会事務局まで申込んでください。予定数をこえた場合はしめきり前でもうちきらせていただきます。それ以後の申し込みについては宿泊申込みはおことわりいたします。当日旅館（1泊2千円程度）をお世話いたします。

第10回……1971年11月20日

わたしたちの学校の公開研究会も，第10回を迎えることになりました。

わたしたちはこれまで，教科の内容と構成および，教授法の問題を一貫して追求してきました。

これらの成果はまだまだ不十分なものですが，本年もつぎのようなやり方で公開研究会をもつことにしましたので，ぜひ多数ご来会くださいますようご案内申し上げます。

テーマ　教科教育の内容と教授法

会　　費　500円（資料代を含む）（学生・父母300円）

日　　程

時　刻	9・40	10・30	12・00	1・00	2・30	5・00
20日（土）	受付	授　業	教科別分科会	昼　食	教科別分科会	全　体　会	懇親会

◇**授　　業**（20日）

学　年	教　科	授業内容（教材）	授　業　者
5年1組	理　科	金属の酸化	佐　藤
5年2組	美　術	画面の形成（構図）	鈴　木
6年1組	地　理	ラテンアメリカ	広　川
6年2組	数　学	集　合	野　沢
7年1組	国　語	状況語	無　着

7年2組	理　科	原子・分子と化学変化	和　田
8年1組	英　語	未　定	古　川
8年2組	体　育	とび箱運動	人　見
8年3組	音　楽	ソルフェージュと合奏	小笠原

◇分　科　会

教　科	テ　ー　マ	講師・司会者
国　語	「にんっぽんご4の上」の指導過程	奥田靖雄(宮城教育大) 遠藤豊吉(都教小)
数　学	集合と関数の指導	銀林　浩(明治大) 白石勲司(法政一高)
理　科	物質の基礎概念をどう教えるか 「物質と電気」「電磁気」の指導	林　淳一(東歯大) 塚原徳道(鳥山工高)
社　会	社会科教育の内容と系統（小・中・高の関連）	入江敏夫(東経大) 武者小路穣(和光大)
音　楽	ソルフェージュと合奏曲	林　静一(国立音大)
美　術	造形表現の過程における教授の問題	川野　洋(都立航空短大) 小武海正司(正則高)
体　育	腕立て回転系の指導	正木健雄(理科大) 杉村瑞穂(向島工高)
英　語	文法学習とリーダーの関連について	井部高志(明星高)

◇全　体　会

教育改革の方途を考える　　山住正巳（教科研）

2　明星学園　研究印刷物

(1)　紀要・研究資料・出版物　(研究者，著者，訳者が成城学園・明星学園に在職中刊行したもの)

(ゴジックは重要提案)

年　月	研　究　印　刷　物　名	研究者・編者・著者	出　版　元	価格・備考
1920	学芸会のために	山本徳行		
	鑑賞文集	山本徳行		
1921	尋一教育の実際	山本徳行		
1922	新図画教育の建設	霜田静志	東京教育社	
	児童大学の実際	赤井米吉	集成社	
1923	児童大学の教育	赤井米吉	集成社	
	学校劇の姿態	照井猪一郎	成城学園出版部	
	読方指導	山本徳行		
	劇化せる各科教授	霜田静志	日本教育学会	
1924	ドルトン案と我々の教育	赤井米吉	集成社	
・5	ドルトン案とわが国の教育	赤井米吉	集成社	
	尋三に教育の実際	山本徳行		
1925	個人学習とドルトン案(訳)	赤井米吉	集成社	
	世界文化史(訳)	赤井米吉	集成社	
・5	教師編	赤井米吉	集成社	
1926・4	体験の教育	赤井米吉	集成社	
・6	明星学園の教育	赤井米吉	集成社	
	児童太閤記	山本徳行		
	児童八犬伝	山本徳行		
	児童曽我物語り	照井猪一郎		
	新教育に立脚せる図画手工指導の実際	霜田静志	聚芳閣	
1927	新読本　巻1	照井猪一郎	集成社	35銭
	〃　巻2	照井猪一郎	集成社	35銭
〃	〃　巻3	照井猪一郎	集成社	35銭
	〃　巻4	照井猪一郎	集成社	35銭
1930	〃　巻5	照井猪一郎	集成社	35銭
1927	図画手工の実際	霜田静志		
	芸術を基調とする低学年の教育記録	霜田静志	平凡社，文化書房	
1928	図画教育の研究	霜田静志		
	史学指導の理論と実際	照井猪一郎	日本教育学会	
1929	問題の子ども	霜田静志	厚生閣	
1930	手工指導書	霜田静志	日本教育学会	

年　月	研　究　印　刷　物　名	研究者・編者・著者	出　版　元	価格・備考
1931	名画解説本渉篇，西洋篇	霜田静志	厚生閣	
	性愛の進化方向(訳)	赤井米吉		
1932・3	新しき教育計画のために	赤井米吉	刀江書院	
1933・6	自然科の究明	照井猪一郎	刀江書院	
	ニイル問題の親	霜田静志	学校美術協会	
	ニイル問題の教師	霜田静志	刀江書院	
1934	幼学綱要読本	照井猪一郎	集成社	
1935	母物語	赤井米吉	子供の教育社	
1935	地理教育実践の進歩	原田満寿郎	厚生閣	2円50銭
1937	世界の教育の動きを見て	赤井米吉	刀江書院	
1938	初学年教育の実際(児童教育叢書)	照井猪一郎	刀江書院	1円20銭
1938	さかだち学校	田畑修一郎		
1941	新世界観と教育	赤井米吉		
1942	愛児の家庭教育	赤井米吉		
1946	学校教育の民主化	赤井米吉	刀江書院	
	愛と現代の教育	赤井米吉	河出書房	
	民主教育問答	赤井米吉	石川県　代連盟	
1947	男女共学の諸問題	赤井米吉	教育新聞社	
1948	現代教育問題辞典	赤井米吉	文耀社	
1949	子どもへの理解	赤井米吉	学芸図書出版	
	知能検査の意義と方法	赤井米吉	理科教育振興会	
	ガイダンス	赤井米吉	河出書房	
1950	精神衛生	赤井米吉	学芸図書出版	
	生きた教育哲学(ウォッシュバーン)訳	赤井米吉	春秋社	
1951	道徳教育の反省と再建	赤井米吉	学芸図書出版	
1952	日本教育の再出発	赤井米吉	学芸図書出版	
・12	学校音楽劇「白雪姫」	恩地邦郎	誠文堂新光社	230円
1953	ウォッシュバーン「新教育の生かし方」訳	赤井米吉	学芸図書出版	
	バートランドラッセル「原子力時代に住みて」訳	赤井米吉	理想社	
1954	ウォッシュバーン「世界意識への教育」	赤井米吉	誠文堂新光社	
1955・10	学校音楽劇「舌切雀」	恩地邦郎	誠文堂新光社	500円
1956	絵地図で学ぶ日本	原田満寿郎	小峰書店	380円
	精神衛生入門	赤井米吉	理想社	
1957・6	平家物語と琵琶法師	武者小路穣	淡路書房新社	
・10	理科の新しい授業	遠藤　豊	明治図書	390円
・11	絵巻物	武者小路穣	みすゞ書房	
1958・9	物語による日本の歴史	武者小路穣	学生社	
	理科教育の革命	遠藤　豊	明治図書	350円
1959・3	古い教育，新しい教育，その同じところ，ちがうところ	明星学園		

年　月	研　究　印　刷　物　名	研究者・編者・著者	出　版　元	価格・備考
1959・6	教育ノート（明星での実践，記録）	無着成恭	凡書房	280円
・11	一年生誕生	明星学園	門書房	280円
1960・5	親と子どもの幼稚園，保育園	明星学園	門書房	260円
・5	教育実践記録1	明星学園初等部		
1961・3	明星学園教育研究紀要 No. 1	明星学園		
・3	日本美術史	武者小路穣	美術出版社	350円
・3	わが国の水産業（社会科学習文庫）	原田満寿郎	光風出版	100円
・3	オーストラリア，ニュージーランド（社会科学習文庫）	原田満寿郎	光風出版	100円
・5	教育実践記録2	明星学園初等部		
・11	明星の授業（第1回公開研究資料） ——教科の現代化と授業の創造——	明星学園		
1962・3	明星学園教育研究紀要　No. 2	明星学園		
・3	明星学園教育研究紀要　別冊	明星学園		
・8	明星学園研究会資料（詩——国語）	明星学園		
・8	科学教育について（理科）	明星学園		
・8	我々は何故教育するのか（生活指導）	明星学園高等部		
・9	新しい絵の教室　第一巻（明星の実践）	鈴木五郎	小峰書店	650円
・9	新しい絵の教室　第二巻（明星の実践）	鈴木五郎	小峰書店	650円
・9	新しい絵の教室　第三巻（明星の実践）	鈴木五郎	小峰書店	650円
・11	明星の授業（第2回公開研究資料）	明星学園		
・11	**新しい理科の体系と教授法**　——小学校篇——	明星学園理科部		
1963・1	みつばち詩華集（中学生のためのアンソロジー）	無着，島田編	国土社	380円
・3	明星学園教育研究紀要　No. 3	明星学園		
・3	第8回千倉研究会資料	明星学園		
・4	絵巻　——プレパラートにのせた中世——	武者小路穣	美術出版社	
・4	第2・教育ノート（明星の実践）	無着成恭	凡書房	380円
・5	**中学校理科の内容と展開**	明星学園理科部		
・8	教材と授業（湯ガ原集会研究資料）	明星学園		
・8	にっぽんごのほん(案)(湯ガ原集会資料)	明星学園国語部		
・8	**低学年におけるよみ方教育の原理**（湯ガ原集会資料）	明星学園国語部		
・10	黒船前夜（少年少女人物日本百年史　1）	武者小路穣	盛光社	
・11	明星の授業（単行本）	照井猪一郎	国土社	800円
・11	第3回明星学園教育研究会要項	明星学園		
・11	**理科教育内容の新しい構造の現代化**	明星学園理科部		
1964・1	**小学校1年における文字及び言語指導について**	奥田靖雄	明星学園国語部	
・3	第9回千倉研究会資料	明星学園		
・3	にっぽんご　1　もじのほん(試案)	明星学園国語部		
・4	さんすう　1ねんせい(1)	明星学園初等部		
・4	ぼくらは科学者　4年生	遠藤　豊他	小峰書店	1000円

年　月	研　究　印　刷　物　名	研究者・編者・著者	出　版　元	価格・備考
1964・4	**にっぽんご　1**	明星学園国語部	麦書房	250円
・6	子どもの本220選（明星のブックリスト）	無着成恭	福音館	580円
・7	ぼくらは科学者　5年生	遠藤　豊他	小峰書店	1000円
・8	夏期研究集会資料（軽井沢）	明星学園	明星学園	
・8	よみ方のほん（小学1年用）	明星学園国語部	明星学園	
・8	**英語導入期における内容と方法**	渡辺慎晤	明星学園	
・9	さんすう　1ねんせい(2)	明星学園初等部	明星学園	
・9	**にっぽんご　2**	明星学園国語部	麦書房	200円
・9	愛と理性の教育（赤井米吉教育論文集）	赤井米吉	平凡社	
・9	ぼくらは科学者　6年生	遠藤　豊他	小峰書店	1000円
・11	第4回明星学園教育研究会要項	明星学園	明星学園	
・11	歴史教材の系統表	明星学園社会科部	明星学園	
・11	中学校理科の内容と展開	明星学園理科部	明星学園	
・12	**読み方指導はなんのためやるか**	明星学園国語部	明星学園	
1965・2	よみかたの本　1年	明星学園国語部	明星学園	
・4	さんすう　2ねんせい(1)	明星学園初等部	明星学園	
・4	**ENGLISH　1**	渡辺慎晤	明星学園	
・6	**にっぽんご　3**	明星学園国語部	麦書房	200円
・6	明治の栄光（少年少女人物日本百年史　6）	武者小路穣	盛光社	
・9	さんすう　2ねんせい(2)	明星学園初等部	明星学園	
・10	授業参観をなさる方々へ	明星学園中等部	明星学園	
・11	第5回明星学園教育研究会要項	明星学園	明星学園	
1966・3	第11回千倉研究会資料	明星学園	明星学園	
・4	文学の本　2	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　3	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　4	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　5	明星学園国語部	明星学園	
・4	**ENGLISH　2**	渡辺慎晤	明星学園	
・5	**にっぽんご　5**	協力・明星国語部	麦書房	200円
・11	第6回明星学園教育研究会要項	明星学園	明星学園	
・12	大陸進出（少年少女人物日本百年史　12）	武者小路穣	盛光社	
1967・3	にっぽんご　4の上(試案)	明星学園国語部	明星学園	
・3	美術の授業　第1巻	鈴木五郎他	百合出版社	700円
・3	美術の授業　第2巻	鈴木五郎他	百合出版社	700円
・3	美術の授業　第3巻	鈴木五郎他	百合出版社	700円
・4	文学の本　6	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　7	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　8	明星学園国語部	明星学園	
・4	**ENGLISH　3**	渡辺慎晤他	明星学園	

年　月	研　究　印　刷　物　名	研究者・編者・著者	出　版　元	価格・備考
1967・4	自然科学教育の内容	明星学園理科部	明星学園	
・5	**かな文字の教え方**	須田　清	麦書房	600円
・7	教科課程一覧表	明星学園	明星学園	
・7	12年一貫教育カリキュラム	明星学園 PTA	明星学園 PTA	
・10	8小節のソルフェージュ	小笠原良一	全音楽譜出版社	400円
・11	第7回明星学園教育研究会要項	明星学園	明星学園	
・11	**文学作品の読み方について**	明星学園国語部	明星学園	
1968・1	**にっぽんご　4の上**	明星学園国語部	麦書房	250円
・2	残照（照井猪一郎遺稿集）	照井猪一郎	佑啓社	1000円
・3	春季全学園教育研究会資料	明星学園	明星学園	
・3	**自然科学の教育**	明星学園理科部	麦書房	2000円
・4	ENGLISH　1（改訂）	渡辺慎晤他	明星学園	
・4	ENGLISH　2（改訂）	渡辺慎晤他	明星学園	
・6	**わかるさんすう　5**	野沢　茂他	麦書房	280円
・9	明星の教育について	明星学園 PTA	明星学園 PTA	
・11	モスクワ20番学校の四カ月	遠藤　豊	国土社	500円
・11	現代化算数指導法事典	野沢　茂他	明治図書	4800円
1969・2	第8回教育研究会資料（非公開）	明星学園	明星学園	
・4	ENGLISH　3（改訂）	渡辺慎晤他	明星学園	
・4	文学の本　5（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　6（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　7（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　8（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・5	**にっぽんご　7（漢字）**	明星学園国語部	麦書房	200円
・6	思想の科学事典（教育篇）	無着・遠藤他	勁草書房	1200円
・11	第9回明星学園教育研究会要項	明星学園	明星学園	
1970・4	**自然科学　Ⅰ**　物質とはなにか	遠藤　豊他	麦書房	200円
・7	続・山びこ学校	無着成恭他	麦書房	1000円
1971・1	集合（数学）	明星学園数学部	明星学園	
・4	中学数学（文字式計算・関数）	明星学園数学部	明星学園	
・4	芸術と教育	恩地邦郎	第一法現出版	850円
・5	関数入門	野沢　茂	明治図書	750円
・7	**わかるさんすう　6**	松井幹夫他	麦書房	350円
・7	教育をさがせ	無着成恭	文化出版局	350円
・8	**幼年期教育の追求を試みる**	鈴木五郎他	ひかりのくに	700円
・8	**水道方式入門**	松井幹夫他	国土社	950円
・9	現代化数学指導法事典	松井幹夫他	明治図書	4000円
・11	第10回明星学園教育研究会要項	明星学園	明星学園	
1972・1	**自然科学　Ⅱ**　化学のはじまり	遠藤　豊他	麦書房	350円

年　月	研　究　印　刷　物　名	研究者・編者・著者	出　版　元	価格・備考
1972・4	中学数学（文字計算・関数・平方根と無理数）	明星学園数学部	明星学園	
・4	文学の本　5（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　6（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・4	文学の本　7（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・5	**算数わかる教え方**	松井・野沢	国土社	1200円
・7	**続・山びこ学校（改訂）**	無着成恭他	麦書房	1200円
・9	文学の本　8（改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・11	原子・分子と化学変化	遠藤　豊他	四方社	720円
・11	第11回明星学園教育研究会資料	明星学園	明星学園	
・11	明星学園教科課程（中等部）	明星学園中等部	明星学園	
・12	あたらしい家庭教室（図画・工作）	鈴木五郎	教育研究社	
1973・4	**にっぽんご　3の上**（3を2分冊へ改訂）	明星学園国語部	麦書房	250円
・4	文学の本（5，6，7，8の改訂）	明星学園国語部	明星学園	
・5	ENGLISH Book 1 発音（改訂）	明星学園英語部	明星学園	
・6	自然科学　Ⅲ　力学の初歩　前篇（試案）	明星学園理科部	明星学園	
・9	自然科学　Ⅲ　力学の初歩　後篇（試案）	明星学園理科部	明星学園	
・8	**低学年の美術教育**	鈴木五郎他	百合出版社	2000円
・9	にっぽんご　6　語彙論（試案）	明星学園国語部	明星学園	
・9	にっぽんご　8　古典文法（試案）	明星学園国語部	明星学園	
・9	中学・代数基本問題集	明星学園算数部	明星学園	
・10	学習百科事典（算数篇）	野沢茂他	世界文化社	2000円
・11	にっぽんご　3の下（試案）	明星学園国語部	明星学園	

(2)　都の研究助成による教育研究一覧表

年　度	題　名	研　究　者
昭和12年度	○教材園として東京近郊の緑地帯の研究	原田満寿郎
昭和36年度	○第4紀層中に含まれる有孔虫化石の研究	村崎　洋
昭和37年度	○関東平野の第4紀層の層序並にこれに含まれる花粉・有孔虫・化石・重鉱物に関する研究	上田八郎　外2名
	○主題　太宰府の研究 副題　奈良・平安時代の外交史	堀　淳二
	○第2信号系理論と国語教育	荒川有史
	○高周波加熱の発振及利用の研究	川原正希知　外1名
昭和38年度	○小学校低学年理科 低学年理科の内容を言語・数量・自然に関する基礎知識という面からの検討	佐藤文夫
	○現代の自然科学の視点からみた小・中学校理科の新しい体系と教授法の研究	遠藤　豊

年　度	題　　名	研　究　者
昭和38年度	○子どもの視覚，空間の正しい表象と美術的表現	鈴木五郎
	○国語教育と英語教育	荒川有史
	○地学カリキュラム作製のための第4紀の研究	森　由紀子
	○中学・高等学校常備図書基準の研究	船山博彦
	○文学作品による認識発達の順序，幼児から中学3年までの11年間	無着成恭
昭和39年度	○現代詩の研究	鈴木満男　外1名
	○芸術鑑賞授業の体系	恩地邦郎
	○小・中学校における理科教育内容の構造化と教授法の研究	遠藤　豊　外3名
	○歴史教育に絵画をどう利用するか　――絵図の製作とその利用――	上川　淳　外2名
	○絵画鑑賞教材の体系と指導の順次性について(小学校5,6年,中学校1,2,3年)	鈴木五郎　外1名
	○算数教育における小学校低学年児童の数の認識課程と算数学習指導，並びにその学習における教具考察に関する研究	伊藤　迪
昭和40年度	○読み方教育の初期における映像化指導の段階的方法	室谷幸吉
	○図式的表現から視聴覚リマリズムの表現に於ける移行期の描画指導について	鈴木五郎
	○算数教育における量の構造化と系統的指導方法に関する研究	岸　巌　外3名
	○かなづかいの学習指導法	辻木猪一郎　外1名
	○近・現代史の学習に身近かな資料をどう役立てるか	依田好照　外1名
	○原子論的観点に立った中学核物理・化学の教材の組織化の指導の方法	管野昭二　外1名
	○中学校に於ける文学教育の内容と方法	内藤哲彦　外1名
	○技術・家庭科教育における技術性と教材の分析	高須いち　外2名
	○近代詩の研究	鈴木満男
昭和41年度	○よみ方読解過程における映像的解明の機能研究，特に児童の認識形成の基礎段階における映像（視聴覚）手段の適確な活用法の追究	室谷幸吉
	○地理教育の系統化と教材の作成（日本地理）	広川　孝　外1名
	○初等化学教育の体系化と教授法の研究	町田熊吉　外1名
	○調理指導の教材の組立て方	高須いち
	○導入期における発音指導の内容と方法	渡辺慎晤　外1名
	○小学校・中学校の彫刻指導の系統	太田幸雄　外1名
	○技術教科における製図学習指導内容と実践（投影法から製図学習への移行）	
昭和42年度	○小学校における体系的な漢字指導の内容と方法	須田　清　外2名
	○1年生から中学3年生までの観察してかく絵における教材の系統と指導の方法	太田幸雄　外1名
昭和43年度	○小学校1年生から中学校3年生までの主題による表現の指導と教材の系統	鈴木五郎　外1名
	○低･中学年における方眼紙を使った図形の構造化と系統的指導方法に関する研究	伊藤　迪　外1名
	○入門期における文法教育の内容と方法	武富匡代　外2名
昭和44年度	○高等学校国語教育における評論の位置づけ	鈴木満男　外2名
	○歴史的・公民的分野の学習に父母・教師の生活体験をどう活用するか	上川　淳　外3名
	○中学校・高校におけるデザインの指導と教材の体系	太田幸雄　外1名
昭和45年度	○小学校における「物質とエネルギー」の内容と体系化	佐藤文夫　外1名

年　度	題　　名	研　究　者
昭和45年度	○入門期における音声・文字・単語の指導について	渡辺慎晤　外1名
	○集合・論理・教材の中でブール代数をどのように活用するか，視覚・教具はどんなものがよいか	松井幹夫　外1名
	○英語の「時」の表現形式をどう教えるか	江本清弘　外1名
	○言語と文体　――大江健三郎の世界――	佐藤嗣男
	○自然科学史の授業の教材づくり	田崎　中
昭和46年度	○表現における再現的（Repr sentation）課題と形成的（Formation）課題	鈴木五郎　外1名
昭和47年度	○論理的文章読解の機能研究，児童の発達に即した教材検討と望ましい教材文の自主作成	室谷幸吉
	○マット跳箱運動における腕立回転技術法則の獲得（視覚教材利用）	人見進夫
	○高校社会科カリキュラムの総合的検討　その2	野口　淳
昭和48年度	○英語の発音のテキストづくり	内藤哲彦
	○歴史小説の再検討　――高校教材（現国）の体系的発掘――	佐藤嗣男

3　明星学園の教育　――教育体制――

(1)　4・4・4制の実施　――教え方の自由は私立学校の特色――

6・3・3制度の枠内で，私立学校の自主性を主張し，小学校から高校まで12年間の一貫教育を実現するため，低・中・高各4年の4・4・4制を昭和33年の4月から実施した。

当時の小・中学校の照井猪一郎校長は次のような見解――「6・3・3制の長所を伸ばしムダをなくするのがねらいです。いたずらに異端をとなえ，快サイを叫ぶのではありません。教師は合理的な教え方をする任務があります。こんどの4・4・4制も明星学園の生徒たちにもっとも適した教え方を研究し，実行しただけ。カリキュラムのこまかい点では文部省の指導要領と異るところがありますが，全体としては国の方針に従っています。6・3・3制を破壊する意図など全然ありません。"教え方の自由"は私立学校の特色という意味から，ある程度認められるべきで，その範囲内で4・4・4制をとっても，さしつかえないでしょう」と述べている。

4・4・4制に対する新聞・雑誌の論評　毎日新聞〈32年2月23日〉　教育者の自発性――"6・3・3制"に検討を加える　"4・4・4制"を提唱した私立明星学園（東京都三鷹市）の新しい試みが，教育界に大きな波紋を投げている。文部省では，「学制をみだす違法行為」ときびしい批判を加えているが，現場から盛りあがった創意工夫の新しい芽をつもうとする考え方はどんなものであろうか。教育は生きている。教育者の自発性があってこそ，制度に血が通うことになろう……。

読売新聞〈32年2月20日〉

能率的な4・4・4制――最後の1年で個性の仕上げ――アメリカの押しつけといった批判こそあったが,戦後15年日本の教師の努力で順調に育ってきた6・3制のこれからのあり方をめぐって,教育界に大きな論争の渦がまきおこっている。さきに松田文相はこの問題を中教審に諮問したいと語ったが，この4月から東京三鷹の明星学園が4・4・4制に，神戸の三田学園でも中・高校一貫教育のため2・3・1制の実施にふみきり，さらに論争に拍車がかけられようとしている。

一体6・3制は宇宙世紀といわれる新しい時代に不適当なのか，また6・3にかわる新しい制度はどんなものか。明星，三田学園のプランとすでに公立高校で中・高一貫教育を実施している東京世田谷工高の実践を紹介しよう……。

コウロン〈32年2月23日〉

東京の私立明星学園では6・3・3制にかわって4・4・4制にこの4月から踏み切ることになった。文部省は「6・3・3制の無視だ」とオカンムリだが，明星学園の理事長市村寅之輔氏に私学の立場を聞いてみた――

“今度の教育課程は6・3・3制を否定しているわけではないので，この点は文部省の大変な誤解だと思います。ただ小学校から高等学校まで,私たちの場合は一貫して教育できる有利な点から,この12年間を有効に使うことを現場の先生方が真剣に考えた結果であって，私公立の別なく先生方は考えていることですよ。11年で従来の12年の教育を終らせ，あと適性に応じて教育は1年やることを目標にしています。……もっと教育にバラエティがあるべきだと思うのです。文部省の言うことを杓子定規に守ってやっていたら私学はいりませんよ。現状では文部省の定めるワク内でできるだけ自由にやるつもりです。

実際，私学がのびることは文明がのびることで，一種のバロメーターですよ。しかし，日本では西欧のような私学の基礎がない。つまり基金（ファンド）を寄付する人がなかなか出てこないのですね。画一的なものでなく現場の先生が編み出した教育方法を自由に試みられるのは私学ですから,私学はその意味でもっと大胆にバラエティに富んでいなければならないと思います„――亡くなられた市村理事長はこのように述べている。

週刊読書人〈32年4月2日〉

まず教科課程の面で注目されるテストケース――6・3・3制が再検討され始めているなかで,この新学期から新教育を開始した学校がある。東京都三鷹市に玉川上水をはさんで幼稚園・小学校・中学校・高等学校の校舎をもった明星学園，武蔵野のみどりに囲まれ恵まれた環境にある学園だ。

ここで小学校から高校までの教師が教育推進委員会という研究機関を作り，これが母胎となって生れたのがここで紹介する“新教育だ”……。

文部省の声——毎日新聞〈32年2月10日〉

法に違反の疑い，内藤文部省初中局長の話——「学校教育法によると小学校は6年，中学は3年で完成する建前をとっている。名目はどうであっても，実質的に4・4・4制をとるのは現行制度を否定することで，明らかに法違反だ。指導要領や教科書などすべて6・3・3制のワクを無視するようなことは，たとえ私立学校でも許されない。学校教育法に違反すれば小・中・高校として扱うことはできず洋裁学校や塾なみの各種学校としての扱いしかできない」と文部省の初中局長は真っ向うから「法律違反だ」ときめつけていた。

各界から寄せられた意見

波多野完治教授（お茶の水女子大）——読書新聞

「いまの子どもは昔とくらべてアクセレレーション（発育加速現象）が強いといわれている。また学習内容も科学技術が驚異的に進歩している現在，なるべく早く抽象的に物事をつかむことを教える教育をやる必要に迫られている。15年前につくられた6・3制を改革するのは当然のことだ」と4・4・4制を高く評価している。

海後宗臣教授（東大教育学部）——読売新聞

“6・3・3の12年をどう区切ったらいいかについては，いろいろな考え方があり4・4・4制が絶対に正しいとはいえない。だがいずれにせよ，これらの試みはあってもよいもので，行政当局はあまりやかましいことをいわない方がいいと思うが，問題は教育の中身だ。教育課程を再編成して新しいものを作り，それでやっていこうというのなら大きな教育的意味があるが，ただしその場合は，文部省からいうように学校教育法に基づく正規の学校ではなくなることを覚悟しなければならない。„と語り教育制度改革の熱意は認めるが，その前途は多難であることを暗示していた。

池田潔教授（慶応大学）——読売新聞

‥‥新聞を読んだだけで本当のことは僕にはよくわからないが，これが学習能率を高めようと現場の先生方が研究されての結果であり，学校当局も父兄も強く支持しているというなら，大いにやってみるがよいと思う。文部省あたりは早速文句を並べ法違反だ現行制度の否定だとやっているが，役人の画一主義というやつで，いつもながら困ったものである。

教育というものこそ本来自由であるべきで形にとらわれない個々の特色を生かした，ありとあらゆる形式の学校があるのが当然である。特に私立学校は教育者が自らの信念に基いて教育を行なう

場であって，役人の考える狭いワクなどにはめて統制すべき筋合のものでは断じてない。明星学園の勇断をたたえるものである。

読者の広場——毎日新聞〈32年2月〉

にわかには賛成できない——杉並区・倉持喜一・勤人

普通社会で修業年数をいう場合は中学・高校と区別せずに通算して何年というのが実情である。区切りは一般のものと違っても，通算して12年になれば高卒として同じであり，必ずしも6・3・3の区分けによる必要なしともいえよう。

だが私は転校や進学の問題を考えると，横に連絡のつかない教育課程をもつことにはにわかに賛成できない。問題の4・4・4制を意欲的だとする意見もあるようだが，むしろ6・3・3制のワクを守りながら，その中でどうやったら教育効果が上るかを検討し，努力することこそいまは大切であり意欲的だと思う。

4・4・4制のプラン　〈35年2月20日〉小学1年～4年を第1期，小学5年～中学2年を第2期，中学3年～高校3年を第3期に再編成し，先生やＰＴＡ，児童生徒たちの自治会も各期単位に構成する。実際の教育に当っては4年を2年毎に2つに分け，前期・後期として扱う。たとえば第1期では小学校1，2年を前期，3，4年を後期というようにする。

学習形態　もこうした各期ごとの特徴をつかみ，第1期では完全な学級担任制をとり，とくに生活単元学習を中心に授業する。第2期では知的学習も要求されるので，教科担任制も加味する。担任教師は原則として算数・国語は教え，最低週12時間は子どもに接するようにする。第3期はいわゆる学問入門期であり，教科担任制とするのはいうまでもない。

また，特に本人の能力と文科・理科・芸術といった将来の志望とをにらみあわせて，ＡＢＣの3コースをとり，優秀な子ども達は，12年の教育課程を11年で終わらせ，さいごの1年は進路の適性指導や個性伸長の総仕上げをしたいという。ただこうすると教科書や教育課程と食い違う面がでてくるが「教科書はいってみれば指導の最低基準を示したもので，それ以上深く突っこんだり多少早めにやることは許されると思う。将来はコースによっては補充教材を使って中身の豊かなものも取扱う。

以上のように低学年部では，生活単元に立つ総合学習を基本としつつ，基礎学力を養うことに主力を置く。次に中学年部では各教科の特質に応じ漸次その独立制と系統制を強化し専科制をとって行く。高学年部では青年期の特質を考慮し，さらに高度な社会形成に参与させつつ各自の能力と個性に基いて，進路別コースを設定し勉学の努力と研究の自由を助け，将来の志望に必要なやや専門

的な学力を身につけさせる。

以上の説明を要約すると

① 生徒の発達段階（身体的・心理的）に応じた段階を現場の経験から組立てたこと。

② 学習指導要領に準拠，検定教科書などの使用は当然だが，6・3・3制という外形的なものを守ることにこだわらず，12年の年限を効果的に運営する。現在の6・3・3制のカリキュラムでは義務教育の総仕上げという意味から中学3年に負担がかかりすぎ，また小学校6年と中学1年，中学3年と高校1年で同じことをダブって教えることが少くない。この是正も眼目の一つ。

③ 受験本位で人間形成を棚上げにした一般社会の害悪から児童生徒を守り，身についた実力を持たせることなどである。

要するに生徒の個性を伸ばす高能率の学習とは何々かと模索した結果から生まれた構想である。

4・4・4制に踏み切るまで　昭和28年「教育推進委員会」という研修機関を設け，昭和33年4月から試験期間として一応この方式を採用した。教科課程の再編成ということで，昭和32年から33年秋まで職員研修会で数十回にわたる討論を重ねてから打ち出したのである。

教科課程の再編成ということは大問題であるが，せめて教科内容の水準を引き上げ且つ組替などしてその学習方法を検討することから始めた。

私立学校は常に公立に対して教育面での啓蒙をしなければいけないという故照井猪一郎校長の信念が，今度の新教育面に表現されたとも言える。

“教師という仕事は,子どもが家庭や社会から無条件にとり入れた経験を整理して一つの知識として編集しなおしてやるのが役目なのです。社会はめざましい進歩をしているのにいつまでも従来の方法で教育するのは教育者の怠まんというものです。明星の生徒は小学校へ入学する前に単語のいくつかは知っているのが実情だし，小学校で家庭科をやめたのも，どうしても必要なら学校でプランを作って，それを母親に実行してもらえばいいと考えるからです。学校は基礎知識を教えるところなのですから„ と照井校長は語られていた。

6・3・3制に対しての批判　(1) 6・3・3制の最大の欠陥の一つは青年前期の中学教育・青年後期の高校教育が,各3カ年間ではいかにもあわただしく落着きが得られないことにあった。中途半端を余儀なくされることであった。

(2) 中学1，2年と3年との間には，成育の段階に大きな差異を認めざるをえない。心身両面でそうだ。だから3年を高校につけることはむしろ“成育段階に即した„ ものといえよう。

(3) 5，6年特に6年と中学1年との差異は極めてわずかである。これらをまとめて4年制にすることは決して無理ではなくむしろ合理的である。

(4) 教師と生徒の密着性がそこなわれている。小学課程の6年はともかく中高の3年制ではこういった面が強く出てくる。

中学1年に入学した生徒を個別的に理解できるようになるには，やはり1年間はかかる。それぞれの生徒に適した指導対策ができるころにはもう2年生。油がのって会心の授業ができるころは,3年生で高校進学で浮き足立っているのが実情である。

4・4・4制の教育課程編成上の基準案　○　低学年部（1～4年）

認識発達の段階に応じた指導基準を軸とした生活的な単元の設定により，総合的学習から漸次系統的・分化性をもたせた学習へと進め基礎学力をつける。1～2年＝生活単元に立つ総合的な学習により創造性・活動性・集団性の基礎を養う。

○　中学年部（5～8年）

各教科の特質に応じ漸次その独立性と系統性を強化し,専科別を加える。5～6年＝社会的集団性を組織的に進め，その中で創造的・論理的な思考力を養うことを根幹とする。7～8年＝いままでの基礎の上にさらに学習態度の高度化，自主化を拡充して基礎学力の整備と充実に主力を注ぐ。

○　高学年部（9～12年）

生徒各自の能力・個性・進路を考慮した適性別コースを設定し，勉学の努力と研究の自由を助け将来の志望を達成するため，やや専門的な学力を身につけさせる。9～10年＝適性別コースにもとづいた指導をする。11～12年＝進路をも加味したコースを設定し，将来の志望達成の自信を養うよう学力の発展と充実を期する。

以上が12年前，4・4・4制の実施に当り，総合から系統へ導く教育課程の骨子であった。

ま と め　教育の自由は学問・研究・思想・信仰の自由とは別のものであり，公共の教育が法的規制をうけるのは当然のことと思う。

6・3・3制は機会均等・人間教育の実現を目標にしているこのワクをより良くするために，4・4・4制の新しい試みを12年前に発芽させようとしたのである。

教育課程の再編成という大問題でなくとも慣習化している教育内容や方法に疑問をもつことは，教育を生かし制度に血が通うことになるのである。

この4月，4・4・4制初の卒業生を送り出した（12カ年経過）現在，また6・3・3制に対する中教審の答申《6・3制の学制改革は中間報告で見送られ，6・3制に代替できる，よりす

ぐれた制度がただちに見出し得ないからであろう。しかしその一方ではよりよい制度を求めての“先導的試行„を活発にするという。――この“先導的な試行„の対象にあげられたのは，4，5歳児と小学校の低学年を加えた“幼年学校„や6・3・3ではない「5・4・4制」あるいは「4・4・4制」などの試み，中等教育の3・3をつないで一貫教育などである。》の出た今日，父兄も世間も刮目して明星の4・4・4制の成果の発表を待っていることであろう。

4・4・4制と6・3・3制の比較検討は完全になされていない。部分的には教育内容や教科内容の独自の研究の成果はあり，また独自の教科書も一部分は作られた。だが現行の文部省検定による教科書は「浅い知識をこまぎれに並べているだけで，役に立たないときめつけ，邪魔な教科書は使わないと大みえを張るだけでは，父兄も世間も納得しない。また初等教育は4年で十分である」といったように報道されたが，誰れか個人の発言であって，全学園で確認されたことではない。

全学園自体の責任で総括的な報告書をまとめて，父兄にまた世に問い，その成果の批判をうけることは自他共に時宜に適した最も望ましいことであるし，また義務でもあると思う。

従ってここの期待に副い責任を果すべく目下，教科別研究会や学園体制検討の集会がしばしば開かれている。

教育の実験は，新しい製品を作る実験工場ではなく，断じて失敗はゆるされない。精緻な理論と周到な計画がなければ子どもを冒瀆することになる。

明星が6・3制と併立できる4・4・4制として試行してきたことは，子どもをモルモットにしなかったのであって，4・4・4制の評価とは別に，結果においてよかったと思う。

（「道」85号から，原田満寿郎記）

（2） 中教審の「基本構想試案」と4・4・4制の実施をめぐって

「基本構想試案」発表につづき教科書裁判の判決がおわって――

日本の教育を真面目に考える多くの人々の重大な関心のただ中に，教科書裁判の判決が下された。勝ったと喜び，または敗けて周章狼狽することより，戦後の日本の教育に深刻な反省をもたらすものとして，受けとめるべきではないか。筆者はかねてからすでに教育基本法は無視され，あるいは忘れられつつあるのではないかと不安に思っていたところへ，基本構想思案に「教育行政の役割を外的教育条件の整備や，単なる助言だけにとどめるべきだという考え方が国民の一部にある」とあったのには教育法第10条に背反するのではないかと驚いていたのだが，このことが判決文によってはっきりしたことは当然というものの重要な意味をもつものだと思う。

基本構想試案にもいくつかの当然と思われる指摘，たとえば，6・3・3制の改革，私学の助成についての独自性尊重，総合的・具体的な開発センターの設置の提案，などがあるのだが，国家主義の大枠の中におさめ，官僚統制の強化がぎらぎらと光っているのでは，国民の一部としては，うっかり賛成もできない。まして教育現場から見て忿懣を感じるのは教職の信頼に対する空々しい評価である。「わが国では伝統的に教職に対する信頼と尊敬がきわめて厚かった」といっているが，「先生といわれるほどの馬鹿でなし」ということばが伝統的にうけつがれ，戦後は，デモ・シカ教師ということばさえ登場していることを見る時，国家権力のうらづけや，試験による評価によってかろうじて保たれていた教師の権威が，音をたててくずれ始めている現在，全く空疎なひびきしか感じられない。6・3制改革のために，5・4・4，6・6制というような方法を，国として混乱をさけるために“先導的な試行”を重ねることを提案しているのだが，多少混乱の予測されない改革はありえないのだから，むしろ私学で実施されている6・6制，4・4・4制，4・5制などの実践から学び，検討のうえ，改革をするにあたっては，なしくずしにするより，3年計画で実施にとりくむか，または地域によって選択を自由にするのが賢明と思われる。一時的に複線型をとることは，行政上はともかく，好都合もあろうかと思うが，教育の内容の面の混乱が起る恐れが十分ある。

私立明星学園において，1960年，4・4・4制を発足させた時，時の初中局長の内藤誉三郎氏は「4・4・4制をとるのは現行制度を否定するもので学校教育法違反だ，強行すれば，各種学校として扱わざるをえない」と発言し，東京都は視学官を派遣するなどの圧迫の中で，困難な道を歩んだこと，また，清明学園（東京都大田区雪ケ谷）で実施されている5・4制などへの評価はどうなるのだろうか。また聞くところによると国立教育研究所の平塚益徳氏が，5・4・4制を早くから提案したが，文部官僚の抵抗にあって具体化しなかったということだが，もしそれが事実なら，1950年以来の道徳教育の実施，中学校学力テスト，勤評などの文教政策の失敗をすりかえて，“先導的な試行„などという名文句を登場させたのではあるまいかとさえ疑いたくなる。むしろ，先導的な試行は民間で自主的に進められることに意味があるので，それを，国として，偏見がなければ取りあげて行くことこそ，基本構想にもあるとおり「教育者の自発的・創造的な努力への期待」ということばに沿っているというべきであろう。

4・4・4制が大正自由教育の流れの私学明星学園で研究・実施されたことは，英才教育・大学受験のためのレベル・アップを目標にしたものではなかっただけに注目する必要がある。心理学的発達段階の考慮と，生徒集団の生活圏としての合理的な学校体制を組織することによって教科課程の一貫性を目指した再編成のテコとすることを考えたものであった。学校制度について多くの論者

の指摘している6・3制の問題点，(1) 中学3年生の区切りに無理がある，(2) 小・中または中・高の一貫性の確保，(3) 就学年齢の引き下げの必要性の3点についてはおよそ一致しており，6・6の中・高の一貫については根拠のある強い反対意見があることから，4・4・4，または5・4・4制度が望ましい新時代に適した制度であるといえよう。一方，問題は枠組のことではなく，教師の自主性を引き出す文教政策，財政上のうらづけ，教育と教師の尊重にあることは当然のことで，明星学園の4・4・4制の実践も，財政的基盤の薄弱と日本の自主的団体の陥りやすい欠陥であるセクト化が教科研究の進展とともに表面化し，教師が集団としての力を発揮しえず，発足当初の情熱が10年経過した今日，盛り上る成果をかちとることができなかった事実を直視しなければならない。

明星学園＝4・4・4制の発足　明星学園が4・4・4制を発足させた1960年といえば，安保条約改定の批准の承認について戦争中の大臣でもあった岸信介が強行採決をもって押し切り，それへの反対運動が，戦後の大衆の政治行動としては記録的な高まりを見せた。全学連の一部は，政党の指導にあきたらず独走を始めたが，樺美智子の犠牲がありながら，この大衆のエネルギーは政治的に効力を発揮しえずに，挫折感と運動への懐疑の影をのこして，日米安保体制と自民党の強化が進められることになった。また教育の面では道徳教育の実施，中学校学力テスト・勤評・能研テストなどの文教政策が次々に実施に移され，教育への官僚統制の強化・画一化が進められ，一方，私学は経営上の問題が表面化し始めた頃である。

大正デモクラシーの流れの中で自由教育を標榜して創立された明星学園は，戦争終了につづいた教育の諸改革，教育基本法，6・3・3制，男女共学など，創立以来の主張と一致するものが多いとして，早くから生き生きとした教育実践に立ちあがっていた。教職員組合も私学としては早く組織され，教師たちの自主的な意欲も盛りあがっていた。この中で米国から移入した教育方法への疑問，特に社会科を中心とした生活経験学習への批判から次第に研究会が開かれるようになり，1957年秋には組合の主催によって研究集会が企画され，当時の校長照井猪一郎は「私学にもはや遺産は何もない。こういう研究会はこれから学校が主催してやるべきだ」と期待と激励のことばを送った。一方，1954年，学園創立30周年を期して，戦争によって荒廃した校舎の改築に着手，設備に多額の資金を必要とすることから理事会の強化が計られ，理事長に経済界から市村寅之輔を迎えた。

1958年，教育研究所の名のもとに，教育学者勝田守一を招き研究会を開いた中で，1案として提案された4・4・4制が11月の研究会に島田厚（現在造形大学教授）提案となって討論されることとなった。島田提案の骨子は次の様なものであった。(1)12年を4・4・4に区切り，それぞれを前期2年，後期2年とにわける。(2)中等部から教科の専科制をとる。(3)適性を考慮したコース

の編成を考える。この島田提案は引きつづき，教育推進委員会（老齢で病床にあることの多くなった照井・上田両校長を補佐して橘正薫が大主任，後に教務部長となり，委員会の主査には高等部の武者小路穣があたる）においてさらに検討，教科課程の編成にかかった。1959年，11月19日の全校職員会議において，建設計画もふくめた実質上の４・４・４体制をとることについて討議，理論的根拠薄弱，経営上の問題点の指摘などの反対意見・慎重論もあったが，多数の賛成をえて，具体的諸問題の研究にはいり，理事会もこれを採択して実施に向うことになった。

苦闘の中に見る成果と矛盾　発足当初の理論のめざしたことは，小・中・高の教育課程の一貫性を確保し，内容の重複を検討し，精選することであった。中教審の試案の２の(1)には，小学校から高等学校までの一貫性をいっそう徹底するとともに，特に小学校段階における基礎教育の徹底をはかるために教科内容の精選と履修教科の再検討を行うこと，そして説明文には「社会科のあり方や理科教育方法など低学年における教科のあり方には問題が多いという意見がある」といっている。明星学園では，早くから初等部４年までは理科・社会は，内容を大きく制限し，また，国語の副教材としての「にっぽんご」というテキストを研究・作成し，言語の教育を文法的な側面も加えて基礎教科としての内容を深め精選を進めていた。また，同じく試案の２の(2)では，「生徒の能力・適性・希望などの多様な分化に応じ，高等学校の教科内容について，適切な多様化を行なうこと」という，とらえ方と実施の方法によっては差別教育との批判もうけることばがあるが，明星学園の４・４・４制，高等部についての方針は「生徒各自の能力・個性・進路を考慮して，適性別コースを設定し，勉学の努力と研究の自由を助け，将来の志望を達成するため，やや専門的な学力を身につけ充実させることに主力をそそぐ」としている。

さて10年を経過した今日，成果としてはどのようであったかというと，まず教師集団が，私学人としてのアスピレーションを持ち，よくこの10年間，常識で想像できない苦難にたえたということである。４・４・４制発足間もない63年には，全園教務部長として，指導にあたっていた橘正薫は，56歳で会議中にたおれて間もなく死去，２代目小・中学校長照井猪一郎が，理事長市村寅之舗，高等学校長上田八一郎が，ほとんど６カ月おきに死去，学園葬がつづき，また，69年５月には教職員組合委員長の早田勤が交通事故（団交終了後の深夜帰宅のため）でたおれるという事実を省みるだけでも惨憺たる労苦が偲ばれるものだ。10年の間には紆余曲折があり，その具体的成果が，教育という時間のかかる仕事の特殊性からはっきりとは示しにくい点はあるが，初等部の学習集団が一応のまとまりを見せ基礎的な学力の充実にもかなりの効果をおさめている。

また，高等部は，教務事務の複雑さが増加したことや，10年段階（高校１年）で年々入学者を増

加させなければならない矛盾をかかえながらも，生徒集団のまとまり，クラブ活動，生徒主催の行事などは年々充実さを加えた。しかし，上級学校進学の要望も無視できない現実であるので，教科課程の改善は，初中等部ほどの大胆な改革は果しえなかった。また，上級学校入学について不安を持つものがあったが，一般的には高校志願者の急減期であったにもかかわらず，高校からの入学希望者が年々増加することとなった。最近のことでいえば，生徒の政治的・教育的要求の高まりからその解決の過程で，多くの高校で生じたトラブル・断絶というものは，明星学園ではすべて問題を教育の問題との関連で生徒とともに考えるという方向で進めたため，むしろ教師と生徒との連帯感は深められたといってもよい。

中等部は，中3の高校入試という現実的苦労もなく，教科と授業の研究に打ちこむ環境にあったため，一面では特徴のある成果があったといえる。しかし，その教科研究の充実の面から，逆に9年（中3）までつづけて同一キャンパスにおきたいという要求が強くなり，65年以降，この問題をめぐって4・4・4制を堅持するという一般的な意見と，中等部教師の強い意見である，高等部における成果を単に生活指導的なものとして軽視することへの反発とで，討論はやや感情的なものにさえ進展した。

69年12月以降，それぞれの立場の理解と反省も加わって，初・中・高全校合同の教科部会という原点に帰って，再検討を開始している。

これからの課題　明星学園としては，国家の教育行政が教育基本法から逸脱し始めた1958年頃から6・3・3制が実質を失い形骸化しているとの判断から，4・4・4体制をとることによって，教科の一貫性と内容の改善をめざしたものであるが，一私立学校が大きな経営上の負担の中で理想的に完成しうるものではなく，何度も挫折と相剋を乗り越え，多くの犠牲のうえに，よくぞここまで到達しえたということをあらためて再認識するものである。明星学園が今後統一して科学性のある研究と実践をつづけるならば，国としてこれらの私学の実践を素直に検討吸収すべきで，そのための助成措置を早急に立案すべきではないか。その方が“先導的な試行„による教育の内容の面からの混乱の批難をうけることもなく，真に在野精神に立つ私学を国家百年の計として国民の教育に貢献させる最良の方策というべきではないか。（「教育展望」16巻8号から，恩地邦郎記）

V　学校行事

1　授業と行事は学校教育の二つの柱

(1)　行事について

今日，学校行事は，教育課程の中に授業の他の側面として位置づけられて，教育的効果が十分果されるよう計画されるものである。

明星学園においては，創設時から行事の教育的意義を高く評価し，多面的な実践を試みてきた。しかし，行事のうち，校外活動の面においては，将来の社会生活形態を透視して労作教育までには行きえなかった。

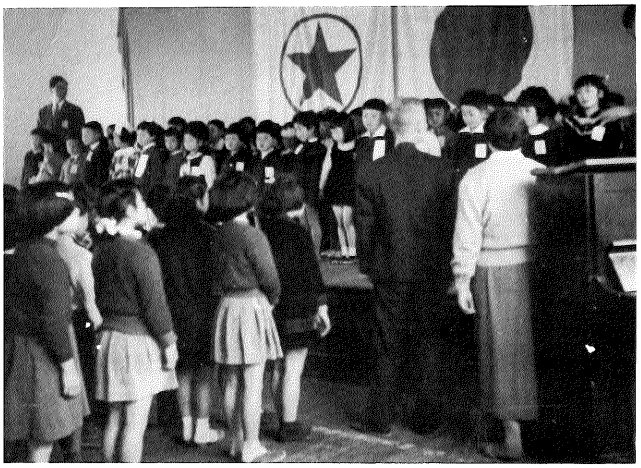
☆　　☆　　☆

学校行事のうち，最も重要なものは入学式と卒業式である。この行事は，当該学校の伝統とか色彩とかが反映され，また当該学校の教育の断面が表現されるものだ。始業式も終業式もこれに準ずるものであることは当然である。

入学式　入学式というのは，明星学園では入学試験によって選抜された入学候補者に対して，校長が入学を許可し，第1学年に在籍することを認める学校管理上の行事であるが，教育的には，新入生に対して入学のよろこびと，これからの期待と覚悟をうながし，在校生に対しては入学生に対しての心構えと，上級生であることの自覚をもたせるという意義の行事である。

卒業式　学校行事として一番重要な行事である。

6カ年（小）3カ年（中・高）の課程，特に明星学園では12カ年の全課程を修了したことを祝い，将来に対する希望と覚悟を新にさせ，それを励ます意義の深い行事である。式に参列する卒業生・在校生・教師・卒業生の父母・それぞれに異なる心情であるが，卒業式は簡素のうちにこれらの人人の思いを汲み入れたものでなければならない。本学園は，12カ年一貫教育の立場を積極的に意味づけて，入学は1年生，卒業生は12年生という立場をとっている。このことは学園の卒業式の意義を大きなものにしている。それで卒業証書の授与は，校長から一人一人に手渡し握手するほど時間



小学部入学式　広川孝担任（昭和30年）

をかけている。それは卒業生一人一人に卒業のよろこびを体感させ，卒業の自覚を深めさせるために，卒業生一人一人におめでとう，しっかりやりなさい，という教職員一同の気持ちをじかに伝える意味も十分含まれてのことである。

☆　　☆　　☆

卒業式を3月21日（春分の日）に選んだこと　3月21日は春分の日であって，自然界にあっても昼長からず，夜短からざるという春分の日である。右にも左にもどちらにも傾かない公平な日である。

太陽は魚座にあって赤道の真上に輝いている。

秋の秋分の日には，星座では目かくしをして天秤を持った乙女がえがかれている。公平で私がないというシンボルである。

気候も寒からず暑からずというまことにおだやかな時期である。また大武蔵野と青い大空と天地合してうららかな春日和の春分の日こそ，いかにも明星精神の象徴でもある。

世の中の混雑や友達同志のイザコザはすべて自分の考えを相手に押しつけようとするところにおこる。競争意識が盛んになればなるほど，相手の立場を無視する。自分だけの立場で物を片づけようとするところからおこる。

人の立場になってものを解釈できる円満な人格，いや他人のうるおいになるような高い人格をのぞみ願っている。

学園が公平で私ないこの春の春分の日を創立以来ずっと卒業式としてつづけているのは，こういう意味があってのことである。

(2)　明星学園初等部行事暦　　昭和17年度

第1学期											
日	曜	4　月	日	曜	5　月	日	曜	6　月	日	曜	7　月
1	水		1	金	本月分学校諸会計 鯉幟ヲ樹ツ	1	月	本月分諸会計	1	水	7，8月分学校諸会計
2	木	初等部全父兄会準備	2	土	八十八夜	2	火		2	木	半夏生
3	金	神武天皇祭 ●校内整備 ●児童名札張リ	3	日		3	水		3	金	夏季生活児童ノ適性体格検査 ●各級父兄会日割オヨビ夏季生活ニ関スル詳細案ヲ通知ス ●来週中各級父兄会開催 ●夏季生活最後打合セ。計画完成
4	土	午前9時入学オヨビ始業式。11時記念撮影	4	月		4	木	齲歯予防日。口腔衛生講話	4	土	

第 1 学 期											
日	曜	4 月	日	曜	5 月	日	曜	6 月	日	曜	7 月
5	日		5	火	端午ノ節句。全体行動強歩訓練（高尾山中心）	5	金	夏季生活問題 ●夏季生活具体案作成 ●８月中ノ宿題オヨビ学習法 ●夏季生活場所，２，３年ハ学校宿舎，４，５年千葉県瀬戸臨海生活，６年沓掛明星学寮	5	日	
6	月	本日ヨリ午前８時始業。午後３時退出 方面別部隊帰宅 掃除，校具，教具ノ整備 雑踏期ノ校外養護ニ関スル通知ヲ出ス	6	水	立夏	6	土		6	月	
7	火	来週ヨリ身体検査開始 本月分学校諸会計	7	木	身体検査漏ニ対シ校医検診	7	日		7	火	七夕祭。事変記念日。学期末美術小展覧会・音楽ノ会
8	水	奉戴日（毎月コレニ準ウ） ●奉仕作業 ●帰宅訓練 諸帳簿台帳類今週中整理 ●父兄名簿訂正 ●学級電話網ヲ作成 ●今週中家庭状況調べ完成	8	金		8	月		8	水	成績考査原簿作成
9	木		9	土		9	火	１，２，３年遠足	9	木	
10	金		10	日		10	水	時ノ記念日。国旗誕生会 ●コレニ因ム話ヲ各級デスル	10	金	
11	土		11	月	赤痢，疫痢予防ワクチン服用開始（３日間継続）	11	木	入梅 ●梅雨期ニオケル気象・動物飼育・衛生等ニ関スル指導開始	11	土	
12	日		12	火	６年東北２泊学習出発（佐藤・橘）	12	金		12	日	
13	月		13	水		13	土		13	月	
14	火		14	木	３年鎌倉江之島見学	14	日	夏季生活宿舎其他臨地出張計画	14	火	
15	水		15	金	創立記念日。休業	15	月		15	水	夏季集団鍛錬開始 ４年入舎
16	木	ツベルクリン反応試験開始	16	土	種痘接種（定期）	16	火		16	木	
17	金	身体検査ノタメ校医検診	17	日		17	水		17	金	
18	土	各級父兄会開催	18	月		18	木		18	土	
19	日	初等部全父兄会 ●理数教育ノ実際 ●集団訓練ノ実際 ●音感教育ノ断面	19	火		19	金		19	日	６年入舎
20	月		20	水		20	土		20	月	土用入リ
21	火		21	木	４年日光１泊学習出発（照井・原田）	21	日		21	火	

第 1 学 期													
日	曜	4 月		日	曜	5 月		日	曜	6 月		日	曜	7 月
22	水	5年相模川渓谷見学		22	金			22	月	夏至。太陽ノ位置オヨビ日照時ノ観測指導		22	水	3年入舎
23	木			23	土	青少年学徒ニ賜ワリタル勅語記念日		23	火			23	木	大暑。4，5年宿舎交替。4年退舎
24	金	6年北伊豆見学（佐藤・原田）		24	日			24	水			24	金	
25	土			25	月			25	木			25	土	
26	日			26	火			26	金			26	日	午後4時，3，2年宿舎交替
27	月	靖国神社臨時大祭半休業		27	水	5年箱根清水1泊学習出発（橘・照井）		27	土	夏季生活ニ関スル大体プランノ通知ヲ出ス		27	月	
28	火	全園職員会議		28	木			28	日	授業公開。劇ノ会		28	火	6年夏季鍛錬終了退舎
29	水	午前9時天長節儀式挙行。式後奉祝会		29	金	各級身体検査ノ報告発表		29	月			29	水	午後4時2年退舎
30	木	靖国神社祭。多摩丘陵～学校間駅伝継歩		30	土			30	火			30	木	
				31	日	1年父兄会						31	金	5年夏季鍛錬終了退舎

第 2 学 期													
日	曜	9 月		日	曜	10 月		日	曜	11 月		日	曜	12 月
1	火	二百十日。震災記念日。8時授業開始 ●運動場，学校園等ノ整備 ●台風季ニツキ栽培物ノ風水害予防設備 ●8月中ノ学習成績品展覧会 ●遠足学習ノ計画 ●季節気象・低気圧・天気図・ソノ他気象一般指導ノ好期		1	木	本月分学校諸会計		1	日			1	火	新1年入学願書受付開始。本月分学校諸会計
2	水	本月分学校諸会計		2	金	全体行動強歩訓練（御岳中心）		2	月	本日ヨリ午前8時半始業午後3時終了。本月分学校諸会計		2	水	
3	木	季節的伝染病ニツイテノ衛生講話		3	土			3	火	午前9時明治節儀式挙行。式後奉祝会		3	木	
4	金	10月25日体操会プラン完了		4	日			4	水			4	金	
5	土			5	月			5	木	4年筑波登山 6年関西見学ニツキ父兄会		5	土	
6	日			6	火			6	金			6	日	
7	月			7	水	4年足尾銅山方面1泊学習出発（照井・原田）		7	土			7	月	
8	火			8	木			8	日	立冬		8	火	興亜記念日
9	水			9	金			9	月			9	水	
10	木			10	土			10	火	国民精神作興ノ詔書下賜記念日。世界大戦平和克服記念日。陶器窯入レ		10	木	
11	金	ツベルクリン反応試験開始		11	日			11	水			11	金	

第2学期

日	曜	9月	日	曜	10月	日	曜	11月	日	曜	12月
12	土		12	月		12	木		12	土	
13	日		13	火	戊申詔書下賜記念日	13	金	担負徒歩鍛錬（多摩川沿イ）	13	日	
14	月		14	水		14	土		14	月	
15	火	5年富士岳麓一泊学習出発（橘・照井）	15	木		15	日		15	火	考査原簿作成
16	水		16	金	関西旅行中5年臨時時間割作成オヨビ教材決定	16	月		16	水	
17	木		17	土	神嘗祭	17	火		17	木	
18	金		18	日		18	水		18	金	
19	土		19	月	6年関西見学。6年父兄会	19	木		19	土	
20	日		20	火		20	金		20	日	
21	月	彼岸入リ	21	水		21	土		21	月	
22	火		22	木		22	日	各室ストーブ取付ケ	22	火	冬至
23	水		23	金	靖国神社祭	23	月	新嘗祭	23	水	皇太子殿下御誕辰 大掃除。学級事務・機械・備品・図書整備
24	木	秋分。秋季皇霊祭。劇ノ会（劇場）	24	土	初等部体操会	24	火	球根採入レ。今週中各級父兄会開催	24	木	終業式。通信簿交付
25	金	6年関西見学ニ関スル最後打合セ	25	日		25	水		25	金	大正天皇祭
26	土		26	月		26	木		26	土	
27	日		27	火	6年関西見学出発（佐藤・橘）	27	金		27	日	
28	月		28	水	5年大島見学（橘・照井）	28	土		28	月	
29	火		29	木		29	日		29	火	
30	水	3年大山登山	30	金	11月2日ヨリ午前8時半始業午後3時終了ノ通知ヲ出ス 冬季時間割編成 教育勅語下賜記念日	30	月		30	水	
			31	土					31	木	

第3学期

日	曜	1月	日	曜	2月	日	曜	3月
1	金	午前9時四方拝儀式挙行。式後奉祝会	1	月	本月分学校諸会計	1	月	本月分学校諸会計
2	土		2	火		2	火	
3	日	元始祭	3	水	節分	3	水	雛祭リ
4	月		4	木	立春	4	木	
5	火		5	金		5	金	中等部卒業式。6年参列
6	水	小寒	6	土		6	土	地久節。全体行動歩行訓練
7	木		7	日		7	日	
8	金	午前8時半授業開始 ●16日新1年入学児童銓衡ノ通知ヲ出ス	8	月		8	月	
9	土	本月分学校諸会計	9	火		9	火	卒業式招待状発送
10	日		10	水		10	水	
11	月	新1年銓衡ニツイテ打合セ	11	木	午前9時紀元節儀式挙行。式後奉祝会。卒業記念写真撮影	11	木	

8月中特殊指導要綱

1　この期間における児童の学習の大部分は家庭もしくは転住地先を中心として行われるもの故，詳細の案は別にこれを定む
2　日々の定行事一覧
3　水泳，登山，徒歩行の実施（個人――集団）
4　特に学校に召集せる児童に限り午前8時より10時まで劇の指導

第3学期									時刻		定行事
日	曜	1月	日	曜	2月	日	曜	3月			
12	火	ツベルクリン反応試験開始	12	金		12	金	卒業式当日事務分掌 母ノ会ト卒業式接待打合セ。成績考査簿作成。学年末行事オヨビ始業式ニ関スル通知ヲ出ス	午前	6・00	起床，体操その他の軽き朝の運動。家事手伝
13	水		13	土		13	土	初等部児童工作展覧会（13，14両日）		8・00〜10・00	定められたる学習。通信，作業，理科的実験，観察等。課題学習および調査
14	木		14	日		14	日	午前10時ヨリ新1年父兄会 ●入学準備説明 ●児童調査用紙交付 ●新1年ノ教育ニツイテ			
15	金		15	月		15	月			11・00〜12・00	ただし1，2，3年には別にこの期間用として編輯せるテキストをもって学習の一部に宛つ
16	土	新1年銓衡	16	火		16	火				
17	日	土用入リ	17	水		17	水				
18	月		18	木		18	木	彼岸ノ入リ			
19	火		19	金		19	金	午後大掃除			
20	水	大寒	20	土	卒業生記念文集原稿締切	20	土	卒業生送別学芸会・卒業式場・茶話会場・各控所設備（5年）卒業生茶話会			
21	木		21	日		21	日	春分。春季皇霊祭 午前10時ヨリ卒業式通信箋交付	午後	1・00〜3・00	娯楽，読書，工作，採集，標本作成。課題学習，課題調査
22	金		22	月		22	月	教室移動（新2年以上出校） ●新年度学習・行事ソノ他経営案作製完了 ●諸帳簿完成提出 ●新学期ニ関スル打合セ ●新学期諸準備 ●校舎校具等ノ修理整備		4・00〜6・00	体育。高き運動。身体清拭
23	土		23	火		23	火		夜		ラジオ聴取。天体観測。日記記入
24	日		24	水		24	水				
25	月		25	木		25	木				
26	火		26	金	卒業式挙行打合セ 学年末行事打合セ 3学期父兄会ヲ各級来週中ニ行ウ	26	金	東京市復興記念日			
27	水		27	土	卒業生記念文集編輯完了。印刷所渡シ	27	土				
28	木		28	日		28	日				
29	金					29	月				
30	土					30	火				
31	日					31	水				

★**この行事暦**は学習企画表，教科課程案，時間表などと機構的関連を保ちつつ，学習完成の重要な役割をするもので，子供たちの全生活と不可分のものであります。家庭においてもこれによって学校の教育経営1カ年の総見通しをつけ，それぞれに対応するのお心構えが必要です。

★**各家庭における**年中の生活行事も，この学校暦と相即し，機構し合うようご配慮あってこそ始めて教育が一如の完璧のものとなりましょう。

★**この表以外**にも単に学校側だけの分もありますが，直接に子供たちやご家庭に関係のない分は除きます。

★**なお随時の行事**が特発する場合も少くありませんが，それはその都度臨機の処置をとります。反対にたとえ暦表に記載してありましても日程を変えたり，加除されたりまたは同一のものを学年をかえて繰返したりする部分も出てまいりますからお含みおきください。

★**ともかくこの表**を通して学園の初等部が生きて動く1年間の全貌がわかっていただければ結構です。

2　入学式・卒業式

(1)　入学式

小学校第１回入学式　（大正13年）　〔20ページ参照〕

中学校・女学校第１回入学式　（昭和２年）　〔30ページ参照〕

新制中学校入学式　（昭和27年４月）

照井校長の言葉

今日から新らしい学期が始まる。誰の心にもすがすがしい楽しさが漲っている。

今年こそは去年の悔いをくりかえさないように計画的に仕事をすすめて行えと誰もが思っているにちがいない。

先生方もその陣容を新にして万全を期している。学科によっては時間を殖やしたものもあるし，先生の学科担任にも修正を加えてある。

君達も１年の目標をはっきりたててその日暮しでない学習をして行かなければならない。

特に期待をかけているのは３年生の皆さんである。上級生であった卒業生を送出して初めて自分たちの位置がはっきりしてきたことと思う。明星の教育活動の中心をなすものは１年・２年・３年と学年の段階こそあれ，すべては同等で平等で何等の差別的な義務は必要としない。誰に対してもお互に君であり僕であり，あなたであり私であってさしつかえない。先生に対しては信頼のできる先輩と思えばそれでよい。先生は生徒になくてならない手引であり弊害のない，尊敬すべき友だちである。この先生はゴマかさない。知っていることはトコトンまで教えるし，知らないことは知らないとはっきりいう。

新らしい１年の皆さん――君たちはこうした学校の中で３年の間ガッチリ楽しく生活することだ。これは君たちの生涯のうち一番幸福だったことは，やがて忘れない思い出となる日はそう遠いことではあるまい。自主自立の自治活動である。いわゆる明星学園会（自治会）の活動である。その主体となってこれをよく導いて行く努力と責任は一に３年の皆さんにかかっている。

２年にはまたおのずと２年の存在がある。天秤の支点となってよく上級生の仕事に協力し，同時

に新にメンバーに加った新1年を1日も早く正しい明星中学生となるように理解ある手引となってやらなければならない。

1年生は明星学園中学の生活としては全く未知の世界に，そして多くのあこがれを持って辿りついたばかりである。学校の気風——校風，気心の知れない多くの先輩——それ等の一つ一つに多少の不安はあるだろう。しかし心配はいらない。この学校には上級生の名のもとに君たちを迫害するような者は一人もいない。

新しい学期を1月にせずに4月にしたことは日本の賢明な制度である。物みなハツラツと伸び上る季節だからである。自然界も急に活気づく気節のスタートだからである。あの池の中橋を渡って学校の門をくぐるまで，まわりの風景を見ただけでも君たちを祝福しているように感じて胸をふくらましたろうと思う。

3年の皆さん，2年の人たち，1年生の胸にいだいて来た楽しい夢と輝やかしい希望に，いささかでも暗いかげを投げないことは，君たちの大切な友情であり，明星精神の培いである。しっかりやろう。幸いこの4月下旬には講和発効実現を外電は伝えている。そのこと自体は決してそのままでは幸福を意味しない。人によっては非常な国難に直面するだろうという。あるいはそうかも知れない。しかし若い魂にとって最もいまわしいことは，人の支配のもとに自由を束縛されることである。解放された自由なしにどこから幸福への道を見出すことがあろう。君たちは心の自由と環境の新鮮さの中に学生として悔いない生活をしてほしい。3年は最後の1年を，2年は次の2年を，新入生は未来の3カ年を——私たちは常にそうした君たちとともにあることを生涯の幸福とするものである。

——中学1年　昭和27年4月——

1組　男15・女22　計37　担任　恩地　邦郎
2組　男14・女23　計37　担任　染谷　誠一
1年副主任　吉川喜美代

新制高等学校入学式　(昭和30年4月)

上田校長の言葉

新1年生を迎えて——

君たちはこれから3年間ここで高校生活を送ることになるのである。私は今後次のような平凡なことを機会あるごとに幾度も幾度も繰返し繰返し述べるでありましょう。平凡だといって馬鹿にしてはいけない。どんなに繰返しても繰返し過ぎるということはないと信じる。君たちがここで学ぶ



明星学園第１回卒業（小学校） 明星学園の総領ともいうべき第１回卒業生（14名）担任 山本徳行・昭和３年３月21日卒業式挙行

ものは，社会科であれ，数学であれ，美術であれ，家庭科であれ，それらはすべて君たちの血となり肉となるものである。すべて滋養に富み，やがて君たちの人間形成のうえに必要欠くべからざるものばかりである。

ただ注意すべきことが２，３ある。まず第１に摂取したものを良く咀嚼すること。よく咀嚼せずに丸呑みにすると必ず下痢を起すであろう。下痢を起したのではどんな滋養物をとっても血とならず肉とならないのである。先生に何もかにも教えてもらうことは滋養物の丸呑みである。よく咀嚼するということは自分で考え自分で学ぶことである。「星雲時代」の前号である生徒が高校は自分で学ぶ所だと書いていたが，そのとおりである。何もかも教えてくださる先生を親切な先生と思ってはいけない。先生の仕事は君たちの道案内である。しかも先頭に立って君たちを案内するのではなく，うしろから見て行くのである。右に回るのを左に曲った時に注意するだけである。あくまで君たちが自分で考えて自分で進むのである。君たちは次のたとえ話を知っているであろう。われわれは１人で馬を水ぎわに連れて行くことはできるが10人かかってもその馬に水を飲ますことはできない，その馬自身が飲む気にならなくては。本当の意味の勉強をしてくれたまえ。そうでないと何ごとも解決されないのである。

――新制高校１年　　昭和30年４月――

１組	男12・女20	計32	担任	角舘　喜和
２組	男11・女21	計32	担任	横川　　武
３組	男13・女20	計33	担任	堀　　淳二

(2) 卒　業　式

小学校第１回卒業証書授与式　（昭和３年３月21日）

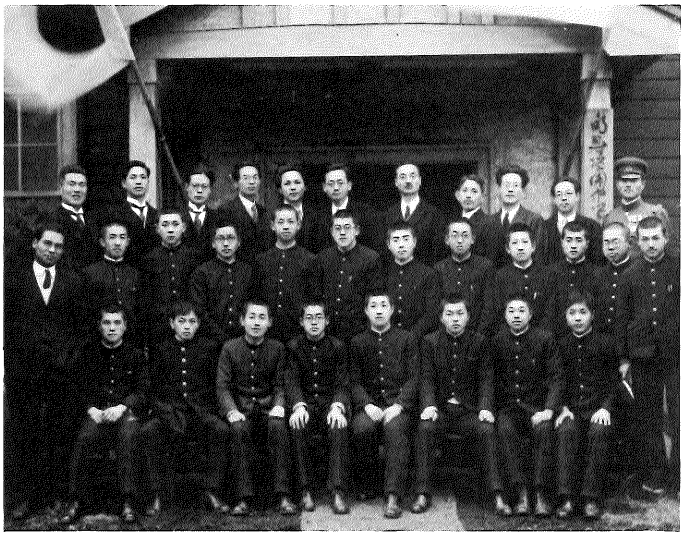
中・女学校開校認可願は，東京府を通って文部省へ行っており，文部省では秘書課長赤間・普通局長武部欣一が列席してくれたので，大きな気持で卒業式をあげられた。後援会会長岡崎栄松・顧問山之内兵十郎など参列す。

昭和３年３月21日，第１回の卒業式をあげた。男14・女13であった。最初９名で出発したのであったが次第に増加し，途中転学のものもあったが，これだけのものを小学部の第１回生として送り

出されたのは実に愉快であった。学園の最上級，兄・姉分として善いにつけ悪いにつけ，よく議題になったものであった。恐らく同人のすべてが関心を持ったこと，この組ほど多いものはなかっただろう。赤井自身もこの組ほど親しくしたものはなかった。私の宅によく泊りに来たのもこの組であった。日曜日に有志のものと遠足を試みたのもこの組であった。家庭における長男・長女というものに対する父母の心づかいもこうではなかろうかとも考えられた。あまりに気を遣い過ぎて児童等のためにならないところもあったかもしれない。最上級最上級と無理な要求もせられたかも知れい。早くから大人扱いをさせられたかも知れない。とにかくにこの組の卒業くらいまたれたものはなかった。この組の進みとともに種々の経営上の仕事，校舎の増築や備品の充実が計られたのであるから，これ等も無理からぬことであった。それがいよいよ卒業した。ほんとに嬉しかった。その日は彼岸の休みの日，暖い好天気であった。山本君が学級主任として学事の報告をなし，ここで證書を渡して私はこういった。

「4年前のこの頃私どもがここに学園建設の仕事にかかった時には,ここは麦畑であった。この頃あちこちの麦畑に見えるような3，4寸の麦が，ここにも作られていたのであった。私どもは，校舎を建てるにはまずその麦をとって地均しをしなければならなかった。私は人夫の人々が麦を取除いているのを見て，空恐ろしい感に打たれた。一つは百姓の人々がこれまでに丹精したものをむざむざと取り棄てることが，その人々に対してまことに済まないことだと考えられたのである。いま一つは，この麦が実ればそれで幾人かの生命をつなぐことができる。その麦を取棄てるということのもったいなさであった。

昔ある名僧が便所で飯粒を発見して，それをもったいなく思って塵を払って押しいただいて食ったという話もある。かかる貴い食物を私どもは取棄てるのである。私はこれは何か大きな罰が来ないではすまないような気持がした。これは非常に大きな収穫をして，償をしなければならないと考えた。人々の食う糧は作れないが，人そのものを造ることに努めなければならないと考えた。しかし，それから後春来るごとに，他の畑には麦が青々と生じ，夏来るごとに黄く実ったが，私どもの学園には実りがなかった。私はいつも淋しい気持で私どもの収穫は何時かと今日の日を待ちに待った。しかしついにその日がきた。私の心は今漸く平になった。慶び限りない。しかしこの実りは如何であろうか。豊作か不作か。それは全く君たちの今後の生活如何にある。どうか大きな実りであって欲しい。昔から初穂は神に献げるのがならわしである。私どもの学園も初穂なる君たちを神に献げなければならない。君たちも献げられた身であることを記憶して，身も魂も清く保ち，大君とこの国と，この国の人々に奉仕していく人となって欲しい。……」



旧制中学校第１回生卒業（18名，昭和８年３月３日卒業式挙行）

それから来賓栃内海軍中将・父兄総代岡崎栄松の挨拶があって式を閉じ，つづいて卒業生だけの学芸会を催し，別室では卒業生だけの展覧会をした。会が終って，母の会の人々の手製のご馳走で卒業生を中心に一同立食，歓喜のみなぎる会であった。

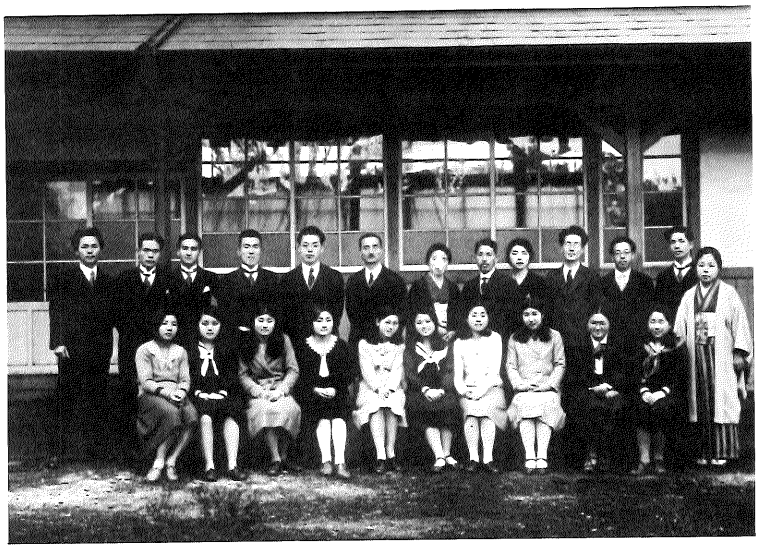
中学部・高等女学部第１回卒業証書授与式（昭和８年３月21日）

赤井校長の式辞

本日ここに本学園中学部･高等女学部第1回卒業証書授与式を挙行いたすに際しまして，多数来賓各位のご臨席を辱くいたしましたことは，本学園の最も光栄といたすところでございます。両校開校以来5年，本日漸く第1回の卒業生を出すことができるようになりましたのは，各位が平素深甚なご同情と懇切なご指導を賜りましたお陰でございますので，このさいに更めて感謝の意を表したいと思うのであります。顧みますれば，大正13年５月，若葉風薫る頃，私どもはわが国の教育改造の理想を描いて，この井の頭の一角に細やかな小学校を設立しまして，尋常1,2,3年21名の児童を得て開校したのであります。

その最上級なるものが小学校を卒業しました時，この小学校の教育方針をさらに延長して青年の教育をなす適当な中等学校が求められませんので，この中学部・高等女学部を設置することになりまして，中学部18名・高等女学部14名を得て，昭和３年４月開校したのであります。本日卒業いたしましたのはこの２組で，多数は本学園小学部からここで学び，この森の中，野原の間で成長したのであります。学園の校舎・備品等は各位のご覧のとおりまだ未完成の状態にあります。さらに私どもの教育理想も完全に実現する状態になっておらんことを素直に告白いたさねばならんと思います。

しかし過去９カ年は，これが完成への不断の努力であったことだけは敢て公言しうると信ずるものであります。しかしてこれは所謂学園当時者なる教師のみの努力であったのではなく，生徒およびその父兄の全く一体となった努力であったのであります。所謂「馬疲るれば人助け，人疲るれば馬助くる」の態度で，教師の行詰りを生徒・父兄助け，生徒・父兄の苦しみは教師慰め，互に相倚り相頼れ，できたのであります。したがって，われわれは世間の所謂師弟ではなく，新しい学園建設の同志として，しかして新しい社会建設の一団の生活体を組織してきたのであります。しかして私どもの歩んできた道の嶮岨であっただけ，われわれの間には真実な「フレンドシップ」か「フェローシップ」を造りえたと信ずるのであります。殊に，本日卒業いたす２組は，私どもの長男・長女として最もその労苦を分ってくれましたので，これをいよいよ世に出すにあたって実に無量の感を懐くのであります。しかし，思い出の国においては過ぎ去った苦しかったこと，悲しかったこと



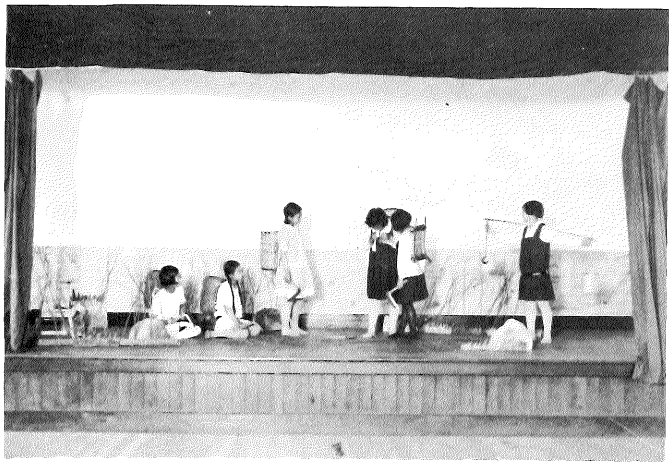
女学部第１回生卒業（10名，昭和８年３月３日卒業式挙行）

が，すべて美しい姿を呈して甦るものであることをご存知の各位においては，私どもの慶びがその苦悩と十分に比例するものであることもご了解くださって，今ともに慶んでいただけるかと思うのであります。

９年の間，井の頭の花は春来るごとに同じ色に咲き，同じ姿で散り，ただ一様なことを繰返していたようでありますが，今年１学級増加し，来年１教室新築し，自ら生活しつつ自らの成長を知りえ，年々に新たなる心境をもって進んできました私どもには，同じ花の色も常に新しい刺戟と教訓を与えてくれたのであります。この間に成長してきました今回の卒業生は，すべての不完全さにかかわらず，そのためにかえってより大切なものをえているように思いまして，これをご報告申しあげることを慶ぶ次第であります。

次に父兄・母姉各位には，創立匆々のわが学園にご子弟を寄せられ，教育経営に対して絶大なご援助と申すよりも，協力をなしてくださったことを深く感謝いたします。各位がもし世間普通の学校に子弟を寄せられたのでしたら，これほどまでもご苦労はなかっただろうにと，今さらながら恐縮に堪えない次第であります。が，私どもはかようなご苦労を願うことがご子弟のためのみならず，各位ご自身のために善いことであると確信いたすものであります。

私どもはここで生徒を教養いたすとともに自らの研究・修養を重ねたいと念じていました。生徒の進むとともに私どもも進まねばならんと考えていました。私どもの指標なる「日に進み，日に新にす」は生徒への戒めであるとともに私ども教師の戒めでもあると信じているのであります。と同様に，父兄・母姉各位もここに子弟を寄せられるとともに，も一度児童となり，青年となって何物かを学ばれんことを，所謂再教育せられんことを希望したのであります。もちろんこれはあえて学園教師が各位をご指導申しあげようなどと自惚れたのではありません。各位がその子弟の教育に関して真実であられるならば，そして空しい心をもって彼等の成長を見守られるならば，あるいは学習しつつある生徒たち以上に大なるものを各位の修養のうえに得られようかと考えたのであります。所謂「愚人は賢人より何物も学ばず，賢人却って愚人より多くを学ぶ」の意味においてここはまた父兄・母姉各位の教育道場たらんことを希望したのであります。この意味において各位の絶大なるご協力がこの学園の教育に大なる寄与のあったことを感謝いたすとともに，各位も多くのものを収穫せられたに相違ない，各位も今日ご子弟とともに１期の卒業に到達せられたのだとあえて申しあげることは，ご承認願われるかと思うのであります。



女学校の学校劇　安寿と厨子王　卒業記念学芸会（昭和８年３月６日）

最後に卒業生諸君に告げます。諸君の９年，あるいは５年の学園生活もいよいよ終りを告げました。小学校が21名をもって始まり，中学校が18名，女学校が14名をもって始った時から，諸君は常に最上級として，学園生活のリーダーとして良く努め，純真なる校風の樹立に尽してきたことを嬉しく思います。このことは多くの弟たちのために慶ぶべきことであったが，またそれは諸君自身のためにも良いことであったと思います。さらに諸君は今後においても学園のリーダーであるのです。諸君は今からさらに上級学校に，または実務に新しい道を拓いて進むのであるが，弟たちはまたリーダーの道に従って進むのであります。永遠のリーダーとして学園の長男・長女としての自覚をもっていよいよ努力して欲しいと思います。したがって今日ここで卒業式を挙げても，これは諸君とわれわれとの別れを意味するものではありません。われわれと今日から却って新しい結合にはいるのです。諸君はここを出て他に行く時，行く処が遠ければ遠いほど，却って思い出の生活はより屢〻この学園に帰って来るであろう。われわれ学園に留まるものは，大なる期待と思慕の情をもって諸君の出て行く先きへついて行くのである。こうしてわれわれは日夕ともに生活していた時には，却って知りえなかった互の友情を知り，一層堅い協力の生活にはいるのであります。諸君の帽子の徽章は今日限り明星のそれでなくなっても，諸君の魂に印した明星の徽章は，いつまでも如何なるところにおいても燦然たる光輝を発し，やがて善き国民・社会人たらんことを。

これをもって今日の式辞といたします。

新制中学校卒業証書授与式　（昭和27年３月21日）

３年	１組	男21・女25　計46	担任	山岡　幸子・榎本　法達
３年	２組	男22・女24　計46	担任	原田満寿郎・小笠原良一

照井校長の言葉

ご列席の父兄の皆さまに申しあげます。

３年の間どうやら無事に育てあげ，ご覧のとおり身も心も清らかに成人した92のお子さまたちを，この式場でこうして再びお手元にお返しすることのできますことは，学園の大きな喜びであり，また誇りでもあります。ひとえに皆さまの学園に対する深いご理解と先生方の倦まざる努力の賜物と厚く厚く感謝いたします。人生の第一関門ともいうべき青年前期をことなく通過したこの人たちではあるが，その前途にはさらに個人的にも社会的にも，まだまだ数々の試練をうけなければなりますまい。ましてや現代のような複雑な国際情勢の中にあっては精神的にも肉体的にも，深刻な悩みを克服しなければならないことは，大人のわれわれ以上のものがあるかもしれません。深い同情と

理解をもってこの世紀の若人の前途を祝福し，激励していただきたくございます。

次に卒業生の皆さん，ここ3年の間時に臨み折に触れて，この壇上から話しつづけてきた私の一千一夜の物語りも，これからお話しする二つの物語りを最後に，いよいよ終を結ぶことにしよう。一つは永久に若くあれということ。その二つは何を身につけて学園を巣立ちするか——この二つについてである。

今私は君たちの姿をこの上からこうしてあかず見直している。単に別れを惜む気持からだけではない。君たちを見ていると，5月の若い鮎があのなめらかなすっきりした姿を青葉かげにおどらして渓流を上へ上へとひた向きに上って行く姿さながらであるからである。私は失った過去を君たちによってとりもどすことのできたような喜びを感じて，今さら教育という仕事を自分の職業にえらんだことをしあわせだったと痛切に感じている。大人にとって何よりも羨ましいことは君たちのその若さである。どんな場合にも自分を活かそうとするその若さである。清い流れを求めてひた向きに上りつめる若鮎の持つその若さである。

君たちの純情はおそれを知らない。どんな権威に対しても常に卒直に自分を主張できる。どんな困難にも常に勇敢に，いささかのためらいもなく体当りで行ける。その真剣さ——君たちとともにいると，むせるようなみずみずしい魂の新鮮さを感ずる。その若さである。そこから次の世代が生まれることを大人は待ちこがれている。だからといって君たちに次の時代の責任を持てというずるさからではない。大人の切実な期待をすべてその若さにかけているということである。君たちの屈託のない，のぞみに充ちた顔を見ていると，大人のわれわれには何がなしに郷愁のようなものを感ずる。羨ましいのだ。大人の社会にはいろいろな煩わしい現実の障害がある。誰も望みもしない，欲しもしないことにお互に悩み合い苦み合っている。君たちから見ればわかりきったこと，わり切れることをわり切れず，わり切れずにもだえているのは大人である。

君たちの判断は二つの言葉，イエスでなければノー，善でなければ悪，そうしたことは，家にもある，学校にもあったろう。あらゆる社会・民族と半径が広がるにつれて，そうした面倒はますます複雑さをまして行く。こうした世相というか，世の中というか，常に，君たちの貴重な若さをとり巻いている大人の世界，これから君たちがどうでも通抜けなければならない環境である。そこに問題がおこる。この時代に生れ，希望をもってこの環境を生きぬこうとする君たちにとって，納得の行かないことのいかに多いかを私たちは十分察することができる。大人から見てそれは若い命の生成の姿である。君たちの誤解も多くの場合そこから生ずる。歯がゆい意気地なささえ時に大人は感ずる。しかし君たちは何でもかんでも無条件で甘やかされていいと言っているのではない。君たち



新制高校第１回卒業生（昭和24年２月28日卒業式挙行）

がいろいろな問題に突きあたった時，１人の判断――１人の解決に迷った時，大人が長い苦難の中に悟った生々しい体験に聞くことはないか，より高いもの，より尊いものを大人の世界に求めるし，君たちにとってはやり切れないいらだたしさであろう。それは単なる不平とか不満とかではなく伸びていく者にとって絶えず必要とする要求である。栄養であるにちがいない。若い魂の生活は満たされない欲求の連続である。求めてやまないのである。君たちのそのあくなき欲求，その言い分をできることならそのまま受入れてやらなければならない。大人のなやみはそこにある。願いはないか。それはあっていい。なければならない。

この二つは若い君たちの成長に必要な促進と調節を与え，正しく導き，永遠の若さを失わせない必要なビタミンである。ホルモンである。肉体の若さには自然と限りというものがある。白髪童顔などという言葉もあるが，黒髪紅顔の皆さんではありえない。だが精神は常に若く，いわゆる老いて益ゝ盛んであることができる。エジソンは1931年84歳の彼の生涯をおえるまで，実に数えきれない発明をして人類に貢献したが，死ぬまで青年のように元気で朗らかだったという。生活年齢が年老いても魂の成長は常住若々しさを保つこともできる。孔子はいっている。「憤を発して食を忘れ，楽でもって愛を忘れ，老のまさに至らんとするを知らず」本居宣長は終生狭ぐるしい4畳半にこもって不朽の大著述を残した。それがこういった。「人は私を学者というならそれは当らない。勉強家だというなら，あるいはそうかも知れない。」すべて信念に向ってたゆまず努力をつづけるところに永久の若さがある。君たちはその再びめぐりこないその若さを大切に守るだけでなく，永遠に老い朽ちない努力を怠ってはならない。

第２の話，君たちが３年かかって身につけたであろう明星の教育を，改めて言葉にまとめてあげよう。

一つ，個性尊重によってめいめいの天分を培われ，学びとった知性をどこまでも高くのばせ。真理を追求し，正義を愛好してやまない人になれ，常に正しくあれ。

一つ，自主自律の学風によって鍛えあげられた不撓不屈の意志力を生かし，人道のために勇敢に戦い抜け。倒れてなおやまない意志をもって最後まで強くあれ。

一つ，自由平等を社会生活の鉄則とし，自らを生かし人をも幸福にさせることのできる豊かな情操の持主，どんな環境にあっても太陽の如く，たえず光と熱を周囲に与えることのできる明朗闊達な人格者となれ，常に朗らかであれ，強く・正しく・朗らかに――この矚を深く胸にひめて，元気

に巣立ってほしい。まもなく蛍の光の合唱とともに 200の在校生の目が静かに君たちをドアの外に送り出すであろう。　　左様なら。

新制高等学校第１回，旧制中学校・女学校17回卒業証書授与式　（昭和24年３月５日）

上田校長の訓辞

本日，本学園の新制高第１回卒業式ならびに旧制中・女第17回卒業式を挙行いたしましたところ，父兄・母姉各位にはご多用のところお差し繰りご参列を得まして厚くお礼申しあげます。

今回は新制高校としては最初の卒業式であり，旧制中・女としては最後の卒業式となるのであります。

ただ今卒業証書を渡しましたのは，高42，中・女13計55。55の中で本学園小学部出身者は約３割。中・女に入学して今日に及んだもの５割。あと２割は中・女に途中転入学したものであります。いずれにしましても55名全部は11カ年ないし12カ年の学校生活を終ってここにひとまず高等普通教育を卒えたことになります。その間における父兄・母姉各位のご心労お骨折に対しては，心から敬意を表するものであります。

次に新しく卒業した諸君に一言します。諸君は満州事変が突発した少し前に生れたのです。そして小学校にはいった頃に日支事変が起り，第１回生が中・女にはいった時，すなわち昭和18年４月は大東亜戦争の最真中であったのです。思えば諸君はまことに千変万化の世の中に育ち戦争っ児として育ってきたのであります。18年４月といえば「ガダルカナルの転進」という戦争開始以来始めて不安と焦燥を思わせた時期であります。したがって個人も家庭も，また社会もまことに落着きのない時期でありました。

学校における勉強からいっても基礎的修練をなす大切な時期が空白となり，不都合なことがかなり多かったのです。その間に勤労動員となってある工場に出動したのです。今日も空襲，明日も空襲，終戦にいたるまで空襲の連続でありました。思い出してもあと味の悪いもの。

終戦になりますと教育制度の改革が始まって所謂６・３・３制が実施されましたが，馴れない仕事のために諸君に随分迷惑なことも多かったと思う。かくしてついに６・３・３・４が不完全な形で開始されようと曲りなりにもするときに卒業となったのであります。その点はまことに気の毒に思う。しかし，一方からいえば，かかる時代に生れ会って今までかつて人のうけない尊い経験を積んだことにもなるのである。

次に私は勤労動員のことを思い出して見たいと思う。もっとも，女子生徒は学園に疎開してきた工場で働いた関係上，被害は僅少であったと思うが，男子生徒は２年から３年という身心ともに大きな変化を受ける時期に際会しましたので，両親はもちろん，学校としても実に心配の種であった

のです。その間学級主任として船山先生は一方ならぬご心労をなさったものである。諸君は先生のこのご心労を忘れてはならぬものの一つとしておかなければならぬ。思えばそれはもう4年前のことである。諸君は工場で何を見たか，何を学んだか，もし諸君が暗いものを見，空虚なものを見，あるいは虚偽を見たとしたならば，それによって諸君の純真さ，誠実さを減退したり，消耗したりはしなかったろうか。とにかく諸君は何かしら学生らしいものとは別のものを身につけて学校に帰って来たと思う。このしこりは今日に至る4年間ですっかり奇麗に洗い去られたであろうか。もちろん私は諸君がもとの純真な朗かな明星児に還元したとも思うし，また当世男女共学が実施されたため相互の協力によってそのしこりがとれてきたようにも思う。しかし本日卒業に際し，諸君は改めて手を胸にあて，自己反省を試みることを忘れてはならないと思う。

諸君，純真であれ，ヒネくれてはいけない，誠実であれ，ゴマカシてはいけない，真実であれ，嘘をいってはいけない，真実にものを考え，真実にものをいい，真実にことを行えよ。今日の日本は何もかも不足だらけであるが，真実な人間が一番不足していると思う。これまで私どもが諸君に形式とか体裁というものを比較的やかましくいわなかったのも，内に純真さ，真実さを失わせたくないがためであった。思えば今，日本は甚しいドン底にいます。国破れたりといえども私どもは限りなくこの国を愛さなければならぬ。そして再建しなければならぬ。その再建を荷負うものは諸君よりほかにない。諸君は今日卒業して実社会に働くものもある。また上級の学校に学ぶ者もあろう。諸君希くは如何なる部署についても真実を持ち，誠実を持ち，全身を打込んで努力してもらいたい。どの道に進んでも現在の世相は生やさしいものではない。努力がなければ実行はできない。学園が諸君に期待するもの，しかして国家が諸君に期待するものはこれであると信ずる。

以上をもって卒業生に対する学校長の式辞とする。終り。

卒業式式次（新制高校第1回卒，旧制中・旧制高女第17回卒）

於小・中学講堂，昭和24年3月5日午前10時から

1　修礼
2　卒業証書授与
3　学校長式辞
4　理事長祝辞
5　在校生総代送辞
6　卒業生総代答辞
7　合唱　1　Auld Long Syne
　　2　別れ
　　3　さようなら
8　明星学園行進歌
9　修礼

新制高校第1回卒業生　42名
旧制中学校第17回卒業生　2名
旧制高等女学校第17回卒業生　11名



小学部卒業送別学芸会　（昭和９年３月17日）

送別の言葉　　在校生総代　　柴田芳男

新制高等学校第１回卒業生の皆さん。また旧制中学校・高等女学校の課程を終えられて卒業される皆さん。私たちは皆さんを兄とし，姉とし，また友としてこの武蔵野の学舎に過してきましたが，今やいよいよお別れの時がまいりました。

次から次へと走馬燈のように数々の思い出が浮んでまいります。明星の初等部に入学されてから，永い方は12年，多くの方は５年，６年の学園生活に実を結んで今日の卒業式を迎えられました。心からお喜びを申しあげると同時に，２度とこの生活をともにすることのできないお別れの悲しみが私たちの心を複雑にしております。思えば本当に長い苦難の生活でした。悪夢のような戦争に端を発した苦難への第一歩。そして遂に学生の本分たるペンを捨て，生産陣の第一線に飛込んだこと。こんないやな苦しい生活の連続が，歴史のうえに足跡を残したことがまたとあってよいことでしょうか。

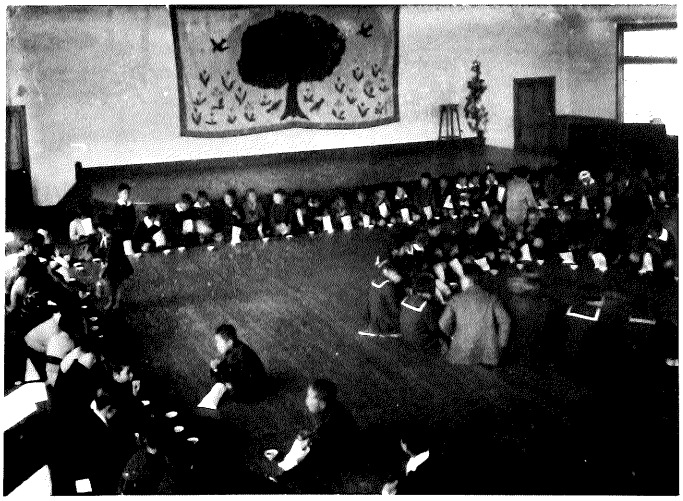
平和の鐘が鳴り響き，そして人々の心に春がよみがえり，民主文化国家の建設を目ざして発足した日本。しかし私たち生徒にとっては社会の風は荒く，冷くまた学校制度の改正等，皆さんもどんなに落着きなく毎日毎日の生活を過されたことでしょう。皆さんはこの困難な生活を乗越えて今日卒業の栄を迎えられました。しかし皆さんの将来はなお多事多難なことと思います。校長先生は常に私たちを「平凡の偉大」という言葉で導かれております。どうかこのお言葉を胸に秘められて，明るく未来に希望をもって雄々しく出発されんことをお祈りいたします。楽しい思い出，悲しい思い出がお別れにあたって眼に浮びます。でもお世話になった数々の思い出は，永久に私たちの胸に残ることでしょう。本当に長い間いろいろと有難うございました。いよいよ最後のお別れです。春色濃き晴れの祝いの今日の日に，残る私たちは皆さん方の今後のご健康とご幸福を心からお祈りしつつ，お別れの言葉といたします。

卒業生送別学芸会　（昭和９年３月21日）

卒業生送別学芸会――プログラム――

暖い陽ざしの３月17日卒業生を送る学芸会を講堂で開催しました。

1	合唱	「かえりましょう」「ひこうき」	１年　全体	10	舞踊	「飛躍」	６年　福原
2	独唱	「きのこ取」「兎さん」	３年　高橋,西野入	11	合唱	「４匹のお馬」「くりから谷」	３年　全体
3	合唱	「春風吹けば」「秋の田家」	４年　全体	12	独唱	「軍馬隼号」	５年　横川
4	ピアノ	「支那のちょうちん行列」	５年　森	13	合唱	「みかん船」「愛国の歌」	６年　全体
5	舞踊	「すずらんの歌」	３年　有志	14	ピアノ	「露のワルツ」	５年　岡
6	合唱	「うぐいす」「那須の余一」	２年　全体	15	舞踊	「春」	４年　有志
7	独唱	「電車ごっこ」	１年　明吉	16	独唱	「兵隊さん」	１年　久保田
8	合唱	「梅」「山彦」	５年　全体	17	合唱	「朝のうた」	４年　大津・武井
9	ピアノ	「猟の歌」	４年　恩地	18	独唱	「雀のお使い」	２年　照井



小学部卒業送別茶話会　卒業送別会のあと6年生を囲んでの茶話会
（昭和9年3月17日）

19　ピアノ「行進曲」　6年　田中
20　舞踊「煙のおどり」　5年　有志
21　独唱「雁」　3年　林
22　独唱「灯台守の娘」　6年　福原
23　舞踊「あの山かげ」　6年　有志
24　合唱「湖上の月」「この君この国」　5・6年　女

第7回卒業生男15名女13名中，その大部分は本学園の中等部にそれぞれ入学いたしますが，家庭の事情で他の中等学校へ入学する子供も若干あります。

酒井平一　武蔵高等学校尋常科
斎藤　享　東京市立第1中学校
上田八郎　中野中学校
北村敏子　日本女子大付属高等女学校

3月の日誌抄

3月16日（金）　本日にて授業打切り
3月17日（土）　9時半から卒業生送別学芸会，茶話会開催
3月19日（月）　大掃除，式場準備
3月20日（火）　卒業生成績陳列
3月21日（水）　第7回卒業証書授与式挙行
3月22日（木）　教室移転

3　登山・遠足・修学旅行　（戦前）

(1)　学園の教科外学習と登山・遠足・修学旅行

登山・遠足・旅行である限り，学習の助成として若しくは延長として，さらに必要な学習それ自体として計画されるものである。興味本位の行楽とははなはだ本質を異にするものである。

小学部の登山と集団徒歩・見学と旅行　見学・旅行・登山・集団生活その他，直接教科課程以外の一般学習は，狭い教室学習の徹底と拡充に必須のものであることについては，絶えず声を大にして父母側を教育してきた。そのためには詳細綿密な遠足・旅行・見学の系統案も学校行事表も毎年4月早々に配布して，小学部の総父母会を開いて十分承知してもらったものだ。集団生活の指導，社会生活への訓練は，当時の小学部での学習の原拠として重視してきた。したがって遠出の見学学習の中でも現代文化の総合所産としての生産・配給・消費・交通等の経済活動への理解に重点をおき，それらは当然つきまつわる史的文化・地理的地域性等の考察はもちろん，新に考うべき社会道徳の実践および心身鍛練の機会等を巨細に吟味し，把握し，これをもって1系統の教案を立案し，



富士登山　小学部5，6年生　麓の竜宮ホテル前で出発用意完了（昭和2年7月）

あらかじめ遭遇すべき問題は，学校において綿密・周到な学習を遂げ，しかる後に児童を現地に連れ出したものである。したがって連れ出された彼等は，その都度現地において一々彼等の学習に引きあててその妥当性を探究し，新な疑問と発見を構成し，解決し，正確な知識と深い印象を蓄えて帰るが，学習はそれで終ったのではなく，帰ってからさらにこれまでの過程を総括的に吟味し整理し，次の学習の基底として積みあげられていく。しかもそれ等のすべては活きたままの社会の中で生々しい必要と必然のもとに，その法則を生活し，逐次に彼等の生活を向上発展させていく。

もちろん児童のことであるから，大人のそれのように，まとまった観察を持帰り，これを父母に報告することは困難であり，質問に対しても頗る断片的で不徹底のものは免れないところであるが，彼等が向けられた眼，立たされる方向さえ誤っていなければ，この記憶と印象は以後たゆまぬ指導と屢〻なるそれへの訓練を繰返すことによって立派に効果をあげていく。「たゆまず繰返す」これが教育の真義であって決して一度性のものではない。次第に高められていく新しい把握への繰返しこそ真の教育である。1団の児童が家と学校を離れて移動する。さらに幾泊かを外で過す……これだけでも一通りならぬ配慮と手数が加えられなければならないもので，よし児童には多分猟奇的興味の伴うことがあるにしても，引率の教師にとっては全く命がけの仕事である。学習の効果と十分に収穫しようとする油断のない努力のほかに，カスリ傷一つつけずに幾十かの生命を無事に家庭まで送り届けるまでの心労は並大抵のものではない。

のんびりした学校……暢気な学校，年中出歩く学校……自由な学校，などという言葉か，意味で呼ばれたり，考えられたりすることは心外である。必死な学校……油断のない学校，活きた学習をする学校……厳粛な学校，この言葉にあたるような児童たらしめようと努力をつづけていた。昔は10人が10人地歴を嫌い，地歴はわからない暗記科目だったということを，当時直接父母の方から伺ったが，私たちの児童は 100%地歴を愛好したものである。教室だろうが，外だろうが，家庭内だろうが，街頭だろうが，いやしくも児童の生活する所に教育がある。ここでとりあげているのは，教室学習以外の学校行事のうち，現地調査を主体とする見学，総合学習としてやや規模を拡げた旅行，心身の練成を目的とした登山・遠足・集団歩行であって，それぞれ詳細に述べることはできないので，遠足見学旅行の下記の系統表と行事暦をもってその全貌を概括する。



富士登山．小学部５，６年生（昭和14年７月）

(2) 小学部遠足・旅行・見学系統案 （昭和10年５月）

	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	6　年
4月	井の頭公園 井の頭動物園 汽艇回遊	多磨墓地公園 往　徒歩 復　電車 東郷大将其他偉人ノ墓参	狭山丘陵 村山貯水池 山口貯水池	帝大臨海実験所 付属水族館 （三浦半島油壺） 網代城跡	多摩聖蹟 鳥獣試験所 （京王電車，南武電車） 多摩丘陵ヨリノ展望 分倍河原関戸ノ古戦場	北伊豆ノ史蹟 三島・北条・韮山 （１泊ナラバ修善寺泊リ） 鎌倉ノ史蹟めぐり
5月	大宮公園（西永福） 東京市水道濾過場 （武蔵境）	製氷工場 アイスクリーム工場 清涼飲料工場	国定教科書工場 （王子） 天象儀	隅田川ノ橋梁 （関橋ヨリ 王子マデ） 中央魚場 同　青果市場 （築地）	花王石鹸工場 加藤ガラス工場 日日新聞社	陶磁器工場 （大倉陶園ー 雑司ケ谷） 王様クレヨン工場 （池袋） 東京青果市場 （秋葉原）
6月	豊島園 村めぐり	植物園（小石川） 村めぐり （筍山・養鶏 養蚕・田植）	鎌倉ト江ノ島めぐり 村めぐり （養蚕・養豚・田植） 養蜂園	箱根・清水・熱海１泊旅行（小田急回遊利用） 日光・中禅寺１泊旅行（東武線利用） （４，５合同，１年交替）	箱根・清水・熱海１泊旅行（小田急回遊利用） 日光・中禅寺１泊旅行（東武線利用） （４，５合同，１年交替）	日立鉱山 水　戸 水戸城趾・常磐神社，偕楽園（日帰リ）
7月	立川飛行場	府立農事試験所 立川養豚場 立川飛行場（陸軍） 夏季生活　３泊４日（学校宿舎）	軍港（横須賀） 軍艦ノ内部 三　笠　艦 追浜飛行場 夏季生活　４泊５日（学校宿舎） 夏ノ天体観測	商港（横浜） 旅客汽船 税関其他港ノ設備 野毛山公園 船舶信号所 生糸検査所 夏季生活（海）９泊	浦賀造船所 久里浜（ペリー上陸地） 観音崎燈台 走水神社 夏季生活（海） ４年ト同ジ 昇仙峡行	船橋無電局 国府台古戦場 下総国分寺趾 真間手古奈祠 沓掛明星学寮（山） 夏季生活 浅間・妙義・小諸・碓氷・善光寺



富士登山　吉田口登山道　この道を登っていった
（昭和13年７月）

	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	6　年
8月				10日 千葉県　瀬戸 白浜燈台・小湊 誕生寺・水族館 ・安房神社・館 山航空隊 高尾山ヨリ与瀬へ （有志・日帰リ）	（有志夜行 翌日帰リ）	日原鍾乳洞（有志） １泊
9月	善福寺池 貯水池 水　源 武蔵野ノ湧泉	深大寺 武蔵野ノ湧泉 鱒ノ養殖	三鷹天文台 武蔵野ノ湧泉ト山 葵ノ栽培場 鱒ノ養殖 深大寺 深大寺城趾	先住民族遺跡 （草花村） 玉川上水取入口 （羽村）	武蔵国分寺趾 府中大国魂神社 武蔵国府趾 分倍河原古戦場	相模国分寺趾 同　尼寺趾 付近古墳群 国宝仏像 古篠里遺構 （小田急海老名）
10月	梨　狩 調布多摩川沿線梨狩（稲田堤） （八洲園地形 展望鳥瞰図） 向丘遊園地 （小田急稲田登戸）	１年ト同ジ 高尾山（関東平野西部） 多摩御陵	大山登山 （ケーブルカ ー終点迄） （関東平野西 南半部展望） 阿夫利神社	筑波登山 高山測候所 （筑波男体） （全関東地方展望）	大島行 汽船１泊　小使共２円（複式火山ト航海） 大島動物園	国会議事堂 江戸城トシテノ宮城トソノ周囲 東京府商工館物産陳列所
11月	製菓工場 （森永，明治）	製菓工場 （森永，明治）	カルピス会社 （渋谷） 缶詰其他食料品工場	車輌工場 自動車工場 （鶴見フォード） 鉄道博物館 （万世橋駅）	製壜工場 （程ケ谷，鶴見） 製油場（鶴見） 陵軍糧秣廠 同被服廠	卒業学年関西旅行 （汽車汽船共） ６泊－７日間
12月	上野動物園 不忍ノ池	田中玩具工場 （千住２ノ９１７） 玩具工場 東京セルロイド （寺島） 学用品工場	青木釦，メタル工場（西巣鴨町池袋） 鉛筆，クレヨン （大日本鉛筆 西巣鴨，池袋）	精糖工場 （塩水港－芝浦） （大日本精糖－砂町）	肥料薬品 （人造肥王子） 川口方面鋳物工物 文房具　タイプライター（黒沢工場，荏原矢口町） セルロイド加工 （ローヤルセル ロイド亀戸）	時計工場 （精工舎－柳島） 帽子工場 （東京帽子－柳島）
1月	付近の温室めぐり	椎茸ノ栽培	ライオン歯磨工場 （口腔衛生ノ話）	帝室博物館 （上代文化）	上野（東京史蹟） 寛永寺，東照宮	芝（東京史蹟） 増上寺・泉岳寺

	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	6　年
1月				帝室科学博物館 動物園	上野ヲ中心トスル史的文化地理	薩藩邸趾(西郷，勝会見所) 東京市養正館
2月		軍鳩調教(中野) 軍犬，警察犬調教	養魚場 (砂町方面) 木材貯蔵所(深川/木場) 草花栽培 (城東方面)	製紙工場（王子製紙下十条工場） 石鹸工場……下十条（エス，ケイ粉石鹸其他）上野，下十条下車団体回遊券利用　40銭 或ハ花王石鹸工場 加藤ガラス工場	紡績工場 メリヤス工場 綿織物工場 ハイパア工場	煙草専売局淀橋工場 三河島汚水処分場 東京市淀橋浄水場 製糸・染物・絹織物工場（八王子方面）
3月	皇后遥拝 日比谷公園 航空館	明治神宮参拝 明治神宮外苑 同　絵画館	靖国神社参拝 遊就館 国防館	靖国神社参拝 遊就館 国防館	明治神宮 宝物館 乃木神社 乃木大将邸趾 乃木大将墓 海軍館	兵営生活 中央郵便局 栄養研究所

◇見学プラン表について

★**この見学プラン**は縦にも横にも次第に程度を高めて発展するような系統になっておりますから，ご研究を願います。
★**見学箇所は**月毎に配当してありますが，決して全部を実行するとは限りません。その級によって適宜に取捨選択するのです。しかしこうした項目はその月その組に適応するという見解に立って編輯されているのですから，機会があったらご家庭でもその目的を利用してくださることは一層このプランを活用することになるのです。
★**できるだけ少ない経費で**，しかも切り詰めた時間内にたくさんな内容を盛ろうとするのですから，見学なり旅行なりはもりだくさんになるのはやむをえません。この表もかなりの量を詰めてはありますが，実際は1回の出動にこの表の2項3項を同時に完了するよう工夫塩梅してありますから，出る回数は掲載の項目よりは案外少なくなるのです。
★**こうした各方面への見学**に関し，それぞれご便宜なつてをお持ちの方は，どうぞ学校にもその特権を利用させてくださいませ。何よりよい見学効果を挙げる役割をすることは確実ですから……

この遠足・旅行・見学系統は現在の明星学園の見学・旅行案の基礎となるものであって，以来その具体的なプランは教科の学習との関係，時代の流れ，社会の変貌などによって当然かわってきたが，その教育的意義は伝承されて今日になっている。　（原田満寿郎記）

(3)　小学部の見学旅行　（報告とお知らせ）

日光・水戸旅行（6年生）**お知らせ**

お子さまが口頭で申しあげたはずですが，本日日立製作所から見学快諾の旨回答があり，かつ従

来見学困難であった海岸工場の縦覧，バスの便宜等も配慮してくれたような趣です。したがって予定どおり決行いたします。下記ならびに外欄ご熟覧のうえご協力お願いいたします。

昭和18年6月9日

明星学園初等部6年担任

保　護　者　様

記

水戸は関東の北東に位して，(この辺は古事記時代より文化史的意義の上にも採りあげられる種々な条件を具えていますが) 特に幕政時代からは軍事的・政治的に奥羽に対する要衝をなし，また交通上の中心都市であります。親藩水戸家が此処に位置したのも偶然でありません。また他面日本精神の潤叢たる水戸学の発祥地であり，大日本史編纂の大事業に関してもあまりに著名な旧城下町であります。

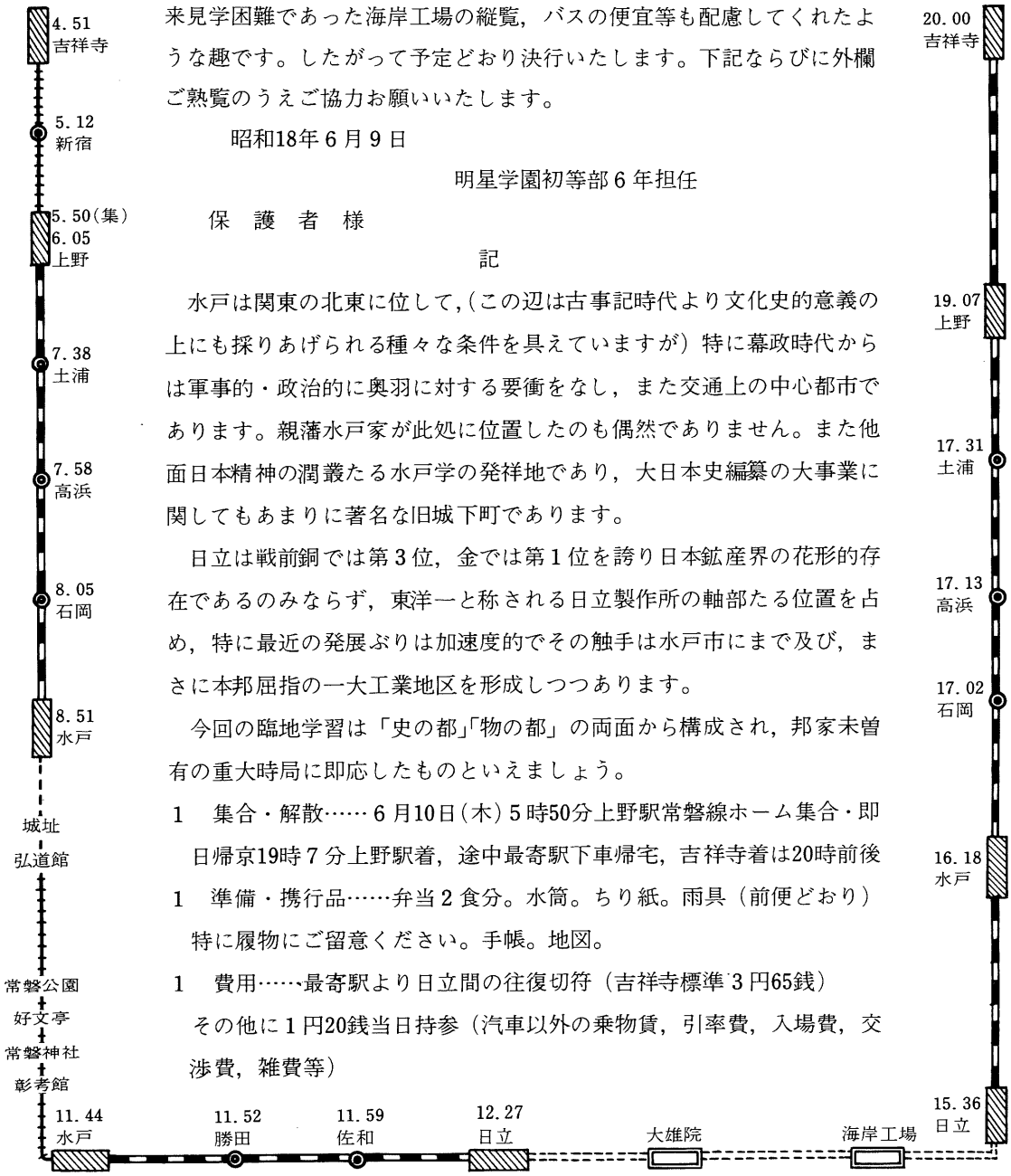
日立は戦前銅では第3位，金では第1位を誇り日本鉱産界の花形的存在であるのみならず，東洋一と称される日立製作所の軸部たる位置を占め，特に最近の発展ぶりは加速度的でその触手は水戸市にまで及び，まさに本邦屈指の一大工業地区を形成しつつあります。

今回の臨地学習は「史の都」「物の都」の両面から構成され，邦家未曽有の重大時局に即応したものといえましょう。

1　集合・解散……6月10日(木) 5時50分上野駅常磐線ホーム集合・即日帰京19時7分上野駅着，途中最寄駅下車帰宅，吉祥寺着は20時前後

1　準備・携行品……弁当2食分。水筒。ちり紙。雨具（前便どおり）特に履物にご留意ください。手帳。地図。

1　費用……最寄駅より日立間の往復切符（吉祥寺標準3円65銭）その他に1円20銭当日持参（汽車以外の乗物賃，引率費，入場費，交渉費，雑費等）





関西旅行　小学部６年生　京都御所にて（昭和14年11月）

(4) 京阪神方面の旅行

小学部６年生　（昭和10年11月）

小学部における見学旅行の最たるものは前後７日にわたる近畿地方見学で，これは時間の上からしても経済上からしても学園年中行事中の重要なものであるし，子供たちにしても小学部在学中の総収穫をまとめて見せる重要な仕事である。したがってこの旅行は単に７日間の旅にその価値を限られるものではなく，この旅行の前に旅行があり，この旅行の後に旅行がある。すなわち彼等のかつて学んだことがこの旅行の内容を理解し実証し，やがて学ぶべきこともまたこの旅行の経験がその理解を助けその発展を円熟に導く。私たちはこうした目的に向って十分であるように見学旅行のプランをたてプログラムを編むのであるし，場所を関西に選んだのもこの点に理由を持つ。すなわち近畿旅行の持つ価値内容はその地域性に含まれている。

文化財の多様性と卓越性と特殊性が示唆するその１類を抽出して見るならば，◎近代工業中でも特に世界的なる繊維工業地域としての名古屋・四日市・津・松阪・京都・大阪・尼崎。◎多角農業生産地としての濃尾・伊勢・奈良・京都・大阪・武庫の諸平野，およびこれに包含される大都市近接耕地の企業的高級農業の生産形態。◎林業と交通機関に結果された浜松・名古屋・桑名辺の木工および貯木の車上景観。◎日本文化の由来と発展を如実に物語る神都伊勢・仏都奈良・尊礼の都京都・商都大阪の脈動。◎貿易港としての機構と機能を一目のもとに説明してくれる大阪・神戸・名古屋・清水の息吹き。◎大阪を中心として蜘蛛手に編まれた近畿大交通網の驚くべきスピードアップ機構。これによって統制された近畿経済ブロックと大きな地域的マッス。◎精神的対照としては殊に伊勢・熱田・橿原の各神宮を始め数多の神社仏閣。畝傍・率川（開化）・桃山・嵯峨（後嵯峨・亀山）・宇治（菟道稚郎子）等の諸陵墓。および封建社会における物と心を表象するにふさわしい「お城」の代表たる大阪城・名古屋城の遺構。◎都会人のオアシスとしてその必然のもとに特殊の発展をして来た蒲郡・生駒・宝塚・六甲連峰および阪神沿線の遊覧地や住宅地。さては帰路の船上から展望される山脈の走向・島嶼・岬湾・曲浦の成因・形態。湖流・海流・波浪・航路標識に関する価値づけ。

こうした一つ一つは実にこれを取扱うものの視所と態度と方法とによって如何ようの効果にも拡げることができる。とりわけこの計画から取逃がしてはならぬ最後のもの　(1)　こうした学習とし



関西旅行　小学部６年生　伊勢神宮第１鳥居前にて(昭和11年)

ての仕事を首尾よく完成するに要する団体機構と自治的訓練と有機的運用の円滑と，(2)　公民として社会人としての交通道徳に対する義務の遂行――すなわち汽車・汽船・電車・バス内の公徳，宿屋休憩所内等における道徳的作法，(3)　特に国際儀礼もしくは道徳の実習場としての帰途の汽船内生活，等をとり上げることになると，これだけでも十分に6カ年間の生活・訓練総括としての価値を十分に物語るものである。　（昭和10年11月「ほしかげ」16号から，照井猪一郎記）

中学部・３年生　（昭和34年10月）

中学・関西方面の旅行　――歴史教育の立場から――

ここ十数年来，中学では卒業期の３年生を近畿地域の旅行（４泊５日ないし５泊６日）に行き，本年も伊勢路を除いて，ほとんど従来のコースで実施する（10月３日出発）。

修学旅行はご承知のとおり生徒の旅行ではあるが，学校の責任において引率して行くものである。したがってはっきりした教育目的に立つ指導下のプランで，実施するものであって，決して戦後の修学旅行の流行化に伴う他の模倣でもなく，また生徒に迎合した遊覧気分にあおられてのものでもない(生徒の関心や興味から遊離したプランでは，旅行の効果は求められぬことは，当然留意せねばならぬ)。

すでに実施された見学の地区は，すべて日本文化の発祥地であって，長い年月にわたって，日本人が育て，愛してきたところである。

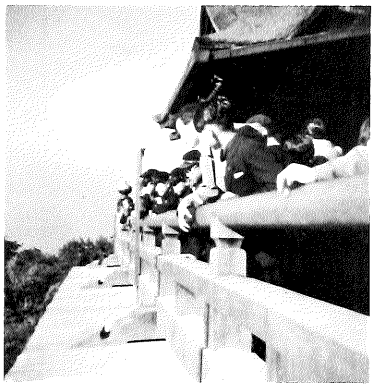
神都伊勢は，日本原始信仰を対照として太初以来民族の伝統の色と香りの最も濃い環境を持ち続けている特異なところ。

仏都奈良・西の京・飛鳥は，在来文化のうえに，仏教による大陸文化を導入し，僅々二百余年の間に，ケンランたる古文化の花を咲かせた名残りを止め，奈良盆地が，一大博物館として，世界に比類のないところ。

商都大阪は，瀬戸内海の湾頭にある商港として，国初より経済活動の中枢に位置し庶民文化の発展，今にめざましい成果を見せるところ。

帝都京都は，千余年にわたり，政治の都としては日本を代表し，そこに完成された貴族文化の生生しい宝庫。これ等は，それぞれ相隣接し，相関連し，相影響して今日に及び，さらに将来と約束されている点で，まことにまとまった学習の場といえる。

このように，すべては，生きている民族史，目にみる日本文化史の陳列場の見学である。生徒たちが今日まで学んできたいろいろの教室学習は，この計画の実施によって現地現物の中から総まと



関西旅行　（中学校３年生）
清水寺の舞台（昭和30年11月）

めにされるのである。

これを有効適切に完成させるための準備と予備学習について，何を見学の焦点におくか歴史教育の立場から私見を述べ，父母方の理解を求めたい。

寺から寺への遍歴

関西の旅行は，修学旅行である限り，奈良にしても京都にしても，ほとんど連日，寺から寺への遍歴である。

生徒の全部ではないが「お寺まいりは，ごめんだ」という。これは一面もっともなことで，およそ今日の生徒たちの生活は，寺院とは何等かかわりもなく営まれているので，寺院（神社）に対しての関心はない。だから「お寺巡りはごめんだ」という気持はわかる。

だが，その寺院の建築・仏像壁画が，世界的にみて，水準の高い日本文化の精ずいであるということを認識し，その認識のもとに，それらにふれるならば，キット納得するはずである。感激し，認識するだけの観察眼を具体的に総合的に与えおくならば，生徒はおのずから，日本文化の美を探求する欲求を，もつものだ。

こうしたみる態度，みる目をもって歴史教育の立場から今回の旅行において次の(1)と(2)に大きなウェイトをかけておるのである。

(1)　奈良・西の京・飛鳥地方――では古代史を背景に，法隆寺・薬師寺・唐招提寺・東大寺の飛鳥期・白鳳期・天平期のそれぞれの時代を代表する建築や，彫刻や，壁画などを，重点的に観察させ，その様式の遷移が，その時代なり社会なりと，どのような関係にあったかを，考えさせたい。飛鳥彫刻の芸術の粋はわからぬとも，いかるがの里の環境で，聖徳太子を偲び，飛鳥時代の日本を追想することができれば，それで結構である。

(2)　宇治・京都では中世から近世へかけての文化にピントをあてた宇治の平等院（鳳凰堂）と洛北の三千院である。京都御所と二条の対には，天皇と将軍，公郷と氏家，寝殿造と書院造，そして時代と社会の推移と，その意義とを考えさせる。

☆　　☆　　☆

私のこれまでの関西学習の経験では，予備知識の学習指導には，少くとも15～20時間ほど必要だ。事前学習さえ十分してあれば，あえて中学３年生でなくとも，相当の現地学習をしてくるものであることの一例として，次の旅行記を紹介する。

（昭和15年，明星学園小学部の６年生，６泊７日の関西旅行実施，引率教師は筆者の原田訓導）

見学の記録

法隆寺（五重塔）　　6年　石橋敏男　（13回生）

日本に二つとない美しい塔の一つがこれか。中門にはいってまず目についたのは，この塔である。塔は二重の基壇の上にのってあくまでどっしりと落着いて見える。屋根は上に行くに従って縮小して軽快である。第5層は初層の二分の一になっているということだから，どっしりと落着いてみえるのであろう。軒はぐっと長く張り出している。それはまるで飛行機の翼のように落ちつきと軽さを見せている。……略

鳳凰堂　（宇治の平等院）　　6年　古河あけみ　（13回生）

山城宇治川のほとりにある平等院。もとは源融（とおる）の別荘を，あのごうまんな藤原道長が譲りうけ，その子の頼道になってお寺にしたものだという。

境内を通り奥の鳳凰堂に進む。当時藤原氏などの貴族の住んでいた寝殿造りだという住居は，この建物によくにていたということだ。真中に阿弥陀如来のおられる本堂があり，左右は廊下によって楼閣とつながり，後は廊下である。建物の前には池がある。

阿弥陀如来は定朝という大家の木彫で，天井は格天井で，昔は全面に鏡がついており，須弥壇や長押のらてん（貝）とが，外からさし込む太陽の光線に照りはえて，とてもきれいだったという。藤原道長が極楽を真似し造ったということが，私にも想像できた。

壁の画は当時の大家，純摩為成の筆だという。もとはずい分美しかったものであろう。かすかに残っている色彩から，阿弥陀さま，飛天，背景の山，拝んでいる人物が，うかがわれる。

こうしてここにいると平安時代の貴族達の生活が目にみえるようだ。

お堂から外へ出ると，西の空は赤く染っていた。池を回って，本堂と向い合いになると，阿弥陀さまのお顔が池を経だててみえる。こうしてここにたたずんでいると，平安時代の仏教の全盛な世の中のことが偲ばれた。

三月堂——東大寺　　5年　石林寧　（13回生）

うす暗い本堂には不空けんじゃく観音菩薩が立っていられる。日が三つ，色々の方向にのびた腕が8本，しかもやさしい姿であるから不思議だ。まわりには15体の諸仏がある中で，僕の家の額の中にある月光菩薩があったので，それをしみじみみてきて作って500年も後までも，人々にあがめられる仏さまや建物を造った人のことを，僕は本当に感心した。奈良時代が本当に仏教が盛んだったことも，ここにきてみてよくわかった。

仏さまのお顔をみていると僕等だって，なんとなくやさしい気持になるから不思議だ。お母さまが何日も仏画をみていることが少しわかったようだ。大傑作となれば大人でなくとも子供にもその荘厳さがわかるのだ……略

☆　　☆　　☆

「お寺巡りはごめんだ」という気持はわかる。だが予備学習さえ，しっかりしてあれば，日本文化の流れを歴史的に把握する意義も，納得するはずだ。

中学の関西の旅行もここに一つの目標があることを了解してほしい。

なお車窓からみる自然景観土地利用，都市集落の文化景観の展望や，奈良・京都・大阪・大津などの都市の総合的な機能などにも当然今回の旅行で一応とり上げるものではあるが，この稿では歴史的な文化財の見学だけに焦点をあて，記述したことを諒承されたい。

また団体旅行の移動にまつわる秩序の問題，宿泊所のエチケット，交通道徳のことや，生徒個人の責任の面など，生活指導のそれぞれの重要であることは当然である。旅行全般をとおして生徒の自律的な行動を尊重しつつ，教師の細心の配慮の必要性はまた中学生であるだけに自明のことである。

（昭和34年10月「道」47号から，原田満寿郎記）

(5) 集団継歩

多摩御陵——学園間のお知らせ

かねてより計画中の多摩御陵⟶学園間の集団継歩を，来る30日(木)に下記要領により行います。大方はすでにご承知のとおり昨年度も同一計画下において実施いたし好成績を挙げた企であります。病気その他やむをえざる事故のない限り，参加するようご配慮願います。

1　全面プラン（雨天中止）

別班	集合 出発	待受地点	継歩区間 時間	継承 地点	帰路	学園帰着時刻 余剰時間ノ利用
第6班	集 前7・00 発 前7・29 吉祥寺駅南口	浅川駅 前8・30 多摩御陵参拝	多摩御陵前発 前9・00 粟須新田着 前10・30 距9km（1時間30分）		立川駅 後1・30 徒歩4km	後2・36 3時間
第5班	集 前9・00 発 前9・10 同上	豊田駅 前10・10 粟須新田まで 徒歩 2km	高倉天神前 前10・30 谷保天神着 前11・55 距8.1 km（1時間23分）	日野村 粟須新田 高倉天神前	国立駅 後1・30 徒歩2km	後2・36 1時間30分
第4班	集 前9・30 発 前10・00 同上	国立駅 前10・55 谷保天神マデ徒歩 2km	谷保天神前 前11・55 多磨墓地正門 後1・10 距7.0 km（1時間15分）	谷保天神前	小金井 後1・40 徒歩3km	後2・36 40分
第3班	集 前9・30 発 前10・00	多磨墓地駅 前10・50 徒歩0.3km	多磨墓地正門 後1・10 天文台口 後1・50	多磨墓地正門	天文台ヨリ学園まで 徒歩3.7km	後2・36 ——

班別	集合 出発	待受地点	継歩区間 時間	継承 地点	帰路	学園帰着時間 余剰時間ノ利用
第3班	吉祥寺駅南口	距3.5km（40分）				
第2班	集 前9・30 発 前12・00 学園	天文台口 後1・00 徒歩3.7km	天文台口 後1・50 三鷹製作所前 後2・20 距2.1km（30分）	天文台口	三鷹製作所前より学園まで 徒歩1.6km	後2・36 3時間
第1班	集 前10・00 発 後1・30 学園	三鷹製作所 後2・00 徒歩1.6km	三鷹製作所前 後2・20 学園後2・36 距1.6km	三鷹製作所前	三鷹製作所前より学園まで 徒歩1.6km	後2・36 3時間

2　目的

強歩鍛錬を目的とする演習で，定められたる区間内を時速6kmの速度を保ちつつ部隊に一人の落伍者をも出すことなく，完全に走破することを要す。途中休憩なし。受渡し前後の時間は各班それぞれ学習に観察に利用すること。

3　準備

イ　軽装，特に靴に十分ご考慮のこと。靴下は底にツギがあててあると必ず靴傷を起します。

ロ　水筒・昼弁当（やや多目に）・ハンカチ・チリ紙

ハ　持物はリュックサックに入れて負うこと。

4　付添

1年生は始めてのことですから，特に学校より要請せる向あるいはご不安の方はさしつかえなきも学園の指揮に干渉なされぬこと。

5　切符

第6班は浅川まで，第5班は豊田駅まで，第4班は国立駅まで，第三班は多磨墓地前（中央線——多摩線）まで往路電車切符を各自買って集合のこと。

吉祥寺——浅川（35銭）　吉祥寺——豊田（25銭）　吉祥寺——国立（15銭）　吉祥寺——多磨墓地（10銭）　帰路分は学校で立替え，終了後徴収。　以上

昭和17年4月27日　　明星学園初等部

保護者各位

長距離部隊駅伝継歩

学園——甲府駅間　〆(120km)

5，6年生継歩の日程・編成表　（昭和18年10月）

班	歩行区間と距離	時間と時刻	班の員数	引率教師
1	学園——八王子駅 25.6km	19時(8日)——1時30分（9日）	17（男女）	高橋律之助・臼池米蔵（用務員）
2	八王子駅——与瀬駅 19.2km	1時30分——6時15分	16（男女）	照井（校長）・佐藤加寿輔
3	与瀬駅——大月駅 27.6km	6時55分——13時05分	20（男女）	大平　馨・橘　正薫
4	大月駅——初鹿野駅 25.0km	13時05分——19時34分	16（男女）	原田満寿郎・内海（O・B）
5	初鹿野駅——甲府駅 23.0km	19時34分——1時40分（10日）	18（男女）	橘　正薫・照井げん

備考1　この継歩は明星学園小学部錬成史への大標題を記録するものとして特記するものであった（当時の小学部は1学年1クラス〈40人平均〉で全部で240名であった)。

2　学園——多摩丘陵，学園——調布——羽田等の多摩川沿いの強歩，あるいは夜間強継歩は，夏季・秋季にしばしば実施した。

お知らせ（昭和18年10月5日）

9月早々からの悪天候のために延々となっていた学園——甲府間の部隊駅伝は別紙計画によって挙行いたします。計画の詳細については9月28日の父兄会でも申しあげましたが，なお刷物についても十分ご吟味のうえご遺漏なきよう願いあげます。

1　挙行期日

10月8日19時開始，10日1時40分完結。ただし家からの出発，家への帰着時間は表によって加算すること。

2　集合

第1，2班は早夕食として17時までに学校集合，第3，4，5班は出発時刻10分前までに吉祥寺駅ホームに集合。

3　中止の場合

①第1班出発以前に荒天の場合。ただし第2班以後は多少の不良は中止せず。

②警戒警報もしくは空襲警報発令の場合は爾後の出発を中止し，汽車，既発出発の者はすべて適当の処置のもとに帰途につく。

4　帰着班

第4班の立川駅帰着は21時53分につき，不安の向は立川なり最寄駅なりに迎いに出ること。ただし本人とは十分に打合せておくこと。

5　乗車券

第2班　八王子まで（子供25銭）・第3班　与瀬まで（45銭）・第4班　大月まで（72銭）・第5班　初鹿野まで（90銭），以上は各自最寄駅で求めておくこと。帰りは学校で買うから雑費とともに帰校後徴集する。

6　携帯品

①衣類――夜寒を予定しているから冬季用のセーター・代りの靴下・レンコート・手拭かタオル。

②薬品――衛生材料は平素のとおり。

③雑品――家庭に余分ある者に限り，懐中電灯・自転車用ライト・ローソク・マッチ小箱（油紙に包む）

④服装――実情に即し，着脱自在につき，できるだけ厚着するよう。腹巻・厚いパンツは男女とも絶対に必要。靴はズックの運動靴でも何でもいいから足に馴染んでいるもの，金具つきは故障のないよう十分検討しておくこと。

⑤食料品――弁当2食分，ただし第1班は1食分，米2合（1合ずつ2袋にする）＝これは5班以外は使用しないでそのまま家へ持って帰るのだが，こうした時局下の外出として衛生資材とともに常備常住の心構えとしての訓練である。砂糖15グラム，4合くらいはいる大型水筒。

備考1　学校には連絡の先生がおりますから必要の場合はご照会してください。

2　綴る金具のないため刷物をバラでさしあげますから，ご覧済みのうえは，適当な表紙をつけ綴じてお返しください。紙のない折からこの次の学習用に供します。ぜひお願いします。（昭和18年度・初等部お知らせ綴りから）

(6)　初等部の登山

高尾山・城山・景信山強歩訓練計画　（昭和19年5月4日）

第1表（往路）

摘要／班別	引率者	城山集結点着時刻	浅川駅下車以後の歴程および時刻（児童の歩速を基準としてこれに小休止時間を加えた。）	集合地点（時刻）	吉祥寺発	浅川着
1	橘 小使さん	高尾展望台着 12．00	浅川駅――登山口（10．00）――薬王院（11．30）――展望台（12．00）	吉祥寺駅ホーム（7．50）	8．00 （8．17）	9．00 頃

摘要／班別	引率者	城山集結点着時刻	浅川駅下車以後の歴程および時刻 （児童の歩速を基準としてこれに小休止時間を加えた。）	集合地点（時刻）	吉祥寺発	浅川着
2	高橋照井女	12．00	浅川駅——登山口（9．40）——琵琶滝（9．55）——参道（10．45）——城山	吉祥寺駅ホーム（7．50）	8．00（8．17）	9．00頃
3	大平坂本	12．00	浅川駅——駒木野（9．45）——上長房（10．30）——城山	吉祥寺駅ホーム（7．50）	8．00	9．00頃
4	佐藤李子	12．00	浅川駅——駒木野（9．10）——小仏村登山口（9．55）——景信山頂（10．55）——城山	浅川駅広場（9.15頃）	7．27（7．18）（立川）	8．15頃
5	高橋(律)坂下	12．00	浅川駅——坊ケ谷戸（9．20）——大ダルミ（10．15）——赤馬（10．40）——樽ころがし坂上（11．30）——城山	浅川駅広場（8.15頃）	7．27（7．18）（立川）	8．15頃
6	照井加藤直	12．00	浅川駅——駒木野（8．50）——砂利窪入口（9．20）——砂利窪登山口（9．50）——景信山頂（10．55）——城山	浅川駅広場（7．55 8.15頃）	7．09（7．27）（7．18）（立川）	8．15（7．55）頃

第2表（復路）

○第1班		琵琶滝コースヲ経テ浅川ニ出ル
展望台発	13・00	浅川駅発予定 16・00頃
往路の逆コース		吉祥寺駅着予定 16・50頃
浅川駅発予定	15・00頃	○第5班
吉祥寺駅着予定	15・50頃	城山発 13・00頃
○第2，3班		第6班往路ノ逆コース
城山発	13・00	浅川駅発予定 16・10頃
旧甲州街道ヲ辿リ浅川ニ出ル		吉祥寺駅着予定 17・00頃
浅川駅発予定	15・40頃	○第6班
吉祥寺駅着予定	16・30頃	城山発 13・00
○第4班		第5班往路ノ逆コース
城山発	13・00	浅川駅発予定 17・10頃
高尾山展望台	13・30	吉祥寺駅着予定 18・00頃

備考＝＝4，5班は7時18分（立川行）または7時27分（浅川行）に乗り浅川駅前に集合，これにおくれた者は7時55分(浅川行）にて行き5班に参加。
6班は7時09分(浅川行）または7時18分（立川行）か7時27分（浅川行）に乗車，おくれた者は7時55分（浅川行）にて行き3班に参加。

御岳登山　お知らせ

秋山に鍛う

大岳御岳を中心とする奥多摩山岳訓練は，天候その他の突発事項に阻まれ，順延となりましたが，逐に海路の日を待ちえて，明22日決行いたします。

8月14日の試練行に加わった者は万般承知のことと存じますが，今回は本格的に全園児童が参加することですから，改めて概要ご了承いただきます。

今回は例年の日の出山同時刻集結の案をかえ，各自の能力を最大以上に動員するところに狙いがありますので，出発帰宅の時刻はもちろん，コースの如きも他班と関係なしに各自独立分散しているところに特異性があります。

応分とはいえ決して楽なコースではありませんが，1日限りの一齣ですから，十分休養と営養にご配慮ご協力ください。

実　施　要　綱

班　名	組織内容	出発集結地および時刻	コ　ー　ス　順　路	引　率
第1班	1，2年中心	吉祥寺駅発　7・50 青梅行ホーム 8・30	青梅線御岳駅下車，滝本より参道を登りケーブル終点富士見平に到る。登降とも徒歩	橘(小使)・ 照井(女) 父兄参加随意
第2班	2，3年中心	吉祥寺駅発　7・50 青梅行ホーム発 8・30	二俣尾駅下車，多摩川を渡り柚木より愛宕山山道にかかり，日の出山に到着，帰路は御岳参道を御岳駅に降り乗車	佐藤・高橋
第3班	4，5年中心	立川駅ホーム東端 6・20分集合 6・45分青梅行ホーム出発	御岳駅下車。御岳神社前より大岳を経て氷川に下車，電車帰宅	高津 助手1名
第4班	6　年　中　心	立川駅ホーム東端 6・40分集合 7・19分青梅行ホーム発	氷川駅下車。登計より鋸連山を登り大岳御岳を経て参道を御岳駅に降り乗車帰宅	照井・坂下

備考　(1)大体1，2班は16時，3，4班は19時，それぞれ吉祥寺駅帰着の予定なるも，多少の延着はご予定ください。

(2)御岳，氷川等の乗車券売切の場合は必ず途中駅の分に乗越し証明のスタンプを捺してもらうこと。料金氷川往復子供1円50銭

(3)砂糖・食塩各10グラム，弁当1食半位。

昭和19年9月21日

父　兄　各　位

明星学園初等部



女学部登山遠足　上高地　4回生　引率教師赤井・吉田・佐々木
（昭和10年）

(7)　女学部の課外活動と旅行

課外活動　正課の学科課程は法令の示すところと変りはない。課外の諸活動で

(イ)その欠けたものの補充

(ロ)その具体化の指導

(ハ)自発活動の鼓舞

(ニ)実践習慣の養成

を計る。その種目は次のようである。

(イ)課外作業（準正課）としては，昼食料理・校内外清掃・井の頭公園清掃奉仕

(ロ)課外教授（随意課）としては，舞踊・ピアノ・バイオリン・美術

(ハ)校友会としては，運動部・図書部・新聞部・音楽部・演劇部



女学部登山遠足　上高地　10回生　引率教師赤井・小関
（昭和16年10月）

見学旅行予定　(イ)見学，帝国議会・裁判所・警視庁・憲法記念館・海軍館・遊就館・飛行館・放送局・新聞社・中央卸売市場・聖路加病院・帝室博物館・科学博物館・赤十字社参考館・鉄道博物館・電気博物館・満蒙資源館・特許陳列館・大倉集古館・日々天象儀・天文台・気象台・栄養研究所・伝染病研究所・細民街・託児所・母子ホーム・浄水場・汚水処分場・塵芥処理工場・被服廠・糧秩廠・農事・蚕業試験場・各種製造工場（自動車・飛行機・味噌・醤油・石鹸・ガラス・歯磨粉・紙・菓子・レコード・ミルクブラント等々）



←
中学部登山遠足　高水三山で越智・上田・杉山・内野先生
（昭和10年6月）

中学部登山遠足　馬頭刈山頂にて越智・森口・上田3教師
（昭和12年5月）→



(ロ)旅行，1年―4年　大島三原山・箱根熱海・三ツ峠河口湖・水郷巡り　　5年　上高地・天龍峡・木曽方面

（明星学園要覧から）

4　登山・遠足・修学旅行　（戦後）

(1)　初等部　（登山・遠足）

高尾城山・景信山・陣馬山・登山について（昭和25年5月8日の計画と父兄への通知）

恒例の高尾を中心とする団体強歩を来る13日(土)に行いたいと思います。

学年	集合時刻	往路電車	順路	復路電車	引率者
1年	8：00	吉祥寺 →浅川差 8：33　9：16	浅川―ケーブル―薬王院―展望台―薬王院―ケーブル―浅川	浅川発 →吉祥寺着 15：25　16：07	佐藤加・小林・照井(女)
2年	6：20	吉祥寺発→八王子着・発→与瀬着 7：00　7：38　7：50　8：24	与瀬―旧街道―小仏峠―城山―薬王院―ケーブル―浅川	浅川発 →吉祥寺着 16：09　16：51	宝谷・佐藤
3年	6：30	吉祥寺発→八王子着・発→与瀬着 7：00　7：38　7：50　8：24	与瀬―たるころがし―城山―小仏峠―景信山―浅川	浅川発 →吉祥寺着 16：48　17：28	伊藤・広川
4年	6：20	吉祥寺発→八王子着・発→与瀬着 6：47　7：21　7：50　8：24	与瀬―四街道―小仏峠―城山―薬王院―琵琶滝―浅川	浅川発 →吉祥寺着 16：24　17：05	善方・吹田
5,6年	6：20	吉祥寺発→八王子着・発→藤野着 6：47　7：21　7：50　8：30	藤野―陣馬山―景信山―浅川	浅川発 →吉祥寺着 17：07　17：51	校長・鈴木・吉田

服装および携行品　　着脱容易な軽装・着帽・運動靴・長靴下・水筒・弁当（幾分多い目に）・手拭・塵紙・夏みかん1コ・毛のシャツ・腹巻・軽い雨コート（ない場合は可）・救急薬。

間食用飴は共同購入して当日配布するにつき，おやつ類は持たせないこと。

付添　　ご都合のいい方はご参加自由，引率者にご協力ください。

費用　　1，2年　電車賃・ケーブル代・間食費とも80円，付添大人　間食費を含まず90円，3年以上　電車賃・間食費とも70円，付添大人　間食費を含まず70円。

当日天候の関係で行けない時は18日(木)に延期します。当日の朝天候があやしい時は行く用意をして駅に集合，そこで決行かどうかを決めます。集合場所は吉祥寺駅南口広場。



⬆陣馬山から高尾山へ　初等部３，４年生　小仏峠の麓北浅川の谷で（昭和41年）

⬇陣馬山　低学年部４年生（昭和35年）



⬇高尾山　小学校２年　高尾山を下って谷川でかにとり（昭和27年）

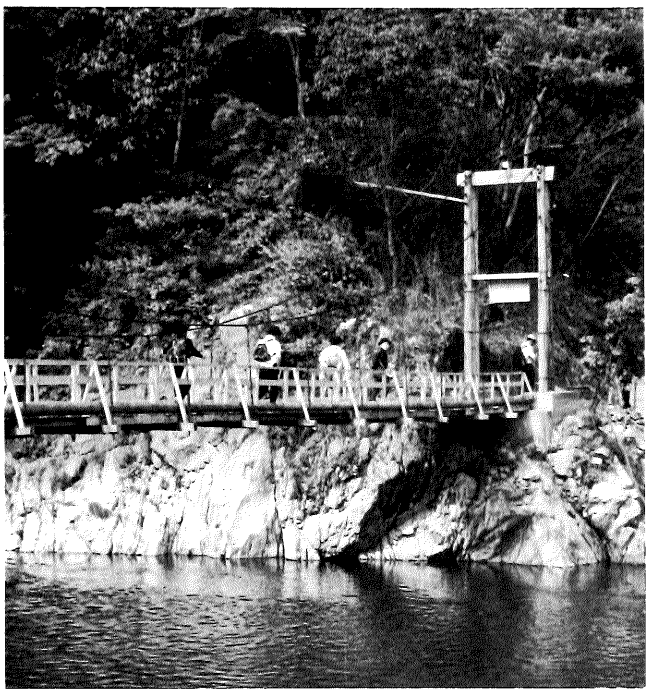




⬅陣馬山から高尾山へ　初等部３，４年生　小仏峠の茶屋で（昭和41年）



➡**大岳登山**　小学校６年生（昭和33年）



⬅**日の出山登山**　小学校４年生（昭和30年）

⬇**御岳登山**　小学校３年生　御岳から鳩の巣へ下りる（昭和28年）



御岳・日の出山・大岳・鋸山登山について（昭和25年９月25日の計画と父兄への通知）

恒例の御岳登山を下記のとおり行います。

1　日時　　９月30日（土）　当日雨天の際は延期，日取は改めてお知らせします。

2　時間・コース

学年	引率者	吉祥寺集合	吉祥寺出発	立川発	着時刻	順　　路	路離	発時刻	吉祥寺着
１年	佐藤 小林	７：30	８：00	８：30	青梅のりかえ 御岳９：30	御岳――滝本――見晴台――滝本――御岳	12キロ	御岳発 ３：01	４：30頃
２年	室谷 佐藤	６：20	６：40	７：22	青梅のりかえ 御岳８：20	御岳――滝本――見晴台――大楢――越沢――鳩の巣	14キロ	はとのす発 ３：51	５：30頃
３年	伊藤 広川	５：50	６：08	６：44	御岳着 ７：41	御岳――滝本――神社下――日出山――大楢――海沢――氷川	18キロ	氷川発 ４：25	６：00頃
４年 ５年	善方 鈴木	５：50	６：08	６：44	御岳着 ７：41	御岳――神社――大岳――鋸山――氷川	21キロ	氷川発 ４：25	６：00頃
６年	校長 吉田	５：50	６：08	６：44	氷川着 ８：03	氷川――鋸山――大岳――神社――氷川	21キロ	御岳発 ４：11	５：30頃

3　携行品　　弁当（１食半くらい）・水筒・手拭・塵紙・セーター・腹巻・雨合羽（油紙）・手袋・果物（林檎または梨）１コ以上をリュック，ランドセルにつめて持つ。手提・肩掛鞄は不可。

4　服装　　着脱容易な軽装，靴は裏のすりへった運動靴は避けること。

5　間食　　共同購入するにつき購入不要。

6　父兄の参加はご自由に，団体行動に支障ないようご留意ください。

7　費用　　各学年とも80円（往復電車賃・間食費・雑費），父兄　80円（往復電車賃・間食費を含まず），左記費用９月28日に納入のこと。

前日の予定人員にて乗車券を購入するにつき，当日不参でもおかえしできません。

多摩川畔遠足（昭和24年９月30日の計画と父兄へ通知）

多摩川は西武蔵の乳道であります。わが武蔵野の文化はここに発祥し，ここに哺育せられ，ここに成長したのであります。

学園は，幸にこうした地域環境を学童たちの生活の場として，彼等の教育学習に大きな役割を果すことのできる最もよい地点に位置しております。

したがって学童たちは６カ年の間に，下限は羽田の東京湾注入口から川崎・小杉・丸子にわたる沖積平野地帯，上限は青梅以奥・御岳・氷川・小河内・日原にわたる本支流を含む山地帯，それに立川・調布・稲田堤一帯に広がるいわゆる多摩川原地域の中流景観，これ等の一切に含まれた自然人文の因果と関連を対象とする学習をひろげ深めて行くのであります。以上のような目的のもと

に，さらにまた全く体位の鍛練を目的とするこの次の御岳強歩にも備えて，下記計画に基づき，多摩川畔遠足を行います。別項企画ご覧のうえよろしくお手配願いあげます。なおいつものことながら，付添はご任意ですが，学校の教育計画に支障を来たさぬよう，小遣銭や規定以外のおやつをお持たせにならぬよう申し添えます。

記

日　　昭和24年９月30日(金)吉祥寺駅南口集合

班	学年	引率者	経路	徒歩距離	吉祥寺集合	解散予定
1班	1年	室谷 佐藤イ	往路　吉祥寺──下北沢──稲田多摩川下車・徒歩稲田堤──向丘遊園地 帰途　稲田登戸──下北沢──吉祥寺	4キロ	午前8時30分	午後2時30分
2班	2年	伊藤 広川	往路　吉祥寺──渋谷──(玉川線)──二子 徒歩 二子玉川──堤防沿イニ──向丘遊園地 帰途　稲田登戸──下北沢──吉祥寺	7キロ	午前8時	午後3時
3班	3,4年	善方 鈴木	往路　吉祥寺──渋谷──(東横線)──多摩川園前　徒歩　丸子──二子──向丘遊園地 帰途　稲田登戸──下北沢──吉祥寺	12キロ	午前7時40分	午後3時30分
4班	5,6年	吉田 佐藤加	往路　吉祥寺──東京──川崎　徒歩　六郷──矢口──丸子──二子──向丘遊園地 帰路　稲田登戸──下北沢──吉祥寺	22キロ	午前6時	午後4時

間食に飴類のみ20円以内に止め，果物・菓子等持参しないこと。昼食は平素より多い目に持つこと。水筒・手拭・ちり紙を忘れぬこと。

費用　　各学年とも　30円，29日納入。付添に行かれる方は60円納入。

備考　　当日雨天ならば土曜に延期，土曜雨天なら中止，改めて計画。曇天にて不明の際は遠足の準備をして集合のこと。　　以上

(2) 中　等　部（登　山）

川苔山登山（26年～28年）

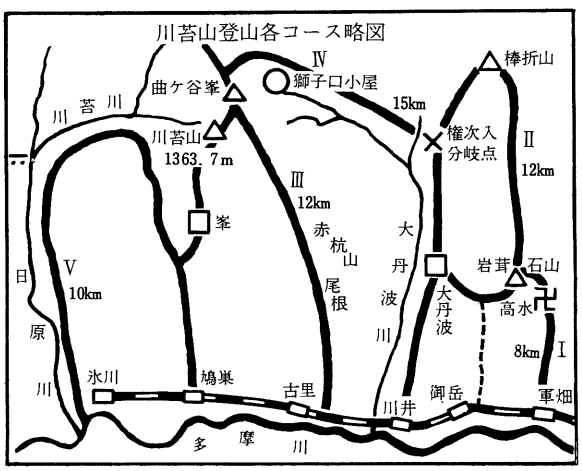
各コースの案内

(1)　高水三山（地図・五日市）

軍畑駅──(80)──高水山──(30)──岩茸石山──(30)──名坂峠──(40)──大円波──(30)──川井駅

多摩川の渓流の南，日の出山と相対峙する惣岳山，岩茸石山（△793.2m）高水山の三山を総称して高水三山という。

軍畑駅から平溝川に沿って北に行くと平溝の仲々





川苔山登山（中学1，2，3年）川苔山へ各コース別・集中登山（昭和34年9月15日）

野趣に富んだ部落に出る。ここで道は二分し，橋を渡って石道は参道，左は大沢を経て行く路である。

高水山の頂に常移院という立派な寺があり，寺を中心として可成の広場がある。

道は立派なハイキングコースで，青謂神社のある惣岳山から岩茸石山へは気持のよいカヤトの斜面と杉の植林を眺めながら山気分を十分味うことができる。

岩茸石山は三等三角点を有し，その南面にある岩茸石と呼ぶ岩壁に因んだ呼称である。頂上に立てば奥武蔵の連峰から遠く赤城・日光方面にかけての遠望がきく。岩茸石山からは飯能方面へ下る路もある。

(2) 棒の折山（地図・五日市、秩父）

川井駅——大正橋——(80)百軒長屋——(20)棒の折石——(60)棒の折山——(70)岩茸石山——(20)高水——(40)軍畑

大正橋の西詰から大丹波川石岸を走る立派な道にはいる。北川橋で大丹波川を左岸に渡り大丹波部落の民家を抜けると道は再び右岸に渡り返して間もなく大丹波川が西に著しく屈曲する地点，百軒長屋に達する。ここで指導標により獅子口への道に分れて大丹波川を左岸に飛石伝いに渉り，権次入沢沿いの林道にはいる。付近は植林地で薄暗く，権次入沢には山葵が作られている。山名起因となった「棒の折」と称する三十数種の苔蒸した石棒に達する。伝説によると，この石は鎌倉時代，一方の旗頭畠山重忠の愛用の石林の破片だそうで，北方名栗側にも同様のものがあったそうである。道はそれから権次入沢から離れて千鳥に可成り激しい登りとなる。やがて植林地を抜けると眉近く草原の山頂が現れてくる。この付近から山頂にかけては，ワラビ狩の好適地である。

山頂は草原で展望はもとより広濶なものである。屋根通しに途中いくつかの隆起を越えて岩茸石山・高水の二山へと歩を伸ばして軍畑駅に出る。

(3) 赤杭山尾根から川苔山（地図・五日市，秩父）

古里駅——赤杭山（△923.2m）——川苔山——峰——鳩の巣駅

古里駅の東を真北に690.3mの小山脚の隆起部を過ぎると古里の役場からの登山道と合流し807mの小山頂を経て赤杭山（923.6m）および赤杭尾根の小起状を西北に登る。右手に大丹波の渓谷を経て棒の折峰およびその尾根がのぞまれ，真名井沢の峰，曲ケ谷峰，川苔山に達す。帰りは峰部落を経て鳩の巣駅に出る。

(4) 大丹波川から川苔山（地図・五日市，秩父）

川井駅——大正橋——(90)権沢入沢分岐——(150)獅子口小屋——(40)踊平——(60)川苔山——(50)棚沢——鳩の巣駅

大丹波部落までは大丹波川の渓流を右に見て百軒長屋と称する大丹波部落最後の人家を後にして，権次入峠分岐点に達し，北に棒の折嶺を遠望して左へ進むと目的の大丹波川の溯行が出る。水源まで完全に伐林されて見透しがきく。

四十八瀑，丹岩の巨岩を過ぎると枝沢がいくつか現れて，少し迷うところがないでもない。獅子口小屋は立派な山小屋で，番人常住である。

獅子口というのは大丹波川の水源で大きく開いた獅子の口（幅2メートルくらい）に似た岩石より清水が流れてくるから名づけられた。

獅子口から川苔山までは少しも水が得られないから水筒の用意が必要だ。小屋から急坂を一頑張りすると踊平と称する地点に出る。気持の良い平で，秩父の山々が望める。平から南へ尾根伝いに回って行くとやがて1363.7mの川苔山に達する。二等三角点を有しているので付近の展望台として随一である。

帰りは踊平へ少し戻り峰の部落を経て棚沢へ下ればよい。

(5) 川苔谷から川苔山（地図・五日市，秩父）

氷川駅——氷川——日原川を渡る——最初の釣橋——伐採小屋——百尋滝——塩地谷と棚沢の分岐点——川苔山東南陵の鞍部——大ダワ——山の神——鳩の巣駅

氷川駅前にて北方より日原川が流れ本流に合している。この日原川の渓谷こそは多摩川支流中の最大なるものにして上流には多くの瀑布と淵を有し，美事な渓谷美を現している。

氷川から右へ日原川渓谷に沿って行く道は軽く登り坂，寺地大沢を過ぎると左側に不老水の湧水を見る。ここから僅か進むと左側に堂守のような建物がある（道標はここ右側一段と低いところにある）から注意しないと行過ぎる。

古ぼけた吊橋を渡り日原川の左岸に出て漸次右岸の路を辿る（日原・川苔の合流点から離れているので判然としない）。対岸に一軒屋を見送って右岸に移る。吊橋から上流は滝の連続である。路はやや登りぎみになり，左崖側を歩くようになる。この付近いたるところ炭焼小屋がある。

植林地にはいる所は地図の岩記号のある附近で大根岩，大吊岩の名称がある。岩壁の対岸に土橋が渡されてある。これはサカサ川への道で大ダワと川苔山との鞍部へ出ているが，小径は昔時炭焼のあった位置で切れている。かぶさるように突き出ている大岩根の裾を避けるあたりすなわちサカサ川と本谷合流点のやや下流に聖滝，三滝が懸けてある。

明瞭な道はグングン登りにかかる。登りきると立派な伐採小屋にぶつかる。小屋から上流の路は誠に幽すいの感深く，両岸も迫りあるいは左岸に，あるいは右岸にと4，5回，山裾を廻り，



丹沢山登山（中学2，3年）岩場を遡行（昭和27年）

小一時間もすれば，最奥に一条の滝の音をきくあたり，再び滝の連続に再会す。暫時平坦な道を左岸沿うて進むに何時しか沢中に道を失す。本谷の最悪場である右側の急峻な崖を登ると前面の一枚岩に素晴しい滝がある。これが川苔最奥の百尋の滝である。これから川苔山（1363.7m）を経て峰――鳩の巣駅に出る。

共同装備品

(1) 鉈・望遠鏡・寒暖計・登山綱・ハンマー

(2) 衛生材料

a 巻繃帯（5～8裂）・リバノールガーゼ・亜鉛華絆創膏・鋏・毛抜・油紙・リント・脱脂綿・検温器・懐爐・三角巾

b モスキトン（アンモニヤ水代用）・ワセリン（ベルツ水代用）・オキシフル錠（創面消毒）・マーキュロクリーム（赤チン）・サロメチール・シッカロール（水虫・靴ずれ予防）・アスピリン末（ルゴール液化用）（咽喉塗布）・食塩（口腔部出血含嗽）

c 胃散錠・興奮剤（ウィスキー，ブドウ酒）

個人装備品

(1) 防風上衣（アノラック）・チョッキ・セーター・軍手・山靴・防雨衣・下着

(2) 水筒・コップ・箸・鑵切・ナイフ・スプーン

(3) 安全ピン・糸・針・手拭・紙・鉛筆・手帳・風呂敷・新聞紙・ヒモ・懐中電灯・地図・時計・呼子・油紙・生徒証

(3) 中　等　部（見学旅行）

昭和30年代までは遠足（登山）は鍛練行事であり，見学行事であった。

毎年行われた春の高尾山，秋の御岳登山は，事前にコース別に地形・産業・歴史などについての学習が行われた。つまり校外へ出るたびに見学計画があったのである。

しかし，ここでは狭義の見学について述べてみることにする。

○日帰り　新聞社・三菱重工横浜造船所・京浜運河・小河内ダム・浄水場などの見学が行われたが，37年以降はほとんど行われなくなった。

○宿泊を伴うもの

大島　（5年）火山学習入門が目的であったが，それだけでなく東京湾沿岸・火山島の産業・生活などの観察も重視された。テキストを与え，事前に地図学習とともにかなりの時間をあてた。



大島三原山行　中学年部5年生　三原山火口原を行く（昭和32年）

夜，東京湾を発って早朝大島につき，徒歩で外輪山・火口原・中央火口丘・噴火口へ至り，また徒歩で下山した。だが，海が荒れる場合もあり，5年段階でかなりの強行軍であるという声もあり，40年頃からは大島一泊で行うようになった。また性格も登山行事とみなすようになった。現在は行われていない。

清水・箱根　昭和29年から復活。

清水臨海工業地帯，茶・みかん・いちごの栽培，登呂の遺蹟，箱根火山，箱根の関所，杉並木（江戸時代の交通）などが見学対象であった。

テキストは教師が用意したり児童が作製したものがあった。旅館で夕食後記入したテキストについての学習会が行われ，旅館主がびっくりしたものだった。また，「こんなにきちんとした生徒は今まで見たことがない。」と女中さんにほめられたものだった。

3年ほど後には，強行日程という理由で箱根をカットするようになって昭和37年まで続いた。

霞ケ浦・銚子・千葉　日本平周辺が俗化してきたことと，自動車の普及によって家族旅行が行われる傾向になったための変更である。

霞ケ浦の広さ，水郷地帯，両総用水，犬吠埼灯台，漁港と関連施設，ヤマサ醤油工場，川崎製鉄が見学対象である。

2年後には霞ケ浦をカットするようになった。

川崎製鉄で小学生の見学を許可しなくなった41年から中止。

日光から金精峠を経て奥利根へ　昭和41年7年生が5月中旬実施した。中禅寺湖周辺，菅沼，藤原，八木沢ダムと地下式水力発電所が見学対象。まだ雪の壁の残る峠越えが生徒を喜ばせた。

東北旅行　昭和42年から中止。

夏季生活　スキー行事に要する費用が年々かさんでくるために，一泊見学行事をとりやめた。夏冬の行事を充実させようという考えからであった。そのため現在は行われていない。

関西旅行　現在は中止されている。

(4) ウォーキングレース

後評　在籍250名中244名の参加者をえて意気に燃え，胸算用よろしく各班の準備も整う。戦後はこのレースが学校行事として5年目を迎えたが，春の1ページを飾ることは，明星の地理的環境がいかに恵まれているかをうかがうことができる。すべての条件が無理のないものであり，伝統的レー

スとしての価値は高いものであろう。さて30年度のレースの後評をする時，年々長距離の班への希望者が急激に増加してきているのが目立つ。その原因を考えるに，気概の高まったこと，冬の沈滞期から解放されて体の躍動が自然的であること，レースのなれがきていること，例年の記録を打破る闘志にはやること，である。遠距離希望者が増して近距離からの歩行に何かひけ目を感じてひきずられている傾向もある。またこの反対に同じ歩くなら多少の無理をしても頑張って見ようという気持も見える。故に各班の数と人数とを下記に見ることができる。

・立川班１～６，75名（女子43名）・国立班１～３，30名（女子13名）・国分寺班１～７，89名（女子48名）・小金井班１～４，40名（女子37名）・境班１～１，９名（女子３名）　計243／250

これを見ても境班が非常に人数減を示し，小金井・国分寺に参加している。小金井班は例年と同じ程度の人数であるが大部分は女子である。大体において人数が立川・国分寺に集中されており，立川に強い者，国分寺に弱い者と中学生の体力の差からして次のキロ数が適歩のものではないだろうか。強者15キロメートル２時間，弱者10キロメートルを１時間30分程度と。これは過去５年間に実施されてきた明星の生徒を対象としてのものである。レース等の疲労度からしても中学生の体育行事としては適しているものと考えられる。個別に覗いて見ると，各班のチームワークは記録にあせりが見えてか大分くずれていたようである。もちろん雨あがりの悪い条件もあったが，全班が混成チームであるから，テンポのくずれを如何に防ぐかがレースの焦点であることを忘れて，学年別のペースに重点をおきすぎた感が深い。例年うなぎ登りに見えたチームワークは，本年度は少し乱れたといってもよい。集団のレースの難点はここにあるわけだ。また本年度は１年生が活発すぎ，統制がとりにくかった面も見える，ということは初めてなので注意しにくいとか，いってもなかなかいうことを聞かないとかの悩みもあった。

レース前の説明には耳をかさず新記録のみを目標とする班があり，規定した持物すらもたずに歩くとは何としたことだろう。あまりにも勝手な考え方である。各自どのくらい自信があるかしらないが，ペース配分をくるわせ，結局は１枚脱ぎ２枚脱ぎして手に持ち，また人に持たせているさまは失敗であることを銘記すべきである。非常に良い記録は出たが，正式には記録されず参加記録となったことは残念である。記録を参考にして，各自自己批判をしてほしいと思う。ともかく薬のご厄介にならず全員無事で終了できたことは賞すべきであると思う。　（人見進夫記）



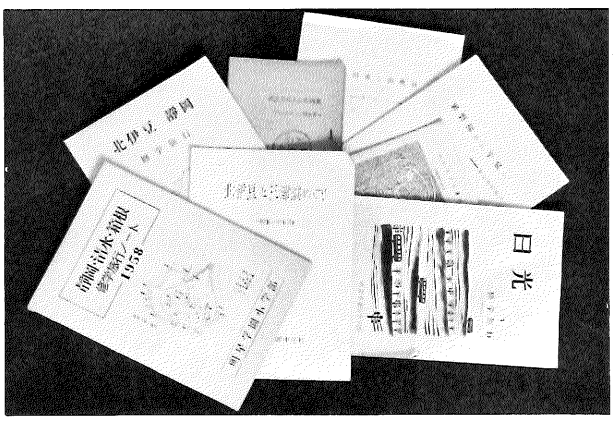
日光旅行　中学２年生　陽明門前
（昭和33年６月）　⬇

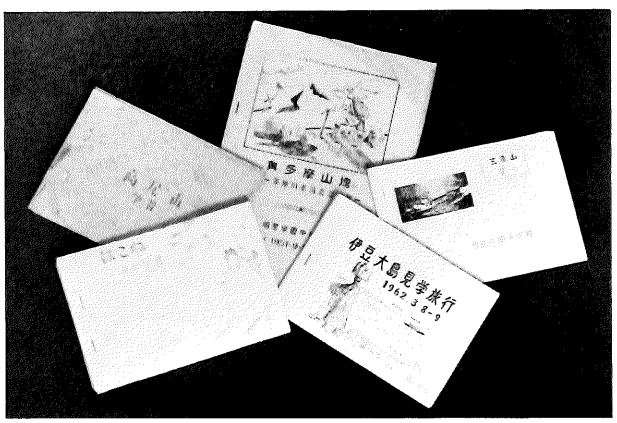


⬆関西旅行　中学３年　比叡山延暦寺（昭和34年11月）

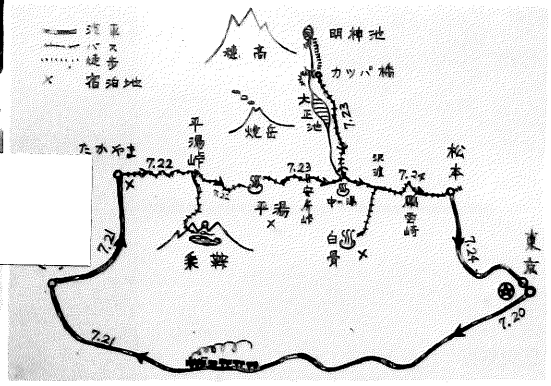


⬆
自然ならびに人文地理的なものや史蹟をとおしての建築・絵画・彫刻などの文化史の学習をもり込んだ見学テキストで，遠足・旅行前に相当の時間をかけて学習した。
⬋ ⬇









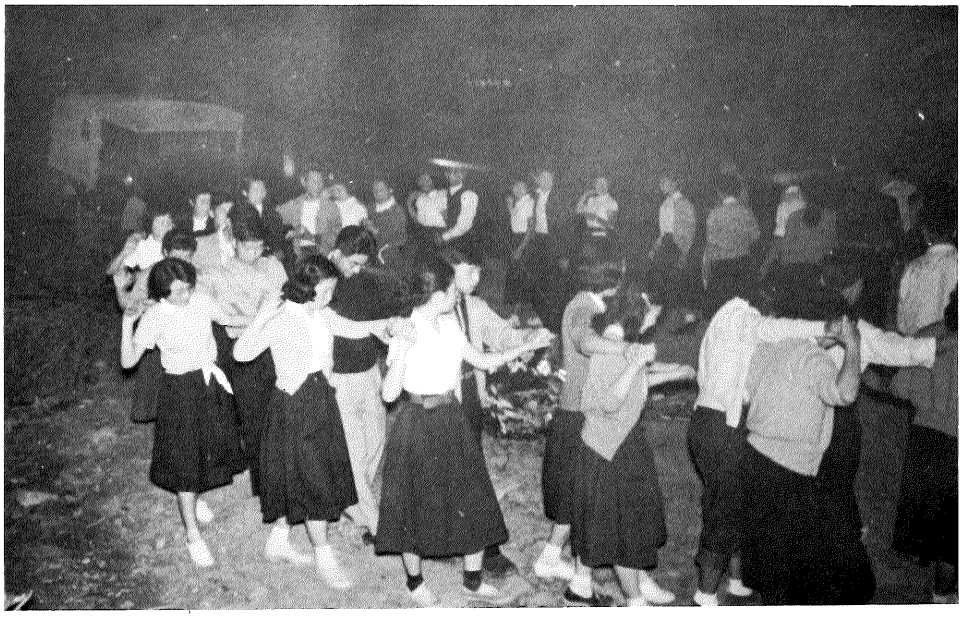
2203.

⬆乗鞍・穂高へ　高校6回生　白骨温泉キャンプファイヤー（昭和29年7月）

[高] 7/22
12年生



志賀高原　高校　前山の草原地帯を行く（昭和31年）➡



⬅
志賀高原　高校　熊の湯温泉前フォークダンス（昭和31年7月25日）



27回生
高・12年生 ➡

東北旅行　高校12回生　蔦沼（昭和34年７月）

⬅東北旅行　高校12回生　十和田湖畔（昭和34年７月）



(27) 高12年生

高・12年生（32回生）

⬇東北旅行　高校17回生　酸ヵ湯（昭和39年７月23日）



高11年生 37回生

東北旅行　高校22回生　青森萱の高原（昭和43年７月）⬇



ウォーキングレース記録表

駅名	班　名	リーダー名	所要時間	順位	駅名	班　名	リーダー名	所要時間	順位
立川	1	滝　川	2時間19分30秒	1	国分寺	1	片　山	1時間41分 0秒	3
	2	小　森	2時間08分 0秒	失格		2	平　野	1時間30分 0秒	1
	(分裂)	布　施	2時間20分 0秒	失格		3	宮　崎	1時間40分 0秒	2
	3	安　立	2時間24分30秒	2		4	藤　本	1時間49分 0秒	失格
	4	小　平	2時間46分 0秒	5		5	青　木	1時間55分 0秒	5
	5	川　井	2時間32分 0秒	4		6	山　口	1時間45分15秒	6
	6	富　平	2時間30分 0秒	3		7	中　村	1時間45分10秒	4
国立	1	大　塚	1時間59分 0秒	1	人金井	1	竹　内	1時間29分 0秒	2
	2	石　井	2時間16分30秒	失格		2	猪　俣	1時間35分 0秒	3
	3	長　田	2時間08分 0秒	2		3	渡　辺	1時間36分 0秒	4
境	4	田　代	0時間42分 0秒			4	多　田	1時間16分 0秒	1

(昭和30年6月6日「黎明」28号から)

(5) 高校の修学旅行

高校の修学旅行は昭和23年から実施している。当時，12年生は1クラスであったので付添の先生も少く，船山博彦が主任として箱根に行った。以後，昭和32年まで蓼科・志賀・裏磐梯等別表のとおり最終学年で実施した。33年に東北旅行を行った後，毎年違うところへ行くより同じところへ行く方が，見学も充実し行先の不案内なところより効果があるという意見が職員の大勢を占め，昭和43年まで修学旅行は東北地方に行った。学年も最終学年のあわただしい時よりも11年で実施した方がよいということになり，昭和41年から11年で東北旅行をすることになった。同時に最終学年の楽しい思い出になる旅行という感じから見学に重点をおく旅行になり，出発前に先生と生徒が一緒にパンフレットをつくり，充実した旅行をするように工夫されるようになった。

例えば昭和37年のパンフレットを見ると，男鹿半島・八郎潟・八甲田山・十和田湖の地形や産業の解説が，日程や地図とともに記載されている。戦後，団体行動の訓練が抑圧されたなかでの修学旅行であったから，付添の教師は団体的規制をつくって無事に旅行をするように努力した。この点戦前とは違った苦労があった。このパンフレットの冒頭に旅行10戒というのがある。

1　汽車からコボレルベからず。

2　理由なくして人数がへったりふえたりするべからず。

3　理由なくして荷物がへったりふえたりするべからず。

4　日本海・十和田湖の水を飲みすぎるべからず。

5　仲良くしすぎたりしなさすぎたりするべからず。

等10箇条の注意が書いてある。そして，最後に

10　教師の命令は天皇陛下の命令と心得べし。とある。当時の教師の苦労がしのばれる。

昭和44年の修学旅行は画期的なものであった。この年は伊豆に行き，先生と生徒，明星の生徒と下田北高校の生徒との話し合いをした。この旅行が終った後「伊豆」というパンフレットを出している。その中で教諭の内藤一は次のように書いている。

……前略……従来の月並な修学旅行は僕の考えている限りでは，鉄道，バス，観光業者，待ちかまえる他境の風土，それらに全く貴方まかせといった主体性のない1週間という時間の集積であったように思える。

こうした反省から，修学旅行を話し合いの場にした合宿旅行にかえたのである。

……前略……11年初頭のホーム・ルーム活動として，「何のために生きるのか，またどのように生きたいか。」という生甲斐，生き方の探究として課題化されたのは既に承知のとおりである。その後のホーム・ルームは一貫してそのことをめぐっての展開であった。

だから，合宿旅行そのものが，そうした意味での教科外指導の一つの頂点として考えられていたわけだ。こうした位置づけで合宿旅行を行なった。そして，伊豆の下田北高校の生徒とは制服・友情・自由について話しあった。「伊豆」に掲載されている片岡明子の文に「最後に〈自由〉ということについてだが，北高生は，未熟な高校生である以上，今は先生たちからの押えつけがあっても良いという考えであり，明星生は，先生は押さえつけるのではなく，横から見守るようにして，生徒を引っぱっていくものだということになった。」と書いている。

翌年も蔦温泉で合宿旅行が行なわれた。最近，生徒数が増加し，一斉に旅行を行うことが困難になってきたことと，内容の充実をはかるために新しい形の修学旅行が考えられている。単なる観光旅行ではなく，明確な目標をもついくつかの計画をたて，生徒がそのどれかを選ぶ，目標別の旅行がその一つである。昭和23年以来続けられている修学旅行は現在曲り角にきているといえよう。

（堀淳二記）

高校修学旅行一覧

年度（昭和）	行先	付添	年度（昭和）	行先	付添
23	箱根	船山	27	志賀高原	横川尚・大庭・武者小路穣・上田八一郎・船山・土屋・坂本
24	箱根	船山・上田八郎・横川尚			
25	蓼科	上田八一郎・堀・押川・横川武	28	裏磐梯	上田八一郎・横川武・加藤・土屋・堀・坂本
26	塩原・那須	上田八一郎・上田八郎・角館・柳沢・北川	29	高山・平湯・上高地	上田八一郎・横川尚・押川・角館・田中・坂本・松井・林

年度(昭和)	行　先	付　添
30	平泉・十和田	上田八一郎・上田八郎・柳沢・船山・大類・武者小路穣・坂本・松井
31	志賀高原	船山・武者小路穣・土屋・坂本・松井
32	東北	柳沢・横川武・角舘・堀・幡野・松井
33	東北	柳沢・大類・岸・上田八郎・横川尚・武者小路穣・松井・伊藤明磨
34	東北	船山・柳沢・加藤・大類・松井
35	東北	松本・海津・渡辺信一・堀・大平
36	東北	横川尚・井口・岸・相良・上田八郎・田口・加藤・千田
37	東北	柳沢・海津・田代・鈴木満男・武者小路穣・相良・大平・松井
38	東北	恩地・堀・村崎・鈴木満男・宮川・岸・大平・松井
39	東北	井部・押川・渡辺信一・上田八郎・田崎・吉川・原田・松井
40	東北	堀・井口・柳沢・土屋・福永・鈴木満男・吉川・大平・松井
41	東北(12年生)	鈴木満男・早田・武者小路穣・川原・田代・土屋・岸
	東北(11年生)	恩地・伴・内藤・池上・井口・田崎・加藤・木原・近藤・松井
42	東北	恩地・渡辺信一・村崎・上田八郎・早田・柳沢・吉川・鈴木幸子・大貫・渡辺貴美技・松井
43	東北	堀・高橋昭八・井部・土屋・鈴木雅子・木原・鈴木満男・田代・大平・渡辺博司
44	伊豆	海津・内藤・伴・高木・野口・葛城・鈴木幸子
45	蔦	上田八郎・田崎・江本・渡辺信一・佐藤嗣男・土屋・大平・大貫
46	●グループ別 東北 黒四・高山 上高地	堀・井部・鈴木雅子・土屋（その他ＯＢ）
47	東北	高橋・野口・佐藤嗣男・葛城・内藤・木原・大平・岸・片岡
48	●ホーム・ルーム別 十和田 十和田 能登 十和田 高山 能登・乗鞍	渡辺信一・吉川・椎名・渡辺京・田崎・柳沢

5　学　芸　会

(1)　小学部の音楽と舞踊の会・演劇の会

明星学園という一つの教育道場の実体を，総合的に学園以外の人たちにも理解してもらうため，毎年度の収穫物を展示するとしても，ことごとくを具体的に並べて見せるわけには，技術上どうしても無理がある。

それで芸能教科である図画工作・手芸・裁縫の展示会。劇・舞踊・音楽の発表会。体育教科を編成する体育会。科学的教科としての理科における標本・図表。社会科の調査資料・各種模型・図表などは展示できるが，数学・国語などは指導の実際をみてもらう以外にどうすることもできない。

昭和10年～20年には“卒業生送別学芸会„の会を３月17，18日にもって音楽と舞踊の発表会を，また国家の祝日――１月１日(元始祭)，２月11日(紀元節)，４月29日(天長節)，11月３日(明治節)には“演



卒業送別音楽会（昭和8年3月）

劇の会„を定期にやり，開校記念日には校外の施設を利用して開催したこともある。

当時の催物のプログラムの1，2を例示し，その催物の基盤であり背景でもあったそのころの演劇教育の内容についてふれてみる。

卒業生送別学芸会（昭和9年3月17日）

プ　ロ　グ　ラ　ム

1	合　唱	かえりましょう・ひこうき	1年　全体	13	合　唱	みかん船・愛国の歌	6年　全体
2	合唱	きのこ取・兎さん	3年　高橋・西野入	14	ピアノ	露のワルツ	5年　岡
3	合　唱	春風吹けば・秋の田舎	4年　全体	15	舞　踊	春	4年　有志
4	ピアノ	支那の灯ちん行列	5年　森	16	独　唱	兵隊さん	1年　大久保
5	舞　踊	すずらんの歌	3年　有志	17	合　唱	朝のうた	4年　大津・武井
6	合　唱	うぐいす・那須の余一	2年　全体	18	独　唱	雀のお使い	2年　照井
7	独　唱	電車ごっこ	3年　明吉	19	ピアノ	行進曲	6年　田中
8	合　唱	梅・山彦	5年　全体	20	舞　踊	煙のおどり	5年　有志
9	ピアノ	猟の歌	4年　恩地	21	独　唱	雁	3年　林
10	舞　踊	飛躍	6年　福原	22	独　唱	燈台守の娘	6年　福原
11	合　唱	四匹のお馬・くりから谷	3年　全体	23	舞　踊	あの山かげ	6年　有志
12	独　唱	軍馬隼号	5年　横川	24	合　唱	湖上の月・この君この国	5，6年　女

(2)　10周年記念の学芸会

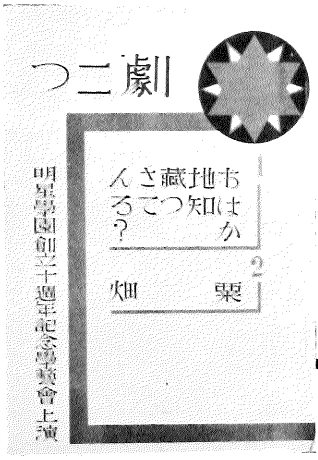
小学部・高女学部・中学部合同の学芸会は，神宮外苑の和やかな5月晴の午後，日本青年館で予定どおり公演された。関口典之・照井げん両先生指導の音楽の部に幕を開けて，石井小浪先生指導の舞踏，いずれも皆場所怯もせず，照井猪一郎先生指導の劇で終幕となった。(来場者2千名，当時の全学園の児童生徒総数400名)

記念学芸会（10周年記念・昭和9年5月19日・於日本青年館）

プ　ロ　グ　ラ　ム

第1部　音楽　指導　関口典之・照井げん

1　合　唱　　小学部　4年
　イ．5月・浜辺
2　合　唱　　女学部生徒
　イ．雁　　尋常小学唱歌　編曲　宮原禎次
　ロ．新興日本・少女の歌　　詩　渡辺蝶作　曲　近衛秀麿
　ハ．希望のささやき　　訳詩　中群節二　曲　納谷一郎
3　合　唱　　小学部5・6年女
　イ．かくれんぼ　　詩　永井花木　曲　中山晋平
　ロ．山彦　　曲　福井直秋
　ハ．山百合　　詩　川路柳紅　曲　山田耕筰
4　独　唱　兵隊さん　　小学部1年
5　合　唱　　小学部　5・6年
　イ．麦　打
　ロ．竹取の翁　　詩　北原白秋　曲　山田耕筰
　ハ．鷲
6　合　唱　　女学部有志



イ．夢　　歌　佐藤誠実　曲　シュウマン
ロ．賤が伏屋　　歌　永村農三　曲　マゲンギ
7　独　唱　　小学部2，3年
イ．竹の子　　2年
ロ．白　帆　　3年
8　合　唱　　女学部有志
イ．輝く5月　　詩　桑田つねし　曲　ブラームス
ロ．桜町　　詩　佐藤誠実　編曲　山田耕筰

第2部　舞　踊

指　導　石井小浪

1	荒城の月	歌　土井晩翠　曲　滝簾太郎　女学部生徒
2	小鳥の唄	女2年
3	春風	小5年
4	鳥籠	歌　百田宗治　曲　中山晋平　女学部2年
5	昭和の子供	歌　久保田宵二　曲　佐々木すぐる　小学部4年
6	姉妹	女5年
7	夕日	歌　葛原しげる　曲　室崎琴月　小学4，5，6年
8	ギャロップ	女3年
9	サンタ・ルチヤ	ナポリ民謡　小6年
10	飛躍	シューベルト　女1年
11	証城寺の狸噺子	歌　野口雨情　曲　中山晋平　小学部4年
12	澄み渡の空	女4年

第3部　児童劇

1　お地蔵さんは知ってるか

（所要時間20分）

作品指導　照井猪一郎
曲　吉原　規
出演児童　小学部児童

第1景　朝の楽

明朗な朝の気分と無邪気でユーモアリスクな子供の生活

出る者

太郎　2年男　　朝子（太郎の妹）　2年女
春子　4年女　　一郎（春子の弟）　2年男

第2景　昼の森

物皆気だるい昼の日盛りを行くダレ切った蟻の行列。何の自覚も統制もない集団が慣習でのみ動いているナンセンス。

出る者

蟻の大将　4年男
黒蟻の兵隊大勢　（男子）2・3年男
赤蟻の兵隊大勢　（女子）2・3年女

第3景　夜の森

グロテスクな夜の森の一スナップ，義道と安息と飽満のない自然界の縮図

出る者

めくら蜘蛛の親　5年男
その子（女）　5年女
火取虫　4年男
蛾　3年女
かまきり　4年男
梟　3年男

2　粟　畑

二幕二場（所要時間45分）

作品指導　照井猪一郎
曲　吉原　規
舞踊振付　石井　小浪
出演児童　小学部児童

出る者

百姓のお父さん　6年男
その子（男）　6年男
（女）　5年女
牡　鶏　5年男
牝　鶏　6年女
雛子（五羽）　2年男女
ポ　チ　6年男
ひき蛙　6年男
雀大勢　3，4，5，6年男女
案山子　6年男
父　雁　6年男
母　雁　6年女
子雁（4，5羽）　2年男女



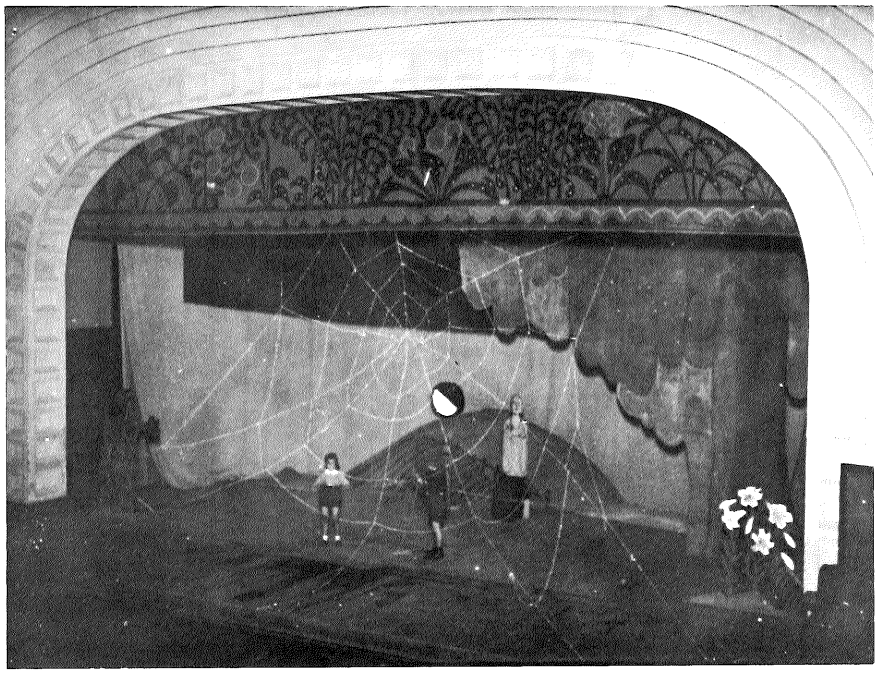
⬆女学部合唱　創立10周年記念学芸会　青山青年館　関口典之指揮（昭和９年５月19日）



⬆女学部舞踊　石井小浪指導(昭和９年)

お地蔵さんは知ってるか　小学部児童劇　創立10周年記念学芸会　青山青年館で　照井猪一郎作指導

⬇（昭和９年５月19日）



(3) 学校舞踊　——宮操子・石井小浪——

昭和6年6月から宮操子を招いて毎週水曜日に小学部の女児60名を2部にわけて指導した。
新しい学校舞踊の世界を開拓しようとする研究的態度でなされた。
宮操子がドイツへ外遊なされたあと，石井小浪を迎え，女学部の生徒を課外に指導した。

(4) 演劇の会一覧表

年	月	部	作品・作者・脚色者	主な指導者	会場・施設・その他
一九三四(昭和9年)			「粟　畑」（照井猪一郎　作）		創立10周年記念。
			「お地蔵さんは知ってるか」（照井猪一郎　作）	照　井	日本青年館にて上演。
		旧中	脚本朗読会　「ドンキホーテ」	内　野	中学校演劇研究会発足。つづいて「峠」を朗読。
		小	「影三題」		蚕糸会館にて上演。
			「海幸山幸」（照井猪一郎　作）	照　井	
			「空と土の声々」（内野　論）	内　野	生徒の作文，詩等を編集したもの。明星生活をえがく。
一九四〇～一九四三(昭和15～18)年		旧女	「峠」（佐藤加寿輔　作）		この頃女学校は船山氏指導によって「トロット」「ステラダラス」等上演。 このころ卒業生の演劇グループが「道」「みごとな女」（森木　薫）等上演。
		旧女	「森の仲間」（生徒小平　作）	平　林	
			「ポールとヴィルジニー」		
		旧女	人形劇　「ハサン・爆音」	恩　地	
			人形劇　「ファウスト物語」	恩　地	学徒動員のために中絶。
一九四四～一九四五(昭和19～20)年			四大節の劇　「桃太郎」「金のとび」「国ゆずり」等	照　井 佐　藤	空襲の日ましにはげしさを加えるころ，創立記念日を祝って，今の小中講堂で強行した。劇の他に音楽・舞踊等もあった。工場に動員中であった生徒たちは，仕事がおわってから5時すぎて練習をした。今の中学校舎には工場が疎開していた。　8月15日　終戦。
	5月	旧女	「1を12倍するのと12を1倍するのと」（久保田万太郎）	恩　地	
	12月	旧女	「そらまめの煮えるまで」	恩　地	終戦となりいち早く，文化祭としてひらかれた。文化祭の名はその後，どこでも使われ出したが，これは早かった方だった。後に小学校を加え，展覧会・体育会とともに明星祭とよばれるようになった。暗転のための幕がなく全生徒から新聞紙を集めて遮光した。
		旧中	「イワンの馬鹿」（トルストイ・船山脚色）	末　光	
			他　寸劇2つ	船　山	
一九四六(昭和21)年	5月	旧中	「ヴェニスの商人」（シェクスピア）	恩　地	旧中学校ではこの頃から，船山氏教務に追われ，押川氏着任まで，15回生服部貞夫が中心となって，活動していた。
		旧女	「あかげ」（ルナール）		
			「森の仲間」（小平〈女生徒〉作）		この「森の仲間」の如く，生徒の創作脚色になるものの上演がしばしば見られる。
			他　寸劇		
	10月	旧中	「真　似」（菊地　寛）		この頃女学部は演劇部があったが，中学部は会のある時に同好者が集って組織していた。やがてこれが演劇部を作った。
		旧中	「群　狼」（ロマンローラン）		

年	月	部	作品・作者・脚色者	主な指導者	会場・施設・その他
一九四六(昭和21)年		旧中	「白雪姫」（脚色恩地） 「犬」　（チエホフ） 「幸福を見つける会議」（恩地邦郎作）	恩　地	この頃演劇に参加する生徒は男女とも多かったが，既製の戯曲では，むずかしすぎるものが多く，児童劇ではものたらず，しばしば教師の脚色創作が試みられた。
一九四七(昭和22)年	3月	旧女	人形劇「ファウスト」（ドイツ民話）	恩　地	戦時中，中絶したプランを再現，裁縫室で上演，小学生を招待した。 この4日より新制中学校・新制高等学校となったが，この1年のみ女子は中学校校舎にて授業。
	6月	中女（新高になる）	「マテオファルコーネ」（メリメ） 「海」（16回生海老沼　作）		これまで合同公演の形であったが，始めて男女まざった劇が上演された。
		新中	「狐の裁判」（脚色　恩地） 「青い鳥の一場」（メーテルリンク） 「セーラ・クルー」（脚色　後藤）		この頃までは戦争中文化的なものに遠ざかっていた生徒たちが反動的に熱中していたが，内容はともかく，自治的な気風が自然に育成されていった。 16回後藤遥子，17回斎藤庄三等が中心であった。
	11月	高中	「シュティルフーゼル峠」（脚色佐藤加寿輔）	船　山	この時から明星祭と称した。 映画教室用のしゃ光幕がはいり照明もそれまでの1，2燈のものからやや照明らしい効果をあげた。
		中高	「出発」（恩地邦郎　作） 「1を12倍するのと12を1倍するのと」（久保田万太郎）	恩　地	「シュティルフーゼル峠」は明星の舞台には3，4回かかっている。「1を12倍……」も同様。 この「峠」の成功から，段々，見られるものとして評価され始め，教育的効果に加えて，上演の効果に力が加えられてきた。
一九四八(昭和23)年	2月	中	「モルモット」（寺島アキ子　作）	恩　地	25周年を迎えての増築のためのバザーの余興としてのものであったが，かなり，社会批評をふくんだ内容のものであった。
		高	「山　彦」（三好十郎　作）	押　川	高校生には指導に頼らず，自分たちの好きなものをやっていきたい気持と，正しい指導のもとに堅実にやろうとする方向との矛盾からこのような二つ分離した発表がもたれた。
		高	アルルの女		
		中	「4人姉妹」（3年多賀脚色） 「白雪姫」	恩　地	中学校は，年齢の半端なことと新しい組織（この年に中高男女入れかわり）のため，脚本選択の困難があった。
		小	「ほくち箱」	佐　藤	
一九四九(昭和24)年	7月	高	「アルトハイデルベルク」		これは中・高の演劇部によって自治的に持たれた研究発表であった。
			「小さな貴夫人の一生」（2年高見沢　作） 「牧場の春」	恩　地	この頃中学校の演劇部の中にテアトロと称する新聞が発行された。
	11月	高	「吹雪は光る」（武者小路　作）	武者小路	市ケ谷家政学院講堂にて上演，戦後始めての校外出演のため関係者は非常に苦労した。
		高	オペレッタ 「新　浦島太郎」（生徒協同作品）	押　川	舞台の上での練習は許されず，舞台装置はすべてトラックで運搬した。そのため予定どおりの進行ができなかった。
		中	「詩人リリークとあり」（恩地邦郎　作）	富　永	
		小	「アラディンと不思議なランプ」（佐藤加寿輔　作）	恩　地 佐　藤	
一九五〇	5月	中	「あかげ」（ルナール） 「青い鳥」（1部）		前年同様の研究会として行われた。
		高	「赤ずきん」		

年	月	部	作品・作者・脚色者	主な指導者	会場・施設・その他
(昭和25)年	11月	高 高 中 中	「外向168」 人形劇 「オッペルと象」（生徒脚色） 「4人姉妹」（恩地脚色） 「小公女」	武者小路 押　川 恩　地	中小部に放送施設ができたため講堂まで電源がはいり照明等，従前より簡単になってきた。中学の演劇部は，ますます，男子が少なく，女子が3，4倍もいるので，脚本の選択に苦労があった。
一九五一(昭和26)年	5月 11月	中 高 小	「やけあと」（斎田　喬　作） 「青い鳥のゆくえ」（恩地邦郎　作） 「おふくろ」（田中千禾夫　作） オペレッタ　（生徒共同作品） 「影」（照井猪一郎　作）	恩　地 武者小路 押　川 富　永 照　井 寒　川	研究会は中学校だけとなったが，これは次第に3月の送別行事に移行した。 特に高校は受験準備の関係から中心は2年生に移った。 小中高ともに創作劇か身近なテーマのもの，童話風のものが多くとりあげられ，以前見られた西洋物は見られなくなった。 ＰＴＡより多少の異論はあったが予算に計上され舞台幕が新調された。
一九五二(昭和27)年	3月 5月 11月	高 3部 合同 高	「寒　鴨」（真船　豊　作） 「杜子春」（脚色　恩地） 放送劇（文化放送より） 「山のおせっちゃん」（恩地邦郎　作） 「我が家」（森本　薫　作）	 富　永 押　川 恩　地 恩　地 武者小路	5月の研究会はなくなったが，定例行事となった3年生の送別会に2年が主となって上演した。照明・効果も念の入ったものになって来た。 かねてからの要望から各部の劇指導者の考えが，「杜子春」に一致して，3部合同劇が実現した。音楽もピアノ外に管・絃の楽器を加え，合唱団をふくむ総参加人員は百名を越えた。 1月に脚色にかかり，4月，5月の休日を返上してのがんばりであった。 担当無理もあったので，各方面に波紋と影響をあたえ，合同劇可否の論議は翌年まで持ち越された。この頃，中学生が工作として照明器具を製作した。
		中 小	「ハサン」（アラビアンナイトより） 「ずんぐり」	恩　地 寒　川	
一九五三(昭和28)年	3月 5月 11月 12月	 高 3部 合同 高 3部	「山頂にて」（恩地邦郎　作） 「たけくらべ」 「イーハトーヴォ物語」（共同脚色） 人形劇 「水車小屋物語」（ドーデー作文芸部脚色） ＰＴＡ脚本朗読 「ども又の死」（有島武郎　作） 「テレビドラマ」（日本テレビ） 「緑のバイブル」（共同執筆）	恩　地 武者小路 鈴　木 寒　川 恩　地 武者小路 押　川 小笠原 木　村 他職員 多　数 押　川 寒　川 鈴　木 恩　地 佐　伯	前年放送劇を依頼されて学園の放送施設改善が必要とされ，学校放送への準備すすむ。 宮沢賢治作の童話から，三郎の指導者の分担執筆および指導。音楽は全部生徒の合奏によった。指導者のほか総務・庶務をおき創立記念日祝賀の行事とされた。 しかし反省会の結果，「明星祭の劇の部門を春にまわして，創立記念日の祝賀をかねて，必ずしも3部合同の形をとらない」となった。 この会の前にＰＴＡより，暗幕・中幕・背景幕等おくられ，上演効果を非常に助けた。 始めてのテレビ出演にもかかわらずまとまりよくできた。
一九五四	3月	高 高 高 中	「驟　雨」（岸田国士　作） 「太郎の死」（恩地邦郎　作） シュプレッヒコール　「千代の手紙」 「樹　氷」（洲之内　徹　作） 音楽劇　「白雪姫」（恩地邦郎　作）	武者小路 恩　地 武者小路 恩　地 小笠原	合同劇が役だったのが，25周年の時の如き進行・連絡上の不備はなく，円滑に運営された。

年	月	部	作品・作者・脚色者	主な指導者	会場・施設・その他
(昭和29)年	6月	小 小中	「粟　畑」（照井猪一郎　作） テレビドラマ(日本テレビ)「く　つ」（鈴木　作）	鈴　木 佐　伯 寒　川 鈴　木 佐　伯	テープレコーダーが購入された。

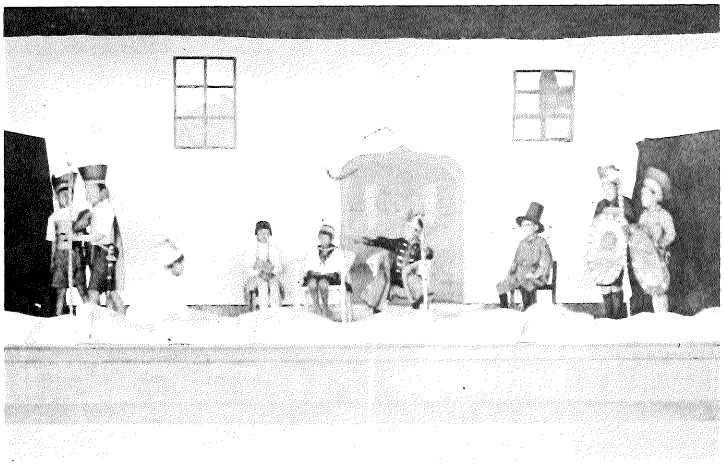
年	月	部	作品・作者・脚色者	主な指導者	演　出	出　　演	会場・施設・その他
1957 (昭和32)年	秋	高	「三年寝太郎」木下順二作		数馬迪子		中等部講堂
1958 (昭和33)年	秋	高	「消えたバークシャー」	島田　厚	平野	芦田淳・百々瀬朝栄	本校講堂
1959 (昭和34)年	春	高	「若年」佐々俊之作	相良晴彦	佐竹義秀	芦田淳・百々瀬朝栄	（明星学園創立35周年）本校講堂
1960 (昭和35)年	春 秋	高 高	「麦踏み」北条秀司作 「おふくろ」田中千禾夫作	相良晴彦 相良晴彦	芦田　淳 芦田　淳	山内周子・陣内光 小森珠子・雨宮風夫	中等部講堂 （文化祭公演）本校講堂
1963 (昭和38)年	11月	高	「ひとりっ子」阿部公房作	池上日出夫	倉田愛地	榎本好男・西垣環子・倉田愛地・平井淳司・佐藤明子・井上登・原賢二・スンボ	武蔵野公会堂
1964 (昭和39)年	2月	高	「ひとりっ子」阿部公房作	池上日出夫	倉田愛地	榎本好男・西垣環子・倉田愛地・平井淳司・佐藤明子・井上登・原賢二・スンボ	武蔵野公会堂・初演を観劇された中等部の父兄から，ぜひ中等部生徒にも観劇させて欲しいとの要請によって再演を決定。
1965 (昭和40)年	2月26日	高	「島」	池上日出夫	倉田愛地	羽鳥秀雄・太田京子・小町恵子・八木聴子・菅沼恭子・渡辺進・平川信一・佐々木康男・和田良信	武蔵野公会堂
1966 (昭和41)年		高					演劇部室を現在の場所にかまえ，アトリエ公演・試演会等，小公演をも打てるよう，また普段も舞台を置き，稽古場としても利用できるよう設計し，木造平屋校舎を改造する。
1968 (昭和43)年	10月18日	高	「赤い雪」試演会	佐藤嗣男	是枝正彦	大野敦子・岡田京子・野口モモ子・片岡明子・伊藤ふみ子・山下織香	演劇部室・スタッフ和田仁・高崎勝彦・鈴木清一・原美江子・三宅愛子・富永真知子・丹田利由子・増山真理・瀬田真理子 （3月6日）この年度から「劇と音楽の会」開催・今，子供たちがはりきってやっていること，3月6日の発表会めざしての練習です。内容については更めてお知らせする機会もありますが，学年単位の構成で，民話・童謡を主題にして，武蔵野公会堂ステージで発表いたします。子供たちの創造性表現性・活動性・集団性を育てる芸術的表現活動は，学園教育の体質的側面といっていいものでした。それがしばらく教科研究探究の必

年	月	部	作品・作者・脚色者	主な指導者	演　出	出　　演	会場・施設・その他
							要性から保留にされていましたが，これに息吹きを与えて新しい生命に育てたいということから，発表会を持とうという念願は，一昨年の研究発表会計画の中で胎動し始めたものでした。それが今回ようやく点火されたということでしょうか。これからいろいろとお願いすることもあるかと思いますが，ご諒承くださったうえ，成果をお待ちください。（'68・2月15日「初等部だより」No. 1 から）
1969 (昭和44)年	9月	高	「おしのユミリュウス」アヌイ作・アトリエ公演	佐藤嗣男	大野敦子	下野川格・庄司桂子・鈴木清一・大野敦子・野口モモ子	演劇部室・スタッフ 増山真理・乾くに子・富永真知子・丹田利由子
		初	三鷹公会堂にて上演				
	11月	高	「青春裁判」永島慎二原作・乾くに子脚色	佐藤嗣男	乾くに子	是枝正彦	演劇部室
1970 (昭和45)年	2月21日	高	「狐噌」早坂久子作	佐藤嗣男	乾くに子	丹田利由子・富永真知子・野口モモ子・竹中重美	浜田山公会堂・スタッフ庄司桂子・秋野嘉郎
	3月14日	初	「かにむかし」2年生・木下順二作 「こぶとりじいさん」1年生 「ききみみずきん」3年生・木下順二作 「たにし太郎」4年生・木下順二作				舞踊指導桑田貴子・宮操子 三鷹公会堂にて上演
	7月18日	高	「花火」林黒土作	古川匡代	服部　宏	小野佳子・久保忠佳・大西多摩恵・伊東恵子・金沢文世・京みゑ子	演劇部室・スタッフ 後藤文夫・秋野嘉郎・宮本真理子・照井達也・山内益美・野坂まり・菊川えま
1971 (昭和46)年	2月20日	高	「ガラスの動物園」テネシー・ウィリアムズ作	古川匡代	久保忠佳	宮本真理子・大西多摩恵・後藤文夫・久保忠佳	武蔵野公会堂・スタッフ小野佳子・秋野嘉郎・山内益美・服部宏・照井達也・伊東恵子・野坂まり
	3月9日	初	「もりの学校」1年生 「うさぎの目玉」2年生・落合聡三郎作 「森のおとしもの」3年生 「ごんぎつね」4年生・新美南吉作				三鷹公会堂にて上演
	7月19日	高	「誰にも聞えない夜」アトリエ公演	上川　淳	能州　彰	服部宏・柳幸枝・久保忠佳・能州彰・榊原あけみ・瀬川佳子・梅津久美子・海藤和・伊藤由理子	演劇部室・スタッフ 榊原あけみ・海藤和・柳幸枝
	12月16日	高	「黄色いパラソルと黒いコーモリ傘」別実作	上川　淳	久保忠佳	能州彰・丸山律子・天羽美知代・久保忠佳	高円寺会館・スタッフ山崎望
1972 (昭和47)年	2月27日	初	「あたらしいともだち ロボットくん」1年生・富田将之作 「むかしの木ホテル」2年生 「うりこひめとあまんじゃく」3年生 「にげだした冬の精」4年生・富田将之作	初等部全職員			武蔵野公会堂にて上演
1973 (昭和48)年	2月10～11日	初	「かにむかし」1年生・北島春信作 「山びこたち」2年生 「鷹の巣とり」3年生 「笠こ地ぞう」4年生	初等部全職員			武蔵野公会堂にて上演

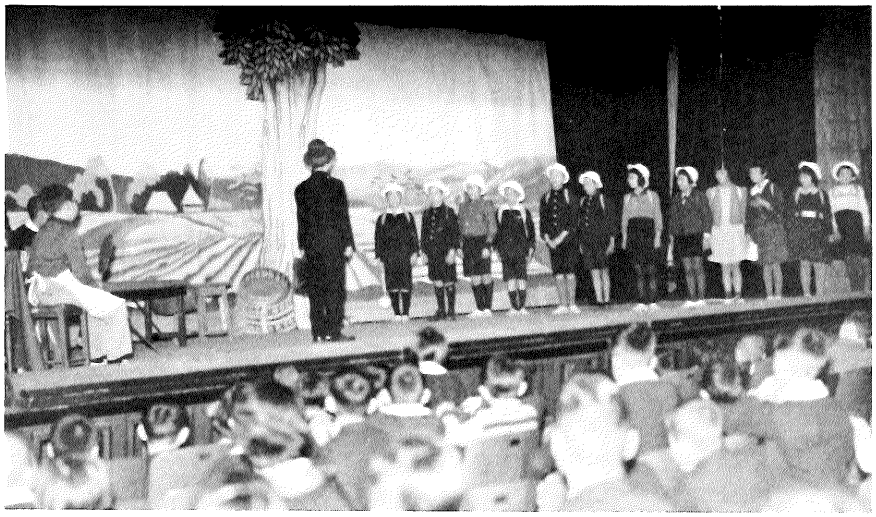


⬆**安寿・厨子王**　女学部学校劇　（昭和５年３月）

⬇**退屈な王様**　小学部　（昭和６年５月学校記念日）

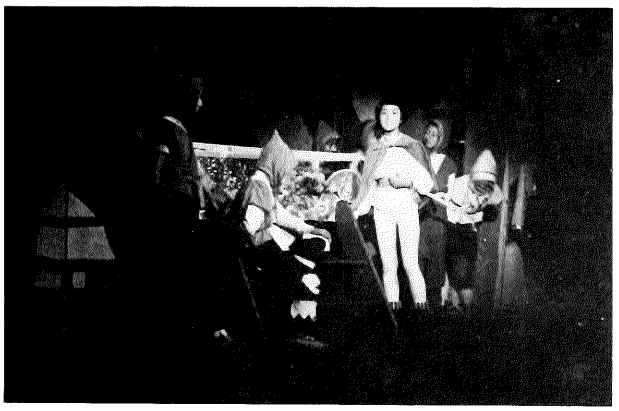


⬇**影る景**　小学部児童劇　照井猪一郎指導　（昭和12年）



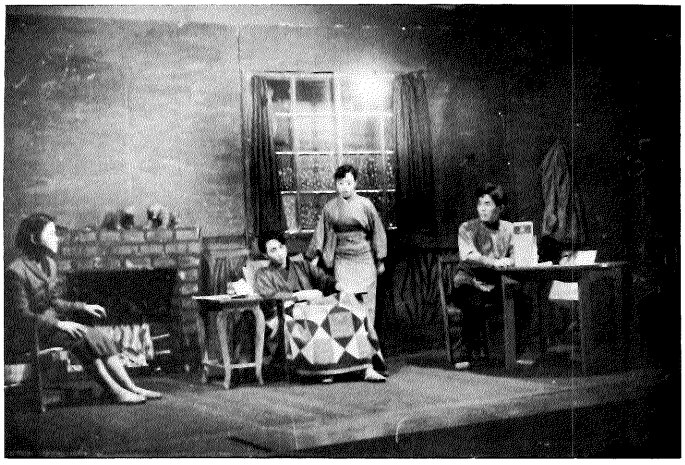
白雪姫　小学校児童劇　創立30周年記念　恩地邦郎指導（昭和29年）







⬆チビクロ・サンボ　1年生　（昭和43年）



樹氷　高校　創立30周年記念演劇
武者小路穣指導（昭和29年）



⬆**鷹の巣取り**　3年生　（昭和48年）

⬇**皇帝のきもの**　3年生　（昭和43年）



⬇**兎の目玉**　3年生　（昭和45年）



(5) 小・中・高の音楽プログラム

音 楽 会　日時・昭和24年11月1日　場所・本校講堂　讃助出演・武岡鶴代・遠藤政之
指導・富永三郎・小笠原良一

第 1 部

1．合唱　小学5，6年生
　秋が来る……小林福子
　こ だ ま……〃
　輪唱と合唱で歌おう……岡本敏明
2．ピアノ独奏　小学5年　安芸彊子
　ソ ナ タ……モツアルト
3．女声合唱　高校2年生
　夢……シューマン
　人魚の歌……グロヴァー
4．ヴァイオリン独奏　中学1年　柏倉邦子
　ハンガリアン舞曲第五……ブラームス
5．混声合唱　国立音楽学校生
　僧院の庭……ボヘミヤ民謡
　美しい北の町……ロ シ ヤ〃
　ケンタッキホーム……アメリカ〃
　小学唱歌連曲……日　本〃
6．オーボエ独奏　高橋和夫
　シムプルエヴィユー……トーマ
　マドリガル……スィモネッティ
7．二重唱　ソプラノ　武岡鶴代
　歌劇「ドンジョヴァンニ」中より
　……バリトン　小笠原良一
　その手をわれに
　……ピアノ伴奏　友谷和子
　歌劇「魔笛」中より……モツアルト
　パパゲナ　パパゲノの二重唱
　……モツアルト
（休　　憩）

第 2 部

1．女声合唱　中学音楽部員
　山　彦……ラ ッ ソ
　妹　に……スコット
2．ピアノ独奏　小学6年　井上京子
　幻想即興曲……ショパン
3．混声合唱　中学3年生
　故郷を離るる歌……ドイツ民謡
　閃めく星……〃
　マドロスの歌……〃
4．フリュート独奏　遠藤政之
　荒城の月……瀧　簾太郎
　ハンガリヤ田園詩奏曲……ドップラー
5．ソプラノ独唱　武岡鶴代
　伴奏　友谷和子
　こ の 道……山田耕筰
　夜の調べ……グーノー
　子 守 歌……ブラームス
　乾杯の歌……ヴェルディ
6．混声合唱　国立音楽学校生
　うれいを知らぬ……加藤　直
　秋 の 夜……ライヒアルト
　流浪の民……シューマン

小・中の音楽会　於学園の講堂　挨拶しているのは照井校長　（昭和24年11月）





学園音楽会　於東京女子大講堂　（昭和31年11月）

音　楽　会　日時・昭和31年11月18日　場所・東京女子大学大講堂　指導・照井げん・北川富江・山里恒子・小笠原良一

1．合奏付合唱　合唱　小　5　年　生　合奏　小6，1年生
「小学唱歌集」より
こいのぼり……西宮森太郎編
おぼろ月夜……〃
ふるさと……〃
冬景色……〃

2．木琴二重奏　小5　船山史子　〃　山下滋子
ユーモレスク……ドヴォルザーク
ガボット……ゴセック

3．斉唱　小　1　年　生
めだかの学校……中田喜直
たきび……渡辺　茂
さようなら……ドイツ民謡

4．マンドリン・ハーモニカ合奏　中　2　年　生
荒城の月変奏曲……浜館菊雄　編
カッコーワルツ……〃

5．合　唱　小　3　年　生
てじな……フランス民謡
もみじ……文部省唱歌
子鹿のバンビ……平岡照章

6．ヴァイオリン合奏　小・中・高　有志
メヌエット……バッハ
ブーレ……ヘンデル

7．合　唱　小　4　年　生
楽しい合唱……岡本敏明
ピアノおけいこ…
……西崎嘉太郎
歌おう二部の合唱で
……岡本敏明

8．木琴二重奏　中3　宮下淑子　〃　中沢久美子
セレナーデ……シューベルト
ハレルヤ……モーツアルト

9．合奏付合唱　合唱　小　2　年　生　合奏　小6，2年生
どんぐりころころ…梁田　貞
木の葉……〃
しょうじょう寺の狸ばやし
……弘田龍太郎
文のこえ……文部省唱歌
きしゃぽっぽ……草川　信

10．ピアノ連弾　中3　安芸礼子　〃　日高昭子
ソナタ変ロ長調……モーツアルト

11．合唱　小　6　年　生
旅愁……オードウェイ
狩人の合唱……ウェーバー

12．合奏　小　5，6　年　生
「行進曲集」より
足なみそろえて……飯田秀一編
ドイツ……小池政雄編
学校の庭……渡辺浦人

13．合唱　中　1，2，3　年　生
家路をさして……ドヴォルザーク
収穫の秋……クルシュマン

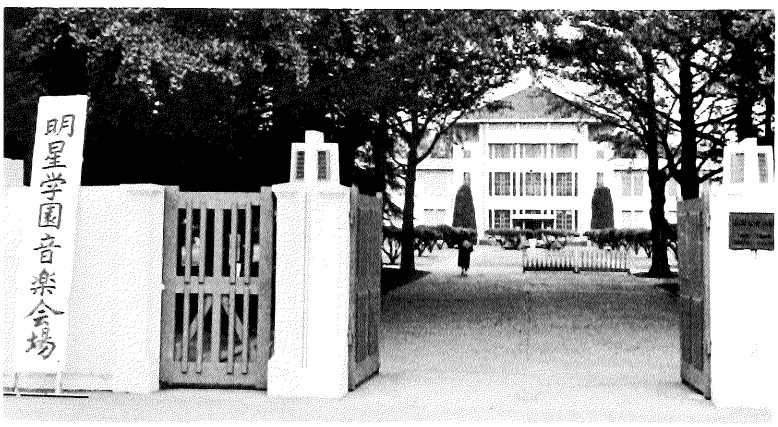
14．ヴァイオリン二重奏　中3　高城　和　〃　斎田ゆりや
合奏協奏曲ニ短調……ヴィヴァルデイ

15．混声合唱　高　音　楽　部
アデライデ(女声合唱)……ベートーヴェン
学生の歌……ドイツ民謡
狩人のさけび……エメーソン

16．合奏　中　音　楽　部
組曲「白鳥の湖」より
1．情　景……チャイコフスキー
2．白鳥の踊り……〃
3．ハンガリー舞曲……〃
4．おもちゃの交響曲……ハイドン
明星行進歌……全　員

（上履ご持参願います）

学園音楽会　於東京女子大講堂　（昭和31年11月）





6 展 覧 会

(1) 銀座伊東屋で作品展覧会

銀座伊東屋において学園生徒児童作品展覧会開催　昭和5年11月2日～7日

父母へのお知らせ　かねて計画しておりました学園の作品展覧会は,いよいよ11月2日～7日,銀座伊東文具店（松屋の隣）で開催することになりました。なにとぞできるだけお知り合いお誘いのうえ，皆さまご来観を願います。別紙招待状を，ご招待くださる方へお出しください。なお，ご入用でしたらお申越ください。なお同時に学園に関係ある画家・文士・名士の作品（色紙・短冊）を陳列いたし，母の会の方で即売していただくことになっていますから，なにとぞこれも添えてご吹聴願います。

昭和5年10月25日

明星学園

保 護 者 殿

校務日誌から

10月27日　展覧会準備でいそがしい。

11月1日　授業は1時限で打切り，職員一同伊東屋に展覧会の陳列に行く。4年以上の子供2名ずつつれて行く。帰りは7時半なりき。

11月2日　今日より伊東屋で展覧会開催。須田寧先生3時より伊東屋に行く。

11月4日　小学部より中島昇平・五十嵐重虎の2人，伊東屋にて当番。

11月7日　伊東屋展覧会，今日で終わり。松枝良作・照井猪一郎当番，夜8時ごろより取除けをする。

(2) 明星学園美術展（文春）

1958（昭和33）年，西銀座・文芸春秋画廊で美術展を開催した。

10月30日（木）閉館後，文春本社地下レストランにて合評会を開く。

招待者　周郷博（お茶の水大学教授）・松江智寿（社同通信・美術評論家・彫刻家）・湯川尚文（美術教育評論家）・上野省策（画家）・井手則雄（白梅短期大学教授）



←**粘土細工**　小学部児童作品　（昭和５年）

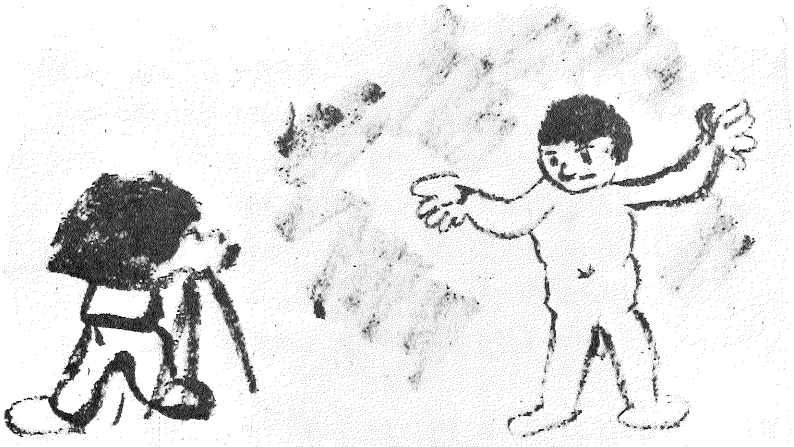




←**木箱・木彫・象嵌**　　小学校児童作品（昭和５年）

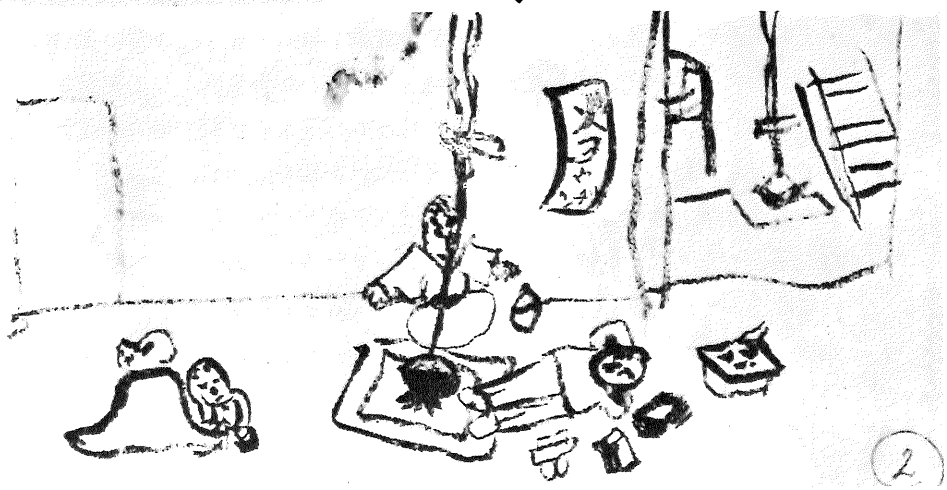


⬆**粘土細工**　小学部１年　（昭和10年）



⬅**漫画**　小学部１年　（昭和10年）

⬇



学校側として鈴木五郎・恩地邦郎・太田幸雄・横川武・野口道方

出品内容　小・中・高校の児童生徒の個人作品，合同作品。

父母出品は清水多喜示・棟方志功・井手則雄など。

教師の出品は恩地邦郎・太田幸雄・鈴木五郎・野口道方など。

7　運動会・体育会・競技大会

(1)　小学部——春の体育会・秋の運動会（戦前）

学校における運動会は，その目的とかあるいはその開催方法というふうなことは，大体一つの型があって，その施設・経営も決まっているものだ。しかし私どもがここに体育会として開催せんとするものは，従来の意味の運動会とは自らその立場が違い，したがってその意義もその姿相も異るのである。従来の運動会は内容からもその姿相からみても，一つの体育祭であって，いわば体育展覧会ともみるべきものであるが，本年度新に重要な行事として敢えて父兄に公開せんとする体育会は，学校体操の公開授業であり，そのなされる体育は1年から6年まで全系統の中に各〻機構的に動き訓練されるのである。したがってこの二つの行事を生産工業に例えてみるならば，秋の運動会はショーウィンドに陳列されるものであり，春の体育会は工場内における生産過程に比較されるものである。

外見的発表の機会としての意義　このように行事としての体育の会に二つの外見的発表の機会をもつ私どもは，その立場を異にするので，父兄観衆の見る心構えに自ら二通りあることを申述べておきたい。まず体育祭としての秋の運動会は，平常学校体育の実際の反映として練習あるいは訓練された結果が，どの程度まで技倆としてまた学習生活として完成されているか，その程度を運動会という機会において，学校自体からみれば平常の学習生活の基礎訓練の過程を試み，他面においてはそこに集ってこられる父兄観衆にこれを紹介し，観賞してもらうという立場にあるのである。しかるに体育公開授業としての体育会は，平常どういう体育材料で，明星の子供という具体的な存在の子どもたちに，如何なる方法で訓練しているか，如何なる指導体系によって指導されているかの実際をみていただいて，体育への関心と理解と自覚を図り，わが子供たちの体位の向上，体力の充実への行進に敢えて力強い協力を願い，もってその目的を貫徹するの機縁とするにある。

体育会を裏づける体育　少くとも体育の意義は「体育即運動」であってはならない。体育を単なる身体的鍛練とのみ観るもの，それは決して真の体育とはいいえない。私どもの学校体育は「児童の体位向上，体力の増進を図ること」，つまり学習生活の機械的原動力となるべき鍛練であり，また生活訓練の源泉としての陶冶である。換言すればスムーズに学校生活ができる身体の生活訓練と考えているのである。

（原田満寿郎記）

第3回　体操会プログラム

期日　昭和15年4月28日（雨天なれば5月5日）午前9時開始――午前11時30分終了

順番	種　目	学年		
1	国民体操	全体	徒　手	平素における仕事への準備運動
2	走　技（1）		100メートル・200メートル・50メートル	
3	登攀・懸垂移行	全体	吊竹・竹柱・横木・肋木等の登攀および移行	胸背筋鍛練
4	上肢の振り	全体	徒　手	胸廓の拡大と肺活量の増大
5	跳　躍	全体	スプリング・跳箱バック等使用	全身の鍛練とテスト
6	担　負	全体	類似した具体同志が背負い合う	上体と腰部の強化
7	柔軟運動	全体	徒　手	諸関節の動きの面を拡大円滑にする
8	動きの旋律	有志	あらゆる運動の組合せ	体動の綜合的動きと総括的な表現
9	メデシンボール	1年	1年生のボール遊戯	始めて課せられる団体訓練
10	諸筋の力運動	全体	徒　手	筋力鍛練
11	球技の基礎練習	有志		各球技への基礎練習
12	巧緻運動	全体	徒　手	意志の命ずるままに最も効果的にかつ正確に動きうる身体鍛練
13	タンブリング	有志		力とバランスの総和
14	転　回	全体	跳箱・スプリング使用	最も高き総合運動
15	縄　飛	有志		跳躍の一般化
16	走　技（2）		300メートル・400メートル	
17	綱　引	全体		

◉注意　当日児童の服装はランニング（袖付禁止），パンツ（女子は学校配給のもの，男子は白キャラコ製，黒線あってもさしつかえなし），運動足袋に限定。

昭和15年4月23日

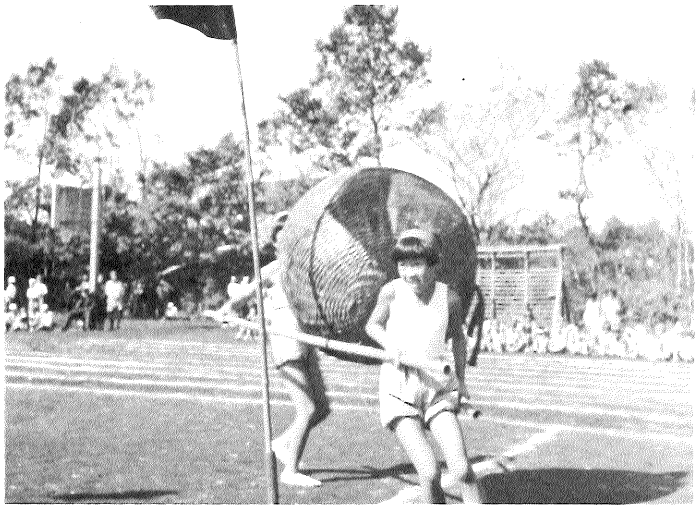
明星学園小学校

保　護　者　各位



⬆**合同運動会**　小学部・女学部・中学部
小・女のグランド　（昭和９年）

⬅**秋の運動会**　（昭和12年）

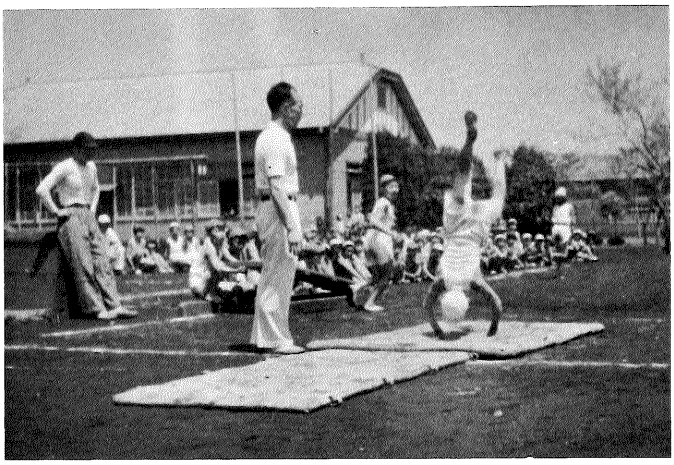




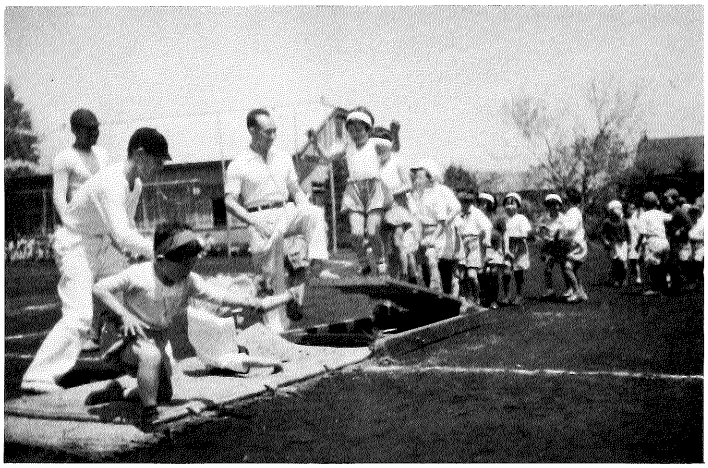
⬆**よく登れる　よくぶら下がれる**　第２回
体育会　（昭和14年）



⬅**春の体育会**　（昭和12年）

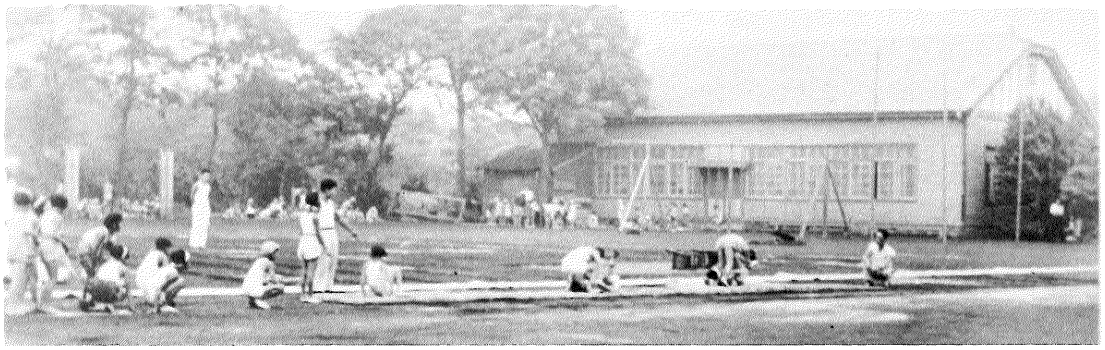


スプリングを使用しての跳躍　第３回体育会
⬇（昭和15年）



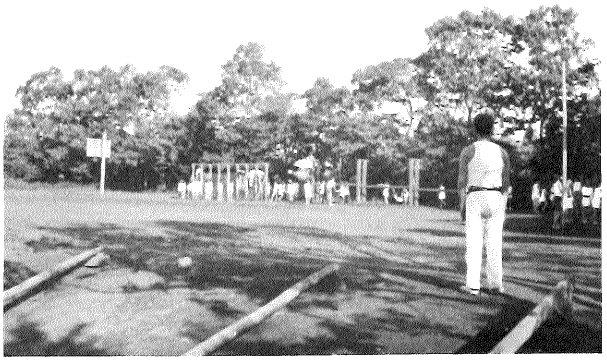
⬆マットの上で転回　春の体育会（昭和15年）

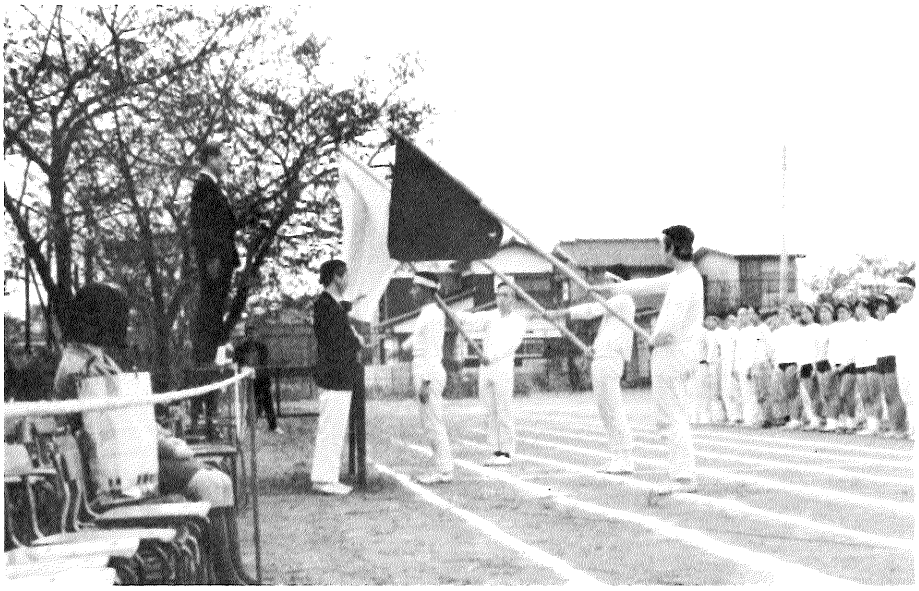
⬇転回運動　第４回体育会　（昭和16年）



横木・平行棒使用の体操　第５回体育会　（昭和17年）➡

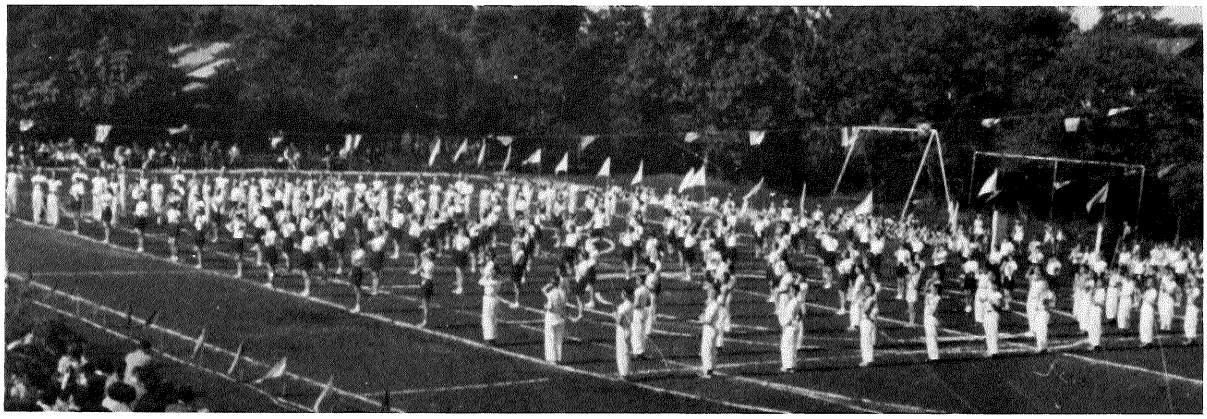






←
運動会開始　紅・白・緑代表による宣誓（昭和43年）

⬇合同運動会　（昭和35年）



⬇徒手体操　中学生　（昭和34年）





⬆演技終って退場，控え席へ　4 年生　（昭和48年）



⬆赤勝て白勝て　（昭和34年）

⬇体操　中学生　（昭和26年）





⬆紅白リレー応援　小学校１年　（昭和30年）



⬆棒倒し　５，６年生　（昭和34年）

⬇徒手体操　中学校　（昭和23年）





⬆徒手体操　中学校　（昭和29年）

⬇　100メートル競争　高校
（昭和38年10月31日）



⬇騎馬戦　高校　（昭和38年10月31）



運動会の服装

中学のときの体操の先生で，女の山下先生というのがいらっしゃった。大変スマートでモダンな感じの，どこから眺めてもカッコイイ方であった。私は活動的に体を動かすことが好きではなく，体操の時間などは大変横着になまけていたから，いつも後の方でいい加減にごまかしながら惚れ惚れするような先生のポーズや動きを眺めていた。その先生に運動会でやるためにダンスを教えてもらった。

たしか「金と銀」という曲であった。そのころは物資が欠乏していて下駄をはいて学校に通ったようなときですから，体育着なども揃いのちゃんとしたものなどはなく，それぞれ適当に考えてやっていたわけですが，運動会に先だって，先生は，本番のときは体育着に着かえる必要はない，学校に着てきたそのままのスカートのかっこうでやればよいと，軽く伝えていた。わたしたちもそれを，無理をしなくてよいという先生の配慮として，軽く受け止めたのだと思う。

ところが，だれからともなく，ダンスのために白のブラウスに紺のスカートを揃えようという雰囲気が盛りあがり，本番のときはみんなそれぞれを工面して出場したのであった。ところが運動会のあと，先生と生徒が雑談のかたちでですが，先生がこんなふうにもらされた。「揃えることはないといっておいたではないか。揃えようとしても中々完全な形では揃わないものだし，そういう形の不揃いというものはみすぼらしいし，美しくない。それよりもみないいものを着ているではないか。それが集まったら，華やかで，さぞきれいだと思ったのに……。」それは決してみんなを責めるような調子ではなく，自分の残念な気持を吐露する感じでいわれた。　（18回生・古木〈平野〉薫子記）

明星の運動会

明星の体操は，それまでマットにころがったこともなかった私には，宙返りはもちろん，横転さえサーカスのように見えた。高橋律之助先生の，お腹の底から「直角振……誘導振，はぁい」あの声が，今も涙が出るほどなつかしい。けれど，1年たつうちにスプリングで振動をつけて，逆に回転する「逆転」までできるようになった。喜びと自信は，転入生でなければわからないかもしれない。明星の当時の運動会を知っている者には，近頃のふにゃけた体育は性に合わなくて困る。（18回生・藤井〈若槻〉三千代記）

（18回生・藤井〈若槻〉三千代記）

(2)　中・高合同体育会（戦後）

昭和32年11月20日

昭和32年度明星祭体育会は10月20日午前8時45分に生徒全員入場始まった。はだ寒い風が吹きつけ，空は今にも雨を降らしそうな厚い雲がたれこめて，気まぐれにパラパラと落とす。数えるほどしかいない父兄席を横目にトラックを一周して整列。明星祭委員長若林正隆君の大会宣言も寒風に消されがちでとどかない。生徒入場を中学校長照井先生は荘厳なる観と評された。明星行進歌も空空しく消えていくようだ。

全員によるラジオ体操の後，男子の100メートル競走より，いよいよ紅白対抗レースが始まる。100メートルの結果で早くも紅優勢気味。女子はダンス「五輪のかがやき」でふたを開け，毎授業時間の練習結果を披露した。障害物競争・棒倒しと型どおりの種目に部対抗リレー。6千メートルレース。クラス対抗むかで競走と観る者をわかした。部対抗リレーは「灯台もと暗し」文化部では

写真研究会。運動部では山岳部がボールをうまくあやつり優勝。6千メートルは1位雫(中3)・2位田中(中3)・3位吉田(高2)とまたしても予行時間同様1位を中学生に奪われたが,高校3年から中学1年まで多数の出場の全員が無事ゴール・インした,と発表された。場内は一人一人姿を見せるたびに拍手を送り,特に中学生には一きわ高く起った。むかで競走は優勝カップをかけてのレースで,担任の先生を頭とする10頭のむかでがフィールドを往復。3年2組が順調にゴール・イン,カップを得た。午前の最後をかざる紅白対抗選手リレーは白惜しくも敗退。得点は大きく開いた。これをもって午前の部を無事終了した。

今年度は初の中・高合同体育会のため,準備上,施行上種々難点があった。第一に高校が恒例の仮装をするために一般生徒は午後をその準備にあて,午前中で全部の出場種目を終ってしまう。中学生徒はいかにもおざなりにされた感じが残った。来年度の明星祭委員会は,高校だけの仮装について考える要がある。中学側が体育会本来の目的に進もうとしているのに対して,高校はちょっとはずれた感がある。

(昭和32年「星雲時代」VOL. Ⅷ No.5 から)

子供の日体育会プログラム(昭和34年)

9:00	集合完了	全員	10:10	体操	全員
	お話	校長先生	10:15	舞踊 鐘のなる丘	4,5,6年女
	校歌合唱	全員	10:25	綱引	1年対先生父兄
9:10	準備体操	全員	10:30	綱引	男子全員
9:20	徒競走	3,4年	10:35	綱引	女子全員
9:30	徒競走	2年	10:40	紅白リレー	選手
9:35	徒競走	5,6年	10:45	整理体操	全員
9:40	舞踊 子供行進曲	2年	10:50	批評 優勝旗授与	校長先生
9:50	徒競走	1年	10:55	ばんざい	全員

◆日本の子供よ・世界の子供よ・丸く手をつなげ◆

8 明星祭

(1) 昭和35年度・明星祭

明星祭について

明星祭は学園の重大な,そしてもっとも待たれる年中行事の一つであります。

この行事は実施の都合上,春の部と秋の部の2回に分けて行います。



明星祭　仮装大会　高校11年生　（昭和38年10月20日）

春の音楽会は主としてその道の専門家を招き，音楽を愛好し，鑑賞の力を培うのが目的で，直接児童生徒の発表はありません。

秋の部は学園全般にわたる教育活動の報告祭であり，児童生徒の学習収穫展示祭でもあるのです。

こうした機会には，いつもあえて児童生徒と限らず，およそ学園教育に関連深い家庭はもちろん，各方面の個人といわず団体といわず全部この祭典に参加していただくことを原則としております。

祭典という言葉の意味もそこにあります。

本年はちょうど創立35周年にあたり，人生でいえばその壮年期ともいえましょう。

再びめぐり来ないこの機運をとらえ，皆様とともに学園の教育内容に施設の整備に大きな飛躍を踏み切る覚悟で，私たちは今それぞれの企画をすすめております。

きたるべき40周年記念大祭は偶然にもオリンピック招致の年にあたり，世界の関心は日本に集中しましょう。世界の日本――日本の明星であるべき抱負をもって今からその日に備えたいと思います。

こうした意味においても，今年度の祭典を通して秋の最良の一日を心ゆくばかり楽しみたいと存じます。

別項プログラムご参照のうえお誘い合わせ，ぜひ入場式に間に合うようお越しのほどお待ちしております。

敬　具

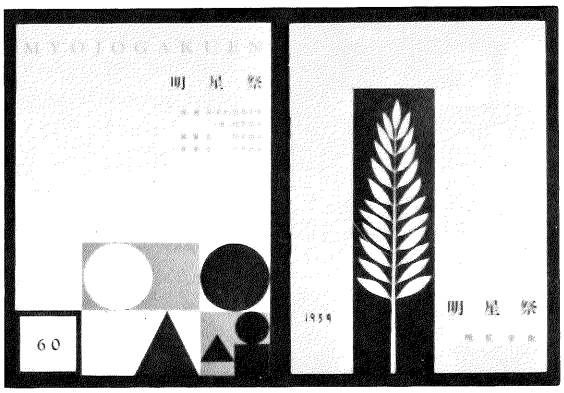
10月15日

明星学園教職員一同

父母各位　来賓各位

明星祭日程

☆ **10月18日(日)**　体育会（当日雨天の場合は10月25日に延期）
　小学校運動場――小学児童の演技および一部種目に中学校高等学校生徒の演技
　中学・高校運動場――中学生・高校生の演技
☆ **10月25日(日)**　仮装大会　高校生徒自治会主催（当日体育会の場合は10月26日に延期）
☆ **10月31日(土)　11月1日**　展覧会
　小学校校舎――小・中・高・ＰＴＡ
　高校校舎――高等学校自治会主催
☆ **11月8日(日)**　演劇会　本校講堂〔高校生徒自治会主催〕
☆ **11月22日(日)**　音楽会　本校講堂・児童生徒出演
　なお２学期後半に小学校・中学校の演劇会があります。



明星祭のパンフレット　昭和34年，35年のもの

9　クラブ活動

(1)　初等部の飼育（戦前）

昭和9年から12，3年ごろにかけて，初等部では，にわとり・あひる・ふくろう・鳩・山羊・さる，それに体長50cmに近い山しょう魚と亀，井の頭付近の水棲昆虫と貝類を飼育した。飼育の係は3年と4年生であった。昭和9年に禽舎を照井猪一郎・安藤正義が建てたのだが，その後1，2回手を加えた。最近建てなおして現在の禽舎は当時の俤をそのままのこしている。学園は創立の当初から動物の飼育，そして継続観察とによって，子供たちに自然界が調和あり，統制あり，節理ある機構などを理解させることを深遠な説明を強要しなくとも，空気のように呼吸されることを期待したものであった。

井の頭付近の水棲動物　昭和5年～18年

○　ガラス製の水槽で水棲昆虫を飼育した。

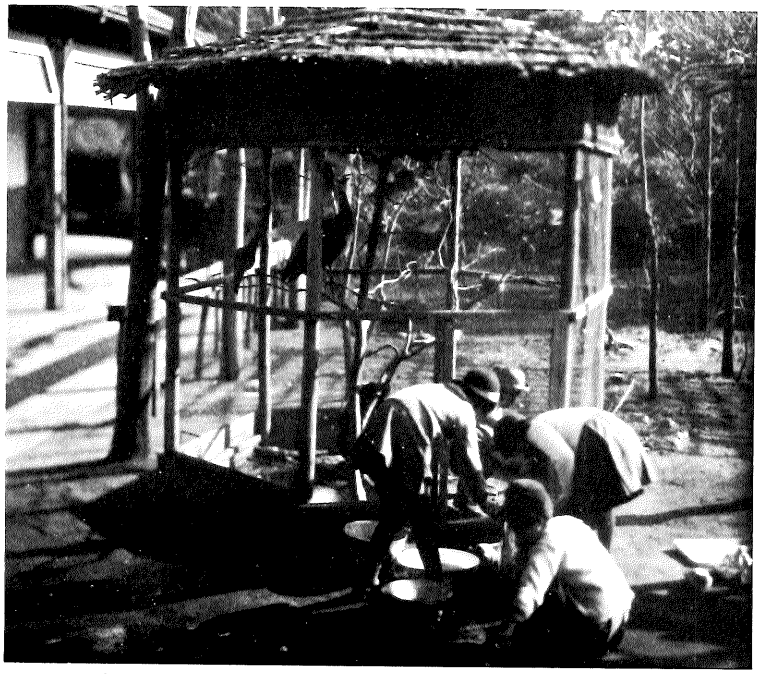
○　飼育動物のすべては井の頭の池尻や神田上水など，学校付近の池・小川から子供たちと採集してきたもの。

昆虫――ヤゴ，その他ヤンマ・カワトンボ・トウスミトンボ・キイトトンボ類の幼虫・メダカ・ミズカマキリ・マツモ虫・コミズ虫・数種のゲンゴロ虫・コオイ虫・ガ虫・水蛭・イモリ・タイコウチ・川グモ

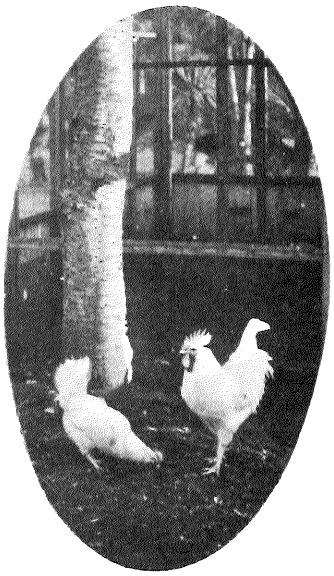
貝類――オホ田螺・ヒメ田螺・カラス貝・ヌマ貝

動物飼育　昭和13年

3年生の現在飼育している生物は，猿と兎，梟と雉，鳩と小鳥，山椒魚と亀，それから学園近傍の淡水魚と淡水昆虫である。毎日1日交替に当番によってそれぞれ朝と昼と退校前の3回にわたって飼料や水を与え，また手入れや掃除をしている。山羊のいた頃は，時折山羊と一緒に兎を草原や運動場に出しては，嬉々として戯れたものである。また追込みの掃除等していて鳩や，カナリヤ・十姉妹等の卵をみつけでもしたら，掃除なんかすっかり放り出して巣の中を代りばんこに覗いて非常に喜び，また水槽中の「まつも虫」の巧な背泳の姿，あるいは小魚を捕食している獰猛な「ながめ」を見ては驚異の目を張り，こうして飼育の生物から彼等の真剣な生活振りを不知不識の中に児童は関心を持ち，ある場合には科学としてある時は芸術または宗教・道徳への教養を基礎づけられ



⬆小鳥・孔雀の飼育　小学部飼育担当３年生　（昭和11年）



⬆
飼育していた水棲動物・ふくろうなど
（昭和12年）

⬅ ⬇







兎の飼育　2年生　（昭和42年）

て，奉仕・労作の中に研究・学習は生き，歓喜の中に奉仕・労作は営まれて，学校の有機的機構に参与し，かくしてこの飼育生活中に児童の全面的陶冶が得られていくのである。

（昭和11年12月，「ほしかげ」25号から・原田満寿郎記）

(2)　初等部の飼育（戦後）

昭和40年以来，4年でクラブ活動として再び飼育・栽培を始めた。

飼育・栽培の内容　（昭和40年～昭和48年）

○　昭和40年，職員室の移転に伴う禽舎の修理。

○　昭和40年，兎（2匹）を飼育，昭和41年死亡，昭和40年リス飼育，昭和40年死亡。

○　昭和40年，アブラ大エンドウを理科の教材として栽培を始める。

○　昭和41年，初等部の遊び場整備に伴って動物・小鳥の小屋の修理。

○　昭和42年，飼育・栽培のグループが一時中断していたがこの年につくられ，飼育・栽培活動が始まる。

○　昭和44年，子供たちに呼びかけ，親たちの協力と教師によって鳩・うさぎ・にわとり，そしてセキセイインコ・十姉妹などの小鳥が飼育される。

○　昭和44年，金鶏小屋が寄贈され，初等部の職員室の前に作る。金鶏3羽，日立研究所より贈られる。

○　昭和45年，小鳥・にわとり・うさぎが野犬によって殺害され，小屋はそのたびに破られこわされる。

○被害をうけたもの

うさぎ（3匹）・にわとり（3羽）・鳩（7羽）・うずら（8羽）・きんけい（1羽）・十姉妹（4羽）・セキセイインコ（4羽）

野犬の被害のため，うさぎを教室内で飼育する。このことから親たちの協力があり，小鳥小屋，小動物の小屋の建設となる（昭和44年完成，建設費12万円）。

○　昭和47年，簡易フレーム新設。千倉から建設材料が教師によって運ばれ，冬季間の植物保管のため教師の作業で完成する。

（山浦邦夫記）

井の頭公園の長橋を渡って森を抜けて……と私の頭の中でフィルムの齣が一つずつ動いていくように，古きなつかしい通学路と学園が浮んでくる。

戦争が酷しくなってきたころは，私の小学校5，6年の時代であった。

冬なのにストーブもなかった教室でも，毎日がいかにも暖かく思い出される。それにも増して先生たちと私たちの心の交流は，今になって，しみじみわかる良さである。机での勉強の中だけでなく，スポーツや演劇や音楽や，いろいろなグループ活動の中で受けた先生方の影響は強烈なものであった。どの先生方も強い個性で私たちを引張ってくださったし，また一方，私たち一人一人の個性を大事に扱ってくださったと思う。こうしたことで12年間の学園生活は，個々の人間性を大切に，豊かな幅広い視野をもち，強く，正しく，朗らかに生きるという学園の空気は私の考え方に大きな影響を与え，私の人生観の大部分をしめているのが，明星の精神だといっても過言ではないようだ。そういった意味で学園とはずい分遠くなってしまった現在ではあるが，いつでも身近なところで明星はまたたいている。

（19回生・長坂〈佐藤〉昭子記）

10 夏季学校

(1) 夏季生活と山・海の寮の歴史

夏季生活というもの　明星学園の夏季生活（寮生活）の歴史は古い。夏季生活というものを一言でいうと，子供も教師も家を離れて，一定期間をともに暮らす行事のこと。この行事のねらいは，学園創業の時代からかわってはいない。

・家を離れて家を知る

一度家を離れたらそれは旅である。旅の心というものは，大人にとっても子供にとっても，人間の本然の底から浸み出して来る甘美な郷愁にひたらせるものだ。軽井沢高原と南房州の林間・臨海の7日間の生活は，短い別離であるが，子供たちにとっては初めての長旅である。家族の誰彼に対する純真な感謝と親愛の念が，童心を少年少女の心をしめつける。家を離れて家を再認する。言葉では教えられないことだ。

・自らの力——協同の強味

親のふところをはなれると，もはや親の膝に甘えたり，その手にかばわれて責任を回避したり，安易な生活をむさぼることはできない。子供たちは，泣いても笑っても自力と協力以外に生きるすべがないから，急に強くなる。寮での生活では，一切のエゴイズムは葬り去られ，個人の横暴はとりのぞかれ，集団の中に自分を生かすということを，瞬間瞬間の生活が具体的に要求する。ともに食事しともに眠ること，全的生活をとおして友情と信頼が深まり結ばれるまたとない機会であり，寮生活である。



黒斑山　トーミの頭より浅間山南面

・生地のままの教師と子供の交織

教室での教師と子供は，授業という場においては，お互に人間の半面しか見せ合っていない。ところが，寮生活ともなれば，かくすことのできない実情のもとに，生地のままな大人と子供の生活が吸引し合う。そして一人一人の子供から，その子にのみ見出される天与のものを教師は掘出すこともできるのである。

・自然の環境と新しい経験

千倉寮の生活であってみれば，太平洋の波のしぶきに始るし，上野原寮でいうならば大浅間の噴煙から，清里寮では八ケ岳の高原から始っての背景となる。大自然の微妙な興味と好奇の中に，特色のある社会に接触し経験し，子供の成長に新鮮な培いをする……。

いろいろな困難を克服してこの行事に50年来，学園がとり組んできた理由である。（原田満寿郎記）

(2)　山・海の寮の誕生

上野原学園寮（軽井沢・山の寮）**誕生**

明星の山の寮は二つある。その一つは昭和の初めのころ建てられた軽井沢の寮である。海抜千メートルの高原，うっそうとして遠く，浅間のスロープに達する落葉樹林にとりかこまれた沓掛字上野原台地（明星ケ丘ともいい，現在の寮のあるところ）は学園分譲地だった。その一角に寮が生れ，寮をかこんで明星の父兄の山の家が3軒，4軒とつくられた。この時建てられた寮が現在の寮の平家の2棟で，2階建の棟のものは戦後のものだ。今回の戦争で，台地の落葉松は大分あらされ伐られたが，幸い寮のまわりは昔日のまま保たれ，またその後照井猪一郎によって植林され，林間学校・山の寮の面目は完全に保っている。

昭和3年，中・女学校が開校した夏，市村今朝蔵氏から3千坪を寮建設のため寄付された。昭和5年春，70坪の寮を土地の下馬建築会社に依頼（工費4千200円），その夏小・中・高女の3部同時に10日間の夏季生活を建設した寮で実施した。所在地の上野原をとって明星学園上野原寮と呼んだ。

——照井猪一郎の日記から——

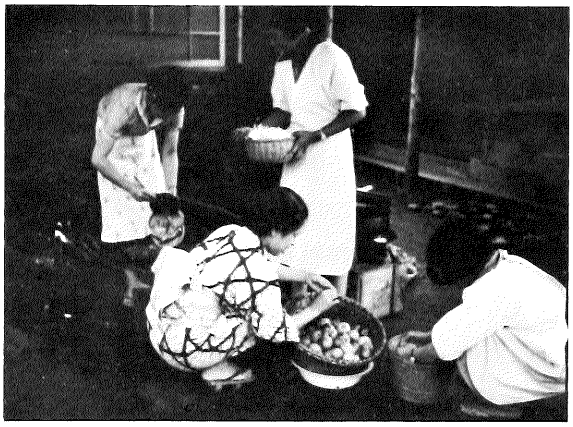
昭和5年7月25日には木の香りのプンプンする新舎に子供を迎える一切の計画がすすめられた。人里はなれたから松のジャングルの中の一つの家。皿1枚のはてまで東京でとりそろえて送った。



⬆上野原寮生活　小学部６年　妙義山大砲岩の前　引率教師原田　（昭和14年７月）



⬆上野原寮生活　小学部６年　峯の茶屋前浅間登山道に向う引率教師照井（昭和10年７月）



⬆

上野原寮生活　小学部６年　炊事場　13回生のお母さんと女学部卒業生　（昭和14年７月）

上野原寮生活　小学部６年　寮の緑陰教室で木彫　指導教師⬇杉本　（昭和14年７月）



⬇



格安の食料品をさがし廻ったり，炊事プランを立てたり，人事組織をしたり，てんてこ舞い。その頃の私は若かったが，明星も若かった。私は1週間前から父兄の江川氏と現場にがんばってあれこれの準備に大わらわ。夜昼なしの突貫工事も，やっと建前をすませた程度で，屋根もふけていない始末だから，間に合いっこのないのはいよいよ明白になった。あいにくと毎日のドシャ降りで，露天積みの畳建具は水をとおすし，買込みの野菜はやぶの中でくさりかける。いわんや工事は牛の歩み。百策つきて星野温泉を泣きおとし，1，2日泊めてもらうことにしたが，まかないはできないという，仕方がない。

7月25日，予定どおり70余名の一行を沓掛駅に迎えた。明暗2種の顔合わせ。口早にわけを話して星野の宿屋に案内した。一同ボカーン。先生方にはしかられる。子供たちには失望される。全く腹でも切りたくなったが，そんなひまはない。仕事場から2キロメートル近い宿屋まで3食を運ぶというはなれわざが，とたんにはじまるのだ。みのかさに武装した人夫たちの行列は細引きをくりおろすような豪雨の中を運んで行く。雨が，雨おいをもれて，炊たての飯がお湯づけになり，心づくしの鯉の甘煮は洗いになるという情けなさ。つきそって行く私の目からは，本物の涙のしずくが雨といっしょにほおを洗った。でも私は若かった。明星も若かった。今は昔——。

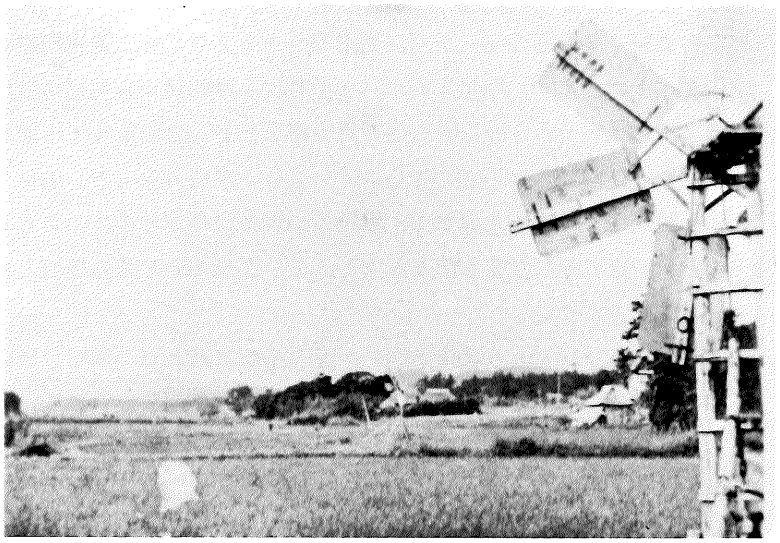
宿屋でも同情したものか，引率主将の上田先生から連絡の走り書き。「照井様——いろいろご面倒恐れ入ります。明朝，朝食は宿屋に頼みました。昼食は弁当式，お握りでも作ってお運びください。なお詳細は江川さんよりお聞きくだされたし。早々」（原文）どうにかこうにか寮にはいれたのは1，2日してからだったか。もちろん電灯なんかなくて石油ランプ5個，豆ランプ2個などと記録にあるのを見ると，きのうのようになつかしい。参加人員の内わけは（人名略）中学1，2，3年で23名，女学校同13名，小学6年5名，5年4名，4年15名，計60名。それに指導教師8名，つきそいのお母さん（炊事の指導）2名，コック2名，女中2名，人夫2名。お買物に，物の高いので評判の軽井沢の当時の物価は，越後米2等白米1俵13円，ゴマ油1升1円10銭，茄子350コ1円50銭，胡瓜1俵1円60銭，じゃがいも10貫目1円30銭，卵1貫目3円，以下も同様，名産佐久鯉1貫目2円30銭等等。食器は1人あたり6個——飯茶碗1，汁椀1，西洋皿1，刺身皿1，小丼1，香物小皿1——これを90人分そなえたが，今は1個も残っていない。費用は何もかもで，1人10日間小学部は10円也。

千倉寮（南房・海の寮）**の誕生**

吾等に与えよ。海の寮を　　——照井小学部長記——



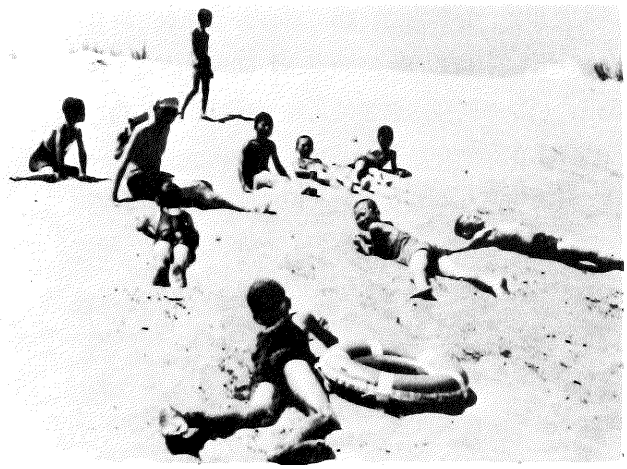
南房千倉寮の生活　小学部４，５年生　宿舎の青木さん宅で父母への通信をしたためる　担任佐藤先生　（昭和16年７月）



南房千倉寮付近の風景　（昭和10年ころ）



南房千倉寮の生活　小学部４，５年生　瀬戸海岸の砂丘と13回生の子供たち





南房千倉寮の生活　小学部4，5年生　瀬戸海岸砂丘と15回生の子供たち　（昭和15年）



←瀬戸海岸から太平洋をみる

↓瀬戸海岸全景



私たちは私たちの子供のよい生活場として軽井沢に「山の寮」を持っている。ねがわくば，近き将来において，同じ意味でのよい「海の寮」を与えられんことを切に祈るものである。海に子供たちのために寮が欲しい。そして年毎に繰返す漂泊的巡礼の境遇からまぬがれて安心のできる場所で，落着いた夏季の生活をさせなければ……という祈願は年既に久しい。今年（昭和11年）休暇明け，夏季生活の印象まだ生々した中に私たちは，来年のために，また永遠の将来のために，理想の安住地を求めて小学部の職員（安藤・中村・牧・原田）と第1回卒業生の2，3の者（岡崎・加藤・江川）が動員された。候補地としての原則的な条件は次のようなものだ。

(1) 人気や風俗が，いわゆる避暑地ずれのしてない土地。

(2) 交通所要時間は，片道3時間以内の海に近いところ。

(3) 衛生・物価その他の生活条件の最適の所。

(4) 将来，寮を設備する目的のうえから，できるならば土地を無代提供してくれるか，さもなくば，地代や部屋代もしくは宿泊料のごく安いところ。といった虫のいい一方的な要求が主で，それには休暇中大体の見当もつけてある関係から，房総半島沿岸内外にわたって一応の調査をしてみた。そして安房郡千倉町に接続する松林中に白羽の矢を立てた。

（昭和10年，小学部教育月報「ほしかげ」24号から）

明星村の建設について

(1) 候補地は千倉駅から徒歩10分，汀線との距離200メートル内外，周囲民家なし。後方一帯は松の単純林。全部保安林。

(2) 明星学園ならば貸地料1坪1カ年3銭，もしくは3銭5厘見当。1契約期間10年，ただし契約切りかえの際といえども，地代の値上げはせず，学園の父兄に限り学園と同条件。

(3) 学園候補地から2キロメートル離れたところに青山師範付属小学校の寮。菊池寛氏その他数氏の別荘あり。

(4) 夏は涼味豊かに，冬はえんどうの花が咲き盛る暖国故，住宅地としては四季を通じて利用できる特長がある。

(5) 候補地は付近30余部落にわたる水産組合の管理地とて売買はできない。

上のような経過ののち，昭和11年4月27日，学園の代表者4名が実地踏査を行い，先方の代表者との間に借地契約が成立して，次のような計画となった。

学園の計画

寄宿寮――近い将来においてここに宿舎を建て，沓掛寮同様６，70人の臨海生活に十分な設備をしたい。父兄の別邸――寮の建設以前にできるだけ至急に父兄の別邸を建設し，理想的な健全な明星村を実現して欲しい。これに対しては，土地の人々も道路の新設その他各種の生活利便を提供しようとの準備あり。当分の間，宿舎・学園寮完成までは，同地の漁業組合事務所・寺院・民家等２，３に分宿する心組。この年の７月，５年（小学部12回生・牧組），４年（小学部13回生・原田組）の臨海夏季生活は始った。牧組は青木さんの家，原田組は朝日屋へ分宿。炊事場と食堂は旧漁業組合の事務所で。

（原田満寿郎記）

清里寮（八ケ岳・山の寮）**の誕生**

中等部の夏季行事がすでに始っていた７月23日（41年），山梨県清里の八ケ岳寮の落成式が行われた。学校側からは衣笠理事長・寒川校長以下数名の理事，それに高等部職員も何人か顔をつらねていた。県や地元の関係者を招くことも考えなくはなかったが，はるばる山道をのぼってきていただくのもお気の毒と，これはやめにした。だが，建築をやっていただいた島藤建設・英建築の方々のほかに，坂本さんだけはぜひ，とお呼びしたわけだが，坂本さんは定刻以前から姿を見せ，感慨深げに寮の建物や周辺のあちこちを見まわっておられた。秋もそうだが，学園では誰もが坂本さんとは初対面であった。亡くなられた橘先生の奥さまの弟さんで，ここ清里の学園村敷地のあっせんをしてくださった方なので，ぜひ坂本さんにはおいでいただき，一緒に寮の落成を祝っていただこうと話合っていたのだった。

私は，坂本さんのお祝いのことばを聞きながら，ふと千倉や軽井沢の寮のことを考えていた。――軽井沢の市村さん，千倉の青木さんは，ともに明星学園夏季行事の大恩人であるわけだが，さしずめこの坂本さんは，八ケ岳寮のかげの功労者になるのだろう――。なにかがつくられていくかげには，得てして，こういう方の存在があるものだ。市村さんや青木さんの名は，明星の夏季行事の歴史が続くかぎり，言い伝え，語りつがれることだろう。だが，坂本さんの場合はそうはいくまい。私は，この広い７千坪の敷地のどこかに，坂本さんの名まえをそっと刻みつけておきたい衝動にかられるのだった。

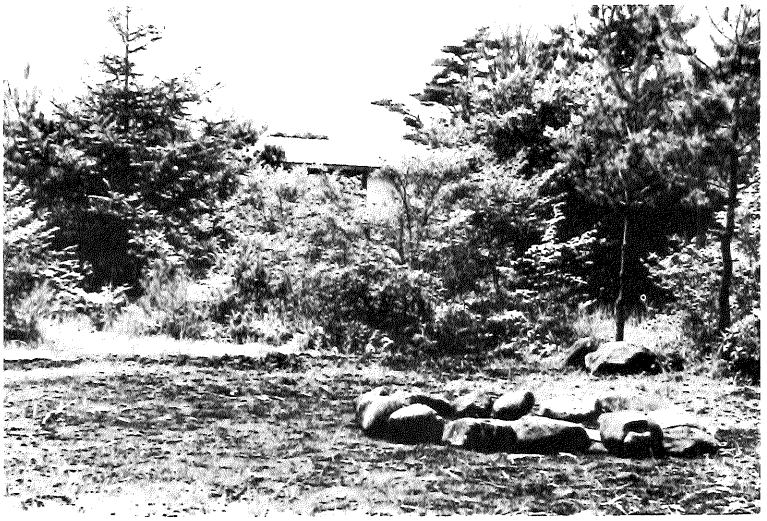
（昭和41年12月「道」73号から，上川　淳記）

清里寮建設の事情

37，８年のころから福島県磐梯山麓，山梨県上野原相模川段丘に明星の校外施設建設の話が浮沈



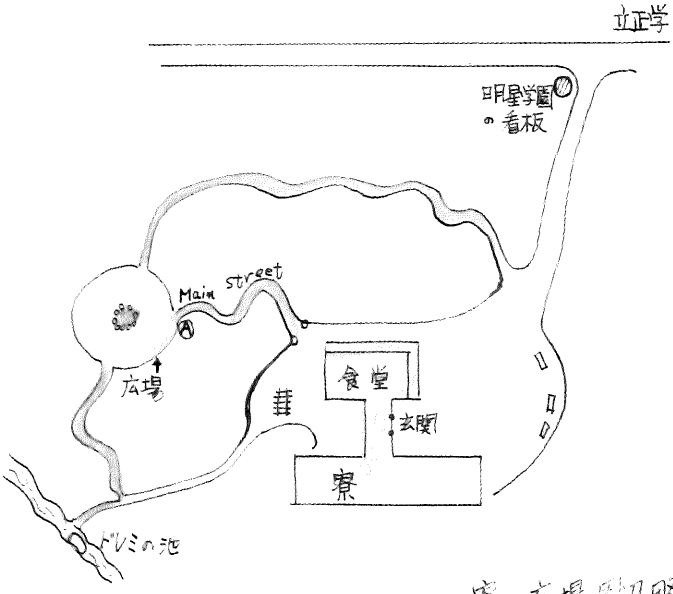
⬆ドレミの池にいたる道



⬆広場から寮を望む

制作協力（高校第20回卒業生）

古姓孝子	栗原実里
ばんひさこ	三木伸子
井手哲夫	後藤　勉
大西　修	金井泰夫
加藤正二	金森　豊
小林　泉	富士原真理
平井直美	小林一雄
橋本繁夫	福田秀夫

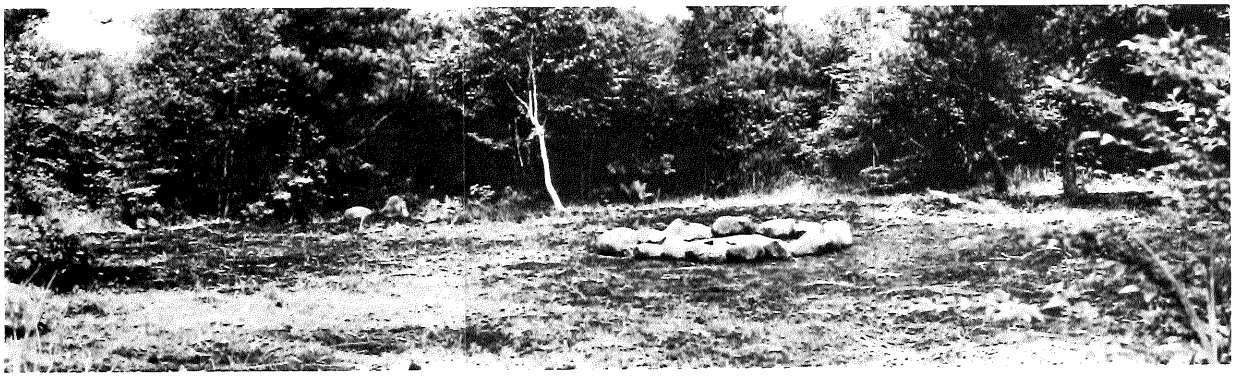


—寮・広場附近略図—



⬆メインストリート入口と道

⬇略図のＡ地点から見た広場全景





八ケ岳清里寮での生活　中等部　天狗岳　（昭和44年７月）➡



⬅八ケ岳清里寮での生活　中等部　寮の庭でボール遊び
（昭和46年７月）

➡

八ケ岳清里寮での生活　中等部　中山峠で昼食　（昭和46年７月）



⬇車坂峠　（昭和39年９月）



していた。このころ八ケ岳の高原清里に学校寮建設を山梨県が勧奨していた。たまたま橘正薫先生の義弟で山梨県庁に勤務されていた坂本菊雄さんから清里の土地のあっせんがあった。当時学園の経営状態は自転車操業の折でもあり，到底寮の新設は可能ではなかった。41年冬，山梨県から3月末日までに寮が建設できぬなら，7千坪の土地を返還してもらいたいときびしく申入れてきた。

今日まで再三引きのばしてきた学園としては最終的のところに追いつめられた。両三年の間，経費(25万7千円)をかけて保持してきた貴重な土地ではあるが手離すほかあるまいという方向に傾いた。当時の事務長の加藤信夫氏，校内理事の角舘喜和氏などは何んとか建てられぬかと意欲的であった。「清里の7千坪は，明星の貴重な財産になることは間違いない。建築費は，島藤建設に一時立替えてもらうようお願いしてみよう」と衣笠理事長が決断を下した。当時の時価でも2千万円こえるといわれた清里の土地はこうして確保され，また清里の寮はこうして誕生したのである。

(原田満寿郎記)

(3) 夏季生活記録 (昭和8年7月)

2年の夏季生活 ——学園女学校裁縫室——

待ち兼ねていた最初の夏季生活なので，前からかなり心を砕いておったのであったが，人数が少な過ぎて少々張合いがなかった。女には1人も参加者がなく男も3名欠員で，僅か12名という文字どおりのささやかな3泊4日の生活。

25日午後3時集合。朝から烈風が春風のように埃を巻き上げて電柱が凄いほど呻っていた。3年生の引揚げたすぐ後なのでそのままはいれた。定刻間際に駈けつけた時には子供たちはもう窓ふちに乗ったり机を越えたり，畳の上で寝業をしたりしてはしゃいでいた。福沢君は腹痛のため2日目の晩から加わった。生活の大部分3度のご飯と2度のおやつと床の上で噪ぐことで，勉強や分担の仕事は口を酸くしていっても一向耳にはいらない癖に，食事はいつもこちらが催促を受ける。賄は栄養協会から来た人1人に女の照井先生と用務員のおばさんで，金の少い割合に喜んでよく食べた。信州味噌の味噌汁が殊においしかった。最後まで食欲の変化は殆どなかったように思われる。

最初の夜は床に就いてから中々眠れない。30分ほど過ぎて電燈を消したら5分ばかりで皆眠ってしまった。毎晩11時から11時半までに1度便所に起すことにしたのだが，これには全く閉口した。牧先生と2人がかりで1人ずつ起して抱いて行くのに，大きなベソをかいて頻りに抵抗したり，教師の脚にしがみついたり，夢遊病者みたいに講堂の方まで行ってしまう者，コンビネーションの中にオシッコをする者，帰って来て蚊帳の外にゴロ寝している者など，人数が少いので15分か20分で



夏季生活　小学部２年　女学部の裁縫室へ寝具を搬入する子供たち（昭和11年７月）

片づくけれども，汗だくだくにされた。ちょうど気持よく寝入ったばかりのところを兵営の不時呼集のように襲うのだから，子供たちにも全くたまらない話である。不思議に覚めていて骨折らせる子供ほど眠っていても骨を折らせる。

おさらいは７時から10時までになっているが，大概半ば近くなると机跳びが始まり柔道が始まる。せいぜい１時間半から２時間で十分のようである。作業は畑の草取り，粘土細工，講堂の大掃除，校庭の掃除，水撒き。雨に降られて遠足ができなかったのが遺憾であった。ただ１晩三鷹の方まで１回り散歩しただけであった。夜には映画１晩と花火２晩で一ぱいであった。三鷹の天文台から天体の幻灯器を貸してもらえるとよかったのだが，都合が悪くてできなかった。毎夜照井誠ちゃん（卒業生），高橋君・中村君の両お母さんに少なからぬお世話をいただいた。殊に中村さんには毎晩全部押しかけて風呂に入れていただいた。

最後の日28日の朝は，からりと晴れたすがすがしい朝であったので，食前の掃除をしていると，赤堀君が植えたばかりのプラタナスの木から落ちて左の臀部に大怪我をした。幸い照井先生が海から帰っておられたし，牧先生がおられたのですぐ医師の手にかけはしたが，教員をして初めてのことなので頭が混乱してしまった。それで最後の日は気持において全くめちゃめちゃに解散した。しかも手術を施した医者の手当が粗漏で，その後２回も手術をし直さなければならなくなり，２回めには小指大の枯枝が出たそうで，お蔭で赤堀君は20日過ぎてから僅か10日ばかりしか夏休の気持を味えなかったわけである。

３年の夏季生活　――学園女学校裁縫室――

今年の夏季生活は，去年１度経験しているのと年を一つ重ねたことで，精神的に非常に軽い気持と楽なものがあった。今年は希望者も特別の事情以外の者は殆んど全部参加した。ただ期間中，暑さと雨の降り続きさえなければ別に心配することはないので，今年はできるだけ全体の生活を子供の自治的な活動によって，５日間を無事に愉快に終始することができるようにと祈った。

７月21日午後３時までには予定のとおり各自荷物とともに集って来た。早速所定の場所に荷物を整理して茶話会に移り，夏季生活中５日間の行事や組分け，注意すべきこと等の打合せをした。今年は昨年までのように女学校の生徒等の加勢がないので，子供等の仕事の分担も自然多いことになる。みんな何かの仕事をすることにして，まず掃除やいろいろな物の整理・整頓は，戸外を男子に室内を女子がすることにして，食事の時の配膳等も女子の仕事にした。



夏季生活　小学部３年生　女学部の裁縫室で　担任教師牧
（昭和10年７月）

毎日の行事は，午前中は７時からの朝食までに掃除とラジオ体操をすませ，食事後は学習帳の整理や作業・水泳等，午後は作業・自由運動・掃除・入浴等，夕食後は自由散歩から夜の行事に移って９時頃就床することにした。期間中はお天気にも恵まれ，時々の雨も適当にあって，行事は予定のとおり進行した。

特別行事としては，昆虫採集・手工製作・天体観察等で，昆虫採集は平山博物館主の好意で同館保存の昆虫標本によって種々昆虫の生態等についてのお話を聞き，昆虫採集および標本製作については児童の自由採集したものについて直接指導をしていただいた。子供も不完全ながら採集製作したものを期間終了の時に家に持って帰ったものもある。興味を起されたことも少くない。期間さえあればできるようになった。平山博物館主のご好意に深く感謝している。

手工製作は，本年は夏季生活中直接使用できるものと思ってボール紙細工の提灯を作ることにした。製作に相当困難はあったようであるが，とにかく殆んど作りあげて，夜芝生での花火会の時点火した。非常にきれいで花火会にも興を添えることができて近くの人等見に来たほどであった。見たところの手ぎわよりも点火されての美しさは格別で，各自が家へ土産に持って帰ることを忘れなかったくらいでまず上々の結果といえよう。

天体観察は，昨年は学校の望遠鏡で月を見た。夜の11時から，２人宛お便所に起されては，まださめきらぬ眼をこすって月の美しさに驚かされ，全部終るのに朝１時過までかかったが，今年は天文台にお願いすることにした。夕食を早目にして，自動車で天文台に行った。気持ちのいい高台にプラタナスの香高い芝生の間を，いろいろな設備を見せてもらって説明を聞いた。初めは曇っていた空模様も漸く晴れて，青空には星が降るようになった。８インチ余の望遠鏡で木星を見せてもらった。われわれ人間の生活に直接最も関係の深い天体のことが，従来われわれに縁遠いもののように一部専門の人にのみお預けしてあったような気がする。追々天文のことが普及して一般的知識として関心を持たれるようになることと思う。あの暑いのに長い１日の務めを終えてさらにわれわれのために親切に熱心にこれ等の労をとってくださった天文台の吉田玄馬氏に対して同行された父兄の方々とともに深く感謝したいと思う。

前後４晩５日間の夏季生活は無事終った。その間子供等の汗と疲れのために毎日お風呂の用意をしてくださった二村さんのお宅の方や，人数の割合に比較的食物に偏することの多いと思われる子供たちがこの暑い日の長い時を１人の病人も事故もなしに終らせていただいたことは，その間一切の食事をお世話くださった方々のお骨折もなみ大抵ではなかったと深くお礼を申しあげる。もちろ



夏季生活　小学部４年生　女学部の裁縫室で　担任教師松枝　（昭和６年８月）

ん子供たち自身の緊張もまたそうさせたものと思う。子供各自が団体の中にいて我儘を捨て己を持していくことのできることとその大切なことを感じる。

軽井沢生活抄　（４年）

今憶い出せば和やかな美わしい，一種センチメンタリズムに捉えられるような高原の１週間であったが，どうして事実はなかなか油断のならぬ無休息の状態で経過した自分であった。ただ，例年と異るのは遠隔の地であるにもかかわらず，３度めの経験から，ややもすればムキ出しになりがちな逼迫した緊張さを外面には露わすまいと努め，自身また７，８分どおりの制御した姿にと押し通したことである。最後まで完全な待機は絶えず全力を費しては永続せぬものであり，指導者に全く余裕のない緊張は子供たちにも穏やかな愉悦を与ええぬと思ったからである。しかもこの待機の継続は結論において，用いるなき所作であったという悦ばしい，無恙の生活に終ることをえたのである。

☆　　☆　　☆

第１日――７月17日，前夜の雨は名残なく晴れたが鬱気三伏の暑熱を孕んで都塵に満つる状態，予定どおり集った一行25名10時５分上野駅を立つ。途中例のとおり元気に軈えて碓氷にかかる頃から雲の徂徠慌しく，峠を下れば猛烈な驟雨車窓を打つ。変化極まり無い高原地帯のお天気は全く夏を洗い落して清涼さを満喫させてくれたのだ。しかも軽井沢駅に来れば陽光燦々と揺ぐご機嫌だ。出迎えてくれた江川君のお父さんの厚意を謝しながら沓掛に着けば，これはまた沛然たる猛雨，敢然汽車から降りてホームの待合室に避難の形。ちょっとの霽間を偸んで自動車に分乗したものの相不変篠つく雨だ。こうして第１日はいっさい市村さんのご厄介になり，入浴と夕食を済ませた頃は静かに晴れた夕となった。各自荷物の整理をし，これからの仕事の分担などを決めて，花火に打興じた。８畳と６畳に頭を揃えて眠りについたものの中々寝入らない。11時過ぎ起す子供約半数，この時ばかりは大きな赤ちゃんにそっくりだ。

第２日――予定時間の５時半よりほぼ30分前眼覚めてお喋舌が始まる。朝来快晴。朝の行事を済ませて食後，各自家庭への便りを認めて学習にはいる。落葉樹の梢越しに時鳥の啼声を聞く。午後は軽井沢方面に散策を試みる。坦々たる国道に沿うて月見草の叢生する丘，山腹に赤瓦・青瓦の点綴，別して離山の素朴な姿，いずれも眼新らしい環境に疲れも忘れて一巡する。夜は映写会をなす。「花咲爺」「蛙は蛙」「日本アルプス」等々。さすがに今日は眠くなったらしく就床時には皆われ先に



浅間上野原寮と南房千倉寮のテキスト

床にもぐり込む連中が多い。閉切った部屋の中は相当に暑苦しく，今夜は殊に応えて転々する子供が多い。

第３日――深く罩めた朝霧に全身を洗われる散策はさすがに心地よい。今日は小諸方面への遠足，10時20分沓掛発。懐古園に至り，城址を巡る。天主台址に立てば浅間は雲次第に幕を明けて噴烟を見せ，描けるが如きスロープも千曲の流れも一聖の裡に展げられ，藤村の旅情を措いても画趣詩情の湧くを覚える。遊園地のベンチに昼食を摂り，写生をして４時沓掛に帰る。夕食後のお話会は，雷鳴の伴奏と夕立の時折襲う中で停電すらあり。

７月20日――午前中に昨日の写生を完成して鑑賞す。今日も恵まれた好天，清澄な駒鳥の声しきりに高原生活に興趣を添う。そろそろこの生活にも慣れて，子供倶楽部に遊ぶもの，昆虫を追うもの，花を訪ねて草を分けるもの，まさに楽園の展開だ。１疋の栗鼠にすら驚異の目を瞠って尽きぬ話材を持つ子供たち。今日は数人に家郷より便りがあった。その時の微笑――離れ居てのみ味う心でもあろうか。日中は32度まで昇ったが夜分になればさすがに涼しい。夜はまた花火に興ず。

７月21日――午前10時３台の自動車に分乗して碓氷に向う。輝く夏の日の展望――見晴台に憩えば妙義を東に浅間を西に壮快な一幅の絵だ。写生後昼食を畢え，熊野神社に詣で，日本武尊の古跡を訪う。帰路は徒歩で，青楓を分けて九九折を下る。３時過ぎ帰着。夕食後各自便りを認め明日の茶話会のプランを作る。

７月22日――昨夜は一同グッスリ寝込んだ。午前中は快晴の中を，明日の出発に名残惜しい気持で四方八方飛び廻る。午後女学生が碓氷の帰路立寄ったので本当に嬉しかったらしい。暮迫る頃から篠つく雨だ。時々停電に見舞われた中で茶話会を開いて，各組々で学芸をなす。

７月23日――午前中一切の準備を終了していよいよこの生活ともお別れをする。上野に着いたのは４時，再び一行は蒸暑い中に投り出されたのだ。

☆　　☆　　☆

この夏季生活のアウトラインでもと思って，以上簡単な日誌の抜き書きを試みたもののはなはだ要領の悪いものになった。ただ，全児童が全く１人の不健康者も無く潑剌と帰宅できたことは何としても嬉しいことの第１だった。それにつけても，市村さんのご厚意と，徹頭徹尾子供の食事から細々のことまでお世話くださった武井さんには感謝の言葉も無い気持でいる。かつまた直接に間接に協力と助言をくださった父兄の方々にも厚くお礼申しあげる。

三戸浜生活　（５，６年）

7月17日——(晴)　就床10時

東京駅集合(午前8時30分)・生徒総数45名。6年上田君は病気で休む。・東京駅出発(午前8時50分)横須賀線は中央線や山手線と違って汽車のような腰掛である。皆元気。・逗子駅下車(午前9時45分)。

駅前から2台のバスに分乗する。駅前の通りをしばらく行く。逗子も有名な海水浴場なので賑かである。左に曲って行くと人もだんだん少なくなる。アスファルトなので気持がよい。自動車の競争で自動車の中は大さわぎ。田舎道になってしばらくすると海が見える。バスを降りて歩いた。道を間違えたそうだ。福泉寺着(午前10時25分)。

寺へ着いてひとまず本堂へ上った。皆腹が空いたのでおやつを食べている。それから部屋を分けた。男では国境守備といってさわいだ。

海……出発(午後3時)・帰着(午後4時20分)

海へはいってみると傾斜が急である。泳げる者も泳げない者も，大ていはバチャバチャである。

花火大会……出発(午後7時20分)・帰着(午後9時30分)

船に乗って行くものは各室から1名ずつ。花火は最初はよく上って，陸で見ている人もきげんがよい。だんだん風で上らなくなる。

7月18日——(曇後晴)　起床5時30分……就床10時40分

午前中手紙を書いたり，海に行ったり，面白く遊んだりする。

試胆会(午後7時50分)

まず照井先生の怪談があって，それから中島先生からの途中の道に青大将とかてんとかいたちがいるとかいうお話で終る。いよいよ始った。希望者だけである。本堂の鐘がなると1人ずつ出て行く。本堂の前の石段はろうそくがついている。左に曲がると草と竹でつくった垣が上からかぶさっていて道は真暗である。しばらく行くと赤い火がぼうと見える。懐中電燈を手にあてて出している光らしい。路の分らないのに困りながら通ってゆくと，牧先生が暗の中から「止まれ」といった。同時に懐中電燈でぱっと照らす。胸に手をあてて「よし」と電燈を消してしまった。そこからどんどん行くと浜についた。皆そろってから意気揚々と帰った。

7月19日——(曇)　起床5時40分……就床8時30分

海　(午前9時50分)

もう皆梯から離れて泳いでいる。よく泳げるものは沖へいってさざえをとっている。午前中，室内遊戯・読書・手紙等楽しく遊んだ。午後——男は釣にいった。海岸に沿うて右へと行くと岩ばかり

の所がある。水が澄んで魚がよく見える。あまりつれなくて少しの魚をもって帰った。晩に予定の話し会なく早く寝た。

7月20日——(快晴) 起床6時……就床10時

帝大臨海実験所，油壷見学

福泉寺出発（午前9時）

田を横ぎったり林をくぐったりして御用邸の前を過ぎ，波の静かな鏡のような湾に出た。そこから舟2隻にのって対岸へつき，低い山をこえて油壷へついた。皆ひどいほこりで困っている。臨海実験所にはいるといろいろな植物が植えてあって，いかめしい名前のつくようなものはなかった。水族館には，海亀・珊瑚類・いそぎんちゃく・鯛・鰈・鰯等が海草の中を泳いで，なかなかきれいだった。水族館は前の海で泳いだが，きたなくてすぐあがった。帰りも無事に福泉寺についた（4時）。夜——照井先生の星の話を海岸で聞いた。

7月21日——(快晴) 起床6時……就床9時10分

海の生物採集……出発（午前7時40分）・帰着（午前11時55分）

皆海水着・採集袋をさげて出かけた。渚を左に左にと行くと岩の多い所で，貝殻・ひとで類・うみすずめ等をとって岩の水たまりに水族館をこしらえて，じまんし合ったりして帰った。午後——昼寝・読書等。

7月22日——(晴) 起床5時……就床9時

今日は城ケ島へ行くと思っていたせいか皆早く起きた。いろいろ支度してもう出発するとなった時，船頭が2，3人来て先生たちといろいろ話していたが波があらくて中止となる。午後——海・昼寝・室内遊戯。

7月23日——(曇) 起床6時……就床10時

午前——海・室内遊戯。午後——夜，照井先生に幼い頃のお話を聞いた。

7月24日——(晴) 起床5時……就床10時30分

午前——室内遊戯・海。午後——夜お話しの会。最初は選ばれた者だけの予定だったがあまり短いので皆することに決めた。半分ほどすんだ時，中島先生と照井先生との失敗談があって終った。

7月25日——(晴) 起床6時……就床11時

遠泳（午前9時30分）

皆だとか希望者だけとかまちまちであったけれど，希望者だけに決った。皆泳いだ。

花火大会（午後7時）風が吹いて成功しないで帰った。

学芸会（午後9時）

主として独唱が多かった。照井先生に合唱にごまかす者が多いといって叱られた。

7月26日——(小雨後薄曇)　起床5時30分……

午前——今日帰ると思うと何となくあわただしい気持がする。有志だけ最後だというので海にいった。皆支度でいそがしい。午後——昼食を食べていよいよ出発である。トラックに荷物をつむと田舎の子供たちは珍しがって見ている。寺にサヨウナラをして出て行くとバスがなかなかこない。歩いて行こうかと思った時やっと来た。葉山御用邸の前を通って逗子についた。それから電車にのって出発したのは2時47分，鎌倉を過ぎる頃となると，オヤツがどんどんまわってくる。食べても食べても食べきれない。眠くなりながら外の景色を見ているといつの間にか品川に近くなっている。それから東京駅で解散した。4時30分。　（昭和8年10月「ほしかげ」3号から）

(4)　夏季生活計画および行事一覧表（1934年、S9年度）

夏季生活一覧				
	2　年	3　年	4，5年	6　年
期間	自7月25日午後3時 至7月28日午後2時	自7月21日午後3時 至7月25日午後2時	自7月16日 至7月23日	自7月16日 至7月25日
場所	学園女学校裁縫室	学園女学校裁縫室	静岡県伊東町海岸（三浜館別館止宿）	長野県軽井沢町沓掛字上野原明星学寮
経費	2円80銭	3円50銭	10　円	10　円
集合	7月25日午後3時	7月21日午後3時	7月16日午前8時15分東京駅発，午前7時30分東京駅集合	7月16日午前7時45分上野駅発，午前6時50分新宿駅下車ホーム集合
解散	7月28日午後2時	7月25日午後2時	7月23日午後4時34分東京駅着ホーム	7月25日午後5時30分新宿駅着
参加数	20　名	14　名	41　名	25　名
一日の定行事	午前6時起床，体操，洗面，戸内外整理 7時30分－8時朝食 8時－10時30分学習 10時30分－11時自由時	午前6時起床，体操，洗面，戸内外整理 7時30分－8時朝食 8時－10時30分学習 10時30分－11時30分自	午前6時起床，整頓，洗面，散歩 7時朝食 8時－9時学習 9時－9時30分採集写	午前6時起床，洗面，室内整理，体操 7時朝食，自由 8時ヨリ学習，通信 11時ヨリ採集

	2　　年	3　　年	4，5年	6　　年
一日の定行事	間（晴天ナラバ水泳） 11時30分－12時昼食 午後0時－1時昼寝 1時－3時製作 3時－4時運動 4時－5時30分入浴 5時30分－6時夕食 6時－9時 夜ノ行事，日記，通信等 午後9時就床	由時間（晴天ナラバ水泳） 11時30分－12時昼食 午後0時－1時昼寝 1時－3時製作 3時－4時整理，運動 4時－5時30分入浴 5時30分－6時夕食 6時－9時 夜ノ行事，日記，通信等 午後9時就床	生標本作製 10時30分ヨリ水泳，海岸ノ遊ビ 正午昼食 午後1時－2時30分，午睡，室内読書 2時30分ヨリ水泳，海岸ノ遊ビ 3時30分オヤツ 5時マデ自由 5時入浴 6時夕食，通信 7時－8時50分夜ノ行事，日記，整理 午後9時就床	12時昼食，自由 午後1時ヨリ図画，手工 3時ヨリお茶の会 4時ヨリ自由読書，遊戯，採集 5時入浴 6時夕食 7時ヨリ夕ノ行事 9時ヨリ日記，明日ノプラン打合セ，就寝
特別行事	25日 昼，午後3時ヨリ茶話会 夜，映写会 26日 昼，競技会 夜，天体観測 27日 昼，昆虫採集 夜，花火会 28日 昼，午後1時ヨリ茶話会	21日 昼，午後3時ヨリ茶話会 夜，お話，散歩 22日 昼，競技会 夜，映画会 23日 昼，キックボール試合 夜，天文台見学 24日 昼，正田飛行機製作所見学 夜，花火会 25日 昼，午後1時ヨリ茶話会	伊東ノ史蹟名勝巡リ遠足 浄ノ池（内務省指定天然記念物）仏現寺，音無神社，伊東城址，祐親墓，一碧湖等 臨天観察，花火ノ会，学芸茶話会等 ・恩地孝四郎先生ノ写生特別指導 ・海藻標本作成指導 ・魚類，貝類臨地指導	昼　夜 16日　入寮　お話会 17日　定行事　講話 18日　碓氷峠行　花火会 19日　定行事　講話 20日　定行事　講話 21日　浅間登山 22日　定行事　講話 23日　妙義登山 24日　定行事　花火，茶話会 25日　帰宅整理
準備	夜具 敷蒲団，敷布，枕，毛布アルイハ掛蒲団，寝衣 浴衣，下駄，シャツ（2枚）	同　左	・各自駅ヨリ東京駅マデノ往復電車賃 ・寝衣着換（浴衣，シャツ）水泳着，下駄 ・ハンカチ，塵紙，水筒，洗面用具一切，洗髪用	毛布，敷布，毛糸セーター，寝衣，シャツ，猿股，靴下，タオル，ハンカチ，歯磨，歯ブラシ，石鹸，櫛（女子），塵紙，封筒，便箋，切手，はがき，油

	2　　年	3　　年	4，5年	6　　年
準備	水泳着（水泳ヲナス者ノミ） 洗面用具（手拭，歯ブラシ） 学習用具（全部） おもちゃ	同　　左	品（女） • 学習用具一切（担任指定）古新聞数枚，ハガキ大晒布10枚，封筒，ハガキ，切手（適宜）玩具類，読物 • 当日ノ弁当，おやつ	紙（雨合羽代用），洋傘，水筒，ルックサック（持ってる人），キャラメルモシクハ氷砂糖，ドロップス類（登山用），室内遊具（カルタ類，将碁），自分ノ読物，学用品ト学習用教科書，出発当日ノお弁当トおやつ
指導者	牧・原田	中村・照井（女）	五十嵐・安藤	照井・曽我

(5) 千倉生活の沿革

昭和12年7月20日

小学部夏季生活。6年沓掛（10日間），4，5年千葉県健田村の農家（青木さんと朝日屋に分宿），2，3年学園内で。

健田村，これがわたしたちの千倉寮のできた村である。こんないい場所をよく見つけ出したものだなあ，そう思って照井先生に聞いてみた。「房総半島を歩きまわったがね。ちょうど江上さんという明星に関係のあった人の別荘があったこの場所が目にとまったわけだ。ここにきめようとした時には村の人たちは反対した。都会人がはいってきたら，この村は一変してよさが失われてしまうだろう，というわけだ。そうじゃあない。この素朴な漁村をわれわれも守りつづけたい。わたしたちがはいってくることで，他の都会人がはいってくる余地を与えないようにするんだ。こういってとうとう承知させてしまった」照井先生の説く明星精神が，村の人たちによくわかってもらえたのでしょう。なるほど房州東線は鴨川，西線は館山で都会のにおいをストップさせ，いまも千倉は漁村のよさをたもっている。

それでは「今の場所はなぜいいんですか」ときいてみた。「ひとつは堤防があって，その内側は遠浅で海水浴に安全だということ。もうひとつは堤防の外側は磯になっていて，そこでは理科の学習のための海の生物がたくさん生棲していること。それにもうひとつつけ加えれば，この村は半農半漁で，陸のものも海のものも食糧が豊富なことだ。それが第1だな」「それではネ，13年には行っていないんですが……。」「ン，戦争が始まってしまって，文部省が旅行中止の通達をしょっ中よ

こすんだ。それで13年は休んでしまったが，14年から歩いてでも行く，といって実行したんだ」照井先生はそういってから,「おれも若かったなあ」と空を見あげていた。

13年７月20日

全校早起会，朝食は学校で作って全員一緒にたべた。

13年７月26日

小学部５，６年富士登山。

14年７月15日

小学部４，５年千葉県瀬戸にて臨海生活（９日間)。青木さんと朝日屋に分宿。ごはんは漁業組合事務所でドラを鳴らして食べた。

14年７月19日

６年軽井沢沓掛にて林間生活（10日間）

15年７月14日

４，５年千葉県瀬戸に臨海生活（９日間）

15年７月18日

６年沓掛明星学寮にて林間生活（10日間）

15年７月27日

２，３年女学部裁縫室にて夏季生活（５日間）

16年７月15日

小学校４，５年千葉県瀬戸で臨海生活（８日間),小学校６年沓掛明星学寮で林間生活(10日間)健田村の奥に２階建の売家がでたので400円で買った。

17年７月20日

小学校夏季鍛練行事開始。臨海生活も林間生活もできなくなった。400円で買った２階建てを漁業組合事務所のところまではこんで事務所にくっつけたが，戦後までとうとうつかえなかった。

18年

この年から記録がない。

昭和22年まで中止したためである。明星の夏季生活の大きな穴，それは日本人，いや世界人類の歩みのうえで大きな穴になったのである。この期間の様子を照井先生に聞いてみた。「ン，あれは大変な時期でな。日本の教育がメチャクチャにされたときだ。明星では，どうしても大自然の解放された中で集団生活をさせなければいけない。ひとつは自然の具体的な事実や現象にふれるというこ

と。もうひとつは好きなものも嫌いなものもいる集団の中で生活できる精神——自由と規律との関係や，自立や協力との関係などをしっかり身につけさせてやるため。まあ，この二つを中心にして海の生活・山の生活を考えたのだがね。しかしあの敗戦前後の数年間は交通地獄と食糧事情のため身動きできなかったんだ。残念なことだったよ」といかにも残念そうに語ってくれた。

昭和23年７月21日

６年岸学級瀬戸寮にて臨海生活。20名ずつ２週間，はじめて漁業組合の事務所にくっつけた２階建ての寮で生活した。井戸水がすぐかれて，飲料水や炊事やお風呂に大変困った。あちこちの井戸水を借りるのに大変なさわぎ，村の娘さんたちがよく手伝ってくれた。いま，寮の近所にいるおばさんたちで，あのころ明星の寮の手伝いをしなかった人はないだろう，ということである。

昭和24年７月21日

５年寒川学級，６年佐藤学級各１週ずつ。往復東京湾を船でわたる。

昭和25年７月21日

５年鈴木学級，６年寒川学級各１週ずつ。往復東京湾を船でわたる。ただし，帰路船がこなくて館山１泊。汽車で帰った。

昭和26年７月21日

往復陸路に変更。５年室谷学級，６年鈴木学級，各１週ずつ。７月25日清澄山実地踏査に岸・小森両先生遭難。

昭和27年７月22日

クラスをオープンにして，５，６年を３回にわける（担任室谷・小森・善方）。

昭和28年７月21日

前年と同じ。（担任６年小森・善方・５年広川・佐伯）３回にわける。

昭和29年７月21日

前年と同じ。（担任６年広川・佐伯・５年善方・鈴木）３回。

昭和30年７月21日

前年と同じ。（担任６年善方・鈴木・５年岸・鎌田）３回。

昭和31年２月

青木太一郎氏の庭に明星学園瀬戸寮を建築（80余坪，125万円）。

昭和31年７月15日

フトンを購入した。担任６年岸・鎌田，５年佐伯・佐々木。クラスはオープンで３週。参加165名。

終了８月４日。中学１年も小学校終了後臨海生活。明星学園千倉寮と命名。

昭和32年７月10日

毛布を80枚購入した。担任６年佐伯・佐々木，５年無着・小森・善方。オープンで３週。シャワー完成。参加175名。中学２週，高校１週実施。

昭和33年７月15日

クラブ室の前を１間ひろげた。この年は高校生男女32名が助手となって参加した。１組・２組・３組の組別編成で５，６年243名，多い班の時は食堂があふれて炊事場に先生の一部が追いだされるほどだった。そのうえ第１班の最後の日から始まった台風は第２班の２日目までつづき，先生たちのねているクラブ室の雨戸をもっていき，海岸の砂山の様子をすっかりかえてしまった。内も外もおどろくことばかりだった。

昭和34年７月15日

前年は衛生室に使用していた部屋をひろげ生徒用とした。日本国民食協会からコックさんがくるようになり，献立に新味がでたのもうれしいことだった。担任は６年寒川・管野・広川，５年無着・山浦・上川，生徒数も220人からの大世帯だった。

昭和35年７月19日～８月８日

６年無着・山浦・上川，５年広川・三橋・土屋の各クラスがオープンで３週にわけて参加。合計210人。食堂を青木さんの庭の方へ１間ひろげ，便所の数をふやした。

昭和36年７月18日～８月７日

６年広川・三橋・土屋，５年辻木・無着の６クラスがオープンで３週にわけて参加した。合計188人。今年から伝馬船（明星学園丸）を作り（代金３万７千500円），水泳の監視に大活躍をした。またかまどをレンガ作りにした。

昭和37年７月17日

６年辻木・工藤・無着，５年広川・遠藤の５クラスがオープンで２週。参加児童数175名。一番困ったことは看護婦が１日交替だったことだ。南側の１間の廊下をつぶして５畳間（ウナギのねどこ）を作った。映画の夕べ（新吾十番勝負）をひらいたことは特筆すべきことだ。

昭和38年７月17日

6年広川・遠藤，5年松井・無着の4クラスで2週。参加児童数170名。千倉の学習が非常によくいった。

昭和39年７月17日

５，６年松井・無着・広川・工藤の５学級をオープンにして３週。風呂たきをしてくれていた青

木さんのおばあちゃんが第1週に死んだ。

昭和40年7月19日～7月31日

5，6年広川・工藤・佐藤・荒川・山浦・遠藤の6学級をオープンにして，2週に分けて実施。寮の食堂など改造して使いよくなった。

昭和41年7月19日～7月31日

5年内藤・佐藤・工藤学級，6年荒川・山浦・遠藤の6学級をオープンにして2週にわけて実施。

昭和42年7月19日～7月31日

5年無着・山浦・野沢学級と，6年内藤・佐藤・工藤の6学級総員182名を2週にわけて実施。

昭和43年7月19日～7月31日

5年佐藤・星・内藤学級と，6年無着・広川・内藤の6学級全員参加。

昭和44年7月14日～7月21日

3，4年生の寮生活がこの年から始まる。3年吉田・辻木，4年善方・佐伯の4学級全員参加。混合して2班編成。3泊4日。

〈本年度，中等部5，6年の寮生活中止〉

昭和45年7月17日～7月24日

3年岸・山浦学級と，4年吉田・辻木・善方の5学級全員参加。混合して2班に編成。3泊4日。

5年佐藤・佐伯学級と，6年無着・古川の4学級全員参加。初等部の寮生活が終って実施。

昭和46年7月17日～7月20日

3年吉田・善方学級と，4年岸・山浦の4学級全員参加混合して2班に編成して3泊4日。

〈本年から中等部5，6年の千倉での生活を打切ることになった。〉

昭和47年7月17日～7月20日

3年山浦・川手学級と，善方・吉田の4学級全員参加。混合して2班にわけて実施。3泊4日。

昭和48年7月16日～7月19日

3年伊藤・関根学級と，4年善方・川手の4学級全員参加。混合して3泊4日。

(6) 上野原寮

「あっというまに今年ももう沓掛での夏季生活だ。降って湧いたような米軍の演習地さわぎで時の話題を賑わしているが今のところ直接ここらは被害はなさそうだ。

軽井沢は国際的健康保養地であるばかりでなく，近頃では学園都市としても教育上に重い役割を

果している。

浅間山腹の峯の茶屋には火山研究所の貴重な施設があって山麓一帯は地震の研究のために世界にかけがえのない大切な区域で，軍事訓練だからといって簡単に兵隊のドタ靴にふみにじらせるなどは学界の恥であり人類の不幸である。

沓掛の寮——正しくは明星学園上野原寮は数ある寮舎の中でも草分けの古株として土地に親しまれている。

夏の下準備もあり演習地のこともあって私の行ったのは6月の15日。

『もう来るんかえ，先生——』

逢う人ごとがそういって親しく呼びかけてくれる。……」

（昭和28年7月「黎明」16号から，照井猪一郎記）

☆　　☆　　☆

上野原寮における夏季生活は，戦前は小学部6年生，中学部，女学部が行っていた。戦後は6・3・3制の実施にともない，主として中学校が，のちに学園が4・4・4制になってからは中学年部後期の7，8年生が実施した。高学年部も，年度によって多少の変更があるが，自然科学・音楽・美術・バスケット・ワンゲル・山岳部などが，千倉寮と並行してクラブ組織により，高度な自律的な生活を行ってきた。

5，6年の段階の水泳を主とした集団生活から，7，8年の登山を主とした集団生活の基礎作りのうえに立って，高学年部のクラブによる自主的な合宿生活へと発展させてきたのである。

☆　　☆　　☆

「清澄な空気と大自然の中で暮す1週間だ。心も体も健康ですくすくと育つようにしよう。

寮生活は，みんなで作る，みんなの世界。みんなが作っていくのだ。明星学園の精神が育てるのだ。自主・協同・研究・規律。……」

これは，1960年代の上野原寮生活のテキスト『浅間の生活』の中にある「寮生活のモラル20章」の冒頭の部分である。モラルは20章にわたるが，要約すれば「自主・協同・研究・規律」につきる。

☆　　☆　　☆

4・4・4制移行後の実践を大別すれば，研究グループ活動に重点をおいた実践と，登山に重点をおいたものとがある。

〔1961年度の実践〕（6泊7日）

○学校での計画・準備

生物・社会・美術・文学・山岳などの研究グループをつくり，数次にわたって計画立案・検討・準備のための会合をもつ。

○上野原寮生活プログラムの大要

第1日……入寮式・部屋会議・夜のつどい

第2日……サイクリング（浅間高原を見てまわり計画のもとをつくる）・研究グループ活動開始・夜のつどい

第3日……Aグループは湯の丸牧場行，Bグループは鬼押出・浅間牧場行，夜のつどい

第4日……研究グループ活動（研究・制作）・作品発表会・夜のつどい

第5日……研究グループ活動・夜のつどい

第6日……旧軽井沢見学（熊野権現・見晴台），お別れパーティーの計画と準備，研究グループ活動，作品の批評会・整理，お別れパーティー

第7日……帰京準備・フォークダンス・新旧班の交歓会・離寮式

○高峯高原ロッジ生活プログラムの大要

第1日……入寮式・部屋会議・夜のつどい

第2日……研究グループ活動開始・夜のつどい

第3日……東篭頭山・三方ガ原行，夜のつどい

第4日……研究グループ活動・夜のつどい

第5日……Jバンド・黒斑行，夜のつどい

第6日……研究グループ活動，お別れパーティーの計画と準備，お別れパーティー

第7日……帰京準備・離寮式

○帰京後の研究発表

2学期の初め，教室・廊下に作品を展示し，研究成果を発表。

〔1965年度の実践〕（5泊6日，このうち山小屋1泊）

○寮生活プログラムの大要

第1日……入寮式，荷物・部屋の整理，夜のつどい

第2日……足ならし・学習・フォークダンス・山行き準備・夜のつどい

第3日……登山（第1日）

第4日……登山（第2日）

第5日……サイクリング・フォークダンス・さよならパーティーの準備・さよならパーティー





⬆浅間上野原寮の生活　中学校３年　上野原新寮ー昭和25年建設　（昭和32年７月）

⬅浅間上野原寮の生活　中学校３年　寮の庭でフォークダンス　（昭和27年）



浅間上野原寮の生活　人見教師と生徒の作　（昭和32年）

浅間上野原寮生活　中学校２年　落葉松林の中をサイクリング　引率依田（昭和36年）



浅間上野原寮の生活　中学校３年　寮の屋外洗面・洗濯場（昭和32年８月）



第6日……発表会，フォークダンス，荷物・部屋の整理・離寮式

○登山の体力別コース

Aコース

中軽井沢═小諸═小海＝稲子湯──白樺林道──にう──白駒池──高見石小屋（泊）──中山峠──天狗岳──夏沢峠──本沢温泉──みどり池──稲子湯＝小海═小諸═中軽井沢

Bコース

中軽井沢═田中＝地蔵峠──烏帽子岳──湯ノ丸山──角間峠──旧鹿沢──地蔵山荘(泊)──三方ガ原──篭ノ登山──水ノ登山──車坂峠＝小諸═中軽井沢

Cコース

中軽井沢═田中＝地蔵峠──湯ノ丸高原──地蔵山荘(泊)──湯ノ丸高原──地蔵峠＝田中═中軽井沢

浅　　間

中3　小西八栄子　（1958年）

無限の冷さが天にみなぎる
あの大浅間の頂きには
　　神が住んでいる。
輝く白銀の煙のあいまに
澄みきった両眼を開いて
黙って地上を見ているのだ。
そしてすべてを肯定し
　　1人でうなずいている。
あの神の知のひとかけらでも
　　地上にあったらどんなに
　　いいだろう。
足もとの山は静かに息をつきながら
　　私と一つになって大浅間を仰ぐ。

（依田好照記）

初等部の教育

● 1年生誕生

人間のいるところに教育はある。教育のあるところに進歩がある。しかし，わたしたちは，そんな素朴な原始相から教育をふり出そうとはしてはいない。人類が，このように高度な文化を達成した現在では，これを一層高める教育の役割りについて，あらためて考えてみなければならないところにきている。

「1年生誕生」このすばらしい事実が，大きな未来をはらんでのびていくために，両親や教師はどう理解し，どう協力し，どう努力していかねばならないか。それは，われわれなりに長年にわたって実践し，たしかめてきた実績のうえにたっている。そしてまた，新しい命がのびていく未来の設計をふくんでいる。思えば近代科学の驚異的な躍進は，われわれのもつ理論や経験を，苦もなくふきとばすかもしれない。しかし，それが，どんな事態になろうとも，それを司どるものは人間でなければならない。そしてその主人公となるものこそ，この1年生たちである。

わたしたちは，そういう大いなる夢を，この子供たちに託す。そのためにもわたしたちの力は，おしみなくささげられねばならないという決意を常にあらたにしている。

（学園創立同人　照井猪一郎）

















●授業

人間を大切にする教育

現在ほど教育が教育の名において人間を疎外している時代はありません。

それは何よりも現在の教育内容がすじみちだっていなくて，ツメコミと暗記の教育になっているからです。

明星の教育は，教科の新しいくみたてをつくりだし，順序よくものごとの理をわからせることによって,学習への興味を育てるようにしています。

さんすう

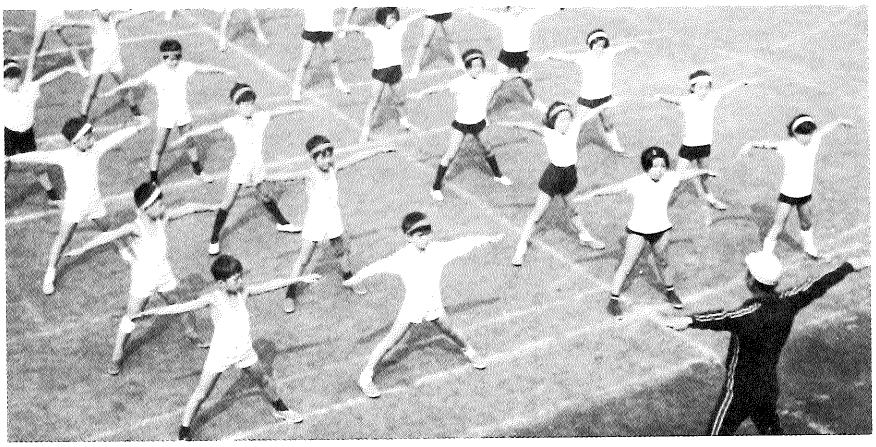


学園では，34年から遠山啓氏指導による「水道方式」を取入れております。その方法の中で特に重点をおいていることをいくつかあげてみますと，1）1.2.3.…と数を数えることが,算数の勉強みたいに考えている子どもたちに，5は1が5つ集まった数なんだという（集合した数）考え方を与えます。2）1から9までのたし算，ひき算には，5個のタイルを使います。指で数を数えるかわりに，頭の中で,タイルを思い浮ばせることで,今までの指のかんじょうのやり方を変えます。3）タイルを使うだけでなく，独自のタイル定規を使用させ，十進法のしくみを覚えさせます。4）筆算の準備として欠かすことのできない要素である「0」を早目に指導します。5）このような指導を進めると，1年3学期には3位数±3位数までも無理なくできるようになります。

●体育

初等部の子供たちにとって，体育は生活の一部であり，同時に遊びの一部でもあります。子供たちは，この遊びの心のなかで，おのずから一つのリズムをみいだします。初等部の体育というものは，そうしたおのずからなる個個の心のリズムを，集団の行動にまで昇華させるところに中心があるのです。それがさらに，集団生活のルールの確立となり，やがては社会生活に対する正しい考え方の基礎ともなるのです。

そうした意味から，初等部における体育指導は，末梢的な技術指導におちいることを極力さけ，子供たちの各自の心のあり方に重点をおきながら，総合的に指導していくことを心がけています。春秋の登山や，夏季の集団合宿も，すべてそうした基本精神にもとづいて行われております。





⬆徒手体操



集団遊び ➡

初等部の体育というものは，おのずからなる個々の心のリズムを，集団の行動にまで昇華させるところに中心があるのです。



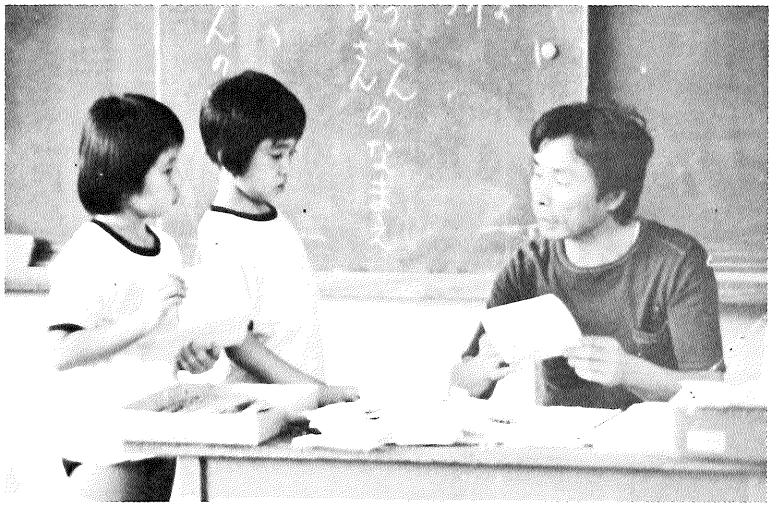


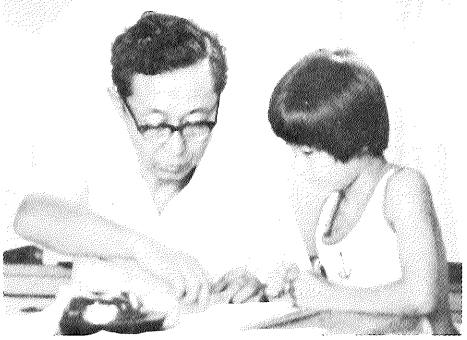
⬆朝の体操を終って教室へ

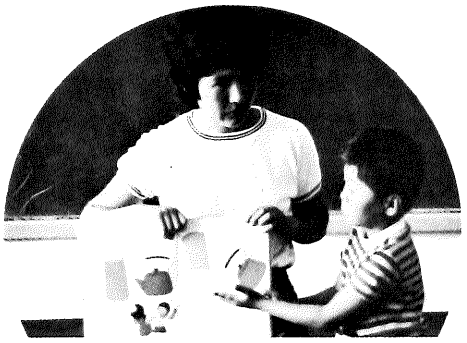


朝の体操➡

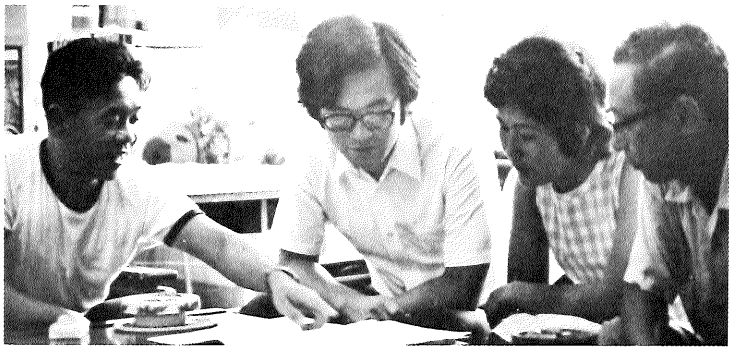
ひとりの子供を大切に







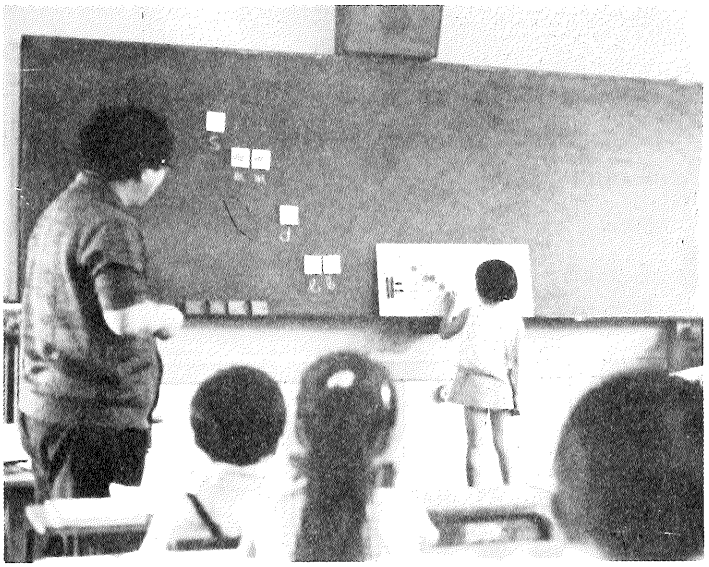
⬇日常的な教育研究活動　（職員室の中で）



各人の個性をのばし，力いっぱい生きることは，人間の基本的権利であります。教育はその権利を各人が十分に発揮できるだけの力を約束するものでなければなりません。そのためには，綿密に検討された教育内容と，一人一人にその内容がしみとおる教育技術とが要求されます。学園では一貫教育体制を編成し，全園の教師が教科の内容を研究して系統的にくみたて，より高い学習効果の達成を目ざしています。



⬅制作専念



●芸術教育

無理のない，のびのびした豊かな表現。その目的は，のびのびした心豊かな子供の目・耳・手を育てることにあります。

年齢にあった材料をえらび，長年積み重ねられたこなれた指導によって，子供のもつ発想力をそこなわない，自然のリズムにとけこんだ芸術教育を行います。

●遊び



⬆木のぼり



⬆水遊び

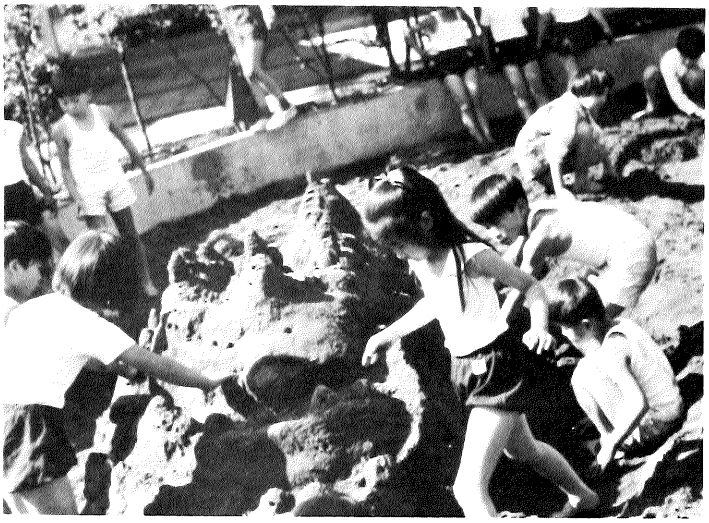


休憩時間➡

ボール遊び➡



砂場➡



⬇ジャングル





雲梯わたり➡

⬇隣りのドンドン山で

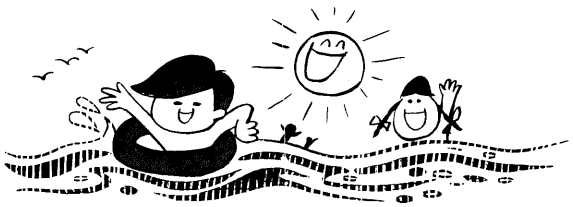




●校外行事

夏の千倉（千葉県）

〈3，4年〉



瀬戸寮

房総半島の最南端に近い館山市から二つめ，房総西線が外房に出た所に千倉があります。昭和12年，職員が，伊豆・房総と歩いてまわり，この瀬戸矢原の海岸をえらんだだけに，内房とは違い，水も澄み，砂浜と磯にめぐまれ，海の生活と学習には最適の地です。毎年，3年生から6年生まで，臨海生活および中高学年生の合宿生活が行われます。





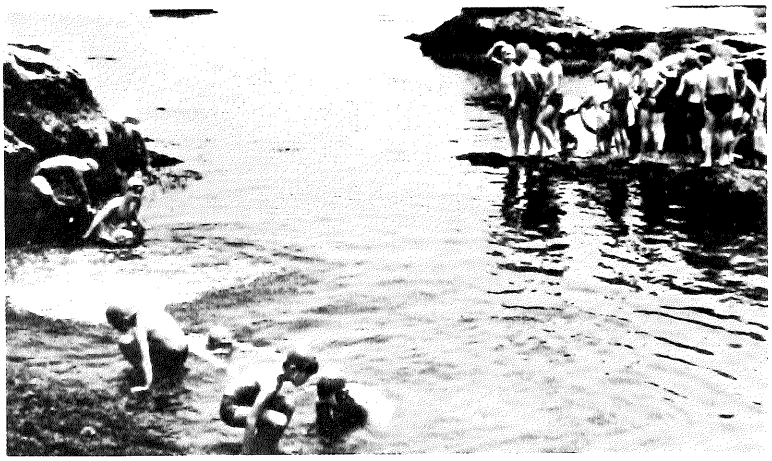
⬇朝の海岸（昭和45年）



瀬戸寮　千葉県安房郡千倉町瀬戸矢原
建坪291.77m²

上野原寮　長野県北佐久郡軽井沢町沓掛上野原
建坪396.69m²
敷地782.37坪
（2586.35m²）

八ケ岳寮　山梨県北巨摩郡高根町清里学校寮
建坪565.92m²
敷地6717坪
（22166.1m²）





⬆清里 （昭和45年）

清　　里（山梨県）

〈1,2年生〉



朝の八ケ岳➡
（昭和48年）

⬇高原のさわやかな空気の中で （昭和47年）



八ケ岳寮

高地を走る鉄道で名高い小海線の清里，八ケ岳をのぞむ雄大な高原に山梨県が設営したすばらしい広大な学園村があります。その一角に昭和41年明星学園清里寮が建設されました。

この寮で１年生から12年生まで，年間を通して，それぞれの学年にふさわしい合宿生活が行われます。





⬆食堂　（昭和48年）

⬅朝のトレーニング　（昭和47年）

➡記念写真
（昭和47年）



海抜1500メートルの高原で
（昭和45年）
⬇





ものがたりの絵　　小学校２年生

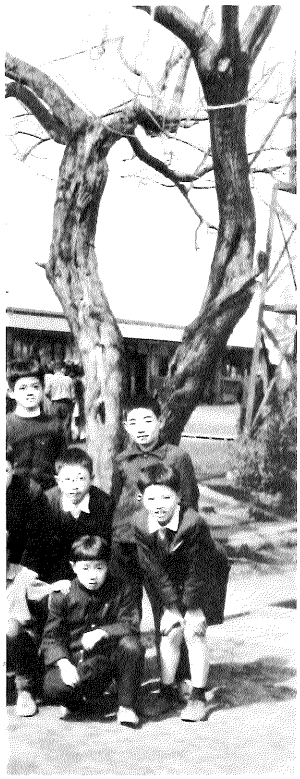
この絵は「大工とおにろく」という民話を読んで，その印象の深かった場面を描いたものです。おにが大きく描かれ，大工が小さく描いてあります。子供のイメージのふくらみが感じられる作品です。　　（昭和41年）

学園の木の生いたちの記

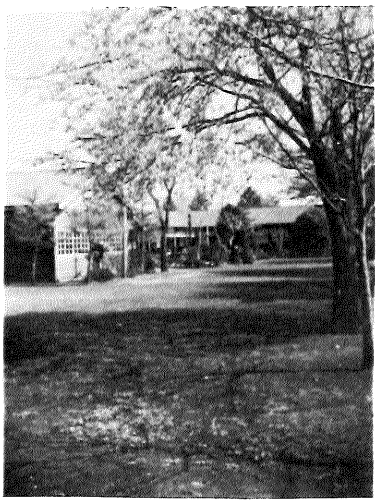
――残った木となくなった木――



←大正13年，学園がこの地に生まれた時，麦畑の畦に，境のしるしとしてうえられていた，なら・くぬぎの並木があったが，こんな大木になった。



⬆学園が生まれる前，畑にあった桑の木　10年，20年，30年，大きくなった。が校舎建築でなくなった。(初等部職員室の西の廊下のところ)

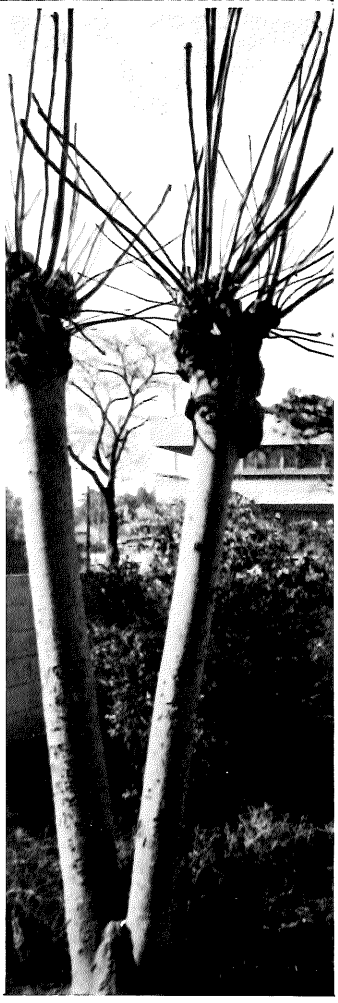


⬆創立間もなくうえた桜
花吹雪は子供たちをよろこばせた。(今の事務局のところ)



いちょう並木　この下は戦前は緑陰教室であった。(第2体育館のところ) ➡

戦前初等部の教室の前に6，7本のあおぎりがあった。➡毎年の剪定が行きとどいていて面白い形のこぶができ，印象の深い木であった。今(昭和48年)は1本しか残っていない。



女学部の裁縫室の前にあったすずかけの木　2本あったが今は1本，昭和の始め小学部2⬇年生が裁縫室で夏季生活をした折，この木に登った男の子が落ちて，けがをしたことがあった。



中等部の教育

中等部の教育は，初等部で培われた基礎のうえに，現代の諸科学の進歩や高い芸術的達成にふさわしい教育内容をつくりだし，それをすべての生徒にわかりやすく身につけさせます。

正しい世界観の基礎をさしだす

自然や社会，言語や数量，あるいは人間についてのすじみちだった知識は，しっかりした世界観の基礎をさしだします。

人間を大切にする教育

現在ほど教育が教育の名において人間を疎外している時代はありません。

それは何よりも現在の教育内容がすじみちだっていなくて，ツメコミと暗記の教育になっているからです。

明星の教育は，教科の新しいくみたてをつくりだし，順序よくものごとの理をわからせることによって，学習への興味を育てるようにしています。

子どもの諸能力を全面的に発達させる

授業で身につけた理論的知識を実践と結びつけ，高い芸術的成果にふれさせ，よく発達したからだをつくることによって，子どもの諸能力の全面的な発達を実現します。



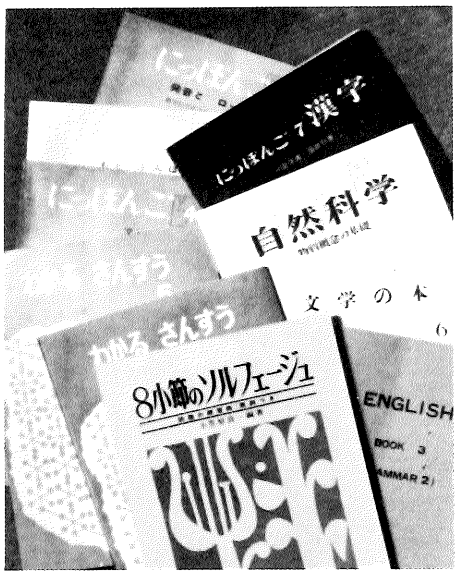
⬆中等部校舎



⬆数学の時間







⬆理科の時間

●中等部の授業

学園では，「授業」を何よりも大切にします。

知識の立体的なくみたてをこのうえなく重視し，生徒の思考のすじみちだった発展を正しく見とおしてくみたてられた授業は，理性的論理的なものと同時に，豊かな感受性や，新しい感応のしかたを生徒の内部にはぐくみます。

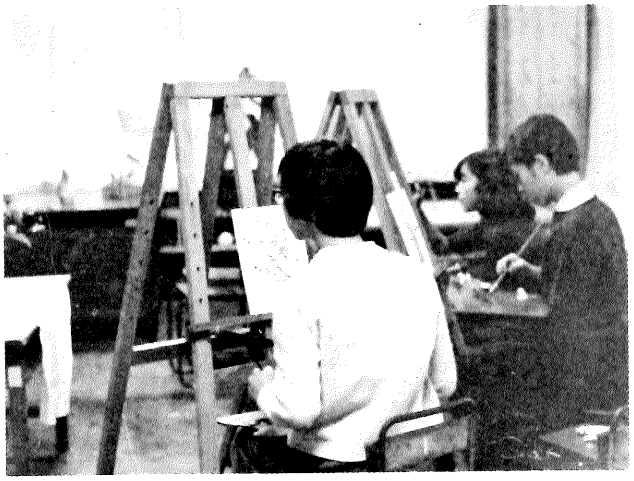
そして，自己の内部につぎつぎと新しい世界がひらかれていくことに大きな喜びをもつようになり，それが知的探究への意欲をかきたてます。

ですから授業には，しっかりした世界観の土台をつくるためのすじみちだった知識の習得と，人格をつくるしごととが統一されているのです。

しかしこのことはバラバラな知識を，そのまま教えていて達成されるわけではありません。

明星学園では，学者や研究者，さらに全国の教師たちとも手を結んで，それぞれの教科の新しいくみ立てをつくり出し，基本的な知識を，順序正しく，わかりやすく生徒に教えていくようにしています。

そのことが，受験の問題にも，正しく対応できる学力を身につけることになってくるのです。

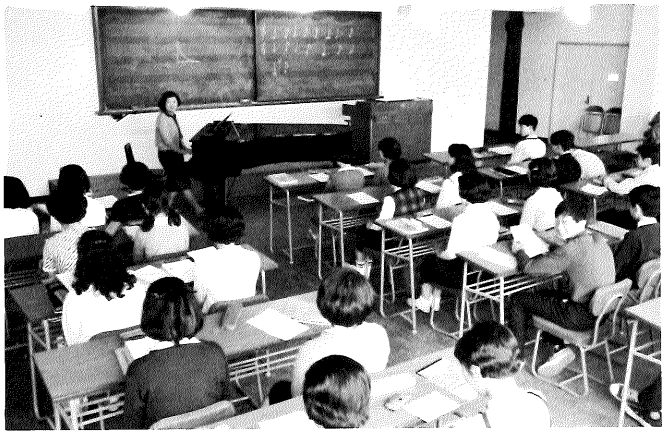


⬆美術部「花の写生」



⬆合奏の時間

⬇音楽の時間



⬇家 庭 科





⬆初等部から中等部校舎をのぞむ





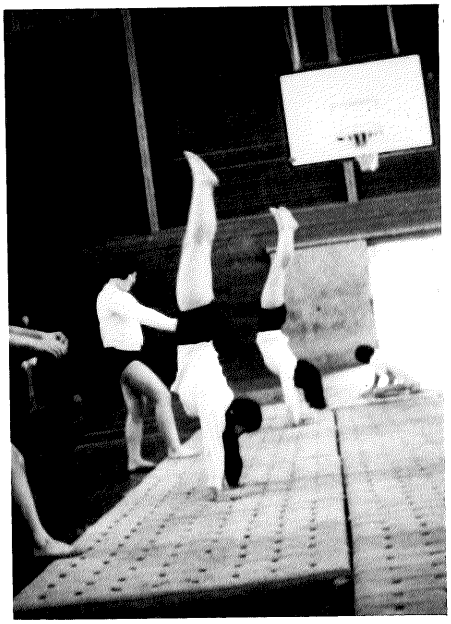
中学部生活のひとこま





●運動と遊び





←倒立転回

↓バレーボールの練習



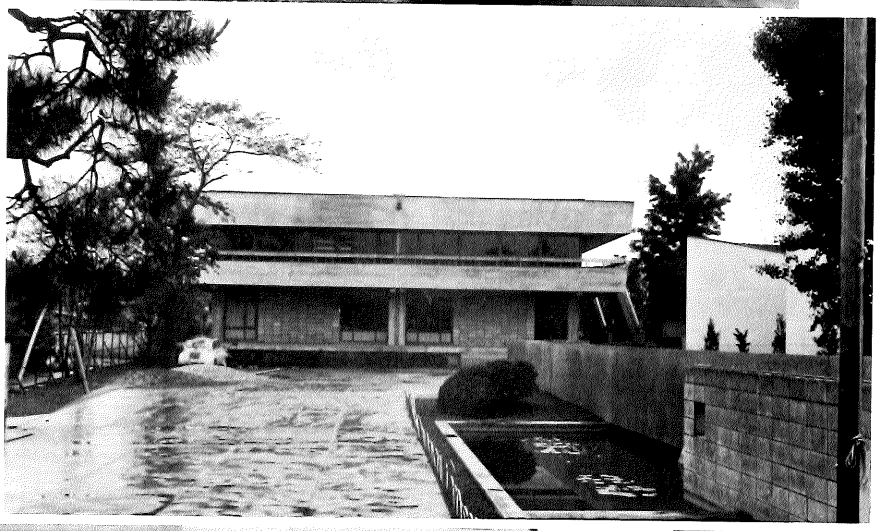
休み時間の運動



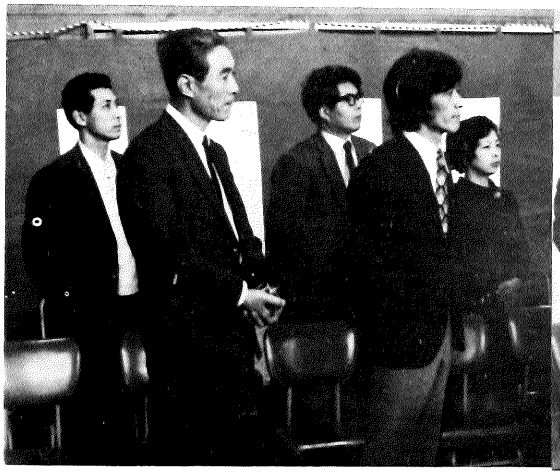


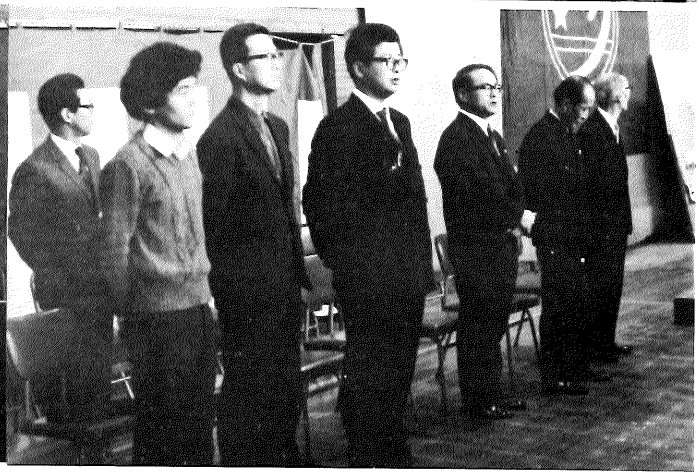
⬆中等部玄関前

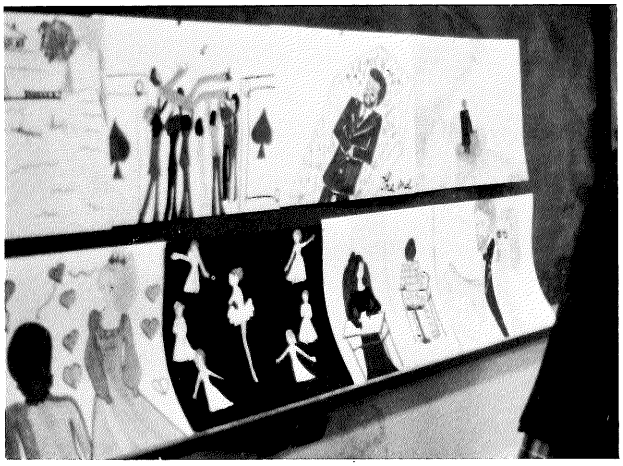
初・中等部正門中庭➡



⬇中等部の教師たち

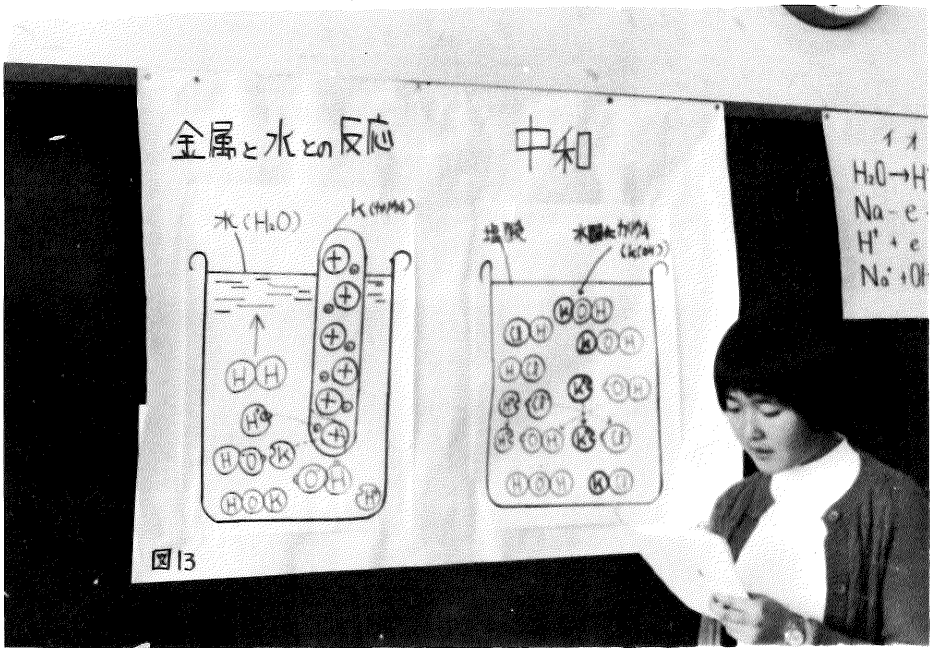


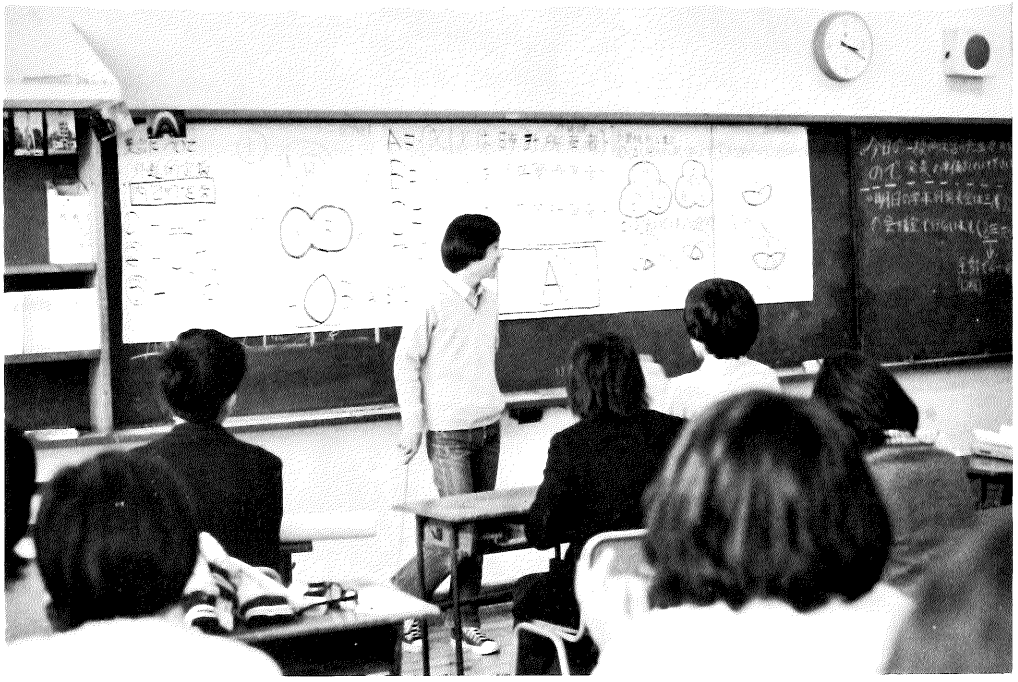


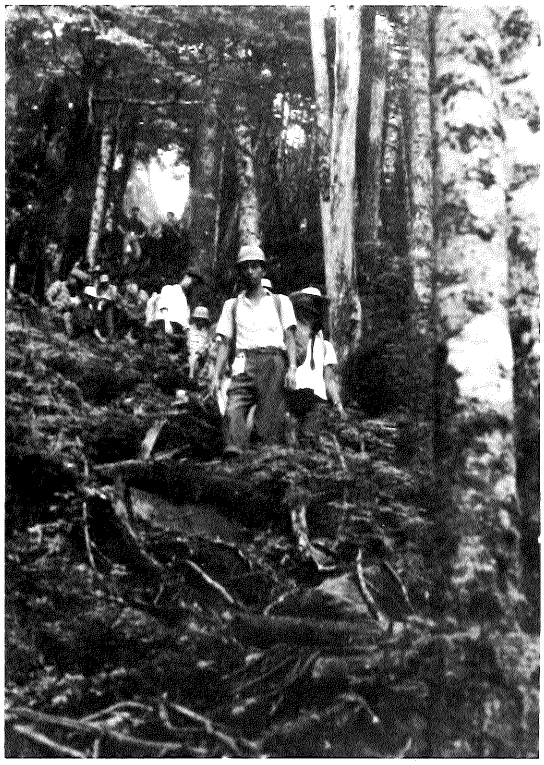




●学習発表会







⬆八ケ岳登山



⬆大門川飯盒炊さん

●清里寮



⬆中山峠へ

⬇高峰高原ロッジでの生活



高等部の教育

高等部としては，初等部・中等部の教育の成果を受けて，さらに生徒一人一人の個性・能力の発掘・伸展を期して努力を傾けています。



⬆跳動　フォークダンス

高能率の学習体系

各人の個性をのばし，力いっぱい生きることは，人間の基本的権利であります。教育はその権利を各人が十分に発揮できるだけの力を約束するものでなければなりません。そのためには，綿密に検討された教育内容と，一人一人にその内容がしみとおる教育技術とが要求されます。学園では一貫教育体制を編成し，全園の教師が教科の内容を研究して系統的にくみたて，より高い学習効果の達成を目ざしています。とくに高等部では，各人の適性，進路に応じて能率的な学習ができるよう指導に努力しています。

クラブ活動

教育学習を通して論理的な思考力を身につけさせるということと同時に，教科外の自主的なクラブ活動によって若さのエネルギーを十分に発揮させ，また人間的なつながりの中で，人間とはいかなるものであるかを行動を通して把握させること，これらは高校教育にとって不可欠な要素であります。

若木のようにすくすくと伸びた器械体操部の女子，躍動する力のバスケット部の男子，そしてクラス対抗の混声合唱と演劇部公演，そこにはよりよき未来にむかってひたむきに進んで行く意欲があります。

教師と生徒との交流

系統的な教育内容，能率的な教室の授業も教えるものと学ぶものとの人間的な交流，学ぶもの同士のつよい結びつきにうらづけられることなしには，生徒の自主的な学習活動をうみだしません。まして，生徒の個性を発見し，育成することの効果は期待できません。学園では，創立以来の明かるい自由な空気の中で，教師と生徒とがふれあい，生徒同士が手をとりあって楽しい学園生活をつくりだしています。

★クラブ紹介

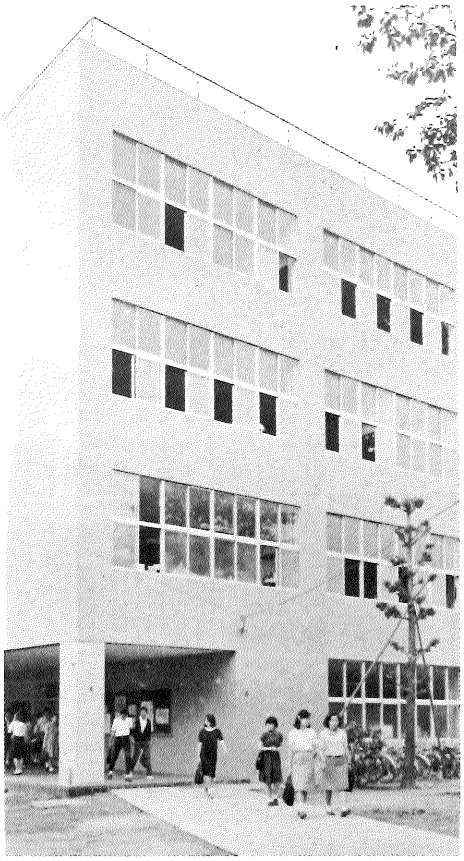
バスケット（44年度東京都新人戦準優勝以来毎年，関東，全国大会出場）
バレー／テニス
サッカー／卓球（全国大会出場）
野球（硬式）（東京大会4回戦出場）
スケート（41年度優勝）
器械体操／陸上
柔道／ゴルフ
山岳／ワンゲル
理科／写真／文芸
英語／料研
音楽（45年度NHK合唱コンクール東京予選入賞）
美術／生花／新聞
染色／釣研／園芸
社研／演劇

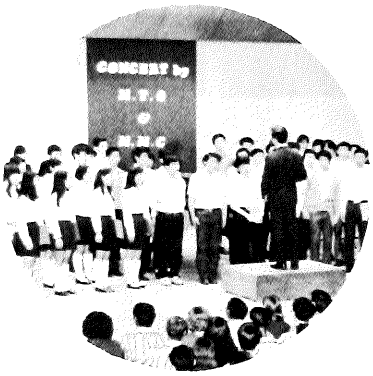
明星の教師

明星の教師は授業をしっかりやろう，生徒と仲よくしよう，ということをモットーとしている。そしてそこには，あるきびしさが要求される。それは自己へのきびしさだ。

⬇静寂 テスト











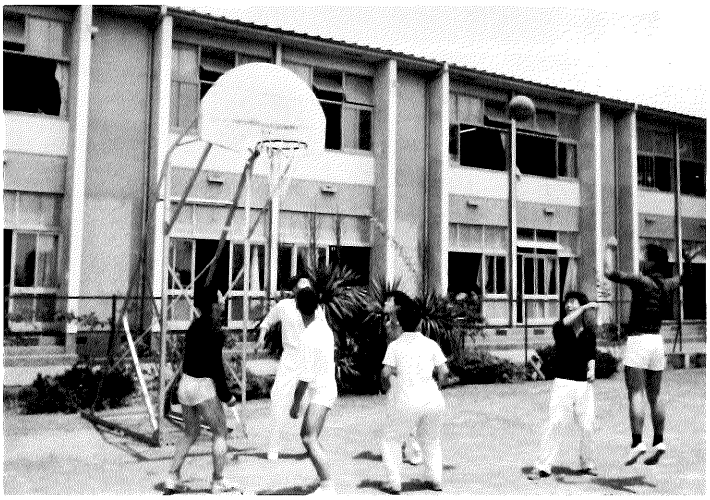
●クラブ活動

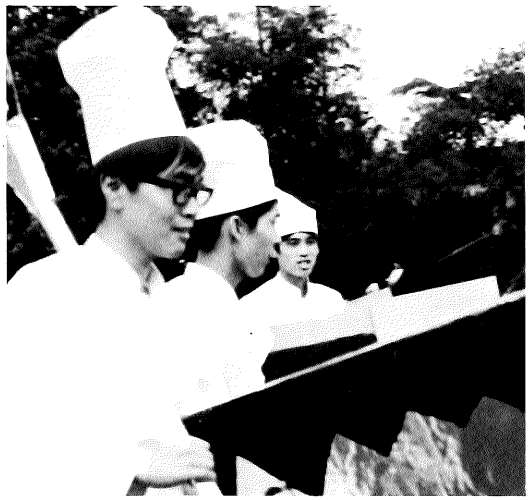


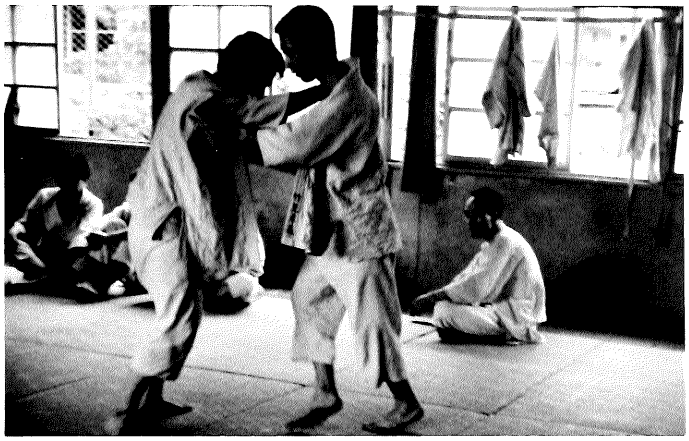


←サッカー　　↑野球部とテニス部

↓バスケット





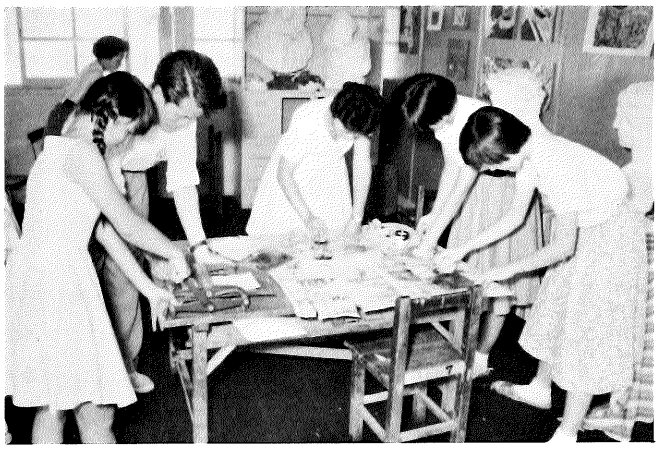


⬆**柔道部**　指導の教師は池上先生（昭和42年）

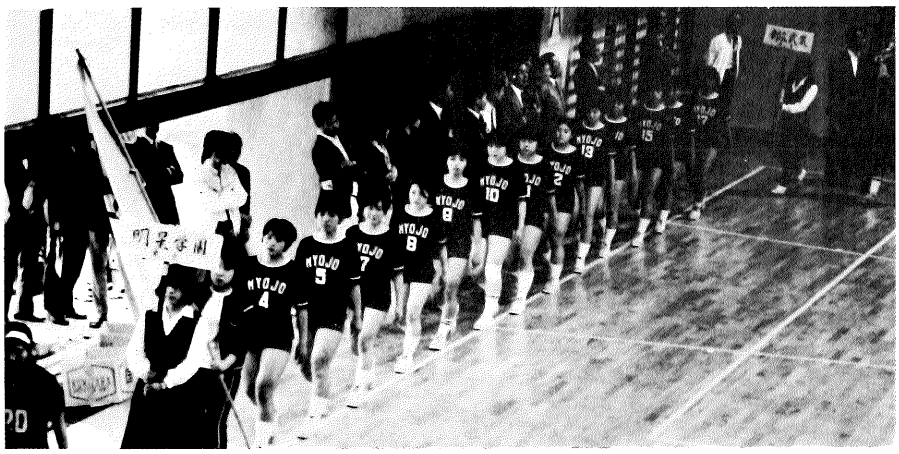
⬇デッサン



➡
エッチング



⬇**バスケット**　関東大会入場式

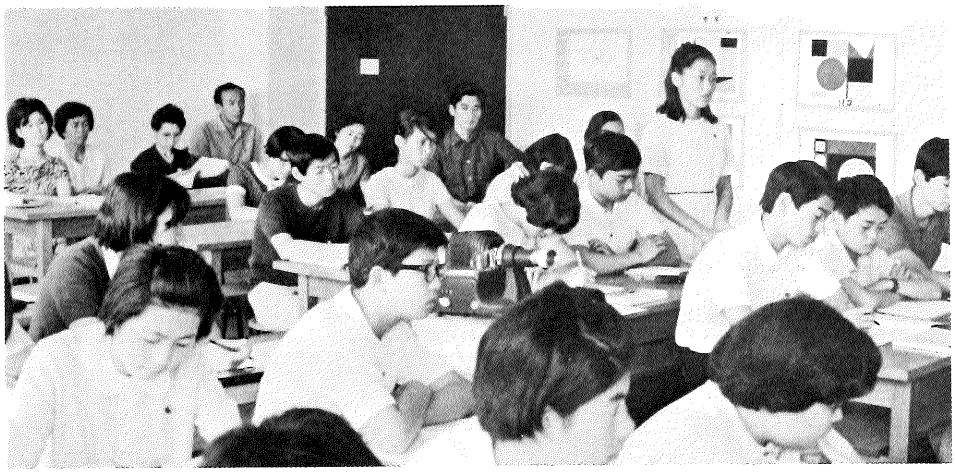


●教室点描

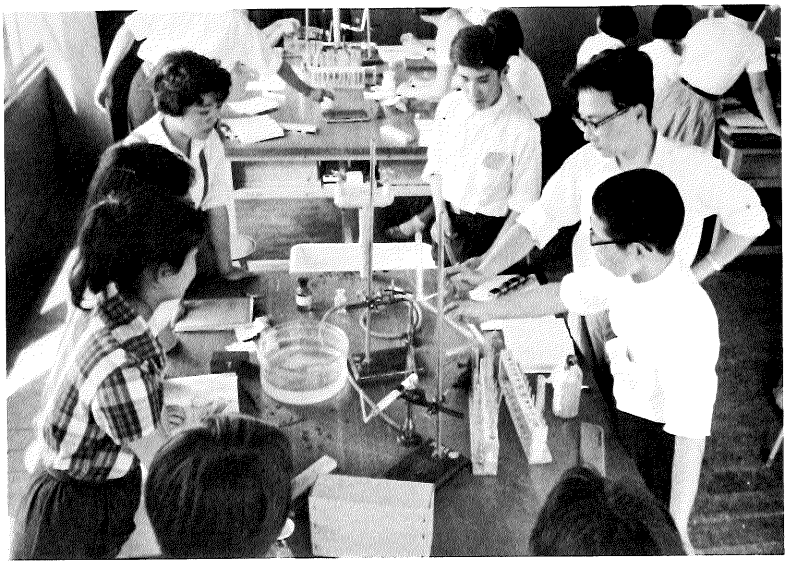


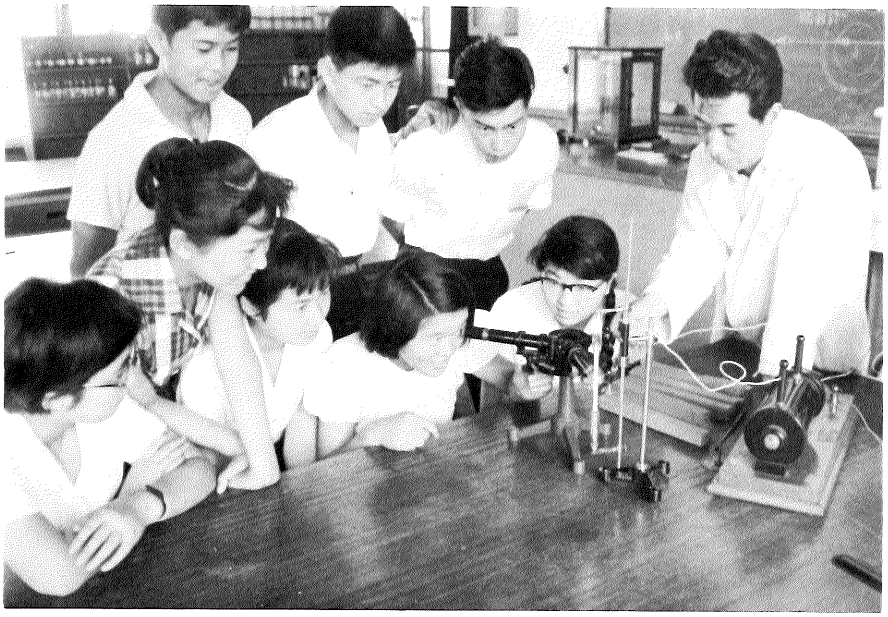
英語の授業➡

⬇授業研究のスナップ



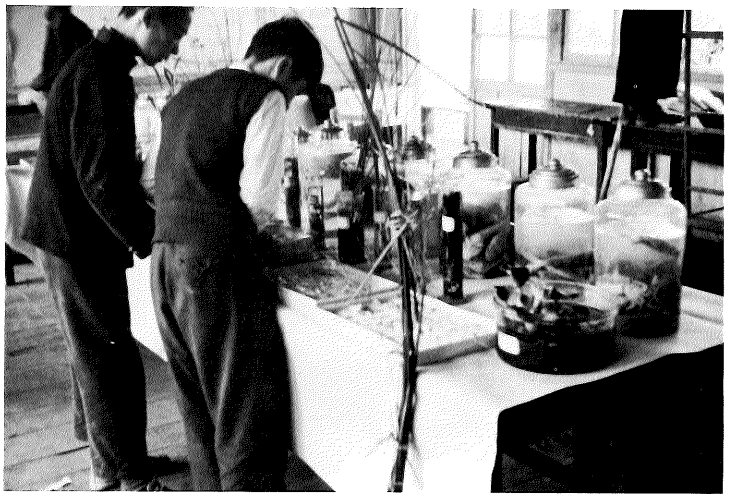
化学の授業➡





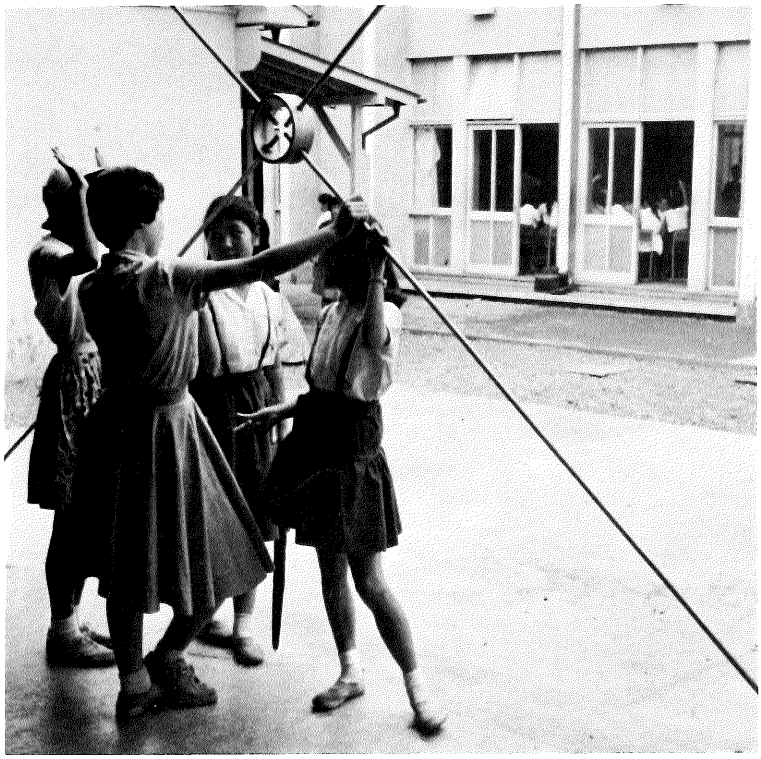
←スペクトルの学習

千倉の生物研究➡



⬇料理研究部





⬆新しい担任教師の噂

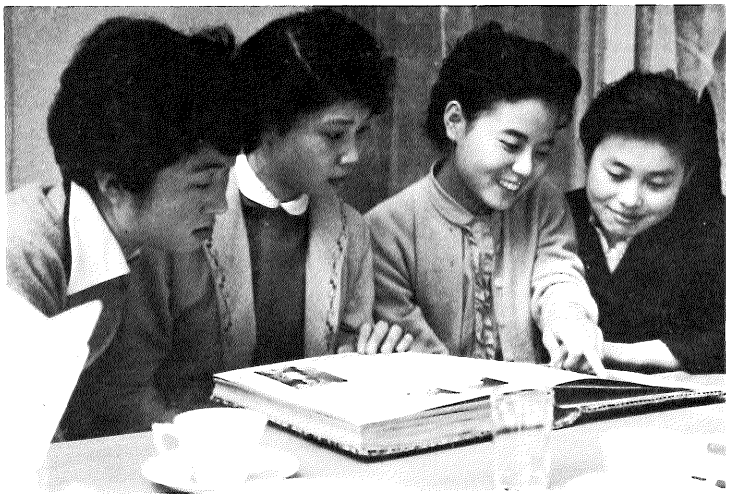


玉川上水横の通学路➡



⬆啓太郎池の前で

修学旅行のおもいで➡





⬆クラス対抗リレー　（体育会）



⬅マラソン　（体育会の定例のもの）

Ⅵ　学園の経営

1　経営面からみた明星学園

(1)　大正13年——昭和43年

①　初期の学園財政のことがらについては，前述の——学園誕生前夜，中学校および高等女学校設立，後援会，後援者，財団法人——において述べたとおりである。

②　創設以来の一般経常部会計を戦前と戦後にわけて，当時の経常費予算書・決算書をもって概観する。

戦前の経常部財政　昭和８年度の初等部は収支285円の不足額となっているが，９年以後は初等部・中等部ともに繰越金を計上している。初等部では12年度の35円を最低に，17年度の3,926円，中等部では９年の 231円を最低に，14年度が 7,281円と，ともに黒字で経営は一応安定していた。

戦前における学園の予算の大半は人件費と地代に差向けられ，他の不足は教職員同志の必要な努力と忍苦をもって埋め合せてきた。しかし，日支事変以来１トン23円の石炭が38円となり，トラック１台12円30銭の薪が40円に。13年に32円で塗装した教室の机（４人用）が15年には 150円となり，経済情勢の激変の中で15年以降は予算あって予算なく，決算書の作製も仕様もない有様で，学園の経営は年々困難となり，明星だけではないが教職員の生活も困窮し，戦時手当・物価手当・家族手当等の支給を余儀なくされ，月謝増額を父母に訴えて窮状を打開してきた。

大正14年度経常費予算

○収入

授業料　5,940円（１人66円・90人分）

○支出

総額　10,900円

（内訳）

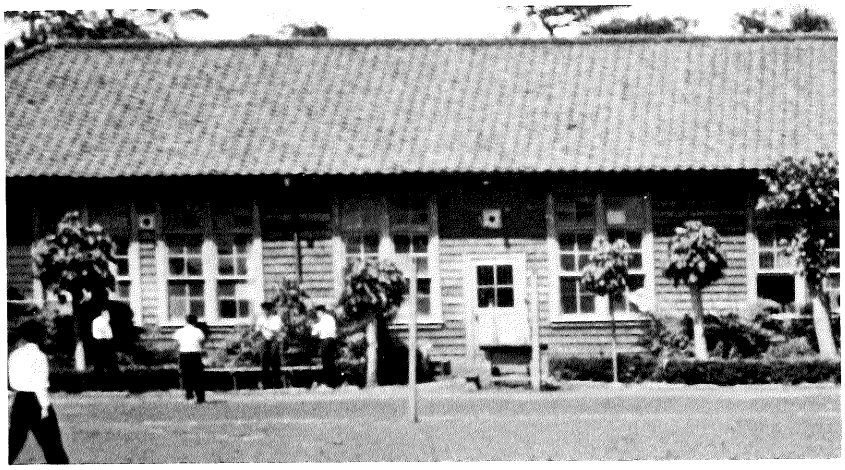
職員給　7,560円（100円・５人，80円・１人・30円・１人，20円・１人）



← 小学部の校舎　（昭和初期）



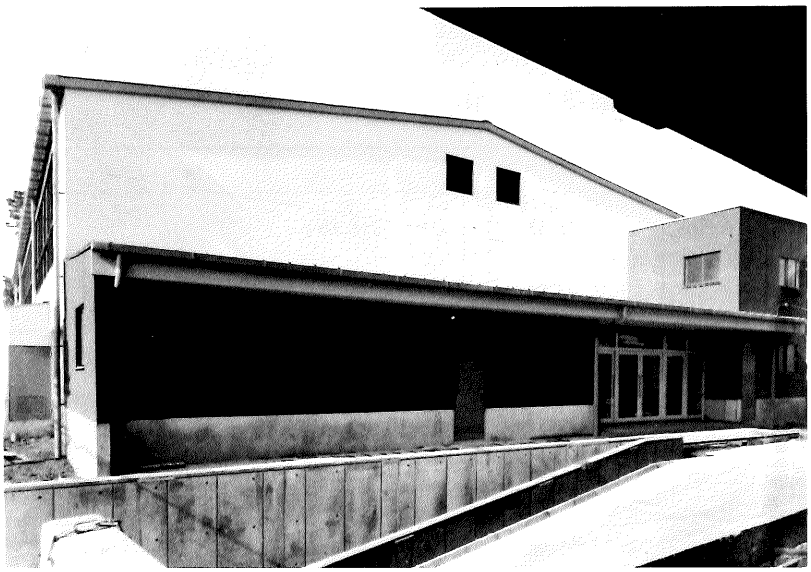
→ **小学部の職員室**　学園誕生時の建物　（昭和13年５月）



← 旧制中学部校舎　（昭和初期）



⬆女学部（旧制高等女学校）
校舎と講堂　（昭和９年）



⬆第２体育館　（初・中等部）

⬇ 事務局員　（昭和47年）



大正13年　米国，排日移民法案成立　ヘレン・パーカスト来日　成蹊小学校吉祥寺に移転
14年　治安維持法公布　ＪＯＡＫ放送開始　陸軍現役将校学校配属令公布
15年　大正天皇崩御，今上天皇即位　普選施行令
昭和２年　金融恐慌　軍縮会議決裂　大日本女子青年団創立　岩波文庫創刊

小使給　540円（月額・45円）
賞与　400円（50円・８人）
地代　1,200円
図書備品　600円
消耗品　600円
○差引不足　4,960円

昭和８年度経常費予算

昭和８年度小学部決算報告　（昭和９年４月）

品目	予算額	決算額	増減	備考
	円	円	円	
収入総高	11217.30	11532.18	＋ 314.88	
内訳				
授業料	10296.00	10193.00	－ 103.00	
銀行利子	10.00	5.88	－ 4.12	
後援会寄附		412.00	＋ 412.00	
本郷氏寄附		10.00	＋ 10.00	
職員寄附	726.00	726.00		
繰越金	185.30	185.30		
支出総高	12034.11	11817.19	－ 216.92	
内訳				
俸給	8400.00	8365.00	－ 35.00	
小使給	540.00	540.00		
傭人給	30.00	7.20	－ 22.80	
旅費及手当	485.00	416.10	－ 68.90	
退職手当	300.00	410.00	＋ 110.00	
器械及備品費	535.00	225.15	－ 309.85	
図書及印刷費	85.00	98.83	－ 13.83	
修繕費	147.00	135.35	－ 11.65	
保険料	102.00	101.25	－ .75	
消耗品費	300.00	307.76	＋ 7.76	
借地料	653.40	653.40		
雑費	255.00	283.44	＋ 28.44	
退職手当積立		72.00	＋ 72.00	
前年度不足金	201.71	201.71		
差引不足高	816.81	285.01	－ 531.80	

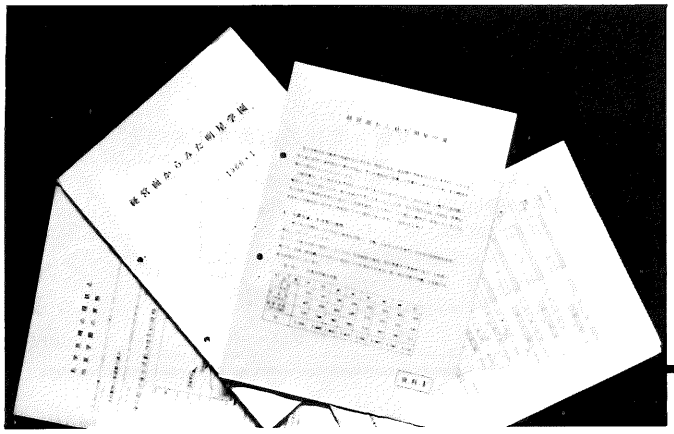
昭和初期〔昭和3(1928)年——昭和9(1934)年〕　**社会・教育・文化のおもなできごと**

昭和3年　普選最初の選挙実施　第2次日本共産党の検挙　オリンピック〈織田・鶴田活躍〉
4年　世界大恐慌おこる　バード少将南極探険飛行（教員の俸給不払各地に発生）
5年　ロンドン海軍軍縮会議　金輸出解禁　国産品愛用運動（軍部ファシズムの足音）
6年　満州事変勃発　日本映画トーキー始まる　文部省内に学生思想問題調査委員会
7年　上海事変　満州国建国　5・15事件　欠食児童全国で20万　中性子の発見
8年　ヒットラー内閣成立　国際連盟脱退　京大・滝川事件　小学校教科書大幅改定
9年　ロンドン軍縮条約破棄　文部省に思想局設置　（漫画のらくろ・紙芝居・野球ブーム）

昭和8年度中等部会計決算報告書

品目	予算額	決算額	増減	備考
収入総額	19,811.47	20,334.29	＋ 522.82	
内訳	円	円	円	
中学部授業料	10,440.00	10,850.00	＋ 410.00	
女学部授業料	7,200.00	6,950.00	－ 250.00	
入学金	100.00	130.00	＋ 30.00	
銀行利子	10.00	17.82	＋ 7.82	
東京府補助金	1,200.00	1,203.00	＋ 3.00	
職員寄附	858.00	858.00		
寄附金		322.00	＋ 322.00	
繰越金	3.47	3.47		
支出総額	19,811.47	20,281.75	＋ 470.28	
内訳				
俸給	13,764.00	13,764.00		
東京府補助金	1,200.00	1,203.00	＋ 3.00	
小使給	612.00	597.00	－ 15.00	
旅費及手当	330.00	346.65	＋ 16.65	
恩給財団支出	200.00	195.92	－ 4.08	
器械及備品費	800.00	730.79	－ 69.21	
図書及印刷費	250.00	228.78	－ 21.22	
修繕費	400.00	362.17	－ 37.83	
保険料	170.00	170.20	＋ 0.20	
消耗品費	600.00	616.99	＋ 16.99	
地代	1,191.60	935.52	－ 256.08	
雑費	293.87	360.73	＋ 66.86	
財団へ		770.00	＋ 770.00	
差引残額			52.54	次年度に繰越

戦後の経常部　戦後は教育方針の基幹をなす少数定員制によって運営されてきたが，この伝統的に特色ある制度も，反面学園運営のための財源保持の面からは決定的な隘路となっている。しかし，財務上幾多の支障が生じていたが経営は黒字であった。40年以来の経常部は，物価上昇に伴う人件費・物件費増，このための財源としての学費増も，父母の負担の限度を考慮して大幅にアップできず，借入金で帳尻を合せ，借金経営となったのである。父兄負担の授業料および入学金収入(43年度から振興事業部に移す)を主とした収入では，教職員の給料・研究費・教具備品・その他の支出



経営面からみたリーフレット類

がまかなえず，年々赤字（昭和42年度で累積 7千600万円余）となり，振興事業部からの仮払い，あるいは立替でつじつまを合せてきた。したがって経常部は赤字つづきで，43年をピークにずっと経営は不安定であり，時に危殆に落ち込んだこともあった。

2　学園財政健全化5カ年計画

(1)　昭和44年——昭和48年

学園財政の推移と現状

明星では，戦前からの施設設備が老朽化し，その使用も限界に達していたため，これらの全面的な改善を企画し，昭和29年から約10年間の計画で，全施設設備の更新を進めてきた。しかしその源資を，自己資金の全くないまますべて借入れに頼り，この間6億5千万円にのぼる投資をした。したがってこれらの借入れに対する元利返済のため，「寄付・学園債・愛校定期」などの募集による源資の調達に頼らざるをえない状態になった。

さらに不運なことには，戦後のベビーブームが過ぎ，生徒数が激減したことも返済計画に齟齬をきたした原因になった。昭和38年頃までは生徒数 1,550名くらいであったものが，昭和44年には，1,150名にまで落ちこんだ。私学経営のための源資は，殆んど生徒納付金に頼っていることはご承知のとおりである。生徒数の激減は致命的な要因であることはもちろんである。4年前は財政的には「倒産」寸前の状態であった。この整備計画を推進した理事会の長期的な見通しの甘さがあったことも原因で，さらに事態の変化に対する適確な決断と措置を講じえなかったことが問題を大きくしたことも事実である。

昭和44年10月，理事会・評議員会に在校生の父親約10名が参加し，学園財政の建直しを図ることになった。この目標をつぎの2点にしぼり，昭和44年度を初年度とする5カ年計画をたてた。第1は教職員の待遇改善においた。昭和39年以降44年まで殆んど給与ベースの改訂は行われず，44年の給与ベースは公立校に比し40%近くも低い状態であったので，5カ年で「世間なみ」にしたいと考えた。第2は，学園の負債を整理することであった。当時の負債総額は2億9千万円，利息支払は年に2千万円に達している。最近の物価の上昇による人件費の高騰は異常なものであるが，明星の場合も低い給与ベースにも拘らず，過去の人件費の支出は授業料収入を上廻る結果になっていた。このため寄付への協力を願い，授業料の改訂を行い，教職員の待遇改善を行ってきた。負債につい

ては，預担分の相殺，私学振興財団からの借入れによる低利資金の肩がわり返済を含む金利の逓減，その他学園債・愛校定期の返済の延期など，その整理を進めてきた。昭和48年3月末には借入残高は約1億6千万円で，金利負担も年 900万円にまで改善することができ，生徒数もこの4月には1,400 名を超える見通しである。

財政再建のためには5カ年を必要とするであろうと考えていたが，学園関係者の協力により，3年を経過して財政正常化の見通しがつき，明日への飛躍のための準備を進めている。このような状況の中で，5カ年計画の中では全く不可能と考えていた施設設備の改善も計画できるようになった。現在，ＰＴＡはじめ後援会のご協力をいただき，小・中等部用の体育館の建設計画が進められている。4月には着工し，8月頃までには完成する見とおしである。一方高等学校の施設についても一部老朽化しつつある普通教室の建設のための検討を進めているが，昭和49年度には着工したいと考えている。さらに千倉・軽井沢・清里などの校外施設についても，教育活動のために十二分に活用できるよう改修したいと考えている。　（昭和48年3月20日「後援会会報」8号から，理事　真田三喜彦記）

3　学園経営の展望　——学園財政3カ年計画・昭和49年～昭和51年——

(1)　はじめに

昭和44年12月，昭和45年度を初年度とする5カ年計画が立案されたが，当時の学園は内外ともに多難な時期に遭遇し，学園財政再建のための方策を主眼として計画されたものであり，その骨子は大要次のようなものであった。

㈠　教職員の意志統一による教育計画を樹立し，社会的信頼に応えるべきである。

㈡　財政計画は，その教育計画の裏づけを基に財政再建計画を立案実行に移す。

㈢　教職員の待遇改善を5カ年間で都公務員給与ベースに追いつかせる（都公務員結与の年々アップ率を8.75%と見込む）。

㈣　不足資金の補塡のため44年度・45年度にまたがって寄付金を募集する（特別寄付金目標額3千800万円）。

㈤　昭和46年度以降は授業料の増額をする（年々月額1千円）。

㈥　赤字対策として生徒増を図り，停年退職者の補充見合わせなど，その時点の状況に応じて考える。

5カ年計画策定時における学園は，財政・教育の両面に幾多困難な問題を抱え，あわせて私学経営に対する複雑な社会的関心の状況下におかれ，向後の5カ年を推移予想することは誠に至難なことであった。その後における教育行政・経済情勢・労働状況等は，いずれも急激な変化をきたし，予想を遥に上廻り計画の実行は非常に困難となり，5カ年計画を基調としながらも，納付金の改訂等を含め大幅な変更を余儀なくされる結果となった。

しかしながらこのような困難期にあって，学園関係者の健全化への熱意と努力は当時の学園非常時を見事克服し，計画第4年めにして経営の健全化が達成された感がある。昭和49年度は5カ年計画の最終年度にあたるわけであるが，昭和48年度における経済の騰勢をもとに，今後の情勢を推察するとき，5カ年計画の計上額は実情と大きな隔たりを生ずるものと思われるので，5カ年計画を48年度で終了せしめ，改めて昭和49年度を初年度とする3カ年計画（1年毎更新の）を策定し，これを実行に移すことが時宜をえた方策と考える。

(2) 計画立案の基本理念

学園はたえず成長し，発展するものである。したがってこれを支えるための長期財政計画の基に長期の成長・発展的な計画が樹立されなければならない。また，日常の経営が最も合理的でかつ円滑に運営されるためには，これを運用する組織・機構が確立されなければならず，人員・施設・設備・諸制度は学園の発展に対応して改善し，その機能を十分発揮しうるように定められなければならない。したがって長期計画は成長の計画・学園構造の計画であるといえる。さらに長期計画は総合計画でなければならない。すなわち，学級数（体制・学級定員等も）・教育・研究計画，人員組織計画，施設設備計画，資金計画等の面について部分計画を総合調整した計画であることが必要である。また，長期計画は概要の目標的計画をもち，方針的な性格をもつものであって，目標・方針を明かにすることにより，長期的な視野を与え，近視眼的な決定を避けることができよう。

理事会として，以上を学園3カ年計画の基本理念として立案されたのである。（財務部長　高村弘道記）

4 「学校法人会計」基準施行に基づく財政整備

企業会計と学校法人会計とは，会計の原則においてまた，具体的な運用の面で根本的に異なるものであり，かつ私学経営に「黒い霧」を防ぎ，国の私学助成に対する法的規制をととのえるために，学校法人会計の基準が47年に示された。明星学園においてはすでに34年度に大福帳式のどんぶり勘

定をやめ，複式簿記法を採用し，43年度からは公認会計士の指導のもとに会計処理を行ってきた。46年度までは貸借対照表・損益計算書・財産目録・付属明細表などを作成，47年度からは損益計算書をやめ資金収支計算書・消費収支計算書に学校法人会計の基準に則って整備した。基本金についてこれまであいまいであったので，会計基準の定義に従い，また施設・備品に対する減価償却も47年において処理した。

（財務部長　高村弘道記）

5　学園の施設　（臨時部――振興事業部）

(1) 戦　　前

戦前の私立学校においては，篤志家の財産拠出によって私学経営の基盤が作られるという原則が保持されていた。設立時の施設・設備が寄付により完備されるのはもちろんのこと，校舎の増改築，施設の拡充に必要な資本的支出も，寄付によりまかなわれたものであった。明星も戦前は篤志家の財産拠出によってほぼまかなわれ，授業料以外の臨時的納付金はほとんどなかった。したがって資本的支出に充てるための借入金もなく，このための債務返済費も皆無に近かったのである。茶郷基を始め，多くの篤志家，および後援会の処金合計11万9千800円が基本財産・運用基金であったので，施設・設備に要する基本財産が豊かであったとはいえない。また経営に必要な基金，経営のための資金財源の運用財産はむしろ乏しく，したがって創立以来物的・財政的基礎は脆弱であった。

(2) 戦　　後

ある日突然崩れる危険ありと専門家から指摘された老朽校舎の増改築は，それだけの単一な理由に基づく更新ではなく，生徒の自然増に伴う収容能力とまた当然の措置として教育施設・環境の質的向上をも含んだものであった。児童生徒の生命にかかわるほどの老廃校舎の改築は至上命令であるし，生徒増に伴う校地の拡張と校舎増築もまたやむをえないことで，このことは当時（29年度）の全父兄・全教職員の熾烈な願望でもあり，この旨をうけて法人の評議員会――理事会のルートを踏んで学園の振興事業計画を立案，A（善方立案）・B（原田立案）案を基礎とし，いろいろの機関で検討の結果A案を採用し，昭和30年以来校地を広げ，累年校舎の新築増築，そして校外施設の完備等に投入した資金は寄付金・施設金のほかは学園債・私学振興会と銀行からの借入金でまかなった。現在は事業計画は全部終了したのである。学園の開拓者たる創立同人のほかに学園振興事業の推進



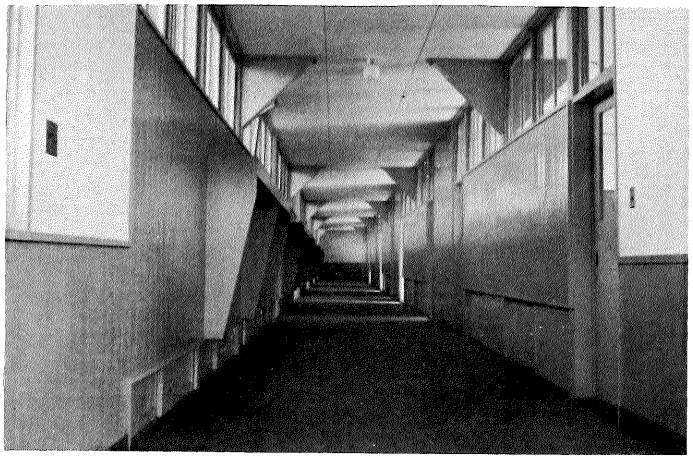
者として，戦後の小・中・高の各部主任善方国男・橘正薫・船山博彦・事務局長横川武ならびに実務担当の酒井幸夫の5人の功績は学園史に残るものである。

振興事業経過

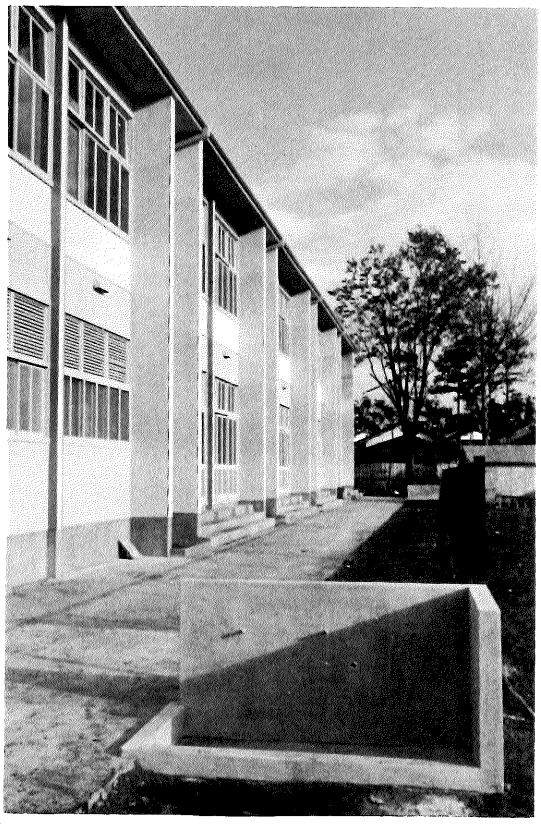
創立満30周年を期し，学園振興事業として創立以来の校舎の増改築にとりかかり，現・旧父兄，卒業生，その他の多くの方々のご協力で，今日までに次のとおり校地の拡張，校舎の建設を進めてきた。

（原田満寿郎記）

年度	工事名	内容	面積（m²）	完了年月	工費(万円)	備考
30	校地拡張	高等学校運動場	3,670	31．3	470	
31	小学校校舎	鉄筋コンクリートブロック平家建6教室便所	870	31．8	1,060	
	中学校校舎付帯工事	木造2階建9教室，便所，講堂移築	1,050	31．10 年度内完了	1,090 150	中学校校舎完成直後高校校舎とする
32	高等学校校舎付帯工事	木造2階建9教室，便所，運動場整備	980	32．6 年度内完了	1,210 200	
33	校地拡張	高等学校運動場	495	33．6	130	
	小学校校舎	鉄筋コンクリートブロック平家建6教室	750	33．10	890	
34	小学校付帯工事	校門，前庭，塀その他		34．9	200	
36	小・中学校特別教室付帯工事	鉄筋コンクリート2階建，7教室及び管理部門，運動場整地	1,175	36．1 年度内完了	2,700 150	中学校校舎完成まで普通教室
37	校地拡張	小中学校運動場	2,640	37．12	2,500	
	〃	中学校校舎敷地	1,451		3,450	
	高等学校体育館特別教室	鉄筋コンクリート2階建	1,400	37．10	3,000	
38	中学校校舎	鉄筋コンクリート4階建，16教室	1,718	39．12	7,627	
40	高校特別教室	鉄筋コンクリート陸屋根，地下1階付4階建	1,735	41．3	7,739	
41	清里寮	木造亜鉛メッキ鋼板葺，平家建	566	41．9	2,242	
48	第2体育館	鉄骨造亜鉛鉄板葺，一部2階建	823	49．3	6,657	



⬆中学校校舎の廊下　（昭和31年10月建設）



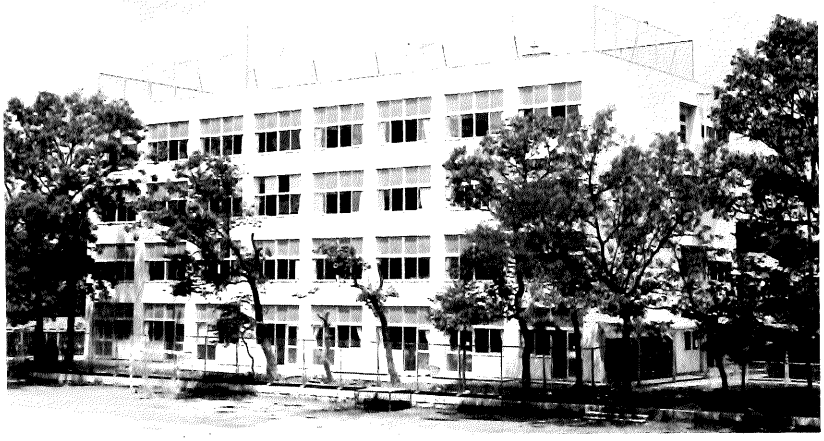
⬆中学校校舎　現高校校舎
（昭和31年10月建設）



⬆低学年部校舎第１棟　小学校
（昭和31年８月建設）

低学年部校舎第２棟　小学校
⬇　（昭和33年10月建設）



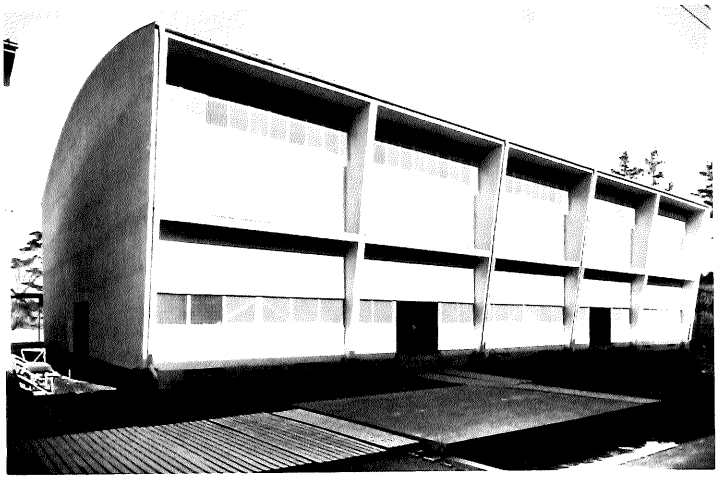


⬆中学年部　校舎　中学校　（昭和39年12月建設）

⬇中学年部　校舎玄関　中学校
（昭和39年12月建設）



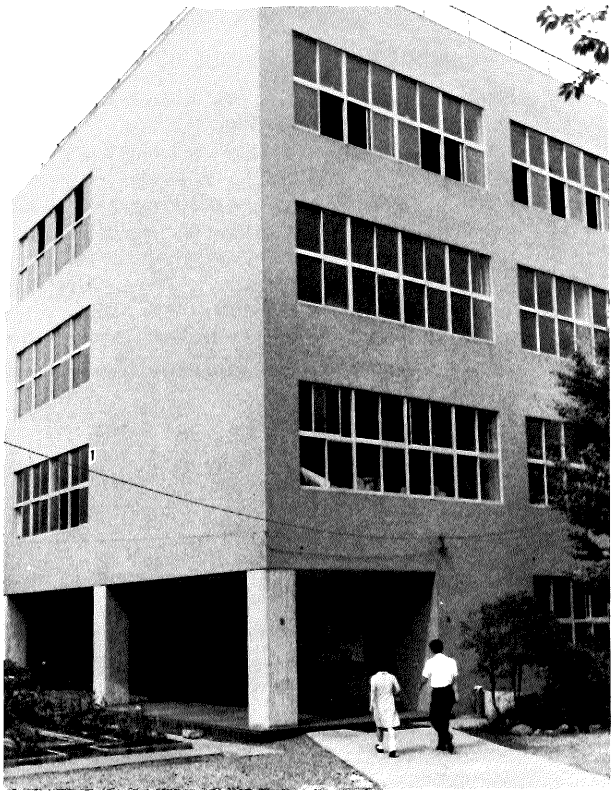
⬅高学年部体育館　（昭和36年10月建設）





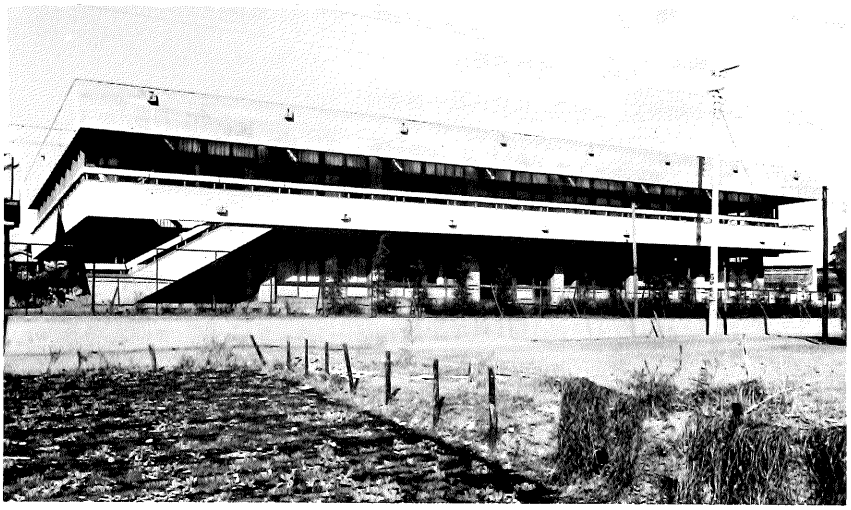
⬅高学年部体育館内部　（昭和36年10月建設）



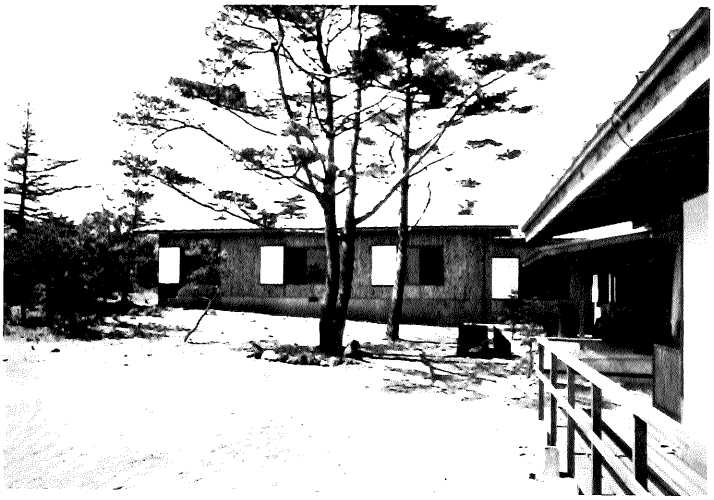


⬆特別教室棟　高校　（昭和41年３月建設）

⬇ 学園管理棟　（特別教室を含む）（昭和36年１月建設）



⬇ 八ケ岳清里寮　（昭和41年建設）



昭和10年　独・再軍備宣言　天皇機関説の問題化　芥川・直木賞　青年学校令公布
11年　2・26事件　西安事件　ベルリン・オリンピック（前畑がんばれの放送）
12年　日華事変　南京陥落　日独伊防共協定　文部省「国体の本義」刊行
13年　国家総動員法成立　「麦と兵隊」ベストセラー　（軍国の母・日の丸行進歌大流行）
14年　第2次世界大戦　青年学校義務制　（興亜奉公日——国民の思想統一）
15年　日独伊三国軍事同盟締結　大政翼賛会発足　（新体制運動開始・国民服・回覧板）
16年　日ソ中立条約　東条内閣成立　太平洋戦争始まる　国民学校令　文部省「臣民の道」刊行
17年　シンガポール占領　ミッドウェー海戦　国民練成所設置　政府・軍部の新聞統制
18年　アッツ島守備隊全滅　イタリア降伏　大日本言論報国会結成　勤労奉仕の法制化
19年　大都市に疎開命令　米機東京空襲開始　学徒動員実施　学童疎開・学校工場化実施

(3) 施設拡充の推移表　（大正13年——昭和28年）

大正13年　土地 1,000坪借地　教室（5教室外1室） 103坪　工費12,000円〈ただし茶郷基寄付〉
大正14年　土地 800坪借地　教室 38.25坪　工費 3,000円
昭和2年　音楽室，図書室 50坪　工費 4,000円
昭和3年　女学校校舎 125坪　中学校校舎101坪
昭和4年　中学校校舎 45坪，渡廊下 6坪（工費4,388.5円）　講堂 70坪，物置 7坪（工費7,230円）〈ただし後援会寄付〉
昭和6年　女学校校舎 83.5坪，付属建物一式（工費 2,378.6円）〈ただし川井源八寄付〉
昭和7年　中学校校舎 45坪（工費 1,800円）〈ただし後援会寄付〉
昭和10年　女学校校舎 22.5坪（工費 1,240円）〈ただし山之内兵十郎寄付〉
昭和14年　女学校校舎 22.5坪
昭和15年　中学校理科室 52坪
昭和17年　中学校校舎増築
昭和22年　新制中学校4教室 150坪　旧制中学校2教室
昭和24年　（第2期増築計画は資金の都合により1教室だけにした。）

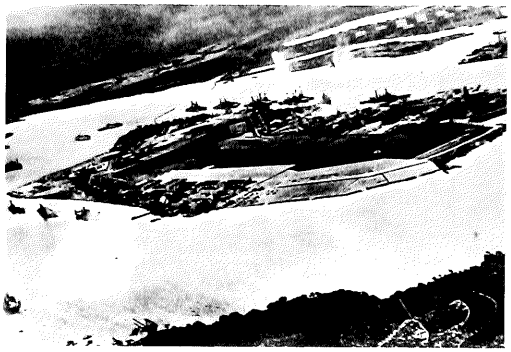
(4) 施設拡充の推移表　（昭和29年——昭和48年）

既に完了した工事内容

中高校　運動場拡張　約 4,000平方米
小学校校舎　平家建2棟　12教室　約 1,600平方米
中学校校舎　2階建1棟　9教室　約 1,000平方米
高校校舎　2階建1棟　9教室　約 1,000平方米
その他　校門塀，グランド整地等付帯工事
《工費計 6,150万円》

今後の工事計画内容

校地拡張　約 6,600平方米
低・中学年部特別教室　約 1,200平方米
高学年部体育館　約 800平方米



真珠湾攻撃（昭和16年12月８日）
（講談社「写真図説日本百年の記録」から）

中学生部普通教室　　約 1,600平方米
高学年部特別教室　　約　600平方米
《工費計　13,000万円》
総工費合計　１億9,150万円
上記のうち寄付金募集目標額１億4,000万円

6　納付金（月謝・授業料）に関する推移

(1)　保護者・父兄へのお知らせ

月謝の増額について

物価の連続性暴騰とこれに逆比する品質の下落とは，刻々に消費組織を破壊して行きます。毀賑産業以外の経営の困難さはむしろ悲壮なものがありましょう。さなきだに僅か１万円そこそこのささやかな予算によって経営をつづけて来た私ども小学部です。平素ですら予算の大半は人件費と地代に差向けられ，他の不足はお互同志の必死な努力と忍苦をもって埋合せてまいりました。しかし事変以来，１トン23円の石炭が38円となり，トラック１台12,3円の残木薪が40円に，１昨年32円で塗直した教室の机は今年は 150円に跳上り，昨今となっては予算あって予算なく決算書の作製しようもない有様です。もちろん教師への物価高手当どころか増額予定すら消費面膨張のために脅かされる時態となっては，最早隠忍とか刻苦とかいう精神的努力の上を行くものであります。

以上の情勢上，当分月謝を１円増額する必要をお認めください。増額といっても，もと小学部は８円の月謝でしたのを昭和５年に当時の時局に鑑み６円に引下げたものであります。ですから当局には今でも月謝８円徴集のことになっております。学校にとっては半ば復元の意味しかありません。将来一般生活がもっと引下げられるようになりましたら，その時はまた，ご相談のうえ６円になり５円になり，時代の適応性に準拠することにいたします。

４月３日の父兄会においてこのことは既にご納得をいただいてはありますが，ご欠席の向のため，重ねてご了解をいただく次第であります。

昭和15年４月５日

明星学園小学校

保　護　者　様



隣組の防空演習（昭和13年）
（国文社「図説国民の歴史」から）

拝啓　各位益々ご清移の段　大慶に存じます。さて，戦局は愈々決戦の段階に突入いたし，作戦・生産の全分野に若き力の急速なる増強が熱望せられ，国民教育の全般にわたって「非常措置」が指示せられたことは，既にご承知のことと存じます。学園においては各学部それぞれ新構想をもって，これが徹底に全職員懸命の努力を尽しております。しかるに教育のことは，本来別途方法よりも人の問題でありまして，教職員の安定確保の必要なこと今日より大なるはありません。

本学園の教職員の待遇は，もとは一般公私立学校に比して敢て劣るものではなかったのですが，戦時手当・家族手当・物価手当等の特別支給がせられるようになって以来，次第にその差が大きくなり，永年勤続の先生方にははなはだお気の毒な状況となり，さらに新しい職員組織に支障を生ずるような憂いも見えてきました。一方物価は学園創立の当時に較べれば数倍になっておりまして，従来どおりの授業料では到底これ等特別手当支出の余地がありませんので，この際父兄各位のご諒解を得て，新学年から毎月金2円を増徴いたし，もっぱら教職員待遇の資に充てたいと存じます。さすればおよそ一般学校同様程度に高めることができるのであります。なにとぞよろしくお願い申しあげます。

昭和19年2月

明星学園長　赤井米吉

各部父兄殿　各位

拝啓　孟春の候益々ご清適の段　大慶に存じます。さて終戦以来生活物資の高騰日々に激しく，各方面ともその対策に苦慮せられていますが，目下のところ俸給生活者においてはその手当額の増加を計るよりほかに途のない実情です。東京都においては既に公立学校教職員手当の飛躍的増加を決定し，私立学校もそれぞれその対策を講ずるようすすめています。ついては本学園においても教職員の生活安定のため，この際できる限り待遇の向上を計りたく，来る4月の新学年から各部とも，授業料月額20円，後援費月額10円，計30円に増額いたしたいと存じます。保護者各位におかれても諸経費多端の折柄でございましょうが，何とぞ，ご承諾くださいますよう切にお願い申しあげます。

昭和21年2月15日

明星学園長　赤井米吉

父母各位

拝啓　春寒もどうやらゆるみ，花の季節の間近かなのを思わせるこのごろ，父母の皆さまには益々

昭和20年	ドイツ降伏　広島・長崎に原爆投下　ソ連対日宣戦　日本降伏　ＧＨＱ設置　戦時教育令公布　戦時教材を削除の次官通達　（解放感と不安感・ヤミ市，浮浪者）
21年	ＧＨＱ占領政策発表　日本国憲法公布　天皇の人間宣言　米国教育使節団来日　教育勅語奉読廃止　ＧＨＱ指令——教員の公職追放・農地改革・財閥解体・男女同権　（食糧危機にて学校授業の継続困難）
22年	２・１ゼネスト中止　新憲法施行　教育基本法公布　６・３・３制実施　社会科授業　公職追放教員11万　（インフレ・食糧の遅欠配，鐘の鳴る丘——歌　20の扉——ラジオ）
23年	極東軍事裁判判決　帝銀事件　公選制教育委員会法　全学連結成
24年	三鷹・松川・下山事件　湯川秀樹ノーベル物理学賞　私立学校法公布・教育の大系整備
25年	朝鮮戦争おこる　警察予備隊設置　（野球ナイター始まる　羅生門——グランプリ）
26年	サンフランシスコ講和会議　児童憲章制定　（紅白歌合戦　競馬などギャンブル盛ん）
27年	平和条約発効　メーデー事件　公職追放令禁止　（“君の名は„大流行）
28年	スト規制法　ソ連水爆保有　ＮＨＫテレビ放送開始　（吉田首相，バカヤロー解散）
29年	日米相互防衛援助協定　「教育の政治的中立に関する二法」の成立　（偏向教育問題大論争）

ご健勝にお過ごしのことと存じます。学園では，ご存知の40周年（昭和39年度）を目指しての振興事業を８割近くまで実現して，後段の計画にもほぼ具体的な見通しを得て進行させております。学園の基本方針である少人数制のもとで，この事業の達成は，ことば以上に至難なわざであります。しかしながらご父母方の強力なご支援と，教職員諸氏の耐乏的努力の凝集が，遂に今日をあらしめた次第で，全く感激の至りでございます。

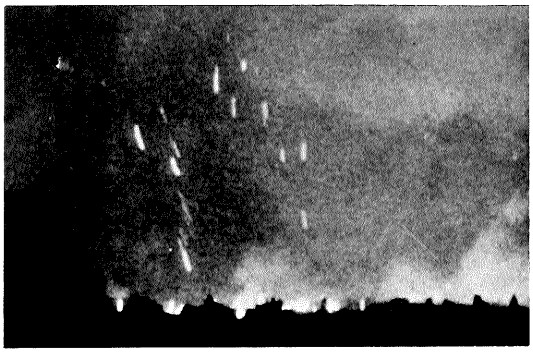
さて，申すまでもなく他の諸事業もさることながら，教学の業は瞬時の停滞も許されるものでありません。なぜなら，子供達はひとしく刻一刻と伸び育ち，求めてやまないからであります。学園では次代を担う子等に精いっぱいな充実と伸長を獲させる場をつくるために，綿密な計画と努力を飽くことなく進めております。それは単に精神的努力だけでなく，有効適切な設備や各種の教育媒材の拡充化を図ることでもありますので，当然相当な経費を必要とします。また一方省みれば，戦後十数年来教職員諸氏に酬いるもの誠に薄く，振興事業が完成するまではの合言葉のもとに心ならずも不如意な思いをさせてまいりました。待遇程度を簡単に申してみても，公務員給与に比して月月３千円から１万円の落差があるという現況であります。前者後者ともに教学向上のためには最も重要不可欠の要素であるにもかかわらず，低水準であるうえに，加えて最近諸物価の急上昇で，現状では向上策が得られないこと明白であります。

もっともこのような事情は各私学共通で，当学園に限ったことではありません。果して１校の例外もなく授業料その他の増額を断行して，人件費や諸経費の財源確保を図っているのが昨今の実況であります。当学園では，その場の繕いでなく，ある程度先の見通しに立ち，積極的建設的な意気込みと計画のもとに，財源増強を敢行することに踏み切りました。すなわち「①授業料を年額４万円にすること，②諸経費操作を変更すること」であります。もちろんすべて皆さま方のご負担にかかることですから，学園側の一方的決意だけでは独善のそしりを免れないのでありますが，この際ぜひとも深いご理解と強いご協力をもってこの願いをかなえさせていただきたいと存じます。実は一々ご面談のうえご了解をえたいのですが，時日を迫っておりますので，書中で上記を最終案としてご了承願う次第でございます。

敬　具

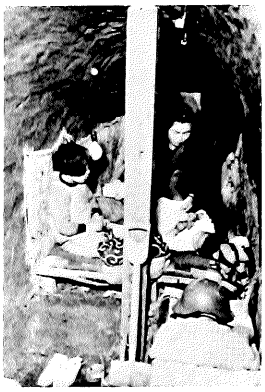
昭和38年３月14日　明星学園小・中学校長　照井猪一郎
明星学園高等学校長　上田八一郎
明星学園理事長　市村寅之輔

父　母　各　位



(2) 学費（月謝・授業料）に関する推移

年　度	額（円）	増額（円）	備　考
大正13年	6		（創立大正13年5月15日）
大正14年	8	2	9月から増徴収
昭和 5年	6	△ 2	6円（5～14年）
昭和15年	7	1	
昭和16年	8	1	復元8円（16～18年）
昭和19年	10	2	戦時手当・家族手当・物価手当……10円（19年～20年）
昭和21年	20	10	20円（4～8月）
	50 { 20		50円（9～3月）
	50 { 30		11月～3月まで5カ月間（暖房費）
			①――臨時措置――
			②9月・10月父母有志の後援
昭和22年	50 { 20		4～5月
	50 { 30		
	100 { 60	40	
	100 { 40		後援費6～8月
	150 { 100	40	
	150 { 50		後援費9～3月
昭和23年	250 { 150	50	
	250 { 100	50	後援費（小・中）4～8月
	300 { 200	100	
	300 { 100	50	後援費（高）4～8月
	400 { 250	100	
	400 { 150	50	後援費（小・中）9～3月
	450 { 300	100	
	450 { 150	50	後援費（高）9～3月
昭和24年	500	100	（小・中）
	600	150	（高）
昭和25年	700	100	（小・中・高）
昭和26年	800	100	（小・中・高）
昭和27年	1,000	200	（小・中・高）
昭和28年	1,200	200	（小・中・高）
昭和29年			
昭和30年	1,500		（小・中・高）



東京・中野の大火災（昭和20年）
（国際文化情報社「大東京の500年」から）

昭和31年				
昭和32年				
昭和33年				
昭和34年				
昭和35年	2,250		（小・中・高）	諸費11,000／年
昭和36年	2,500	250	（小・中・高）	諸費14,000／年
昭和37年	2,500		（小・中・高）	諸費14,400／年
昭和38年	40,000／年		（小・中・高）	建築負担金 8,800／年　施設費 2,400／年 諸費 4,800／年
昭和39年	40,000／年		（小・中・高）	建築負担金 8,800／年　施設費 2,400／年 諸費 4,800／年
昭和40年	40,000 40,000 40,000		（小） （中） （高）	建築負担金 8,800／年　施設費 2,400／年 諸費 4,800／年（小・中） 諸費 7,800／年（高）
昭和41年	4,400 4,600 5,000	400 600 1,000	（小） （中） （高）	施設費12,000／年
昭和42年	4,400 4,600 5,000		（小） （中） （高）	施設費12,000／年
昭和43年	4,400 4,600 5,000		（小） （中） （高）	
昭和44年	5,400 5,600 6,000		（小） （中） （高）	施設費14,400／年
昭和45年	5,400 5,600 6,000		（小） （中） （高）	施設費18,000／年
昭和46年	7,000 7,000 7,000	1,600 1,400 1,000	（小） （中） （高）	施設費18,000／年

昭和47年	8,500	1,500	(小)	施設費18,000／年
	8,500	1,500	(中)	
	8,000	1,000	(高)	
昭和48年	10,500	2,000	(小)	施設維持費 3,000／年　諸費30,000／年
	10,500	2,000	(中)	
	10,000	2,000	(高)	

戦前の中・女学部生徒の学費

入学金は5円，月々の授業料および実験実習費10円であったが，後者は夏休みの8月分も納めることになっていた。このほかに校友会費月額50銭と週2回の食費1回分15銭ずつが必要であった。また課外に有志が週1回，学園でお願いした講師について，舞踊・ピアノ・バイオリン・油絵のいずれかを学ぶことができた。月謝はピアノとバイオリンが3円，舞踊と油絵が1円で，私がまとめて講師にさしあげた。校友会費と会食費は生徒に管理させた。

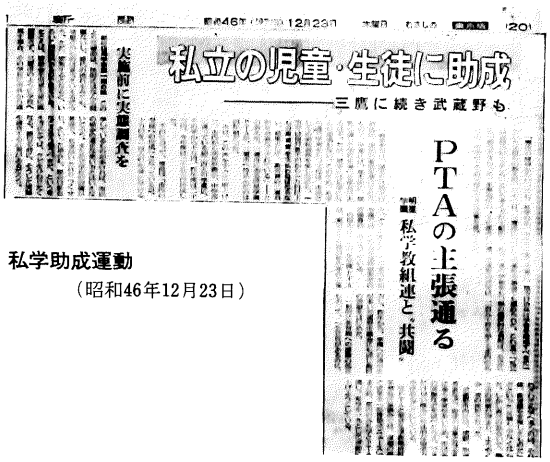
会計検査（中等部）

年に1回会計検査があった。明星のように経理のきれいな学校で，検査官が怖いわけはなかったけれど，煩らわしい好まれざる客ではあった。職員室に帳簿類を持込み，主として上田先生がお相手をなさった。私たちからいうとわかりきったようなことにも，とかく文句が付けられる。ある時5銭か10銭の支出に領収証の提示を求められたらしい。上田先生の「商売人に一々5銭6銭の領収証を書けといえますかいな」というお声が聞えた。このあと，先生とご相談して，そういう些細な支出については取扱責任者として私が領収証を書くことにした。例えば「金15銭也，写生用の梨3個代」というように。

府の補助金（中等部）

毎年，年末に私立学校に対する補助金が出た。設備になり人事なり自由に使ってよいとされていた。明星では職員の給料が少いからといって，全額を平等に専任講師に分けてくださった。1人分80円前後であった。これが私たちのボーナスであった。後にこのほかにお餅代といって10円位ずつ配られたり，交通費の名目でいくらかいただいたりするようになった。

（女学部の会計担当・青木ふみ記）


私立の児童・生徒に助成
三鷹に続き武蔵野も
PTAの主張通る
私学教組連と共闘
実施前に実態調査を

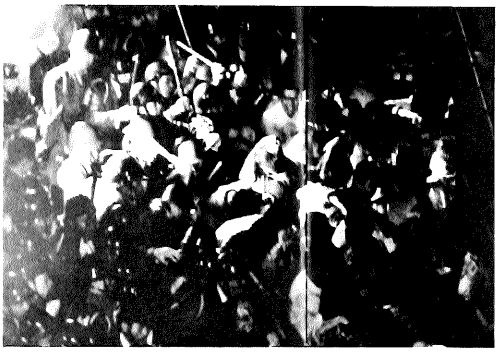
私学助成運動
（昭和46年12月23日）

昭和30年　日ソ交渉開始　学校教育法成立　（家庭電化時代・保革２大政党対立時代）
31年　日ソ国交回復　日本国連加盟　任命制教育委員会法　（テレビ文化・一億総白痴化）
32年　東海村に原子力炉完成　ソ連人工衛星１号打上　道徳教育の時間特設　（宇宙時代にはいる）
33年　「警職法」改正案国会提出　小・中学校学習指導要領告示　自衛隊の違憲を断ずる伊達判決
34年　皇太子結婚　伊勢湾台風　国際教育学会議——東京で　（マイカー時代・カミナリ族）
35年　新安保条約反対デモ激化　高校学習指導要領告示　全学連国会構内乱入
36年　ソ連人工衛星船１号成功　中学校全国一斉学力調査　（レジャーブーム始まる）
37年　米国キューバの海上封鎖宣言　「義務教育諸学校の教科用図書の無償に関する法律」公布
38年　中ソ論争表面化　ケネディ大統領暗殺　高校教育課程の全面改定実施
39年　ソ連首相フルシチョフ解任　東京オリンピック開催　東海道新幹線開通

7　学園経営・事務局略年表　（創立——昭和48年）

——経営・事務機構の変遷——

要項／年	学園の経営	・財務・経理・会計（経常部・振興事業部） ・都庁関係・ＰＴＡ・後援会など事務関係担当	収益事業部担当	学事経営事務（各部職員室勤務）	就任・退職	備考
創立——32年	赤井米吉理事長 （岡崎、内藤，赤堀，市村） 市村今朝蔵理事長 （照井，上田，岡崎） 神田五雄理事長 （赤井，照井，上田，岡崎，二村，牧野） 赤井米吉理事長 （照井，上田，橘，神田，二村，岡崎，宮崎）	創立——20年 小（照井げん） 女（青木ふみ—山岡幸子） 中（上田八一郎） 21——32年 小（照井げん） 女（山岡幸子） 高（横川武）				
33	事務局誕生 小・中・高の各部主任で経営推進 （善方，橘，船山，横川の校内理事）	酒井幸夫，五十嵐真子，伊東欣一，本間恵喜子	収益事業部発足 桑島隆介 柳沢義昭（兼任）	中・高勤務 （本間恵喜子） 小・用務員 （松永敬） 中・高用務員 （城本光秋，井口正雄）	（就） 本間恵喜子 松永　敬 城本光秋 井口正雄	
34	事務局会議で経営推進 （善方，橘，船山，横川の校内理事）	酒井幸夫，本間恵喜子，伊東欣一，五十嵐真子，小坂千枝子，関口公子	桑島隆介 柳沢義昭（兼任）		（退） 桑島，臼池	
35	事務局会議＝校内理事会で経営推進 （善方，橘，船山，横川の校内理事） ・事務局長（横川武）	酒井幸夫，伊東欣一，五十嵐真子，小坂千枝子，関口公子，川上えい子，松井幸子，深山公子	柳沢義昭（兼任） 釜屋豊子	小・中用務員 （長沢貫一）	（就） 長沢貫一	
36	事務局会議＝校内理事会で経営推進 （善方，橘，船山，横川） ・後援会理事—（中神格，善方国男）	酒井幸夫，伊東欣一，関口公子，本間恵喜子，川上えい子，長沢貫一，深山公子，五十嵐真子，松井幸子	柳沢義昭（兼任） 釜屋豊子	小・中用務員 （佐々木茂男）	（就） 佐々木茂男	



国会乱入　全学連主流派　（昭和35年６月15日）
樺美智子さん死亡・負傷者約1,000人
（毎日新聞社「その瞬間ショック100年史」から）

37	・総務会で経営上，日常的業務執行を推進 （市村理事長，照井校長，上田校長，橘，横川，岸，原田，恩地，加藤，善方） ・事務局長（横川武）	酒井幸夫，関口公子，伊東欣一，本間恵喜子，川上えい子，長沢貫一，深山公子，松井幸子，五十嵐真子，千田和子	柳沢義昭(兼任)	低・中用務員 （渋谷陸三） 低・中の警備員 （土橋大） 寮管理人 千倉寮（堀込春夫）　上野原寮（青木太一）	（就） 渋谷陸三 堀込春夫 青木太一	
38	・総務会で経営上，日常的業務執行を推進 ・事務局長（横川武）	酒井幸夫，露崎将利，山下幸子，五十嵐真子，千田和子，長沢貫一，本間恵喜子，伊東欣一，伊東　勤，川上えい子，深山公子		低・中用務員 （加藤きみ子）	（就） 加藤きみ子	（橘教務局長・校内理事，亡）
39	・総務会で経営上，日常的業務執行を推進 ・事務局長（横川武） ・局長代理―経常部―（加藤信夫） ・局長代理―振興事業部（善方国男） 〈女子事務職員の就退職頻繁〉	酒井幸夫，本間恵喜子，長沢貫一，五十嵐真子，伊東　勤，川上えい子，露崎将利，山下幸子，武石洋子，千田和子			（退） 深山公子 武石洋子 長谷川洋子	
40	・校内理事会で経営推進（衣笠理事長，寒川，上川，恩地，原田，角舘） ・事務長（加藤信夫） ・次長（酒井幸夫）	伊東　勤，本間恵喜子，五十嵐真子，山下幸子，川上えい子，植松佳代子，広崎婦久子，窪田共子，相馬義昭	角舘喜和，露崎将利，伊藤アツ子，成田美奈子，成田なよ子，工藤きよ子	高・勤務 （千田和子） 高・勤務 （渡辺貴美枝） 小・勤務 （渡辺美代）	(就)千田和子 渡辺貴美枝 渡辺美代 窪田共子 相馬義昭 植松佳代子	（照井小・中校長，亡） （市村寅之輔理事長，亡）
41	・校内理事会で経営推進 ・事務局長代理（上川淳） ・財務担当理事（原田満寿郎） ・次長（酒井幸夫）	伊東　勤，本間恵喜子，五十嵐真子，川上えい子，山下幸子，植松佳代子，広崎婦久子，相馬義昭	角舘喜和，伊藤アツ子，成田美奈子，成田なよ子，工藤きよ子，久保田久子，今義信	管理人 千倉明星村 （石井貞雄） （相馬） （五十嵐）	（就） 石井貞雄 （退） 露崎将利 窪田共子	（上田小・中・高校長，亡）
42	・校内理事会で経営推進 ・財務担当理事（原田満寿郎） ・事務局長（寒川道夫） ・事務長（伊東勤） ・次長（相馬義昭）	酒井幸夫，本間恵喜子，川上えい子，山下幸子，植松佳代子，広崎婦久子，富平千早江	角舘喜和，伊藤アツ子，成田美奈子，成田なよ子，久保田久子，今義信 （42/9月閉鎖）	寮管理人 清里寮 （利根川保福） 警備員 初・中 （峯尾敬一）	（就） 利根川保福 峯尾敬一 （退） 峯尾，富平，川上，伊藤，成田(美)，成田(な)久保田，今	

昭和40年　米国，北ベトナムに爆撃開始　朝永振一郎にノーベル物理学賞　物価騰貴時代にはいる
41年　中国，初の水爆実験　都教委，都立高入試制度改善　大型航空機事故続出
42年　日米共同声明——小笠原・沖縄問題　都の学校群制度発足　ミニスカート大流行
43年　小笠原諸島返還協定調印　札幌医大で心臓移植　川端康成ノーベル文学賞　(昭和元禄)
44年　米国，アポロ11号月着陸　東大占拠学生排除——機動隊出場　(断絶論議——大人と子供)
45年　日本万国博覧会開催　日米安保条約自動延長　(光化学スモッグ　ヘドロ問題)
46年　成田空港反対闘争　中教審，4・4・6制の答申　イタイイタイ病訴訟判決
47年　グァム島で元日本兵発見　沖縄の施政権返還　日中国交樹立　高松塚古墳の壁画発見
48年　国際通貨危機深まる　米軍のベトナム介入終わる　石油で緊急事態　江崎玲於奈にノーベル物理学賞
49年　南伊豆地震

43	・校内理事会で経営推進 ・財務担当理事（原田満寿郎） ・事務局長（寒川道夫） ・財務部長（酒井幸夫）	郷　秀勝，本間恵喜子，山下幸子，広崎婦久子，鳥崎美恵子，井山五十鈴 酒匂保子（小中図書係）			(退) 川上，植松，山下，相馬，井上	
44	・経営近代化委員会発足（7月）(委員は教師とPTAから選出) ・財務担当理事（原田満寿郎） ・事務局長（寒川道夫） ・財務部長（酒井幸夫）	郷　秀勝，本間恵喜子，山下幸子，広崎婦久子，鳥崎美恵子，辻アサエ， 酒匂保子（小中図書係）		初・中勤務 （渡辺美保） 高・警備員 （今井澄泉）	(就) 今井澄泉 (退) 石井，郷，辻，鳥崎	
45	・常任理事会で経営推進（真田，鈴木，照井，原田） ・事務局長（照井昭三） ・代行（原田満寿郎） ・次長（酒井幸夫） 7月まで ・財務部長（高村高之） 8月から ・事務長（広崎婦久子）	本間恵喜子，井上邦昭，斎藤富美子，星野たづ子， 小古間イネ		高・勤務 （宮沢操子）	(就) 星野たづ子 小古間イネ 宮沢操子 高村高之 (退) 本間，斎藤，宮沢，酒井	
46	・常任理事会で推進（真田，鈴木，照井，原，原田） ・事務局長（照井昭三） ・代行（原田満寿郎） ・財務部長（高村弘道） ・総務部長（広崎婦久子）	井上邦昭，橋本芳江，星野たづ子，小古間イネ， 辻アサエ		中・勤務 （安楽康子） 高・勤務 （前田蕗子） 清里寮管理人 （利根川うめ子）	(就) 伊藤純子 (退) 井上，安楽	
47	・常任理事会で推進 ・事務局長（照井昭三） ・代行（原田満寿郎） ・財務部長（高村弘道） ・総務部長（広崎婦久子）	橋本芳江，星野たづ子，小古間イネ，辻アサエ， 伊藤純子，船山道子（PTA係）		中・勤務 （宮沢操子） 高・勤務 （小幡節子） 高・勤務 （笠置幸子）	(就) 宮沢操子 小幡節子 笠置幸子	
48	・常任理事会で推進 ・事務局長（照井昭三） ・代行（原田満寿郎） ・財務部長（高村弘道） ・総務部長（広崎婦久子）	橋本芳江，星野たづ子，辻アサエ，小古間イネ， 船山道子（PTA係）		高・勤務 （千田和子）	(退) 伊藤	

部報・会報など

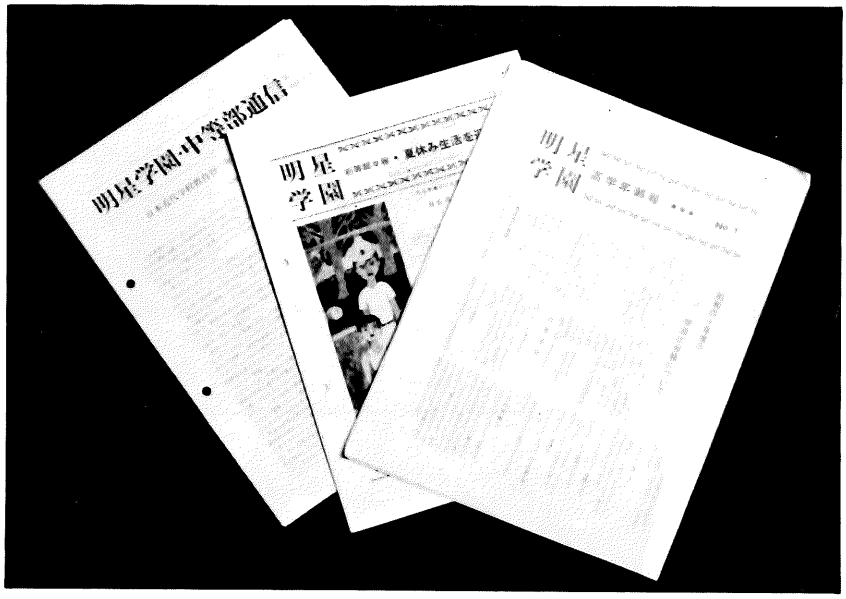


←小・中・高の生徒会，自治会の機関誌

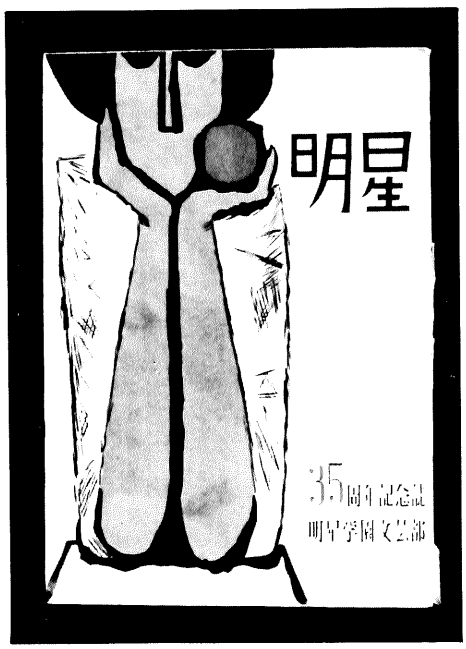


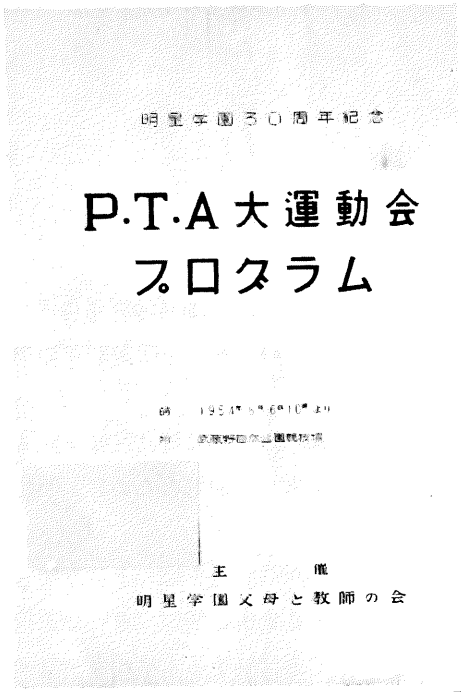
初等部・中等部・高等部便り
↓
（昭和40年度から）

↑ＰＴＡ機関誌

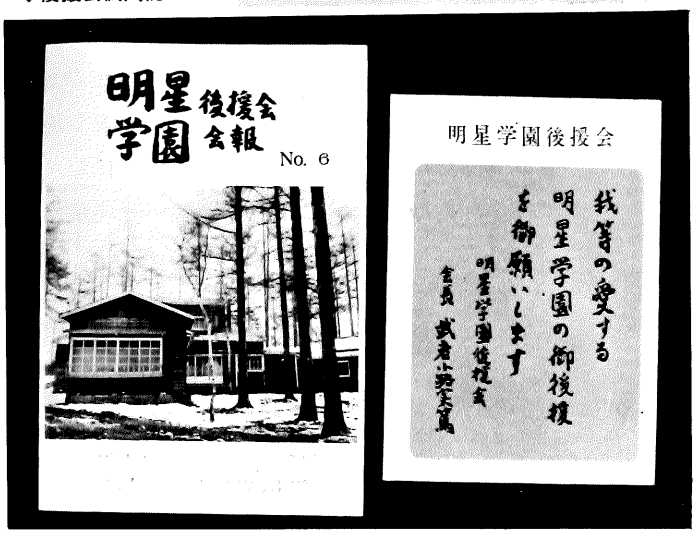


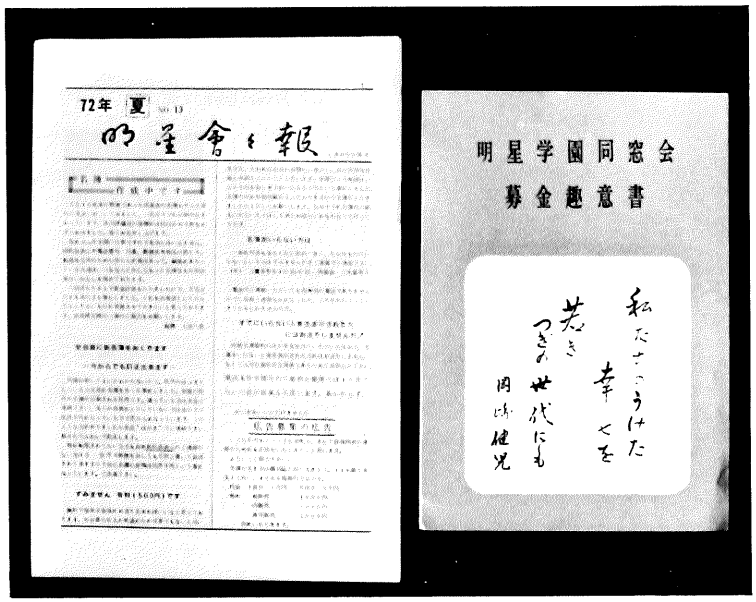






⬇後援会機関誌





明星会機関誌 ➡

編集を終えて

明星学園の創立50周年にあたり，私たちは学園に対する限りない愛情と，絶えなき情熱を傾けて「明星の年輪——明星50年の歩み——」を編集した。

50年の彼方に輝く往時を顧みて，創業の精神に思いを馳せ，過去につながる現在，現在につながる未来への前進のために，明星学園の歩みを浮き彫りにしようと努めた。

しかし歴史を編むということは，まことに困難なことだ。史料の解釈に対する尺度，史料選択に対する史観の問題，それに大正末期創立以来の50年は，現代史の中のことだ。かかる意味から厳密な正史に値する本格的な明星学園史の完成は後日に期した。

したがって，この1巻は50年の歩みのことごとくを凝縮したものではなく，50年という時間の流れを背景に，さまざまな史料をもとに学園を多角的にとらえようとしたのである。「50年史」と銘うつよりも創立同人および創設期の後援者の伝記，旧教職員・卒業生の手記による秘話・小話などをも点描した集録的性格のものであるから「明星の年輪——明星50年の歩み——」と題した。

創立50周年記念事業の一環として，50年史刊行が企画されたのは昭和46年である。年譜を作って構想を立て，50年間を展望しながら散佚している資料の蒐集と発掘・探訪に2カ年を費やした。

昭和47年12月末に編集委員が8名選ばれ，編集委員会が発足した。実動は昭和48年1月から始まった。まず内容をどう構成するかについて，初・中・高の3部から起案したものと原田試案とを併列して検討を始めた。2カ月の時間が経過した。その結果，編年史的構成を原則とせず，50年間の教育実践史の観点で総論的なものと，教育研究・学校行事に焦点をあてることにした。

掲載の記事は，原則として執筆者の原文・出典の原文を尊重したが，戦前のものは新仮名遣い・新漢字に改め，わかりにくいところはわかり易く改めた。若い卒業生や在学中の高校・中学生にも読めるようにとの配慮からである。なお執筆者および出典はそのつど明記してある。

赤井米吉創立者・照井げん創立同人はじめ学園内の方々はもちろん，旧教職員・同窓生など広汎な方々の労をわずらわせた。

旧教職員では霜田静志・青木ふみ・中村勇・小関尚志，現教職員では恩地邦郎・田中一水・広川孝・依田好照・吉田登・伊藤迪・小笠原良一・北川富枝・山浦邦夫・鈴木五郎・土屋浩・高橋昭八・善方国男・佐伯昭定の学園教師たちに原稿・史料・写真について特別な協力をいただいた。また室谷幸吉（学園教師）には校正にお手伝いいただいた。

レイアウト・校正について谷井精之助（７回生），造本全般について玉野惣次郎（13回生），写真については林一夫（９回生），小・中学校の透視図は船山典彦（29回生），史料・原稿については小松絢子（１回生）・永井安子（１回生）・小野正人（２回生）・出口喜久子（２回生）・末光三和子（３回生）・金子てる子（３回生）・土井三枝子（３回生）・陶浪幸子（５回生）・飯野祐子（７回生）・高瀬春美（７回生）・仲村松枝（７回生）・堀瑠璃子（７回生）・名執歌子（８回生）・伊東ユキ（８回生）・赤井英乃（８回生）・平沢美佐子（９回生）・船山道子（９回生）・岸すみれ（10回生）・桑田雅一（12回生）・風間新次郎（12回生）・晴山明子（13回生）・馬場洋子（13回生）・市丸幸子（13回生）・原洋子（18回生）・鈴木晴子（18回生）・長坂昭子（19回生）・新山英輔（19回生）・塚田勝俊（24回生），原稿資料の整理に川上美奈子（31回生）の卒業生がこの刊行にお力添えくださった。

また照井げん創立同人から題字をいただくことができ，あわせて厚くお礼申しあげたい。

お陰でたくさんの資料や原稿が集められたが，期日とページ数の関係で，学園の経営，自治会，各周年の記録，歴代理事長・後援会長・ＰＴＡ会長・明星会会長・校長の談話，学則はじめＰＴＡ・後援会・生徒会・明星会等の規約類，各種一覧表，資料および主要参考図書等は惜しくも割愛せざるをえなかった。

ただ，「年表」だけは別冊として添付することとした。

この本の上梓を一日千秋の思いをこめて待ちわび，去る２月に他界された故赤井米吉学園長，十数年前学園史の骨格を企図し具体化構想中に急逝された故橘正薫教務局長始め，旧職員・学園後援者・卒業生の霊に深く感謝申しあげるとともに，今後多くの方々のご教示をいただきたい。

本書印刷にあたり，こころよくおひきうけいただいた一光社竹内一郎社長に感謝の意を表したい。

昭和49年３月31日

明星学園50年史編集委員会

編集委員

代表　原田満寿郎

岸　厳

人見進夫

無着成恭

堀　淳二

上田八郎

広崎婦久子

高村弘道

表紙のことば

表紙のいちょうは開校の翌日，21人の子供と４人の教師とで植えたもの。まさに50年の年輪が刻まれている。題字は創立同人の照井げん先生の筆。

表紙写真…林一夫氏（９回生）

明星の年輪

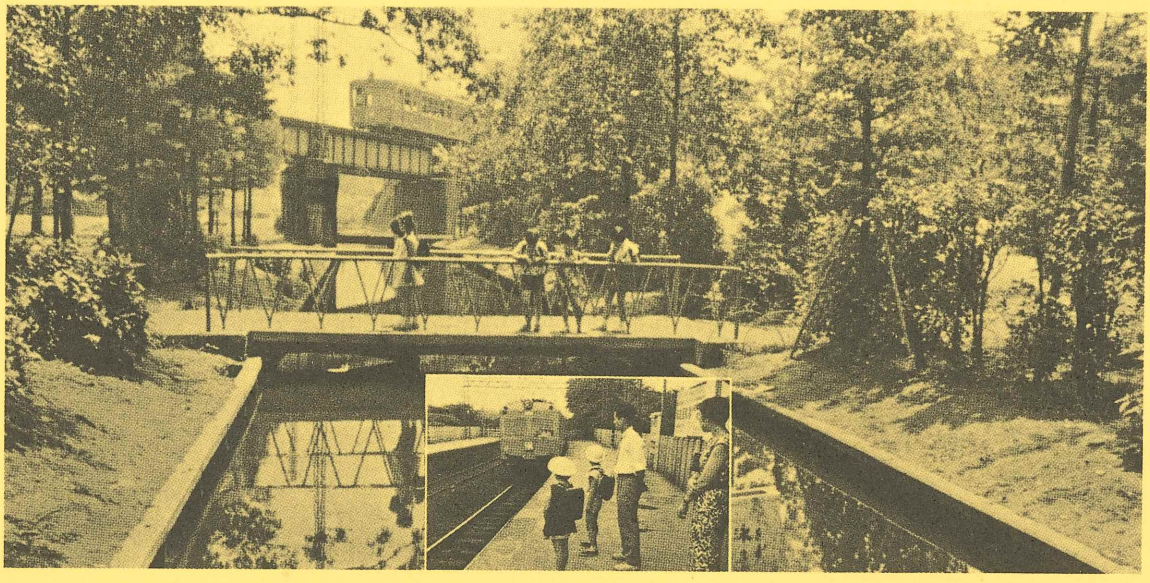
—明星学園50年のあゆみ—

昭和49年11月3日　発行　　非売品

編　集　　学園史編集委員会
代　表　　原田満寿郎

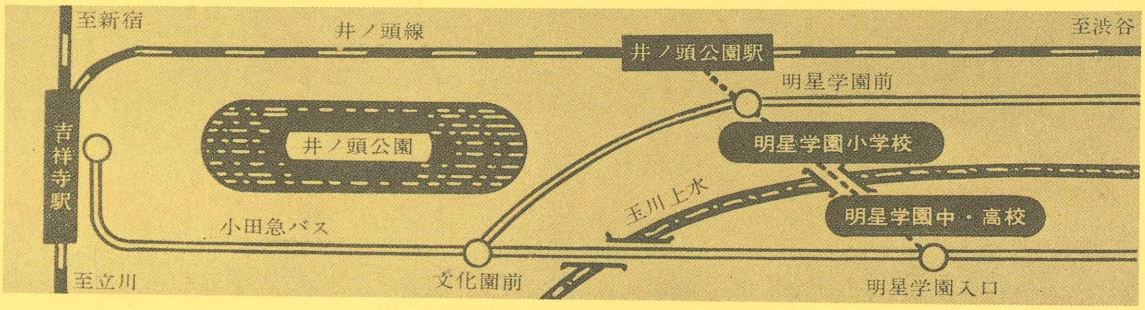
発　行　　学校法人　明星学園
三鷹市井の頭5－7－7
TEL　0422－43－2195

印刷・造本　（有）一光社印刷所




5
小田急バス


行き
井の頭公園
春寺駅
明星学園前
小田急バス


至新宿
井ノ頭線
至渋谷
井ノ頭公園駅
明星学園前
吉祥寺駅
井ノ頭公園
明星学園小学校
玉川上水
明星学園中・高校
小田急バス
至立川
文化園前
明星学園入口



（武蔵野のおもかげをのこす当学園周辺）